宮城県文化財調査報告書第248集

団子山西遺跡Ⅰ

―田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成22～25年度（H・I・L区）発掘調査報告書―

平成30年12月

宮城県教育委員会

団子山西遺跡Ⅰ

－田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成22～25年度（H・I・L区）発掘調査報告書－

H-25 区　SX200 南北道路跡（南から）

I -16・18 区　SX200 南北道路跡（南から）

I-9 区 掘立柱建物跡群（上が北）

新田柵跡と I-9 区 掘立柱建物跡群（南から）

序　文

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災からはや 7 年が経過いたしました。復興への取組は着実に進められておりますが、沿岸地域における生活基盤の整備をさらに促進させる必要があると認識しております。

震災以降、復興道路や常磐線復旧、高台移転事業等の復興事業に伴う発掘調査を実施してまいりました。当教育委員会では、平成 24 年度以降、全国から自治法派遣による埋蔵文化財専門職員の応援を得て調査体制を強化するなどして、復興調査に迅速に対応してまいりましたが、ようやく収束が見える段階を迎えつつあります。引き続き、関係機関と連携を図り、復興調査の早期終了と復興事業の円滑な推進に向けて努力していきたいと考えております。

本書は、平成 22 ～ 25 年度に田尻西部地区ほ場整備事業に先立って実施しました大崎市団子山西遺跡の発掘調査報告書です。調査の結果、奈良・平安時代の道路跡や計画的に配置された大型の掘立柱建物跡群が発見され、遺跡の北側に隣接する古代の城柵で、『続日本紀』天平 9（737）年条に記載のある「新田柵」と密接に関連する遺跡であることが明らかとなりました。

今回の発掘調査により得られた貴重な成果が、広く県民の皆様や各地の研究者に活用され、地域の歴史解明の一助になれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査に際して多大なるご協力をいただいた関係機関の方々、地元住民の皆様に対し、厚く御礼申し上げます。

平成 30 年 12 月

宮城県教育委員会

教育長　髙橋　仁

例　言

1. 本書は、田尻西部地区ほ場整備事業に伴い、平成 22 ～ 25 年度に実施された団子山西遺跡 H・I・L 区の発掘調査報告書である。
2. 調査の主体は宮城県教育委員会で、担当は宮城県教育庁文化財保護課（平成 30 年度より文化財課に変更）である。
3. 発掘調査および報告書作成に際して、以下の方々および機関からご指導・ご協力を賜った（五十音順、敬称略）なお、所属は当時のものである。

≪個人≫

安達訓仁（栗原市教育委員会）、家原圭太（京都市文化財保護課）、佐藤　優・西村　力・車田　敦・大谷　基・二瓶雅司（大崎市教育委員会）、佐藤敏幸（東松島市教育委員会）、鈴木　雅（蔵王町教育委員会）、千葉孝弥（多賀城市教育委員会）、松本秀明（東北学院大学）、柳沢和明・千葉直樹（東北歴史博物館）、佐藤則之・古川一明・吉野　武・三好秀樹・廣谷和也・高橋　透（宮城県多賀城跡調査研究所）

≪機関≫

大崎市教育委員会、東北歴史博物館、宮城県多賀城跡調査研究所

4. 本書の第 2 図は、国土交通省国土地理院発行の 1/25,000「荒谷」、「高清水」を複製して作成したものである。
5. 本書で使用した測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第Ⅹ系による。
6. 本書で使用した遺構記号は以下の通りである。

SA：柱列跡・材木塀跡、SB：掘立柱建物跡、SD：道路側溝・溝跡・河川跡・自然流路跡、SE：井戸跡、SF：小溝状遺構群、SI：竪穴建物跡、SK：土坑、SX：道路跡・土器埋設遺構・竪穴状遺構・湿地跡・性格不明遺構、P：柱穴・小穴

竪穴建物跡の床面施設については、P：柱穴・ピット、K：土坑を使用した。

7. 遺構番号は 1 から通し番号で登録した。H 区は 1 ～、I 区は 250 ～、L 区は 601 ～である。
8. 遺構平面図・断面図にはそれぞれスケールを付しているが、縮尺は原則として以下の通りである。

遺構配置図：1/600、1/800　調査区平面図・個別遺構平面図：1/60、1/100、1/200、1/300、1/400
掘立柱建物跡平面図：1/100　竪穴建物跡平面図：1/60　断面図：1/50、1/60、1/100、1/150

9. 遺構堆積土、埋土の土色・土性の記述については、『新版標準土色帖』（小山・竹原 1994）に基づいて記述を行った。
10. 本文中で使用した「灰白色火山灰」は十和田 a 火山灰（To-a）のことを示し、10 世紀前葉頃に降下したものと考えられている（白鳥 1980、井上・山田 1990）。
11. 遺構平面図において赤色で示した線は、重複関係の古い遺構の上中下端を表したものである。
12. 掘立柱建物跡を構成する柱穴の位置については、「N1E1」、「S1W1」という東西南北の英語表記

の頭文字と列を示す数字で表記した。前者は、北側柱列 1 列目で東側柱列 1 列目に位置する柱穴（北東隅柱）、後者は南側柱列 1 列目で西側柱列 1 列目に位置する柱穴（南西隅柱）を意味する。柱列跡も同様である。

13. 遺物図版にはそれぞれスケールを付しているが、縮尺は原則として以下の通りである。
土器・中世陶器・陶磁器・土製品・漆製品：1/3　石器・石製模造品・鉄製品：2/3
石製品・硯：1/3、2/3　木製品：1/3、1/6　竹製品：1/4　瓦：1/5

14. 土器については、製作にロクロを使用したものをロクロ調整、ロクロを使用していないものを非ロクロ調整と表記する。土器実測図のうち、土師器内面にスクリーントーンを貼り付けてあるものは内面が黒色処理されていること、赤色は赤彩を示す。この他に、油煙や付着物についてはその範囲を灰色に着色して示した。なお、本文中での調整の記載については、遺構の重要度に応じて行うこととし、細かな記述を省略したものもある。

15. 遺物の寸法は、一部から復元したものや破損により正確な数値ではないものに（　）を付けた。また、遺物の製作過程が分かる場合は、その順序を→で示した。

16. 平成 23 年度調査で出土した中世陶器については、千葉孝弥氏（多賀城市教育委員会）にご教示いただいた。

17. 遺跡の航空写真については、日本特殊撮影株式会社、遺物の写真撮影については株式会社アートプロフィールに委託して行った。柱材の放射性炭素年代測定については株式会社加速器分析研究所、柱材の樹種同定については古代の森研究舎に委託し、それらの成果を第Ⅳ章に収録した。

18. 本書の整理については、村上裕次・齋藤圭一・須藤貴宏・清水上政憲・濵中一道・猪股清和・伊東博昭が行い、遠藤友美・佐藤せい子・鈴木美由紀・只木一美・千田敦子・千葉栄子・東海林かづ子・遠山寛美・三上嘉昭・森幸子・與名本京子が補助した。遺構整理を、村上・齋藤・須藤・清水上・濵中・猪股・伊東・鈴木、遺物整理を、村上・清水上・濵中・遠藤・佐藤・鈴木・只木・千田・千葉・東海林・遠山・三上・森・與名本が行った。

19. 本書の執筆については、調査を担当した各調査員の協議を経て、第Ⅲ章 2 を村上・齋藤・須藤・清水上・濵中、第Ⅳ章 2・3 以外を村上が執筆し、村上が編集した。

20. 発掘調査成果の一部については、平成 23・24 年度現地説明会、平成 24 年度宮城県遺跡調査成果発表会（宮城県教育委員会 2012）、平成 24 年度城柵官衙遺跡検討会（宮城県教育委員会 2013）、平成 27 年度城柵官衙遺跡検討会（宮城県教育委員会 2016a）、平成 27 年度田尻地区ほ場整備関連遺跡調査成果発表会、第 19 回古代交通研究会大会（鈴木 2017）でその内容の一部を公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合は、本書がこれらに優先する。

21. 発掘調査に伴う出土遺物および写真、図面等の調査記録資料については、宮城県教育委員会が保管している。

目　次

巻頭写真
序文
例言
目次

第Ⅰ章　経過 …… 1
1．調査に至る経緯 …… 1
2．調査の経過 …… 1
（1）平成 22（2010）年度 …… 3
（2）平成 23（2011）年度 …… 3
（3）平成 24（2012）年度 …… 4
（4）平成 25（2013）年度 …… 4
3．整理の経過 …… 4
（1）平成 23（2011）年度 …… 5
（2）平成 24（2012）年度 …… 5
（3）平成 27 ～ 29（2015 ～ 2017）年度 …… 5

第Ⅱ章　遺跡の概要 …… 6
1．遺跡の位置と地理的環境 …… 6
2．歴史的環境 …… 7
3．これまでの調査 …… 10
（1）ほ場整備事業に係る調査 …… 11
（2）その他の調査 …… 11

第Ⅲ章　発掘調査 …… 12
1．方法 …… 12
（1）調査の方法 …… 12
（2）整理の方法 …… 15
（3）報告書の記載について …… 15
2．調査成果 …… 20
（1）H 区 …… 20
1）地形と基本層序 …… 20
2）検出遺構と遺物 …… 24

(2) I区 …… 109
1) 地形と基本層序 …… 109
2) 検出遺構と遺物 …… 109
(3) L区 …… 215
1) 地形と基本層序 …… 216
2) 検出遺構と遺物 …… 217

第Ⅳ章　自然科学分析 …… 244
1．はじめに …… 244
2．団子山西遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定）とウィグルマッチングによる建物柱材の暦年代推定
……株式会社　加速器分析研究所　245
3．団子山西遺跡から出土した建築材の樹種……吉川純子（古代の森研究舎）　255

第Ⅴ章　総括 …… 257
1．遺物 …… 258
(1) 特徴と時期 …… 258
1) 縄文土器 …… 258
2) 土師器・須恵器・赤焼土器 …… 258
3) 磁器 …… 268
4) 中世陶器 …… 268
5) 瓦 …… 273
6) 硯 …… 275
7) 土製品 …… 275
8) 石器・石製模造品・石製品 …… 276
9) 金属製品・銭貨・鉄滓 …… 278
10) 漆製品・木製品・竹製品 …… 278
11) 動植物遺存体 …… 279
12) 文字資料 …… 280
13) その他 …… 281
(2) 各時代の遺物の内容と性格 …… 281
1) 縄文時代 …… 281
2) 古墳時代 …… 281
3) 古代 …… 282
4) 中世 …… 282

2. 遺構 …… 283
(1) 時期 …… 283
1) 古墳時代 …… 283
2) 古代 …… 283
3) 中世 …… 291
(2) 各時代の遺構の特徴 …… 291
1) 古墳時代 …… 291
2) 古代 …… 292
3) 中世 …… 306
4) その他 …… 308
3. 遺跡 …… 308
(1) 古墳時代 …… 309
(2) 古代 …… 310
1) 遺構の変遷と分布 …… 310
2) 団子山西遺跡と新田柵跡 …… 316
(3) 中世 …… 318
4. まとめ …… 318

註
引用・参考文献
写真図版
報告書抄録

挿 図 目 次

第 1 図 田尻西部地区ほ場整備事業に伴う発掘調査……2
第 2 図 団子山西遺跡の位置……6
第 3 図 団子山西遺跡の位置と周辺の遺跡……8
第 4 図 団子山西遺跡の範囲と調査区の位置……13・14
第 5 図 H 区 調査区の位置 …… 21
第 6 図 H 区の基本層序…… 23
第 7 図 H-1・8・10・11・12 区 遺構配置図……25
第 8 図 H-1 区 SD1・2 河川跡 断面・出土遺物……26
第 9 図 H-12 区 SD4・9・11 河川跡 断面……27
第 10 図 H-13・14 区 遺構配置図……28
第 11 図 H-14 区東側 検出遺構……29
第 12 図 H-14 区中央 検出遺構……30
第 13 図 H-14 区 SD13・19 溝跡、SD4・9・12 河川跡 断面… 31
第 14 図 H-14 区 SD4・12 河川跡 出土遺物…… 32
第 15 図 H-15 区 遺構配置図……34
第 16 図 H-15 区 SD4・9・12・48 ～ 50 河川跡 断面…35
第 17 図 H-15 区 SD4・12 河川跡 出土遺物……36
第 18 図 H-16 区 遺構配置図 ……37
第 19 図 H-17・18 区 遺構配置図 ……38
第 20 図 H-19・20 区 遺構配置図 ……39
第 21 図 H-19 区 SD43・110 河川跡 断面・出土遺物…40
第 22 図 H-21・22 区 遺構配置図……41
第 23 図 H-22 区 SB51・52 掘立柱建物跡……42
第 24 図 H-21 区 SK44 土坑、SD46 自然流路跡……43
第 25 図 H-21区 SD46 自然流路跡 断面・出土遺物、その他の出土遺物……44
第 26 図 H-23 区 遺構配置図 ……45
第 27 図 H-24 ～ 30 区 遺構配置図 (1)……46
第 28 図 H-24 ～ 30 区 遺構配置図 (2)……47
第 29 図 H-24 区北側 検出遺構 1 ……48

第 30 図　H-24 区北側　検出遺構 2 …… 49
第 31 図　H-24 区　SD63・64・69・70 溝跡　断面・出土遺物…… 50
第 32 図　H-24 区　SD73 溝跡 …… 51
第 33 図　H-24 区　SE65・67・68 井戸跡、SK53 土坑　断面・出土遺物 …… 53
第 34 図　H-24 区　SD4・12・110 河川跡　断面…… 54
第 35 図　H-23・24 区　SD4・12・110 河川跡　出土遺物… 55
第 36 図　H-24 区　基本層序Ⅵ層 …… 56
第 37 図　H-25 区北側　検出遺構 1…… 58
第 38 図　H-25 区　SX200 南北道路跡　断面 …… 59
第 39 図　H-25 区　SX200 南北道路跡　出土遺物 …… 60
第 40 図　H-25 区　SD74・84 溝跡　断面・出土遺物… 61
第 41 図　H-25 区　SE87 井戸跡　断面・出土遺物…… 62
第 42 図　H-25 区　SE88 井戸跡　断面・出土遺物 (1)… 63
第 43 図　H-25 区　SE88 井戸跡　出土遺物 (2)…… 64
第 44 図　H-25 区　SE96・97 井戸跡　断面・出土遺物… 65
第 45 図　H-25 区　SK83 土坑　断面・出土遺物…… 66
第 46 図　H-25 区　SK89 土坑　断面・出土遺物 (1)… 67
第 47 図　H-25 区　SK89 土坑　出土遺物 (2)…… 68
第 48 図　H-25 区　SK89 土坑　出土遺物 (3)…… 69
第 49 図　H-25 区　SK90 土坑　断面・出土遺物…… 70
第 50 図　H-25 区北側　検出遺構 2…… 71
第 51 図　H-25 区　SF99 ～ 102・105・106 小溝状遺構群、SD110 河川跡　断面…… 73
第 52 図　H-25 区　SD110A 河川跡　出土遺物 (1)…… 74
第 53 図　H-25 区　SD110A 河川跡　出土遺物 (2)…… 75
第 54 図　H-25 区　SD110A 河川跡　出土遺物 (3)…… 76
第 55 図　H-25 区　SD110A 河川跡　出土遺物 (4)…… 77
第 56 図　H-25 区　SD110A 河川跡　出土遺物 (5)…… 78
第 57 図　H-25 区南側　検出遺構 1 …… 79
第 58 図　H-25 区　SB122・163 掘立柱建物跡 …… 81
第 59 図　H-25 区　SD116 溝跡…… 83
第 60 図　H-25 区　SD116 溝跡　出土遺物 (1)…… 84
第 61 図　H-25 区　SD116 溝跡　出土遺物 (2)…… 85
第 62 図　H-25 区　SD116 溝跡　出土遺物 (3)…… 86
第 63 図　H-25 区南側　検出遺構 2…… 87
第 64 図　H-25 区　SD138・139 溝跡　断面・出土遺物… 88
第 65 図　H-25 区　SE135 井戸跡 …… 89
第 66 図　H-25 区　SE136 井戸跡　断面・出土遺物 … 90
第 67 図　H-25 区　SK123・154 土坑　断面・出土遺物、SF155 ～ 157 小溝状遺構群　断面…… 91
第 68 図　H-25 区　SD118 ～ 121・129・130・141・142 自然流路跡　断面・出土遺物…… 92
第 69 図　H-25 区　その他の出土遺物 …… 94
第 70 図　H-26 区　検出遺構 …… 95
第 71 図　H-26 区　SB201 掘立柱建物跡、SD204・206 自然流路跡…… 96
第 72 図　H-26 区　SI196 竪穴建物跡、SX183 竪穴状遺構出土遺物…… 97
第 73 図　H-26 区　SD204・206 自然流路跡　断面・出土遺物、その他の出土遺物…… 98
第 74 図　H-27 区　検出遺構…… 99
第 75 図　H-27 区　出土遺物 …… 100
第 76 図　H-28 ～ 30 区　検出遺構…… 101
第 77 図　H-28 ～ 30 区　出土遺物…… 102
第 78 図　I 区　調査区の位置 …… 110
第 79 図　I 区の基本層序 …… 112
第 80 図　I-1 ～ 3 区　遺構配置図 …… 113
第 81 図　I-4 区北側　遺構配置図 …… 114
第 82 図　I-4 区南側、I-5 区　遺構配置図…… 115
第 83 図　I-1 区　SD253・256・257 河川跡、I-4 区　SD252・253 河川跡　断面…… 116
第 84 図　I-4 区　SD4C 河川跡、I-1 区　SD253 河川跡　出土遺物…… 117
第 85 図　I-1・4 区　SD253・257 河川跡　出土遺物、その他の出土遺物 …… 118
第 86 図　I-10・11 区　遺構配置図 …… 120
第 87 図　I-10・11 区　北半の検出遺構 …… 121
第 88 図　I-10・11 区　南半の検出遺構 …… 122
第 89 図　I-10 区　SB348 掘立柱建物跡、SD342・350・351 溝跡、SK343 土坑…… 123
第 90 図　I-10 区　SI339 竪穴建物跡…… 124
第 91 図　I-10 区　SI339 竪穴建物跡　出土遺物 …… 125
第 92 図　I-10 区　SI341 竪穴建物跡 (1) …… 126
第 93 図　I-10 区　SI341 竪穴建物跡 (2) …… 127
第 94 図　I-10 区　SI341 竪穴建物跡　出土遺物…… 128
第 95 図　I-10 区　SI349 竪穴建物跡…… 130
第 96 図　I-10 区　SD350・351 溝跡　断面・出土遺物… 131
第 97 図　I-10 区　SE344 井戸跡　断面・出土遺物、SK343 土坑　断面、その他の出土遺物…… 133
第 98 図　I-11 区　SD372 溝跡・SD373 河川跡　断面・出土遺物…… 134
第 99 図　I-12・13・17 区　遺構配置図 …… 135
第 100 図　I-17 区　SX478 竪穴状遺構 …… 136
第 101 図　I-13 区　SI367 竪穴建物跡 …… 138
第 102 図　I-13 区　SA336・338 柱列跡…… 139
第 103 図　I-13 区　SD336 溝跡、SD365 自然流路跡… 140
第 104 図　I-13 区　SD336 溝跡、SD365 自然流路跡　出土遺物…… 141
第 105 図　I-16 区　遺構配置図…… 142
第 106 図　I-16 区東端・18・19区　遺構配置図…… 144
第 107 図　I-16 区　SX200 南北道路跡…… 145
第 108 図　I-18 区　SX200 南北道路跡…… 146
第 109 図　I-19 区　SX200 南北道路跡…… 147
第 110 図　I-16 区　SD460・461 道路側溝　出土遺物… 148
第 111 図　I-16 区中央　検出遺構…… 149
第 112 図　I-16 区　SB469 ～ 471 掘立柱建物跡・SA468 柱列跡・SD479 溝跡…… 150
第 113 図　I-16 区　SB469 ～ 471 掘立柱建物跡・SA468 柱列跡　断面…… 151
第 114 図　I-16 区　SB481 掘立柱建物跡…… 152
第 115 図　I-16 区　SK473 土坑　断面・出土遺物、その他の出土遺物 …… 153
第 116 図　I-14・15 区　遺構配置図 …… 154
第 117 図　I-15 区　検出遺構…… 155
第 118 図　I-14 区西端、I-15 区東端　検出遺構……156
第 119 図　I-14 区　検出遺構 ……157
第 120 図　I-14 区　SD380・406 溝跡、SX410 土器埋設遺構……159

第121図　I-14区　SD380溝跡・SX410土器埋設遺構出土遺物……160
第122図　I-14区　SK419土坑・SF412・413・417小溝状遺構群・SX407・408湿地跡　断面、出土遺物……161
第123図　I-9区　検出遺構……163
第124図　I-9区西側　検出遺構……164
第125図　I-9区　SB311掘立柱建物跡……165
第126図　I-9区　SB311掘立柱建物跡　出土遺物……166
第127図　I-9区　SB312・320掘立柱建物跡……167
第128図　I-9区　SB312掘立柱建物跡　断面・出土遺物……168
第129図　I-9区　SB320掘立柱建物跡　断面……170
第130図　I-9区　SB321・322・323掘立柱建物跡……171
第131図　I-9区　SB321掘立柱建物跡　出土遺物……172
第132図　I-9区東側　検出遺構……173
第133図　I-9区　SB315・316・318・327掘立柱建物跡、SA325柱列跡……174
第134図　I-9区　SB315・316掘立柱建物跡　断面・出土遺物……176
第135図　I-9区　SB318掘立柱建物跡　断面……177
第136図　I-9区　SI392・394・395・396・455竪穴建物跡……178
第137図　I-9区　SI397・399・401竪穴建物跡……179
第138図　I-9区　SI402竪穴建物跡、SA404材木塀跡、SD383・403溝跡……180
第139図　I-9区　SI402竪穴建物跡　出土遺物……181
第140図　I-9区　SA404材木塀跡　断面……181
第141図　I-9区　SD380溝跡……182
第142図　I-9区　SD380溝跡　断面・出土遺物、SD310・378溝跡　断面……183
第143図　I-9区　SE384井戸跡　断面・出土遺物……184
第144図　I-9区　SK421・422・433土坑　断面・出土遺物……185
第145図　I-9区　SK423・444・445土坑　断面、その他の出土遺物……186
第146図　I-8区　遺構配置図……187
第147図　I-8区西端　検出遺構……188
第148図　I-8区　SB306掘立柱建物跡……189
第149図　I-8区　SB296・309掘立柱建物跡……190
第150図　I-8区　SI294竪穴建物跡……191
第151図　I-8区　SI295A竪穴建物跡……193
第152図　I-8区　SI295B竪穴建物跡……194
第153図　I-8区　SI295竪穴建物跡　断面・出土遺物……195
第154図　I-7区　遺構配置図……197
第155図　I-7区　SI283竪穴建物跡……198
第156図　I-7区　SI283竪穴建物跡　出土遺物……199
第157図　I-7区　SI288竪穴建物跡……200
第158図　I-7区　SA290・291柱列跡……202
第159図　I-7区　SK285土坑、その他の出土遺物……203
第160図　I-6区　遺構配置図……204
第161図　I-6区　SX400東西道路跡、SB276掘立柱建物跡、SF274小溝状遺構群……205
第162図　I-6区　SB276掘立柱建物跡　断面……206
第163図　I-6区　SK280土坑・SF274小溝状遺構群　断面……207
第164図　I-6区　SK280土坑　出土遺物……208
第165図　L区　調査区の位置……215
第166図　L区の基本層序……216
第167図　L-1・10区　遺構配置図……218
第168図　L-10区　SD636溝跡……219
第169図　L-1区　SD601河川跡　断面・出土遺物、SD634河川跡　断面……220
第170図　L-2区　遺構配置図……221
第171図　L-2区　SD620溝跡……222
第172図　L-2区　SF614小溝状遺構群……223
第173図　L-2区東端、L-3・4区　遺構配置図……224
第174図　L-5・17区　遺構配置図……225
第175図　L-5区　SF628・629小溝状遺構群、その他の出土遺物……226
第176図　L-6・7・8・9・14区　遺構配置図……227
第177図　L-6区東側　検出遺構……228
第178図　L-6区西側　検出遺構……229
第179図　L-6区　SA655柱列跡……230
第180図　L-6区　SD646・652・654溝跡　断面・出土遺物……232
第181図　L-6区　SE650井戸跡　断面、SK644土坑　断面・出土遺物……233
第182図　L-6区　SD645河川跡　断面……234
第183図　L-15・16区　遺構配置図……235
第184図　L-15区　SI670竪穴建物跡（1）……236
第185図　L-15区　SI670竪穴建物跡（2）……237
第186図　L-15区　SI670竪穴建物跡　出土遺物……238
第187図　L-15区　SD678溝跡　断面、SD669・678溝跡　出土遺物……240
第188図　L-15区　SF664・665小溝状遺構群・SD677河川跡　断面……241
第189図　自然科学分析　試料採取地点の位置……244
第190図　暦年較正年代グラフ……252
第191図　ウィグルマッチングによる最外年輪の暦年代グラフ……253
第192図　測定試料のウィグルマッチング……253
第193図　H・I区出土　古墳時代の土器……260
第194図　SD116溝跡　出土土器……264
第195図　SK280土坑　出土土器……265
第196図　SD110A河川跡　出土土器……266
第197図　団子山西遺跡H区出土陶器と熊狩A窯跡出土陶器……270
第198図　主な窯跡群と伊豆沼窯跡群産陶器が出土した遺跡……272
第199図　H・I区出土　黒曜石製石器・石製模造品…276
第200図　H区出土　墨書土器……281
第201図　H・I区出土　古代の特徴的な遺物……282
第202図　H・L区　主要な遺構の重複関係……284
第203図　I区　主要な遺構の重複関係……285
第204図　H・I区の掘立柱建物跡……294
第205図　I-9・14区の遺構群……301
第206図　Ⅱ期の建物群……303
第207図　H・I・L区で検出した中世の遺構……307

第208図　H・I・L区　古墳時代の遺構・遺物検出地点……309
第209図　H・I・L区　8世紀の団子山西遺跡……311
第210図　H・I・L区　8世紀末～9世紀前半の団子山西遺跡……312
第211図　H・I・L区　9世紀後半～10世紀前葉の団子山西遺跡……313
第212図　団子山西遺跡の主要な遺構の位置……315
第213図　新田柵跡周辺の古代の遺跡と8～9世紀前半の主な検出遺構……317

挿表目次

第1表　H・I・L区の調査と整理の経過……3
第2表　団子山西遺跡の調査……11
第3表　遺構番号一覧……16～19
第4表　H区の調査内容……22
第5表　H区　道路跡　属性表……103
第6表　H区　掘立柱建物跡　属性表……103
第7表　H区　竪穴建物跡　属性表……103
第8表　H区　溝跡　属性表……103～105
第9表　H区　井戸跡　属性表……105
第10表　H区　土坑　属性表……105・106
第11表　H区　小溝状遺構群　属性表……106
第12表　H区　SX竪穴状遺構・性格不明遺構・自然堆積層　属性表……106・107
第13表　H区　河川跡・自然流路跡　属性表……107・108
第14表　I区の調査内容……111
第15表　I区　道路跡　属性表……209
第16表　I区　掘立柱建物跡　属性表……209・210
第17表　I区　竪穴建物跡　属性表……210
第18表　I区　柱列跡・材木塀跡　属性表……210
第19表　I区　溝跡　属性表……211・212
第20表　I区　井戸跡　属性表……212
第21表　I区　土坑　属性表……213
第22表　I区　小溝状遺構群　属性表……214
第23表　I区　SX土器埋設遺構・竪穴状遺構・自然堆積層　属性表……214
第24表　I区　河川跡・自然流路跡　属性表……214
第25表　L区の調査内容……215
第26表　L区　竪穴建物跡　属性表……242
第27表　L区　柱列跡　属性表……242
第28表　L区　溝跡　属性表……242・243
第29表　L区　井戸跡　属性表……243
第30表　L区　土坑　属性表……243
第31表　L区　小溝状遺構群　属性表……243
第32表　L区　SX自然堆積層　属性表……243
第33表　L区　河川・自然流路跡属性表……243
第34表　柱材の特徴……246
第35表　^{14}C年代測定による年代……250
第36表　暦年較正した年代……250・251
第37表　ウィグルマッチングの結果……251
第38表　団子山西遺跡出土建築材の樹種……255
第39表　主要遺構における出土遺物の内容……257
第40表　縄文土器の集計……258
第41表　古墳時代の土器の出土位置……259
第42表　古代の土器の集計……263
第43表　中世陶器の集計……268
第44表　中世陶器の個体別資料……269
第45表　瓦の集計……274
第46表　H・I・L区出土瓦の特徴と新田柵跡との比較…275
第47表　土製品等の集計……275
第48表　石器の器種と石材との関係……276
第49表　石製模造品とその関係資料の集計……277
第50表　石製品の器種と石材との関係……278
第51表　金属製品等の集計……279
第52表　漆製品・木製品等の集計……279
第53表　動物遺存体の出土位置……279
第54表　植物遺存体の集計……280
第55表　文字資料の集計……281
第56表　近世以降の陶磁器の集計……281
第57表　団子山西遺跡と壇の越遺跡の道路跡の比較……292
第58表　宮城県北部における桁行5間以上の掘立柱建物跡の平面形式別検出数……293
第59表　宮城県内における掘立式総柱建物跡（高床倉庫）の平面形式別検出数……295
第60表　高床倉庫の面積……295
第61表　布掘りの柱掘方を持つ掘立柱建物跡……296
第62表　隅柱の柱掘方が「L」字形の掘立柱建物跡……298
第63表　四隅の柱掘方が「L」字形の掘立柱建物跡……299
第64表　古代の竪穴建物跡……299

図版目次

図版1　航空写真……333
図版2　遺跡全景……334
図版3　H・I・J・K区全景……335
図版4　L区全景、H-1～19区検出遺構……336
図版5　H-21・22区検出遺構、H-24区検出遺構（1）……337
図版6　H-24区検出遺構（2）……338
図版7　H-25区北側検出遺構（1）道路跡……339
図版8　H-25区北側検出遺構（2）溝跡、井戸跡……340
図版9　H-25区北側検出遺構（3）　井戸跡、土坑……341
図版10　H-25区北側検出遺構（4）　土坑、小溝状遺構群、河川跡……342
図版11　H-25区南側検出遺構（1）　掘立柱建物跡……343
図版12　H-25区南側検出遺構（2）　溝跡……344
図版13　H-25区南側検出遺構（3）　井戸跡、土坑、自然流路跡……345
図版14　H-26・27・30区検出遺構……346

図版15　I-1・4区検出遺構、I-10区検出遺構(1)……347
図版16　I-10区検出遺構(2)　竪穴建物跡……348
図版17　I-10区検出遺構(3)　竪穴建物跡……349
図版18　I-10区検出遺構(4)、I-11区検出遺構……350
図版19　I-17・13区検出遺構……351
図版20　I-16・18・19区検出遺構　道路跡……352
図版21　I-18・19区検出遺構　道路跡……353
図版22　I-16区検出遺構(1)　掘立柱建物跡……354
図版23　I-16区検出遺構(2)　掘立柱建物跡、柱列跡…355
図版24　I-15・14区検出遺構……356
図版25　I-9区検出遺構(1)　全景……357
図版26　I-9区検出遺構(2)　掘立柱建物跡……358
図版27　I-9区検出遺構(3)　掘立柱建物跡……359
図版28　I-9区検出遺構(4)　掘立柱建物跡……360
図版29　I-9区検出遺構(5)　掘立柱建物跡……361
図版30　I-9区検出遺構(6)　掘立柱建物跡……362
図版31　I-9区検出遺構(7)　竪穴建物跡、材木塀跡、溝跡、井戸跡……363
図版32　I-9区検出遺構(8)、I-8区検出遺構(1)……364
図版33　I-8区検出遺構(2)　掘立柱建物跡、竪穴建物跡……365
図版34　I-8区検出遺構(3)　竪穴建物跡……366
図版35　I-8区検出遺構(4)、I-7区検出遺構(1)　竪穴建物跡……367
図版36　I-7区検出遺構(2)、I-6区検出遺構(1)　道路跡、竪穴建物跡、柱列跡……368
図版37　I-6区検出遺構(2)、L-1・2・10区検出遺構…369
図版38　L-6区検出遺構(1)　柱列跡、溝跡、井戸跡…370
図版39　L-6区検出遺構(2)、L-15区検出遺構(1)　竪穴建物跡、土坑……371
図版40　L-15区検出遺構(2)　竪穴建物跡、溝跡、河川跡……372
図版41　H区　出土土器……373
図版42　I区　出土土器、H区　出土中世陶器……374
図版43　H-1区　SD1・2河川跡、H-7区、H-14・15区　SD4・12河川跡　出土遺物…… 375
図版44　H-15区　SD12河川跡、H19・21・23区　出土遺物……376
図版45　H-24区　SD62・69・73溝跡、SE67井戸跡、SK53土坑、SD12・110河川跡　出土遺物……377
図版46　H-24区　基本層序Ⅵ層、H-25区　SX200南北道路跡、SD84溝跡、SE87井戸跡　出土遺物…378
図版47　H-25区　SE88・97井戸跡　出土遺物……379
図版48　H-25区　SK83土坑　出土遺物、SK89土坑　出土遺物(1)……380
図版49　H-25区　SK89土坑　出土遺物(2)……381
図版50　H-25区　SK89土坑　出土遺物(3)、SK90土坑出土遺物……382
図版51　H-25区　SD110A河川跡　出土遺物(1)……383
図版52　H-25区　SD110A河川跡　出土遺物(2)……384
図版53　H-25区　SD110A河川跡　出土遺物(3)……385
図版54　H-25区　SD110A河川跡　出土遺物(4)……386
図版55　H-25区　SD110A河川跡　出土遺物(5)……387
図版56　H-25区　SD116溝跡　出土遺物(1)……388
図版57　H-25区　SD116溝跡　出土遺物(2)……389
図版58　H-25区　SD116溝跡 出土遺物(3)、SD114・138・139溝跡、SE136井戸跡、SD118自然流路跡 出土遺物……390
図版59　H-25区　SK123・154土坑、SD130・141・142自然流路跡ほか　出土遺物……391
図版60　H-26・27・28区　出土遺物……392
図版61　H-29・30区、I-1・4区　SD253河川跡、I-4区SD4C河川跡　出土遺物……393
図版62　I-1区　SD251・252・257河川跡ほか　出土遺物……394
図版63　I-10区　SI339・341竪穴建物跡、SD350溝跡出土遺物……395
図版64　I-10区　SE344井戸跡、SK376土坑ほか、I-11区、I-13区　SD366溝跡　出土遺物……396
図版65　I-13区　SD365自然流路跡、I-16区　SX200南北道路跡、SK473土坑、SD465河川跡　出土遺物……397
図版66　I-14区　SD380溝跡ほか、I-9区　SB311・312・316・321掘立柱建物跡、SI402竪穴建物跡　出土遺物……398
図版67　I-9区　SD380・383溝跡、SK421・422・426・433土坑ほか、I-8区　SI295竪穴建物跡　出土遺物……399
図版68　I-7区　SI283竪穴建物跡ほか　出土遺物、I-6区　SK280土坑　出土遺物(1)……400
図版69　I-6区　SK280土坑　出土遺物(2)……401
図版70　田尻川採集遺物、L-1・2・5・6区　出土遺物…402
図版71　L-15区　SI670竪穴建物跡、SD678・669溝跡出土遺物……403

調　査　要　項

遺 跡 名：団子山西遺跡（宮城県遺跡地名表遺跡登録番号 38011）

遺跡記号：WD

所 在 地：宮城県大崎市田尻小松・大嶺・中目・通木

調査原因：経営体育成基盤整備事業田尻西部地区

調査主体：宮城県教育委員会

調査担当：宮城県教育庁文化財保護課

平成 22（2010）年度　村上裕次　小野寺淳一　初鹿野博之　古田和誠　鈴木啓司

平成 23（2011）年度　村上裕次　齋藤圭一　山中信宏　須藤貴宏　清水上政憲

武田裕光　古田和誠　濵中一道　鈴木啓司

平成 24（2012）年度　村上裕次　大友邦彦　山中信宏　清水上政憲　古田和誠　濵中一道

平成 25（2013）年度　鈴木啓司　清水上政憲　長内祐輔

調査期間：平成 22（2010）年度　本発掘・確認調査　平成 22 年 11 月 2 日～ 12 月 6 日

平成 23（2011）年度　確認調査　平成 23 年 4 月 18 日～ 4 月 28 日

本発掘・確認調査　平成 23 年 5 月 30 日～ 11 月 30 日

平成 24（2012）年度　本発掘・確認調査　平成 24 年 5 月 23 日～ 12 月 7 日

平成 25（2013）年度　本発掘調査　平成 25 年 9 月 17 日～20 日、11 月 5 日～ 6 日

対象面積：H 区　14,900㎡（本発掘調査　7,700㎡　確認調査　7,200㎡）

Ⅰ区　10,700㎡（本発掘調査　4,700㎡　確認調査　6,000㎡）

L 区　 9,200㎡（本発掘調査　4,200㎡　確認調査　5,000㎡）

調査面積：H 区　平成 22（2010）年度　2,829.9㎡（本発掘調査　454.9㎡　確認調査　2,375㎡）

平成 23（2011）年度　 6,616㎡（本発掘調査　2949㎡　確認調査　3,667㎡）

Ⅰ区　平成 23（2011）年度　 1,466㎡（本発掘調査　 597㎡　確認調査　 869㎡）

平成 24（2012）年度　 4,775㎡（本発掘調査　 801㎡　確認調査　3,974㎡）

L 区　平成 24（2012）年度　 4,591㎡（本発掘調査　1,657㎡　確認調査　2,934㎡）

平成 25（2013）年度　 196㎡（本発掘調査）

調査協力：大崎市教育委員会　宮城県北部地方振興事務所　江合川沿岸土地改良区

作 業 員：大柳きみ子　車塚昭子　後藤幸一　佐々木静子　佐々木　孝　佐々木輝幸　佐藤和夫

佐藤幸代　庄子洋子　菅山清一　高泉　豊　高橋由美子　武石みち子　武田一雄　武田裕子

畑岡初子　松川啓一　八鍬　昇　渡辺正夫

第Ⅰ章　経　過

1. 調査に至る経緯

宮城県北部の江合川と鳴瀬川の沖積作用によって形成された大崎平野は、東西 13km、南北 17km にわたる規模であり、江戸時代以来宮城県内有数の穀倉地帯となっている。この大崎平野の大部分を占める大崎市では、北部の古川、田尻の両地区で大規模な経営体育成基盤整備事業（県営ほ場整備事業）が計画された。このうち、田尻地区では西部、中央、蕪栗沼、鹿飼沼地区が対象とされた。

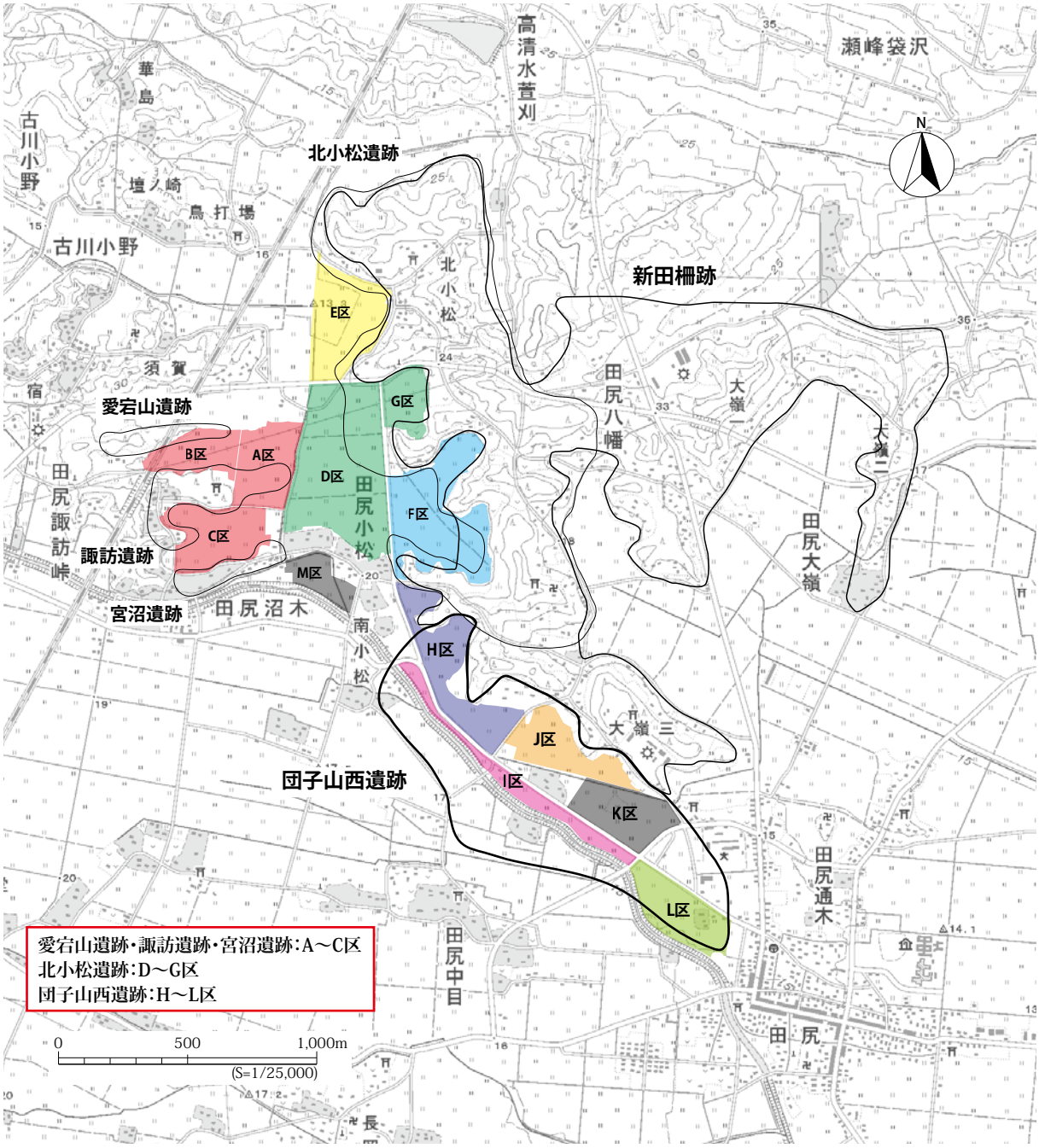
田尻西部地区は、旧田尻町域の田尻川の両岸に広がる沖積地が事業対象である（第 1 図）。旧古川産業振興事務所（現宮城県北部地方振興事務所）、江合川沿岸土地改良区、宮城県教育委員会、旧田尻町教育委員会（現大崎市教育委員会）により、工事対象地域内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて平成 12 年度に協議が行われ、その結果、事業によって遺跡に影響が及ぶ範囲については、基本設計の後に試掘確認調査、本発掘調査の順に進めること、事業は平成 13 年度から田尻川右岸地区より開始することとされた。

田尻川右岸地区では神明遺跡（現団子山西遺跡）が対象となり、旧田尻町教育委員会により平成 13・14 年度に試掘確認調査、平成 15 年度に本発掘調査が実施された。その結果、想定した以上に遺構・遺物が検出され、基本設計の変更、調査期間延長による工事への影響、そしてそれに関わる費用の増大が生じた。これを受けて、再度関係機関で協議が行われ、田尻川左岸地区では、遺跡の内容を把握するための試掘確認調査の後に基本設計を行い、確認・本発掘調査を実施するという手順で事業を進めることとした。田尻川左岸地区の試掘確認調査は平成 16・17 年度の 2 ヶ年計画で開始され、平成 16 年度が北小松遺跡、諏訪遺跡、団子山西遺跡、神明遺跡、新田柵跡とその周辺地域、平成 17 年度が新田柵跡、北小松遺跡とその周辺地域が対象とされた（第 1 図）。広範囲で関わる遺跡が多いことから、平成 16 年度は宮城県教育委員会と旧田尻町教育委員会、平成 17 年度は旧田尻町教育委員会が調査主体となっている。その結果、対象地には、遺跡として登録されている範囲以外にも多くの遺構・遺物が分布しており、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲が大きく広がることが判明した。これを踏まえ、工事が遺跡に与える影響を最小限に抑えるための協議を重ね、遺構の存在する部分については基本的に盛土による現状保存を行い、やむを得ず遺構面に影響が及ぶ区域や道路・水路部分について調査を実施することが決定した。

調査は、平成 19 年度から宮城県教育委員会主体で開始された。対象遺跡は、平成 19 ～ 22 年度が北小松遺跡、宮沼遺跡、諏訪遺跡、愛宕山遺跡、平成 22 ～ 27・29 年度が団子山西遺跡である（第 1 図）。

2. 調査の経過

今回報告する H・I・L 区の調査は、平成 22（2010）年度から平成 25（2013）年度にかけて実施された（第 1 表）。



調査年度	調査内容	遺跡	調査地点	調査主体	報告書
2004（平成 16）	試掘確認	北小松遺跡	D 区	宮城県教育委員会	宮城県 2005
	試掘確認	北小松遺跡、諏訪遺跡、新田柵跡、神明遺跡、団子山西遺跡	A～C 区、F 区、H～K 区	田尻町教育委員会	未刊
2005（平成 17）	試掘確認	北小松遺跡、新田柵跡	E ～ G 区	田尻町教育委員会	未刊
2007（平成 19）	本発掘・確認	愛宕山遺跡、諏訪遺跡、宮沼遺跡	A ～ D 区	宮城県教育委員会	宮城県 2008・2010a
2008（平成 20）	本発掘・確認	北小松遺跡	D～F区	宮城県教育委員会	宮城県 2011
2009（平成 21）	本発掘・確認	北小松遺跡	D 区、F 区、G 区	宮城県教育委員会	宮城県 2014a
2010（平成 22）	本発掘・確認	北小松遺跡	F 区	宮城県教育委員会	未刊
	本発掘・試掘確認	団子山西遺跡	H 区	宮城県教育委員会	本書
2011（平成 23）	本発掘・確認	団子山西遺跡	H 区、I 区	宮城県教育委員会	本書
2012（平成 24）	本発掘・確認	団子山西遺跡	I 区、L 区	宮城県教育委員会	本書
2013（平成 25）	本発掘・確認	団子山西遺跡	J 区、L 区	宮城県教育委員会	一部本書
2014（平成 26）	本発掘・確認	団子山西遺跡	J 区、K 区	宮城県教育委員会	未刊
2015（平成 27）	本発掘・確認	団子山西遺跡	K 区	宮城県教育委員会	未刊
	試掘確認	宮沼遺跡隣接地	M 区	宮城県教育委員会	未刊
2017（平成 29）	本発掘	団子山西遺跡	K 区	宮城県教育委員会	未刊

第 1 図　田尻西部地区ほ場整備事業に伴う発掘調査

第 1 表　H・I・L 区の調査と整理の経過

年度	平成 22 年度		平成 23 年度										平成 24 年度										平成 25 年度						平成 26 年度
年	平成 22 年		平成 23 年										平成 24 年										平成 25 年						平成 26 年	
月	11	12	1~3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1~3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1~3	4~8	9	10	11	12	1 ～ 3	4 ～ 12
調査																														
H 区	H-1～10・28～30区			H-11 ～ 27 区																										
I 区											I-1 ～ 5 区				I-6 ～ 19 区															
L 区																	L-1 ～ 15 区							L-16 区		L-17 区				
整理																														

年度		平成 27 年度					平成 28 年度										平成 29 年度												平成 30 年
年	平成 27 年						平成 28 年										平成 29 年												
月	1~3	4 ～ 8	9	10	11	12	1~3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1 ～ 3
整理																													

(1) 平成 22 (2010) 年度

11 月 2 日～ 12 月 6 日に、構造物建設範囲を対象とした本発掘調査 (H-1 区) と、平成 23 年度のほ場整備事業に伴う農道・水路・パイプライン建設予定区域と切土予定範囲を対象とした試掘確認調査 (H-2 ～ 10・28 ～ 30 区・7 ～ 34 トレンチ) を実施した (第 5 図)。その結果、H-1 区では古代とそれ以降の河川跡、 7 ～ 34 トレンチでは、溝跡、土坑、ピット、河川跡が検出された。出土遺物は土師器、須恵器、瓦、縄文土器、石器である。遺構密度は高くないが、対象範囲全体に遺構・遺物の広がる状況が確認された。H-1 ～ 10 区では、北小松遺跡で確認された縄文時代の遺物包含層である基本層序Ⅵ層が検出されたが、遺物は H-7 区の縄文土器 4 点のみであった。そのため、H-1 ～ 10 区については、電子平板による平面図、調査区壁の断面図作成、写真記録を行い、調査を終了した。

(2) 平成 23 (2011) 年度

4 月 18 日～ 28 日に、パイプライン建設部分を対象とした確認調査 (H-11・12 区) を実施した。検出した遺構は、古代とそれ以降の河川跡である。出土遺物は土師器、須恵器である。

前年度の試掘確認調査の結果を受けて、5 月 30 日から H-13 ～ 27 区の調査を開始した。平成 22 年度の試掘確認トレンチとの対応関係は、7 ～ 10 トレンチが H-14 区 (第 10 図)、11 ～ 16 トレンチが H-15 区 (第 15 図)、19 トレンチが H-16 区 (第 18 図)、17・18 トレンチが H-17 区 (第 19 図)、20・34 トレンチが H-19 区 (第 19・20 図)、21 トレンチが H-21 区 (第 22 図)、23・24 トレンチが H-24 区 (第 27 図)、28 ～ 30 トレンチが H-25 区である (第 28 図)。調査は、農道建設部分 (H-2・3・5 ～ 8・16 ～ 18・20 ～ 22 区、H-14・19・24・25 区の一部) と追加調査部分 (H-25 区北東隅、H-26・27 区) が確認調査、水路 (H-9・10 区、H-15・25 区の一部)・パイプライン建設部分 (H-11 ～ 13・23、H-14・15・19・24・25 の一部) が本発掘調査である。西側の H-13 区から順に着手し、10 月 27 日に終了した。

H 区の調査がほぼ終了した 10 月 25 日からは、次年度以降の対象範囲である J 区について、農道・水路・パイプライン建設予定地を対象とした試掘確認調査を実施し、36 ヶ所のトレンチを設定した。J 区の試掘確認調査は 11 月 14 日に終了し、11 月 15 日から、次年度調査予定範囲であった I 区の北西部 (I-1 ～ 5 区) の農道・水路・パイプライン建設予定地を対象とした本発掘・確認調査を実施した。11 月 30 日には予定した範囲の調査を終え、平成 23 年度の調査を終了した。

調査期間中の 10 月 15 日には、H-25 区の成果を中心に地域の方々を対象とした現地説明会を実施し、32 名の参加を得た。

(3) 平成 24 (2012) 年度

調査対象地は、田尻川に面したⅠ区と田尻小学校の南側に位置するＬ区である（第 1 図）。Ⅰ区の調査は、農道建設部分（I-6 ～ 9・12・14 ～ 16 区）と追加調査部分（I-9 区拡張部、I-18・19 区）が確認調査、水路（I-11・13・17 区、I-6・8・16 区の一部）・パイプライン建設部分（I-10 区）が本発掘調査、Ｌ区は、農道建設部分（L-1・4・5・9 ～ 15 区と L-8 区の一部）が確認調査、水路建設部分（L-2・3・6・7 区と L-8 区の一部）が本発掘調査である。5 月 23 日にⅠ区の調査から開始した。関係機関との協議の結果、東端の I-6 区から西側に向かって着手し、I-9 区の道路部分の調査が終了後、西側の I-10 ～ 13 区の調査を実施した。I-9 区では、大型の柱穴が多く認められ、重要な遺構の存在が想定されたことから、重要遺構の範囲確認として、7 月 17 日より南側部分の拡張を行った。その結果、桁行 5 間の掘立柱建物跡や布掘りの柱穴掘方を持つ総柱の掘立柱建物跡、床束を持つ掘立柱建物跡などが一定の範囲で方向を揃えて検出された。I-9 区拡張部の遺構検出終了後、I-14 区の調査を行ったが、I-15 区以降の調査に着手できる条件が整わなかったことから、8 月 27 日よりＬ区の調査を開始した。L-1・3 区の調査を終了した後、現地説明会の準備と掘立柱建物跡の柱穴の断面調査を行うために I-9 区の調査を再開した。9 月 25 日にＬ区の調査を再開し、10 月 29 日には L-13 区までの調査が終了、次に I-15 ～ 17 区の調査を実施した。I-16 区では、H-25 区で発見された SX200 南北道路跡の延長の可能性がある溝跡が検出されたため、I-18・19 区を設定してその南側延長の確認を行った。Ⅰ区の調査は 11 月 26 日に終了し、残っていた L-14・15 区の調査を行い、12 月 7 日に平成 24 年度の調査を終了した。

9 月 12 日には業者に委託して航空写真撮影を実施した。また、調査期間中の 9 月 15 日には、I-9 区の成果を中心に現地説明会を実施し、106 名の参加を得た。

(4) 平成 25 (2013) 年度

Ｌ区の 2 ヶ所（L-16・17 区）で田面の切土が必要となり、9 月 17 日～ 9 月 20 日に L-16 区、11 月 5 日～ 11 月 6 日に L-17 区の本発掘調査を実施した。遺構は溝跡数条で、土師器、須恵器が僅かに出土した。

なお、調査して遺構・遺物が検出された範囲は、北側はＨ区の成果から新田柵跡や北小松遺跡に隣接する位置に、南側はⅠ区の成果から神明遺跡の田尻川左岸の範囲に、東側はＬ区の成果から田尻小学校西遺跡に隣接する位置まで広がり、当初の団子山西遺跡の遺跡範囲を大きく超えることが判明した。これらは、確認された遺構の時期や種類、その分布、立地する地形の共通性から、団子山西遺跡と連続したものであることが確認され、このことは、神明遺跡の田尻川右岸の範囲も同様であった。そのため、J・K 区の調査がほぼ終了した平成 27 年度に、大嶺丘陵の南側に広がる沖積地で、神明遺跡や田尻小学校西遺跡を含めた範囲を団子山西遺跡とし、遺跡範囲を拡大することとした（大崎市教育委員会 2017b）。これにより、団子山西遺跡の遺跡範囲は、当初の約 8 倍の面積となった。

3. 整理の経過

整理作業は平成 23（2011）年度から平成 29（2017）年度にかけて行われた（第 1 表）。

(1) 平成 23 (2011) 年度

平成 23 年 12 月 1 日から平成 24 年 4 月 5 日の期間で整理作業を実施した。遺構については、平成 22・23 年度調査 (H 区と I-1 ～ 5 区) の基礎整理、平面図作成、断面図トレース、土層注記の入力、調査で撮影した写真の整理、遺物については、平成 22・23 年度出土遺物の洗浄、注記、土器接合、調書作成、抽出、一部のものについて実測を行った。

(2) 平成 24 (2012) 年度

平成 24 年 12 月 10 日から平成 25 年 3 月 27 日の期間で実施した。平成 24 年度調査 (I-6 ～ 19 区、L-1 ～ 15 区) の遺構の基礎整理を行った後、H 区出土遺物の実測、拓本作成、土器の復元作業、遺物実測図のトレース、拓本のデジタル化、H 区の遺構の事実記載執筆、挿図作成を行った。

(3) 平成 27 ～ 29 (2015 ～ 2017) 年度

平成 27 年度については、9 月 17 日から 12 月 1 日の期間で実施した。平成 24 年度出土遺物の接合、調書作成、抽出を行った。

平成 28 年度については、平成 28 年 7 月 6 日から 9 月 12 日、10 月 11 日から 10 月 18 日、平成 29 年 2 月 28 日から 3 月 29 日の期間で実施した。平成 28 年では、H 区の実測した土器の復元作業と復元部分の着色、I・L 区で抽出した土器の拓本作成とそのデジタル化、I・L 区の断面図トレース、土層注記の入力を行った。平成 29 年では、I・L 区の遺構の基礎整理を行った。

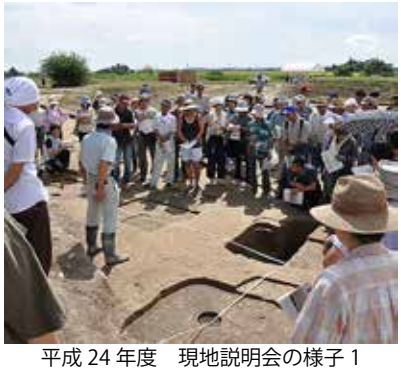
平成 29 年度については 4 月 5 日より開始した。遺構図版、I・L 区の遺物実測・トレース、遺物図版、事実記載執筆、写真図版作成、総括執筆を行った。遺物の写真撮影については、業者に委託し、8 月 1 ～ 3 日に実施した。

平成 23 年度　作業風景 1

平成 23 年度　作業風景 2

平成 23 年度　現地説明会の様子 1

平成 23 年度　現地説明会の様子 2


平成 24 年度　現地説明会の様子 1

平成 24 年度　現地説明会の様子 2

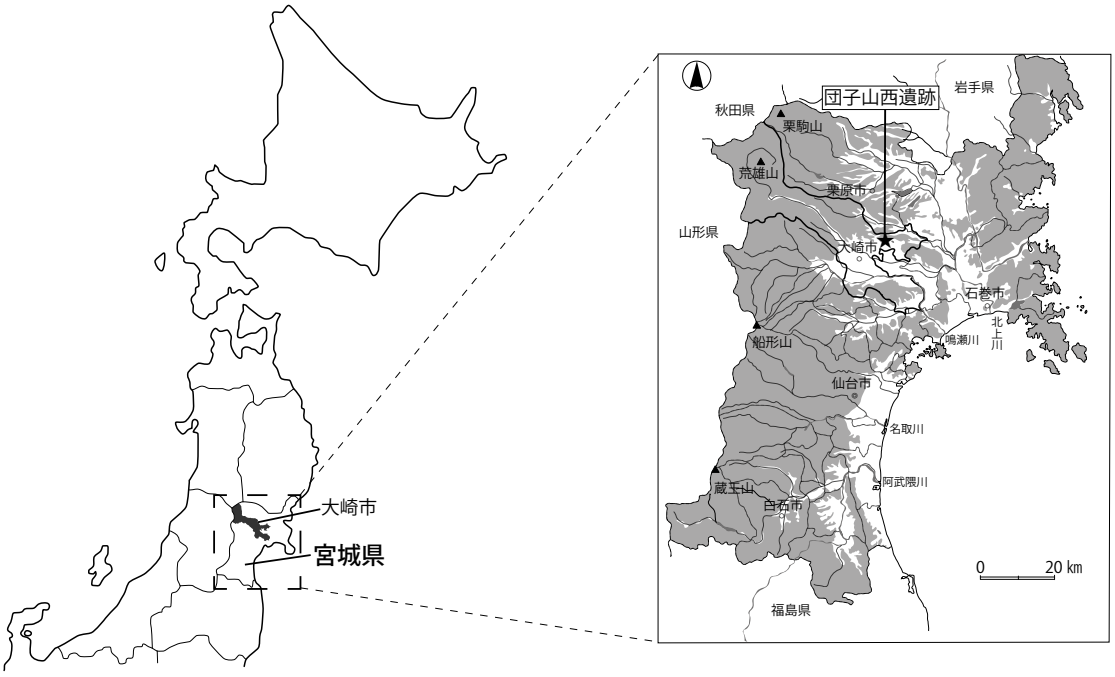
第Ⅱ章　遺跡の概要

1. 遺跡の位置と地理的環境

団子山西遺跡は、宮城県大崎市田尻小松・大嶺・中目・通木に所在し、東北本線 JR 田尻駅から北西に 4.5km の位置にある。大崎市は平成 18 年 3 月に 1 市 6 町が合併して誕生した市で、宮城県の北部に位置し、総面積が 796.76k㎡と広範囲にわたる（第 2 図）。北部は栗原市、東部は登米市、美里町、涌谷町、南部は大衡村、大郷町、松島町、西部は加美町、色麻町、また、北西部は山形県・秋田県と接する。遺跡が所在する田尻地区（旧田尻町）は、市の中央北端に位置する。

田尻地区の地形は、奥羽山脈から派生した陸前丘陵の一部である築館丘陵と箆岳丘陵、その周囲に広がる沖積地により構成される。築館丘陵は田尻地区の北部、箆岳丘陵は東部に位置し、北西から南東方向に延びており、両丘陵が大崎平野の北東縁を形成する。丘陵の縁辺は東流する小河川によって浸食され開析が進み、細部では尾根と低地が複雑に入り組む地形となる。沖積地は江合川水系の河川により形成され、自然堤防、後背湿地、旧河道が広がる。

遺跡は、田尻川両岸の築館丘陵南面に広がる沖積地（微高地、湿地、河川、旧河道）に立地する。標高は 12 ～ 18m である。遺跡の範囲は、北西―南東方向の長楕円形で、北西―南東 1.7㎞、北東―南西 0.7㎞に及ぶ。現況は、田地、畑地、宅地、道路、河川である。縄文時代・古墳時代・古代・中世・近世の複合遺跡であるが、これまでの調査で主体は古代であることが明らかになっている。



第 2 図　団子山西遺跡の位置

2. 歴史的環境

大崎市田尻地区とその周辺には、縄文時代から近世にかけて数多くの遺跡が分布する（第 3 図）。ここでは、団子山西遺跡で主に確認された縄文時代から鎌倉時代の歴史的環境について、遺跡周辺の発掘調査成果を中心に記述する。

縄文・弥生時代

北小松遺跡（第 3 図 3）で縄文時代早期中葉から後葉、前期初頭から前葉、中期末葉（宮城県教育委員会 2011）、金鋳神遺跡（14）で前期前葉、中期、後期（大崎市教育委員会 2016）、新田柵跡（2）で前期と考えられる土器が出土している（田尻町教育委員会 1998）。国史跡中沢目貝塚では、後期末葉から晩期前葉の貝塚と竪穴建物跡（東北大学文学部考古学研究会 1984・1995）、北小松遺跡では、晩期の掘立柱建物跡、土坑墓、埋葬犬骨、集石遺構などの多数の遺構が検出され、後期末葉から晩期末葉の遺物包含層から土器・土製品、石器・石製品とともに骨角器、漆製品、動植物遺存体などの貴重な遺物が多く出土した（宮城県教育委員会 2010ab・2011・2014a）。愛宕山遺跡（4）・諏訪遺跡（5）・宮沼遺跡（6）（宮城県教育委員会 2010a）、通木田中前遺跡（9）（大崎市教育委員会 2010b）、金鋳神遺跡（大崎市教育委員会 2016）でも晩期の遺物が出土している。

弥生時代の調査は少ないが、新田柵跡で僅かではあるが土器が出土し（田尻町教育委員会 2000）、通木田中前遺跡では前期の遺物包含層からまとまった量の遺物が出土した。金鋳神遺跡では後期の天王山式の土器が出土している（大崎市教育委員会 2016）。

古墳時代

前期では、新田柵跡の外郭南辺の丘陵頂部で径 20m 程度の円墳が 1 基検出されている。墳丘や埋葬施設は残存しておらず周溝のみの確認であるが、堆積土から底部穿孔の二重口縁壺が出土した（田尻町教育委員会 2001b、車田 2004）。この他に、遺跡内の低湿地から膝柄鍬の鍬先が出土している（田尻町教育委員会 2003）。集落遺跡には、金鋳神遺跡（大崎市教育委員会 2016）、栗原市瀬峰の寺浦遺跡（49）（栗原市教育委員会 2006）、大境山遺跡（瀬峰町教育委員会 1983）、その他に美里町成田遺跡では方形周溝跡や溝跡が検出されている（美里町教育委員会 2008）。

中期前半は古墳・集落ともに確認されていない。後半では、遺構は不明だが、栗原市瀬峰の四ツ壇遺跡で土師器と石製模造品が出土し（栗原市教育委員会 2006）、泉谷館跡で土師器が採集されている（阿部ほか 1987）。

後期は古墳・集落ともに確認されていない。大崎地域でも、大崎市名生館官衙遺跡（古川市教育委員会 2002）や日光山古墳群（古川市史編さん委員会 2006）で古墳が確認されているが、全体的に低調であり集落の確認もない。

古墳時代終末期から奈良時代

終末期の 7 世紀後半には横穴式石室による高塚古墳や横穴墓からなる群集墳が大崎地方一帯に広がり、田尻地区周辺でも天神西横穴墓群（17）、日向前横穴墓群（18）、筒水横穴墓群（19）、六月坂遺跡（16）、小野横穴墓群（27 ～ 30・32 ～ 34）などの古墳・横穴墓群が分布している。このうち、六月坂遺跡は 7 世紀中葉から 8 世紀前半（宮城県多賀城跡調査研究所 2008b）、日向前横穴墓群は多賀城創建以前（宮

No.	遺構名	立地	種別	時代	No.	遺構名	立地	種別	時代
1	団子山西遺跡	自然堤防、沖積平野	集落	縄文・古墳・古代・中世・近世	27	小野横穴墓群(馬籠支群)	丘陵斜面	横穴墓	古墳後
2	新田柵跡	丘陵	古墳・城柵・集落	縄文・弥生・古墳・古代・中世	28	小野横穴墓群(白山支群)	丘陵斜面	横穴墓	古墳後・奈良
3	北小松遺跡	丘陵、沖積平野	散布地(泥炭層)	縄文・古代	29	小野横穴墓群(羽黒支群)	丘陵斜面	横穴墓	古墳後・奈良
4	愛宕山遺跡	丘陵	散布地	縄文・古代	30	小野横穴墓群(岩崎支群)	丘陵麓	横穴墓	古墳後・奈良
5	諏訪遺跡	丘陵	散布地	縄文・古代	31	岩崎古墳	丘陵尾根	円墳	古墳後
6	宮沼遺跡	丘陵	散布地	縄文・古代	32	小野横穴墓群(朽木橋支群)	丘陵斜面	横穴墓	古墳後・奈良
7	お椀子山遺跡	自然堤防	散布地	縄文晩・古墳前・古代	33	小野横穴墓群(小高支群)	丘陵麓	横穴墓	古墳後・奈良
8	通木山崎遺跡	自然堤防	散布地	平安	34	小野横穴墓群(新田支群)	丘陵斜面	円墳・横穴墓	古墳・古代
9	通木田中前遺跡	沖積平野	散布地	縄文・弥生・古代	35	新田古墳群	丘陵	円墳・方墳	古墳
10	通木城跡	自然堤防	城館	中世	36	須賀遺跡	丘陵尾根	散布地	縄文晩・古代
11	天狗堂遺跡	丘陵斜面	集落	縄文・奈良・平安	37	華島遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文晩・古代
12	大嶺遺跡	丘陵	散布地	平安	38	北原A遺跡	段丘	散布地	縄文・古代・中世・近世
13	国史跡　木戸瓦窯跡	丘陵	窯跡	奈良	39	袋沢遺跡	丘陵	散布地	縄文・古代
14	金鋳神遺跡	丘陵	集落	奈良・平安・中世	40	中ノ茎遺跡	段丘	集落	縄文・古代・中世・近世
15	木戸館跡	丘陵	城館・散布地	平安・中世	41	覚満寺跡	段丘	寺院・散布地	縄文・古代・中世・近世
16	六月坂遺跡	丘陵	散布地	古代	42	仰ヶ返り地蔵前遺跡	段丘	散布地	縄文・古代・中世・近世
17	天神西横穴墓群	丘陵麓	横穴墓	古墳後	43	観音沢遺跡	段丘	集落	縄文・古墳・奈良～中世
18	日向前横穴墓群	丘陵麓	横穴墓	古墳・平安	44	北甚六原遺跡	段丘	散布地	縄文・古代・中世・近世
19	筒水横穴墓群	丘陵	横穴墓	古墳	45	外沢田遺跡	段丘	散布地	古代
20	大隈館跡	丘陵	城館	中世	46	経ケ崎遺跡	段丘	散布地	縄文・古墳・古代
21	沼木館跡	丘陵	城館	中世	47	高清水城跡	段丘	城館	中世・近世
22	天神山遺跡	丘陵	散布地	古代	48	大寺遺跡	段丘	散布地	縄文早・古墳・古代
23	権現山遺跡	丘陵	集落	古代	49	寺浦遺跡	丘陵	散布地	縄文・古墳前・古代
24	三輪田遺跡	丘陵	官衙・寺院？	奈良・平安	50	外沢田B遺跡	段丘	集落	古代・近世
25	国史跡　宮沢遺跡	丘陵	官衙	縄文晩・弥生・奈良・平安	51	市史跡　王壇遺跡	丘陵	塚・散布地	古墳？・古代
26	一貫寺遺跡	丘陵	散布地	奈良	52	長根遺跡	丘陵	散布地	古代

第3図　団子山西遺跡の位置と周辺の遺跡

城県教育委員会 1981a）、小野横穴墓群の朽木橋支群は 7 世紀後半から 9 世紀まで及ぶ使用が想定され（宮城県教育委員会 1983）、横穴墓の形状や関東系土師器の出土から関東地方など他地域との関連が指摘されている。

墳墓以外では、田尻地区より北側の栗原市瀬峰の泉谷館跡で 7 世紀前半の竪穴建物跡とともに関東系土師器が（阿部ほか 1987）、栗原市瀬峰の大境山遺跡では 7 世紀後半から 8 世紀初頭の竪穴建物跡、遺構に伴う出土ではないが大境山遺跡、民生病院裏遺跡（瀬峰町教育委員会 1988b）、下富前遺跡（瀬峰町教育委員会 2004）、栗原市高清水の外沢田Ｂ遺跡（50）（瀬峰町教育委員会 2003）で 7 世紀後葉～ 8 世紀初頭ないし中頃の関東系土師器が出土している。

この時期は、畿内の中央政権が関東地方などの他地域からの大勢の移民による建郡と、拠点となる城柵や官衙を設置することにより、宮城県中央部から北部にかけて支配領域の拡大を目指していた時期とされ、関東系土師器はこれを示す遺物と考えられている（今泉 1992）。大崎地方では、7 世紀後半頃に名生館官衙遺跡（宮城県多賀城跡調査研究所 1981・1982b・1983 ～ 1986、古川市教育委員会 1987 ～ 1998・2000 ～ 2004・2006）、南小林遺跡（古川市教育委員会 2001）、三輪田・権現山遺跡（佐藤 2003）で、関東系土師器や関東地方と類似する構造の竪穴建物跡が確認され、さらに、7 世紀末から 8 世紀初頭頃には官衙あるいはその可能性のある遺構が認められる。

養老 4（720）年に起きた蝦夷の大規模な反乱を契機に、多賀城跡の造営と大崎平野北縁を中心とした黒川以北十郡への城柵の造営が一体的に進められ（熊谷 1989・2000）、新田郡には『続日本紀』天平 9（737）年条記載の「新田柵」が造営された。この「新田柵」は、田尻地区に所在する新田柵跡と推定されている。新田柵跡は田尻川に面した丘陵上に所在し、その上流には同じく城柵官衙遺跡である権現山遺跡（23）、三輪田遺跡（24）、国史跡宮沢遺跡（25）が所在する。新田柵跡では、20 年以上にわたる調査で、築地塀跡や材木塀跡、溝跡による区画施設と西門跡、北門の可能性がある掘立柱建物跡、道路跡、掘立柱建物跡や竪穴建物跡が検出された（宮城県教育委員会 1991b・1992b、田尻町教育委員会 1998・2000 ～ 2004・2006、大崎市教育委員会 2008a・2009a・2010a・2011）。区画施設の範囲は東西 1.5㎞以上、南北 1.7㎞と推定され、その内側には大型の掘立柱建物跡と竪穴建物跡が多く認められる。区画施設の北側の丘陵上にも竪穴建物跡が検出され、その中には 8 世紀前半頃の関東系土師器が出土したものもある（宮城県教育委員会 1991b、田尻町教育委員会 1998）。

新田柵跡の東側 2.5㎞の地点には、多賀城政庁遺構期第Ⅰ期の瓦を生産した国史跡木戸瓦窯跡（13）が所在する。「郷里制」が施行されていたことを示す平瓦が採集されたことや、出土した瓦と須恵器の特徴から、操業時期は 8 世紀前半と考えられている（田尻町教育委員会 2001a、宮城県多賀城跡調査研究所 2005・2006・2007b、大崎市教育委員会 2011）。

新田柵跡周辺には古代の集落遺跡が多数分布する。南側の沖積地には団子山西遺跡（1）の他に、お椀子山遺跡（7）、通木田中前遺跡（9）、北側の丘陵上には天狗堂遺跡（11）、大嶺遺跡（12）、低地を挟んでさらに北側には栗原市高清水の観音沢遺跡（43）、北甚六原遺跡（44）、外沢田遺跡（45）、外沢田Ｂ遺跡（50）、栗原市瀬峰の長根遺跡（52）、大境山遺跡、民生病院裏遺跡、下富前遺跡、四ツ壇遺跡など多数の遺跡が、東側の丘陵上には金鋳神遺跡（14）が所在する。新田柵跡の南東部に隣接する通木田中前遺跡では、枠を

もつ井戸跡や溝跡、新田柵跡と一連の丘陵上に立地する天狗堂遺跡では、広範囲にわたる遺跡の一部で10棟以上の竪穴建物跡が検出された（田尻町教育委員会 1978）。長根遺跡では8世紀前葉の関東系土師器が出土している（瀬峰町教育委員会 2003）。木戸瓦窯跡やこれらの集落遺跡については、位置関係や時期の同時性から新田柵跡との関連が推定される。

平安時代

宝亀5（774）年の海道蝦夷の桃生城侵攻から弘仁2（811）年まで続く38年戦争の時期、『日本後記』延暦18（799）年には讃馬郡を新田郡に併合するという記載があり、新田郡の郡域拡大が行われている。新田柵跡では、9世紀代の掘立柱建物跡や9世紀後半の竪穴建物跡（田尻町教育委員会 2002a・2003）、遺跡内で採集された軒丸瓦の中に9世紀代と考えられるものが認められるが（田尻町教育委員会 2002a）、この時期の遺構・遺物は少なく様相は不明である。周辺の遺跡では、金鋳神遺跡、四ツ壇遺跡、岩石Ⅰ遺跡（瀬峰町教育委員会 1977・1980）で9世紀代の竪穴建物跡が検出されている。下富前遺跡では、9世紀初頭頃の桁行5間、梁行2間で東側に庇を持ち、身舎内部に間仕切りの柱穴を持つ大型の掘立柱建物跡や、同じく桁行5間、梁行1間以上の大型の掘立柱建物跡、材木塀跡、大溝跡が検出された。出土遺物には緑釉陶器があり、これらは有力者の居宅かあるいは、小山田川沿岸に立地する河川交通に関わる何らかの公的施設の可能性が考えられている（瀬峰町教育委員会 2004）。10世紀前半には桃生田前遺跡で廃棄土坑、大境山遺跡で竪穴建物跡があるが、それ以降の様相は明確ではない。

鎌倉時代

源頼朝による奥州合戦後、新田郡の地頭職には下野国御家人小野寺通綱、現在の大崎市古川・岩出山・田尻北部、栗原市高清水地域である葛岡郡の地頭職には武蔵国御家人畠山重忠が任じられた（入間田 1997）。その後、畠山重忠は元久2（1205）年に滅亡し、代わりに常陸国御家人馬場大掾の一族の平資幹が任じられた。新田郡では、鎌倉時代後期の北条氏の専制により北条氏の所領となったことが推定されている（入間田 1997、伊藤 2000）。

田尻地区のこの時期の集落遺跡には金鋳神遺跡があり、板碑には弘安6（1283）年と弘安7（1284）年のものがある（田尻町史編さん委員会 1982、古川市史編さん委員会 2006）。周辺には、屋敷跡が検出された下富前遺跡（瀬峰町教育委員会 2000）、幹線道路に近い位置にある集落跡で、流通に関わる性格も推定されている観音沢遺跡（宮城県教育委員会 1980c、飯村 2015）、観音沢遺跡に近接し、道路跡とそれに面した複数の屋敷跡が検出された北甚六原遺跡（栗原市教育委員会 2009）が所在する。この他に、中世寺院跡の可能性がある覚満寺跡（41）や、栗原市と登米市にわたって広がる伊豆沼窯跡群、仰ヶ返り地蔵前遺跡（42）が所在する。伊豆沼窯跡群は7支群からなる大規模な窯跡群で、このうち熊狩A窯跡群の窯跡2基の調査が行われている（東北歴史資料館 1979）。窯の構造は分焔柱を伴う地下式窖窯で、甕、擂鉢、皿が生産されている。仰ヶ返り地蔵前遺跡では、ロストル式の瓦窯跡が2基検出され、それらの構造や構築順序が明らかとなった（東北学院大学佐川ゼミナールほか 2009）。

3. これまでの調査

団子山西遺跡や旧神明遺跡、旧田尻小学校西遺跡のこれまでの主な調査を第2表にまとめた。

(1) ほ場整備事業に係る調査

平成 13 ～ 15 年度に旧田尻町教育委員会によって田尻川右岸の旧神明遺跡の試掘確認調査と本発掘調査、平成 16 年度に田尻川左岸の旧神明遺跡、団子山西遺跡の試掘確認調査が実施された（第 4 図）。平成 13 ～ 15 年度の旧神明遺跡の調査では、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、溝跡、小溝状遺構群など古代から中近世の遺構が多く検出された。平成 16 年度の調査では、H 区に 12 ヶ所、I 区に 4 ヶ所、J 区に 3 ヶ所、K 区に 11 ヶ所のトレンチ調査が実施され（第 4 図）、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、溝跡、井戸跡、土坑などが検出された。出土遺物は土師器、須恵器、瓦、土製品、石器、鉄滓、近世陶磁器である。特に K 区では古代と推定される掘立柱建物跡や竪穴建物跡が多く検出され、土師器、須恵器とともに風字硯が出土している。

(2) その他の調査

ほ場整備事業に係るもの以外では、平成 16 年度に遺跡の南東端に位置する旧田尻小学校西遺跡（第 4 図）で、田尻小学校のプール改築工事に伴い試掘確認調査と本発掘調査が行われ、8 ～ 9 世紀頃の大型の掘立柱建物跡と区画溝跡などが検出された（田尻町教育委員会 2005）。掘立柱建物跡は 5 棟以上確認され、それらの柱穴掘方は一辺 80 ～ 100cm と大型である。区画溝跡も上幅 3 ～ 5m、深さ 1.3m と規模が大きい。両者は方向が一致することから一連のものと考えられている。出土遺物は土師器、須恵器、瓦、木製品で、瓦の中には木戸瓦窯跡で作られたとみられる重弁蓮華文軒丸瓦や二重弧文軒平瓦が認められる。これらの遺構・遺物の内容から、新田柵跡との関連が推定されている。平成 18 年度には遺跡南東部の I 区と L 区の境付近で市道拡幅工事に伴う確認調査が実施され、古代の河川跡が検出された（大崎市教育委員会 2008b）。平成 19 年度には牛舎新築工事に伴う確認調査が実施された（大崎市教育委員会 2009b）。調査地点は遺跡のほぼ中央で、K・I・J 区が接する位置にある（第 4 図）。調査の結果、古墳時代～古代を中心とした掘立柱建物跡、竪穴建物跡、材木塀跡など多数の遺構が検出された。出土遺物には、古墳時代中期と後期の土師器、石製模造品、古代の須恵器坏、ロクロ土師器、軒平瓦・平瓦・丸瓦がある。

第 2 表　団子山西遺跡の調査

調査年度	遺跡	調査原因	調査内容	調査地点	調査面積	調査期間	調査主体	報告
2001（平成 13）	神明遺跡	ほ場整備	試掘確認				田尻町教育委員会	未刊
2002（平成 14）	神明遺跡	ほ場整備	試掘確認				田尻町教育委員会	未刊
2003（平成 15）	神明遺跡	ほ場整備	本発掘調査				田尻町教育委員会	未刊
2004（平成 16）	団子山西遺跡	ほ場整備	試掘確認	22 ～ 51T	5,745㎡	2004.5.12 ～ 12.13	田尻町教育委員会	未刊
	田尻小学校西遺跡	田尻小学校プール改築工事	本発掘・確認	1 ～ 3 トレンチ		（確認）2004.9.1 ～ 9.16、（本発掘）10.1 ～ 10.28	田尻町教育委員会	未刊
2006（平成 18）	旧神明遺跡	市道拡幅工事	確認	A・B 区	164㎡	2006.10.16 ～ 10.26	大崎市教育委員会	大崎市 2008b
2007（平成 19）	団子山西遺跡	牛舎新築工事	確認	A・B・C 区	347㎡	2007.10.16 ～ 10.23	大崎市教育委員会	大崎市 2009b
2010（平成 22）	団子山西遺跡	ほ場整備	本発掘・確認	H 区（1 ～ 10・28 ～ 30 区）	889㎡	2010.11.2 ～ 12.6	宮城県教育委員会	本書
			試掘確認	H 区（7～24・28～34T）	1,941㎡			
2011（平成 23）	団子山西遺跡	ほ場整備	本発掘・確認	H 区（11 ～ 27 区）	6,616㎡	2011.4.18～28、5.30～10.27	宮城県教育委員会	本書
				I 区（1 ～ 5 区）	1,466㎡	2011.11.15 ～ 11.30		
			試掘	J 区（1 ～ 36T）	2,553㎡	2011.10.25 ～ 11.14		未刊
2012（平成 24）	団子山西遺跡	ほ場整備	本発掘・確認	I 区（6 ～ 19 区）	4,775㎡	2012.5.23 ～ 8.28、9.5 ～ 9.26、10.29 ～ 11.26	宮城県教育委員会	本書
				L 区（1 ～ 15 区）	4,591㎡	2012.8.27 ～ 9.7、9.25 ～ 10.29、11.20 ～ 12.7		
2013（平成 25）	団子山西遺跡	ほ場整備	本発掘・確認	J 区（1 ～ 24 区）	3,324㎡	2013.5.27 ～ 11.25	宮城県教育委員会	未刊
				L 区（16・17 区）	196㎡	20139.17 ～ 9.20、11.5 ～ 11.6		本書
2013（平成 25）	神明遺跡	浄化槽設置工事	確認		6.3㎡	2013.5.17	大崎市教育委員会	大崎市 2015
2014（平成 26）	団子山西遺跡	ほ場整備	本発掘・確認	J 区（25 ～ 36 区）・K 区（1 ～ 4 区）	3,377㎡	2014.5.19 ～ 11.27	宮城県教育委員会	未刊
	宮沼遺跡		確認	M 区（1 ～ 25T）	546㎡			
2015（平成 27）	団子山西遺跡	ほ場整備	本発掘・確認	K 区（K-5 ～ 15 区）	3,819㎡	2015.6.23 ～ 11.20	宮城県教育委員会	未刊
		U 字溝埋設工事	工事立会		161.3㎡	2015.5.11	大崎市教育委員会	大崎市 2017b
		電話柱移転工事			1.6㎡	2016.1.14		
		電柱新設工事			1.5㎡	2016.2.18		
		浄化槽設置工事	確認		5.56㎡	2015.10.1		
2017（平成 29）	団子山西遺跡	ほ場整備	本発掘	K 区（K-5 区）	430㎡	2017.10.31 ～ 12.25	宮城県教育委員会	未刊

第Ⅲ章　発掘調査

1. 方法

(1) 調査の方法

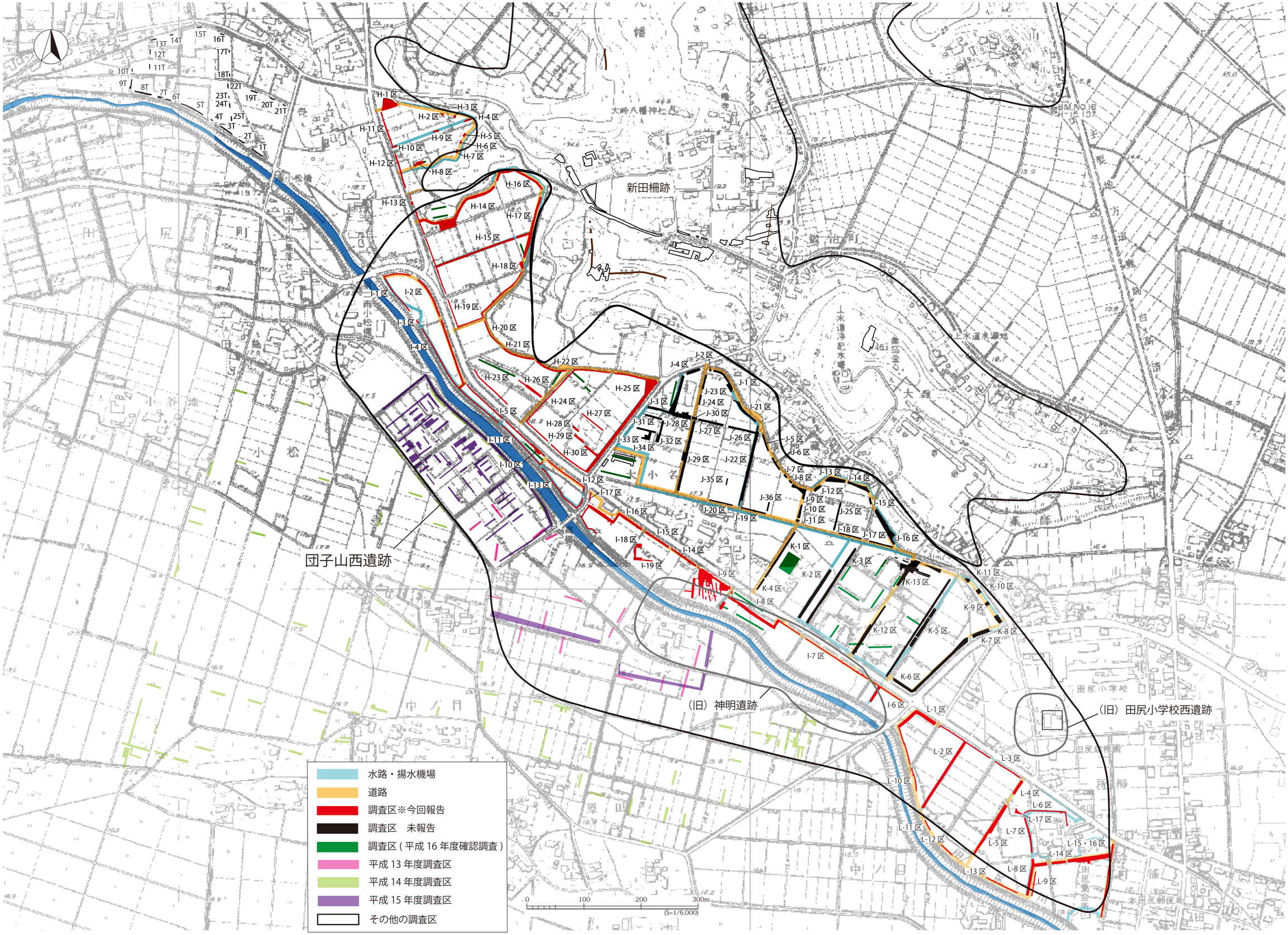
〔調査区の設定〕農道・水路・パイプライン建設予定範囲を対象とし、調査区を設定した（第 4 図）。調査区の番号については、調査順に登録した。そのため、近い番号が近接した位置にないものもある。なお、一続きの完結したトレンチを調査区として番号を付与したが、一部では、複数のトレンチをまとめて調査区番号を与えたもの（H-13 区）や調査の進行上、範囲が一部重複するもの（H-25・30 区、I-18・19 区、L-15・16 区）もある。また、平成 22 年度に実施した試掘確認調査のトレンチの中で、1 ～ 6・35 ～ 37・25 ～ 27 トレンチについては、平成 23 年度調査区とは異なる範囲に位置することから、これらをそれぞれ H-1 ～ 10・28 ～ 30 区とし、調査区として扱うこととした。

〔調査方針〕調査では、工事の内容によって調査の方法を変えている。農道は盛土により造成され、砂利敷で舗装されないことから、遺構確認のみの調査とした。ただし、農道の水田側に埋設される幅 1m、深さ 1m のパイプライン部分については、遺構面に影響が及ぶため本発掘調査とした。水路は造成にあたり遺構面に大きな影響が及ぶことから、この範囲についてはすべて本発掘調査とした。なお、農道建設部分の中には現道や現水路が位置するものがあり、この範囲についてはそれらを避けて調査区を設定している。また、遺跡の性格を考えるうえで重要と判断された遺構が検出された地点では、その平面的な状況を確認するため、調査区の拡張や周辺における新たな調査区の設定を行っている。H-25 区北東隅の拡張部や H-26・27 区、I-9 区の拡張部、I-18・19 区がそれに相当する。

〔表土除去・遺構検出・精査〕表土除去にはバックホーを使用し、遺構や包含層の検出・精査については人力で行った。

〔基本層序Ⅵ層の調査〕北側に隣接する北小松遺跡で確認された、縄文時代の遺物包含層である基本層序Ⅵ層については、各調査区において、部分的な深掘りやハンドオーガーによるボーリング調査を行い、その有無と地表面からの検出深度、分布の広がりを確認した。なお、H-1・4・5・7・8 区でⅥ層上面を検出したが、地表面から -1.5m 以上で作業上危険であったことから、調査区の全面ではなく一部を調査することにとどめた。H-9・10 区については、ボーリング調査で確認しており、どちらも田面から 2.0m 以下での検出であったため調査を実施していない。H-24 区では、北西隅でⅤ層の堆積が薄く、Ⅵ層を平面的に検出できた。そのため、パイプライン建設の際に影響が及ぶ範囲を調査対象とした。

〔基本層序Ⅴ層の調査〕Ⅴ層上面で古墳時代から近世にかけての遺構が検出されたため、この層の上面を遺構確認面とし、精査を行った。なお、調査区壁の精査により基本層序Ⅱ層が遺構面となるものも少数確認している。水路やパイプライン建設部分で検出された河川跡や溝跡、井戸跡の中には、全ての堆積土を除去すると調査区壁・路肩崩落の恐れがあることから、一部の截ち割りにとどめ、底面の検出を行わなかったものがある。



第 4 図　団子山西遺跡の範囲と調査区の位置

〔**遺構の登録**〕田尻西部地区のほ場整備事業に伴う団子山西遺跡の調査では、それ以前の確認調査や試掘調査の遺構番号を考慮せずに、新たに 1 番から遺構番号の登録を行った。遺構番号については、調査した順に登録し、かつ H ～ L 区の全体を通し番号で登録している（第 3 表）。その際、遺構番号の重複を避け、かつ、どの調査区の遺構か判別しやすいように、H 区では 1 ～ 234、I 区では 250 ～ 511 の番号を使用した。ただし、L 区については 601 ～ 698 としたが、平成 25 年度に追加調査を行った結果、600 番台が不足し、部分的に 1000 番台（1050 ～ 1052・1057 ～ 1062）を使用している。また、建物と認定できなかった柱穴やピットについては、その他の遺構とは別に H ～ L 区それぞれで 1 番から通し番号を付けて登録を行った。

遺構記号については例言に示した通りであるが、河川跡と自然流路跡については、規模の差により区別し、相対的に大規模のものを河川跡、小規模のものを自然流路跡とした。

〔**遺物の取り上げ**〕遺構出土遺物については出土層、遺構外出土遺物については出土位置・層で取り上げた。まとまって出土したものについては、その後の整理作業を円滑に行うため、遺物取上番号を設定している

〔**記録作成**〕平面図作成にはトータルステーション及び電子平板システム（「遺構くん」cubic 社）を使用した。ただし、一部の遺構や土器の出土状況、柱穴の礎板の平面図については縮尺 1/10 の手実測による作成を行った。遺構の断面図については、一部の河川跡で縮尺 1/50 で作成したが、それ以外は縮尺 1/20 で作成した。遺構確認のみで截ち割り調査を行わなかった遺構については、検出面の堆積土の土層注記を行った。写真記録は 6 × 7cm カメラと一眼レフデジタルカメラ（NIKON D90）を使用した。

（2）整理の方法

〔**遺物**〕洗浄、注記、接合を行い、調書作成、抽出を行った。抽出した遺物には遺物の種類を問わず登録番号（R1 ～）を通し番号で設定した。その結果、H 区では R1 ～ 672、I 区では R701 ～ 926、L 区では R951 ～ 978 を登録している。作成した実測図については、スキャナーで取り込み、その画像を Adobe 社の Illustrator でトレースした。拓本図については、スキャナーで取り込み、その画像を Adobe 社の Photoshop で色調や濃度を加工した。報告書に掲載する遺物の写真撮影・写真加工作業は業者に委託して行った。遺物図版、遺物写真図版ともに Illustrator で版組した。

〔**遺構**〕平面図と断面図の照合作業、平面図の修正、断面図の修正とトレース、断面図の土層注記の入力、図版・表作成、各遺構の事実記載執筆の手順で行った。平面図については、「遺構くん」で測量した図を Adobe 社の Illustrator に変換して作成し、断面図については実測図をスキャナーで取り込み同じく Illustrator でトレースを行った。遺構図版、遺構写真図版ともに Illustrator で版組した。

（3）報告書の記載について

〔**記述する遺構・遺物の基準**〕調査では、多くの調査区を設定し、そこから多数の遺構・遺物が検出されたが、本書ではこれらをすべて同じ精度で報告せずその情報量に応じて報告の仕方を変えている。

遺構では、出土遺物や火山灰により時期がわかるもの、特徴的な遺物が出土した遺構、性格が推定できる

第 3 表　遺構番号一覧

No.	遺構種別		位置	調査年度	時期	記載	No.	遺構種別		位置	調査年度	時期	記載
1	SD	河川跡	H-1 区	2010	古代（A 期）	本文	81	SK	土坑	H-25 区	2011		属性表
2	SD	河川跡	H-1・11 区	2010・2011	古代	本文	82	SD	道路側溝	H-25 区	2011	古代	本文
3	SD	河川跡	H-1 区	2010		属性表	83	SK	土坑	H-25 区	2011	古代	本文
4	SD	河川跡	H-10 ～ 12・14・15・19・23 ～ 25 区、I-4 区	2011・2012	近世	本文	84	SD	溝跡	H-25 区	2011	中世	本文
5	SD	河川跡	H-11 区	2011	中近世	属性表	85 欠番						
6	SD	河川跡	H-11 区	2011	中近世	属性表	86	SD	溝跡	H-25 区	2011		属性表
7	SD	河川跡	H-11 区	2011	中近世	属性表	87	SE	井戸跡	H-25 区	2011	中世	本文
8	SD	河川跡	H-11 区	2011	中近世	属性表	88	SE	井戸跡	H-25 区	2011	中世	本文
9	SD	河川跡	H-11・12・14・15 区	2011	古代以降	本文	89	SK	土坑	H-25 区	2011	中世	本文
10	SD	河川跡	H-11 区	2011	古代	属性表	90	SK	土坑	H-25 区	2011	中世	本文
11	SD	河川跡	H-12 区	2011	古代	属性表	91	SK	土坑	H-25 区	2011		属性表
12	SD	河川跡	H-14・15・23 ～ 25 区	2011	古代	本文	92	SD	溝跡	H-25 区	2011		属性表
13	SD	溝跡	H-14 区	2011	古代以降	本文	93	SK	土坑	H-25 区	2011	中世以降	属性表
14	SD	溝跡	H-14 区	2011		属性表	94 欠番						
15	SD	溝跡	H-14 区	2011		属性表	95	SK	土坑	H-25 区	2011		属性表
16	SD	溝跡	H-14 区	2011		属性表	96	SE	井戸跡	H-25 区	2011	中世か	本文
17	SD	溝跡	H-14 区	2011		属性表	97	SE	井戸跡	H-25 区	2011	中世	本文
18	SD	溝跡	H-14 区	2011		属性表	98	SX	自然流路跡？	H-25 区	2011	古代	属性表
19	SD	溝跡	H-14 区	2011	古代以降	本文	99	SF	小溝状遺構群	H-25 区	2011	古代	本文
20	SK	土坑	H-14 区	2011		属性表	100	SF	小溝状遺構群	H-25 区	2011	古代	本文
21	SK	土坑	H-14 区	2011		属性表	101	SF	小溝状遺構群	H-25 区	2011	古代	本文
22	SK	土坑	H-14 区	2011		属性表	102	SF	小溝状遺構群	H-25 区	2011	古代	本文
23	SK	土坑	H-16 区	2011		属性表	103	SD	溝跡	H-25 区	2011	古代以降	属性表
24	SD	自然流路跡	H-17 区	2011	古代	属性表	104	SX	自然流路跡？	H-25 区	2011	古代か	属性表
25	SD	溝跡	H-17 区	2011		属性表	105	SF	小溝状遺構群	H-25 区	2011	古代	本文
26	SD	溝跡	H-17 区	2011		属性表	106	SF	小溝状遺構群	H-25 区	2011	古代	本文
27	SD	自然流路跡	H-18 区	2011	古代	属性表	107 ～ 109 欠番						
28	SD	溝跡	H-15 区	2011		属性表	110	SD	河川跡	H-19・24・25 区	2011	古代（A 期）	本文
29	SD	溝跡	H-15 区	2011		属性表	111	SD	溝跡	H-25 区	2011	中近世	本文
30	SD	溝跡	H-15 区	2011		属性表	112	SD	溝跡	H-25 区	2011	古代か	属性表
31	SD	溝跡	H-15 区	2011		属性表	113	SD	溝跡	H-25 区	2011	古代か	属性表
32	SD	溝跡	H-15 区	2011		属性表	114	SD	溝跡	H-25 区	2011	中近世	本文
33	SD	溝跡	H-15 区	2011		属性表	115	SD	自然流路跡	H-25 区	2011	古代	属性表
34	SD	自然流路跡	H-15 区	2011		属性表	116	SD	溝跡	H-25 区	2011	古代	本文
35	SD	自然流路跡	H-15 区	2011		属性表	117	SD	自然流路跡	H-25 区	2011	古代	属性表
36	SD	溝跡	H-15 区	2011		属性表	118	SD	自然流路跡	H-25 区	2011	古代	本文
37	SD	自然流路跡	H-15 区	2011	古代	属性表	119	SD	自然流路跡	H-25 区	2011	古代	属性表
38	SD	自然流路跡	H-15 区	2011	古代	属性表	120	SD	自然流路跡	H-25 区	2011	古代	本文
39	SD	溝跡	H-19 区	2011		属性表	121	SD	自然流路跡	H-25 区	2011	古代	属性表
40	SD	溝跡	H-19 ～ 21 区	2011		属性表	122	SB	掘立柱建物跡	H-25 区	2011	中近世	本文
41 欠番							123	SK	土坑	H-25 区	2011	古代	本文
42	SD	自然流路跡	H-19 区	2011	古代	属性表	124	SK	土坑	H-25 区	2011		属性表
43	SD	河川跡	H-19 区	2011	古代	本文	125	SK	土坑	H-25 区	2011		属性表
44	SK	土坑	H-21 区	2011	中近世	本文	126	SD	溝跡	H-25 区	2011		属性表
45	SK	土坑	H-21 区	2011		属性表	127	SD	溝跡	H-25 区	2011		属性表
46	SD	自然流路跡	H-21・22 区	2011	古代	本文	128	SD	自然流路跡	H-25 区	2011	古代	属性表
47	SD	溝跡	H-22 区	2011	古代以降	属性表	129	SD	自然流路跡	H-25 区	2011	古代	本文
48	SD	河川跡	H-15 区	2011	中近世	本文	130	SD	自然流路跡	H-25 区	2011	古代	本文
49	SD	河川跡	H-15 区	2011	中近世	属性表	131	SD	自然流路跡	H-25 区	2011	古代	本文
50	SD	河川跡	H-15 区	2011	中近世	属性表	132	SK	土坑	H-25 区	2011	古代か	属性表
51	SB	掘立柱建物跡	H-22 区	2011	中近世	本文	133	SX	自然堆積層	H-25 区	2011	近世以降	属性表
52	SB	掘立柱建物跡	H-22 区	2011	中近世	本文	134	SK	土坑	H-25 区	2011		属性表
53	SK	土坑	H-24 区	2011	古代以降	本文	135	SE	井戸跡	H-25 区	2011		本文
54	SK	土坑	H-24 区	2011		属性表	136	SE	井戸跡	H-25 区	2011	古代以降	本文
55	SD	溝跡	H-24 区	2011		属性表	137	SD	溝跡	H-25 区	2011		属性表
56	SD	溝跡	H-24 区	2011		属性表	138	SD	溝跡	H-25 区	2011	中近世	本文
57 欠番							139	SD	溝跡	H-25・30 区	2011	近世	本文
58	SD	溝跡	H-24 区	2011		属性表	140	SD	自然流路跡	H-25 区	2011	古代	属性表
59	SD	溝跡	H-24 区	2011		属性表	141	SD	自然流路跡	H-25 区	2011	古代	本文
60	SK	土坑	H-24 区	2011		属性表	142	SD	自然流路跡	H-25 区	2011	古代	本文
61	SD	溝跡	H-24 区	2011		属性表	143	SK	土坑	H-25 区	2011		属性表
62	SD	溝跡	H-24 区	2011	古代以降	属性表	144	SX	自然堆積層	H-25 区	2011	近世以降	属性表
63	SD	溝跡	H-24 区	2011	古代以降	本文	145	SD	河川跡	H-25 区	2011	近世以降	属性表
64	SD	溝跡	H-24 区	2011	古代以降	本文	146	SD	溝跡	H-25 区	2011	近世以降	属性表
65	SE	井戸跡	H-24 区	2011	古代以降	本文	147	SK	土坑	H-25 区	2011		属性表
66	SD	溝跡	H-24 区	2011		属性表	148 欠番						
67	SE	井戸跡	H-24 区	2011	古代以降	本文	149	SD	溝跡	H-25 区	2011		属性表
68	SE	井戸跡	H-24 区	2011	古代以降	本文	150	SD	溝跡	H-25 区	2011		属性表
69	SD	溝跡	H-24 区	2011	古代以降	本文	151	SK	土坑	H-25 区	2011		属性表
70	SD	溝跡	H-24 区	2011	古代以降	属性表	152	SD	溝跡	H-25 区	2011		属性表
71	SD	溝跡	H-24 区	2011		属性表	153	SK	土坑	H-25 区	2011		属性表
72	SK	土坑	H-24 区	2011		属性表	154	SK	土坑	H-25 区	2011	古代以降	本文
73	SD	溝跡	H-24 区	2011	古墳	本文	155	SF	小溝状遺構群	H-25 区	2011	古代以降	本文
74	SD	溝跡	H-25 区	2011	古代以降	本文	156	SF	小溝状遺構群	H-25 区	2011	古代	本文
75	SD	溝跡	H-25 区	2011		属性表	157	SF	小溝状遺構群	H-25 区	2011		本文
76	SD	道路側溝	H-25 区	2011	古代	本文	158・159 欠番						
77	SK	土坑	H-25 区	2011		属性表	160	SD	溝跡	H-25 区	2011	古代以降	属性表
78	SK	土坑	H-25 区	2011		属性表	161	SD	溝跡	H-25 区	2011	不明	属性表
79	SK	土坑	H-25 区	2011		属性表	162	SD	溝跡	H-25 区	2011		属性表
80	SK	土坑	H-25 区	2011		属性表	163	SB	掘立柱建物跡	H-25 区	2011	古代	本文

No.	遺構種別		位置	調査年度	時期	記載
164	SD	溝跡	H-27 区	2011	不明	本文
165	SD	自然流路跡	H-27 区	2011	古代	本文
166	SF	小溝状遺構群	H-27 区	2011		属性表
167	SF	小溝状遺構群	H-27 区	2011		属性表
168	SD	溝跡	H-27 区	2011		属性表
169	SD	溝跡	H-27 区	2011		属性表
170	SK	土坑	H-27 区	2011		属性表
171	SD	溝跡	H-27 区	2011		属性表
172	SD	溝跡	H-27 区	2011		属性表
173	SD	溝跡	H-27 区	2011		属性表
174	SF	小溝状遺構群	H-27 区	2011		属性表
175	SD	溝跡	H-27 区	2011		属性表
176	SD	溝跡	H-27 区	2011		属性表
177	SD	溝跡	H-27 区	2011	不明	本文
178	SD	溝跡	H-27 区	2011		属性表
179	SD	溝跡	H-27 区	2011		属性表
180	SD	溝跡	H-27 区	2011	不明	本文
181	SD	溝跡	H-27 区	2011		属性表
182	SX	性格不明遺構	H-27 区	2011		属性表
183	SX	竪穴状遺構	H-26 区	2011	不明	本文
184	SK	土坑	H-26 区	2011		属性表
185	SD	溝跡	H-26 区	2011		属性表
186	SD	溝跡	H-26 区	2011		属性表
187	SX	竪穴状遺構	H-26 区	2011	不明	本文
188	SK	土坑	H-26 区	2011		属性表
189	SF	小溝状遺構群	H-26 区	2011		属性表
190	SD	溝跡	H-26 区	2011		属性表
191	SD	溝跡	H-26 区	2011		属性表
192	SD	溝跡	H-26 区	2011		属性表
193	SD	溝跡	H-26 区	2011		属性表
194	SX	性格不明遺構	H-26 区	2011	古墳	本文
195	SX	性格不明遺構	H-26 区	2011		属性表
196	SI	竪穴建物跡	H-26 区	2011	古代	本文
197	SD	溝跡	H-26 区	2011	不明	属性表
198	SX	性格不明遺構	H-26 区	2011		属性表
199	SX	性格不明遺構	H-26 区	2011		属性表
200	SX	道路跡	H-25 区、I-16・18・19 区	2011・2012	古代	本文
201	SB	掘立柱建物跡	H-26 区	2011	古代以降	本文
202	SK	土坑	H-26 区	2011		属性表
203	SD	自然流路跡	H-26 区	2011		属性表
204	SD	自然流路跡	H-26 区	2011	不明	本文
205	SD	溝跡	H-26 区	2011		属性表
206	SD	自然流路跡	H-26 区	2011	不明	本文
207	SX	竪穴状遺構	H-26 区	2011	不明	本文
208	SD	自然流路跡	H-26 区	2011		属性表
209	SD	自然流路跡	H-26 区	2011		属性表
210	SD	自然流路跡	H-26 区	2011		属性表
211	SD	自然流路跡	H-26 区	2011		属性表
212	SD	溝跡	H-26 区	2011		属性表
213	SD	溝跡	H-14 区	2011		属性表
214 欠番						
215	SK	土坑	H-14 区	2011		属性表
216	SD	溝跡	H-25 区	2011		属性表
217 ～ 219 欠番						
220	SD	溝跡	H-28 区	2010	不明	本文
221	SK	土坑	H-29 区	2010	不明	本文
222	SD	溝跡	H-29 区	2010		属性表
223	SD	溝跡	H-30 区	2010		属性表
224	SK	土坑	H-30 区	2010		属性表
225	SX	性格不明遺構	H-30 区	2010		属性表
226	SD	溝跡	H-30 区	2010		属性表
227	SD	溝跡	H-30 区	2010		属性表
228	SK	土坑	H-30 区	2010	古墳	本文
229	SD	溝跡	H-25 区	2011	古代か	属性表
230	SD	溝跡	H-25 区	2011		属性表
231	SD	溝跡	H-25 区	2011		属性表
232 欠番						
233	SK	土坑	H-30 区	2010		属性表
234	SK	土坑	H-30 区	2010		属性表
235 ～ 249 は未登録						
250	SD	河川跡	I-2 区	2011	古代以降	属性表
251	SD	溝跡	I-4 区	2011		属性表
252	SD	河川跡	I-4・5 区	2011	古代以降	本文
253	SD	河川跡	I-1・2・4 区	2011	古代	本文
254	SD	溝跡	I-5 区	2011		属性表
255	SD	溝跡	I-5 区	2011		属性表
256	SD	河川跡	I-1 区	2011	古代か	属性表
257	SD	河川跡	I-1 区	2011	古墳	本文
258	SD	溝跡	I-1 区	2011		属性表
259	SK	土坑	I-4 区	2011		属性表
260	SK	土坑	I-5 区	2011		属性表
261 欠番						

No.	遺構種別		位置	調査年度	時期	記載
262	SD	溝跡	I-4 区	2011	古代以降	属性表
263	SD	河川跡	I-2 区	2011	古代以降	属性表
264	SD	溝跡	I-6 区	2012		属性表
265	SD	溝跡	I-6 区	2012		属性表
266 ～ 268 欠番						
269	SD	溝跡	I-6 区	2012		属性表
270	SD	溝跡	I-6 区	2012		属性表
271	SD	溝跡	I-6 区	2012		属性表
272	SD	道路側溝	I-6 区	2012	古代	本文
273	SD	溝跡	I-6 区	2012		属性表
274	SF	小溝状遺構群	I-6 区	2012		本文
275 欠番						
276	SB	掘立柱建物跡	I-6 区	2012	中近世	本文
277	SD	道路側溝	I-6 区	2012	古代	本文
278	SD	溝跡	I-6 区	2012		属性表
279	SD	溝跡	I-6 区	2012		属性表
280	SK	土坑	I-6 区	2012	古代	本文
281	SD	溝跡	I-7 区	2012		属性表
282	SD	溝跡	I-7 区	2012		属性表
283	SI	竪穴建物跡	I-7 区	2012	古代	本文
284	SK	土坑	I-7 区	2012		属性表
285	SK	土坑	I-7 区	2012		本文
286 欠番						
287	SD	自然流路跡	I-7 区	2012		属性表
288	SI	竪穴建物跡	I-7 区	2012	古代	本文
289	SK	土坑	I-7 区	2012		属性表
290	SA	柱列跡	I-7 区	2012		本文
291	SA	柱列跡	I-7 区	2012		本文
292	SD	溝跡	I-7 区	2012		属性表
293	SX	自然堆積層	I-8 区	2012		属性表
294	SI	竪穴建物跡	I-8 区	2012	古代	本文
295	SI	竪穴建物跡	I-8 区	2012	古代	本文
296	SB	掘立柱建物跡	I-8 区	2012	古代	本文
297	SD	溝跡	I-8 区	2012		属性表
298	SK	土坑	I-8 区	2012		属性表
299	SD	溝跡	I-8 区	2012		属性表
300	SD	溝跡	I-8 区	2012		属性表
301	SD	溝跡	I-8 区	2012		属性表
302	SD	溝跡	I-8 区	2012		属性表
303	SD	溝跡	I-8 区	2012		属性表
304	SD	溝跡	I-8 区	2012		属性表
305	SK	土坑	I-8 区	2012		属性表
306	SB	掘立柱建物跡	I-8 区	2012	中近世	本文
307	SD	溝跡	I-8 区	2012	古代か	属性表
308	SK	土坑	I-7 区	2012		属性表
309	SB	掘立柱建物跡	I-8 区	2012	中近世	本文
310	SD	溝跡	I-9 区	2012	古代以降	本文
311	SB	掘立柱建物跡	I-9 区	2012	古代	本文
312	SB	掘立柱建物跡	I-9 区	2012	古代	本文
313・314 欠番						
315	SB	掘立柱建物跡	I-9 区	2012	古代	本文
316	SB	掘立柱建物跡	I-9 区	2012	古代	本文
317 欠番						
318	SB	掘立柱建物跡	I-9 区	2012	古代	本文
319	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
320	SB	掘立柱建物跡	I-9 区	2012	古代	本文
321	SB	掘立柱建物跡	I-9 区	2012	古代	本文
322	SB	掘立柱建物跡	I-9 区	2012	古代	本文
323	SB	掘立柱建物跡	I-9 区	2012	古代	本文
324 欠番						
325	SA	柱列跡	I-9 区	2012		本文
326 欠番						
327	SB	掘立柱建物跡	I-9 区	2012		本文
328・329 欠番						
330	SD	河川跡	I-12 区	2012		属性表
331	SD	溝跡	I-12 区	2012		属性表
332	SD	河川跡	I-12 区	2012		属性表
333	SD	河川跡	I-12・17 区	2012		属性表
334	SD	河川跡	I-12・17 区	2012	古代以降	属性表
335	SD	溝跡	I-13 区	2012		属性表
336	SA	柱列跡	I-13 区	2012		本文
337	SD	自然流路跡	I-13 区	2012		属性表
338	SA	柱列跡	I-13 区	2012		本文
339	SI	竪穴建物跡	I-10 区	2012	古代	本文
340 欠番						
341	SI	竪穴建物跡	I-10 区	2012	古代	本文
342	SD	溝跡	I-10 区	2012	古代以降	本文
343	SK	土坑	I-10 区	2012	古代以降	本文
344	SE	井戸跡	I-10 区	2012	古代以降	本文
345 欠番						
346	SK	土坑	I-10 区	2012		属性表
347	SA	柱列跡	I-10 区	2012		本文

No.	遺構種別		位置	調査年度	時期	記載
348	SB	掘立柱建物跡	I-10 区	2012	中近世	本文
349	SI	竪穴建物跡	I-10 区	2012	古代	本文
350	SD	溝跡	I-10 区	2012	古代	本文
351	SD	溝跡	I-10 区	2012	古代以降	本文
352	SD	河川跡	I-10 区	2012		属性表
353	SD	溝跡	I-10 区	2012		属性表
354	SD	溝跡	I-10 区	2012		属性表
355	SK	土坑	I-10 区	2012		属性表
356	SD	溝跡	I-10 区	2012		属性表
357	SK	土坑	I-10 区	2012		属性表
358	SD	自然流路跡	I-10 区	2012		属性表
359	SD	溝跡	I-10 区	2012	古代か	属性表
360	SK	土坑	I-10 区	2012	古代か	属性表
361	SD	溝跡	I-10 区	2012	古代か	属性表
362	SD	溝跡	I-10 区	2012		属性表
363	SD	溝跡	I-10 区	2012		属性表
364	SD	溝跡	I-10 区	2012		属性表
365	SD	自然流路跡	I-13 区	2012	古代	本文
366	SD	溝跡	I-13 区	2012	古代	本文
367	SI	竪穴建物跡	I-13 区	2012	古代	本文
368	SD	溝跡	I-13 区	2012		属性表
369 ～ 371 欠番						
372	SD	溝跡	I-11 区	2012	古代	本文
373	SD	河川跡	I-11 区	2012	古代以降	本文
374	SD	河川跡	I-11 区	2012		属性表
375	SD	溝跡	I-11 区	2012		属性表
376	SK	土坑	I-10 区	2012		属性表
377 欠番						
378	SD	溝跡	I-9 区	2012	古代以降	本文
379	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
380	SD	溝跡	I-9・14 区	2012	古代	本文
381	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
382	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
383	SD	溝跡	I-9 区	2012	古代以降	本文
384	SE	井戸跡	I-9 区	2012	古代以降	本文
385	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
386	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
387	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
388 欠番						
389	SD	自然流路跡	I-9 区	2012		属性表
390	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
391 欠番						
392	SI	竪穴建物跡	I-9 区	2012	古代	本文
393	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
394	SI	竪穴建物跡	I-9 区	2012	古代	本文
395	SI	竪穴建物跡	I-9 区	2012	古代	本文
396	SI	竪穴建物跡	I-9 区	2012	古代	本文
397	SI	竪穴建物跡	I-9 区	2012	古代	本文
398	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
399	SI	竪穴建物跡	I-9 区	2012	古代	本文
400	SX	道路跡	I-6 区	2012	古代	本文
401	SI	竪穴建物跡	I-9 区	2012	古代	本文
402	SI	竪穴建物跡	I-9 区	2012	古代	本文
403	SD	溝跡	I-9 区	2012	古代以降	本文
404	SA	材木塀跡	I-9 区	2012	古代	本文
405 欠番						
406	SD	溝跡	I-14 区	2012	古代か	本文
407	SX	湿地	I-14 区	2012	古代	本文
408	SX	湿地	I-14・15 区	2012	古代	本文
409	SD	溝跡	I-14 区	2012	古代以降	属性表
410	SX	土器埋設遺構	I-14 区	2012	古代	本文
411	SD	溝跡	I-14 区	2012	古代以降	属性表
412	SF	小溝状遺構群	I-14 区	2012	古代	本文
413	SF	小溝状遺構群	I-14 区	2012	古代	本文
414	SD	溝跡	I-14 区	2012		属性表
415	SD	溝跡	I-14 区	2012		属性表
416	SD	溝跡	I-14 区	2012		属性表
417	SF	小溝状遺構群	I-14 区	2012		本文
418	SD	溝跡	I-14 区	2012		属性表
419	SK	土坑	I-14 区	2012	不明	本文
420	SD	溝跡	I-14 区	2012	古代以降	属性表
421	SK	土坑	I-9 区	2012		本文
422	SK	土坑	I-9 区	2012		本文
423	SK	土坑	I-9 区	2012		本文
424	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
425	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
426	SK	土坑	I-9 区	2012		本文
427	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
428	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
429	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
430	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
431	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表

No.	遺構種別		位置	調査年度	時期	記載
432	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
433	SK	土坑	I-9 区	2012		本文
434	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
435	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
436	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
437	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
438	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
439 欠番						
440	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
441	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
442	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
443	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
444	SK	土坑	I-9 区	2012		本文
445	SK	土坑	I-9 区	2012		本文
446・447 欠番						
448	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
449 ～ 451 欠番						
452	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
453	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
454	SK	土坑	I-9 区	2012		属性表
455	SI	竪穴建物跡	I-9 区	2012	古代	本文
456	SD	溝跡	I-9 区	2012		属性表
457 ～ 459 欠番						
460	SD	道路側溝	I-16・18・19 区	2012	古代	本文
461	SD	道路側溝	I-16・18・19 区	2012	古代	本文
462	SD	溝跡	I-16 区	2012		属性表
463	SD	溝跡	I-16 区	2012		属性表
464	SK	土坑	I-16 区	2012		属性表
465	SD	河川跡	I-16 区	2012	近代	属性表
466	SD	溝跡	I-16 区	2012		属性表
467	SD	溝跡	I-16 区	2012		属性表
468	SA	柱列跡	I-16 区	2012		本文
469	SB	掘立柱建物跡	I-16 区	2012	古代	本文
470	SB	掘立柱建物跡	I-16 区	2012	古代	本文
471	SB	掘立柱建物跡	I-16 区	2012	中近世	本文
472	SB	掘立柱建物跡	I-16 区	2012	古代	本文
473	SK	土坑	I-16 区	2012	不明	本文
474	SD	自然流路跡	I-16 区	2012		属性表
475	SD	溝跡	I-16 区	2012		属性表
476	SD	溝跡	I-16 区	2012		属性表
477	SD	河川跡	I-12・17 区	2012	古代以降	属性表
478	SX	竪穴状遺構	I-17 区	2012	古代	本文
479	SD	溝跡	I-16 区	2012	古代以降	属性表
480	SD	溝跡	I-16 区	2012		属性表
481	SB	掘立柱建物跡	I-16 区	2012	中近世	本文
482	SD	溝跡	I-18・19 区	2012	古代か	属性表
483	SD	溝跡	I-18・19 区	2012		属性表
484	SD	溝跡	I-18・19 区	2012		属性表
485	SD	溝跡	I-18・19 区	2012		属性表
486	SD	溝跡	I-18・19 区	2012		属性表
487	SD	溝跡	I-18・19 区	2012		属性表
488	SD	溝跡	I-18・19 区	2012		属性表
489	SD	溝跡	I-18・19 区	2012		属性表
490	SD	自然流路跡？	I-18・19 区	2012		属性表
491	SD	自然流路跡	I-15 区	2012	古代	本文
492	SD	溝跡	I-15 区	2012	古代か	属性表
493	SD	溝跡	I-15 区	2012	古代か	属性表
494	SF	小溝状遺構群	I-15 区	2012	古代	本文
495	SF	小溝状遺構群	I-15 区	2012	古代	本文
496	SD	溝跡	I-15 区	2012	古代か	属性表
497	SD	溝跡	I-15 区	2012	古代か	属性表
498	SD	溝跡	I-15 区	2012		属性表
499	SD	溝跡	I-15 区	2012		属性表
500 欠番						
501	SD	溝跡	I-15 区	2012		属性表
502	SF	小溝状遺構群	I-15 区	2012		本文
503	SD	溝跡	I-18・19 区	2012		属性表
504	SD	溝跡	I-18・19 区	2012		属性表
505	SD	溝跡	I-18・19 区	2012		属性表
506	SD	溝跡	I-18・19 区	2012		属性表
507	SD	溝跡	I-18・19 区	2012		属性表
508	SD	溝跡	I-18・19 区	2012		属性表
509	SD	溝跡	I-18・19 区	2012		属性表
510	SD	溝跡	I-14 区	2012	古代以降	属性表
511	SD	自然流路跡	I-14 区	2012	古代	属性表
512 ～ 600 は未登録						
601	SD	河川跡	L-1 区	2012	中近世	本文
602	SD	河川跡	L-1 区	2012		属性表
603	SD	溝跡	L-1 区	2012		属性表
604	SD	溝跡	L-1 区	2012		属性表
605	SD	河川跡	L-1・2 区	2012		属性表
606	SD	溝跡	L-2 区	2012		属性表

No.	遺構種別		位置	調査年度	時期	記載
607・608 欠番						
609	SD	溝跡	L-2 区	2012		属性表
610	SD	溝跡	L-2 区	2012		属性表
611	SD	溝跡	L-3 区	2012		属性表
612	SD	溝跡	L-3・4 区	2012		属性表
613	SD	溝跡	L-1 区	2012		属性表
614	SF	小溝状遺構群	L-2 区	2012		本文
615	SD	溝跡	L-2 区	2012		属性表
616	SD	溝跡	L-2 区	2012		属性表
617	SD	溝跡	L-2 区	2012		属性表
618	SD	溝跡	L-2 区	2012		属性表
619	SD	自然流路跡	L-2 区	2012		属性表
620	SD	溝跡	L-2 区	2012	中世	本文
621	SD	溝跡	L-2 区	2012		属性表
622	SD	溝跡	L-2 区	2012		属性表
623	SK	土坑	L-2 区	2012		属性表
624	SK	土坑	L-4 区	2012		属性表
625	SF	小溝状遺構群	L-4 区	2012		本文
626	SD	溝跡	L-4 区	2012		属性表
627	SD	溝跡	L-4 区	2012		属性表
628	SF	小溝状遺構群	L-5 区	2012		本文
629	SF	小溝状遺構群	L-5 区	2012		本文
630	SD	溝跡	L-5 区	2012		属性表
631	SX	自然堆積層	L-5 区	2012		属性表
632	SD	溝跡	L-5 区	2012		属性表
633	SD	河川跡	L- 1 区	2012	古代	本文
634	SD	河川跡	L- 1 区	2012	古代	本文
635	SK	土坑	L-10 区	2012	中世以前	属性表
636	SD	溝跡	L-10 区	2012	中世か	本文
637	SD	溝跡	L-6 区	2012		属性表
638	SD	溝跡	L-6 区	2012		属性表
639	SD	溝跡	L-6 区	2012		属性表
640	SD	溝跡	L-6 区	2012		属性表
641	SD	溝跡	L-6 区	2012		属性表
642	SD	溝跡	L-6 区	2012		属性表
643	SF	小溝状遺構群	L-6 区	2012		属性表
644	SK	土坑	L-6 区	2012	中世か	本文
645	SD	河川跡	L-6 区	2012	古代	本文
646	SD	溝跡	L-6 区	2012	中世	本文
647	SD	溝跡	L-6 区	2012		属性表
648	SD	溝跡	L-6 区	2012		属性表
649	SD	溝跡	L-6 区	2012		属性表
650	SE	井戸跡	L-6 区	2012		本文
651	SD	溝跡	L-6 区	2012		属性表
652	SD	溝跡	L-6 区	2012	中世	本文
653	SD	溝跡	L-6 区	2012		属性表
654	SD	溝跡	L-6 区	2012	中世	本文
655	SA	柱列跡	L-6 区	2012	中世か	本文
656	SD	溝跡	L-7 区	2012		属性表
657	SF	小溝状遺構群	L-7 区	2012		属性表
658	SD	溝跡	L-7 区	2012		属性表
659	SD	溝跡	L-7 区	2012		属性表
660	SF	小溝状遺構群	L-7 区	2012		属性表
661	SX	自然堆積層	L-8 区	2012		属性表
662	SD	溝跡	L-14 区	2012		属性表
663	SD	溝跡	L-14 区	2012		属性表
664	SF	小溝状遺構群	L-15・16 区	2012・2013	古代以降	本文
665	SF	小溝状遺構群	L-15・16 区	2012・2013	古代以降	本文
666	SK	土坑	L-15 区	2012	古代以降	属性表
667	SD	溝跡	L-15 区	2012	古代以降	属性表
668	SK	土坑	L-15 区	2012	古代以降	属性表
669	SD	溝跡	L-15・16 区	2012・2013	古代	本文
670	SI	竪穴建物跡	L-15・16 区	2012・2013	古代	本文
671	SD	溝跡	L-15 区	2012		属性表
672	SK	土坑	L-15 区	2012		属性表
673	SD	溝跡	L-15 区	2012		属性表
674	SX	自然堆積層	L-15・16 区	2012・2013		属性表
675	SD	溝跡	L-15・16 区	2012・2013		属性表
676	SD	溝跡	L-15・16 区	2012・2013		属性表
677	SD	河川跡	L-15 区	2012	古代	本文
678	SD	溝跡	L-15 区	2012	古代	本文
679	SK	土坑	L-15 区	2012	古代か	属性表
680	SD	溝跡	L-15 区	2012		属性表
681	SD	溝跡	L-15 区	2012		属性表
682	SD	溝跡	L-15 区	2012		属性表
683	SD	溝跡	L-15 区	2012		属性表
684	SK	土坑	L-15 区	2012		属性表
685	SD	溝跡	L-15 区	2012		属性表
686	SD	溝跡	L-15 区	2012		属性表
687	SD	溝跡	L-15 区	2012		属性表
688	SF	小溝状遺構群	L-15 区	2012		属性表
689	SD	溝跡	L-15 区	2012		属性表
690	SD	溝跡	L-15 区	2012		属性表
691	SD	溝跡	L-15 区	2012		属性表
692	SK	土坑	L-15 区	2012		属性表
693	SD	溝跡	L-15 区	2012		属性表
694	SD	溝跡	L-15 区	2012		属性表
695	SK	土坑	L-15 区	2012		属性表
696	SD	溝跡	L-5 区	2012		属性表
697	SD	溝跡	L-5 区	2012		属性表
698	SD	自然流路跡	L-8・9 区	2012		属性表
1050	SD	溝跡	L-15・16 区	2012・2013		属性表
1051	SD	溝跡	L-16 区	2013		属性表
1052	SD	溝跡	L-15・16 区	2012・2013		属性表
1053 ～ 1056 欠番						
1057	SD	溝跡	L-17 区	2013		属性表
1058	SD	溝跡	L-17 区	2013		属性表
1059	SK	土坑	L-17 区	2013		属性表
1060	SD	溝跡	L-17 区	2013		属性表
1061	SD	溝跡	L-17 区	2013		属性表
1062	SD	溝跡	L-17 区	2013		属性表

遺構、残りがよく形状や規模の情報が信頼できる遺構について、平面図と断面図を掲載し、本文中で詳述した。それ以外の遺構については、遺構属性表により位置や規模等の属性を示し記述や断面図の掲載を省略した。

遺物では、遺構に伴うものを第一とし、遺構に伴わないものでも遺跡の性格を考えるうえで重要と判断されるもの、時期や産地など特徴的なものについては抽出し、図化した。

〔記載方法と内容〕 H・I・L 区の順に項立てを行い、細別した調査区ごとに遺構・遺物の記述を行う。なお、基本層序Ⅵ層とその出土遺物については、Ⅵ層が限定的な分布で出土遺物も僅かであったことから、各調査区の中で記述を行う。H ～ L 区では、1 つの遺構が複数の調査区で検出されたものもあるが、それらについては各調査区でそれぞれ記述した。また、団子山西遺跡の調査は平成 29 年度まで行われ、多くの情報が得られているが、今回は平成 22 ～ 24 年度と平成 25 年度の L 区の調査成果についてまとめ、それに基づいた総括を行う。

2. 調査成果

(1) H 区

H-1 ～ 30 区を設定した（第 5 図）。第 4 表は H 区の各調査区の内容をまとめたものである。

1） 地形と基本層序

①地形

H 区は遺跡の北西部分にあたり、新田柵跡の南西部と接する位置にある（第 4 図）。地形は、H-1 ～ 12 区が北側に位置する北小松遺跡から続く沼地・湿地、H-13 区が東から延びる丘陵の末端部、H-14 ～ 30 区が微高地と旧河道である。

H-1 ～ 12 区では、丘陵に近い H-4 区から H-10 区の東西方向で、北小松遺跡の縄文時代の遺物包含層である基本層序Ⅵ層上面の標高が下がる（第 6 図）。一方、直上の基本層序Ⅴ層については、その上面の標高に大きな差はなく、西端の H-10 区では 2m の厚さとなる。また、北小松遺跡に近接する H-1 区から H-8 区の南北方向では、Ⅴ・Ⅵ層ともに中央の H-10 区の標高が低く凹状となる。

遺構確認面である基本層序Ⅴ層上面の標高値から H-14 ～ 30 区の地形を概観すると、巨視的には、北東の丘陵裾から南西の田尻川に向かって標高を下げながら緩やかに傾斜する（第 6 図）。微視的には、H-14 区北東部～ 19 区北東部分がほぼ平坦で、それより南西側が南西方向に向かって標高を下げながら緩やかに傾斜し、それより東側の H-20 ～ 30 区はほぼ平坦である。その中で、H-26 区周辺は標高値がやや大きく、周囲よりも一段高い島状の地形となる。

②基本層序

北に隣接する北小松遺跡と対比可能である（宮城県教育委員会 2014a）。調査地点によって若干の相違はあるが、概ね以下のようになる。なお、遺構確認面はⅤ層上面である。

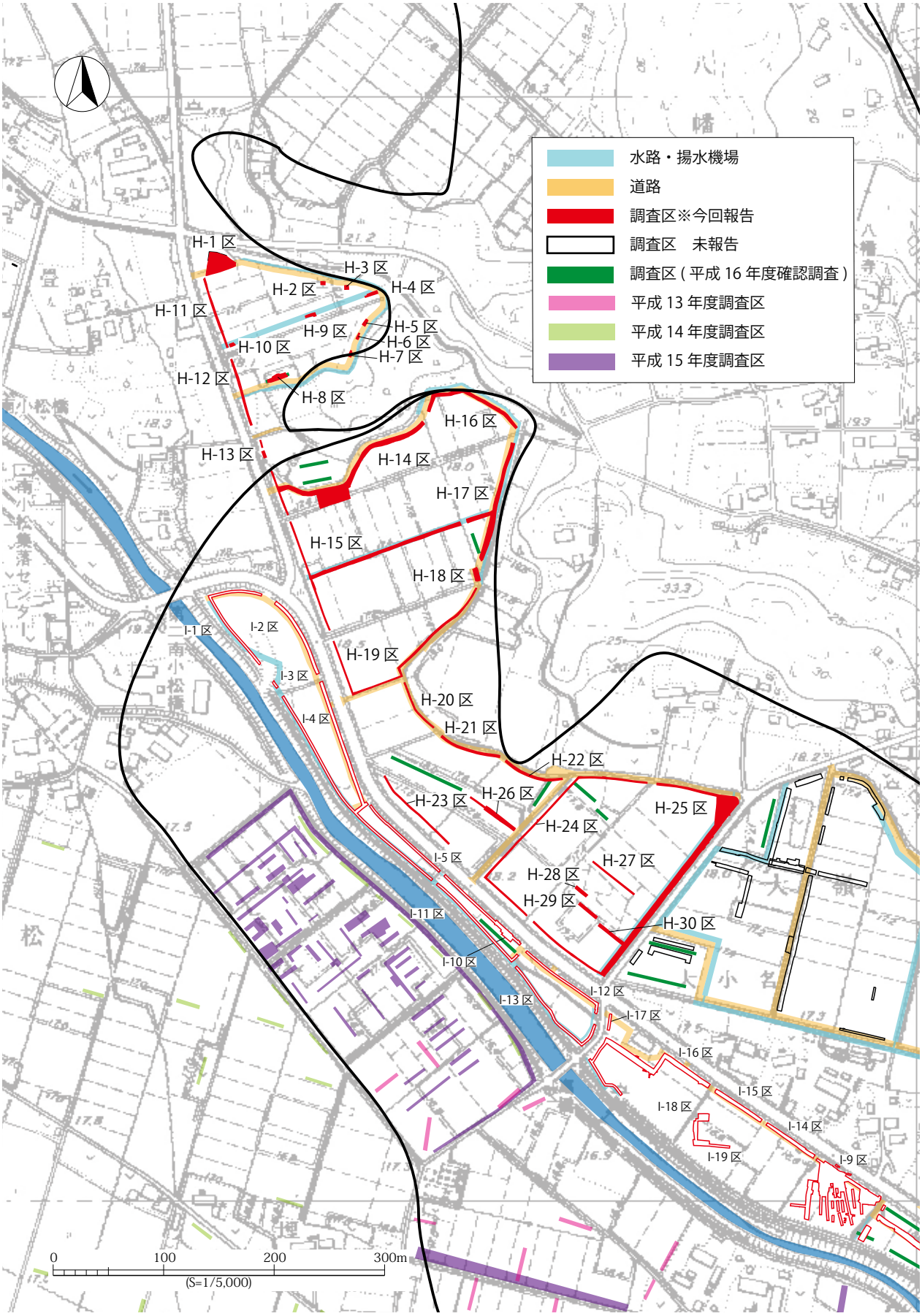
Ⅰ層：表土。北小松遺跡基本層序Ⅰ層に対応する。

Ⅱ層：色調・土性により細分した。Ⅱａ層は褐灰色（10YR4/1）粘土質シルト、灰黄褐色（10YR5/2）シルト、Ⅱｂ層は黒色（10YR2/1）粘土質シルトである。Ⅱａ層は H-11・12・14・15・23 ～ 26 区に、Ⅱｂ層は H-16・17 区でのみ認められた。Ⅱｂ層は北小松遺跡Ⅱ層に対応する。

Ⅲ層：灰白色火山灰（十和田ａ火山灰（To-a））層である。H-1・2・7・8 区では基本層序として、それ以外では遺構の堆積土中に認められた。北小松遺跡Ⅲ層に対応する。

Ⅳ層：スクモ層である。分解の進み方により色調が異なる。黒褐色（10YR3/1）粘土質シルトをⅣａ層、植物遺体を多く含む黒褐色（10YR2/3）粘土質シルトをⅣｂ層に細分した。H-1・4 ～ 11 区で認められた。Ⅳｂ層は北小松遺跡Ⅳ層に対応する。

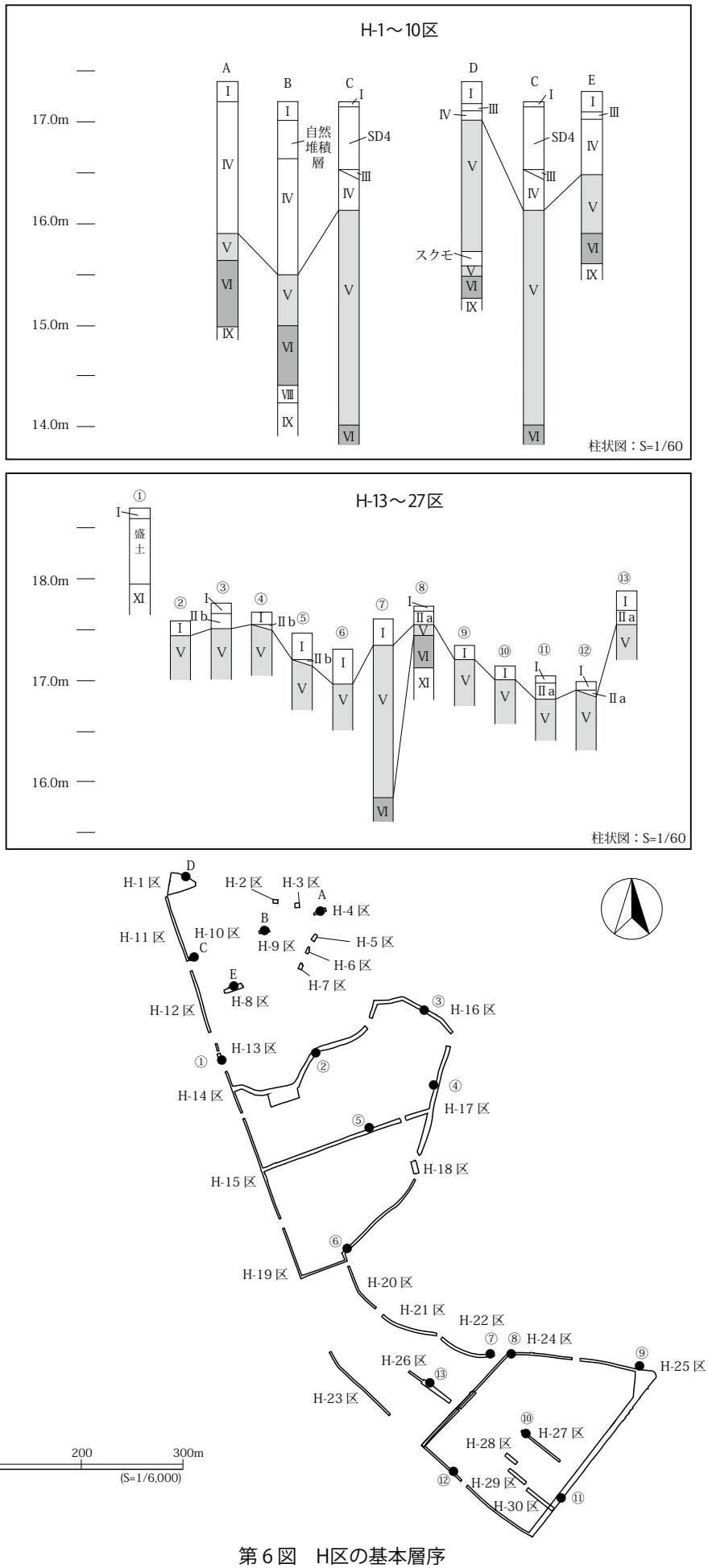
Ⅴ層：黄灰色（2.5Y5/1）粘土、灰オリーブ色（7.5Y5/2）粘土、暗灰黄色（2.5Y5/2）砂、黄褐色（2.5Y5/3）シルト、にぶい黄褐色（10YR5/3）砂質シルト、にぶい黄色（2.5Y6/3）シルト質粘土、にぶい黄橙色（10YR7/2）粘土質シルトである。全ての調査区で認められたが、地点によって相違が認められ、相対的に標高が低い H-1 ～ 17 区は粘土質、標高が高い H-18 ～ 27 区はシルト質及び砂質となる。土性は異なるが、堆積順序から北小松遺跡Ⅴ層に対応する。なお、北小松遺跡で確認されたⅤ層は洪水起源の堆積層であることが指摘されている（松本 2014）。



第 5 図　H 区　調査区の位置

第４表　Ｈ区の調査内容

調査区	調査	年度	面積（㎡）	基本層堆積状況	検出遺構	出土遺物
H-1	本発掘	H22	384.0	Ⅰ・Ⅲ～Ⅵ・Ⅶ	河川跡(SD1～3)	土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦・石器
H-2	確認（試掘 37T）	H22	17.0	Ⅰ～Ⅴ		瓦
H-3	確認（試掘 36T）	H22	19.6	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ～Ⅵ		
H-4	本発掘（試掘 4T）	H22	38.5	Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶ		
H-5	確認（試掘 3T）	H22	23.3	Ⅰ・Ⅳ～Ⅵ・Ⅶ		
H-6	確認（試掘 2T）	H22	16.0	Ⅰ・Ⅳ～Ⅵ・Ⅶ		
H-7	確認（試掘 1T）	H22	19.4	Ⅰ・Ⅲ～Ⅵ・Ⅶ		縄文土器
H-8	確認（試掘 35T）	H22	90.9	Ⅰ・Ⅲ～Ⅵ・Ⅶ		土師器
H-9	本発掘（試掘 5T）	H22	32.4	Ⅰ・Ⅳ～Ⅵ・Ⅶ		
H-10	本発掘（試掘 6T）	H22	18.0	Ⅰ・Ⅲ～Ⅵ	河川跡(SD4)	土師器・瓦
H-11	本発掘	H23	132.0	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ	河川跡(SD2・4～10)	土師器・須恵器・瓦
H-12	本発掘	H23	126.0	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ	河川跡(SD4・9・11)	土師器・須恵器・瓦
H-13	本発掘	H23	35.3	Ⅰ・Ⅶ		土師器・須恵器
H-14	本発掘・確認（試掘 7～10T）	H22・23	1152.0（本発掘 87.0、確認 1065.0）	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ	溝跡(SD13～19・213)、土坑(SK20～22・215)、河川跡(SD4・9・12)	縄文土器・土師器・須恵器・陶磁器・陶器・磁器・瓦・石器・石製品・瓦・植物遺存体
H-15	本発掘（試掘 11～16T）	H22・23	718.8	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ	溝跡(SD28～33・36)、河川跡・自然流路跡(SD4・9・12・34・35・37・38・48～50)	土師器・須恵器・磁器・陶器・瓦・石器・石製品・金属製品・動物遺存体・植物遺存体
H-16	確認（試掘 19T）	H22・23	361.5	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ	土坑(SK23)	土師器・須恵器・陶器・瓦・植物遺存体
H-17	本発掘・確認（試掘 17・18T）	H22・23	578.9（本発掘 94.0、確認 484.9）	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ	溝跡(SD25・26)、自然流路跡(SD24)	土師器・須恵器・陶器・瓦
H-18	確認	H23	63.5	Ⅰ・Ⅴ	自然流路跡(SD27)	土師器・須恵器
H-19	本発掘・確認（試掘 20・34T）	H22・23	437.7（本発掘 90.0、確認 347）	Ⅰ・Ⅴ	溝跡(SD39・40)、河川跡・自然流路跡(SD4・42・43・110)	土師器・須恵器・陶器・瓦・石製品・植物遺存体
H-20	確認	H23	96.1	Ⅰ・Ⅴ	溝跡(SD40)	土師器
H-21	確認（試掘 21T）	H22・23	159.6	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ	溝跡(SD40)、土坑(SK44・45)、自然流路跡(SD46)	土師器・須恵器・土製品
H-22	確認	H23	159.0	Ⅰ・Ⅴ・Ⅵ	掘立柱建物跡(SB51・52)、溝跡(SD47)、自然流路跡(SD46)	土師器・須恵器
H-23	本発掘	H23	174.3	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ	河川跡(SD4・12)	土師器・須恵器・陶器・瓦・鉄製品・植物遺存体
H-24	本発掘・確認（試掘 23・24T）	H22・23	485.8（本発掘 100.0、確認 385.8）	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ	溝　跡(SD55・56・58・59・61～64・66・69～71・73)、井戸跡(SE65・67・68)、土坑(SK53・54・60・72)、河川跡(SD4・12・110)	縄文土器・土師器・須恵器・陶器・瓦・石器・石核・石製品・石製模造品・剥片・鉄滓
H-25	本発掘・確認（試掘 28～30T）	H22・23	1662.7（本発掘 1392.0、確認 270.7）	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ	道路跡(SX200(SD76・82))、掘立柱建物跡(SB122・163)、溝　跡(SD74・75・84・86・92・103・111～114・116・126・127・137～139・146・149・150・152・160～162・216・229～231)、井戸跡(SE87・88・96・97・135・136)、土　坑(SK77～81・83・89～91・93・95・123～125・132・134・143・147・151・153・154)、小溝状遺構群(SF99～102・105・106・155～157)、河川跡・自然流路跡(SD4・12・110・115・117～121・128～131・140～142・145)、その他(SX98・104・133・144)	縄文土器・土師器・須恵器・青磁・白磁・中世陶器・陶器・磁器・硯・瓦・土製品・壁土・石器・石製品・漆器・木製品・竹製品・金属製品・銅銭・鉄滓・動物遺存体・植物遺存体
H-26	確認	H23	176.4	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ	掘立柱建物跡(SB201)、竪穴建物跡(SI196)、竪穴状遺構(SX183・187・207)、溝跡(SD185・186・190～193・197・205・212)、土坑(SK184・188・202)、小溝状遺構群(SF189)、自然流路跡(SD203・204・206・208～211)、その他(SX194・195・198・199)	土師器・須恵器・磁器・瓦・石器・石製品・金属製品
H-27	確認	H23	96.3	Ⅰ・Ⅴ	溝　跡(SD164・168・169・171～173・175～181)、土坑(SK170)、小溝状遺構群(SF166・167・174)、自然流路跡(SD165)、その他(SX182)	土師器・須恵器・陶器・磁器・瓦・石器・石製品
H-28	確認（試掘 27T）	H22	47.3	Ⅰ・Ⅴ	溝跡(SD220)	土師器・須恵器・磁器・瓦
H-29	確認（試掘 26T）	H22	69.4	Ⅰ・Ⅴ	溝跡(SD222)、土坑(SK221)	土師器・須恵器・磁器
H-30	確認（試掘 25T）	H22	113.0	Ⅰ・Ⅴ	溝跡(SD139・223・226・227)、土坑(SK224・228・233・234)、その他(SX225)	土師器・須恵器・円面硯


H-1～10区
17.0m
16.0m
15.0m
14.0m
自然堆積層
SD4
スクモ
柱状図：S=1/60
H-13～27区
18.0m
17.0m
16.0m
盛土
柱状図：S=1/60
H-1 区
H-2 区
H-3 区
H-4 区
H-5 区
H-6 区
H-7 区
H-8 区
H-9 区
H-10 区
H-11 区
H-12 区
H-13 区
H-14 区
H-15 区
H-16 区
H-17 区
H-18 区
H-19 区
H-20 区
H-21 区
H-22 区
H-23 区
H-24 区
H-25 区
H-26 区
H-27 区
H-28 区
H-29 区
H-30 区
0
100
200
300m
(S=1/6,000)

第６図　H区の基本層序

Ⅵ層：黒褐色（10YR2/2）シルト、黒色（10YR2/1）粘土質シルトである。縄文時代の遺物包含層である北小松遺跡Ⅵ層に対応する。Ⅵ層は、地形的に低い H-1・3・5 ～ 10 区と、丘陵裾部で地形的に高い H-22・24 区で検出した（第 6 図）。H-7・24 区で遺物が出土したが、一定量確認できたのは H-24 区のみである。

Ⅶ層：地山である。北小松遺跡Ⅶ～Ⅹ層に対応する。

2） 検出遺構と遺物

検出した遺構は、道路跡 1 条、掘立柱建物跡 5 棟、竪穴建物跡 1 棟、溝跡 87 条、井戸跡 9 基、土坑 41 基、小溝状遺構群 13 ヶ所、ピット多数、河川・自然流路跡 47 条である。出土遺物は、縄文土器、土師器、須恵器、中世陶器、陶磁器、瓦、土製品、石製品、石器、鉄製品、銅銭、漆製品、木製品、竹製品、動植物遺存体である。H 区南東部の H-25 ～ 27 区で遺構密度が高く様々な種類の遺構が認められるのに対し、H-24 区より西側では密度が低く、遺構の種類も少ない（第 4 表）。

以下、西側の調査区から順に遺構・遺物について記述する。その際、地形や遺構の分布状況から H-1・10 ～ 12 区、H-15 ～ 18 区、H-19・20 区、H-21・22 区、H-23・24 区、H-28 ～ 30 区についてはそれぞれまとめて扱うこととする。遺構が確認されなかった H-2 ～ 9・13 区と、土坑 1 基のみの検出で精査を行っていない H-16 区については記述を省略した。なお、H-7 区では、胎土に繊維を含むものや、外面に撚糸文が施されたもの（図版 43-4）を含む縄文土器が 4 点出土している。

①H-1 ・ 10～12区

H-1 区で河川跡 3 条（SD1 ～ 3）、H-10 区で河川跡 1 条（SD4）、H-11 区で河川跡 8 条（SD2・4 ～ 10）、H-12 区で河川跡 3 条（SD4・9・11）を検出した（第 7 図）。H-1 区の SD1・2 河川跡、H-11・12 区の SD4・9 河川跡のみ記述し、それ以外については第 13 表に特徴をまとめた。

【SD1河川跡】（平面図：第 7 図、断面図・遺物：第 8 図）

H-1 区に位置し、西から南へ蛇行する。SD2 河川跡と重複し、これより新しい。3 時期（A → B → C）認められた。

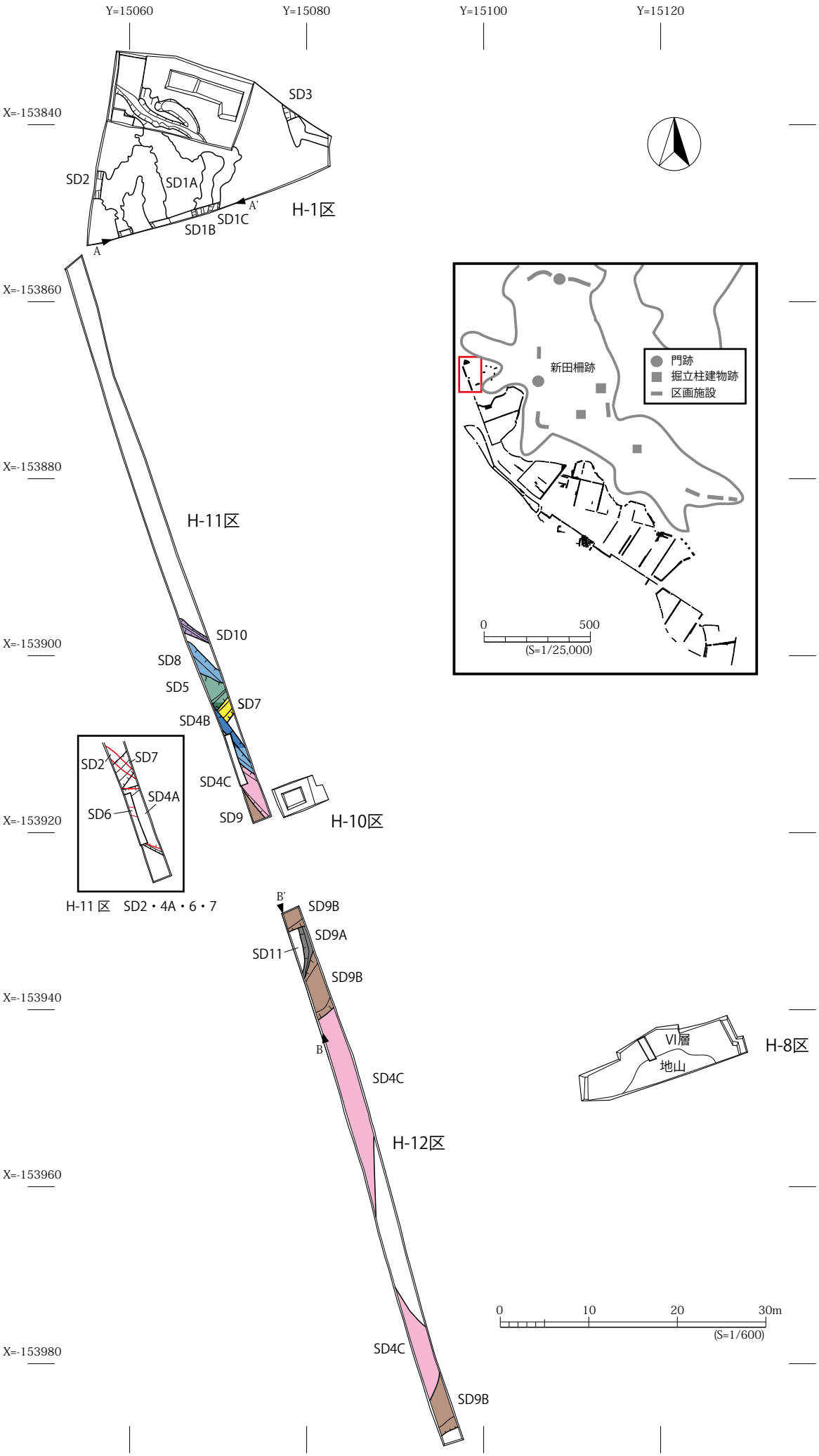
SD1A は、検出長が 20m、規模が上幅 4.2m、深さ 0.76m である。最上層である 9 層は灰白色火山灰層である。堆積土からロクロ調整の土師器坏（第 8 図 1）・鉢・甕、須恵器坏・高台坏・蓋・甕、丸瓦（2）、平瓦、石器、木製の杭が出土した。SD1B は検出長が 22m、規模が上幅 2.5m、深さ 0.6m、SD1C は検出長が 23m、規模が上幅 3.2m、深さ 0.4m である。

【SD2河川跡】（平面図：第 7 図、断面図・遺物：第 8 図）

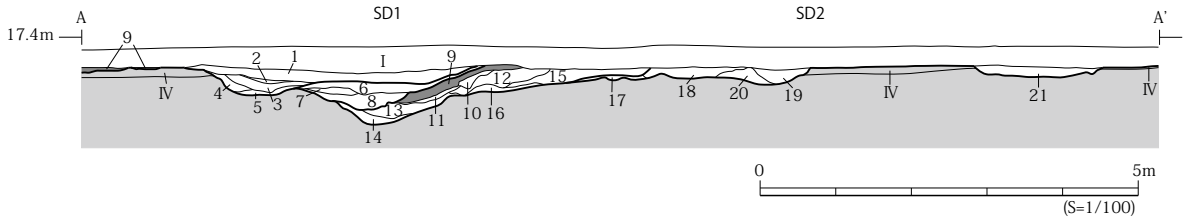
H-1 区の南西隅と H-11 区の南端に位置する。H-1 区は西から南、H-11 区は北西―南東方向である。H-1 区で SD1 河川跡、H-11 区で SD8 河川跡と重複し、これらより古い。H-1 区における検出長は 13.0m、規模は上幅 3.2m 以上、深さ 0.2m、H-11 区における検出長は 5.1m、規模は上幅 0.7 ～ 0.9m、深さ 0.2m である。土師器甕、須恵器坏（第 8 図 3）・蓋・甕が出土した。

【SD4河川跡】（平面図：第 7 図、断面図：第 9 図）

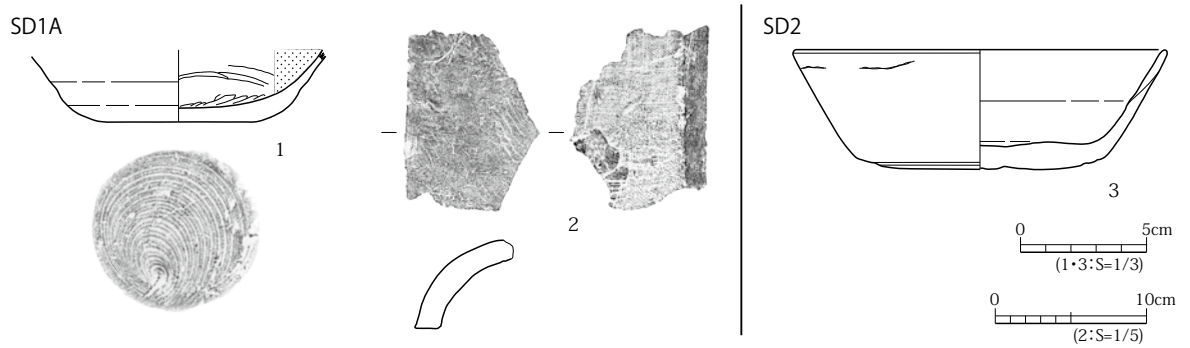
H-10 区と H-11 区南端、H-12 区に位置する。基本層序Ⅱ a 層上面で検出した。H-11 区で SD5・6・9 河川跡、H-12 区で SD9 河川跡と重複し、これらより新しい。3 時期（A → B → C）認められた。



第 7 図　H-1・8・10・11・12 区　遺構配置図



遺構	層	土色	土性	特徴
SD1C	1	黒褐色(10YR3/1)	シルト	細砂小ブロックを少量含む
	2	褐灰色(10YR5/1)	シルト	粗砂を少量含む
	3	にぶい黄褐色(10YR5/3)	粗砂	小礫、細砂を含む
	4	にぶい黄褐色(10YR5/3)	細砂	褐灰色砂質シルトと互層になる
	5	褐灰色(10YR6/1)	細砂	にぶい黄橙色粗砂・細砂と互層になる
SD1B	6	黄灰色(2.5Y5/1)	細砂	黄灰色(2.5Y5/1)シルト細砂を斑に含む
	7	黄灰色(2.5Y5/1)	細砂	黄灰色(2.5Y5/1)シルト細砂を斑にやや多く含む
	8	黄灰色(2.5Y5/1)	細砂	黄灰色(2.5Y5/1)シルト細砂を斑に、暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト小ブロックを含む
SD1A	9	灰白色火山灰	シルト	
	10	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	細砂小ブロックを斑に含む
	11	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	細砂小ブロックを少量含む
	12	暗灰黄色(2.5Y4/2)	粘土質シルト	細砂を斑に含む
	13	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	植物遺体を含む
	14	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	植物遺体を含む
	15	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	
	16	褐灰色(10YR4/1)	細砂	粗砂と互層になる
SD2	17	暗灰黄色(2.5Y4/2)	砂質シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む
	18	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む
	19	黒褐色(10YR3/1)	粘土	酸化鉄を多量に、黒色(10YR2/1)シルト小ブロックをわずかに、灰白色火山灰粒・小ブロックを含む
	20	にぶい黄橙色(10YR6/3)	砂	灰白色火山灰小ブロックをわずかに、酸化鉄粒を含む
	21	黒褐色(10YR3/1)	粘土	酸化鉄を多量に、黒色(10YR2/1)シルト小ブロックをわずかに、灰白色火山灰粒・小ブロックを含む



No.	種別・器種	遺構・層	残存	法量(cm)			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径	器高			
1	土師器　坏	SD1A　14層	(体～底)1/1		6.3		外：ロクロナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理　底：回転糸切り無調整	43-1	R432
2	丸瓦	SD1A　堆	破損				凸面：平行タタキ目？→ナデ　凹面：粘土紐痕→布目	43-3	R436
3	須恵器　坏	SD2　底	(口)1/4(底)1/1	(14.9)	8.0	(4.75)	外内：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り	43-2	R435

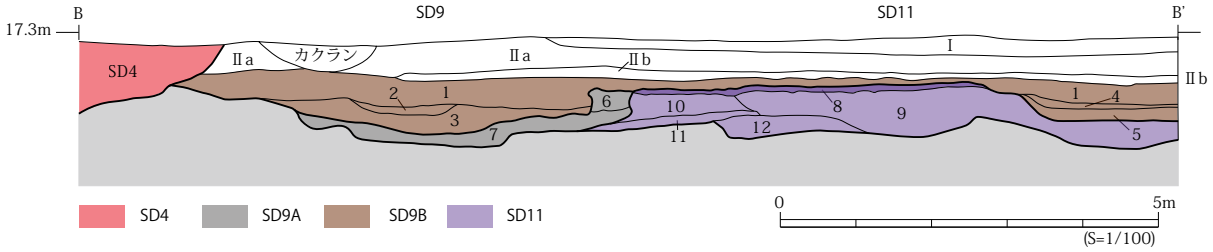
第 8 図　H-1 区　SD1・2 河川跡　断面・出土遺物

SD4A は、検出長が 2.0m、規模が上幅 5.6m、深さ 0.9m、SD4B は、検出長が 9.0m、規模が上幅 4.1m 以上、深さ 1.0m、SD4C は、検出長が 11.0m、規模が上幅 2.2 ～ 16.0m、深さ 0.85 ～ 0.95m である。SD4C の堆積土から土師器甕、須恵器坏・甕、平瓦が出土した。

【SD9河川跡】（平面図：第 7 図、断面図：第 9 図）

H-11 区南端と H-12 区に位置する。基本層序Ⅲ層の灰白色火山灰より新しく、Ⅱ層に覆われる。H-11 区で SD4 河川跡、H-12 区で SD4・11 河川跡と重複し、SD11 より新しく SD4 より古い。H-12 区で 2 時期（A → B）認められた。

SD9A は、検出長 5.5m、深さ 0.7m である。部分的な検出のため上幅、下幅は不明である。SD9B は、検出長が 14.5m、規模が上幅 5.5 ～ 9.0m 以上、深さ 0.75m である。SD9B の堆積土から土師器甕が出土した。



遺構	層	土色	土性	特徴
SD9B	1	黒色(10YR2/1)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック、細砂、植物遺体を含む
	2	黒褐色(10YR2/2)	粘土質シルト	炭化物、細砂、植物遺体を少量含む
	3	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	細砂と互層になる　植物遺体を多量に含む
	4	黒色(10YR2/1)	シルト質粘土	
	5	黒褐色(10YR3/1)	シルト質粘土	スクモをわずかに、灰白色火山灰小ブロック・ブロックを含む
SD9A	6	暗褐色(10YR3/3)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック、細砂、植物遺体を少量含む
	7	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック、細砂、植物遺体、灰白色火山灰ブロックを含む
SD11	8	灰白色火山灰	シルト	
	9	黒褐色(2.5Y3/2)	粘土質シルト	細砂と互層になる　植物遺体を含む
	10	黒褐色(2.5Y3/2)	粘土質シルト	細砂、植物遺体を含む
	11	黒褐色(2.5Y3/1)	粘土質シルト	Ⅴ層大ブロックを含む　細砂・粗砂と互層になる
	12	黒色(10YR2/1)	粘土質シルト	Ⅴ層ブロック、黒褐色粘土質シルトブロック、植物遺体を含む

第 9 図　H-12 区　SD4・9・11 河川跡　断面

②H-14区

溝跡 8 条（SD13 ～ 19・213）、土坑 4 基（SK20 ～ 22・215）、河川跡 3 条（SD4・9・12）を検出した（第 10 図）。SD13・19 溝跡、SD4・9・12 河川跡のみ記述し、それ以外については第 8・10・13 表に特徴をまとめた。

A. 溝跡

【SD13溝跡】（平面図：第 11 図、断面図：第 13 図）

東端に位置する。SK20・21 土坑と重複し、これらより古い。北東－南西方向で東端が北西－南東方向に屈曲する。検出長は、北西－南東 3.6m、北東－南西 18.7m、規模は上幅 0.8 ～ 1.44m 以上、下幅 0.24 ～ 0.6m、深さ 0.7m である。断面は逆台形である。堆積土は 4 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から土師器坏・甕が出土した。

【SD19溝跡】（平面図：第 12 図、断面図：第 13 図）

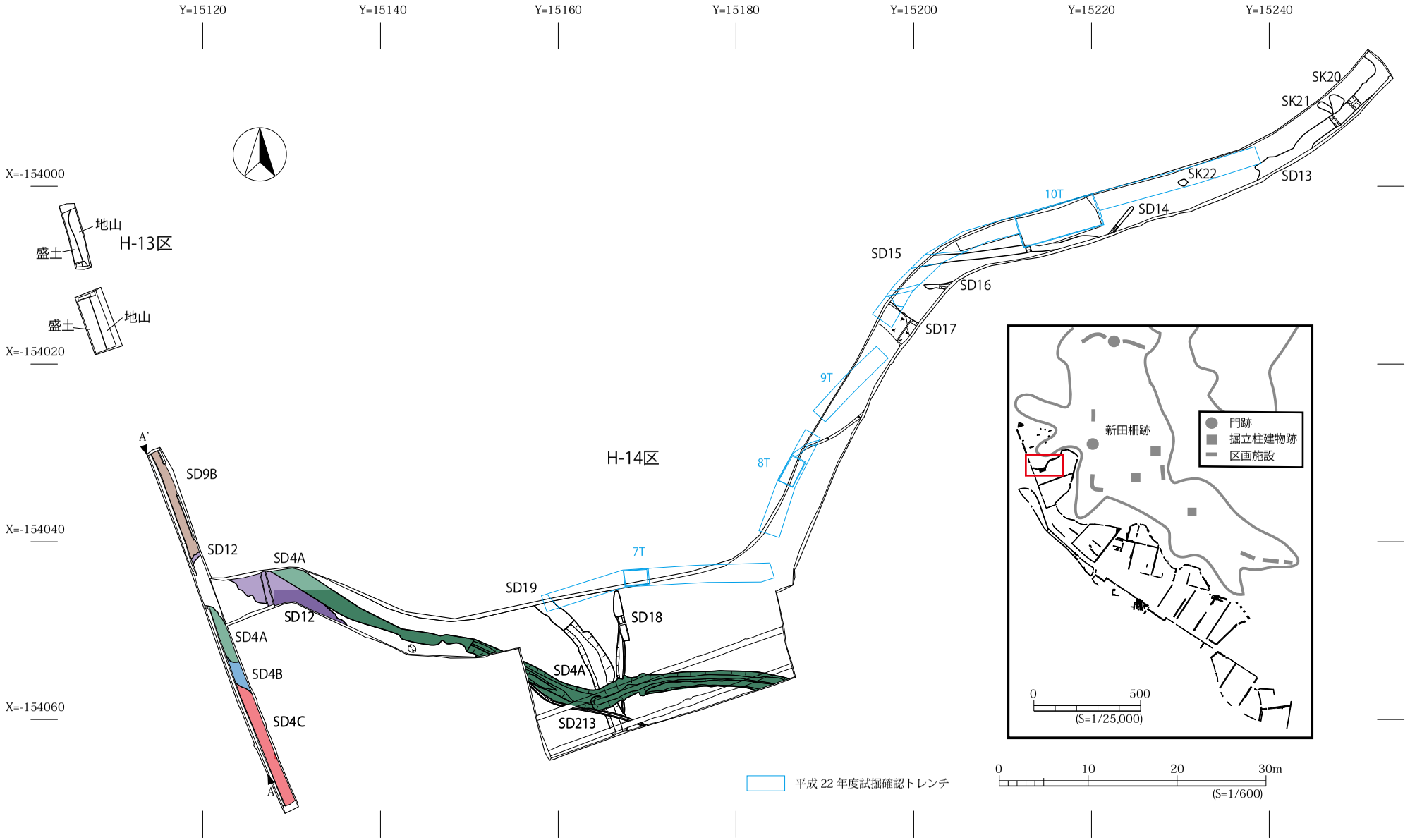
中央西側に位置する。SD18・213 溝跡、SD4A 河川跡と重複し、これらより古い。北西―南東方向で、検出長は 15.4m、規模は上幅 0.9 ～ 2.58m、下幅 0.66 ～ 1.26m、深さ 0.61m である。断面は逆台形である。堆積土は 6 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏が出土した。

B. 河川跡

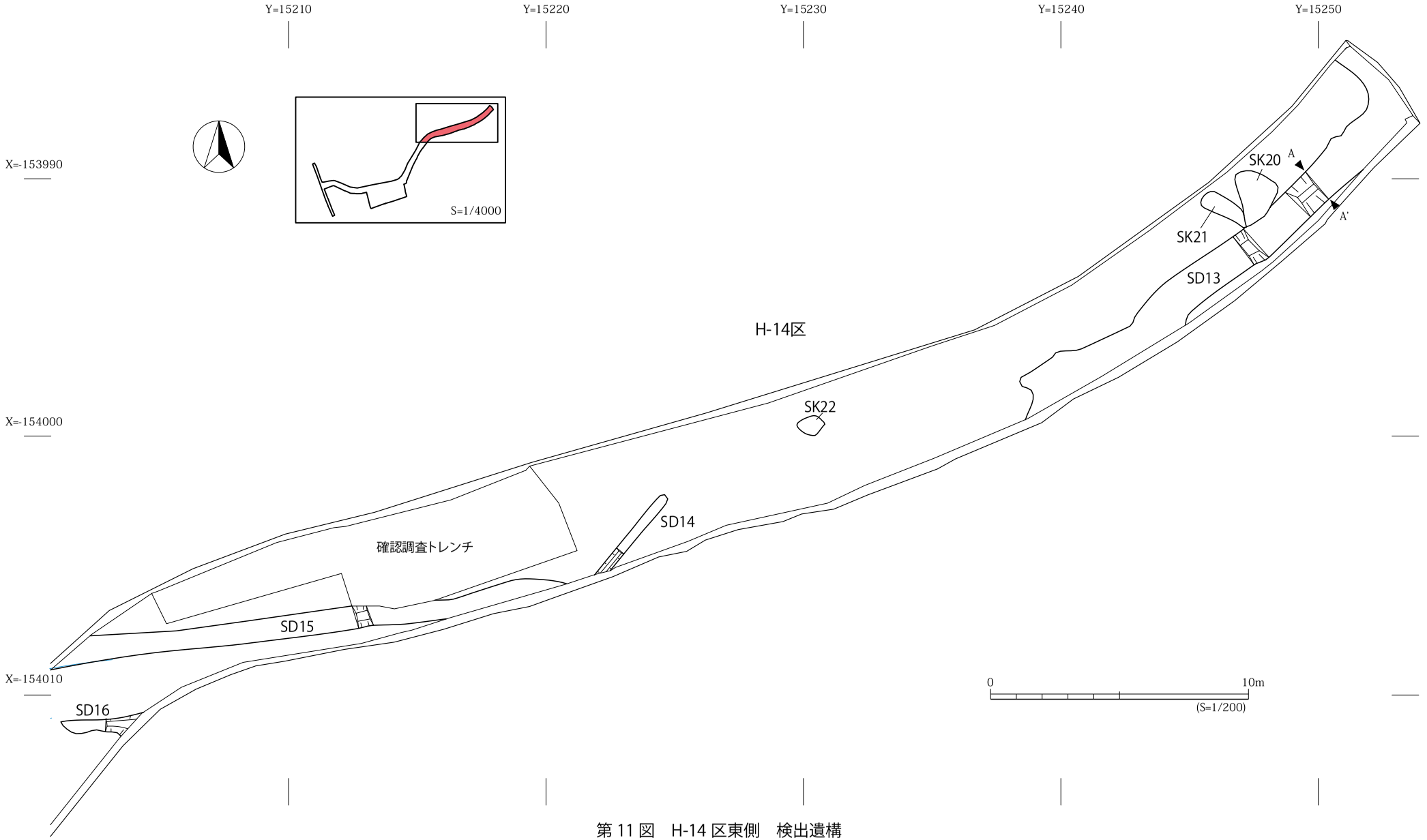
【SD4河川跡】（平面図：第 10 図、断面図：第 13 図、遺物：第 14 図）

西側に位置する。H-11・12 区から蛇行しながら南流する。SD18・19・213 溝跡、SK215 土坑、SD9・12 河川跡と重複し、これらより新しい。3 時期（A → B → C）認められた。

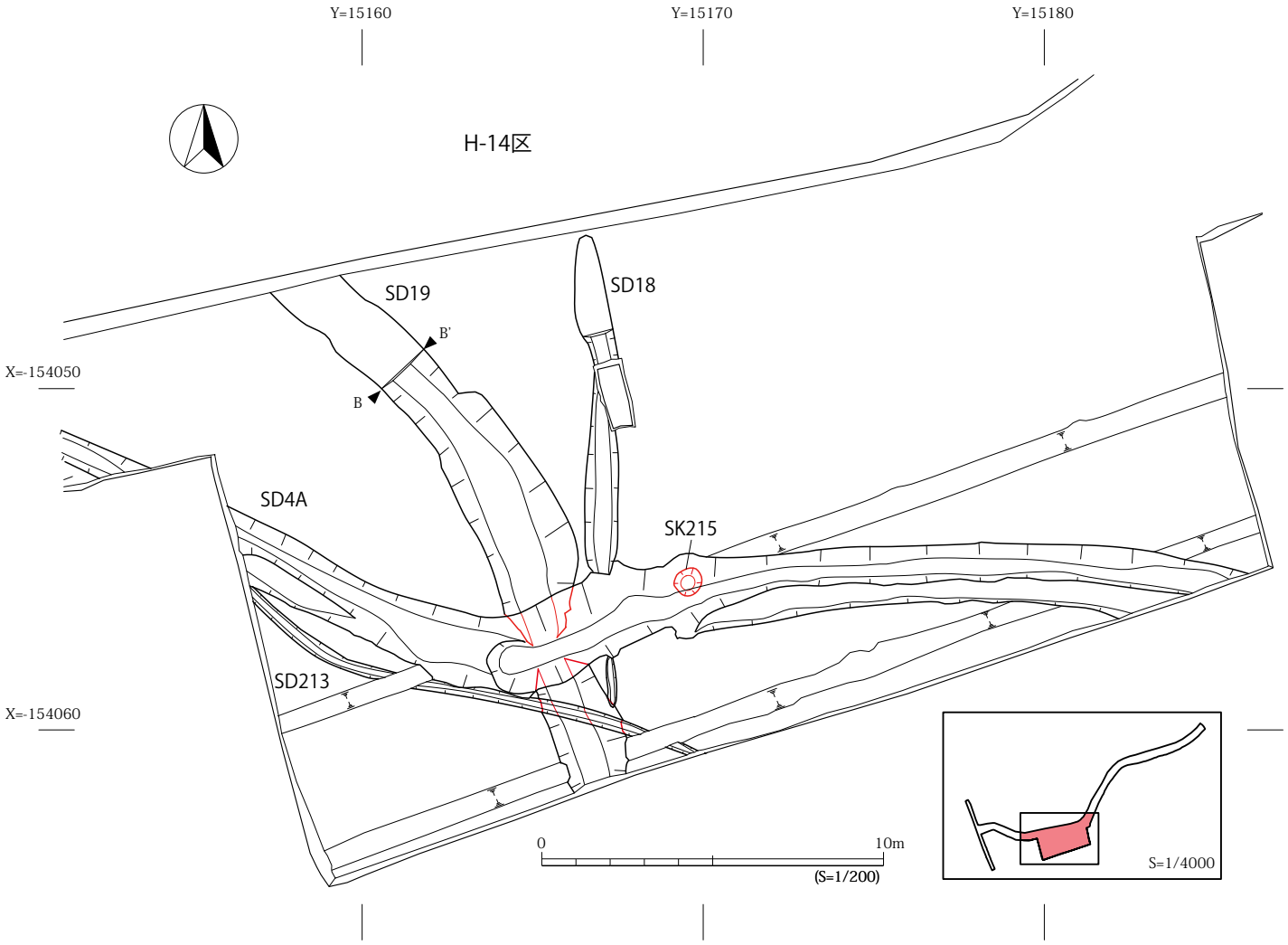
SD4A は二股に分かれ、南流するものは、検出長が 42.2m、規模が上幅 1.5m 以上、深さ 1.2m 以上、東流するものは、検出長が 64m、規模が上幅 1.6～2.4m、深さ 0.34m である。土師器坏・高台坏・甕、須恵器坏蓋（第 14 図 1）・坏・高台坏・甕、石製模造品の未製品（2）が出土した。SD4B は、検出長が 2.0m、規模が上幅 17m 以上、深さ 0.9m 以上である。陶器擂鉢（4）と縄文土器、土師器坏・甕、須恵器坏・甕、



第 10 図　H-13・14 区　遺構配置図



第 11 図　H-14 区東側　検出遺構



第 12 図　H-14 区中央　検出遺構

平瓦、植物種子が出土した。SD4C は、検出長が 2.0m、規模が上幅 14.5m 以上、深さ 0.5m である。

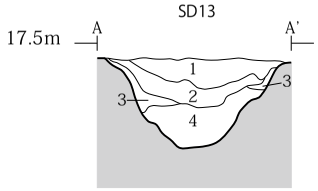
染付の皿（3）、土師器坏・甕、須恵器坏・甕、植物種子が出土した。

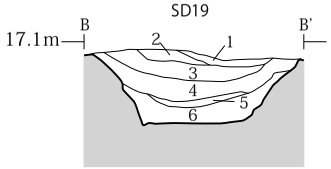
【SD9河川跡】（平面図：第 10 図、断面図：第 13 図）

北西端に位置する。H-11・12 区から蛇行しながら南流する。SD4・12 河川跡と重複し、SD12 より新しく、SD4 より古い。堆積土の特徴から H-11・12 区で検出した SD9B に対応する。検出長は北側で 1.3m、南側で 0.5m、規模は上幅 12.5m 以上、深さ 1.0m 以上である。土師器坏・甕、須恵器坏・壺・甕、石器が出土した。

【SD12河川跡】（平面図：第 10 図、断面図：第 13 図、遺物：第 14 図）

西端に位置し、蛇行しながら南流する。SD4・9 河川跡と重複し、これらより古い。二股に分かれ、南流するものは検出長が 0.5 ～ 1.2m、規模が上幅 6.5 ～ 13m 以上、深さ 0.9 ～ 1.3m 以上、東流するものは検出長が 14m、規模が上幅 3.5m 以上である。堆積土の最上層には灰白色火山灰層が認められた。ロクロ調整の土師器坏（第 14 図 5 ～ 7）・甕と非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・蓋・壺・甕、丸瓦、石製の紡錘車（8）、磨石（9）、植物種子が出土した。

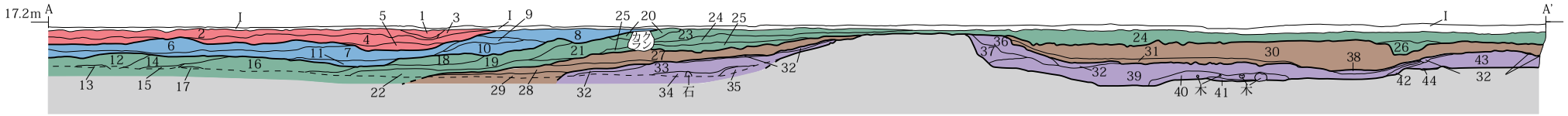




0 1m
(S=1/60)

層	土色	土性	特徴	備考
1	灰黄褐色（10YR4/2）	シルト	小礫を少量、Ⅴ層小ブロックを多量に、酸化マンガンをわずかに含む	自然堆積
2	黒褐色（10YR3/2）	粘土	スクモ、酸化マンガンをわずかに含む	
3	暗褐色（10YR3/3）	砂質シルト	スクモ、酸化マンガンを斑にわずかに含む	
4	黒褐色（10YR3/1）	粘土	スクモ、酸化マンガンをわずかに含む	

層	土色	土性	特徴	備考
1	オリーブ黒（5Y3/1）	粘土質シルト		自然堆積
2	黒褐色（2.5Y3/1）	粘土質シルト		
3	黒色（7.5YR1.7/1）	シルト質粘土		
4	灰黄褐色（10YR4/2）	砂質シルト		
5	暗灰黄色（2.5Y4/2）	砂	灰白色火山灰ブロックを含む	
6	黒褐色（2.5Y3/1）	粘土		

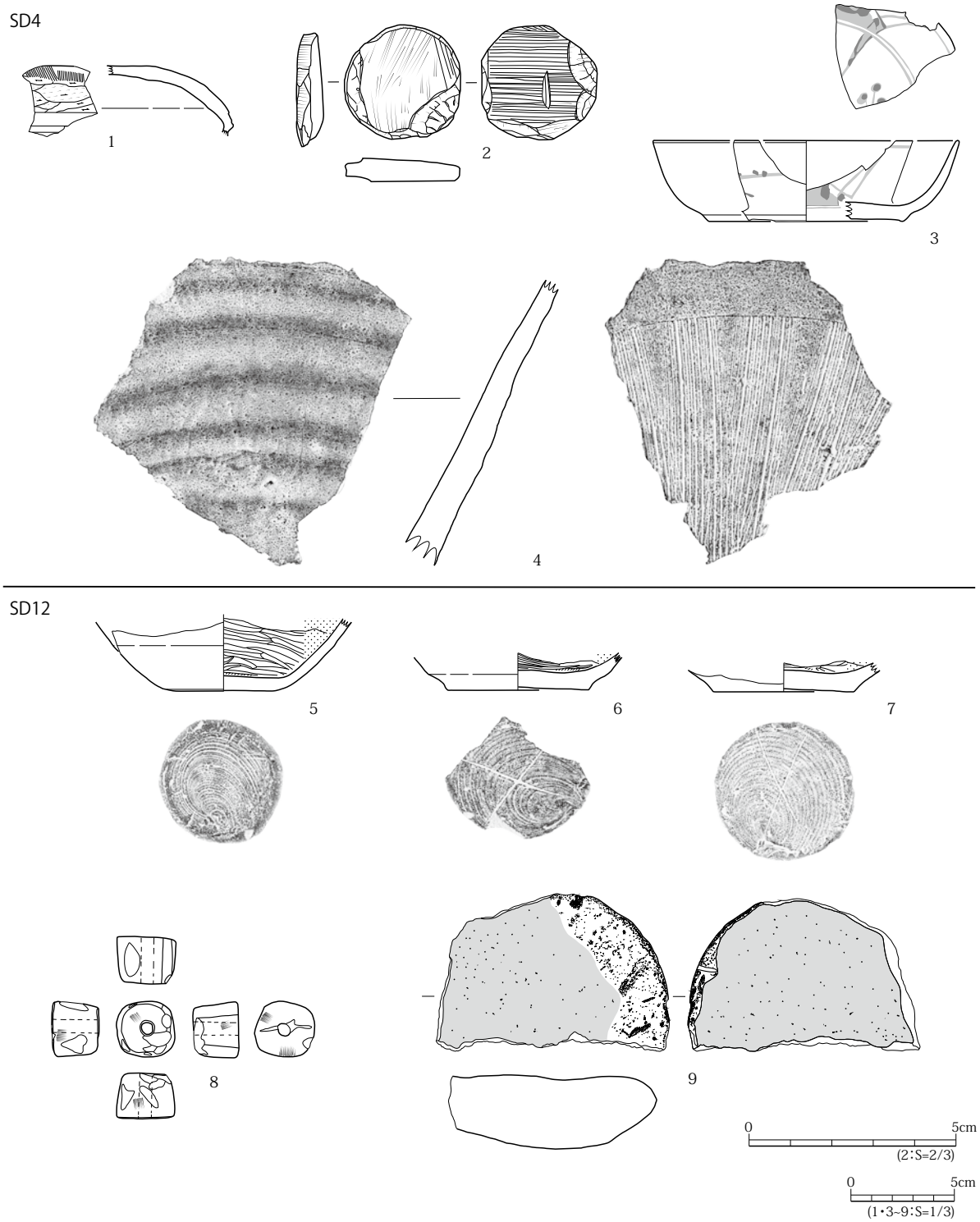


0 5m
(S=1/150)

遺構	層	土色	土性	特徴
SD4C	1	黄灰色（2.5Y4/1）	シルト	黄褐色（2.5Y5/3）砂小ブロック・ブロック含む
	2	暗灰黄色（2.5Y4/2）	シルト質砂	炭化物をわずかに含む
	3	暗灰黄色（2.5Y5/2）	砂	植物遺体をわずかに、にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト小ブロックを含む
	4	灰黄褐色（10YR5/2）	シルト質砂	植物遺体、炭化物をわずかに含む
	5	暗灰黄色（2.5Y5/2）	砂	暗灰黄色（2.5Y5/2）シルトをラミナ状に含む
SD4B	6	暗灰黄色（2.5Y4/2）	粘土質シルト	層下部に黄褐色（2.5Y5/3）砂がラミナ状に堆積
	7	黄褐色（2.5Y5/3）	シルト質砂	粗砂シルトがラミナ状に堆積　植物遺体を多量に含む
	8	灰黄褐色（10YR5/2）	砂質シルト	植物遺体を含む
	9	灰黄褐色（10YR5/2）	砂質シルト	砂をわずかに含む
	10	にぶい黄色（2.5Y6/3）	シルト質砂	褐灰色（10YR5/1）粘土質シルトをラミナ状に含む
	11	灰色（5Y4/1）	粘土質シルト	粗砂、小礫をわずかに含む
SD4A	12	オリーブ黒色（5Y3/1）	粘土質シルト	小礫、スクモを含む
	13	灰色（5Y4/1）	粗砂	小礫を含む
	14	黄灰色（2.5Y4/1）	粘土質シルト	灰色（7.5Y5/1）砂をラミナ状に、植物をわずかに含む
	15	黄灰色（2.5Y6/1）	粗砂	
	16	黒褐色（2.5Y3/1）	粘土質シルト	
	17	灰黄色（2.5Y6/2）	粗砂	
	18	黄灰色（2.5Y5/1）	砂質シルト	層下部に黄灰色（2.5Y6/1）砂が混じる
	19	灰色（5Y4/1）	シルト	灰色（5Y5/1）の砂小ブロックを含む
	20	灰黄褐色（10YR5/2）	粘土質シルト	小礫を含む
	21	灰黄褐色（10YR4/2）	粘土質シルト	
	22	黄灰色（2.5Y4/1）	粘土質シルト	スクモをわずかに含む

遺構	層	土色	土性	特徴
SD4A	23	灰黄褐色（10YR4/2）	粘土質シルト	小礫を含む
	24	灰黄褐色（10YR5/2）	粘土質シルト	
	25	褐灰色（10YR4/1）	シルト質粘土	砂、炭化物をわずかに含む
	26	暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）	粘土質シルト	小礫を多量に含む
SD9	27	黒色（10YR2/1）	粘土	スクモをわずかに含む
	28	黒褐色（2.5Y3/1）	シルト質粘土	にぶい黄橙色（10YR6/4）シルト小ブロック・ブロックを含む
	29	黄灰色（2.5Y5/1）	粘土質シルト	スクモを含む
	30	黒色（10YR1.7/1）	シルト質粘土	スクモをわずかに含む
	31	灰黄褐色（10YR4/2）	粘土質シルト	スクモをわずかに含む
SD12	32	灰白色火山灰	シルト	
	33	灰黄褐色（10YR5/2）	砂質シルト	スクモをわずかに含む
	34	褐灰色（10YR4/1）	粗砂	小礫・礫を非常に多く含む
	35	灰黄色（2.5Y6/2）	粘土質シルト	スクモをわずかに含む　層上部に黄灰色（2.5Y4/1）砂が薄く堆積
	36	黒褐色（2.5Y3/2）	シルト	酸化マンガンを斑にやや多く含む
	37	暗灰黄色（2.5Y4/2）	砂質シルト	酸化マンガンを斑にやや多く含む
	38	黒色（5Y2/1）	シルト質粘土	小礫を多量に、砂を層状に含む
	39	灰色（5Y4/1）	砂質シルト	小礫を含む砂を層状に、酸化マンガンを少量、スクモをわずかに含む
	40	黄灰色（2.5Y4/1）	粘土質シルト	スクモをやや多く含む
	41	黒色（10YR2/1）	粘土	スクモを少量含む
	42	オリーブ黒色（5Y3/1）	粘土	小礫・やや大きい礫を層状に、スクモを少量含む
	43	灰オリーブ色（5Y4/2）	シルト	酸化マンガン、スクモを少量、灰色（5Y4/1）シルトブロックを斑に含む
	44	暗緑灰色（5GY4/1）	粘土質シルト	小礫を多量に含む

第13図　H-14区　SD13・19溝跡、SD4・9・12河川跡　断面



No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	須恵器　坏蓋	SD4A　12 層	(体～天井) 一部	外：ロクロナデ→ヘラケズリ→ナデ　内：ロクロナデ	43-5	R449
2	石製模造品　未製品	SD4A　堆	完形	粘板岩製　長 28.0㎜　幅 28.3㎜　厚 5.7㎜　重 6.18g　有孔円板の未製品カ	43-6	R452
3	磁器　皿	SD4C　堆	(口～高台) 一部	口径 (14.8cm)　底径 (9.4cm)　器高 (3.9cm)　蛇ノ目凹形高台　肥前	43-7	R451
4	陶器　擂鉢	SD4B　7 ～ 10 層	体部	外：ロクロナデ　内：ロクロナデ→卸目 (11 本 1 単位)　内外面に鉄釉	43-8	R450
5	土師器　坏	SD12　38 ～ 42 層	(体～底) 1/1	底径 5.6cm　外：ロクロナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理　底：回転糸切り無調整	43-9	R455
6	土師器　坏	SD12　38 ～ 42 層	(体～底) 1/1	底径 6.8cm　外：ロクロナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理　底：回転糸切り無調整 外面底部に刻書「×」	43-10	R456
7	土師器　坏	SD12　38 ～ 42 層	(体～底) 1/1	底径 6.8cm　外：ロクロナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理　底：回転糸切り無調整 外面底部に刻書「×」	43-11	R457
8	石製品　紡錘車	SD12　33・34 層	ほぼ完形	凝灰岩製　長 2.7cm　幅 2.9cm　高 2.2cm　重 25.93g　孔径 6.3 ～ 7.0㎜	43-13	R463
9	石器　磨石	SD12　堆	破損	砂岩製　長 (6.9cm)　幅 (10.6cm)　厚 (3.5cm)　重 (356.0g)　表裏磨面	43-12	R462

第 14 図　H-14 区　SD4・12 河川跡　出土遺物

③H-15～18区

H-15 区で溝跡 7 条（SD28 ～ 33・36）、河川跡・自然流路跡 10 条（SD4・9・12・34・35・37・38・48 ～ 50）（第 15 図）、H-16 区で土坑 1 基（SK23）（第 18 図）、H-17 区で溝跡 2 条（SD25・26）、自然流路跡 1 条（SD24）（第 19 図）、H-18 区で自然流路跡 1 条（SD27）（第 19 図）を検出した。SD24・27・37・38 自然流路跡には、堆積土に灰白色火山灰層が認められた。ここでは、SD4・9・12・48 河川跡のみ記述し、それ以外については第 8・10・13 表に特徴をまとめた。

【SD4河川跡】（平面図：第 15 図、断面図：第 16 図、遺物：第 17 図）

H-15 区西側に位置し、蛇行しながら南流する。基本層序Ⅱ a 層上面で検出した。SD9・12・38・48 ～ 50 河川跡・自然流路跡と重複し、これらより新しい。3 時期（A → B → C）認められた。

SD4A は、検出長が 3.0m、規模が、断面図作成地点で上幅 7.5m 以上、深さ 1.2m である。土師器坏・高台坏・鉢・甕、須恵器坏・高台坏・壺・甕、鉄製の毛抜（第 17 図 1）、焼骨、植物種子が出土した。SD4B は、検出長が 27.5m、規模が、断面図作成地点で上幅 18.8m 以上、深さ 1.0m である。土師器坏・甕、須恵器坏・甕が出土した。SD4C は、検出長が 38m、規模が、断面図作成地点で上幅 2.4 ～ 7.0m 以上、深さ 0.7m である。土師器坏・甕、須恵器坏・甕が出土した。

【SD9河川跡】（断面図：第 16 図）

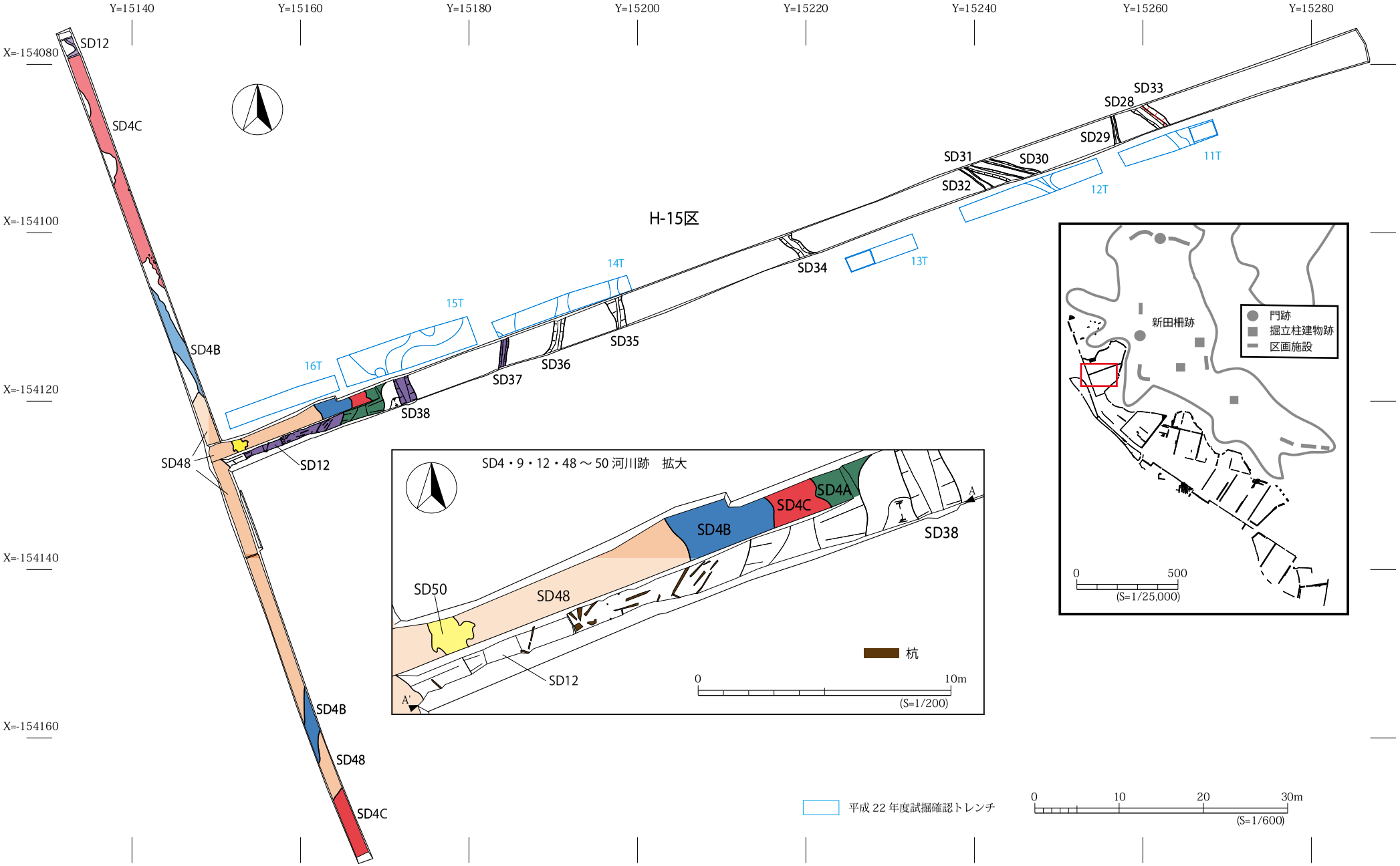
H-15 区西側に位置し、蛇行しながら南流する。調査区北端と中央南壁の断面で検出した。SD4・12・48 ～ 50 河川跡と重複し、SD12 より新しく、SD4・48 ～ 50 より古い。検出長は 1.6m、規模は上幅 13.8m 以上、深さ 1.4m である。堆積土の特徴から、第 16 図 33 ～ 42 層が H-11 ～ 14 区の SD9A、30 ～ 32 層が SD9B に対応する可能性がある。土師器坏・高台坏・鉢・甕、須恵器坏・高台坏・甕が出土した。

【SD12河川跡】（平面図：第 15 図、断面図：第 16 図、遺物：第 17 図）

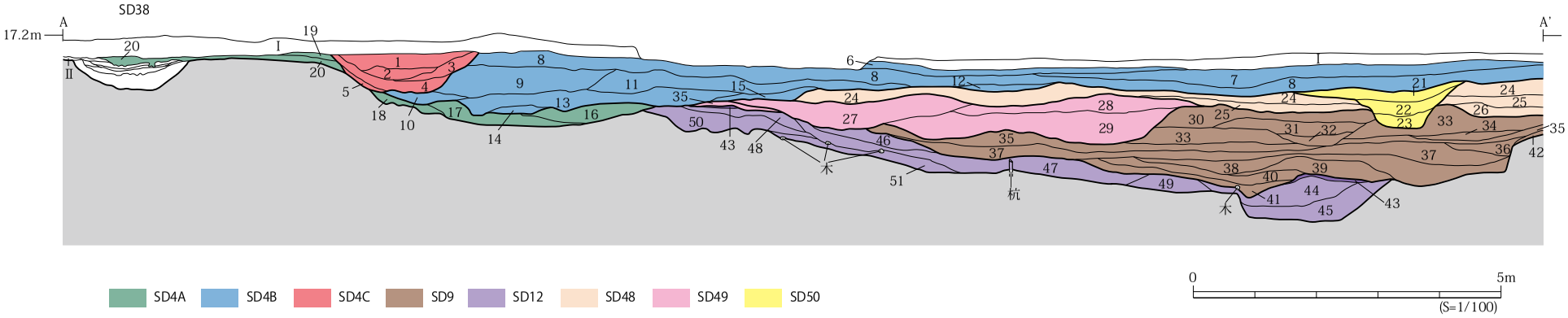
H-15 区西側に位置し、蛇行しながら南流する。SD4・9・49 河川跡と重複し、これらより古い。検出長は 4.0m、規模は上幅 12.1m、深さ 0.6m である。堆積土は 9 層に分かれ、最上層に灰白色火山灰層が認められる。底面付近で杭や流木が検出され、多くは SD12 の流路の方向である北東―南西方向に長軸を向けていた。また、杭には地山に打ち込まれた状態で検出されたものも認められた。ロクロ調整の土師器坏（第 17 図 4）・甕、須恵器坏（2・3）・甕（10）、墨書土器（5 ～ 9）、丸瓦（11）、焼骨、植物種子が出土した。

【SD48河川跡】（平面図：第 15 図、断面図：第 16 図）

H-15 区西側に位置する。SD4・9・49・50 河川跡と重複し、SD9・49 より新しく、SD4・50 より古い。検出長は 50.6m、規模は上幅 15.0m 以上、深さ約 0.6m 以上である。堆積土には地山ブロックが多く含まれる。これは、I-4・5 区で検出した SD252 河川跡の堆積土の特徴と類似しており、両者は一連の河川跡である可能性がある。土師器坏・甕、須恵器甕が出土した。



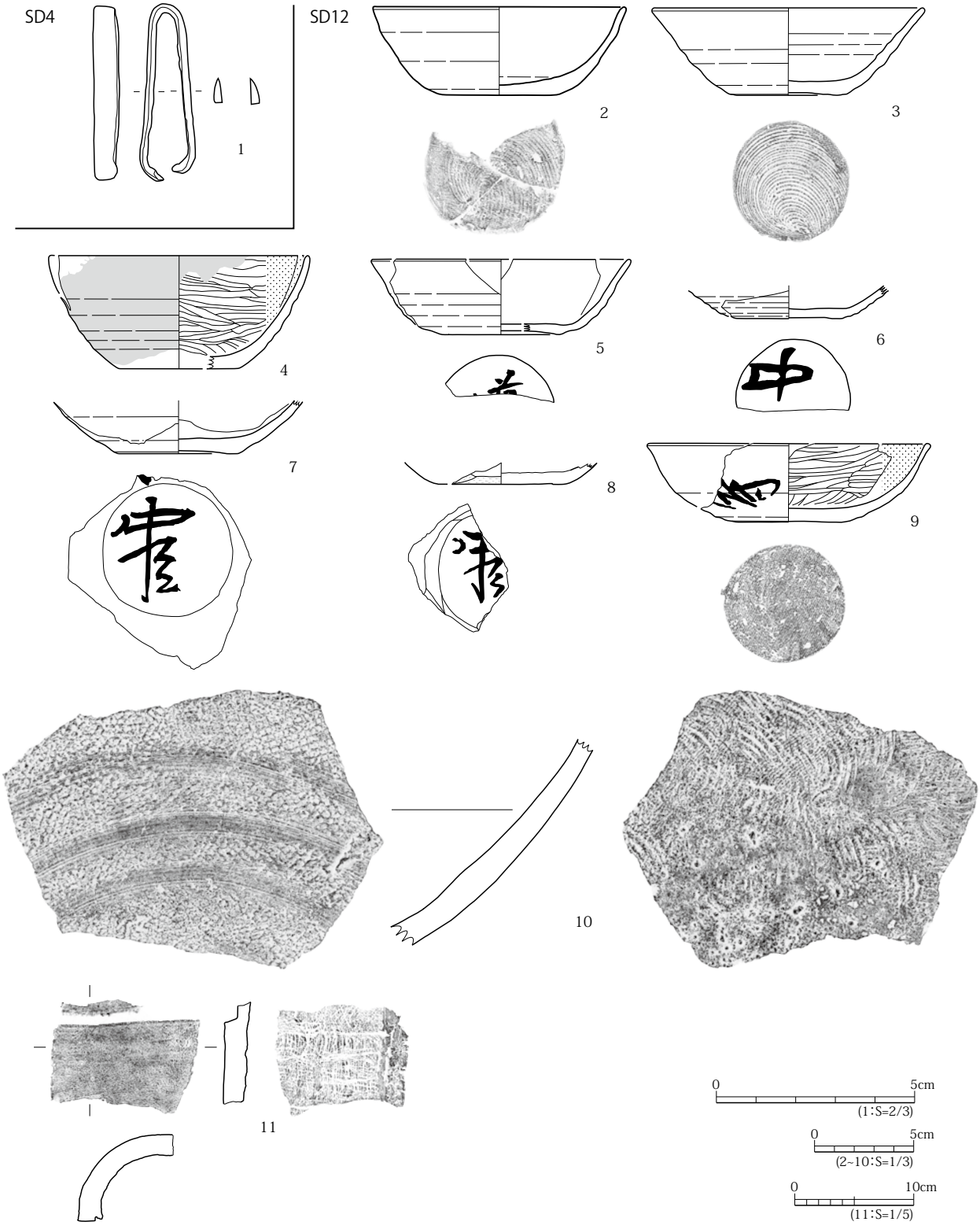
第 15 図　H-15 区　遺構配置図



遺構	層	土色	土性	特徴
SD4C	1	暗灰黄色(2.5Y5/2)	シルト質砂	
	2	灰黄褐色(10YR5/2)	粘土質シルト	
	3	黄灰色(2.5Y5/1)	シルト質砂	
	4	暗灰黄色(2.5Y5/2)	砂	
	5	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	
SD4B	6	にぶい黄橙色(10YR6/3)	シルト	上部に酸化鉄、全体的に酸化マンガンを多量に含む
	7	灰黄褐色(10YR5/2)	シルト	酸化マンガンを多量に含む
	8	灰黄褐色(10YR5/2)	シルト	酸化マンガンを非常に多く、小礫を含む
	9	暗灰黄色(2.5Y4/2)	シルト	暗灰黄色(2.5Y5/2)砂をラミナ状に含む
	10	灰黄褐色(10YR5/2)	粘土質シルト	砂、小礫・礫をわずかに、酸化鉄を含む
	11	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	小礫、酸化鉄を含む
	12	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	層上部に酸化マンガン、全体的に酸化鉄を少量含む
	13	褐灰色(10YR4/1)	シルト質粘土	酸化鉄をわずかに含む
	14	黄褐色(2.5Y5/3)	砂	下部に粗砂を多量に、酸化鉄を含む
	15	褐灰色(10YR4/1)	シルト質粘土	
SD4A	16	褐灰色(10YR4/1)	シルト質粘土	小礫をわずかに、酸化鉄を含む
	17	黄灰色(2.5Y4/1)	シルト質粘土	Ⅴ層小ブロックをわずかに含む
	18	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック・ブロックを非常に多く含む
	19	灰黄褐色(10YR5/2)	粘土質シルト	酸化マンガンを多量に含む
	20	褐灰色(10YR5/1)	粘土質シルト	酸化鉄を斑に含む
SD50	21	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	酸化鉄、Ⅴ層粒を多量に含む
	22	黄灰色(2.5Y4/1)	粘土質シルト	酸化鉄を含む
	23	暗灰黄色(2.5Y4/2)	シルト	酸化鉄、黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト小ブロックを含む
SD48	24	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	Ⅴ層粒を少量、軽石粒、層上部に酸化鉄、酸化マンガンを多量に含む
	25	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	Ⅴ層ブロックを非常に多く含む
	26	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	Ⅴ層ブロックを多量に含む

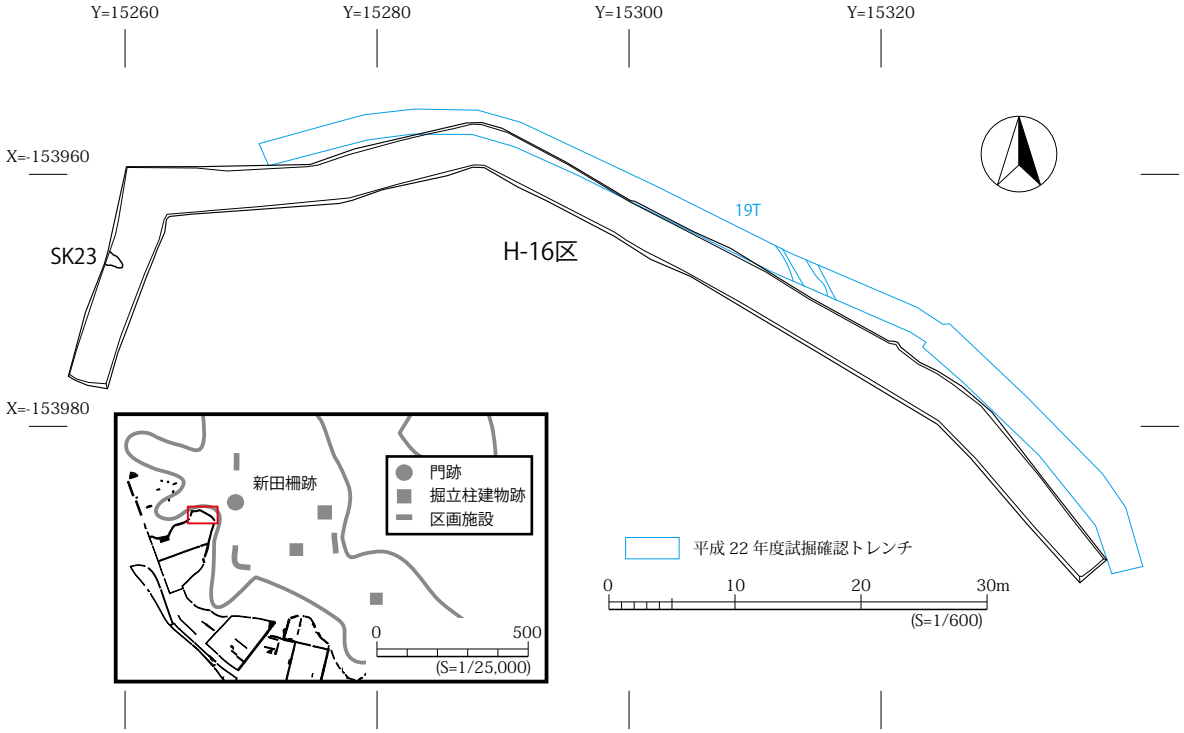
遺構	層	土色	土性	特徴
SD49B	27	黄灰色(2.5Y4/1)　村	砂質シルト	細砂・粗砂と互層になる　酸化鉄、植物遺体を少量含む
SD49A	28	黄灰色(2.5Y4/1)	シルト	植物遺体、酸化鉄、黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト小ブロックを含む
	29	黄灰色(2.5Y4/1)	砂質シルト	細砂、小礫と互層になる　植物遺体を少量含む
SD9A	30	黒褐色(10YR3/2)	シルト質粘土	植物遺体を多量に含む(スクモ層)
	31	黒褐色(10YR3/1)	シルト質粘土	植物遺体を含む(スクモ層)
	32	黒褐色(10YR3/1)	シルト質粘土	小礫を多量に、植物遺体を少量含む
	33	黒褐色(10YR3/2)	シルト質粘土	植物遺体、Ⅴ層ブロックを少量含む
	34	黒褐色(10YR3/2)	シルト質粘土	植物遺体を含む
	35	黒褐色(10YR3/2)	シルト質粘土	暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)砂質シルトと互層になる
	36	黒褐色(2.5Y3/2)	粘土質シルト	細砂と互層になる　植物遺体を含む
	37	黄灰色(2.5Y4/1)	粘土質シルト	細砂と互層になる
	38	暗灰黄色(2.5Y4/2)	粘土質シルト	細砂と互層になる
	39	オリーブ褐色(2.5Y4/3)	粘土質シルト	細砂ブロックを斑に含む
	40	オリーブ褐色(2.5Y4/3)	粘土質シルト	細砂ブロックを斑に、灰白色火山灰小ブロックを含む
	41	暗灰黄色(2.5Y4/2)	シルト	粗砂と互層になる
	42	黒褐色(2.5Y3/2)	砂質シルト	Ⅴ層ブロックを多量に含む
SD12	43	灰白色火山灰	シルト	
	44	暗灰黄色(2.5Y4/2)	シルト	細砂と互層になる
	45	緑灰色(7.5GY5/1)	粗砂	
	46	暗灰黄色(2.5Y5/2)	砂質シルト	Ⅴ層小ブロック、黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト小ブロック、植物遺体を含む
	47	緑灰色(7.5GY5/1)	粗砂	
	48	黄灰色(2.5Y4/1)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックをわずかに含む
	49	黒褐色(2.5Y3/1)	シルト質粘土	Ⅴ層小ブロックを含む
	50	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック・ブロックを含む
	51	オリーブ黒色(5Y3/2)	シルト	植物遺体を含む

第16図　H-15区　SD4・9・12・48～50河川跡　断面



No.	種別・器種	遺構・層	残存	法量(cm)			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径	器高			
1	鉄製品　毛抜	SD4A　堆	完形				長 4.5cm　幅 1.4cm　厚 0.6cm	43-14	R509
2	須恵器　坏	SD12　堆	(口) 1/4 (底) 2/3	(12.8)	(6.0)	(4.45)	外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整　外面被熱	44-1	R489
3	須恵器　坏	SD12　45+47 層	ほぼ完形	13.8	5.8	4.4	外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整	44-2	R508
4	土師器　坏	SD12　45 層	(口) 1/4 (底) 一部	(13.2)	(6.0)	(5.7)	外：ロクロナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理　底：回転糸切り無調整　内外面に油煙付着	44-3	R490
5	須恵器　坏	SD12　47 層	(口) 一部 (底) 1/3	(13.2)	(5.4)	(3.8)	外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整　外面底部に墨書「道カ」 内面摩耗	43-15	R478
6	須恵器　坏	SD12　47 層	(体) 一部 (底) 1/2 強		(5.4)		外内:ロクロナデ　底:回転糸切り無調整　外面底部に墨書「中」	43-16	R480
7	須恵器　坏	SD12　45 層	(体) 一部 (底) 1/1		6.5		外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整　外面体部と底部に墨書「□中臣」 内面摩耗	43-18	R479
8	土師器　坏	SD12　47 層	(体) 一部 (底) 1/4		(6.4)		外：ロクロナデ→(体下) 手持ちヘラケズリ　内：ヘラミガキ→黒色処理　底：回転糸切り無調整　外面底部に墨書「中臣」	43-17	R481
9	土師器　坏	SD12　45 層	(口) 一部 (底) 1/1	(14.4)	6.0	(3.95)	外：ロクロナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理　底：切り離し不明→手持ちヘラケズリ　外面体部に墨書「□寺」	44-4	R477
10	須恵器　甕	SD12　45 層	胴部				外：縄目タタキ→ロクロナデ　内：同心円当て具	43-19	R494
11	丸瓦	SD12　堆	破損				凸面：ロクロナデ　凹面：粘土紐痕→布目　玉縁あり	43-20	R496

第 17 図　H-15 区　SD4・12 河川跡　出土遺物



第 18 図　H-16 区　遺構配置図

④H-19・20区

H-19 区で溝跡 2 条（SD39・40）、河川跡・自然流路跡 4 条（SD4・42・43・110）、H-20 区で溝跡 1 条（SD40）を検出した（第 20 図）。H-19 区の SD43・110 河川跡のみ記述し、それ以外については第 8・13 表に特徴をまとめた。

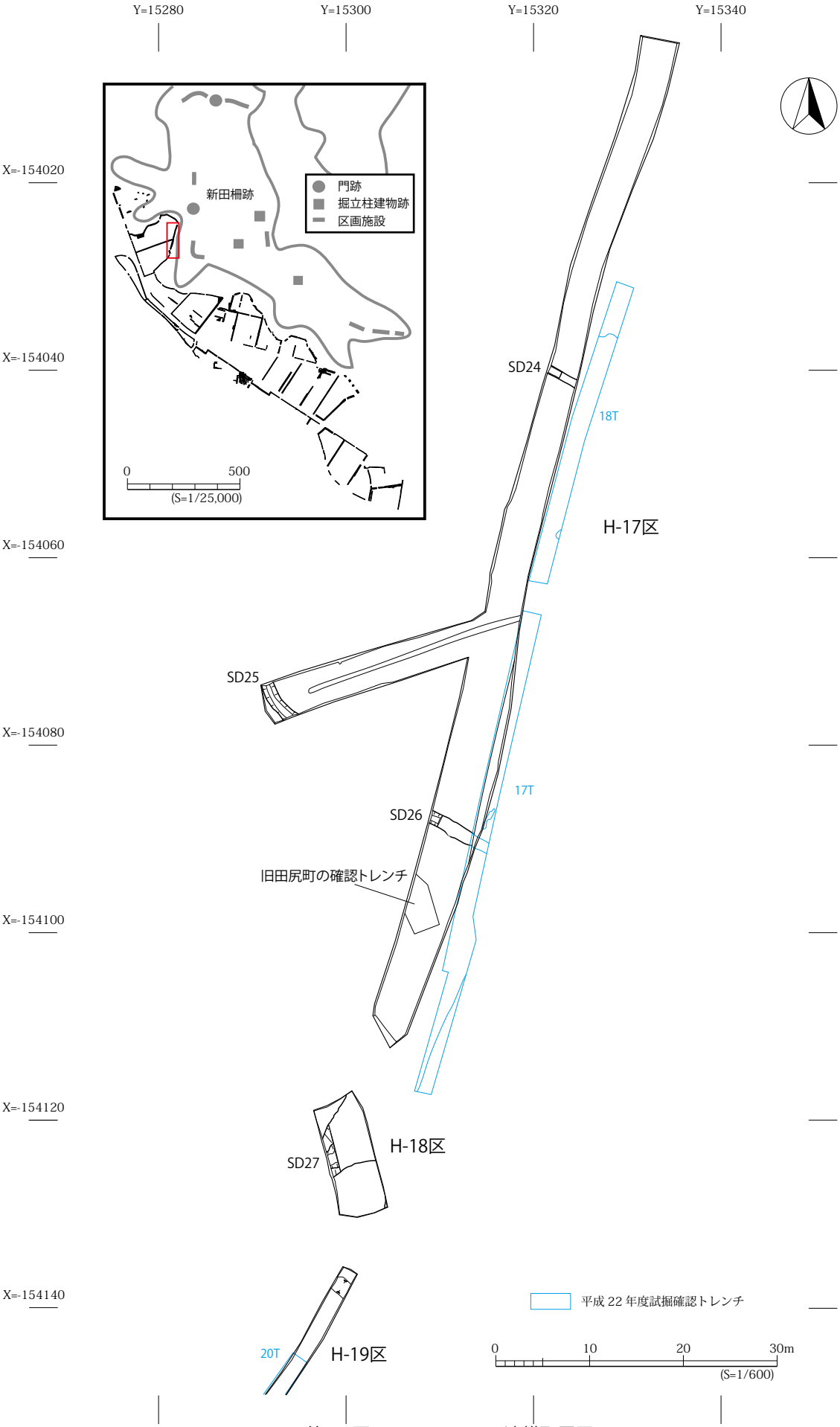
【SD43河川跡】（平面図：第 20 図、断面図・遺物：第 21 図）

H-19 区西側に位置する。位置関係から SD12 河川跡に対応する可能性もあるが、堆積土の特徴が異なることから別河川とした。検出長は 17.7m、規模は上幅 4.3m 以上、深さ 0.74m 以上である。堆積土には灰白色火山灰層が認められた。3・4 層から非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏（第 21 図 1）・高台坏・埦・蓋・壺・甕、石製模造品とその未製品（2 ～ 4）が出土した。

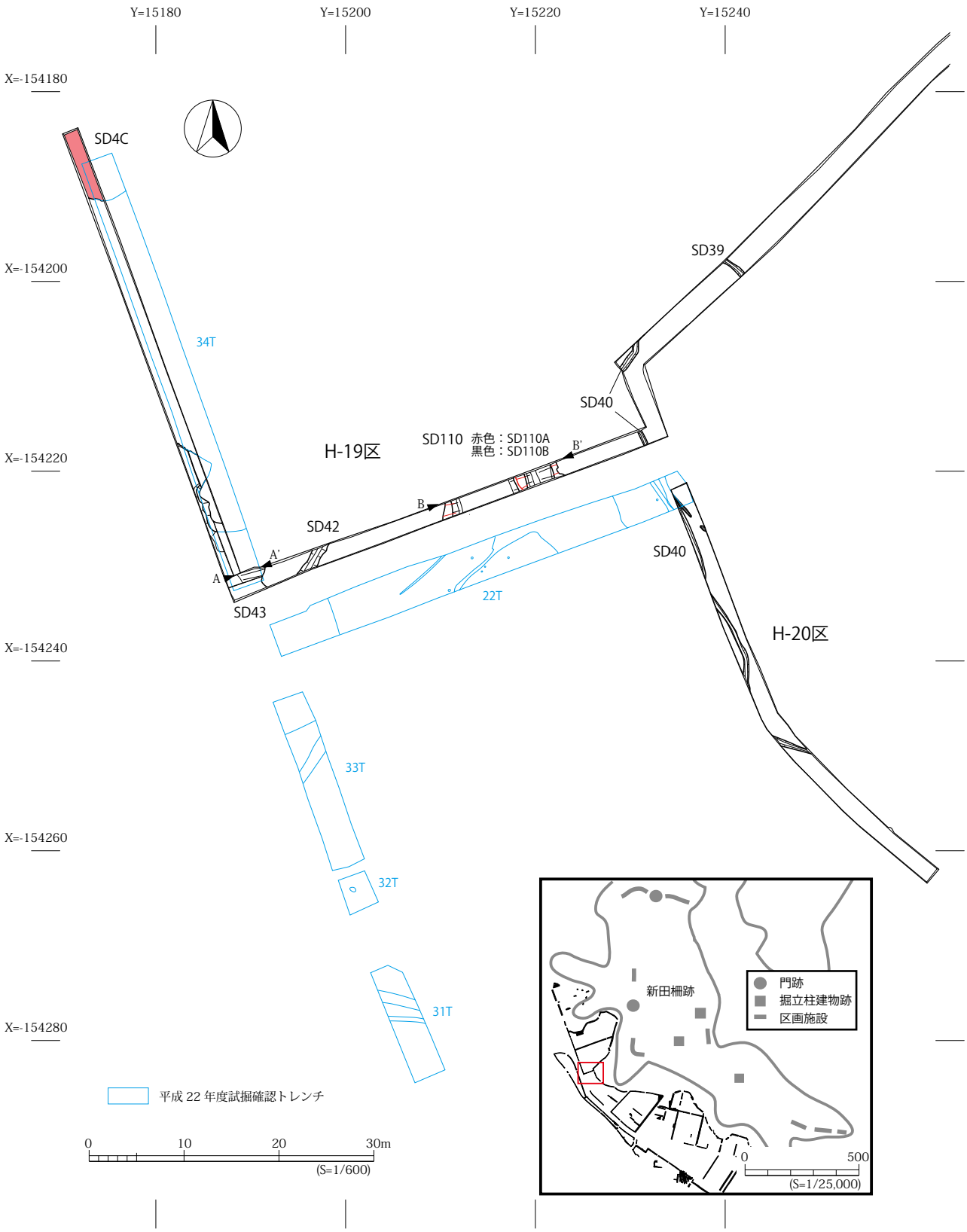
【SD110河川跡】（平面図：第 20 図、断面図・遺物：第 21 図）

H-19 区中央に位置する。2 時期（A → B）認められた。

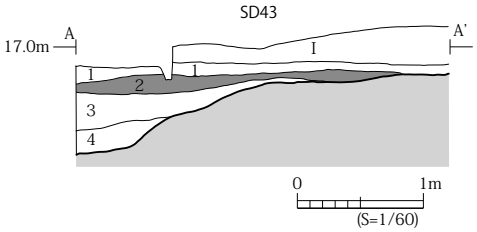
SD110A は、検出長が 1.5m、規模が、上幅 13.6m、深さ 0.50m である。堆積土には灰白色火山灰層が認められ、これより下位の層から土師器坏・甕、須恵器坏（第 21 図 5・6）・甕、丸瓦、植物種子が出土した。SD110B は、検出長が 1.5m である。東西に近接して 2 条認められたが、堆積土の関係から一連のものである。規模は、西側が上幅 7.0m、深さ 0.1 ～ 0.2m、東側が上幅 3.0m、深さ 0.5m である。土師器甕が出土した。



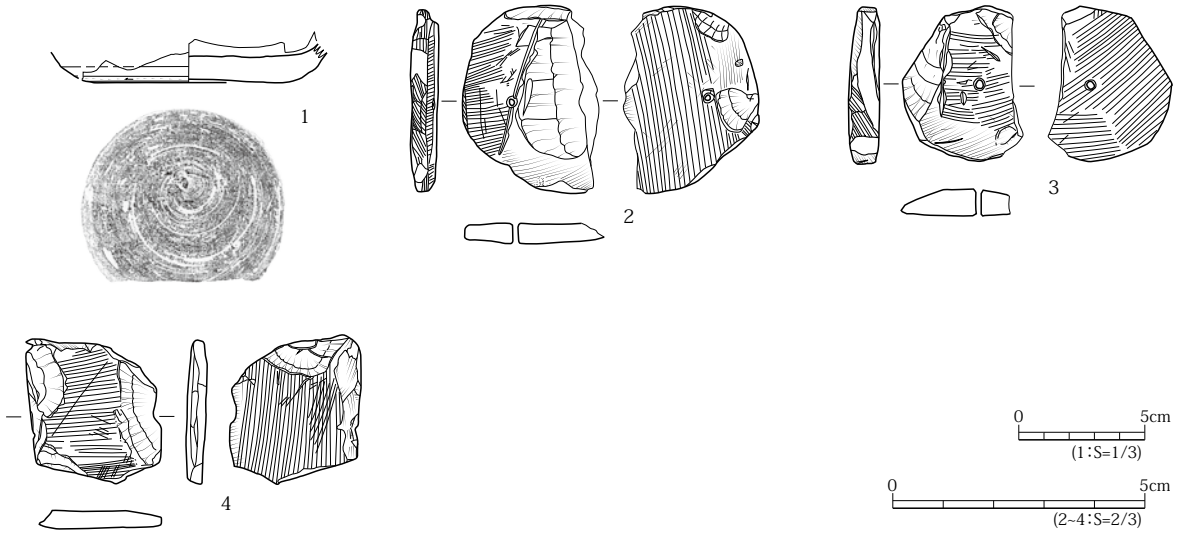
第 19 図　H-17・18 区　遺構配置図



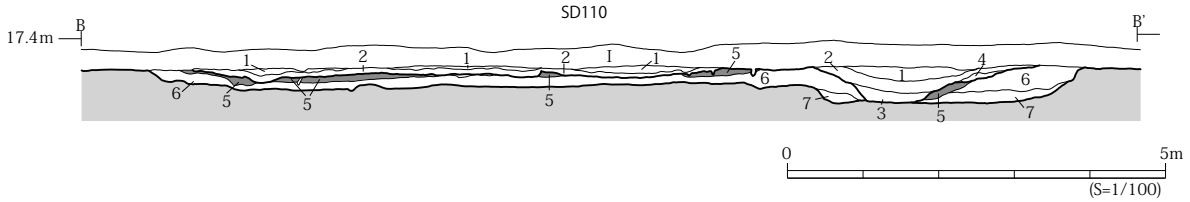
第 20 図　H-19･20区　遺構配置図



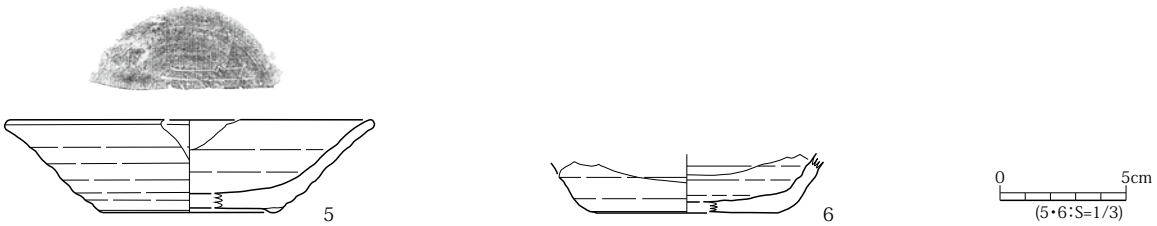
層	土色	土性	特徴
1	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	
2	灰白色火山灰	シルト	
3	灰黄褐色（10YR5/2）	砂質シルト	Ⅴ層小ブロックを少量、酸化マンガンを斑に含む
4	褐灰色（10YR5/1）	シルト	Ⅴ層小ブロックを少量、酸化マンガンを斑に含む



No.	種別・器種	層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	須恵器　坏	3・4 層	（体）一部（底）3/4	底径 8.2cm　外内：ロクロナデ　底：切り離し不明→（体下～底）回転ヘラケズリ　内面摩耗	44-8	R519
2	石製模造品　有孔円板	3 層	破損	粘板岩製　長（38.2㎜）　幅（27.1㎜）　厚（4.1㎜）　重（6.47g）　孔径 1.0 ～ 1.3㎜	44-5	R523
3	石製模造品　有孔円板	3 層	破損	粘板岩製　長（31.0㎜）　幅（24.8㎜）　厚（5.6㎜）　重（5.62g）　孔径1.0～1.1㎜	44-6	R524
4	石製模造品　未製品	3・4 層	破損	粘板岩製　長（29.1㎜）　幅（28.0㎜）　厚（3.8㎜）　重（3.85g）	44-7	R527

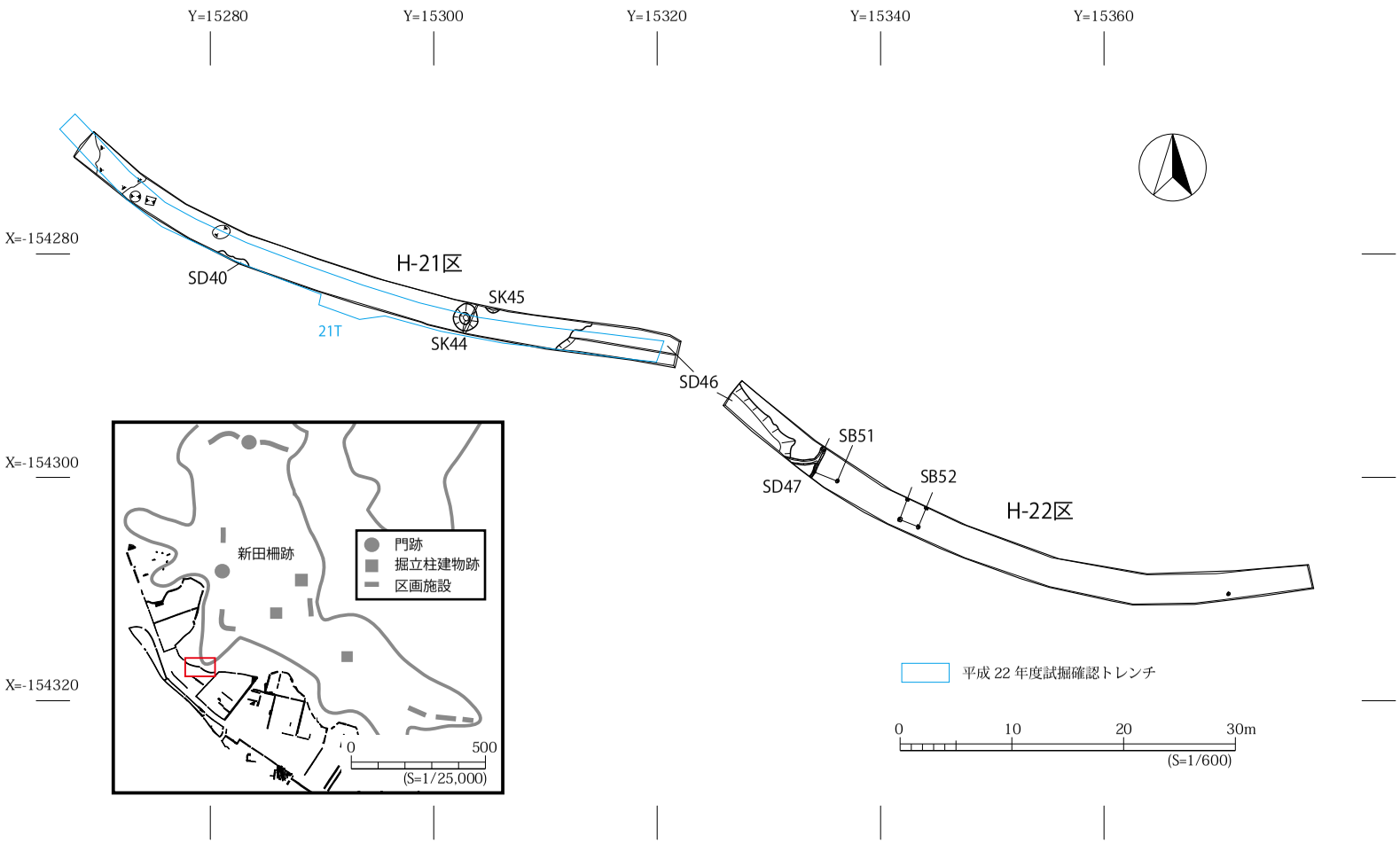


遺構	層	土色	土性	特徴
SD110B	1	黒褐色（10YR3/2）	シルト	
	2	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	
	3	灰黄褐色（10YR4/2）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックをわずかに、細砂小ブロックを含む
	4	褐灰色（10YR5/1）	シルト	Ⅴ層小ブロックをわずかに、灰白色火山灰小ブロックを少量、酸化マンガンを斑に含む
SD110A	5	灰白色火山灰	シルト	
	6	灰黄褐色（10YR5/2）	砂質シルト	Ⅴ層小ブロックを少量、酸化マンガンを斑に含む
	7	褐灰色（10YR5/1）	シルト	Ⅴ層小ブロックを少量、酸化マンガンを斑に含む

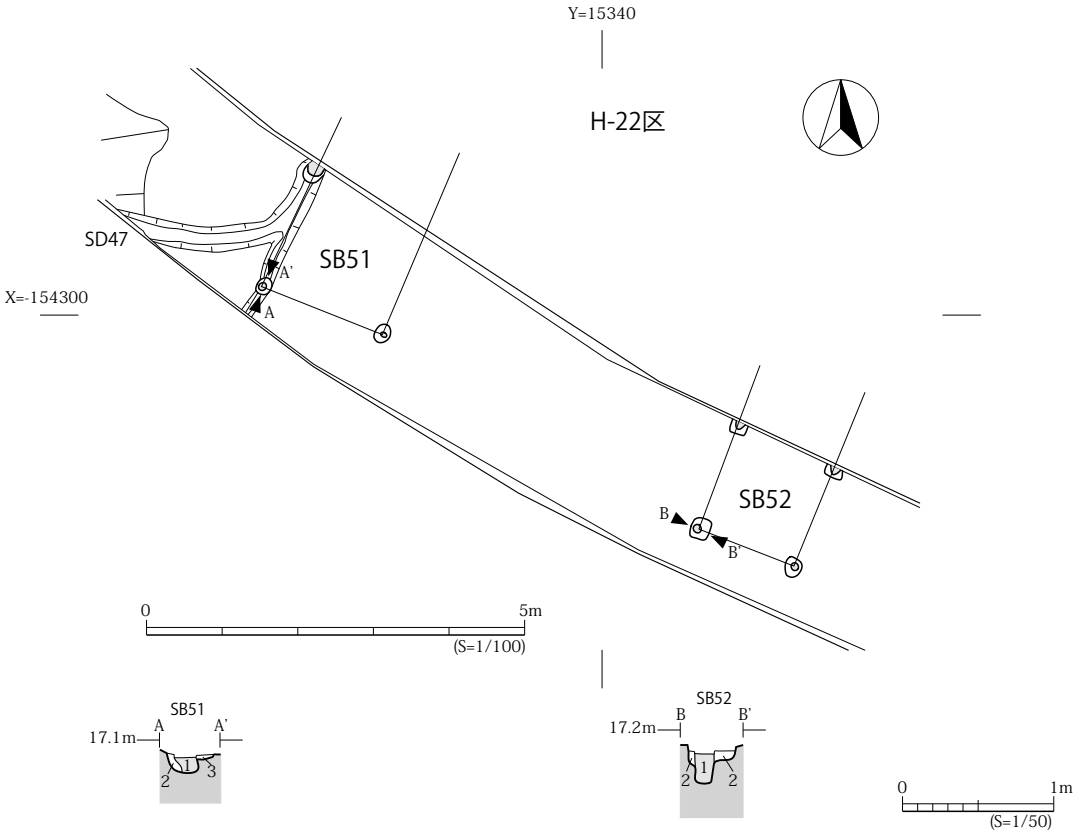


No.	種別・器種	層	残存	法量（cm）			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径	器高			
5	須恵器　坏	5 ～ 7 層	（口～底）1/4	（14.7）	（7.2）	（3.7）	外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整　内面底部に２条の刻線あり　内面摩耗	44-9	R517
6	須恵器　坏	5 ～ 7 層	（体～底）9/10		7.6		外内：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り→ナデ　火襷痕あり　内面底部摩耗	44-10	R518

第 21 図　H-19 区　SD43・110 河川跡　断面・出土遺物



第 22 図　H-21・22区　遺構配置図



層	土色	土性	特徴	備考	層	土色	土性	特徴	備考
1	褐灰色（7.5YR4/1）	シルト	炭化物、酸化鉄を少量含む	柱痕跡	1	褐灰色（7.5YR5/1）	砂質シルト	V層小ブロック、酸化マンガンを少量含む	柱痕跡
2	褐灰色（10YR4/1）	シルト	V層小ブロックを含む	掘方埋土	2	灰褐色（7.5YR4/2）	砂質シルト	V層小ブロック、酸化マンガンを少量含む	掘方埋土
3	褐灰色（10YR4/1）	シルト	V層小ブロックを多量に含む	掘方埋土					

第 23 図　H-22区　SB51・52掘立柱建物跡

⑤H-21・22区

H-21 区で溝跡 1 条（SD40）、土坑 2 基（SK44・45）、自然流路跡 1 条（SD46）、H-22 区で、掘立柱建物跡 2 棟（SB51・52）、溝跡 1 条（SD47）、自然流路跡 1 条（SD46）を検出した（第 22 図）。掘立柱建物跡、SK44 土坑、SD46 自然流路跡のみ記述し、それ以外については第 8・10・13 表に特徴をまとめた。なお、H-21 区のカクランから黒曜石製石器（図版 44-13）、試掘確認調査 21 トレンチから石製模造品（第 25 図 3）が出土している。

A. 掘立柱建物跡

【SB51掘立柱建物跡】（平面・断面図：第 23 図）

〔**位置**〕H-22 区に位置し、南側柱列すべてと西側柱列の一部を検出した。

〔**柱間数・棟方向**〕南北 1 間以上、東西 1 間の建物跡である。

〔**重複**〕SD47 溝跡と重複し、これより古い。

〔**検出状況**〕3 個検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認した。

〔**平面規模**〕西側柱列で 2.3m 以上、南側柱列で 2.3m である。

〔**方向**〕西側柱列でみると北で東に 24°偏る。

〔**柱穴**〕掘方は長軸 32 ～ 36cm 以上の楕円形で、深さは 7 ～ 16cm である。柱痕跡は径 12 ～ 14cm の円形、楕円形である。

〔**出土遺物**〕柱痕跡から土師器甕が出土した。

【SB52掘立柱建物跡】（平面・断面図：第 23 図）

〔**位置**〕H-22 区に位置し、南側柱列すべてと東・西側柱列の一部を検出した。

〔**柱間数・棟方向**〕南北 1 間以上、東西 1 間の建物跡である。

〔**検出状況**〕4 個検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認した。

〔**平面規模**〕西側柱列で 2.0m 以上、南側柱列で 1.8m である。

〔**方向**〕西側柱列でみると北で東に 20°偏る。

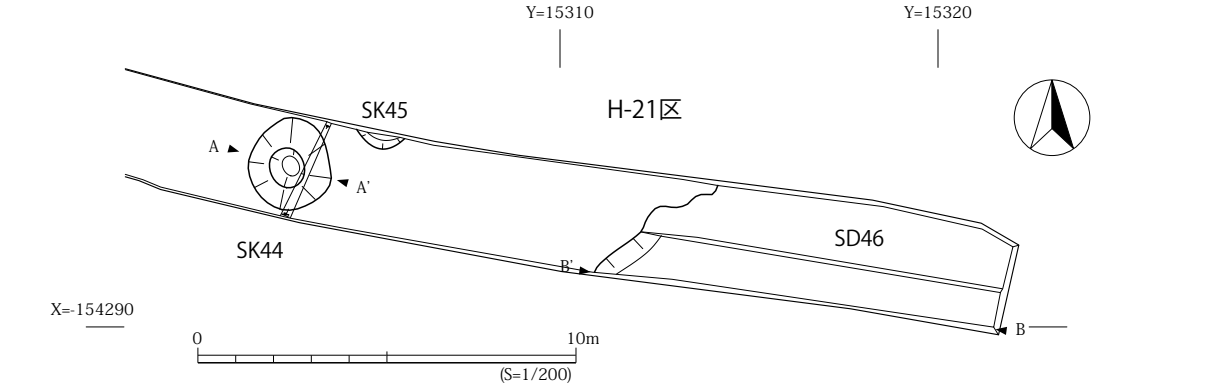
〔**柱穴**〕掘方は長軸 36cm の隅丸方形、楕円形で、深さは 17 ～ 25cm である。柱痕跡は径 12 ～ 15cm の円形、楕円形である。

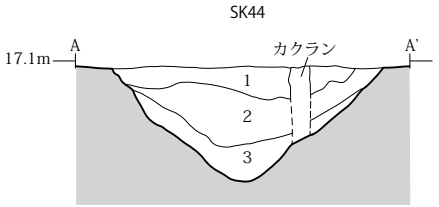
〔**出土遺物**〕掘方埋土と柱痕跡から土師器甕が出土した。

B. 土坑・自然流路跡

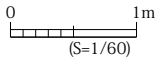
【SK44土坑】（平面・断面図・遺物：第 24 図）

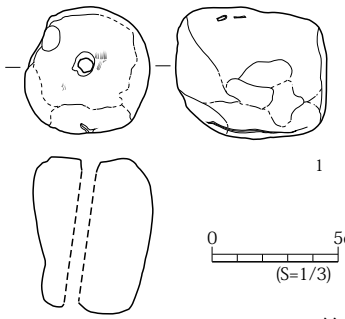
H-21 区東側に位置する。平面は円形で、規模は長軸 2.4m、短軸 2.2m、深さ 0.9m である。断面は「V」字状である。堆積土は 3 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から土師器坏・甕、須恵器甕、土錘（第 24 図 1）、棒状の木製品、鉄滓が出土した。





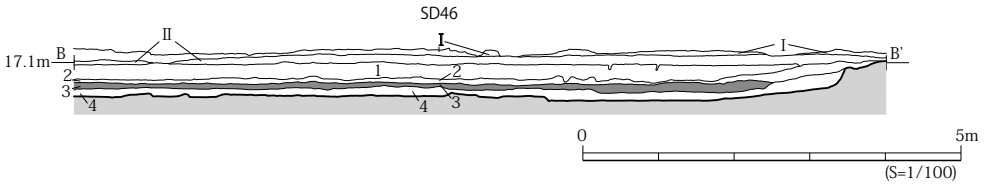
層	土色	土性	特徴
1	暗灰黄色（2.5Y5/2）	シルト	にぶい黄色(2.5Y6/3)シルト小ブロックを含む
2	灰黄褐色(10YR5/2)	シルト	にぶい黄色(2.5Y6/3)シルト質砂ブロック・大ブロックを含む 下部に酸化鉄が堆積
3	暗灰黄色(2.5Y4/2)	シルト	



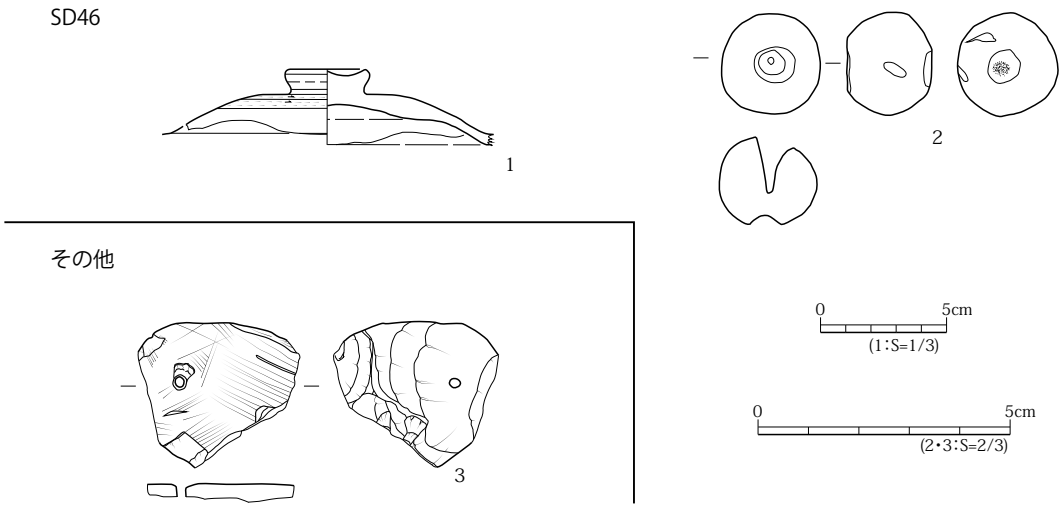


No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	土製品　土錘	SK44　2・3 層	完形	長 6.3cm　幅 5.4cm　厚 5.0cm 孔径 0.6 ～ 0.8cm　オサエ・ナデ	44-15	R532

第 24 図　H-21区　SK44土坑、SD46自然流路跡



層	土色	土性	特徴
1	黒褐色（10YR3/2）	シルト	
2	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	
3	灰白色火山灰	シルト	
4	灰黄褐色（10YR5/2）	砂質シルト	Ⅴ層小ブロックを少量、酸化マンガンを斑に含む



No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	須恵器　蓋	SD46　底	（体～つまみ）1/1	外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ取り付け→ロクロナデ　内：ロクロナデ	44-11	R530
2	土製品　土玉	SD46　4 層	完形	径 2.0cm　高 1.8cm　孔径 0.2 ～ 0.8cm　貫通していない	44-14	R531
3	石製模造品　有孔円板	21 トレンチ	破損	粘板岩製　長（28.1㎜）幅（31.6㎜）厚（3.3㎜）重（3.64g）孔径 1.3 ～ 2.1㎜　未製品カ	44-12	R655

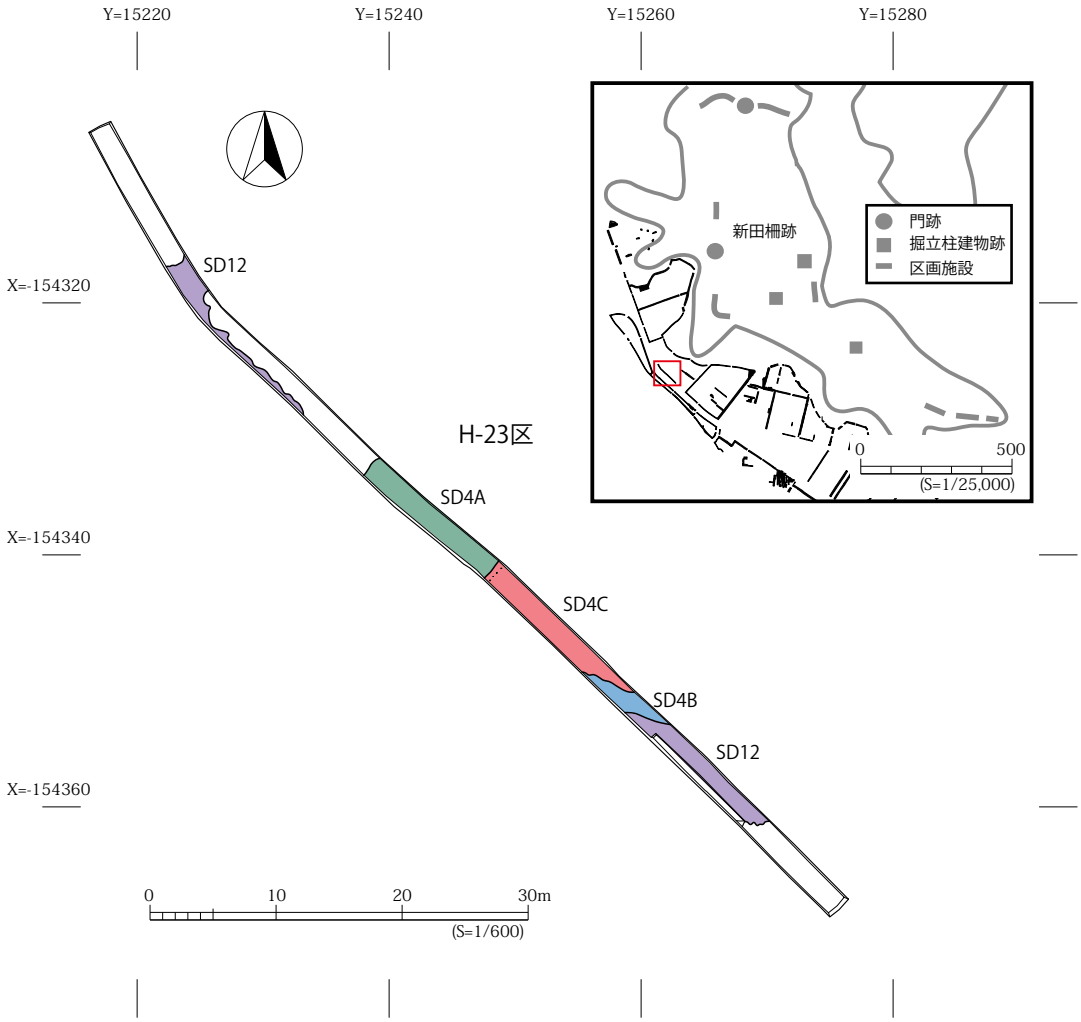
第 25 図　H-21 区　SD46 自然流路跡　断面・出土遺物、その他の出土遺物

【SD46自然流路跡】（平面図：第 22・24 図、断面図・遺物：第 25 図）

H-21 区東端と H-22 区西端に位置する。H-22 区で SD47 溝跡と重複し、これより古い。検出長は南北で 7.2m、規模は上幅 13.8 ～ 23.4m、深さ 0.46m である。堆積土には灰白色火山灰層が認められた。底面から須恵器蓋（第 25 図 1）、4 層からロクロ調整の土師器坏、非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・甕、土玉（2）、堆積土から植物種子が出土した。

⑥H-23・24区

H-23 区で河川跡 2 条（SD4・12）（第 26 図）、H-24 区で溝跡 13 条（SD55・56・58・59・61 ～ 64・66・69 ～ 71・73）、井戸跡 3 基（SE65・67・68）、土坑 4 基（SK53・54・60・72）、河川跡 3 条（SD4・12・110）、基本層序Ⅵ層を検出した（第 27 ～ 30 図）。SD63・64・69・73 溝跡、井戸跡、SK53 土坑、SD4・12・110 河川跡、基本層序Ⅵ層について記述し、それ以外については第 8・10 表に特徴をまとめた。



第 26 図　H-23区　遺構配置図

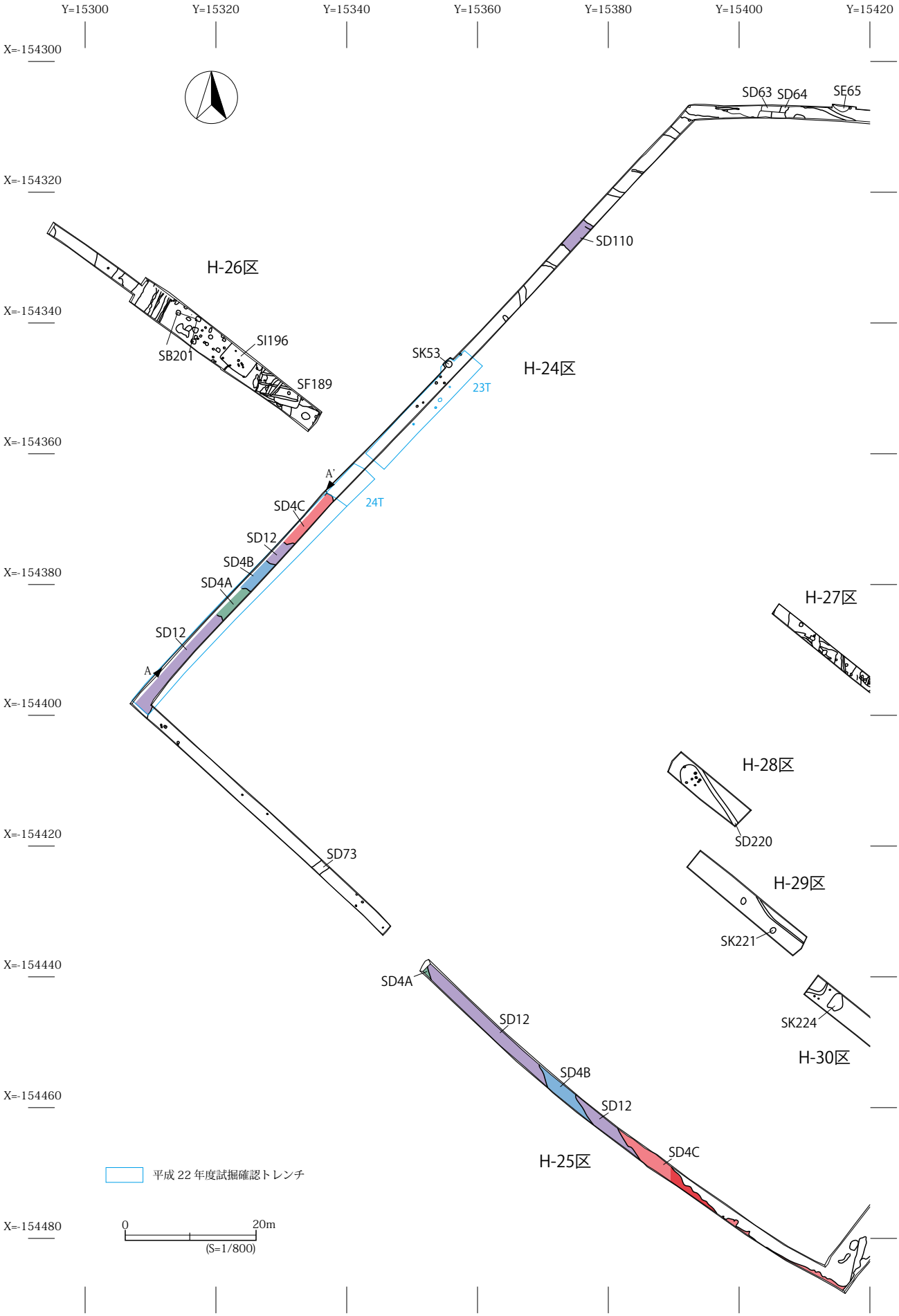
A. 溝跡

【SD63溝跡】（平面図：第 29 図、断面図：第 31 図）

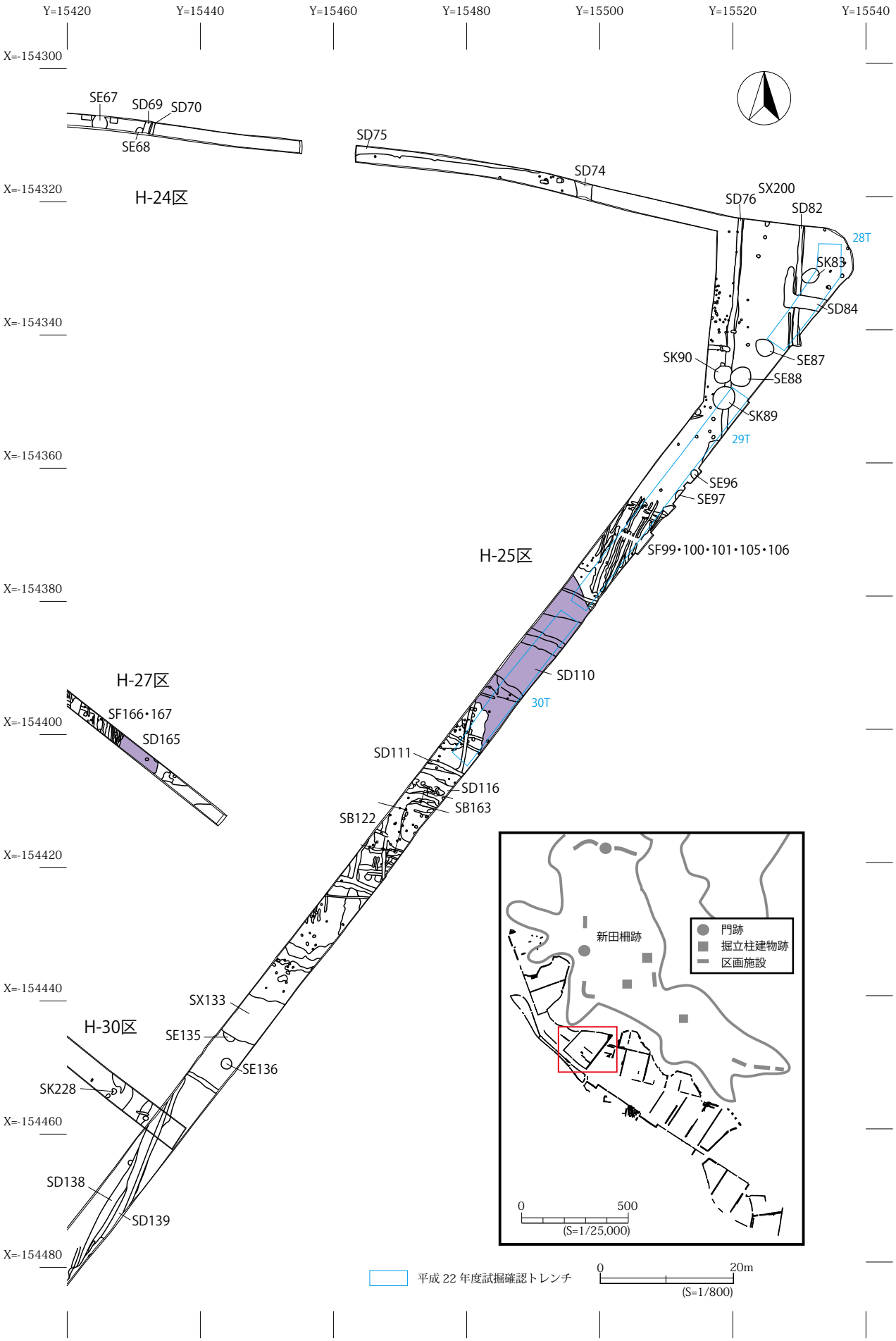
H-24 区北部に位置する。SD64 溝跡と重複し、これより新しい。北東－南西方向で、検出長は 1.8m、規模は、上幅 2.88 ～ 3.0m、下幅 0.24 ～ 0.3m、深さ 0.76m である。断面は逆台形で、東側に幅 84cm 程度のテラス状の段がつく。堆積土は 6 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から土師器甕、須恵器坏・甕が出土した。

【SD64溝跡】（平面図：第 29 図、断面図：第 31 図）

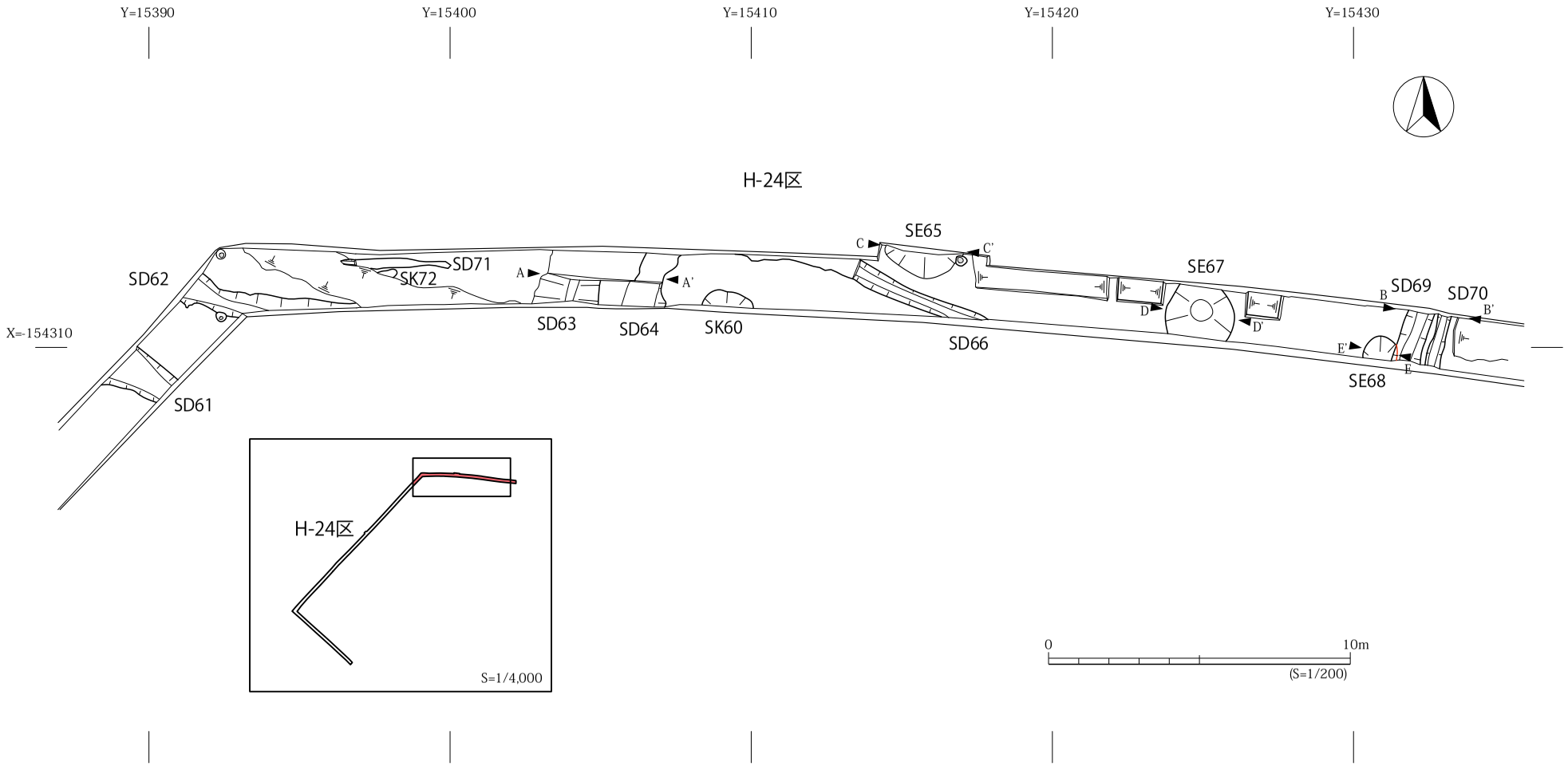
H-24 区北部に位置する。SD63 溝跡と重複し、これより古い。北東－南西方向で、検出長は 1.8m、規模は、上幅 1.4m 以上、下幅 1.02m 以上、深さ 0.26m 以上である。断面形は SD63 に壊されているため不明である。堆積土は 3 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から土師器坏・甕、須恵器鉢が出土した。



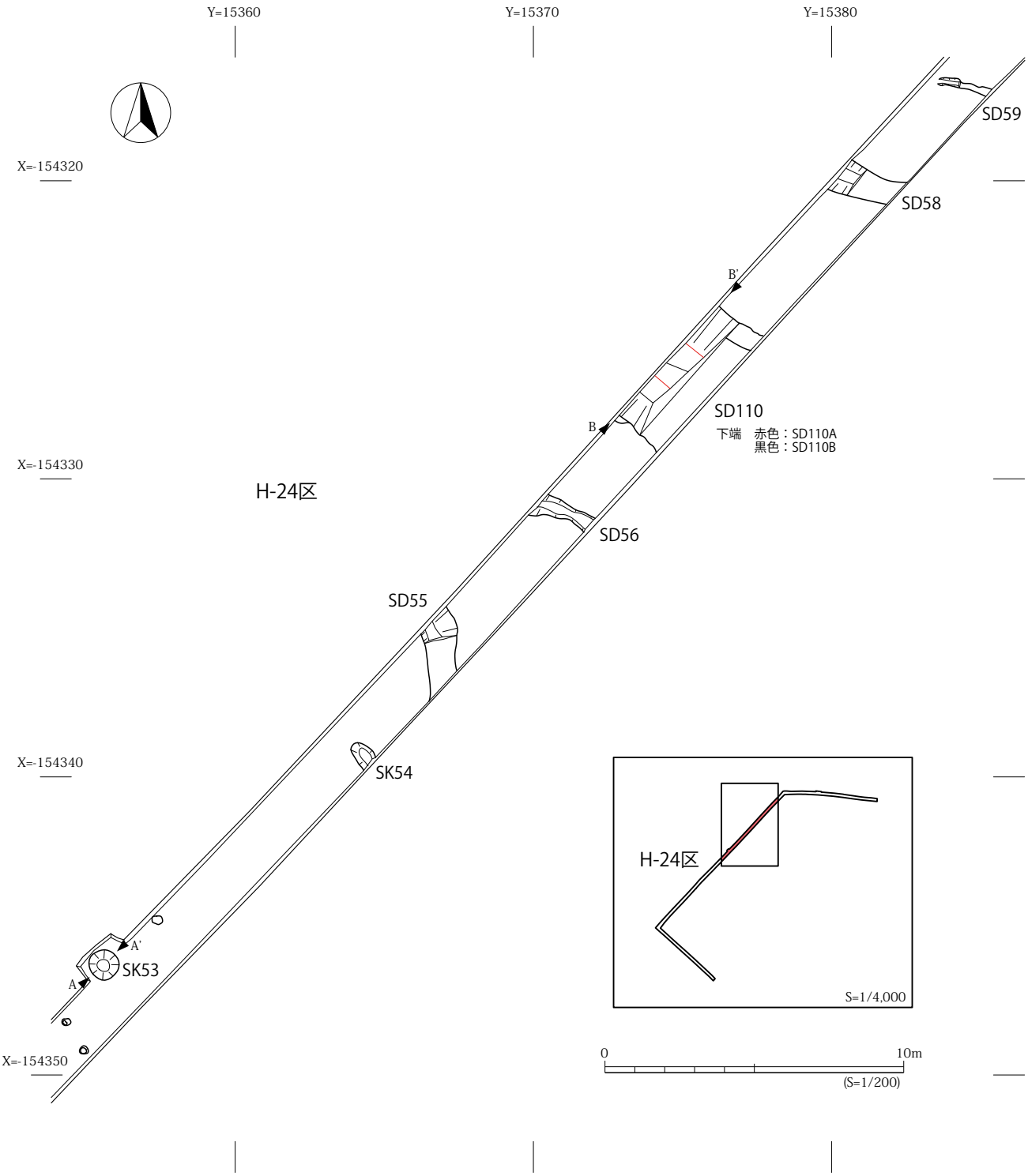
第 27 図　H-24～30区　遺構配置図(1)



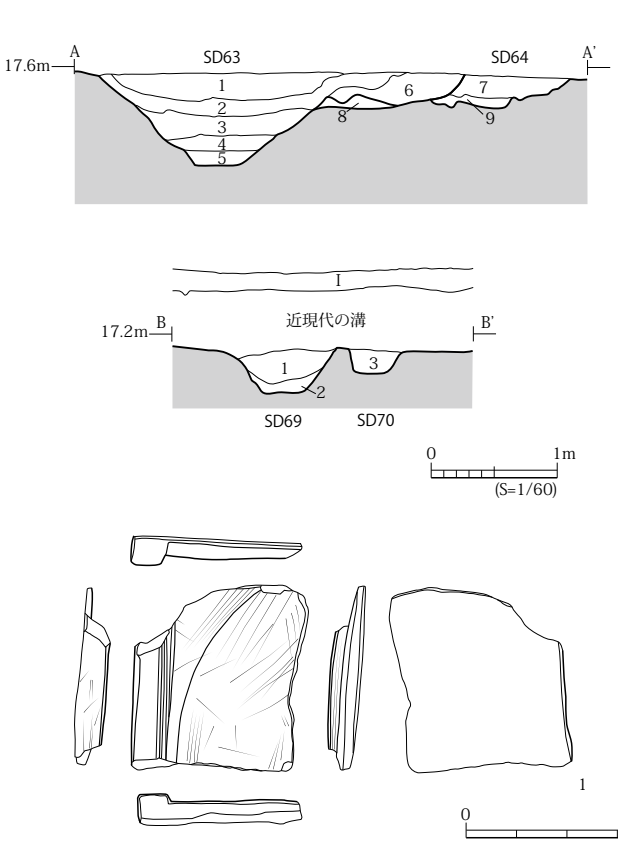
第 28 図　H-24～30区　遺構配置図 (2)



第 29 図　H-24 区北側　検出遺構 1



第 30 図　H-24 区北側　検出遺構 2



遺構	層	土色	土性	特徴
SD 63	1	暗灰黄色(2.5Y4/2)	シルト	
	2	灰黄褐色(10YR5/2)	シルト	
	3	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	にぶい黄橙色(10YR7/4)シルトブロックを含む
	4	灰色(7.5Y4/1)	粘土質シルト	
	5	灰色(5Y4/1)	シルト	
	6	黒褐色(10YR3/2)	シルト	炭化物をわずかに、にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト小ブロックを含む
SD 64	7	暗灰黄色(2.5Y5/2)	シルト	
	8	黄褐色(2.5Y5/3)	シルト	炭化物をわずかに含む
	9	にぶい黄褐色(10YR5/3)	シルト	

遺構	層	土色	土性	特徴
SD 69	1	黒褐色(10YR3/2)	粘土	
	2	暗灰黄色(2.5Y4/2)	粘土	にぶい黄色(2.5Y6/3)シルト粒をわずかに、酸化鉄を少量含む
SD 70	3	黒褐色(10YR3/2)	シルト質粘土	にぶい黄色(2.5Y6/3)シルト小ブロックを少量含む

No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	石製品 硯	SD69 堆	破損	粘板岩製 長(3.6 cm) 幅(3.3 cm) 厚(0.6 cm) 重(6.8g)	45-2	R562

第 31 図　H-24 区　SD63・64・69・70 溝跡　断面・出土遺物

【SD69溝跡】（平面図：第 29 図、断面図・遺物：第 31 図）

H-24 区北部に位置する。SE68 井戸跡と重複し、これより新しい。北東―南西方向で、検出長は 1.65m、規模は上幅 0.84 ～ 0.95m、下幅 0.3 ～ 0.36m、深さ 0.35m である。断面は逆台形である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から土師器坏・甕、須恵器鉢・甕、石硯（第 31 図 1）が出土した。

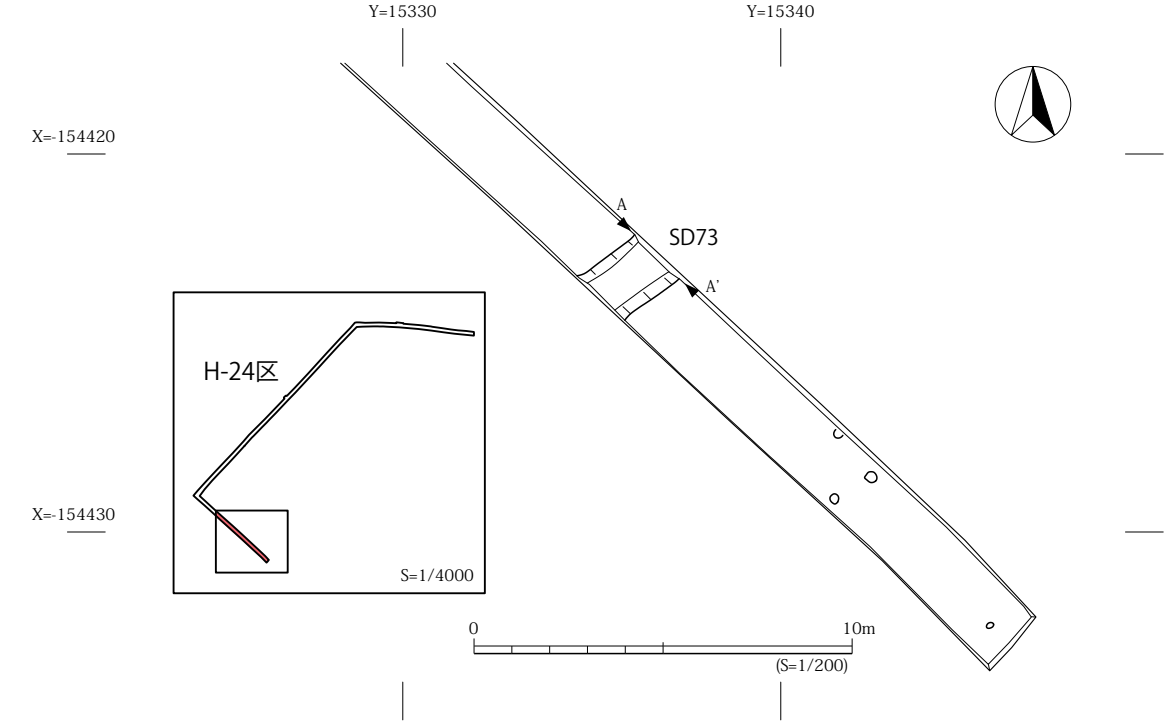
【SD73溝跡】（平面・断面図・遺物：第 32 図）

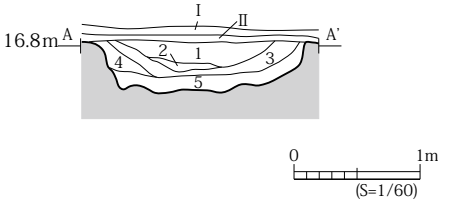
H-24 区南部に位置する。北東―南西方向で、検出長は 1.8m、規模は、上幅 1.62 ～ 1.68m、下幅 0.96 ～ 1.14m、深さ 0.43m である。断面は逆台形で、底面には凹凸がある。堆積土は 5 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から非ロクロ調整の土師器壺（第 32 図 1・2、図版 45-5）・甕（4・5）・手捏土器（3）が出土した。

B. 井戸跡・土坑

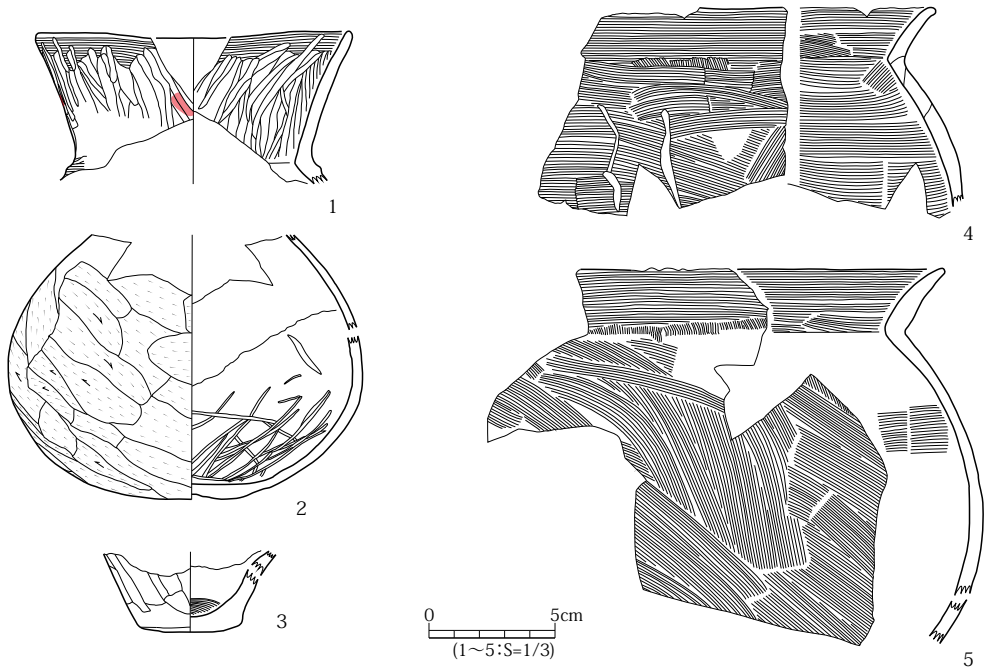
【SE65井戸跡】（平面図：第 29 図、断面図：第 33 図）

H-24 区北部に位置し、南半のみ調査を行い底面は未検出である。規模は、東西が 2.58m 以上、南北 1.02m 以上、深さ 1.0m 以上である。堆積土は 5 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から土師器甕、須恵器坏・甕が出土した。





層	土色	土性	特徴
1	黄灰色(2.5Y4/1)	シルト	V層小ブロック、炭化物片をやや多く含む
2	黒褐色(2.5Y3/2)	シルト	V層小ブロックを多量に含む
3	黒褐色(2.5Y3/1)	シルト	V層粒・小ブロック、炭化物片、焼土小ブロックを含む
4	にぶい黄色(2.5Y6/3)	粘土質シルト	V層小ブロックを多量に含む
5	黄灰色(2.5Y5/1)	シルト	V層小ブロックを多量に含む



No.	種別・器種	層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	土師器　壺	堆下層	(口～頸)1/4	口径(12.6cm)　外:(口)ナデ→ヘラミガキ→赤彩　内:(口)ナデ→ヘラミガキ	45-4	R575
2	土師器　壺	堆上層	(体)一部(底)1/1	外:ヘラケズリ　内:ヘラミガキ	45-3	R578
3	土師器　手捏土器	堆上層	(体)一部(底)1/1	底径4.0cm　外:ヘラケズリヵ　内:ヘラナデ	45-6	R584
4	土師器　甕	堆上層	(口～胴)一部	外:(口)ナデ→ハケメ→(胴)ハケメ→一部ヘラミガキ　内:(口)ハケメ(胴)ヘラナデ	45-7	R580
5	土師器　甕	堆上層	(口～胴)一部	外:(口)ナデ→ハケメ→(胴)ハケメ　内:(口)ハケメ(胴)ヘラナデ	45-8	R577

第 32 図　H-24区　SD73溝跡

【SE67井戸跡】（平面図：第 29 図、断面図・遺物：第 33 図）

H-24 区北部に位置し、南北端は調査区外のため未検出である。平面は円形で、規模は長軸 2.3m、短軸 1.7m 以上、深さは 1.5m である。断面は漏斗形である。堆積土は 8 層に分かれ、いずれも自然堆積である。1 層から鉄製品の釘（第 33 図 2）、2 層から銅銭（熙寧元宝）（図版 45-11）と動物骨、5 層から曲物の底板（3）、堆積土から土師器甕、須恵器甕、平瓦が出土した。

【SE68井戸跡】（平面図：第 29 図、断面図：第 33 図）

H-24 区北部に位置し、北半のみ調査を行い底面は未検出である。SD69 溝跡と重複し、これより古い。平面は円形とみられ、規模は東西 1.2m、南北 0.78m 以上、深さ 0.64m 以上である。堆積土は 3 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から土師器甕、須恵器鉢、木製の杭が出土した。

【SK53土坑】（平面図：第 30 図、断面図・遺物：第 33 図）

H-24 区西側中央に位置する。平面は円形で、規模は径 0.96m、深さ 0.54m、断面は逆台形である。堆積土は 5 層に分かれ、1 層が人為的埋土、2 ～ 5 層が自然堆積である。堆積土から土師器甕、須恵器坏、砥石（第 33 図 1）が出土した。

C. 河川跡

【SD4河川跡】（平面図：第 26・27 図、断面図：第 34 図、遺物：第 35 図）

H-23 区と 24 区南西部に位置する。H-23 区では北東－南西・東西方向、H-24 区では北西―南東方向である。SD12 河川跡と重複し、これより新しい。3 時期（A → B → C）認められた。H-24 区で截ち割り調査を行ったが、底面は未検出である。

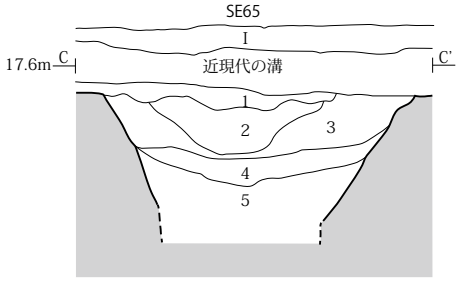
SD4A は、H-23 区で検出長 2.0m、上幅 12.8m、H-24 区で検出長 2.0m、上幅 9.0m 以上、深さ 0.6m、SD4B は、H-23 区で検出長 7.6m、上幅 1.6m 以上、H-24 区で検出長 2.0m、上幅 9.3m 以上、深さ 1.0m 以上、SD4C は、H-23 区で検出長 2.0m、上幅 15.0m、H-24 区で検出長 2.0m、上幅 12.7m、深さ 0.8m 以上である。陶器、土師器坏・壺（第 35 図 1）・甕、須恵器坏・甕が出土した。

【SD12河川跡】（平面図：第 26・27 図、断面図：第 34 図、遺物：第 35 図）

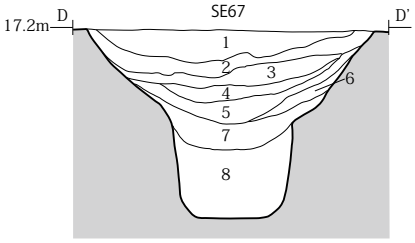
H-23 区と 24 区南西部に位置する。H-23 区は北側が北東―南西方向、南側が東西方向、H-24 区は北東―南西方向である。いずれも SD4 河川跡と重複し、これより古い。截ち割り調査を行ったが、底面は未検出である。H-23 区では、検出長が北側 2.0m、南側 12.0m、規模が上幅 9.4m 以上、深さ 1.0m 以上、H-24 区では、検出長が 34.8m、規模が上幅 3.5m 以上、深さ 1.0m 以上である。堆積土上層である 6 層には灰白色火山灰小ブロック・ブロックが非常に多く含まれる。H-23 区で土師器坏・甕、須恵器坏・甕、平瓦（第 35 図 2）、植物遺存体、H-24 区で土師器高坏（3）・坏（4 ～ 6）・鉢・甕、須恵器坏・甕、砥石が出土した。

【SD110河川跡】（平面図：第 27・30 図、断面図：第 34 図、遺物：第 35 図）

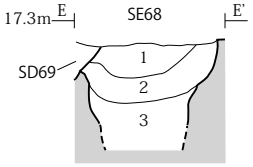
H-24 区北西部に位置する。2 時期（A → B）認められた。SD110A は、検出長 1.8m、規模が上幅 5.1m、深さ 0.94m である。土師器、須恵器、石製模造品の未製品（第 35 図 7・8）、剥片（第 35 図 9、図版 45-22）、石核（第 35 図 10）が出土した。SD110B は、検出長 1.8m、規模が上幅 4.3m、深さ 0.77m である。土師器、須恵器、石製模造品、剥片（図版 45-23）、黒曜石製のスクレイパー（11）、動物骨が出土した。



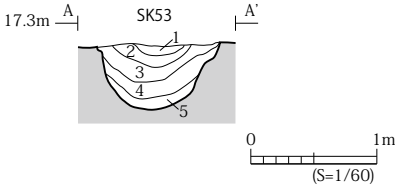
層	土色	土性	特徴	備考
1	灰黄褐色（10YR4/2）	シルト		自然堆積
2	黒褐色（10YR3/1）	シルト		
3	黒褐色（10YR2/2）	シルト		
4	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト		
5	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	緑灰色（7.5GY6/1）粘土質シルトブロックを含む	



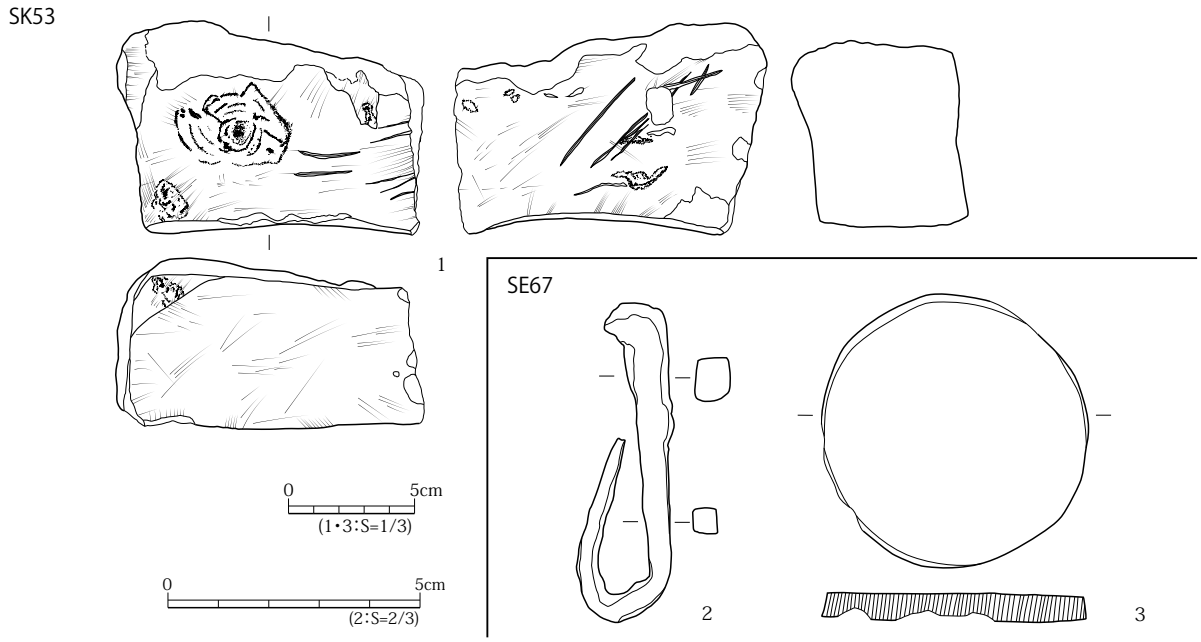
層	土色	土性	特徴	備考
1	黄灰色(2.5Y4/1)	シルト	灰黄色(2.5Y6/2)粘土質シルトブロック・大ブロックを含む　スクモが部分的に堆積	自然堆積
2	暗灰黄色(2.5Y4/2)	シルト	スクモを多量に含む	
3	黄灰色(2.5Y4/1)	シルト	明黄褐色(10YR6/6)シルトブロック・大ブロックを多量に、砂をわずかに含む	
4	黒褐色(2.5Y3/1)	シルト質粘土	炭化物をわずかに含む	
5	灰色(10Y4/1)	砂質シルト	V層小ブロックを含む	
6	灰色(7.5Y5/1)	シルト質砂	灰黄色(2.5Y6/2)シルト質粘土ブロックを東端に含む	
7	オリーブ黒色(7.5Y3/1)	シルト質粘土	層下部に植物遺体を含む	
8	褐灰色(10YR5/1)	粘土質シルト	植物遺体をわずかに含む	



層	土色	土性	特徴	備考
1	黄灰色(2.5Y4/1)	粘土質シルト	V層ブロック・大ブロックを含む	自然堆積
2	黒褐色(2.5Y3/2)	シルト質粘土	酸化鉄をわずかに、暗灰黄色(2.5Y5/2)シルトブロック・大ブロックを含む	
3	黒褐色(10YR3/1)	粘土	黄褐色(2.5Y5/3)シルトブロックを含む	

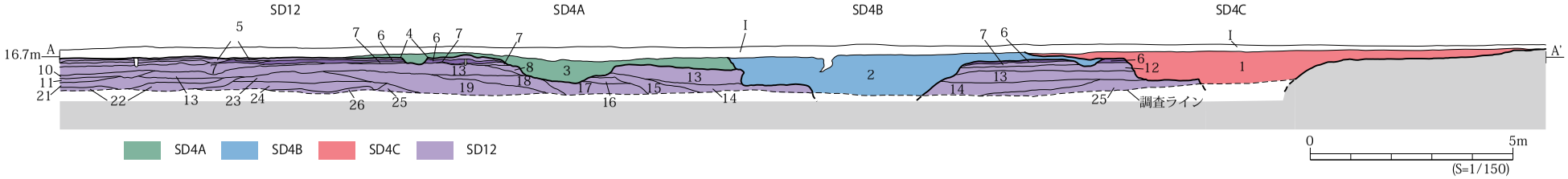


層	土色	土性	特徴	備考
1	黒褐色(10YR3/1)	シルト	にぶい黄橙色(10YR6/3) シルト大ブロックを含む	人為
2	黒色(10YR2/1)	シルト		自然堆積
3	褐灰色(10YR4/1)	シルト	層下部ににぶい黄橙色(10YR7/3)シルト小ブロックを少量含む	
4	にぶい黄橙色(10YR7/3)	シルト	褐灰色(10YR4/1)粘土質シルトブロックを含む	
5	黄灰色(2.5Y4/1)	粘土質シルト		

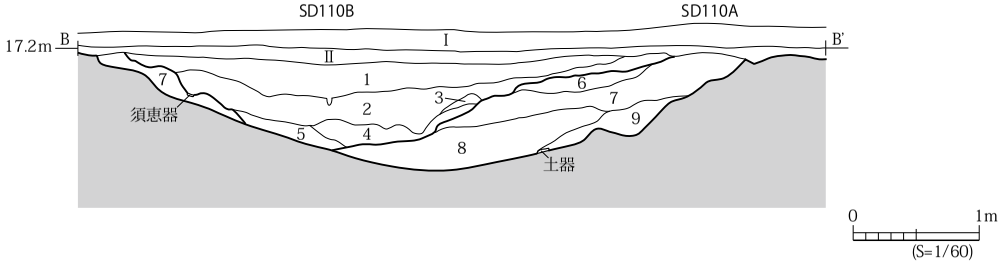


No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	石製品　砥石	SK53　埋	破損	凝灰岩製　長(9.0cm)　幅(14.0cm)　厚(7.1cm)　重(539g)　砥面 3	45-12	R560
2	鉄製品　釘	SE67　1 層	完形	長 6.2cm　先端折れ曲がる	45-9	R605
3	木製品　曲物底板	SE67　5 層	ほぼ完形	長 10.9cm　幅 10.5cm　厚 1.1cm	45-10	R608

第 33 図　H-24 区　SE65・67・68 井戸跡、SK53 土坑　断面・出土遺物



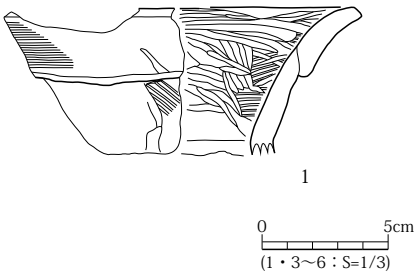
遺構	層	土色	土性	特徴	遺構	層	土色	土性	特徴
SD4C	1	暗灰黄色(2.5Y4/2)	砂質シルト	酸化マンガンを多量に含む	SD12	14	灰黄褐色(10YR4/2)	砂質シルト	13 層起源の小ブロック含む
SD4B	2	暗灰黄色(2.5Y5/2)	砂質シルト	上部に酸化マンガン、中部に酸化鉄を多量に含む		15	暗灰黄色(2.5Y5/2)	細砂	細砂と互層になる
SD4A	3	暗灰黄色(2.5Y4/2)	砂質シルト	Ⅴ層小ブロック、酸化鉄を含む		16	黄褐色(2.5Y5/3)	ざ細砂	
SD12	4	黒褐色(10YR3/2)	シルト			17	にぶい黄色(2.5Y6/3)	細砂	灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルトと互層になる
	5	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	酸化鉄を含む		18	灰黄色(2.5Y6/2)	細砂	灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルトと互層になる
	6	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	灰白色火山灰小ブロック・ブロックを非常に多く含む		19	にぶい黄色(2.5Y6/3)	砂	酸化鉄を含む
	7	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックをわずかに、酸化鉄を含む		20	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	酸化鉄を多量に含む
	8	黒褐色(2.5Y3/2)	シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む		21	灰黄褐色(10YR5/2)	粘土質シルト	
	9	黒褐色(10YR3/1)	シルト質粘土	Ⅴ層小ブロック・ブロック、酸化鉄を含む		22	黒褐色(2.5Y3/2)	シルト質粘土	
	10	黒色(10YR2/1)	粘土	酸化鉄を少量含む		23	黄褐色(2.5Y5/3)	砂	酸化鉄を多量に含む
	11	黄灰色(2.5Y4/1)	粘土			24	暗灰黄色(2.5Y4/2)	砂質シルト	
	12	黒褐色(2.5Y3/2)	シルト	Ⅴ層小ブロックを含む		25	黒褐色(2.5Y3/2)	砂質シルト	13 層起源の小ブロック含む
	13	にぶい黄橙(10YR6/4)	シルト	酸化鉄を多量に含む		26	灰色(7.5Y4/1)	砂質シルト	酸化鉄をわずかに含む



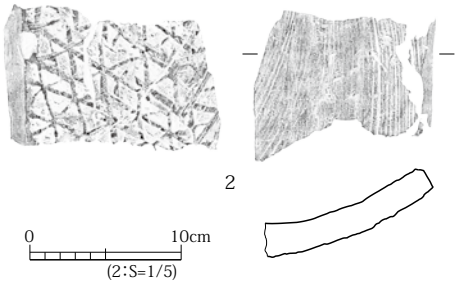
遺構	層	土色	土性	特徴
SD110B	1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	Ⅴ層小ブロック、黒褐色(10YR3/1)シルト小ブロックを多量に、酸化マンガンを斑に含む
	2	黒褐色(10YR3/1)	シルト	上部に細砂をラミナ状に、灰黄褐色(10YR4/2)シルト小ブロックを多量に、酸化マンガンを斑に含む
	3	灰黄褐色(10YR5/2)	シルト	酸化マンガンを斑に含む
	4	黄灰色(2.5Y4/1)	シルト	炭化物をわずかに、灰白色火山灰小ブロックを含む
	5	暗灰黄色(2.5Y4/2)	シルト	炭化物をわずかに、酸化マンガンを斑に含む
SD110A	6	黄灰色(2.5Y5/1)	シルト	細砂、酸化マンガンを斑に含む
	7	暗灰黄色(2.5Y5/2)	シルト	Ⅴ層小ブロックを少量、酸化マンガンを斑に含む
	8	黄灰色(2.5Y4/1)	シルト	細砂と互層になる
	9	黒褐色(2.5Y3/2)	シルト	Ⅴ層ブロックを多量に含む　細砂と互層になる

第 34 図　H-24 区　SD4・12・110 河川跡　断面

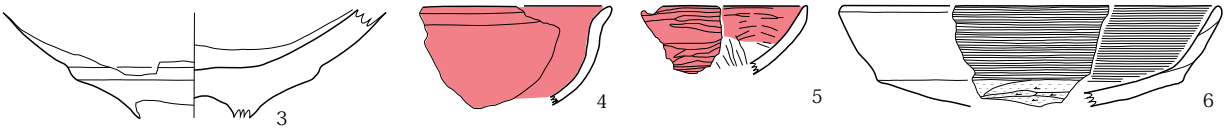
H-23 区　SD4



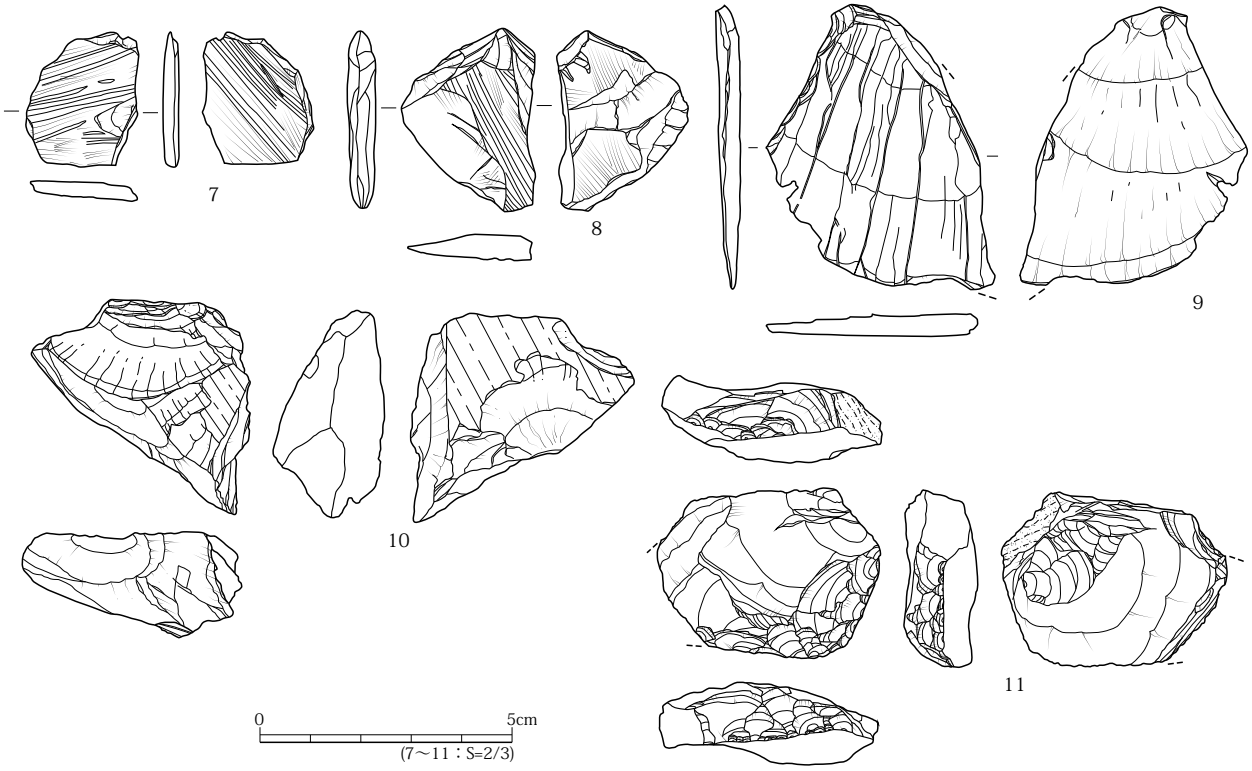
H-23 区　SD12



H-24 区　SD12



H-24 区　SD110

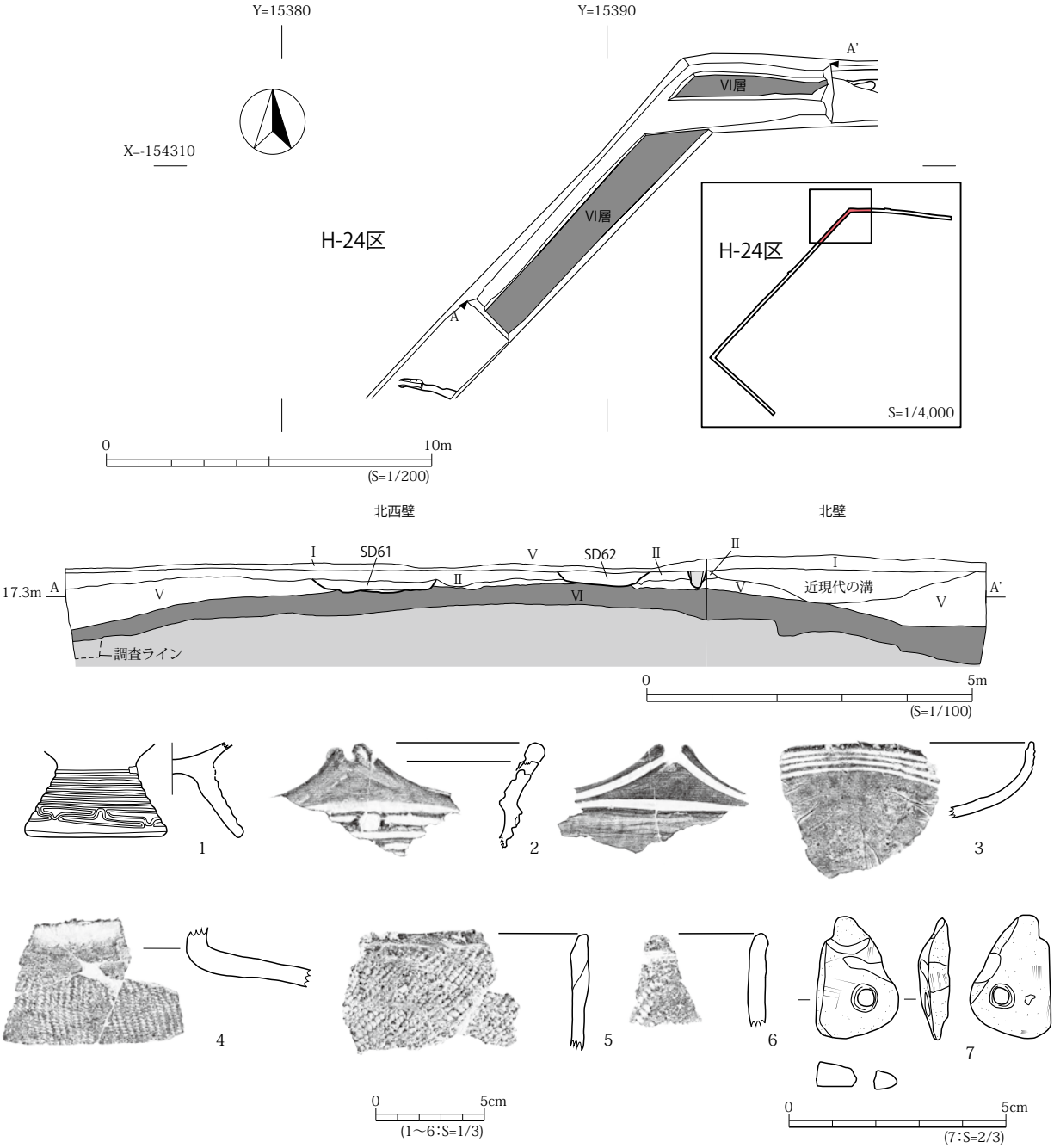


No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	土師器　壺	SD4　堆	口頸部	外：(口)ナデ→ヘラミガキ(頸)ハケメ→ヘラミガキ　内：ハケメ→ヘラミガキ　複合口縁	44-16	R536
2	平瓦	SD12　堆	破損	凸面：花文タタキ目　凹面：糸切痕→ナデ	44-17	R534
3	土師器　高坏	SD12　確認面	坏部	外内：不明	45-16	R602
4	土師器　坏	SD12　7〜11 層	(口〜体)一部	外内：不明→赤彩	45-13	R542
5	土師器　坏	SD12　26 層	(口〜体)一部	外内：ヘラミガキ→赤彩	45-14	R557
6	土師器　坏	SD12　9 層	(口〜底)一部	口径(15.2cm)　外：(口)ナデ(体〜底)ヘラケズリ　内：ナデ　丸底	45-15	R551
7	石製模造品　未製品	SD110A　堆	破損	粘板岩製　長(25.9㎜)　幅(21.2㎜)　厚(2.5㎜)　重(2.18g)　有孔円板の未製品カ	45-17	R568
8	石製模造品　未製品	SD110A　堆	破損	粘板岩製　長(35.2㎜)　幅(25.8㎜)　厚(5.1㎜)　重(4.38g)　有孔円板の未製品カ	45-18	R569
9	石器　剥片	SD110A　堆	破損	粘板岩製　長(57.5㎜)　幅(41.3㎜)　厚(4.1㎜)　重(10.44g)	45-20	R570
10	石器　石核	SD110A　堆	破損	粘板岩製　長(44.3㎜)　幅(45.6㎜)　厚(21.6㎜)　重 29.63g	45-19	R571
11	石器　スクレイパー	SD110B　2 層	破損	黒曜石製　長(3.5cm)　幅(4.4cm)　厚 1.5cm　重(24.0g)　湯の倉産カ	45-21	R603

第 35 図　H-23・24 区　SD4・12・110 河川跡　出土遺物

D. その他

H-24 区北西隅の地表面から 45cm 下で基本層序Ⅵ層を検出した。調査対象とした範囲は、北西隅から東に 4.3m、南西に 9.9m である（第 36 図）。調査範囲の東端では層厚が 57cm、南西端では 17cm であった。Ⅵ層は、H-24 区北西隅を頂点として、西（H-22 区）、南（H-24 区）、東（H-25 区）に傾斜しており、西側に位置する H-22 区東端では、表土から 176cm 下でⅥ層上面が検出された。なお、Ⅵ層の細分は行っていない。縄文土器浅鉢（第 36 図 1 ～ 3）・壺（4）・深鉢（5・6）、石器、石製品（7）が出土した。



No.	種別・器種	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	縄文土器　台付浅鉢	（底～台）1/1	台径 6.5cm　上下交互の四字文　4 単位 2 段	46-1	R590
2	縄文土器　浅鉢	口縁部	四字文　口縁形は波状で 2 個 1 対の突起あり	46-2	R591
3	縄文土器　浅鉢	口縁部	四字文カ	46-5	R593
4	縄文土器　壺	（頸～体）一部	ＬＲ縄文	46-3	R595
5	縄文土器　深鉢	口縁部	ＬＲ縄文	46-4	R596
6	縄文土器　深鉢	口縁部	口縁に一条の沈線　体部にＬＲ縄文　胎土に植物繊維含む	46-6	R598
7	石製品	完形	泥岩製　穿孔あり　長 2.8㎝　幅 1.9㎝　厚 0.7㎝　重 3.79g　孔径 5㎜	46-7	R600

第 36 図　H-24区　基本層序Ⅵ層

⑦H-25区

道路跡 1 条（SX200）、掘立柱建物跡 2 棟（SB122・163）、溝跡 27 条（SD74・75・84・86・92・103・111～114・116・126・127・137～139・146・149・150・152・160～162・216・229～231）、井戸跡 6 基（SE87・88・96・97・135・136）、土坑 21 基（SK77～81・83・89～91・93・95・123～125・132・134・143・147・151・153・154）、小溝状遺構群 9 ヶ所（SF99～102・105・106・155～157）、河川跡・自然流路跡 19 条（SD4・12・110・115・117～121・128～131・140～142・145）、その他（SX98・104・133・144）を検出した（第 27・28 図）。道路跡、掘立柱建物跡、SD74・84・111・114・116・138・139 溝跡、井戸跡、SK83・89・90・123・154 土坑、小溝状遺構群、SD4・12・110・118・120・129～131・141・142 河川跡・自然流路跡について記述し、それ以外については第 8・10・12・13 表に特徴をまとめた。なお、遺構の分布の状況から、SD110 河川跡の北側と南側に分けて記述する。

＜SD110河川跡の北側で検出した遺構＞

SD110 河川跡の北側には、道路跡、溝跡、井戸跡、土坑、小溝状遺構群が分布する。河川跡付近では小溝状遺構群が高い密度で認められる。

A. 道路跡

【SX200南北道路跡】（平面図：第 37 図、断面図：第 38 図、遺物：第 39 図）

北東部で検出した南北方向の道路跡である。I-16・18・19 区で南側の延長部分を確認した。東側と西側に素掘りの道路側溝（SD82・76）が伴い、それぞれ同位置で 1 度改修されている（SD82A → 82B、SD76A → 76B）。SD82 が SK83 土坑、SD84 溝跡と重複し、これらより古く、SD76 が SE88 井戸跡、SK89・90 土坑、SD160 溝跡と重複し、これらより古い。

検出長は A・B 期ともに 32.9m である。路面は削平されており残存していない。また、道路構築時の基礎地業などの痕跡も認められなかった。方向は、北で東に 3°偏る。南北端とも調査区外へ延び、側溝底面の標高は北から南に向かって僅かではあるが低くなる。

SX200A

規模は、北端の側溝心々で 9.4m である。路面幅は不明である。

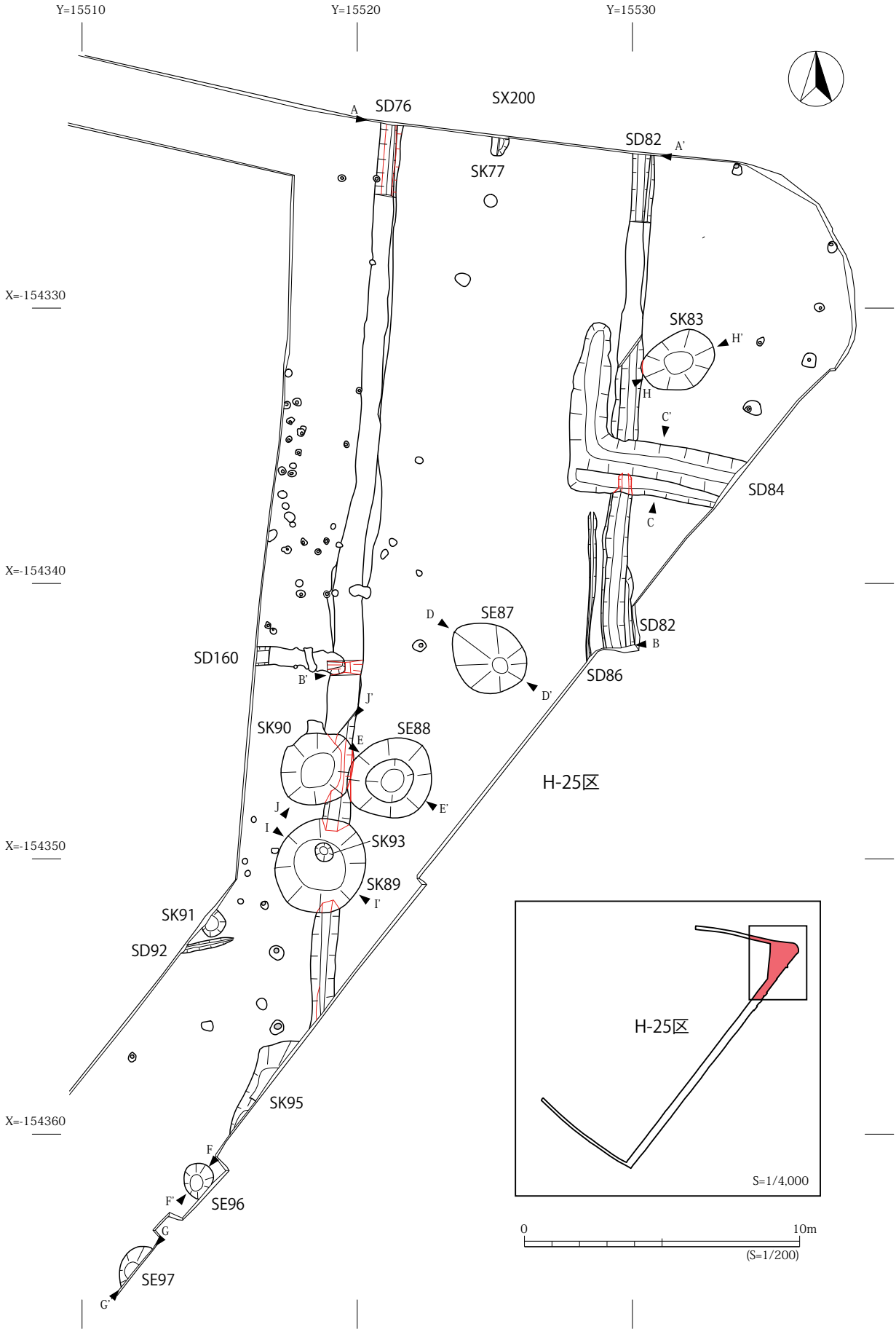
〔東側溝〕SD82A は北端と南端で部分的に確認された。検出長は 8.6m で、規模は、残存している部分で上幅 0.3m 以上、下幅 0.18m 以上、深さは北端で 0.06m、南端で 0.2m 以上である。断面形は B 期に壊されており不明である。堆積土は北端と南端で 1 層ずつ認められ、いずれも自然堆積である。出土遺物はない。

〔西側溝〕SD76A は北半と南端で部分的に確認された。検出長は 20.8m、規模は、中央部で上幅 1.44m、深さ 0.44m 以上、北端部で上幅 0.18m、下幅 0.2m、深さ 0.43m である。断面は逆台形とみられる。堆積土は、北端部で 3 層、中央部で 2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。出土遺物はない。

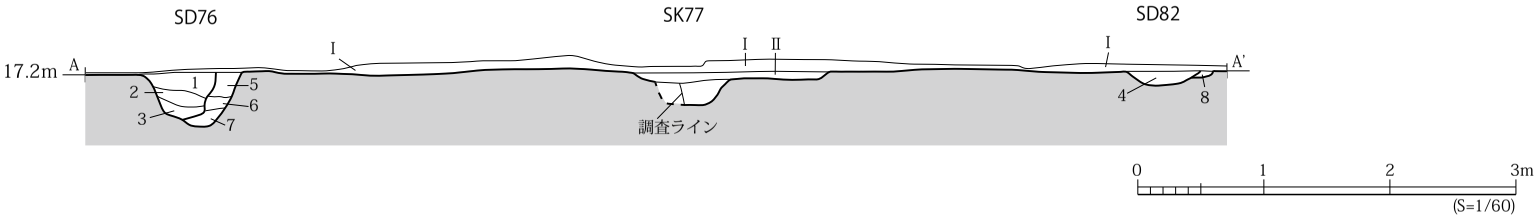
SX200B

規模は、側溝心々の距離が 9.2～9.7m、路面幅が 8.4～8.7m である。

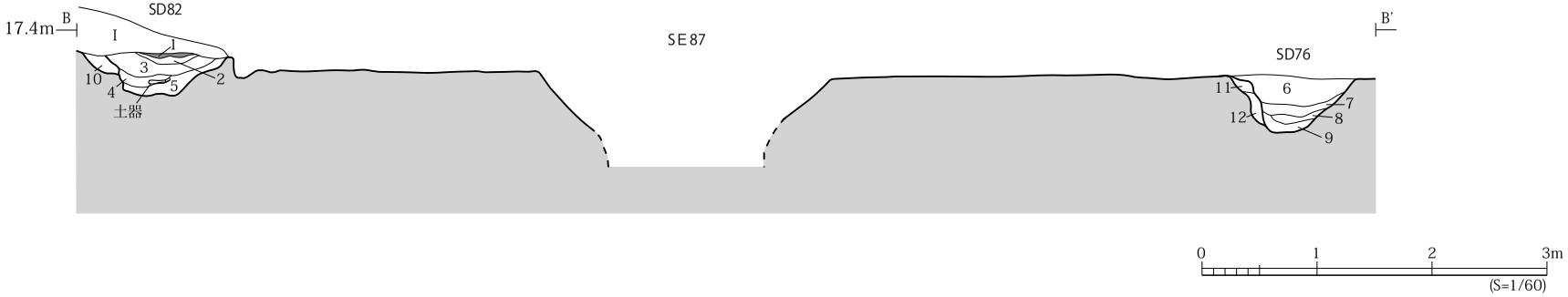
〔東側溝〕SD82B は、検出長が 17.8m、規模が上幅 0.5～1.05m、下幅 0.3～0.35m 以上、深さ 0.11～0.38m である。断面は逆台形である。堆積土は北端で 1 層、南端で 5 層に分かれ、いずれも自然堆積である。



第 37 図　H-25 区北側　検出遺構 1

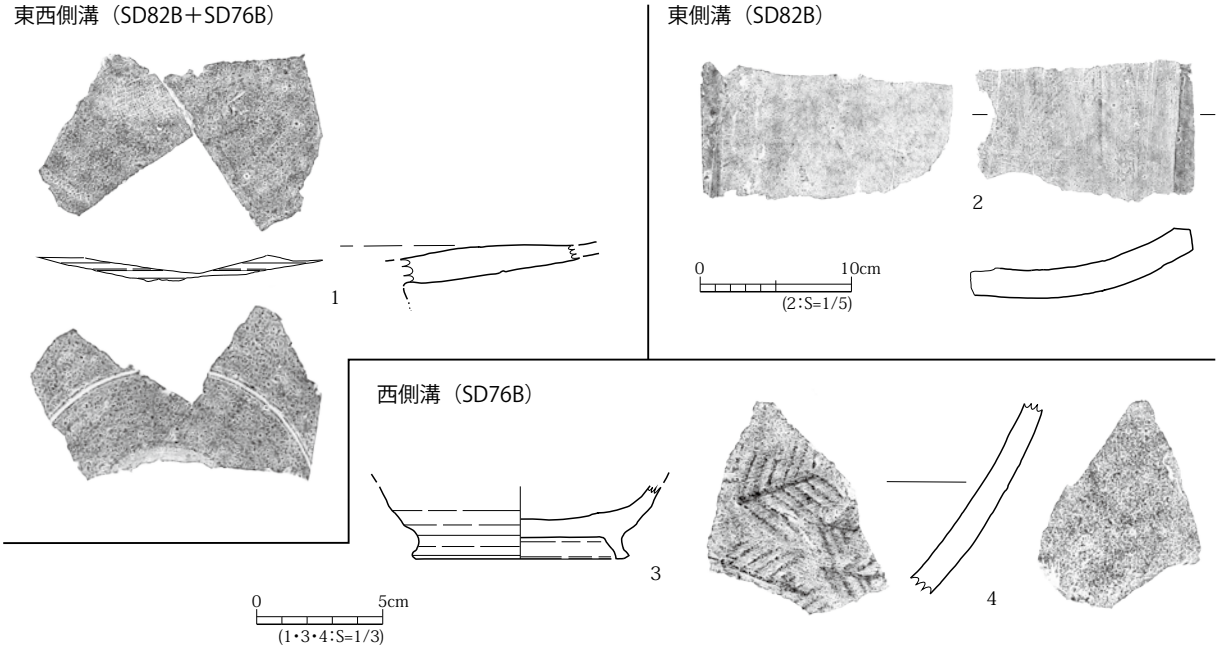


遺構	層	土色	土性	特徴	備考	遺構	層	土色	土性	特徴	備考
SD76B	1	暗灰黄色（2.5Y5/2）	シルト	Ⅴ層小ブロック少量、酸化マンガンを斑に含む	自然堆積	SD76A	5	黄褐色（2.5Y5/3）	シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む	自然堆積
	2	暗灰黄色（2.5Y4/2）	シルト	Ⅴ層粒をわずかに含む			6	黄褐色（2.5Y5/3）	シルト	Ⅴ層小ブロックを少量含む	
	3	黄灰色（2.5Y4/1）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック・ブロック、壁際に酸化鉄を含む			7	暗灰黄色（2.5Y4/2）	シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む	
SD82B	4	暗灰黄色（2.5Y4/2）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む	自然堆積	SD82A	8	暗灰黄色（2.5Y5/2）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む	自然堆積



遺構	層	土色	土性	特徴	備考	遺構	層	土色	土性	特徴	備考
SD82B	1	灰白色火山灰	シルト		自然堆積	SD76B	7	黄灰色（2.5Y6/1）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック、酸化マンガンを斑に含む	自然堆積
	2	褐灰色（10YR4/1）	シルト	灰白色火山灰小ブロックを含む			8	黄灰色（2.5Y5/1）	粘土質シルト	Ⅴ層粒をわずかに含む	
	3	暗灰黄色（2.5Y5/2）	シルト	Ⅴ層粒、炭化物粒をわずかに含む			9	黄灰色（2.5Y5/1）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む	
	4	黄灰色（2.5Y5/1）	シルト	Ⅴ層粒、炭化物粒をわずかに含む		SD82A	10	黄灰色（2.5Y6/1）	シルト	Ⅴ層小ブロックを含む	自然堆積
	5	暗灰黄色（2.5Y5/2）	シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む		SD76A	11	にぶい黄色（2.5Y6/3）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを含む	自然堆積
SD76B	6	黄灰色（2.5Y6/1）	シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む	自然堆積		12	浅黄色（2.5Y7/3）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む	

第 38 図　H-25 区　SX200 南北道路跡　断面



No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	須恵器　高坏	SD76B 堆＋SD82B 堆	坏部	外：ロクロナデ→一条の沈線　内：ロクロナデ→布目痕跡あり	46-11	R154
2	平瓦	SD82B　堆	破損	凸面：ナデ　凹面：摸骨痕→布目→ナデ	46-9	R155
3	須恵器　高台坏	SD76B　堆	（体）一部 （高台）1/1	高台径 8.6cm　外内：ロクロナデ 底：切り離し不明→高台取り付け→ロクロナデ　内面底部摩耗	46-8	R159
4	須恵器　甕	SD76B　堆	胴部	外：矢羽根状タタキ　内：無文の当て具	46-10	R163

第 39 図　H-25 区　SX200 南北道路跡　出土遺物

南端の 1 層は灰白色火山灰層である。堆積土から非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器高坏（第 39 図 1）・坏・蓋・甕、平瓦（2）が出土した。須恵器高坏は、西側溝である SD76B 堆積土から出土したものと接合する。

〔**西側溝**〕SD76B は、検出長が 32.9m、規模が上幅 0.6 ～ 1.17m、下幅 0.2 ～ 0.3m、深さ 0.35 ～ 0.5m である。断面は逆台形である。堆積土は、北端部で 3 層、中央部で 4 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏（第 39 図 3）・壺・甕（4）、平瓦が出土した。

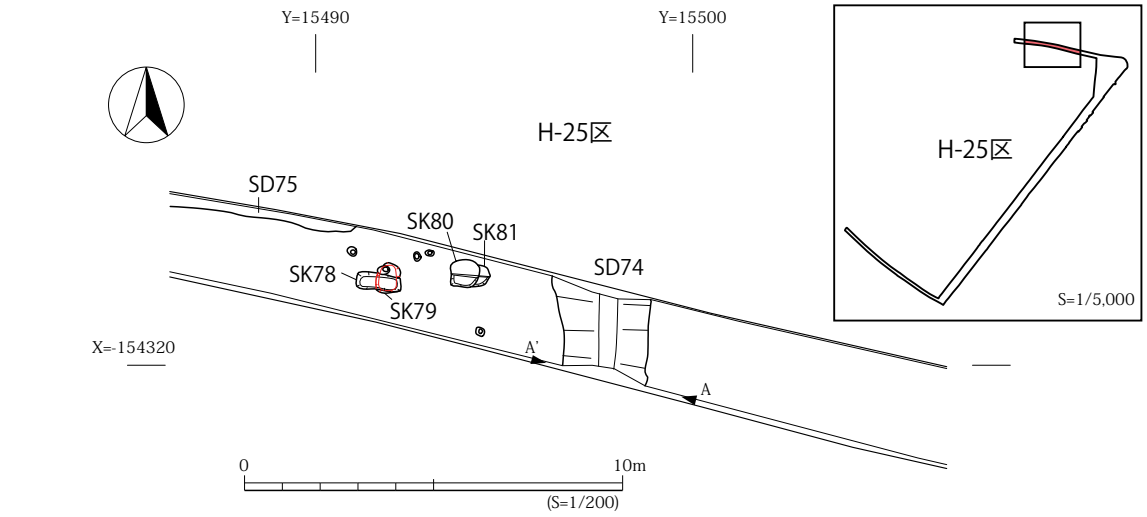
B. 溝跡

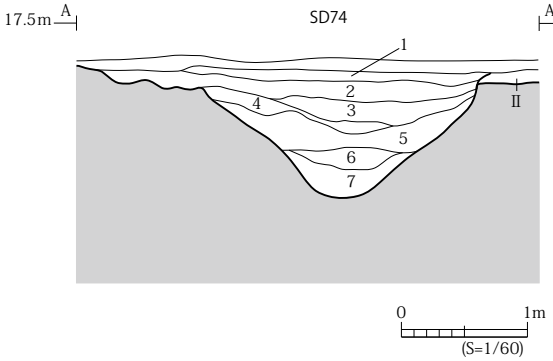
【SD74溝跡】（平面・断面図：第 40 図）

北部に位置する。Ⅱ層上面で検出した。南北方向で、検出長は 2.2m、規模は上幅 2.2 ～ 2.3m、下幅 0.38 ～ 0.48m、深さ 1.0m である。断面は「V」字形で底面は緩やかにくぼむ。堆積土は 7 層に分かれ、いずれも自然堆積である。5・7 層は細砂と互層になる水性堆積、6 層には植物遺体が多量に含まれる。堆積土から土師器甕、須恵器坏・甕、平瓦、動物骨、植物種子が出土した。

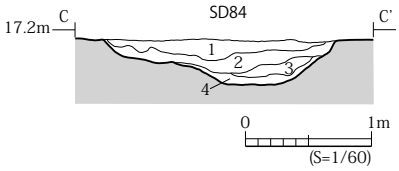
【SD84溝跡】（平面図：第 37 図、断面図・遺物：第 40 図）

北東部に位置する。SD82 道路側溝と重複し、これより新しい。平面は南北と東西方向からなる「L」字形で、検出長は南北 6.0m、東西 5.8m、規模は上幅 0.67～2.0m、下幅 0.32～0.54m、深さ 0.35m である。断面は逆台形で、東西方向では南側に幅 40cm のテラス状の段がつく。堆積土は 4 層に分かれ、すべて自然堆積である。堆積土から中世陶器（第 40 図 1～3）、土師器坏・甕、須恵器坏・甕、丸瓦、平瓦、砥石が出土した。

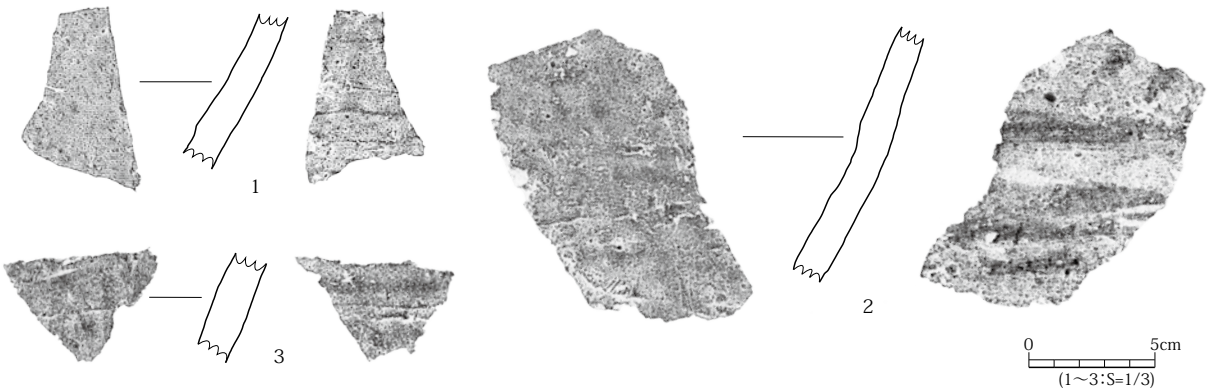




層	土色	土性	特徴	備考
1	暗灰黄色（2.5Y5/2）	シルト	酸化マンガンを斑に含む	自然堆積
2	灰色（5Y4/1）	シルト	酸化鉄を多量に含む	
3	黄灰色（2.5Y4/1）	シルト	酸化鉄を多量に含む	
4	暗灰黄（2.5Y4/2）	シルト	酸化鉄を多量に含む	
5	黒褐色（2.5Y3/1）	シルト質砂	東西壁際で細砂をラミナ状に含む	
6	黒褐色（2.5Y3/2）	シルト質砂	植物遺体を多量に含む	
7	灰色（7.5Y4/1）	シルト質砂	細砂と互層になる	



層	土色	土性	特徴	備考
1	黄灰色（2.5Y5/1）	砂質シルト	灰白色火山灰小ブロックをわずかに、V層小ブロック・ブロック、酸化鉄、酸化マンガンを含む	自然堆積
2	褐灰色（10YR4/1）	粘土質シルト	V層小ブロック・ブロック、酸化鉄、酸化マンガンを含む	
3	暗灰黄（2.5Y5/2）	細砂	酸化鉄を含む	
4	黄灰色（2.5Y5/1）	シルト質粘土		



No.	種別・器種	層	残存	調整	色調	胎土	特徴	写真図版	登録番号
1	中世陶器　甕	堆	胴部	外：ヘラナデ 内：ナデ	外：暗赤褐色（10R3/2・3/3・2.5YR3/3）内：灰赤色（10R4/2）、暗赤灰色（10R3/1）断：褐灰色（10YR6/1・4/1）、明赤褐色（5YR5/6）	径２㎜以下の小礫、ガラス粒多量に、径３～６㎜以下の小礫含む	径７㎜以下の暗赤色（7.5R3/4）、黒褐色（5YR3/1）の鉱物が溶け出したものが表裏面に多量に認められる　在地産　R243・292・326・330～342は同一個体	46-12	R326
2	中世陶器　甕	堆	胴部	外：ヘラナデ 内：オサエ→ナデ				46-14	R335
3	中世陶器　甕	堆	胴部	外：ヘラナデ 内：ヘラナデ	外：黒褐色（5YR3/1）、褐灰色（5YR4/1）、灰褐色（5YR4/2）内：黒褐色（5YR3/1）、灰赤色（2.5YR4/2）断：褐灰色（10YR6/1・4/1）、明赤褐色（5YR5/6）			46-13	R336

第 40 図　H-25 区　SD74 ・84 溝跡　断面・出土遺物

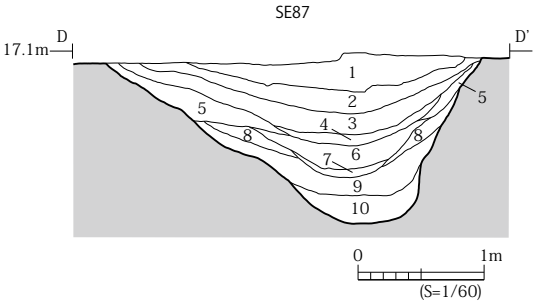
C. 井戸跡

【SE87井戸跡】（平面図：第 37 図、断面図・遺物：第 41 図）

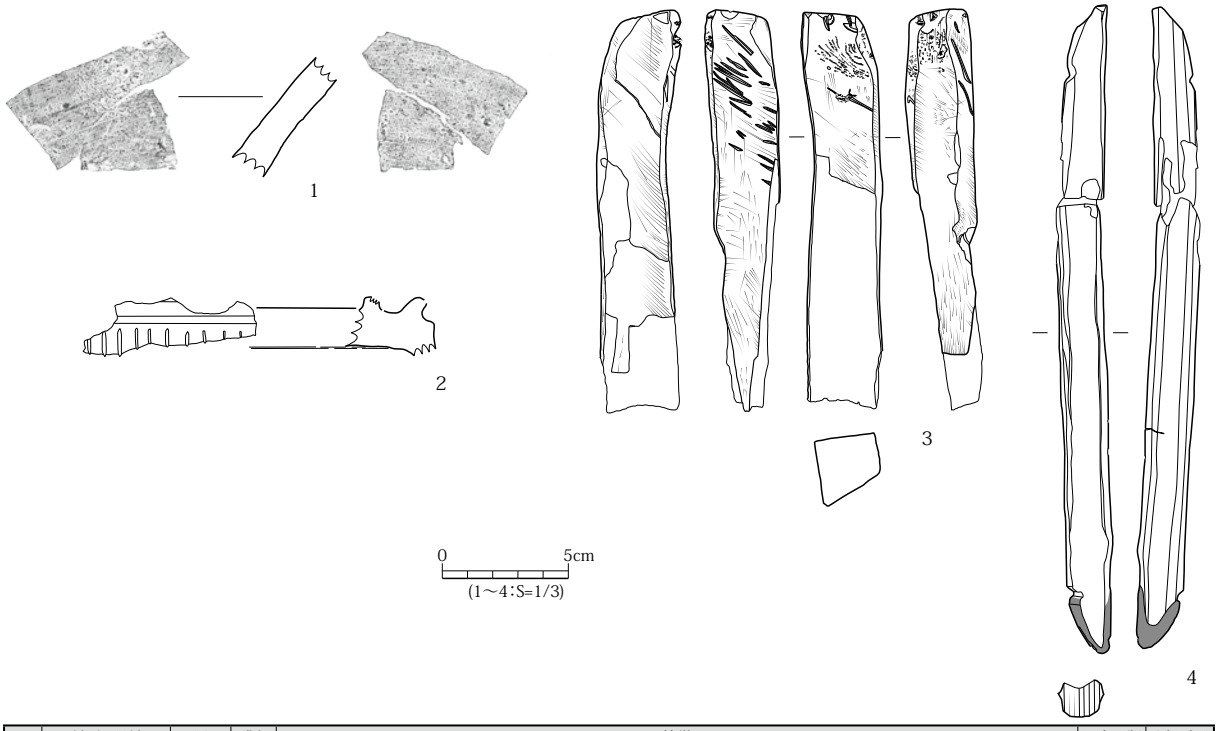
北東部に位置する。平面は北西―南東方向に長軸を持つ楕円形で、規模は長軸 3.0m、短軸 2.46m、深さ約 1.36m である。断面は漏斗形で、北西側が大きく広がる。堆積土は 10 層に分かれ、いずれも自然堆積である。1・2 層から中世陶器擂鉢（第 41 図 1）、円面硯（2）、堆積土から砥石（3）、手火（4）、植物種子、土師器坏・甕、須恵器坏・甕、平瓦が出土した。

【SE88井戸跡】（平面図：第 37 図、断面図：第 42 図、遺物：第 42・43 図）

北東部に位置する。SD76 道路側溝、SK90 土坑と重複し、これらより新しい。平面は北東―南西方向に長軸を持つ楕円形で、規模は長軸 3.24m、短軸 2.93m、深さ 1.32m である。断面は漏斗形である。堆積土は 8 層に分かれ、いずれも自然堆積である。4 層から中世陶器甕（第 42 図 1）、7 層から白木の皿（5）

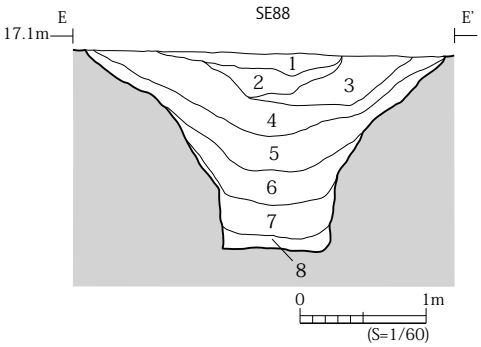


層	土色	土性	特徴	備考
1	褐灰色(10YR4/1)	シルト	酸化鉄を斑に含む	自然堆積
2	褐灰色(10YR4/1)	シルト質粘土		
3	黄灰色(2.5Y4/1)	砂質シルト	酸化鉄を斑に含む　下部に酸化鉄を多量に含む	
4	黒褐色(2.5Y3/1)	粘土		
5	黒褐色(10YR3/1)	シルト	Ⅴ層ブロック、灰黄褐色(10YR5/2)砂をラミナ状に含む	
6	褐灰色(10YR4/1)	粘土		
7	黒褐色(2.5Y3/1)	粘土	スクモをわずかに含む	
8	黒褐色(10YR3/1)	砂質シルト	Ⅴ層小～大ブロックを非常に多く含む	
9	灰色(7.5Y5/1)	シルト質粘土	Ⅴ層小ブロックを含む	
10	暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)	粘土質シルト	植物遺体をわずかに、Ⅴ層小ブロックを非常に多く含む	

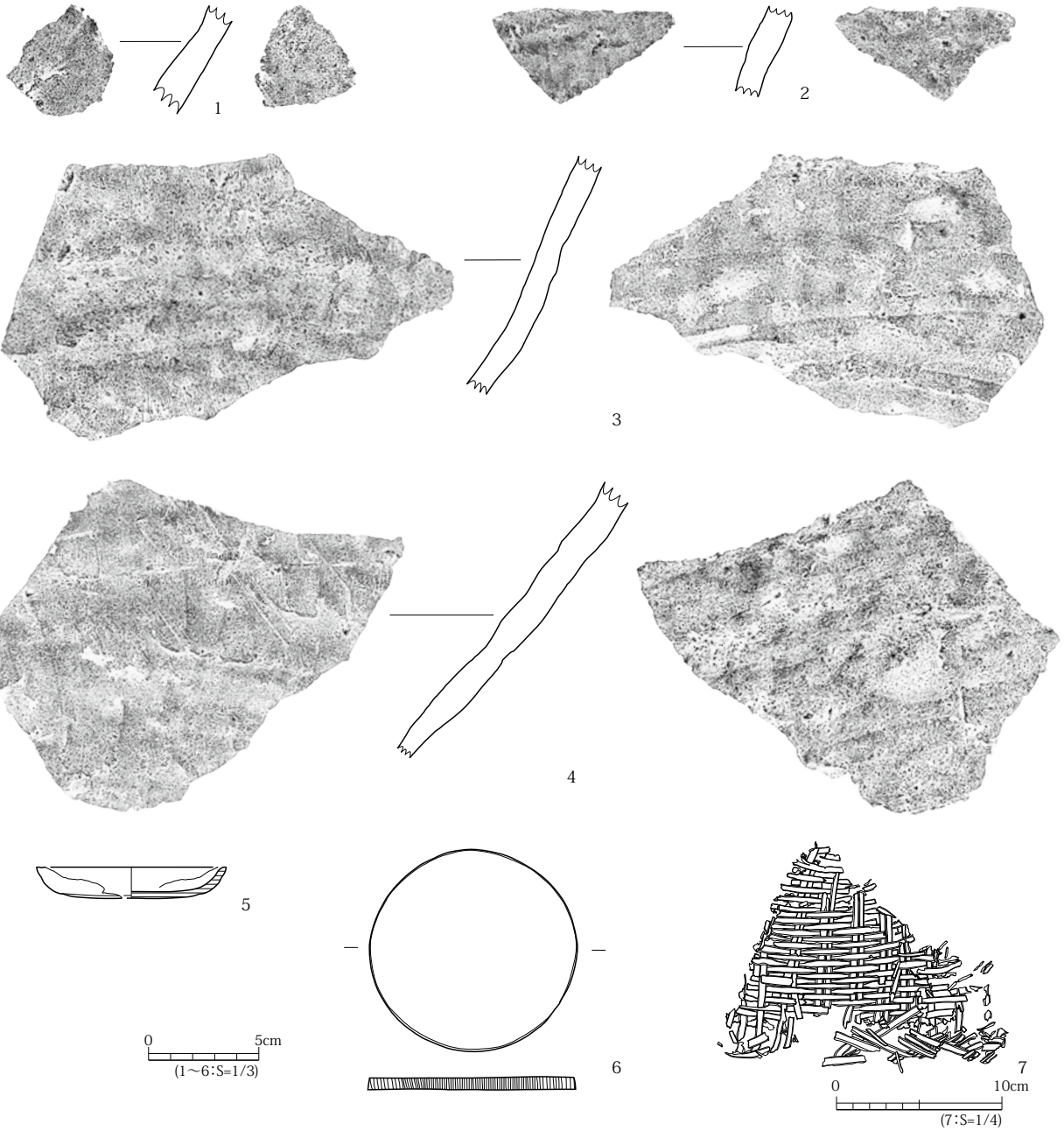


No.	種別・器種	層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	中世陶器　擂鉢	1・2 層	体部	外:ヘラナデ　内:ナデ　色調:(外)赤橙色(10R6/6)、赤色(10R5/6)(内)にぶい赤褐色(5YR4/3)(断)橙色(5YR6/6)、灰色（5Y5/1）　胎土：径 2㎜以下の小礫、黒色小礫、ガラス粒多量に含む　在地産	46-15	R277
2	須恵器　円面硯	1・2 層	硯部	脚部に縦方向の平行する線刻あり	46-16	R260
3	石製品　砥石	堆	破損	頁岩製　長（15.4cm）　幅（2.9cm）　厚（2.7cm）　重（138.76g）　砥面 5	46-17	R404
4	木製品　手火	堆	ほぼ完形	長 25.6cm　幅 1.8cm　厚（1.5cm）　先端部炭化	46-18	R418

第 41 図　H-25区　SE87井戸跡　断面・出土遺物

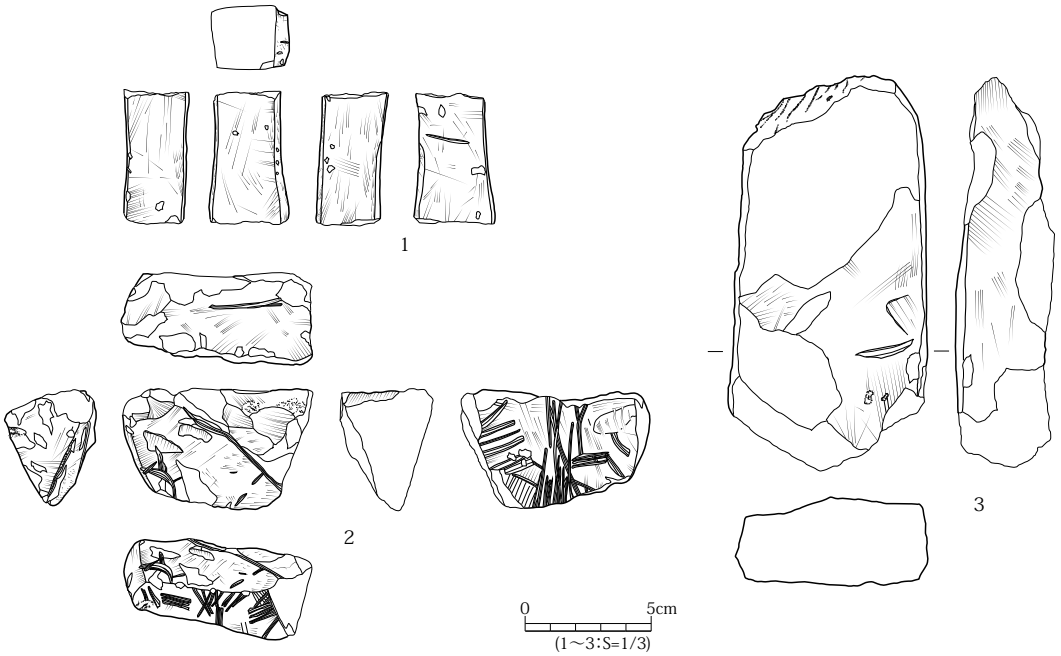


層	土色	土性	特徴	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層小ブロックを含む	自然堆積
2	黒色(7.5Y2/1)	粘土質シルト	Ⅴ層ブロックを含む	
3	黒褐色(2.5Y3/1)	シルト	Ⅴ層小ブロックをわずかに含む	
4	オリーブ黒色(7.5Y3/1)	シルト	酸化鉄をわずかに含む	
5	オリーブ黒色(5Y3/1)	粘土	酸化鉄をやや多く含む	
6	灰色(10Y4/1)	粘土		
7	灰色(7.5Y4/1)	シルト		
8	緑灰色(10GY6/1)	粘土質シルト		



No.	種別・器種	層	残存	調整	色調	胎土	特徴	写真図版	登録番号
1	中世陶器　甕	4層	胴部	外：ヘラナデ　内：ナデ	外：黒褐色(5YR3/1)、褐灰色(5YR4/1)、灰褐色(5YR4/2) 内：黒褐色(5YR3/1)、灰赤色(2.5YR4/2) 断：褐灰色(10YR6/1･4/1)、明赤褐色(5YR5/6)	径2㎜以下の小礫、ガラス粒多量に、径3～5㎜の小礫、黒色小礫含む	径7㎜以下の暗赤色(7.5R3/4)、黒褐色(5YR3/1)の鉱物が溶け出したものが表裏面に多量に認められる 在地産　R243･292･326･330～342は同一個体 R 339 外面に炭化物付着	47-3	R337
2	中世陶器　甕	堆上層	胴部	外：ヘラナデ　内：ナデ				47-4	R338
3	中世陶器　甕	堆上層	胴部	外：ヘラナデ　内：ナデ、ヘラナデ				47-1	R339
4	中世陶器　甕	堆上層	胴部	外：ヘラナデ　内：オサエ→ナデ				47-2	R340
5	木器　白木皿	7層	(口～体)2/3(底)1/2	口径(8.6cm)　底径 6.1cm　器高 1.4cm				47-5	R419
6	木製品　曲物底板	8層	完形	長 9.4cm　幅 9.2cm　厚 0.5cm				47-6	R420
7	竹製品　笊	堆	破損	残存長 13.2cm　残存幅 17.6cm				―	R672

第 42 図　H-25区　SE88井戸跡　断面･出土遺物(1)



No.	種別・器種	層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	石製品　砥石	堆	破損	凝灰岩製　長（5.3cm）　幅（3.3cm）　厚（2.6cm）　重（78.55g）　砥面 4	47-7	R405
2	石製品　砥石	7 層	破損	凝灰岩製　長（4.7cm）　幅（7.4cm）　厚（3.5cm）　重（119.9g）　砥面 4	47-8	R406
3	石製品　砥石	堆	破損	凝灰岩製　長（16.2cm）　幅（8.0cm）　厚（4.3cm）　重（474.75g）　砥面 2	47-9	R407

第 43 図　H-25 区　SE88 井戸跡　出土遺物（2）

と砥石（第43図2）、8層から曲物の底板（第42図6）、堆積土上層から中世陶器甕（第42図2～4）、堆積土から竹製の笊（7）、砥石（第43図1・3）、植物種子（モモ ヵ）（図版47-10）、土師器坏・甕、須恵器高坏・坏・甕、丸瓦、平瓦が出土した。なお、1層と4層から出土した中世陶器がSK89土坑1～3層から出土した中世陶器と接合している（第47図5）。

【SE96井戸跡】（平面図：第 37 図、断面図：第 45 図）

北東部に位置し、南東端以外を検出した。平面は円形で、規模は長軸 1.2m、短軸 1.0m 以上、深さ 0.8m である。断面は「U」字形である。堆積土は 3 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から土師器坏、須恵器甕が出土した。

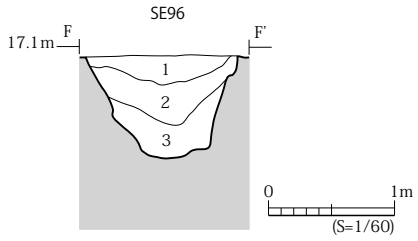
【SE97井戸跡】（平面図：第 37 図、断面図・遺物：第 44 図）

北東部に位置し、北西側のみ検出した。平面は円形とみられ、規模は長軸 1.75m、短軸 0.60m 以上、深さ 1.0m である。断面は「U」字形である。堆積土は 6 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から中世陶器甕（第 44 図 1）、須恵器坏・甕が出土した。

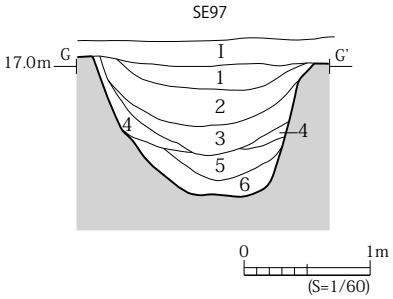
D. 土坑

【SK83土坑】（平面図：第 37 図、断面図・遺物：第 45 図）

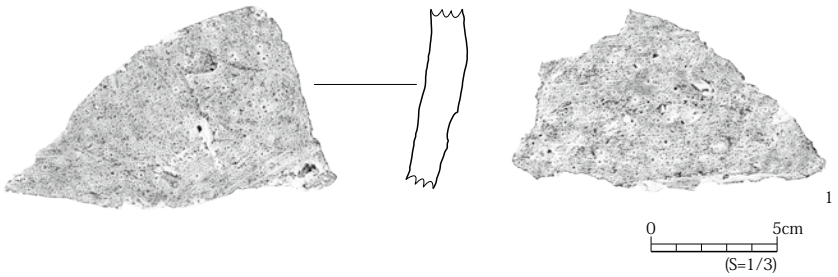
北東部に位置する。SD82 道路側溝と重複し、これより新しい。平面は北東－南西方向に長軸を持つ楕円形で、規模は長軸 2.7m、短軸 2.04m、深さ 0.9m である。断面は北東側が大きく開く逆台形である。堆積土は 7 層に分かれ、いずれも自然堆積である。3 層は灰白色火山灰層である。1・2 層から非ロクロ調整の土師器坏、須恵器坏・甕、4 ～ 6 層から非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏（第 45 図 1）・蓋・甕（3）、平瓦（2）が出土した。



層	土色	土性	特徴	備考
1	暗灰黄色（2.5Y4/2）	シルト	酸化鉄を多量に、V層小ブロックを含む	自然堆積
2	黄灰色（2.5Y4/1）	シルト	V層小ブロック、酸化鉄を多量に含む	
3	黄灰色（2.5Y4/1）	粘土質シルト	V層小ブロック、酸化鉄を多量に含む	



層	土色	土性	特徴	備考
1	褐灰色（10YR4/1）	シルト		自然堆積
2	黄灰色（2.5Y4/1）	粘土質シルト	V層小ブロックを含む	
3	黄灰色（2.5Y4/1）	シルト質粘土	V層をラミナ状に含む	
4	灰黄褐色（10YR6/2）	シルト質粘土	V層ブロックを多量に、褐灰色（10YR4/1）粘土質シルトをラミナ状に含む	
5	オリーブ黒色（5Y3/1）	シルト質粘土	V層小ブロック、オリーブ灰色（5GY6/1）シルトを多量に含む	
6	灰色（5Y4/1）	シルト質粘土	V層、オリーブ灰色（5GY6/1）シルトをラミナ状に含む	



No.	種別・器種	遺構・層	残存	調整	色調	胎土	特徴	写真図版	登録番号
1	中世陶器　甕	SE97　堆	胴部	外：ヘラナデ 内：ナデ、ヘラナデ	外：灰褐色（5YR4/2） 内：灰赤色（2.5YR4/2） 断：灰色（N6/1・N5/1）	径 2㎜以下の小礫、 ガラス粒多量に、 径 3㎜の小礫わずかに含む	径 5㎜以下の暗赤色（7.5YR3/4）、黒褐色（5YR3/1）の鉱物が溶け出したものが表裏面に認められる　在地産 R290・R 327 は同一個体	47-11	R327

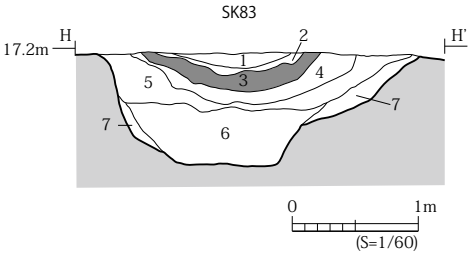
第 44 図　H-25区　SE96・97井戸跡　断面・出土遺物

【SK89土坑】（平面図：第 37 図、断面図：第 46 図、遺物：第 46 ～ 48 図）

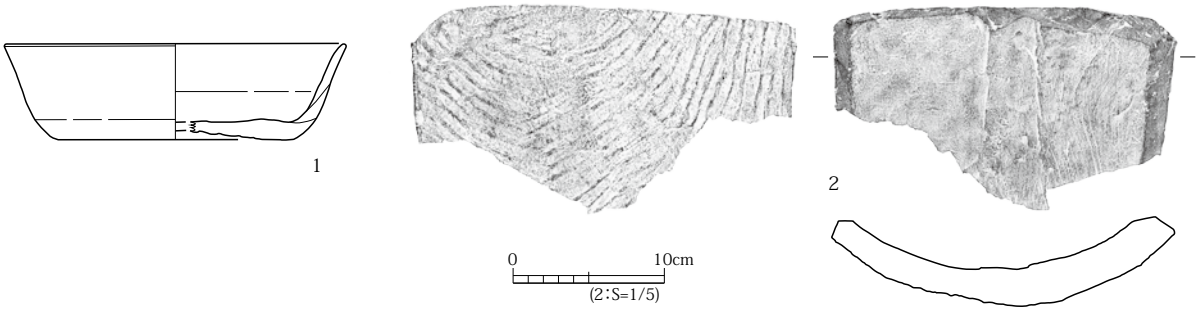
北東部に位置する。SD76 道路側溝、SK93 土坑と重複し、SD76 より新しく SK93 より古い。平面は北東―南西方向に長軸を持つ楕円形で、規模は長軸 3.66m、短軸 3.36m、深さ 1.04m である。断面は逆台形で、東西両壁には凹凸がある。堆積土は 9 層に分かれ、1・2 層は自然堆積、3・4 層は人為的埋土の可能性があり、5 ～ 9 層は自然堆積である。5 層は水成堆積である。1 ～ 3 層から中世陶器甕（第 47 図 4・5、第 48 図 1・5・6）・擂鉢（第 48 図 7）、土師器甕、須恵器坏・甕、平瓦、5 ～ 9 層から中世陶器甕（第 46 図 1 ～ 3、第 47 図 1 ～ 3、第 48 図 2 ～ 4）、板状と棒状の木製品（第 48 図 8・9）、土師器坏・甕、須恵器坏・甕、瓦、堆積土から植物種子が出土した。なお、1 ～ 3 層から出土した中世陶器が SK90 土坑 1 層出土中世陶器と、9 層から出土した中世陶器が SK90 土坑堆積土下層から出土した中世陶器と接合している（第 48 図 2・7）。

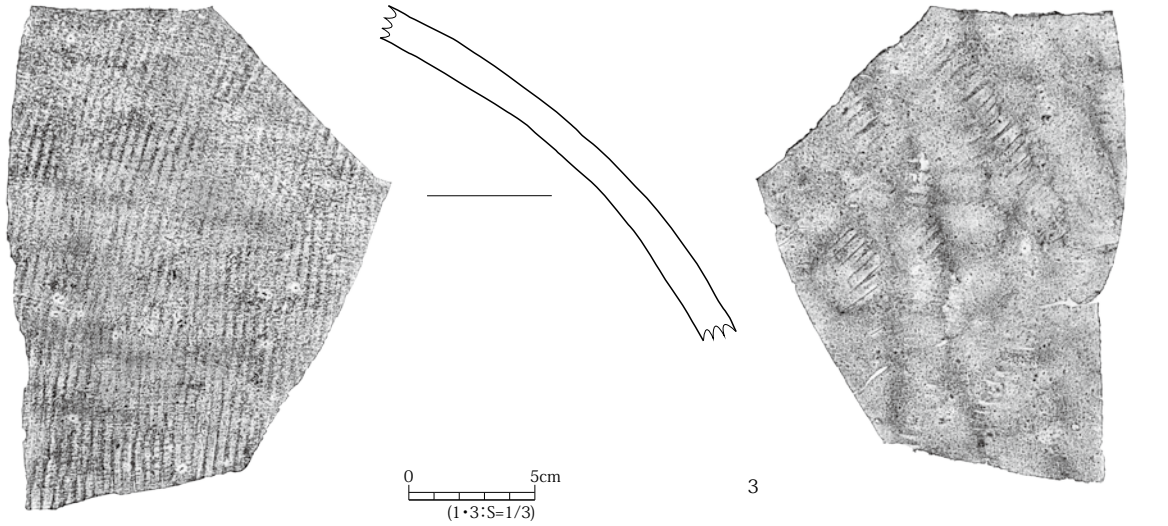
【SK90土坑】（平面図：第 37 図、断面図・遺物：第 49 図）

北東部に位置する。SD76 道路側溝、SE88 井戸跡と重複し、SD76 より新しく SE88 より古い。平面は北東―南西方向に長軸を持つ楕円形で、規模は長軸 2.9m、短軸 2.6m、深さ 0.85m である。断面は逆台形である。堆積土は 8 層に分かれ、1 層は人為的埋土、2～8 層は自然堆積である。2～8 層から中世陶器甕



層	土色	土性	特徴	備考
1	黒色（10YR1.7/1）	シルト質粘土		自然堆積
2	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	灰白色火山灰ブロックを多量に含む	
3	灰白色火山灰	シルト		
4	褐灰色（10YR4/1）	粘土質シルト	酸化マンガンを多量に含む	
5	暗灰黄（2.5Y5/2）	シルト		
6	灰色（7.5Y4/1）	粘土質シルト		
7	灰黄色（2.5Y6/2）	シルト質砂	酸化鉄を含む	





No.	種別・器種	層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	須恵器　坏	4 層	（口）1/3（底）1/3	口径（13.6cm）　底径（9.4cm）　器高 3.8cm 外内：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り→ナデ　火襷痕あり　内面底部摩耗	48-1	R217
2	平瓦	5 層	破損	凸面：平行タタキ目→ナデ　凹面：糸切痕→ナデ、ヘラナデ	48-2	R218
3	須恵器　甕	4・5 層	胴部	外：平行タタキ　内：平行刻み目の当て具	48-3	R214

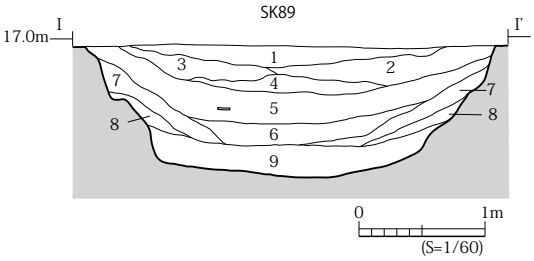
第 45 図　H-25区　SK83土坑　断面・出土遺物

（第49図1～4）、漆椀（6）、木製品（5）、植物種子、壁土、鉄滓、土師器坏・高台坏・甕、須恵器坏・甕、平瓦が出土した。

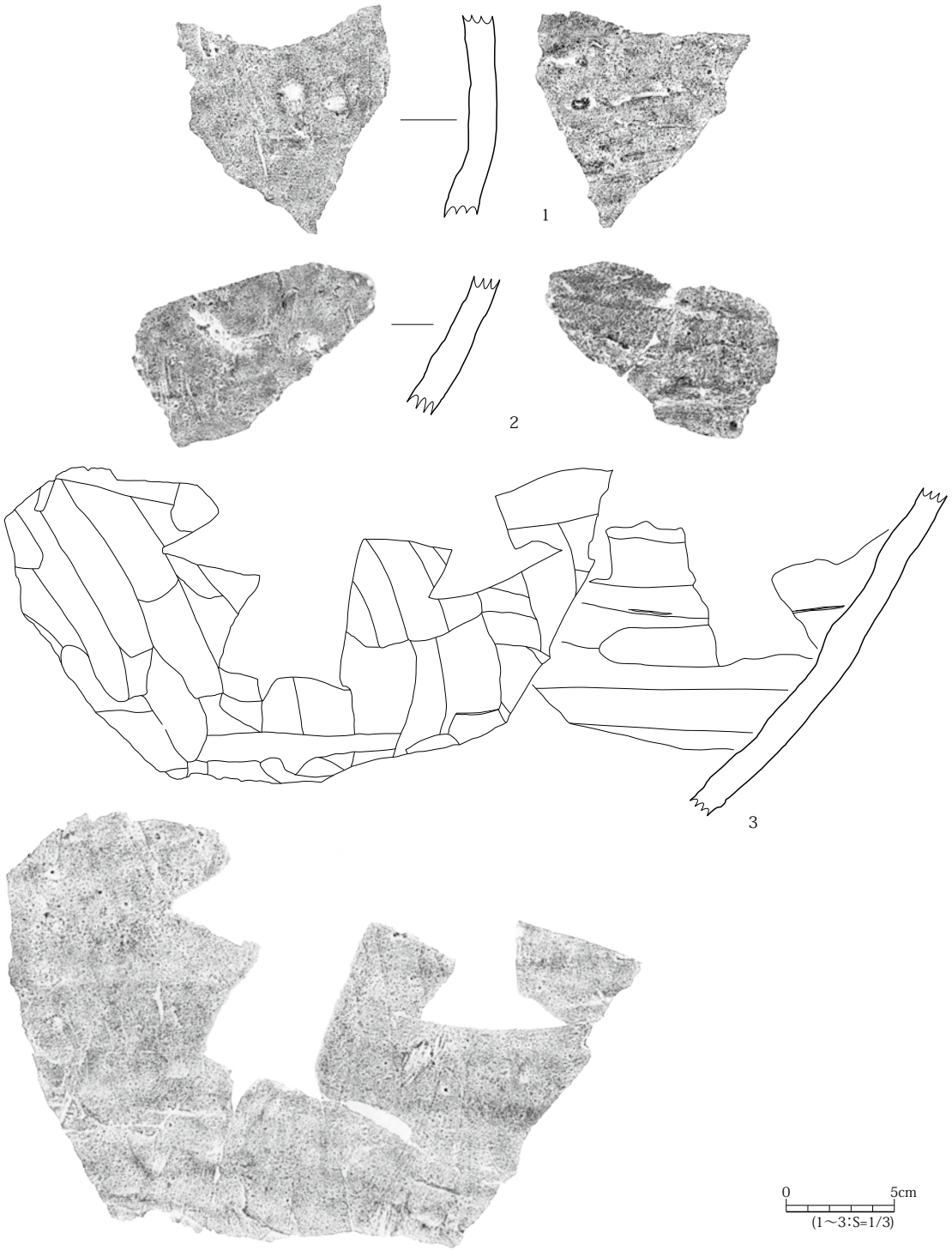
E. 小溝状遺構群

【SF99小溝状遺構群】（平面図：第 50 図、断面図：第 51 図）

北東部に位置する。SF102・105・106 小溝状遺構群、SD161 溝跡、SX104 と重複し、SF102・105・106 より新しく、SD161、SX104 より古い。3 条検出し、北西―南東 4.3m、北東―南西 7.7m の範囲に分布する。北東―南西方向で、検出長は最大で 6.4m、規模は上幅 0.12 ～ 0.36m、下幅 0.03 ～ 0.25m、深さ 0.03 ～ 0.08m、溝中心間の距離は 1.8m である。断面は皿状である。堆積土から須恵器蓋・甕が出土した。

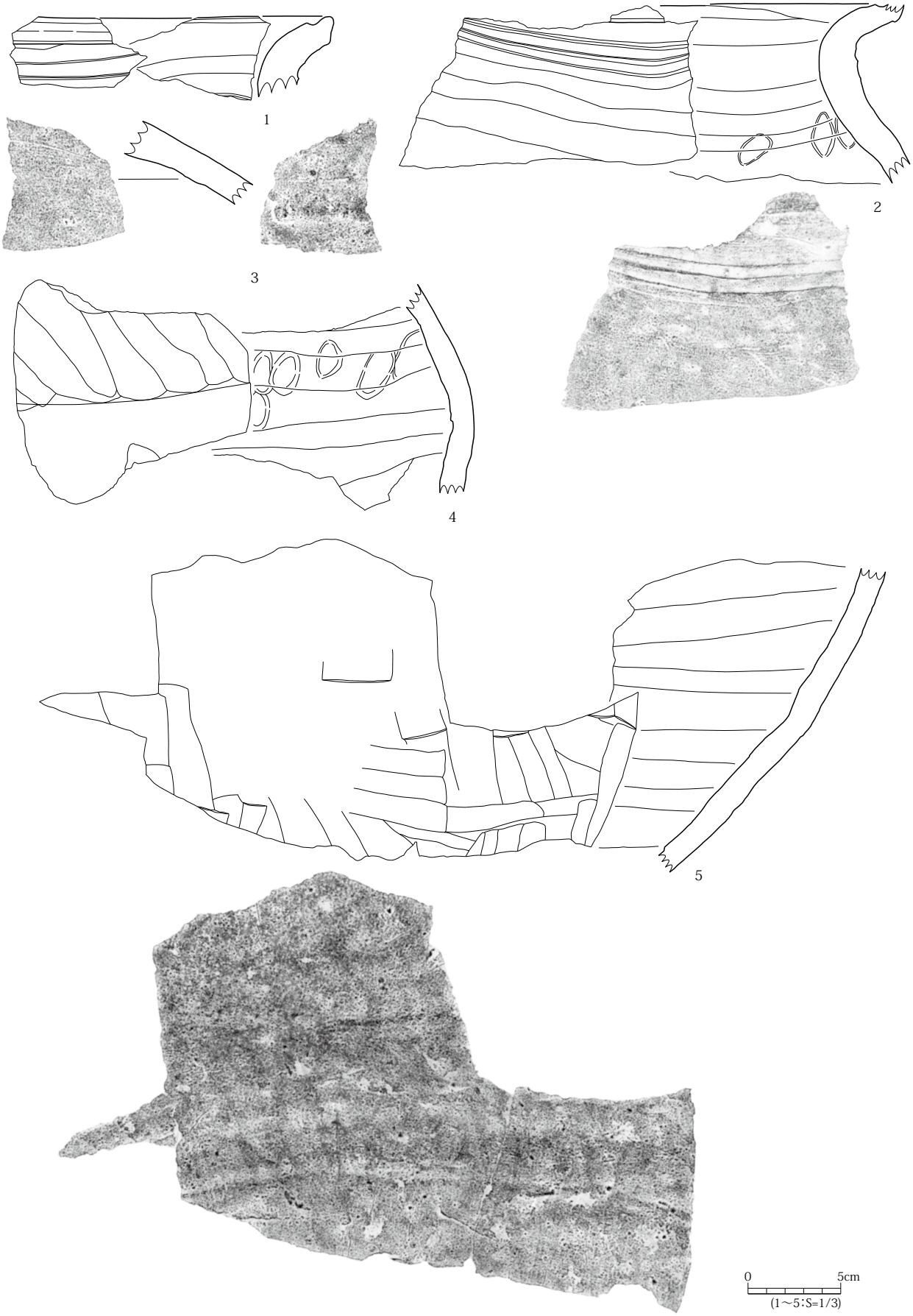


層	土色	土性	特徴	備考
1	暗灰黄色（2.5Y4/2）	シルト	Ⅴ層粒、黒褐色(2.5Y3/2)シルト小ブロックを多量に含む	自然堆積
2	暗灰黄色（2.5Y4/2）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック、黒色(2.5Y2/1)シルト小ブロックを含む	
3	黄灰色（2.5Y4/1）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック、暗灰黄色(2.5Y4/2)小ブロックを多量に含む	人為ヵ
4	暗灰黄色（2.5Y5/2）	粘土質シルト	Ⅴ層粒～ブロックを多量に含む	
5	黄灰色（2.5Y4/1）	シルト質粘土	暗灰黄色(2.5Y4/2)シルトと互層になる	自然堆積
6	黒褐色（2.5Y3/2）	シルト質粘土	Ⅴ層粒を少量含む	
7	黒褐色（2.5Y3/2）	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを多量に含む	
8	浅黄色（2.5Y7/4）	粘土質シルト	壁崩落土	
9	黒褐色（2.5Y3/1）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む	



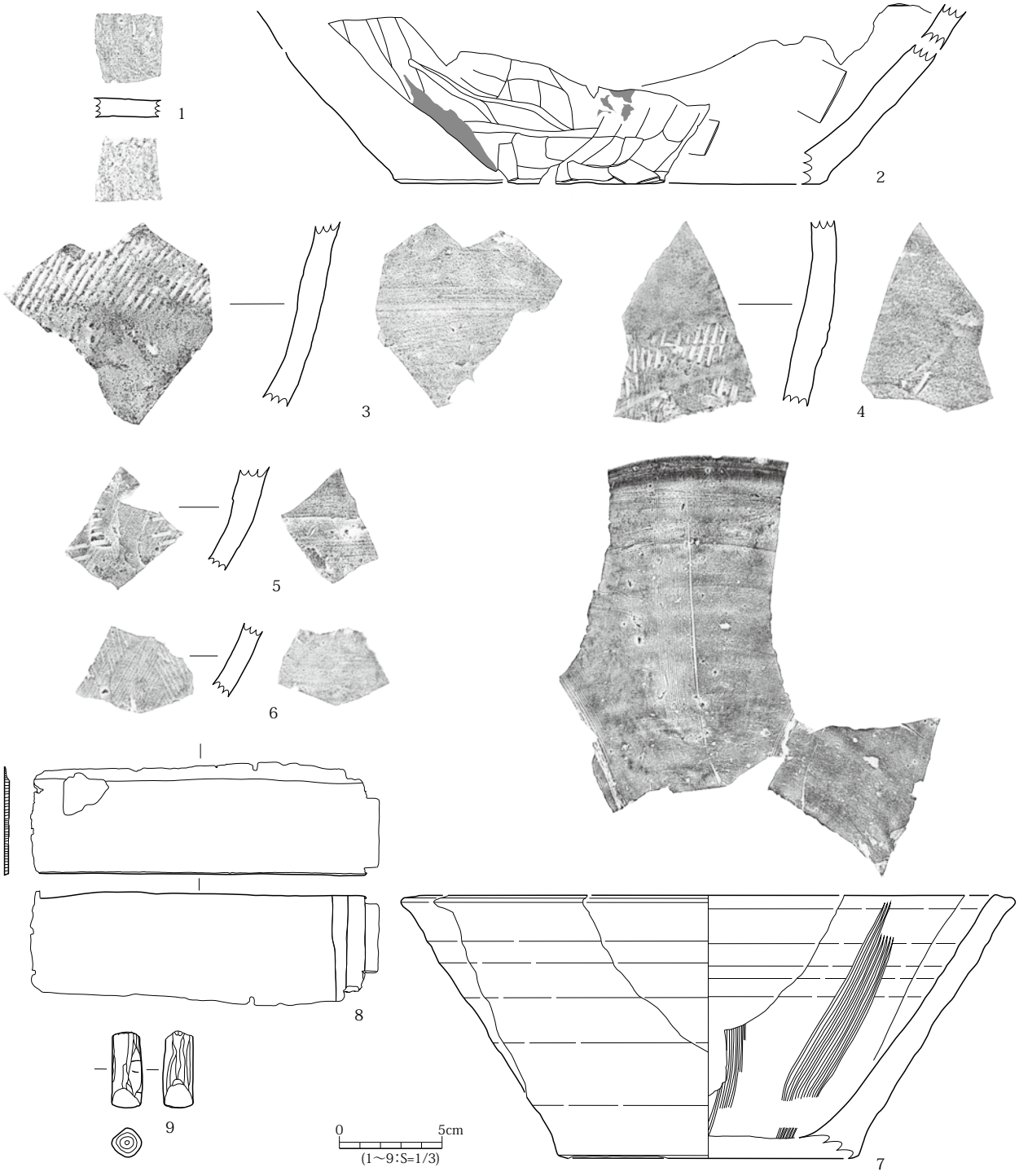
No.	種別・器種	層	残存	調整	色調	胎土	特徴	写真図版	登録番号
1	中世陶器　甕	5層	胴部	外：ヘラナデ 内：ナデ、ヘラナデ	外：黒褐色(10YR3/1) 内：黒褐色(10YR3/1)、暗赤褐色(5YR3/2) 断：褐灰色(10YR6/1・4/1)、明赤褐色(5YR5/6)	径2㎜以下の小礫、ガラス粒多量に、径3～5㎜の小礫、黒色小礫含む	径7㎜以下の暗赤色(7.5R3/4)、黒褐色(5YR3/1)の鉱物が溶け出したものが表裏面に多量に認められる　在地産　R243・292・326・330～342は同一個体	49-4	R342
2	中世陶器　甕	7層	胴部	外：ヘラナデ 内：ナデ	外：黒褐色(5YR3/1)、褐灰色(5YR4/1)、灰褐色(5YR4/2) 内：黒褐色(5YR3/1)、灰赤色(2.5YR4/2) 断：褐灰色(10YR6/1・4/1)、明赤褐色(5YR5/6)			49-6	R341
3	中世陶器　甕	1～3＋5＋7層	胴部	外：ヘラナデ 内：ナデ				49-7	R243

第46図　H-25区　SK89土坑　断面・出土遺物（1）



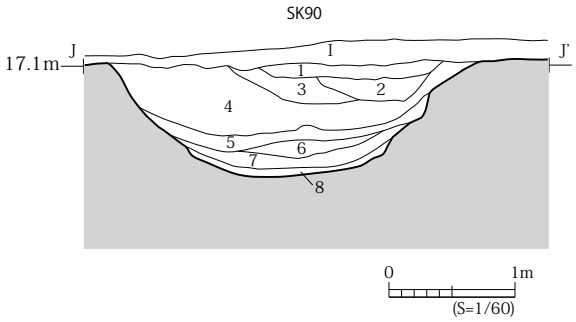
No.	種別・器種	層	残存	調整	色調	胎土	特徴	写真図版	登録番号
1	中世陶器　甕	5層	口縁部	外内：ナデ、ヘラナデ	外:暗赤褐色(10R3/2・3/3・2.5YR3/3) 内:灰赤色(10R4/2)、 暗赤灰色(10R3/1) 断:褐灰色(10YR6/1・4/1)、 明赤褐色(5YR5/6) R332の外面は不明(降灰)	径2㎜以下の小礫、ガラス粒多量に、径3～6㎜以下の小礫含む	径7㎜以下の暗赤色(7.5R3/4)、黒褐色(5YR3/1)の鉱物が溶け出したものが表裏面に多量に認められる 在地産　R243・292・326・330～342は同一個体	49-1	R331
2	中世陶器　甕	5層	口頸部	外：ヘラナデ→降灰 内：オサエ→ナデ				49-2	R330
3	中世陶器　甕	5層	胴部	外：ヘラナデ 内：オサエ→ナデ、ヘラナデ				49-3	R332
4	中世陶器　甕	1層	胴部	外：(上半)ヘラナデ→全体に降灰 内：オサエ→ナデ				49-5	R333
5	中世陶器　甕	SK89-1～3層 ＋SE88-1＋4層	胴部	外：ヘラナデ→降灰 内：オサエ→ナデ				48-4	R334

第47図　H-25区　SK89土坑　出土遺物（2）

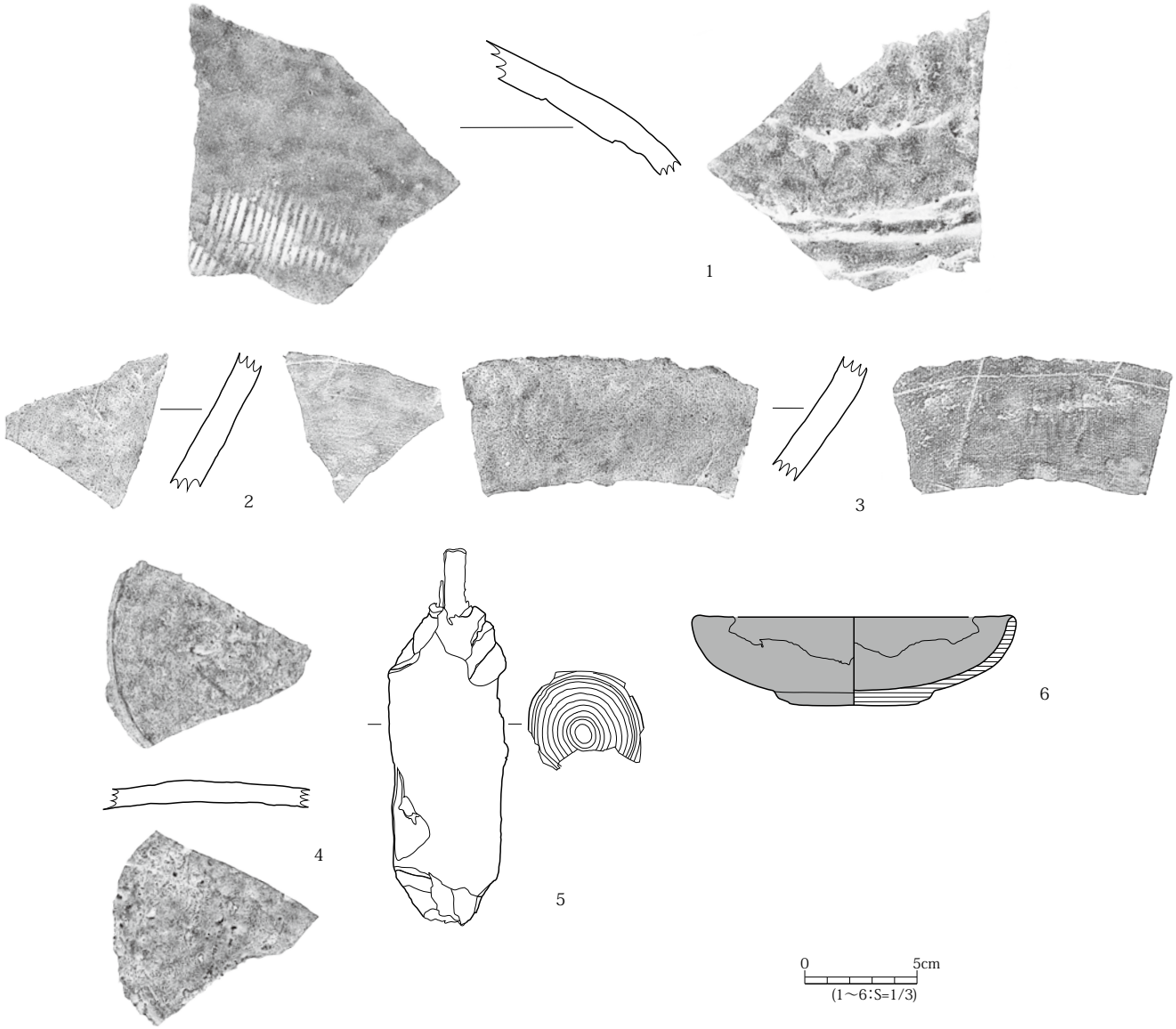


No.	種別・器種	層	残存	調整	色調	胎土	特徴	写真図版	登録番号
1	中世陶器　甕	1～3 層	底部	外：不明 内：不明(降灰)	外:にぶい赤褐色(5YR5/4) 内:不明(降灰)断:褐灰色(10YR6/1)、黒褐色(10YR3/1)	径 1 ㎜以下の小礫多量に、径 2 ㎜の小礫含む	R305 底径(21.0cm) 焼き締まり良　内面摩耗 擂鉢に転用　東海産 R238・252・305・343～345 は同一個体 R305 は外・断面に付着物あり	50-6	R238
2	中世陶器　甕	SK89-9 層 ＋SK90 堆下層	(胴～底)一部	外：ナデ→ヘラナデ 内：ヘラナデ→降灰	外:灰赤色(2.5YR4/2)、にぶい赤褐色(2.5YR4/3) 内:不明(降灰)断:褐灰色(10YR6/1)、黒褐色(10YR3/1)			50-5	R305
3	中世陶器　甕	5 層	胴部	外：籠状の押印 内：ヘラナデ	外:灰色(N4/1) 内・断:灰色(N6/1・N5/1)	径 1 ～ 5 ㎜の小礫含む砂質の胎土	焼き締まり良　外・内・断面に付着物あり渥美産 R236・239・251・328・329 は同一個体	50-1	R328
4	中世陶器　甕	9 層	胴部	外：籠状の押印 内：ヘラナデ				50-2	R329
5	中世陶器　甕	1 ～ 3 層	胴部	外内：ヘラナデ				50-3	R239
6	中世陶器　甕	1 ～ 3 層	胴部	外内：ヘラナデ				50-4	R236
7	中世陶器　擂鉢	SK89-1～3 層 ＋SK90-1 層	(口)一部 (底)1/4 弱	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ→卸目 (18 本 1 単位)	外:灰褐色(5YR5/2)、にぶい赤褐色(5YR5/3) 内:褐灰色(5YR5/1)、灰褐色(5YR5/2)、にぶい赤褐色(5YR5/4) 断:にぶい橙色(5YR7/4)、灰色(5Y5/1)	径 1 ～ 5 ㎜の小礫、赤色小礫、ガラス粒含む	口径(29.9cm) 底径(14.6cm) 器高(12.85cm) 内面摩耗　外面体下部に被熱によるハジケ	50-9	R346
8	木製品　板状	6 ～ 9 層	破損	長(5.5cm)　幅(17.0cm)　厚(0.2cm)				50-7	R422
9	木製品　棒状	6 ～ 9 層	破損	長(3.7cm)　幅(1.5cm)　厚(1.4cm)				50-8	R421

第 48 図　H-25区　SK89土坑　出土遺物(3)



層	土色	土性	特徴	備考
1	褐灰色（10YR5/1）	シルト	Ⅴ層ブロック、にぶい黄橙色（10YR7/3）粘土質シルトを多量に含む	人為
2	褐灰色（10YR4/1）	粘土質シルト	炭化物をわずかに、Ⅴ層小ブロック、酸化鉄を含む	自然堆積
3	黄灰色（2.5Y4/1）	粘土質シルト	Ⅴ層小～大ブロックを多量に、酸化鉄を含む	
4	褐灰色（10YR4/1）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む	
5	黄灰色（2.5Y4/1）	シルト質粘土	Ⅴ層小ブロック、炭化物、灰黄色（2.5Y7/2）シルトを含む	
6	灰色（5Y4/1）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック、オリーブ灰色（2.5GY5/1）シルトをわずかに、炭化物を多量に含む	
7	オリーブ黒色（5Y3/1）	シルト質粘土	Ⅴ層をラミナ状に、植物遺体を含む	
8	オリーブ灰色（2.5GY5/1）	シルト質粘土	黄灰色（2.5Y6/1）シルトをラミナ状に含む	



No.	種別・器種	層	残存	調整	色調	胎土	特徴	写真図版	登録番号
1	中世陶器　甕	堆下層	胴部	外：簾状の押印 内：ナデ	外：灰色(N4/1) 内・断：灰色(N6/1・N 5/1)	径１～５㎜の小礫含む　砂質の胎土	焼き締まり良　外・内・断面に付着物あり　渥美産　R236・239・251・328・329は同一個体	50-10	R251
2	中世陶器　甕	堆下層	胴部	外：ヘラナデ 内：ナデ	外：灰赤色(2.5YR4/2)、にぶい赤褐色(2.5YR4/3) 内：不明(降灰) 断：褐灰色(10YR6/1)、黒褐色(10YR3/1)	径１㎜以下の小礫多量に、径２㎜の小礫含む	焼き締まり良　内面摩耗　擂鉢に転用　東海産　R238・252・305・343～345は同一個体	50-12	R252
3	中世陶器　甕	堆下層	胴部	外：ヘラナデ 内：ナデ				50-11	R343
4	中世陶器　甕	堆上層	底部	外：ナデ 内：降灰により不明	外：にぶい赤褐色(5YR5/4) 内：不明(降灰) 断：褐灰色(10YR6/1)、黒褐色(10YR3/1)			50-13	R345
5	木製品　杭ヵ	堆下層	破損	長(17.3cm)　幅(5.3cm)　厚(4.4cm)				50-14	R416
6	漆器　椀	堆下層	(口～体)一部 (底)1/1	口径(14.4cm)　底径 7.3cm　器高(4.1cm)				50-15	R414

第 49 図　H-25区　SK90土坑　断面・出土遺物

第 50 図　H-25 区北側　検出遺構 2

【SF100小溝状遺構群】（平面図：第50図、断面図：第51図）

北東部に位置する。SF102・105・106 小溝状遺構群、SD162 溝跡と重複し、SF102・105・106 より新しく、SD162 より古い。3 条検出し、北西―南東 4.1m、北東―南西 5.8m の範囲に分布する。北東―南西方向で、検出長は最大で 5.9m、規模は上幅 0.24 ～ 0.36m、下幅 0.05 ～ 0.18m、深さ 0.03 ～ 0.05m、溝中心間の距離は 1.8m である。断面は皿状である。堆積土から須恵器坏・甕が出土した。

【SF101小溝状遺構群】（平面図：第 50 図、断面図：第 51 図）

北東部に位置する。SF102 小溝状遺構群、SD161・162・229 溝跡と重複し、SD229 より新しく、SF102、SD161・162 より古い。5 条検出し、北西―南東 5.5m、北東―南西 7.9m の範囲に分布する。北東―南西方向で、検出長は最大で 7.9m、規模は上幅 0.21 ～ 0.42m、下幅 0.05 ～ 0.28m、深さ 0.03 ～ 0.08m、溝中心間の距離は 0.9 ～ 1.4m である。断面は皿状である。堆積土から土師器甕、須恵器坏・甕が出土した。

【SF102小溝状遺構群】（平面図：第 50 図、断面図：第 51 図）

北東部に位置する。SD103・161・162 溝跡、SF99・100・101 小溝状遺構群、SD110A 河川跡と重複し、SF101 より新しく、それ以外の遺構より古い。4 条検出し、北西―南東 5.0m、北東―南西 11.7m の範囲に分布する。北東―南西方向で、検出長は最大で 11.8m、規模は上幅 0.21 ～ 0.66m、下幅 0.08 ～ 0.4m、深さ 0.04 ～ 0.08m、溝中心間の距離は 1.2 ～ 1.4m である。断面は皿状である。堆積土から土師器甕、須恵器坏・甕が出土した。

【SF105小溝状遺構群】（平面図：第 50 図、断面図：第 51 図）

北東部に位置する。SF99・100・106 小溝状遺構群と重複し、これらより古い。4 条検出し、北西―南東 5.3m、北東―南西 1.6m の範囲に分布する。北西―南東方向で、検出長は最大で 2.6m、規模は上幅 0.18 ～ 0.42m、下幅 0.05 ～ 0.18m、深さ 0.02 ～ 0.08m、溝中心間の距離は 0.7 ～ 1.0m である。断面は皿状である。堆積土から須恵器甕が出土した。

【SF106小溝状遺構群】（平面図：第 50 図、断面図：第 51 図）

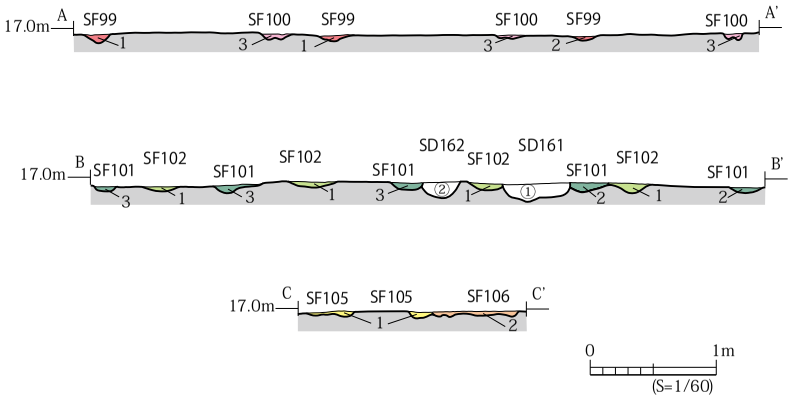
北東部に位置する。SF99・100・105 小溝状遺構群と重複し、SF105 より新しく、SF99・100 より古い。3 条検出し、北西―南東 5.6m、北東―南西 1.9m の範囲に分布する。北西―南東方向で、検出長は最大で 5.5m、規模は上幅 0.4 ～ 0.6m、下幅 0.1 ～ 0.25m、深さ 0.02 ～ 0.08m、溝中心間の距離は 0.4 ～ 0.9m である。断面は皿状である。堆積土から須恵器甕が出土した。

F．河川跡

【SD110河川跡】（平面図：第 50 図、断面図：第 51 図、遺物：第 52 ～ 56 図）

北東部に位置する。SD103・111・112・113・230・231 溝跡、SF102 小溝状遺構群と重複し、SD112・113、SF102 より新しく、SD103・111・230・231 より古い。2 時期（A → B）認められた。

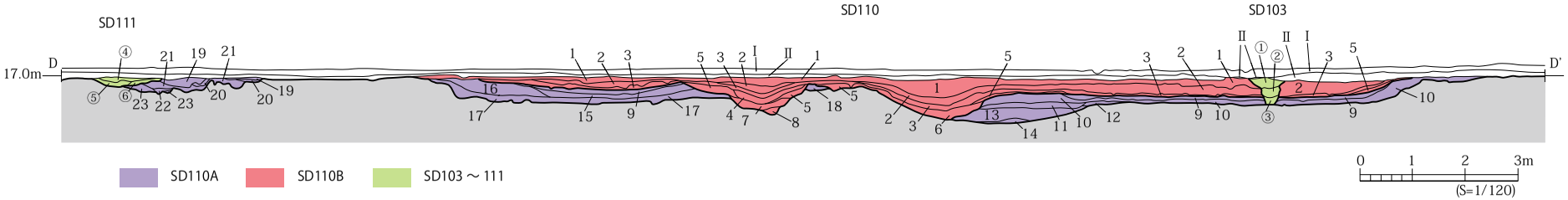
SD110A は、検出長が 7.0m、規模が上幅 25.5m、深さ 0.9m である。断面は皿状で、中央より北側付近で逆台形状にくぼむ。堆積土は 15 層に分かれ、14 層は砂層である。堆積土には灰白色火山灰層が認められた。北側の 14 層から非ロクロ調整の土師器坏（第 52 図 1 ～ 4）・甕（5・6）、須恵器坏（第 53 図、第 54 図 1 ～ 4）・高台坏（第 54 図 5）・稜埦（6・7）・高台埦（8）・蓋（9 ～ 14）・長頸壺（15）・甕（16）、墨書土器（第 53 図 8）、丸瓦（図版 51-7）、平瓦、羽口（図版 51-8）、馬の骨、10 ～ 13 層から非ロクロ



遺構	層	土色	土性	特徴
SF99	1	灰黄褐色（10YR6/2）	粘土質シルト	酸化鉄を斑に、褐灰色（10YR4/1）シルト小ブロックを含む
	2	褐灰色（10YR6/1）	粘土質シルト	酸化鉄を斑に、黒褐色（10YR3/1）シルト小～大ブロックを含む
SF100	3	黄灰色（2.5Y6/1）	粘土質シルト	酸化鉄を斑に、褐灰色（10YR4/1）シルト小～大ブロックを含む

遺構	層	土色	土性	特徴
SF102	1	にぶい黄色（2.5Y6/3）	粘土質シルト	Ⅴ層粒、酸化鉄を含む
SF101	2	灰黄色（2.5Y6/2）	粘土質シルト	Ⅴ層粒を少量含む
	3	にぶい黄色（2.5Y6/3）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む
SD161	①	黄灰色（2.5Y6/1）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを含む
SD162	②	灰黄色（2.5Y6/2）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを含む

遺構	層	土色	土性	特徴
SF105	1	暗灰黄色（2.5Y5/2）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む
SF106	2	暗灰黄色（2.5Y4/2）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む



遺構	層	土色	土性	特徴
SD110B	1	黒褐色（2.5Y3/2）	シルト質粘土	
	2	黒色（2.5Y2/1）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック・ブロック、酸化鉄をわずかに含む
	3	黒色（10YR2/1）	シルト質粘土	
	4	暗灰黄色（2.5Y5/2）	粘土質シルト	灰白色火山灰小～大ブロックを含む
	5	黄灰色（2.5Y5/1）	シルト	灰白色火山灰小ブロック・ブロックを含む
	6	暗灰黄色（2.5Y4/2）	シルト	灰白色火山灰小ブロック・ブロックを含む
	7	灰黄色（2.5Y6/2）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック・ブロックを含む
	8	灰黄色（2.5Y6/2）	シルト質粘土	
SD110A	9	灰白色火山灰	シルト	
	10	灰黄褐色（10YR5/2）	シルト	褐灰色（10YR4/1）粘土小ブロック、炭化物をわずかに、下部にⅤ層小ブロックを含む
	11	暗灰黄色（2.5Y5/2）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック、炭化物をわずかに含む
	12	暗灰黄色（2.5Y5/2）	砂	酸化鉄を含む
	13	暗灰黄色（2.5Y4/2）	粘土質シルト	灰黄色（2.5Y6/2）粗砂をラミナ状に含む
	14	灰黄色（2.5Y6/2）	砂	酸化鉄を含む
	15	黄灰色（2.5Y4/1）	粘土質シルト	

遺構	層	土色	土性	特徴
SD110A	16	黄灰色（2.5Y5/1）	粘土質シルト	
	17	灰黄色（2.5Y6/2）	粘土質シルト	
	18	黄灰色（2.5Y6/1）	シルト質粘土	Ⅴ層小ブロックを含む
	19	黄灰色（2.5Y5/1）	粘土質シルト	酸化鉄を含む
	20	にぶい黄色（2.5Y6/3）	シルト質粘土	
	21	黄灰色（2.5Y6/1）	シルト質粘土	
	22	灰黄色（2.5Y6/2）	粘土	Ⅴ層小ブロックを含む
	23	浅黄色（2.5Y7/3）	シルト質粘土	Ⅴ層主体　黄灰色（2.5Y6/1）シルト質粘土大ブロックを含む
SD103	①	黒褐色（2.5Y3/2）	粘土質シルト	
	②	黒褐色（2.5Y3/1）	粘土質シルト	酸化鉄を少量含む
	③	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト小ブロック・ブロック、黒褐色（10YR3/1）シルト質砂小ブロックを含む
SD111	④	灰黄褐色（10YR5/2）	シルト	
	⑤	黄灰色（2.5Y5/1）	シルト	Ⅴ層小～大ブロックを非常に多く含む
	⑥	黄灰色（2.5Y4/1）	粘土質シルト	

第 51 図　H-25区　SF99～102・105・106小溝状遺構群、SD110河川跡　断面

SD110A 北側　14 層

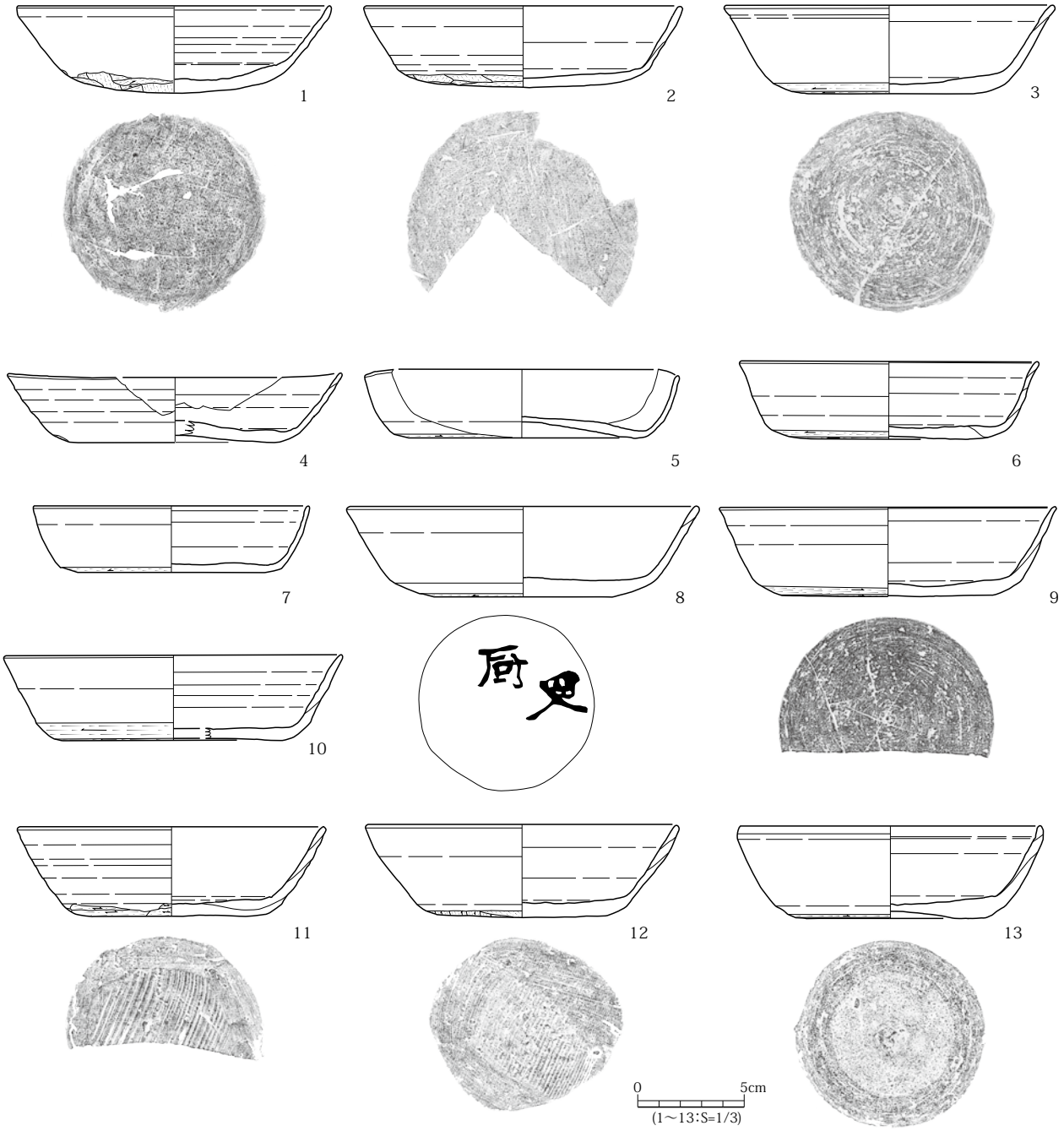
No.	種別・器種	層	残存	法量（cm）			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径	器高			
1	土師器　坏	14 層	（口）1/3（底）1/1	（14.4）		（4.35）	外：（口〜体上）ナデ（体下〜底）ヘラケズリ　内：ヘラミガキ→黒色処理　丸底	51-1	R374
2	土師器　坏	14 層	（口）1/4（底）一部	（14.0）		（3.9）	外：ヘラケズリ→ヘラミガキ　内：ヘラミガキ→黒色処理　平底	51-2	R376
3	土師器　坏	14 層	（口〜体）1/4 弱	（14.0）			外内：ヘラミガキ→黒色処理	51-3	R379
4	土師器　坏	14 層	（口〜体）一部				外内：（口）ナデ→（体）ヘラミガキ	51-4	R385
5	土師器　甕	5+6+14 層	（胴〜底）3/4		9.0		外:ハケメ→ヘラケズリ　内:ナデ　底:木葉痕	51-6	R392
6	土師器　甕	14 層	（口）1/4（胴）一部（底）1/2	（19.4）	（6.8）		外:（口）ナデ→（胴）ヘラケズリ　内:（口）ナデ（胴）ヘラナデ	51-5	R389・391

第 52 図　H-25 区　SD110A 河川跡　出土遺物（1）

調整の土師器坏・鉢・甕、須恵器坏（第 55 図 1 〜 3）・蓋（6）・鉢（7）・甕（8）、墨書土器（4・5）、丸瓦（図版 54-10）、転用砥（9）、手火（10）、南側の 17 層からロクロ調整の土師器坏・高台坏（11）、須恵器甕、南端の堆積土から非ロクロ調整の土師器坏（12）・甕、ロクロ調整の土師器坏（13）・高台坏、須恵器坏（14）・蓋（15）・甕、砥石（16）、南西部から非ロクロ調整の土師器甕（第 56 図 2）、須恵器坏（1）その他の堆積土から非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・蓋・甕（4）、砥石（3）、植物種子が出土した。

SD110B は、検出長が 5.5m、規模が上幅 19.0m、深さ 0.8m である。断面は皿状であるが中央部で二ヶ所逆台形状にくぼむ。堆積土は 8 層に分かれ土師器坏・高台坏・鉢・甕、須恵器坏・高台坏・蓋・甕、平瓦が出土した。

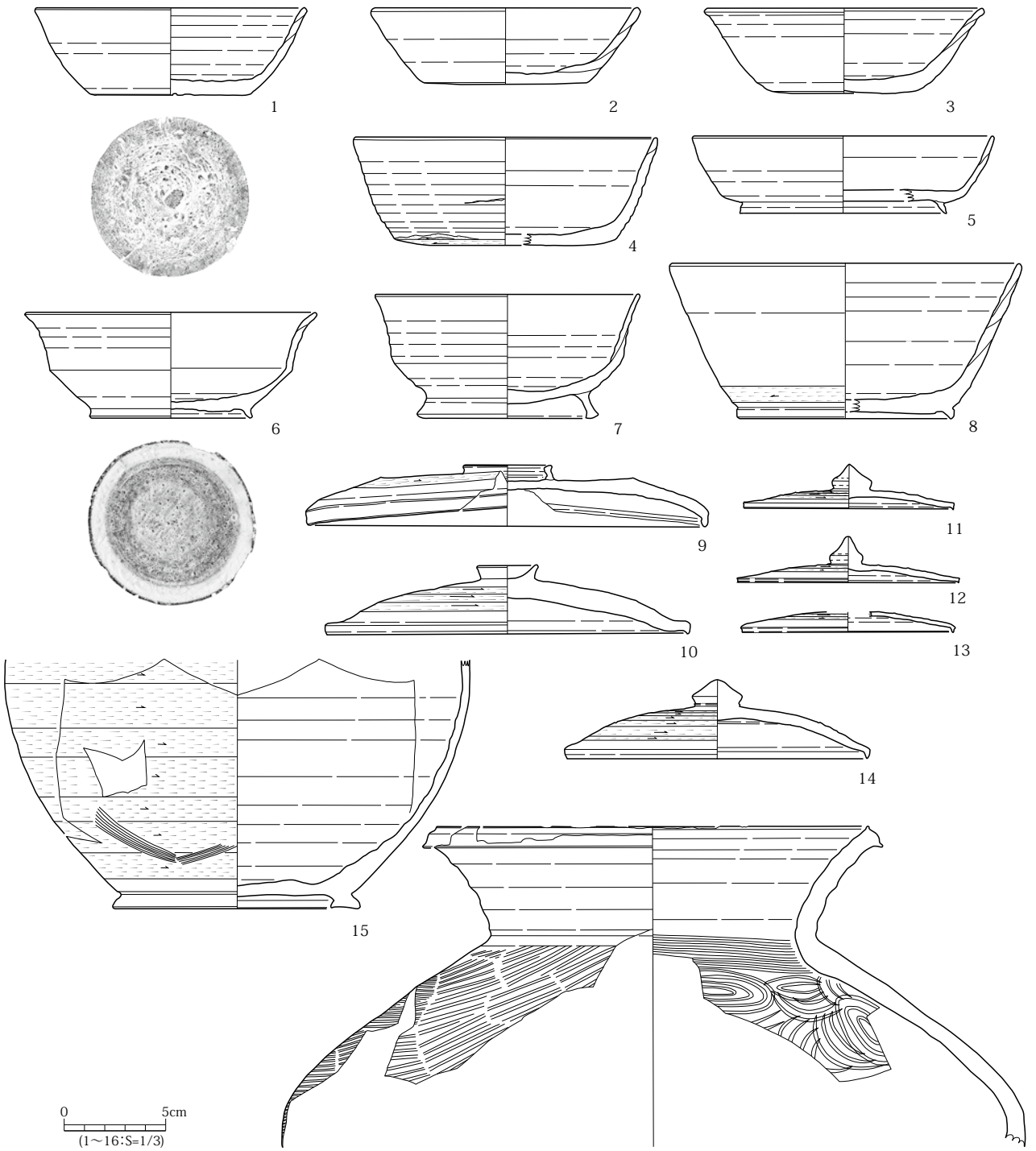
SD110A 北側　14 層



No.	種別・器種	層	残存	法量（cm）			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径	器高			
1	須恵器　坏	14 層	（口）1/4（底）1/1	（14.8）	10.0	4.1	外内：ロクロナデ　底：切り離し不明→手持ちヘラケズリ　丸底	51-9	R82
2	須恵器　坏	14 層	（口～底）3/4	15.0	11.0	3.8	外内：ロクロナデ　底：切り離し不明→手持ちヘラケズリ	51-10	R78
3	須恵器　坏	13＋14 層	（口）4/5（底）1/1	15.6	9.1	4.15	外内：ロクロナデ　底：切り離し不明→（体下～底）回転ヘラケズリ 内面摩耗　内外面被熱	51-11	R86
4	須恵器　坏	14 層	（口）一部（底）1/1	（15.8）	9.1	（3.2）	外内：ロクロナデ　底：切り離し不明→（体下～底）手持ちヘラケズリ	51-12	R83
5	須恵器　坏	5＋6＋14 層	（口）一部（底）3/4	（14.8）	10.6	（3.25）	外内：ロクロナデ　底：切り離し不明→（体下～底）回転ヘラケズリ 内面底部摩耗	52-1	R76
6	須恵器　坏	14 層	（口）1/4（底）1/2	（14.1）	9.3	3.65	外内：ロクロナデ　底：切り離し不明→（体下～底）回転ヘラケズリ	52-2	R79
7	須恵器　坏	14 層	（口）1/1（底）3/4	13.0	8.8	3.15	外内：ロクロナデ　底：切り離し不明→（体下～底）回転ヘラケズリ 内外面被熱によるハジケ	52-3	R75
8	須恵器　坏	14 層	（口）4/5（底）1/1	16.6	8.3	4.25	外内：ロクロナデ　底：切り離し不明→（体下～底）回転ヘラケズリ 外面底部に墨書「厨　田人」 内面底部摩耗	52-4	R74
9	須恵器　坏	14 層	（口）一部（底）1/2	（15.9）	10.0	4.2	外内：ロクロナデ　底：切り離し不明→（体下～底）回転ヘラケズリ 外面底部に刻書「×」	52-5	R97
10	須恵器　坏	5＋14 層	（口）1/4（底）9/10	（16.0）	10.4	4.0	外内：ロクロナデ　底：切り離し不明→（体下～底）回転ヘラケズリ	52-6	R80
11	須恵器　坏	13＋14 層	（口）1/4 弱（底）1/2	（14.4）	（9.1）	4.2	外内：ロクロナデ　底：静止糸切り→（体下～底外周）手持ちヘラケズリ	52-7	R87
12	須恵器　坏	14 層	（口）1/4（底）1/1	14.8	9.0	4.35	外内：ロクロナデ　底：静止糸切り→外周を手持ちヘラケズリ　内面摩耗	52-9	R88
13	須恵器　坏	5＋6＋14 層	（口）1/2（底）1/1	14.4	8.9	4.35	外内：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り→（体下～底外周）回転ヘラケズリ 内面立上りに沈線	52-8	R81

第 53 図　H-25 区　SD110A 河川跡　出土遺物（2）

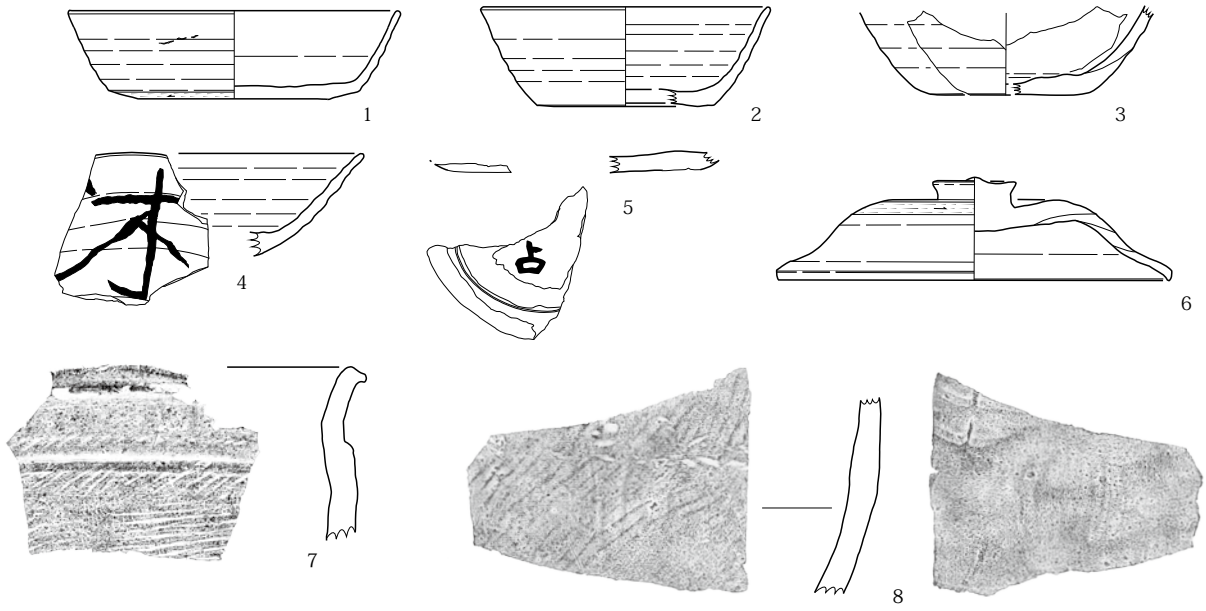
SD110A 北側　14 層



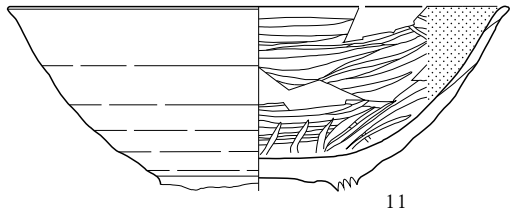
No.	種別・器種	層	残存	法量（cm）			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径（高台径）	器高			
1	須恵器　坏	13+14 層	(口)3/4(底)1/1	13.5	7.9	4.3	外内:ロクロナデ　底:回転ヘラ切り→ナデ　火襷痕あり	52-10	R85
2	須恵器　坏	13+14 層	(口)1/4(底)1/1	(13.3)	8.0	3.75	外内:ロクロナデ　底:回転ヘラ切り→ナデ　内面底部摩耗　外面底部に棒状圧痕あり	52-11	R84
3	須恵器　坏	13+14 層	(口)一部(底)3/4	(13.8)	7.2	4.2	外内:ロクロナデ　底:回転ヘラ切り→ナデ　火襷痕あり	53-1	R98
4	須恵器　坏	14 層	(口)1/4(底)3/4	(15.0)	10.7	5.35	外内:ロクロナデ　底:静止糸切り→外周を手持ちヘラケズリ	53-2	R102
5	須恵器　高台坏	13+14 層	(口)1/4(底)一部	(14.9)	(10.2)	3.8	外内:ロクロナデ　底:切り離し不明→回転ヘラケズリ→高台取り付け→ロクロナデ	53-3	R116
6	須恵器　稜椀	10+13+14 層	(口)1/4(高台)1/1	(14.4)	8.0	5.2	外内:ロクロナデ　底:切り離し不明→手持ちヘラケズリ→高台取り付け→ロクロナデ	53-5	R95
7	須恵器　稜椀	13+14 層	(口)一部(高台)1/1	(13.0)	(9.0)	(6.1)	外内:ロクロナデ 底:切り離し不明→回転ヘラケズリ→高台取り付け→ロクロナデ底～高台部被熱によるハジケ	53-6	R96
8	須恵器　高台椀	13+14 層	(口)1/2(底)1/1	(17.4)	10.6	7.65	外内:ロクロナデ　底:切り離し不明→(体下～底)回転ヘラケズリ→高台取り付け→ロクロナデ	53-4	R100
9	須恵器　蓋	10+13+14 層	(口)1/4(つまみ)1/1	(19.8)		3.0	外:ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ取り付け→ロクロナデ　内:ロクロナデ　リングつまみ	53-8	R110
10	須恵器　蓋	4～6+14 層	(口)1/2(つまみ)1/1	18.0		3.0	外:ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ取り付け→ロクロナデ　内:ロクロナデ　リングつまみ	53-9	R73
11	須恵器　蓋	14 層	(口)1/2(つまみ)1/1	10.4		2.2	外:ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ取り付け→ロクロナデ　内:ロクロナデ　宝珠形つまみ	53-11	R106
12	須恵器　蓋	13+14 層	(口)1/4(つまみ)1/1	(11.0)		2.3	外:ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ取り付け→ロクロナデ　内:ロクロナデ　宝珠形つまみ	53-12	R105
13	須恵器　蓋	4～6+14 層	(口～体)3/4	10.9		(0.9)	外:ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ取り付け→ロクロナデ　内:ロクロナデ	53-13	R108
14	須恵器　蓋	13+14 層	(口)1/4(つまみ)1/1	(15.0)		(3.9)	外:ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ取り付け→ロクロナデ　内:ロクロナデ　宝珠形つまみ	53-10	R112
15	須恵器　長頸壺	13+14 層	(胴～高台)1/1		12.1		外:ロクロナデ→回転ヘラケズリ→高台取り付け→ロクロナデ 内:ロクロナデ　外面に自然釉、灰付着　猿投窯	53-7	R138
16	須恵器　甕	13+14 層	(口)3/4(胴)一部	23.2			外:(胴)平行タタキ→(口頸)ロクロナデ　内:(胴)同心円当て具(口)ロクロナデ→(頸)ナデ	54-1	R140

第 54 図　H-25 区　SD110A 河川跡　出土遺物（3）

SD110A 北側　10 ～ 13 層

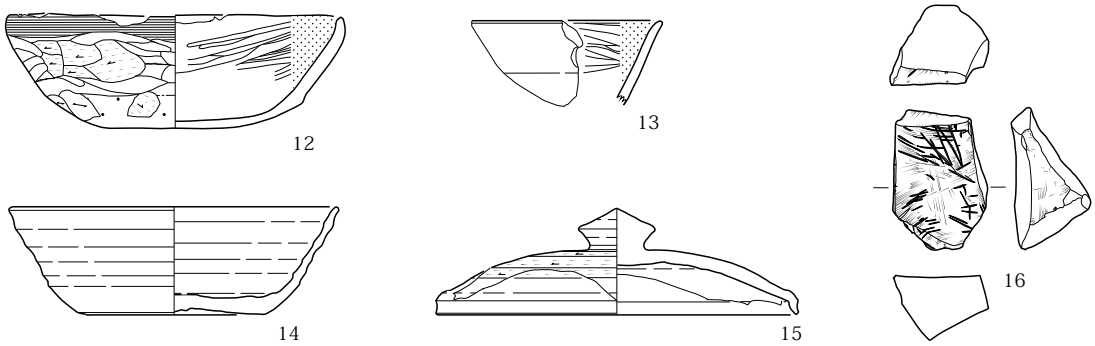


SD110A 南側　17 層



0　5cm
(1～16:S=1/3)

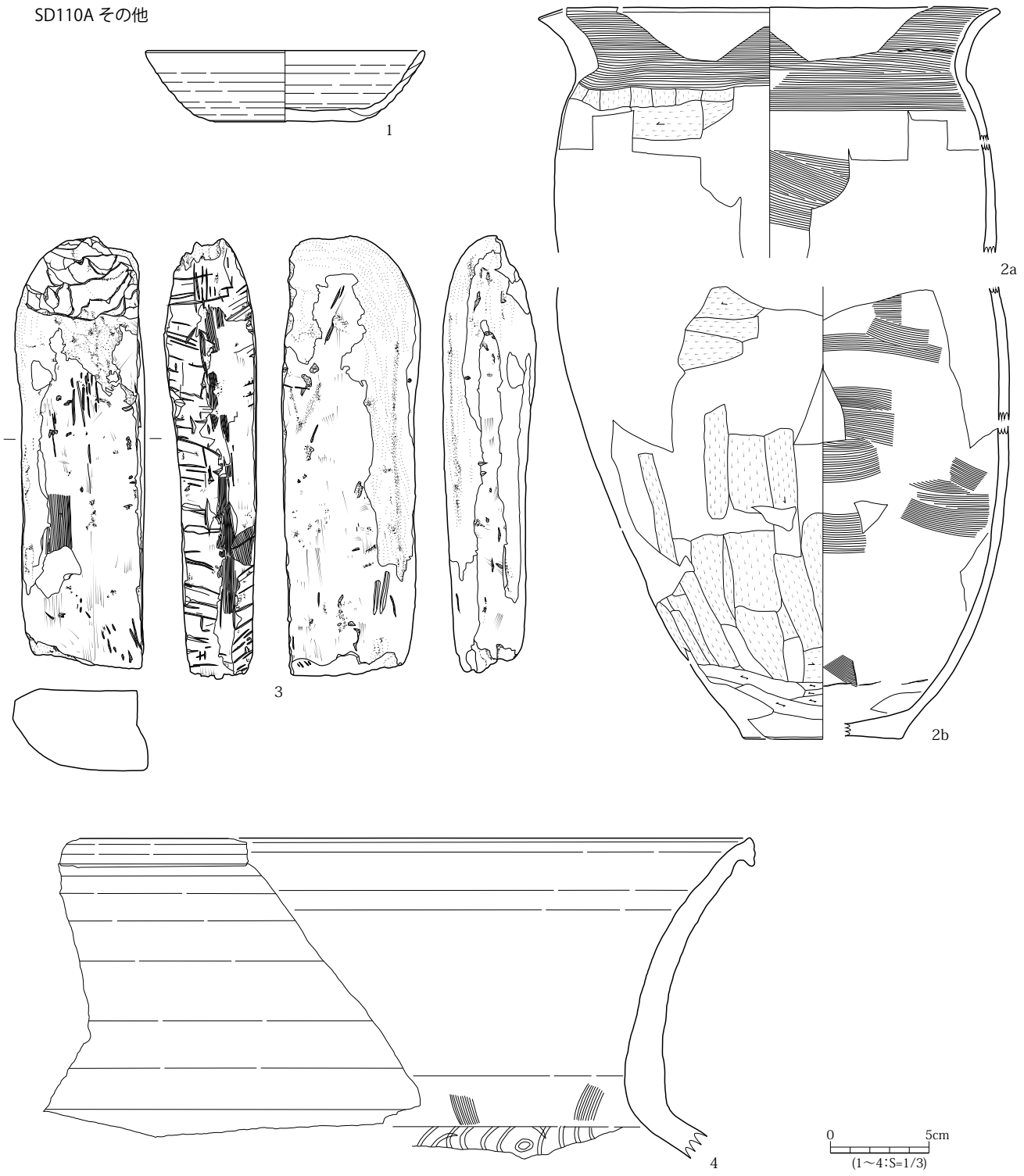
SD110A 南端　堆積土



No.	種別・器種	層	残存	法量(cm)			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径	器高			
1	須恵器　坏	10 層	(口)1/4(底)1/1	(13.2)	7.6	3.5	外内:ロクロナデ　底:切り離し不明→(体下～底)回転ヘラケズリ　内面底部摩耗	54-2	R77
2	須恵器　坏	13 層	(口)一部(底)3/4	(11.6)	7.0	3.95	外内:ロクロナデ　底:回転糸切り無調整　内面底部摩耗	54-3	R101
3	須恵器　坏	13 層	(体～底)一部		(6.0)		外内:ロクロナデ　底:回転糸切り無調整	54-4	R103
4	須恵器　坏	10 層	(口～底)一部				外内:ロクロナデ　底:回転糸切り無調整　外面口～体部に墨書「口木」	54-5	R401
5	須恵器　高台坏	13 層	底部				外面底部に墨書「占」	54-6	R402
6	須恵器　蓋	13 層	(口)1/4 (つまみ)1/1	(15.7)		4.1	外:ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ取り付け→ロクロナデ 内:ロクロナデ　宝珠形つまみ	54-7	R109
7	須恵器　鉢	13 層	(口～胴)一部				外:(口頸)平行タタキ→ロクロナデ(胴上)平行タタキ　内:ロクロナデ	54-8	R145
8	須恵器　甕	10 層	胴部				外:平行タタキ　内:「」の凸線のある当て具	54-9	R373
9	須恵器　転用砥	13 層	完形				長3.8㎝　幅4.3㎝　厚0.45㎝　砥面3　須恵器甕胴部を利用	54-11	R137
10	木製品　手火	13 層	破損				長(10.4㎝)　幅(1.3㎝)　厚(0.9㎝)　先端部炭化	54-12	R423
11	土師器　高台坏	17 層	(口)1/4(底)1/1	(20.0)		(7.3)	外:ロクロナデ 内:ヘラミガキ→黒色処理　底:切り離し不明→高台取り付け→ロクロナデ→ナデ	54-13	R353
12	土師器　坏	南端　堆	(口)1/2(底)1/2	(13.5)	(6.0)	(4.6)	外:(口)ナデ→(体～底)ヘラケズリ→(口～体)ヘラミガキ 内:ヘラミガキ→黒色処理　平底	55-1	R358
13	土師器　坏	南端　堆	口縁部				外:ロクロナデ　内:ヘラミガキ→黒色処理	55-4	R357
14	須恵器　坏	南端　堆	(口)3/4(底)1/1	13.2	7.6	4.3	外内:ロクロナデ　底:回転ヘラ切り→ナデ　火襷痕あり	55-2	R359
15	須恵器　蓋	南端　堆	(口)一部 (つまみ)1/1	(14.4)		4.2	外:ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ取り付け→ロクロナデ 内:ロクロナデ　宝珠形つまみ	55-3	R362
16	石製品　砥石	南側　堆	完形				凝灰岩製　長5.8㎝　幅3.9㎝　厚3.3㎝　重45.68g　砥面3	55-5	R363

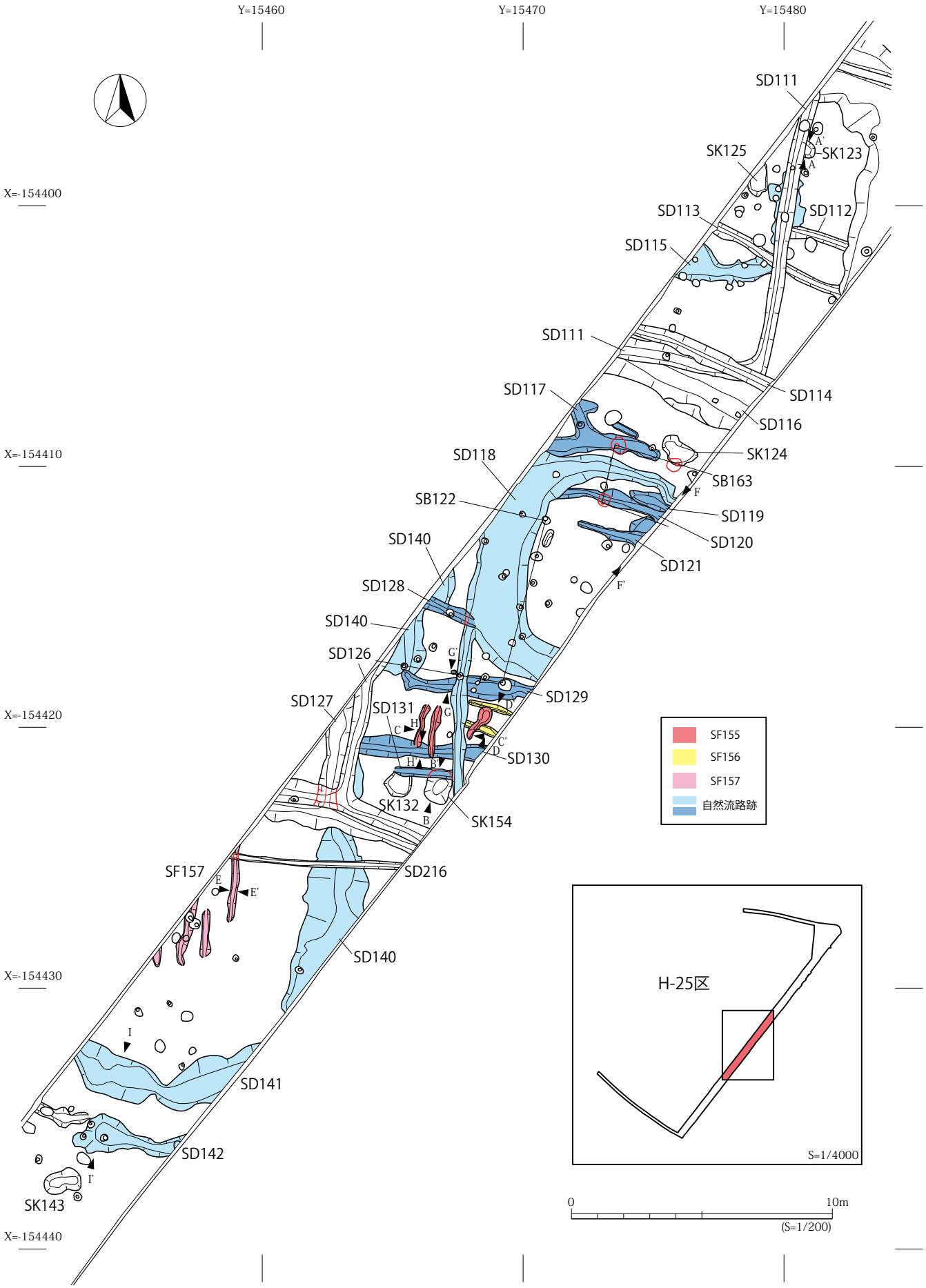
第 55 図　H-25 区　SD110A 河川跡　出土遺物（4）

SD110A その他



No.	種別・器種	層	残存	法量(cm)			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径	器高			
1	須恵器　坏	南西部　堆	(口)一部(底)1/4	(14.2)	(7.8)	(3.6)	外内：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り→ナデ　火襷痕あり	55-6	R364
2	土師器　甕	南西部　堆	(口)1/3 (胴)一部 (底)1/2	23.4	(8.2)		外：(胴)ヘラケズリ→(口)ナデ 内：(口)ナデ (胴)ヘラナデ	55-7	R396・ 397・ 399
3	石製品　砥石	堆	完形				頁岩製　長 23.1㎝　幅 7.0㎝　厚 4.8㎝　重 547.25g　砥面 4	55-9	R403
4	須恵器　甕	北側　堆	(口～胴上)一部				外：ロクロナデ　内：(胴)同心円当て具→(口頸)ロクロナデ→ナデ	55-8	R139

第 56 図　H-25 区　SD110A 河川跡　出土遺物（5）



第 57 図　H-25 区南側　検出遺構 1

＜SD110河川跡の南側で検出した遺構＞

SD110 河川跡の南側には、掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡、土坑、小溝状遺構群、河川・自然流路跡が分布する。特に溝跡と自然流路跡が多く、SD110 河川跡付近ではそれらが高い密度で認められる。

A. 掘立柱建物跡

【SB122掘立柱建物跡】（平面・断面図：第 58 図）

〔**位置**〕東部に位置し、東側柱列と北・南側柱列の一部を検出した。

〔**柱間数・棟方向**〕南北 3 間、東西 2 間以上の建物跡である。

〔**重複**〕SD118・129・SD140 自然流路跡と重複し、これらより新しい。

〔**検出状況**〕6 個検出し、すべての柱穴で柱痕跡、2 個（N1E1、S1E1）で柱抜取穴を確認した。

〔**平面規模**〕東側柱列は総長 6.6m、柱間寸法が北から 2.5m、2.1m、2.0m、南側柱列は総長 3.8m、柱間寸法が東から 1.9m 等間である。

〔**方向**〕東側柱列で測ると北で東に 15°偏る。

〔**柱穴**〕掘方は長軸 20 ～ 30cm の楕円形、隅丸方形で、深さは 29 ～ 78cm である。柱痕跡は径 12 ～ 18cm の円形である。

〔**出土遺物**〕柱痕跡から土師器坏・甕が出土した。

【SB163掘立柱建物跡】（平面・断面図：第 58 図）

〔**位置**〕東部に位置し、北側柱列と西側柱列を検出した。

〔**柱間数・棟方向**〕東西 1 間以上、南北 1 間の建物跡とみられる。

〔**重複**〕SK124 土坑、SD117・120 自然流路跡と重複し、これらより古い。

〔**検出状況**〕3 個検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認した。

〔**平面規模**〕北側柱列が 2.3m 以上、西側柱列が 2.2m である。

〔**方向**〕北側柱列で測ると西で北に 15°偏る。

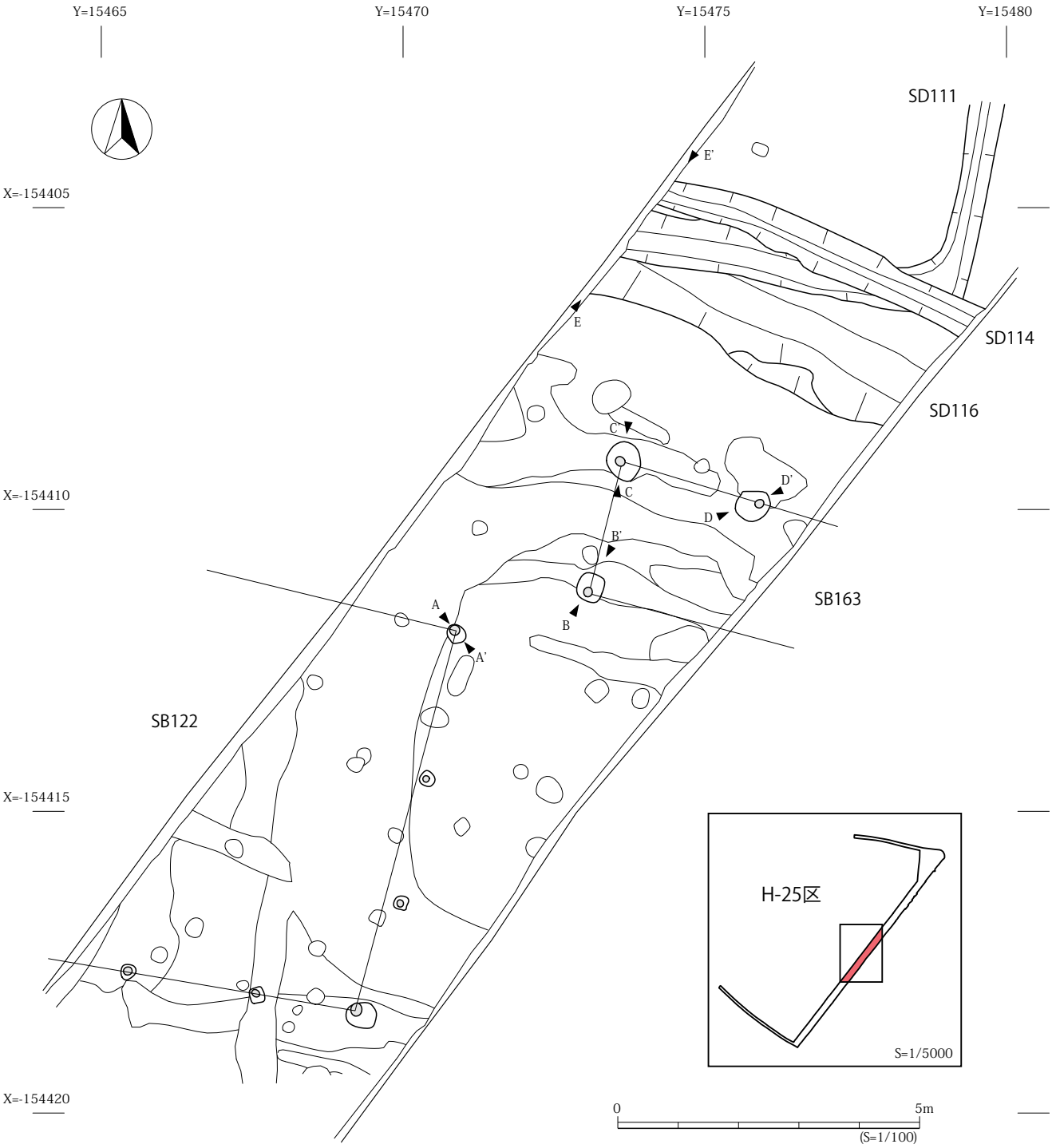
〔**柱穴**〕掘方は一辺 48 ～ 66cm の隅丸方形、楕円形で、深さは 40 ～ 45cm である。柱痕跡は径 15 ～ 19cm の円形である。

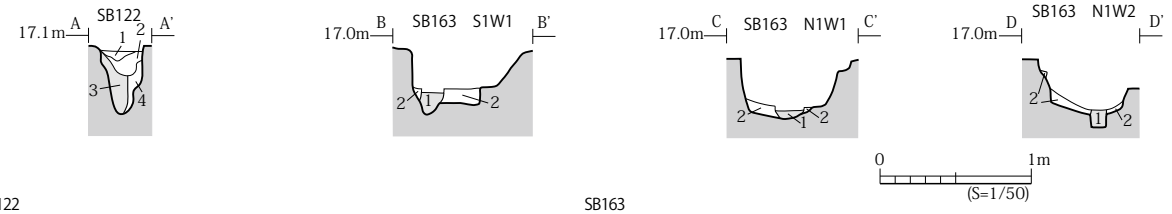
〔**出土遺物**〕掘方埋土と柱痕跡から土師器坏・甕が出土した。

B. 溝跡

【SD111溝跡】（平面図：第 57 図、断面図：第 59 図）

東部中央に位置する。SD112･113･114･116 溝跡、SK123 土坑、SD110 河川跡、SD115 自然流路跡と重複し、SD112･113･115･116、SK123、SD110 より新しく、SD114 より古い。平面は北東－南西と北西－南東方向からなる「L」字形で、検出長は北東－南西 10.8m、北西－南東 5.58m、規模は上幅 0.54 ～ 1.26m、下幅 0.12 ～ 0.72m、深さ 0.18m である。断面は逆台形である。堆積土は 1 層で自然堆積である。堆積土から土師器坏・甕、須恵器坏・蓋・甕、丸瓦が出土した。





SB122

層	土色	土性	特徴	備考
1	暗灰黄色（2.5Y4/2）	シルト	V層小ブロックを少量含む	抜取穴
2	黄灰色（2.5Y4/1）	シルト	V層小ブロックを少量含む	
3	黒褐色（2.5Y3/2）	シルト	V層小ブロックを少量含む	柱痕跡
4	黒褐色（2.5Y3/2）	シルト	V層小ブロックを多量に含む	掘方埋土

SB163

層	土色	土性	特徴	備考
1	暗灰黄色（2.5Y5/2）	粘土質シルト	V層小ブロックを含む	柱痕跡
2	黄灰色（2.5Y5/1）	粘土質シルト	V層小ブロックを多量に含む	掘方埋土

第 58 図　H-25 区　SB122・163 掘立柱建物跡

【SD114溝跡】（平面図：第 58 図、断面図：第 59 図）

東部中央に位置する。SD111・116 溝跡と重複し、これらより新しい。北西―南東方向で、検出長は 5.5m、規模は上幅 0.54～0.66m、下幅 0.15～0.18m、深さ 0.48m である。断面は「U」字形で、上部は緩やかに立ち上がって開く。堆積土は 3 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から中世陶器甕（図版 58-16）、土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏・蓋・甕が出土した。

【SD116溝跡】（平面・断面図：第 59 図、遺物：第 60～62 図）

東部中央に位置する。SD111・114 溝跡と重複し、これらより古い。北西―南東方向で、検出長は 5.3m、規模は上幅 1.5～2.2m、下幅 0.66～0.9m、深さ 0.37m である。断面は逆台形で、南壁は緩やかな傾斜となる。堆積土は 4 層に分かれ、いずれも自然堆積である。底面や底面直上から非ロクロ調整の土師器坏（第 60 図 1）・埦（2）・甕（3～7）、須恵器蓋（8）、堆積土から非ロクロ調整の土師器坏（第 61 図 1～4）・甕（7～9）、ロクロ調整の土師器高台坏（5・6）、須恵器坏（10～13、第 62 図 1）・高台坏（2～6）・蓋（7）・擂鉢（8）・甕（9）、転用砥（10）、動物骨、貝が出土した。

【SD138溝跡】（平面図：第 63 図、断面図・遺物：第 64 図）

南端に位置する。SD139・152 溝跡、SK151・153 土坑、SD145 自然流路跡と重複し、SK151・153 より新しく、SD139・145・152 より古い。北東－南西方向で、検出長は 33.0m、規模は上幅 0.6～1.32m 以上、下幅 0.24～0.36m、深さ 0.56m である。断面は逆台形である。堆積土は 5 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から縄文土器浅鉢（第 64 図 1）、ロクロ調整の土師器坏、非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・甕、丸瓦、平瓦、砥石（2）が出土した。

【SD139溝跡】（平面図：第 63 図、断面図・遺物：第 64 図）

H-25 区南端と H-30 区東端に位置する。SD138・152・227 溝跡、SK234 土坑、SD145 自然流路跡と重複し、SD138 より新しく、SD145・152・227、SK234 より古い。北東－南西方向で、検出長は 20.4m、規模は上幅 1.2～3.84m、下幅 0.12～0.48m、深さ 0.6m である。断面は上部が大きく開く逆台形である。堆積土は 5 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から、ロクロ調整の土師器坏、非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・甕、丸瓦、平瓦、石器、鉄製の小刀（第 64 図 3）、植物種子が出土した。

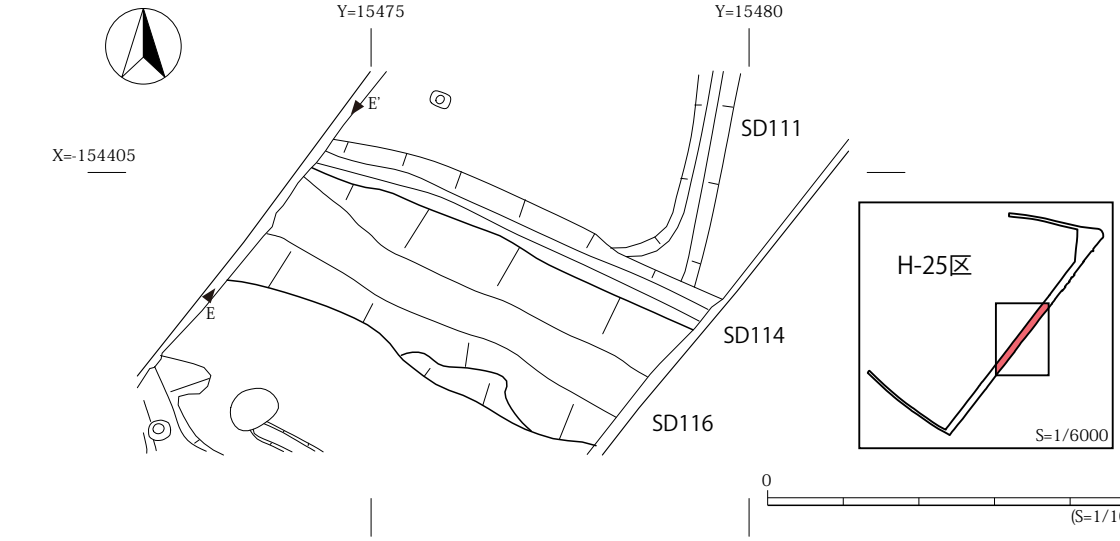
C. 井戸跡

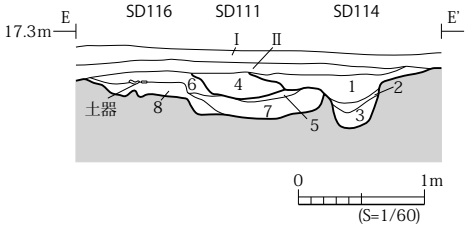
【SE135井戸跡】（平面・断面図・遺物：第 65 図）

南東部に位置する。SX133 自然堆積層と重複し、これより古い。平面は北西―南東に長軸を持つ楕円形で、規模は長軸 2.0m、短軸 1.64m、深さ 1.45m である。断面は漏斗形である。堆積土は 6 層に分かれ、1 層と 3～6 層が自然堆積、2 層が人為的埋土である。3 層上面から漆器の片口鉢（第 65 図 1）、堆積土から非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・甕、丸瓦が出土した。漆器は、2 層と 3 層の層理面で、SE135 の中央に位置し、片口部を南西方向に向けていた。

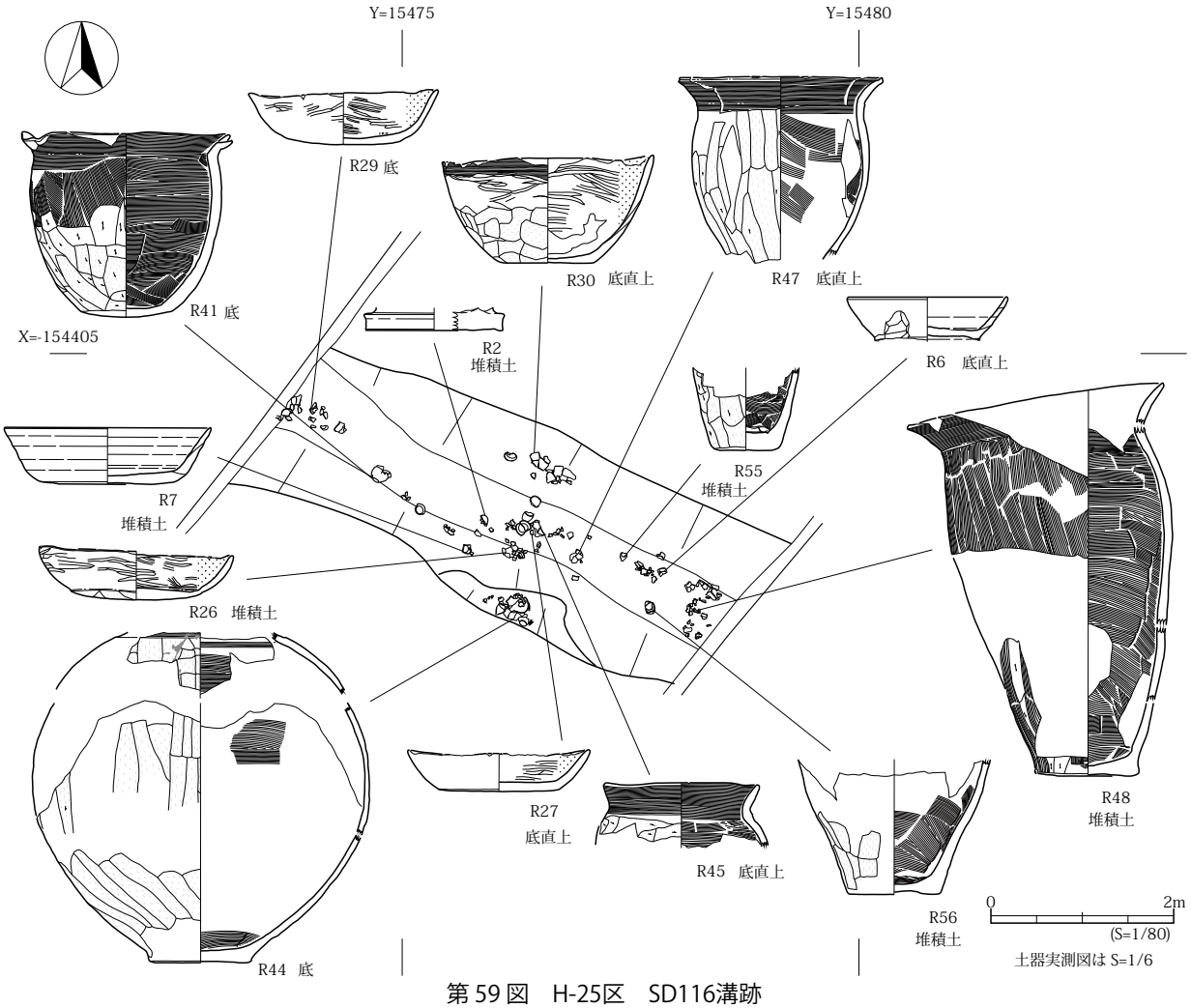
【SE136井戸跡】（平面図：第 63 図、断面図・遺物：第 66 図）

南東部に位置する。平面は円形で、規模は径 1.6m、深さ 0.95m である。断面は「U」字形である。堆積土は 6 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器蓋・甕、丸瓦（第 66 図 1）が出土した。



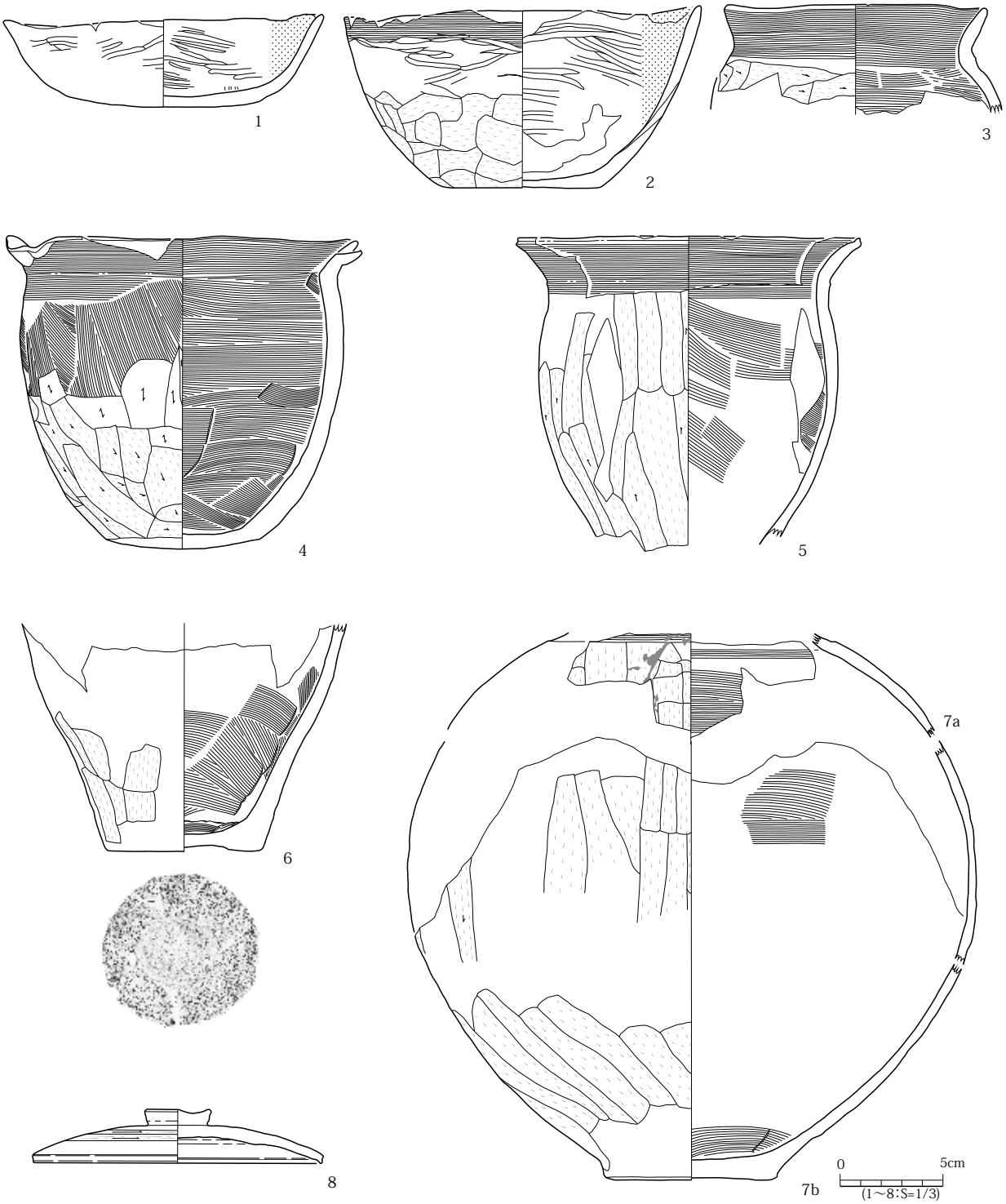


遺構	層	土色	土性	特徴	備考
SD114	1	黒褐色(2.5Y3/1)	シルト	Ⅴ層粒をわずかに含む	自然堆積
	2	黒褐色(2.5Y3/2)	粘土質シルト	Ⅴ層粒をわずかに含む	
	3	黒褐色(2.5Y3/1)	粘土質シルト	Ⅴ層粒・小ブロックをやや多く含む	
SD111	4	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	暗灰黄色(2.5Y5/2)粘土質シルト小ブロックを含む	自然堆積
SD116	5	暗灰黄色(2.5Y4/2)	粘土質シルト		自然堆積
	6	暗灰黄色(2.5Y4/2)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック、炭化物片をやや多く含む	
	7	暗灰黄色(2.5Y5/2)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック、炭化物片を少量含む	
	8	黄灰色(2.5Y4/1)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック、炭化物粒を含む	



第 59 図　H-25区　SD116溝跡

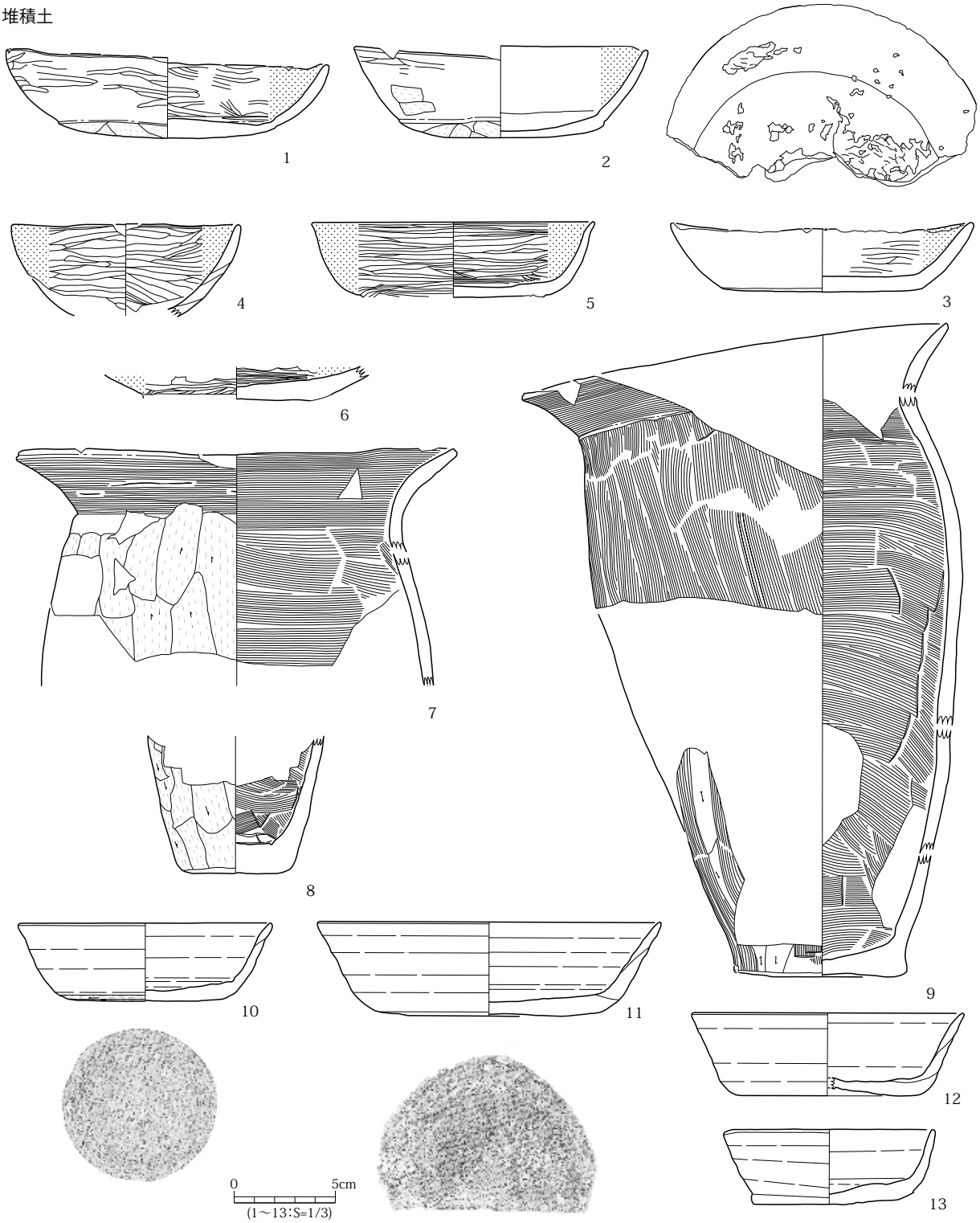
底・底直上



No.	種別・器種	層	残存	法量(cm)			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径	器高			
1	土師器　坏	底	(口～底)4/5	15.6		4.5	外：ヘラミガキ　内：ヘラミガキ→黒色処理　丸底	56-1	R29
2	土師器　埦	底直上	(口)3/4(底)1/1	17.4	7.7	8.85	外：(口)ナデ(体)ヘラケズリ→(口～体上)ヘラミガキ 内：ヘラミガキ→黒色処理　底：ヘラケズリ　平底	56-2	R30
3	土師器　甕	底直上	(口)2/3(胴)一部	12.8			外：(口)ナデ(胴)ヘラケズリ　内：ナデ	56-3	R45
4	土師器　甕	底直上	ほぼ完形	17.1	7.4	15.2	外：(口)ナデ→(胴)ハケメ→ヘラケズリ　内：(口)ナデ→(胴)ヘラナデ 底：ヘラケズリ　口縁部に２ヶ所押圧の痕跡あり	56-4	R41
5	土師器　甕	底直上	(口)1/4(胴)一部	(16.8)			外：(口)ナデ(胴)ヘラケズリ　内：(口)ナデ(胴)ヘラナデ	56-6	R47
6	土師器　甕	底直上	(胴下～底)1/1		7.4		外：ヘラケズリ　内：ヘラナデ　底：木葉痕　被熱	56-7	R56
7	土師器　甕	底	(頸～胴)一部(底)1/1		8.2		外：ヘラケズリ　内：(胴)ヘラナデ(底)ハケメ　漆による接着痕あり	56-5	R44
8	須恵器　蓋	底	(口)1/4(つまみ)2/3	(14.0)		2.6	外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ取り付け→ロクロナデ 内：ロクロナデ　宝珠形つまみ	58-11	R5

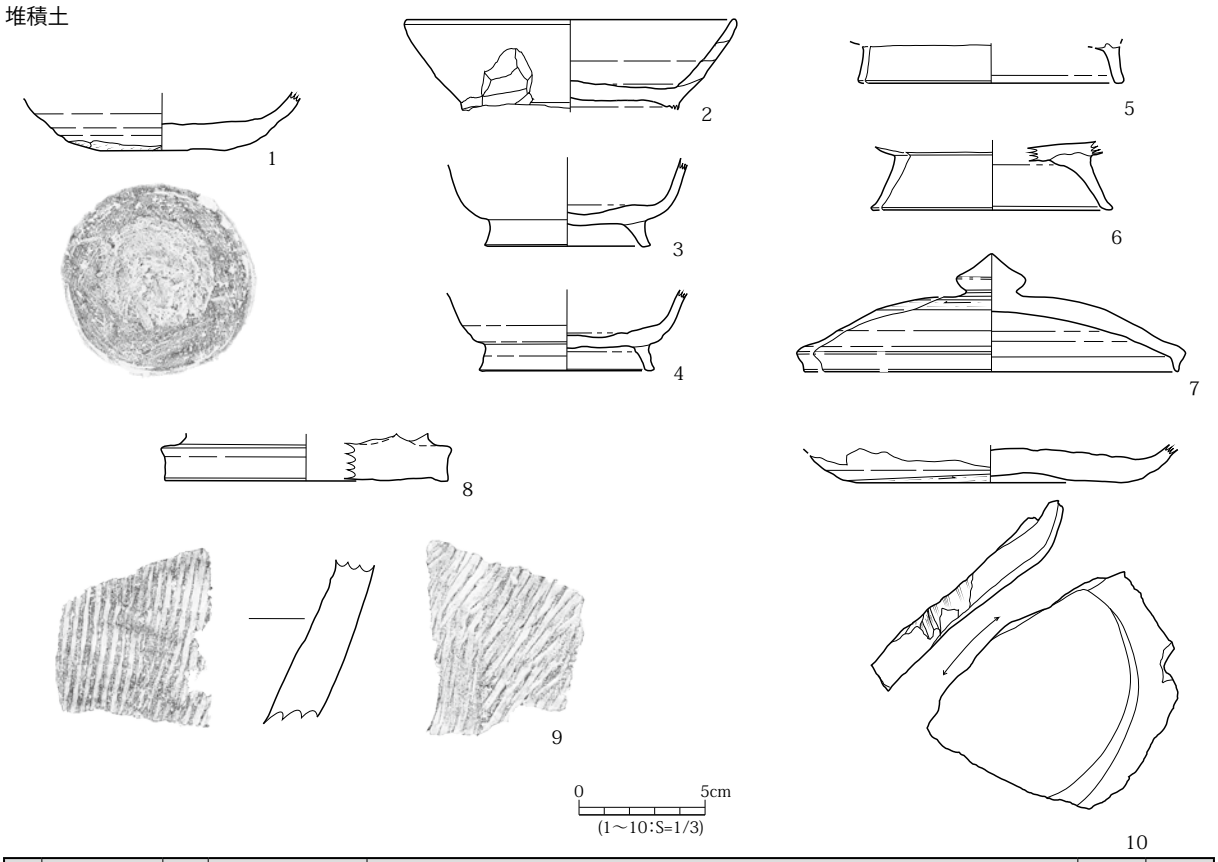
第 60 図　H-25 区　SD116 溝跡　出土遺物（1）

堆積土



No.	種別・器種	層	残存	法量（cm）			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径	器高			
1	土師器　坏	7層	ほぼ完形	16.0		4.4	外：(口～体上)ヘラミガキ(体下～底)ヘラケズリ　内：ヘラミガキ→黒色処理　丸底	57-1	R26
2	土師器　坏	堆	(口～底)3/4	14.6		4.55	外：ヘラケズリ、ヘラミガキ　内：ヘラミガキ→黒色処理　丸底	57-2	R28
3	土師器　坏	堆	(口～底)1/2	(15.0)	(10.0)	(3.4)	外：不明　内：ヘラミガキ→黒色処理　平底　内面に漆被膜付着	57-3	R27
4	土師器　坏	堆	(口～体)1/5	(11.4)	(4.5)		外内：ヘラミガキ→黒色処理	57-4	R35
5	土師器　高台坏	堆	(口～底)1/4	(14.0)			外内：ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理 底：切り離し不明→高台取り付け→ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理　胎土精良	57-6	R33
6	土師器　高台坏	堆	(体～底)1/3				外内：ロクロナデ→ヘラミガキ→黒色処理 底：切り離し不明→高台取り付け→ロクロナデ→回転ヘラケズリ→黒色処理　胎土精良	57-5	R32
7	土師器　甕	堆	(口)4/5(胴)一部	21.8			外：(口)ナデ(胴)ヘラケズリ　内：(口)ナデ(胴)ヘラナデ	57-7	R42＋43
8	土師器　甕	7層	(胴～底)3/4	(6.8)	(5.7)		外：ヘラケズリ　内：ヘラナデ　底：ヘラナデ　被熱	57-8	R55
9	土師器　甕	堆	(口)一部(底)1/1		8.2		外：(口)ナデ（胴)ハケメ、ヘラケズリ　内：(口)ナデ(胴)ヘラナデ　底：ナデ	57-9	R48
10	須恵器　坏	堆	(口)1/2(底)1/1	(12.6)	7.6	3.85	外内：ロクロナデ　底：切り離し不明→(体下～底)回転ヘラケズリ　内面立上りに沈線	58-1	R1
11	須恵器　坏	7層	(口)1/4(底)4/5	17.0	10.8	4.65	外内：ロクロナデ　底：静止糸切り　内面立上りに沈線	58-3	R7
12	須恵器　坏	堆	(口)1/2(底)4/5	13.5	8.6	4.1	外内：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り→ナデ　火襷痕あり	58-2	R3
13	須恵器　坏	堆	(口)1/2(底)1/1	10.4	7.2	3.7	外内：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り→ナデ　火襷痕あり	58-4	R671

第 61 図　H-25 区　SD116 溝跡　出土遺物（2）



No.	種別・器種	層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	須恵器　坏	堆	(体～底) 1/1	底径 7.4cm　外内：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り→外周を手持ちヘラケズリ	58-5	R11
2	須恵器　高台坏	堆	(口) 1/4 (底) 1/2	口径 (13.2cm)　外内：ロクロナデ 底：切り離し不明→回転ヘラケズリ→高台取り付け→ロクロナデ　外面に須恵器片溶着　内面立上りに沈線	58-6	R6
3	須恵器　高台坏	堆	(体) 一部 (高台) 1/1	高台径 6.6cm　外内：ロクロナデ　底：切り離し不明→回転ヘラケズリ→高台取り付け→ロクロナデ	58-7	R9
4	須恵器　高台坏	堆	(体) 一部 (高台) 1/1	高台径 6.9cm　外内：ロクロナデ　底：切り離し不明→回転ヘラケズリ→高台取り付け→ロクロナデ	58-8	R10
5	須恵器　高台坏	堆	(高台) 1/4	高台径 (10.6cm)　外内：ロクロナデ　接合痕跡 (1 条の凸部) あり	58-9	R25
6	須恵器　高台坏	堆	(体) 1/4 (高台) 1/5	高台径 (9.6cm)　外内：ロクロナデ	58-10	R8
7	須恵器　蓋	堆	(口) 1/5 (つまみ) 1/1	口径 (14.8cm)　外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ取り付け→ロクロナデ 内：ロクロナデ　宝珠形つまみ	58-12	R4
8	須恵器　擂鉢	7 層	(底) 1/2	底径 (11.2cm)	58-14	R2
9	須恵器　甕	堆	胴部	外：平行タタキ　内：平行刻み目当て具	58-13	R23
10	須恵器　転用砥	堆		底径 (10.8cm)　外内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切り→ (体下～底) 回転ヘラケズリ　須恵器坏の断面を砥面に利用　内面底部も摩耗	58-15	R17

第 62 図　H-25 区　SD116 溝跡　出土遺物（3）

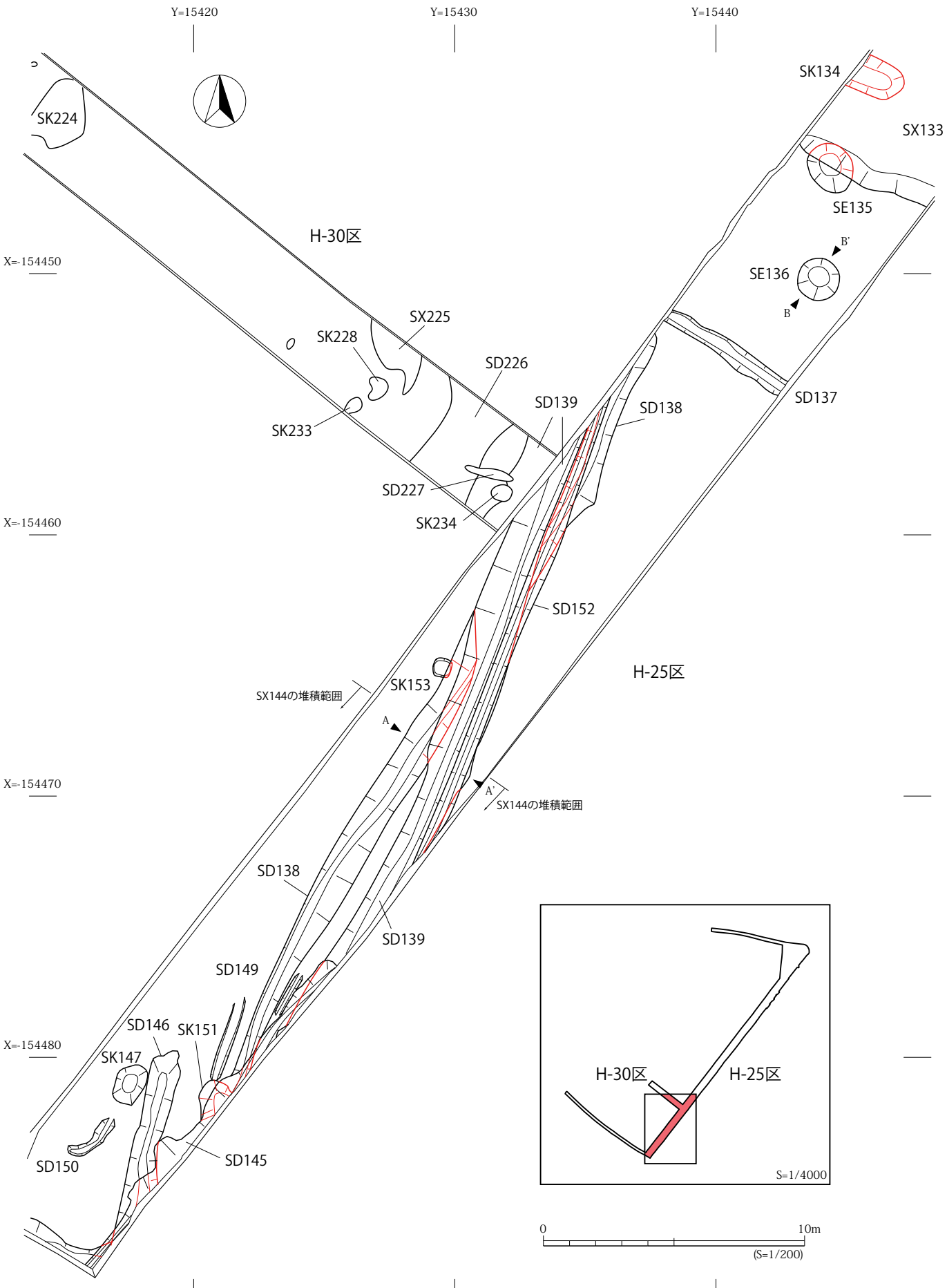
D. 土坑

【SK123土坑】（平面図：第 57 図、断面図・遺物：第 67 図）

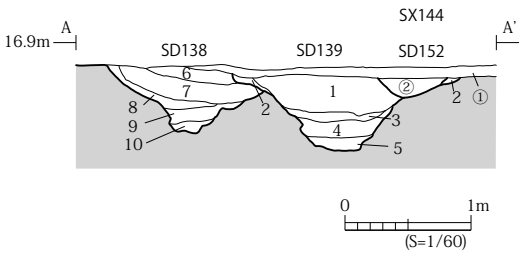
東部中央に位置する。SD111 溝跡と重複し、これより古い。東半のみの検出だが、平面は楕円形とみられる。規模は東西 0.6m 以上、南北 0.42m、深さ 0.12m である。断面は皿状である。堆積土は 1 層で、自然堆積である。堆積土から非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏（第 67 図 1）が出土した。

【SK154土坑】（平面図：第 57 図、断面図・遺物：第 67 図）

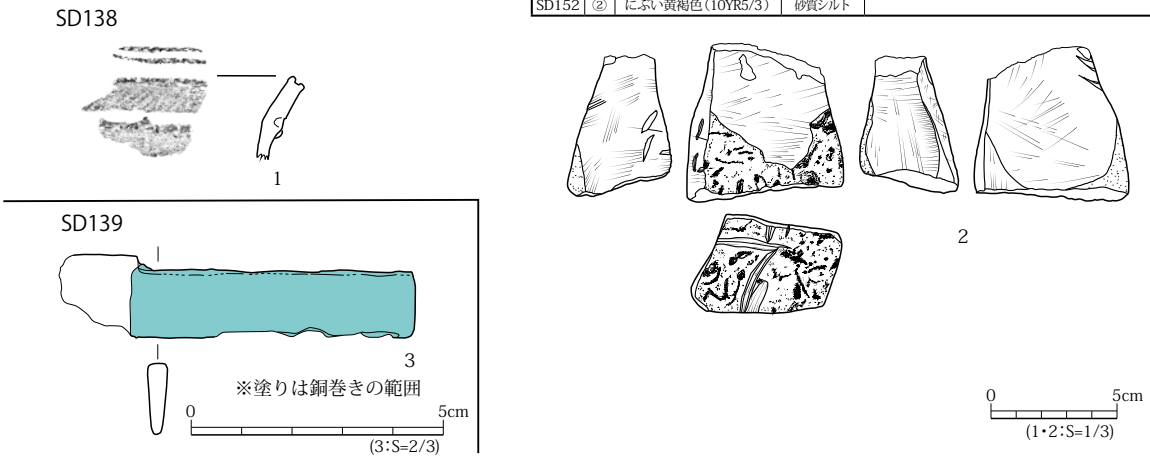
東部中央に位置する。SD131 自然流路跡と重複し、これより古い。平面は南北方向に長軸を持つ楕円形で、規模は長軸 1.32m、短軸 0.96m、深さ 0.26m である。断面は逆台形で、底面中央には凹凸がある。堆積土は 4 層に分かれ、1・2・4 層が自然堆積で、3 層は人為的埋土の可能性がある。1 層から非ロクロ調整の土師器坏（第 67 図 2）・甕、2 ～ 4 層から非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏（3）高台坏（4）・蓋（5・6）、堆積土から壁土が出土した。



第 63 図　H-25 区南側　検出遺構 2



遺構	層	土色	土性	特徴	備考
SD139	1	灰黄褐色（10YR4/2）	砂質シルト		自然堆積
	2	にぶい黄褐色（10YR4/3）	シルト	にぶい黄色（2.5Y6/3）シルト小ブロックをわずかに含む	
	3	灰黄褐色（10YR5/2）	粘土質シルト		
	4	黒褐色（10YR3/2）	粘土質シルト	にぶい黄色（2.5Y6/4）粘土質シルトブロックを西側に　下部に緑灰色（10GY6/1）シルトを少量含む	
	5	緑灰色（10GY5/1）	シルト	V層ブロックを少量含む	
SD138	6	にぶい黄褐色（10YR5/3）	シルト		自然堆積
	7	褐灰色（10YR4/1）	シルト		
	8	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	にぶい黄色（2.5Y6/4）粘土質シルト小ブロックを少量、下部に酸化鉄を含む	
	9	黒褐色（10YR3/1）	粘土質シルト	にぶい黄色（2.5Y6/3）砂質シルトブロックを含む	
	10	黒褐色（2.5Y3/1）	粘土質シルト	にぶい黄色（2.5Y6/3）砂質シルト小ブロックを少量含む	
SX144	①	にぶい黄橙（10YR6/3）	シルト		自然堆積
SD152	②	にぶい黄褐色（10YR5/3）	砂質シルト		自然堆積



No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	縄文土器　浅鉢	SD138　堆	口縁部	L R縄文、四字文　口唇部に口縁に平行する沈線	58-17	R192
2	石製品　砥石	SD138　6・7層	破損	砂岩製　長（5.8cm）　幅（5.8cm）　厚（4.5cm）　重（163.16g）　砥面５	58-18	R233
3	鉄製品　小刀	SD139　2層	破損	長（7.1cm）　幅（1.5cm）　厚（0.5cm）　柄：銅巻き	58-19	R410

第 64 図　H-25区　SD138・139溝跡　断面・出土遺物

E. 小溝状遺構群

【SF155小溝状遺構群】（平面図：第 57 図、断面図：第 67 図）

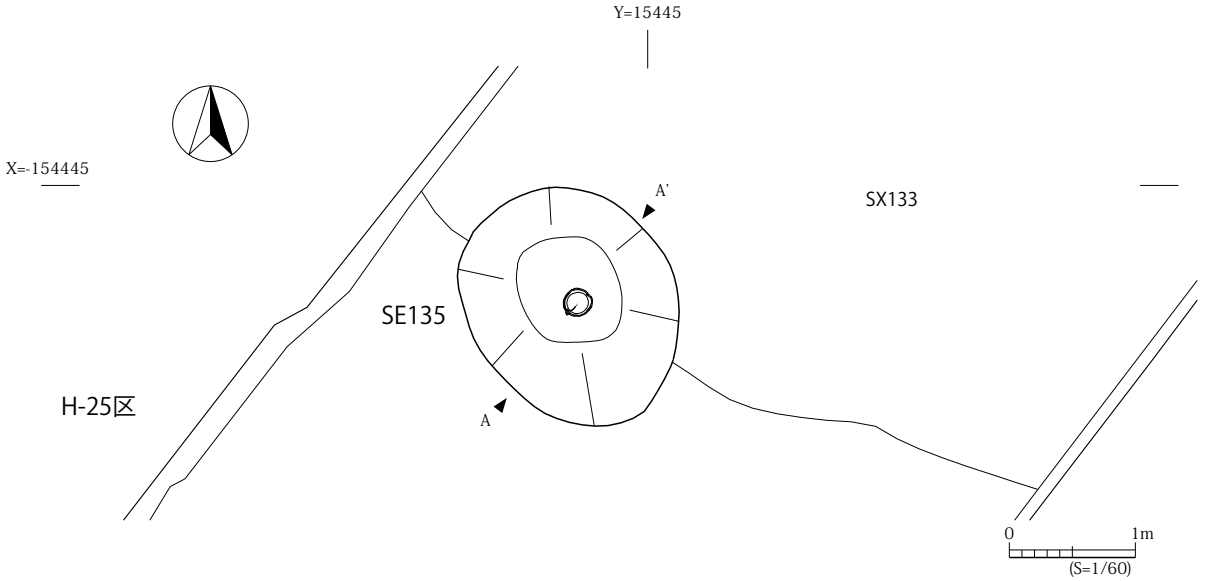
東部中央に位置する。SF156 小溝状遺構群、SD130 自然流路跡と重複し、これらより新しい。３条検出し、東西 3.0m、南北 2.0m の範囲に分布する。南北方向で、検出長は最大で 2.0m、規模は上幅 0.18 ～ 0.54m、下幅 0.05 ～ 0.12m、深さ 0.02 ～ 0.05m 、溝中心間の距離は 0.6m である。断面は皿状である。堆積土から土師器甕、須恵器甕が出土した。

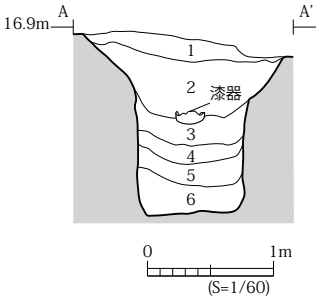
【SF156小溝状遺構群】（平面図：第 57 図、断面図：第 67 図）

東部中央に位置する。SF155 小溝状遺構群、SD118 自然流路跡と重複し、これらより古い。２条検出し、北西―南東 1.7m、北東―南西 1.1m の範囲に分布する。北西―南東方向で、検出長は最大で 1.8m、規模は上幅 0.18 ～ 0.3m、下幅 0.03 ～ 0.15m、深さ 0.03 ～ 0.09m、溝中心間の距離は 0.9m である。断面は「U」字形と皿状である。堆積土から土師器甕が出土した。

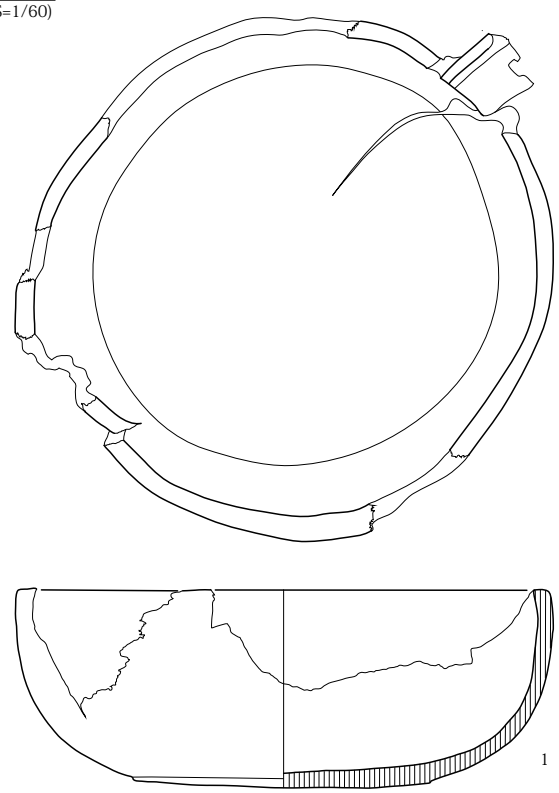
【SF157小溝状遺構群】（平面図：第 57 図、断面図：第 67 図）

東部中央に位置する。SD216 溝跡と重複し、これより古い。４条検出し、東西 3.5m、南北 4.7m の範囲に分布する。南北方向で、検出長は最大で 3.0m、規模は上幅 0.27 ～ 0.42m、下幅 0.09 ～ 0.25m、深さ 0.03 ～ 0.07m、溝中心間の距離は 0.7 ～ 0.9m である。断面は逆台形である。堆積土から土師器甕、須恵器坏が出土した。



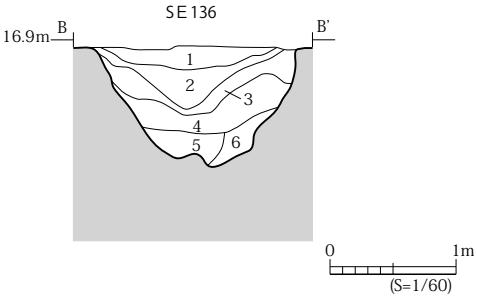


層	土色	土性	特徴	備考
1	黒褐色（10YR3/2）	粘土質シルト	V層小ブロック・ブロックを含む	自然堆積
2	黄褐色（2.5Y5/3）	シルト	黒褐色（10YR3/2）シルト質粘土小ブロック・ブロック、酸化鉄を多量に、暗褐色（10YR3/3）シルト質粘土小ブロック・ブロックを少量含む	人為
3	黒褐色（10YR3/1）	粘土	砂を含む	自然堆積
4	黒褐色（2.5Y3/1）	粘土	砂を含む	
5	オリーブ灰色（2.5GY5/1）	砂質シルト	V層大ブロックを含む	
6	灰色（7.5Y4/1）	シルト	オリーブ黒色（5Y3/1）粘土質シルト小ブロック・ブロックを含む	

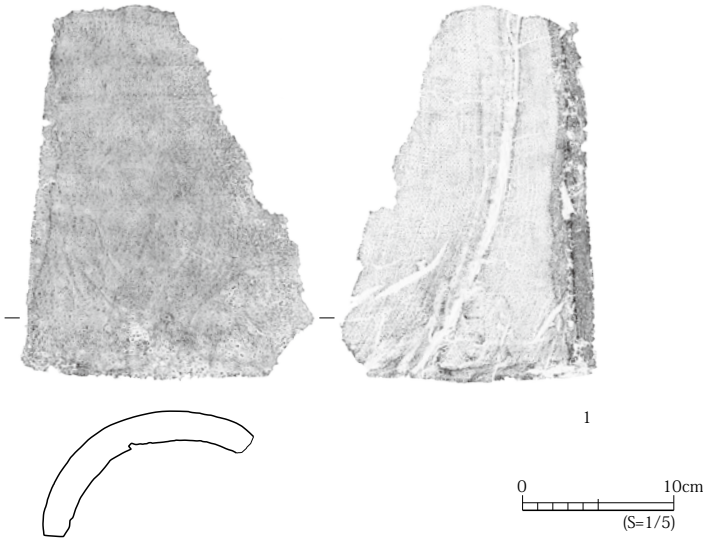


No.	種別・器種	層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	漆器　片口鉢	3層上面	（口）3/4（底）1/1	口径 21.3cm　底径 11.9cm　器高 7.9cm　片口長（2.9cm）　片口幅（2.7cm）	—	R415

第 65 図　H-25区　SE135井戸跡



層	土色	土性	特徴	備考
1	灰黄褐色(10YR5/2)	砂質シルト	炭化物をわずかに含む	自然堆積
2	灰黄色(2.5Y6/2)	砂質シルト	炭化物をわずかに含む	
3	浅黄色(2.5Y7/3)	砂質シルト	暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質シルトブロック、小礫を多量に含む	
4	黄灰色(2.5Y4/1)	粘土質シルト	V層をラミナ状に含む	
5	暗灰黄色(2.5Y4/2)	砂	黄灰色(2.5Y4/1)シルト大ブロックを含む	
6	にぶい黄色(2.5Y6/3)	砂	黄灰色(2.5Y4/1)粘土質シルト小ブロックを含む	



No.	種別・器種	層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	丸瓦	4層	破損	凸面：ロクロナデ　凹面：粘土紐痕→布目	58-20	R270

第 66 図　H-25区　SE136井戸跡　断面・出土遺物

F. 河川跡・自然流路跡

【SD4河川跡】（平面図：第 27 図）

南部に位置する。SD145 溝跡、SD12 河川跡と重複し、SD12 より新しく、SD145 より古い。3 時期（A → B → C）認められた。H-25 区南東隅で SD4C の截ち割り調査を行った。

SD4A は一部の検出であるため規模は不明、SD4B は検出長 11.2m、上幅 6.0m、SD4C は、検出長 43m、上幅 4.0m 以上である。SD4C で土師器坏・甕、須恵器蓋・甕が出土した。

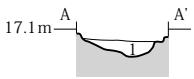
【SD12河川跡】（平面図：第 27 図）

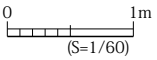
南部に位置する。SD4 河川跡と重複し、これより古い。遺構確認のみの調査である。検出長は 36m、上幅 25m 以上である。土師器甕、須恵器高台坏・甕が出土した。

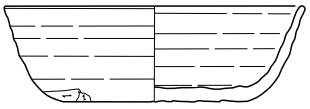
【SD118自然流路跡】（平面図：第 57 図、断面図・遺物：第 68 図）

東部中央に位置する。SB122 掘立柱建物跡、SF156 小溝状遺構群、SD117・119・120・128 ～ 131 自然流路跡と重複し、SD117・119・120・129 ～ 131、SF156 より新しく、SB122、SD128 より古い。東西―南北方向に弧状にめぐるものと南北方向に直線状に延びるものからなり、検出長は、前者が南北 8.9m、東西 5.1m、後者が 6.0m である。規模は上幅 0.4 ～ 2.2m、深さ 0.16 ～ 0.22m である。堆積土から非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・甕、須恵器甕胴部破片と平瓦が溶着したもの（第 68 図 1）が出土した。

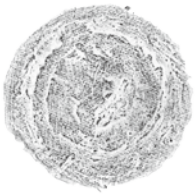
SK123

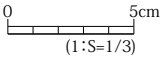






1

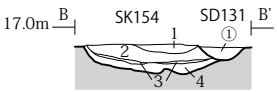


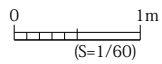


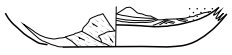
層	土色	土性	特徴	備考
1	黒褐色（2.5Y3/2）	粘土質シルト	炭化物をわずかに、V層小ブロック・ブロックを含む	自然堆積

No.	種別・器種	遺構・層	残存	法量（cm）			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径	器高			
1	須恵器　坏	SK123 1層	（口）3/4 （底）1/1	12.0	7.5	3.8	外内：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り→（体下～底外周・中央）手持ちヘラケズリ　内面立上りに沈線	59-1	R221

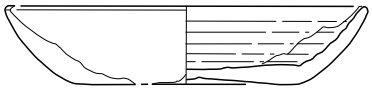
SK154



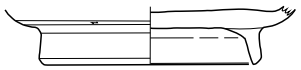




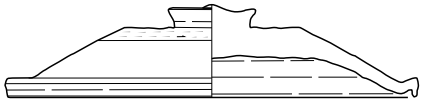
2



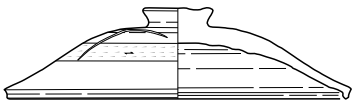
3



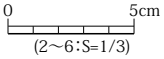
4



5



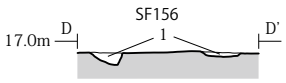
6

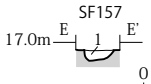


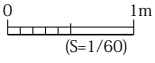
遺構	層	土色	土性	特徴	備考
SK154	1	灰黄色（2.5Y6/2）	粘土質シルト	V層粒を含む	自然堆積
	2	暗灰黄色（2.5Y5/2）	粘土質シルト	V層小ブロック、炭化物片を含む	
	3	黒色（10YR2/1）	シルト	炭化物片、焼土粒、小礫を含む	人為ヵ
	4	暗灰黄色（2.5Y4/2）	粘土質シルト	V層小ブロックをやや多く含む	自然堆積
SD131	①	暗灰黄色（2.5Y5/2）	粘土質シルト	V層小ブロックを少量含む	自然堆積

No.	種別・器種	遺構・層	残存	法量			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径（高台径）	器高			
2	土師器　坏	SK154　1層	（体～底）1/2		6.0		外：ヘラケズリ　内：ヘラミガキ→黒色処理　平底	59-2	R229
3	須恵器　坏	SK154　2・3層	（口）一部 （底）3/4	（14.4）	7.5	3.1	外内：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り→ナデ　内面摩耗　内面立上りに沈線	59-3	R225
4	須恵器　高台坏	SK154　3層	（体）一部 （高台）1/1		8.8		外：ロクロナデ→（体下）回転ヘラケズリ　内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切り→高台取り付け→ロクロナデ　内面摩耗	59-4	R226
5	須恵器　蓋	SK154　4層	（口）1/2 （つまみ）1/1	（16.4）		3.7	外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ取り付け→ロクロナデ 内：ロクロナデ　宝珠形つまみ　火襷痕あり	59-5	R223
6	須恵器　蓋	SK154　4層	完形	13.8		3.6	外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ取り付け→ロクロナデ 内：ロクロナデ　外面にヘラによる弧状の痕跡あり	59-6	R224

SF155 ～ 157





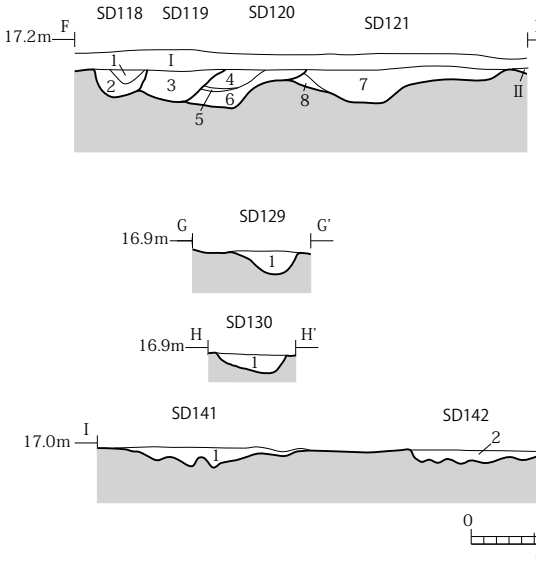


遺構	層	土色	土性	特徴	備考
SF155	1	暗灰黄色（2.5Y5/2）	粘土質シルト	V層粒・小ブロックを少量含む	自然堆積
SD118	2	暗灰黄色（2.5Y5/2）	粘土質シルト	V層小ブロックをやや多く含む	自然堆積

層	土色	土性	特徴	備考
1	灰黄色（2.5Y6/2）	粘土質シルト	V層粒を含む	自然堆積

層	土色	土性	特徴	備考
1	暗灰黄色（2.5Y4/2）	シルト	V層粒を多量に含む	自然堆積

第 67 図　H-25区　SK123・154土坑　断面・出土遺物、SF155～157小溝状遺構群　断面

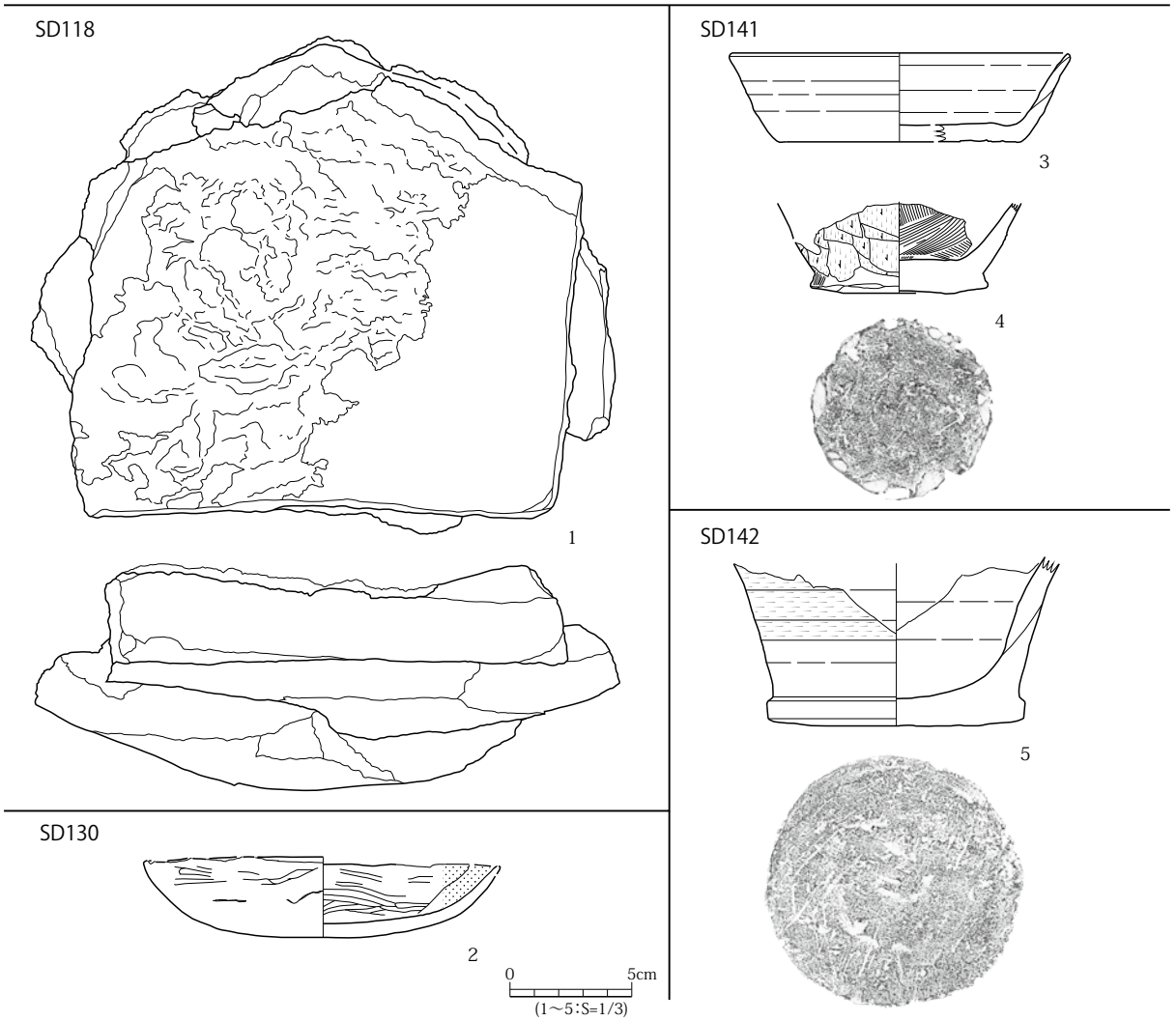


遺構	層	土色	土性	特徴
SD118	1	暗灰黄色（2.5Y4/2）	シルト	Ⅴ層粒を含む
	2	黄灰色（2.5Y4/1）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを含む
SD119	3	暗灰黄色（2.5Y4/2）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック・ブロックを含む
SD120	4	暗灰黄色（2.5Y4/2）	粘土質シルト	Ⅴ層粒、炭化物粒、焼土小ブロックをわずかに含む
	5	黒色（2.5Y2/1）	シルト	炭化物を多量に、焼土小ブロックをわずかに含む
	6	オリーブ褐色（2.5Y4/3）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを少量含む
SD121	7	暗灰黄色（2.5Y4/2）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを含む
	8	暗灰黄色（2.5Y4/2）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック、黄灰色（2.5Y4/1）小ブロックを含む

層	土色	土性	特徴	備考
1	にぶい黄色（2.5Y6/3）	シルト	酸化鉄を含む	自然堆積

層	土色	土性	特徴	備考
1	暗灰黄色（2.5Y5/2）	シルト	Ⅴ層小ブロックをやや多く含む	自然堆積

遺構	層	土色	土性	特徴
SD141	1	黄灰色（2.5Y5/1）	シルト	炭化物をわずかに、Ⅴ層小ブロックを含む
SD142	2	黄灰色（2.5Y5/1）	シルト	Ⅴ層小ブロックを含む



No.	種別・器種	遺構・層	残存	法量（cm）			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径	器高			
1	須恵器甕＋平瓦	SD118　堆					須恵器甕胴部破片２点と平瓦１点の溶着	58-21	R177
2	土師器　坏	SD130　堆	（口～底）1/2	（14.7）		3.3	外：ヘラミガキ　内：ヘラミガキ→黒色処理　丸底	59-7	R184
3	須恵器　坏	SD141　堆	（口）1/4（底）一部	（14.0）	（9.8）	3.65	外内：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り→ナデ　内面摩耗　火襷痕あり	59-8	R205
4	土師器　甕	SD141　堆	（胴～底）1/1		7.2		外：ハケメ→ヘラケズリ　内：ヘラナデ 底：ヘラケズリ　底部周縁に面取りのような調整あり	59-9	R208
5	須恵器　擂鉢	SD142　堆	（胴～底）1/1		10.5		外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ　内：ロクロナデ　底：手持ちヘラケズリ	59-10	R210

第 68 図　H-25区　SD118～121・129・130・141・142自然流路跡　断面・出土遺物

【SD120自然流路跡】（平面図：第 57 図、断面図：第 68 図）

東部中央に位置する。SB163 掘立柱建物跡、SD118・119・121 自然流路跡と重複し、SB163、SD121 より新しく、SD118・119 より古い。北西―南東方向で、検出長は 4.1m、規模は上幅 0.24 ～ 0.39m、深さ 0.15 ～ 0.30m である。

【SD129自然流路跡】（平面図：第 57 図、断面図：第 68 図）

東部中央に位置する。SB122 掘立柱建物跡、SD118・140 自然流路跡と重複し、SD140 より新しく、SB122、SD118 より古い。東西方向で、検出長は 5.7m、規模は上幅 0.48 ～ 0.9m、深さ 0.2m である。堆積土から土師器甕が出土した。

【SD130自然流路跡】（平面図：第 57 図、断面図・遺物：第 68 図）

東部中央に位置する。SF155 小溝状遺構群、SD126 溝跡、SD118 自然流路跡と重複し、これらより古い。東西方向で、検出長は 4.8m、規模は上幅 0.45 ～ 0.87m、深さ 0.16m である。堆積土から非ロクロ調整の土師器坏（第 68 図 2）・甕、須恵器坏・甕が出土した。

【SD131自然流路跡】（平面図：第 57 図、断面図：第 67 図）

東部中央に位置する。SK132・154 土坑、SD118 自然流路跡と重複し、SK132・154 より新しく、SD118 より古い。東西方向で、検出長は 2.9m、規模は上幅 0.36 ～ 0.42m、深さ 0.04 ～ 0.11m である。

【SD141自然流路跡】（平面図：第 57 図、断面図・遺物：第 68 図）

南東部に位置する。東西方向で、検出長は 5.8m、規模は上幅 0.56 ～ 1.8m、深さ 0.22m である。堆積土から非ロクロ調整の土師器坏・甕（第 68 図 4）、須恵器坏（3）・蓋・甕が出土した。

【SD142自然流路跡】（平面図：第 57 図、断面図・遺物：第 68 図）

南東部に位置する。東西方向で、検出長は 3.7m、規模は上幅 0.48 ～ 1.6m、深さ 0.1m である。堆積土から非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・擂鉢（第 68 図 5）・甕が出土した。

G. その他の出土遺物

上記の遺構以外に、遺構確認面、基本層序Ⅱ層、表土、排土から縄文土器、土師器、須恵器、青磁碗（第 69 図 1）、白磁碗（2）、磁器紅猪口（3）、中世陶器甕（4・5）・擂鉢（6）、近世陶磁器、丸瓦、平瓦（7）、石器、銅銭（熙寧元宝）（図版 59-18）、鉄滓、動物骨、植物種子が出土した。

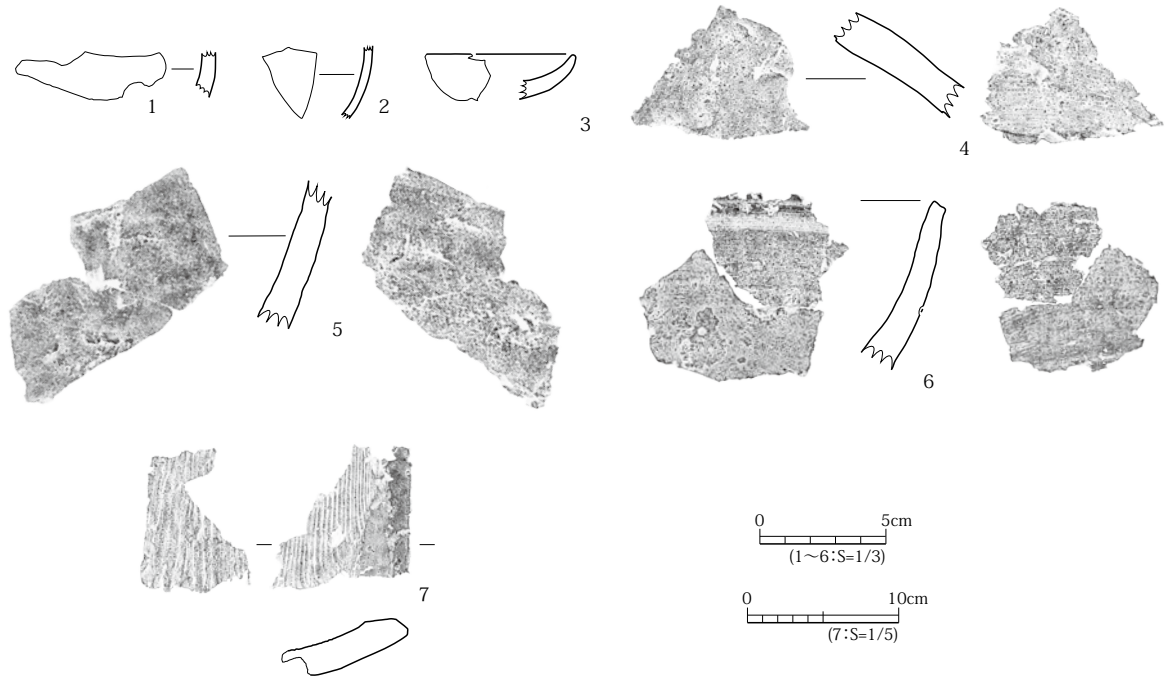
⑧H-26区

掘立柱建物跡 1 棟（SB201）、竪穴建物跡 1 棟（SI196）、竪穴状遺構 3 基（SX183・187・207）、溝跡 9 条（SD185・186・190 ～ 193・197・205・212）、土坑 3 基（SK184・188・202）、小溝状遺構群 1 ヶ所（SF189）、自然流路跡 7 条（SD203・204・206・208 ～ 211）、性格不明遺構（SX194・195・198・199）を検出した（第70図）。遺構確認のみの調査であるが、一部の遺構で截ち割り調査を行った。掘立柱建物跡、竪穴建物跡、竪穴状遺構、SD204・206 自然流路跡、SX194 のみ記述し、それ以外については第 8・10 ～ 13 表に特徴をまとめた。

A. 掘立柱建物跡

【SB201掘立柱建物跡】（平面・断面図：第 71 図）

〔**位置**〕中央に位置し、北側柱列と東・西側柱列の一部を検出した。



No.	種別・器種	層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	青磁　碗	排土	体部		59-11	R311
2	白磁　碗	Ⅱ層	体部		59-12	R310
3	磁器　紅猪口	排土	口縁部	肥前	59-13	R312
4	中世陶器　甕	Ⅱ層	胴部	外：ヘラナデ　内：ナデ、ヘラナデ　色調（外）灰褐色（5YR4/2）（内）灰赤色（2.5YR4/2）（断）灰色（N6/1・N5/1）　胎土：径2㎜以下の小礫、ガラス粒多量に、径3㎜の小礫わずかに含む　径5㎜以下の暗赤色（7.5YR3/4）、黒褐色（5YR3/1）の鉱物が溶け出したものが表裏面に認められる　在地産　R290・R 327 は同一個体	59-15	R290
5	中世陶器　甕	Ⅱ層＋確認面	胴部	外：ヘラナデ　内：ナデ　色調（外）赤灰色（2.5YR4/1）、灰赤色（2.5YR4/2）（内）降灰により不明（断）褐灰色（10YR6/1・4/1）、明赤褐色（5YR5/6）　胎土：径2㎜以下の小礫、ガラス粒多量に、径３～５㎜の小礫、黒色小礫含む　径7㎜以下の暗赤色（7.5R3/4）、黒褐色（5YR3/1）の鉱物が溶け出したものが表裏面に多量に認められる　在地産　R243・292・326・330～342 は同一個体	59-16	R292
6	中世陶器　擂鉢	Ⅱ層	（口～体）一部	外内：ロクロナデ　色調（外）褐灰色（5YR4/1）（内）赤灰色（2.5YR5/1）（断）にぶい橙色（2.5YR6/4） 胎土：径2㎜以下の小礫、ガラス粒多量に含む　外面に炭化物付着　在地産	59-14	R291＋297
7	平瓦	Ⅱ層	破損	凸面：糸切痕　凹面：糸切痕	59-17	R306

第 69 図　H-25 区　その他の出土遺物

〔**柱間数・棟方向**〕桁行 2 間以上、梁行 1 間の南北棟建物跡である。

〔**検出状況**〕5 個検出しすべての柱穴で柱痕跡、2 個（N2E1、N3E1）で柱抜取穴を確認した。N2W1 は柱痕跡のみの検出である。

〔**平面規模**〕桁行は東側柱列で総長 3.4m、柱間寸法は北から 1.7m 等間、梁行は北妻で 3.1m である。

〔**方向**〕東側柱列でみると北で東に 11°偏る。

〔**柱穴**〕掘方は長軸 60 ～ 84cm の隅丸方形で、深さは 38cm である。柱痕跡は径 20cm の円形である。

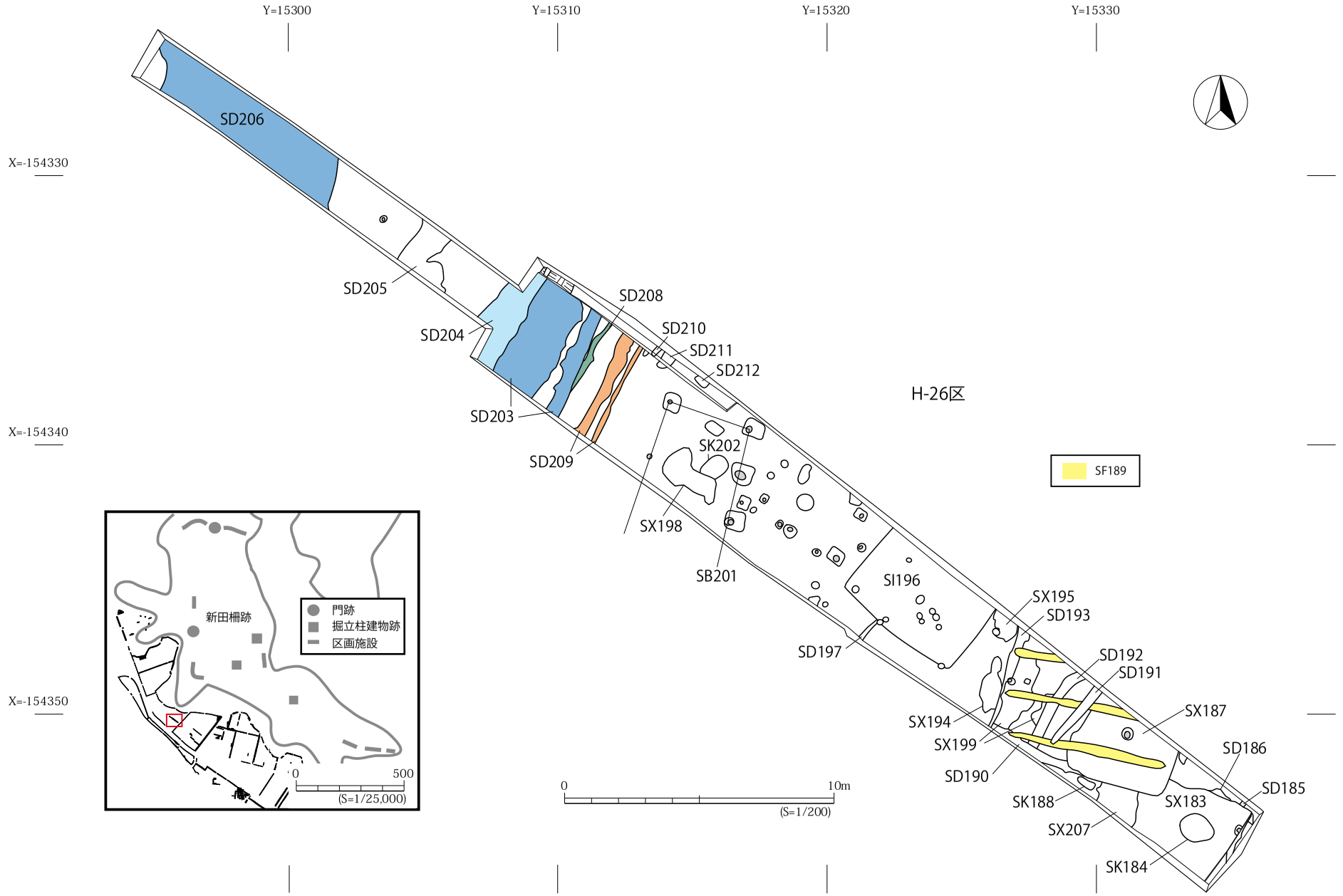
B. 竪穴建物跡・竪穴状遺構

【SI196竪穴建物跡】（平面図：第 70 図、遺物：第 72 図）

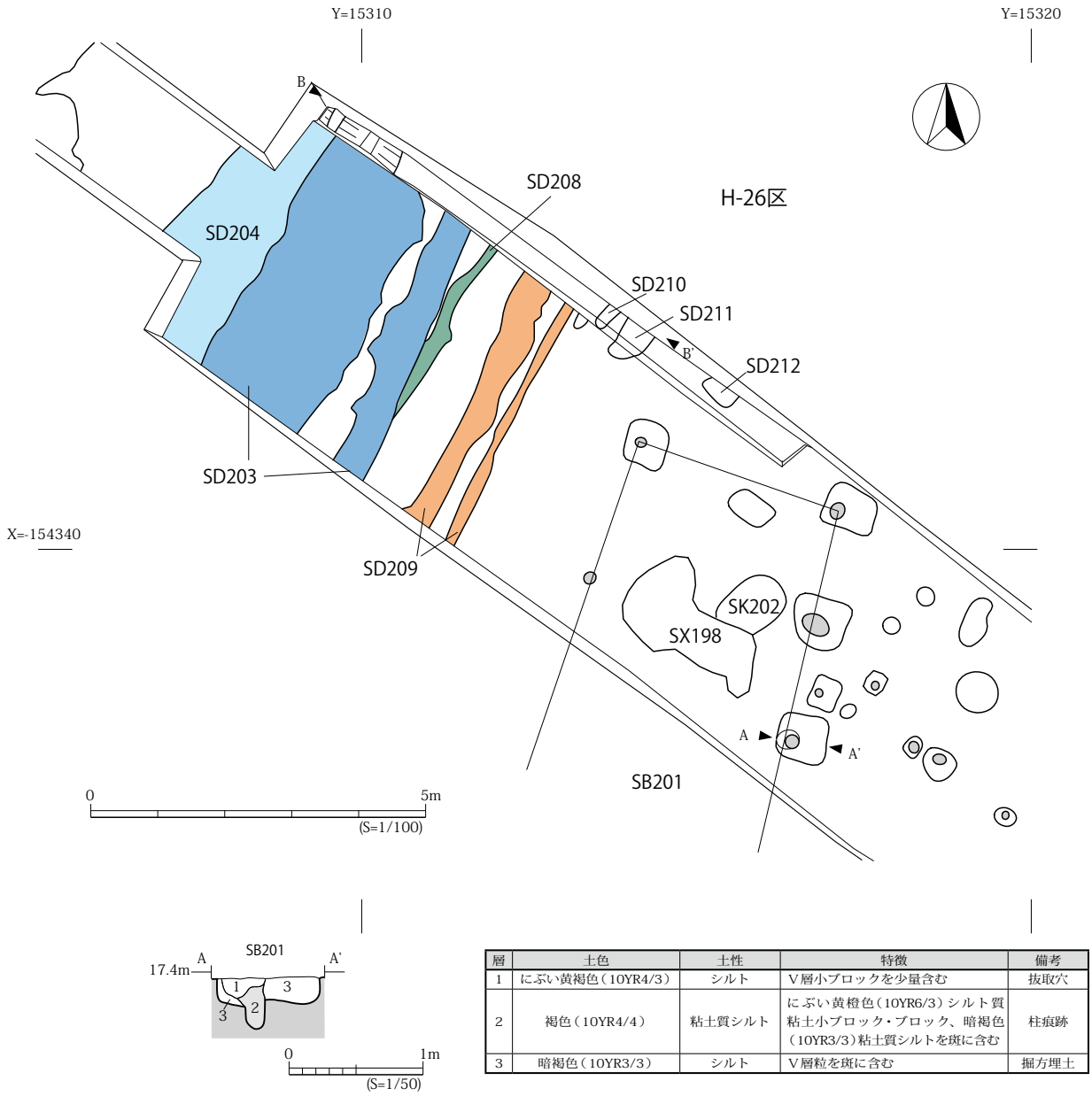
南東部に位置し、南西側を検出した。SD197 溝跡と重複し、SD197 より新しい。平面は隅丸方形とみられ、規模は北西―南東 4.9m、北東―南西 3.0m 以上である。方向は、北西辺でみると北で東に 40°偏る。遺構確認面、堆積土から、ロクロ調整の土師器坏（第 72 図 1）・鉢、非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏（2）・甕（3）、砥石（6）、石製模造品（4・5）が出土した。

【SX183竪穴状遺構】（平面図：第 70 図、遺物：第 72 図）

南東端に位置し、北西側を検出した。SX187・207 竪穴状遺構、SD185・186 溝跡、SK184 土坑と重複



第 70 図　H-26 区　検出遺構



層	土色	土性	特徴	備考
1	にぶい黄褐色（10YR4/3）	シルト	Ⅴ層小ブロックを少量含む	抜取穴
2	褐色（10YR4/4）	粘土質シルト	にぶい黄橙色（10YR6/3）シルト質粘土小ブロック・ブロック、暗褐色（10YR3/3）粘土質シルトを斑に含む	柱痕跡
3	暗褐色（10YR3/3）	シルト	Ⅴ層粒を斑に含む	掘方埋土

第 71 図　H-26区　SB201掘立柱建物跡、SD204・206自然流路跡

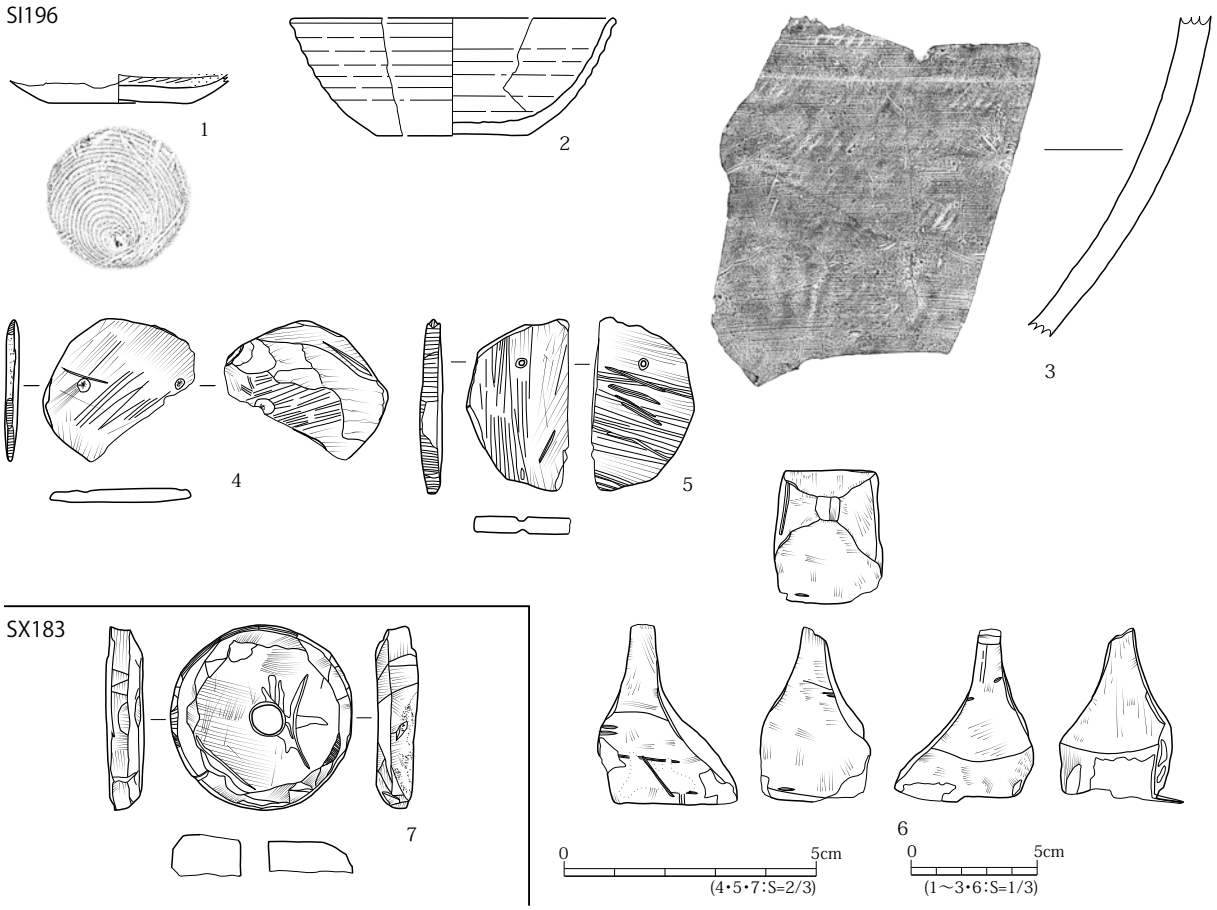
し、SX207、SD185・186 より新しく、SX187、SK184 より古い。一部の検出のため形状は不明である。規模は北東―南西 2.3m 以上、北西―南東 4.0m 以上である。方向は、北辺でみると西で北に 19°偏る。遺構確認面、堆積土から非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏、紡錘車（第 72 図 7）が出土した。

【SX187竪穴状遺構】（平面図：第 70 図）

南東端に位置し、南半を検出した。SX183・207 竪穴状遺構、SD190・191 溝跡、SF189 小溝状遺構群と重複し、SX183・207、SD190 より新しく、SD191、SF189 より古い。一部の検出のため形状は不明である。規模は北西―南東 3.9m、北東―南西 2.9m 以上である。方向は、北西辺でみると北で東に 21°偏る。遺構確認面から非ロクロ調整の土師器甕、須恵器甕が出土した。

【SX207竪穴状遺構】（平面図：第 70 図）

南東部に位置し、一部を検出した。SX183・187 竪穴状遺構と重複し、これらより古い。形状は不明で、規模は、北西―南東 1.5m 以上、北東―南西 1.1m 以上である。



No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	土師器　坏	SI196　堆	（体）一部（底）1/1	底径 5.6cm　外：ロクロナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理　底：回転糸切り無調整	60-1	R616
2	須恵器　坏	SI196　堆	（口）一部（底）1/4	口径（13.0cm）　底径（6.0cm）　器高（4.65cm）　外内：ロクロナデ 底：回転糸切り無調整　内面底部摩耗	60-2	R619
3	須恵器　甕	SI196　堆	胴部	外：平行タタキ→ロクロナデ　内：無文当て具→ロクロナデ	60-6	R620
4	石製模造品　有孔円板	SI196　堆	破損	粘板岩製　長（27.5㎜）　幅（29.8㎜）　厚（2.1㎜）　重（2.42g）　有孔円板の未製品	60-3	R617
5	石製模造品　有孔円板	SI196　確認面	破損	粘板岩製　長（33.5㎜）　幅（20.0㎜）　厚（3.0㎜）　重（3.38g）　孔径 1.6 ～ 1.7㎜	60-4	R618
6	石製品　砥石	SI196　堆	破損	凝灰岩製　長（7.5cm）　幅 4.9cm　厚 6.4cm　重（183.87g）　砥面 4 面	60-5	R621
7	石製品　紡錘車	SX183　堆	ほぼ完形	粘板岩製　長 3.7cm　幅（3.6cm）　厚 0.8cm　重（14.16g）　孔径 5.9 ～ 6.5㎜	60-10	R629

第 72 図　H-26 区　SI196 竪穴建物跡、SX183 竪穴状遺構　出土遺物

C. その他

【SD204自然流路跡】（平面図：第 71 図、断面図・遺物：第 73 図）

北西部に位置する。SD203 自然流路跡と重複し、これより新しい。北東―南西方向で、検出長は 3.96m、規模は上幅 2.58m 以上、深さ 0.56m 以上である。堆積土から非ロクロ調整の土師器坏・甕・甑（第 73 図 1）、須恵器甕、丸瓦、石器が出土した。

【SD206自然流路跡】（平面図：第 71 図、遺物：第 73 図）

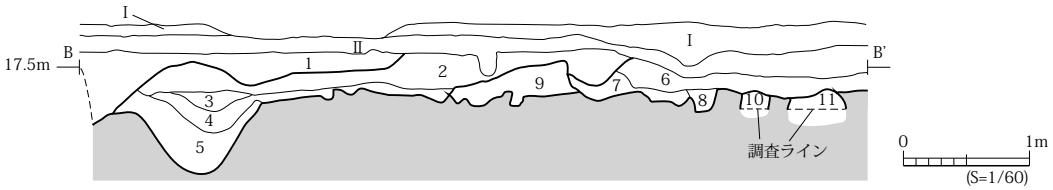
北西端に位置する。南北方向で、検出長は 1.9m、規模は上幅 7.4m 以上である。堆積土から非ロクロ調整の土師器鉢・坏（第 73 図 2）、須恵器甕が出土した。

【SX194性格不明遺構】（平面図：第 70 図、遺物：第 73 図）

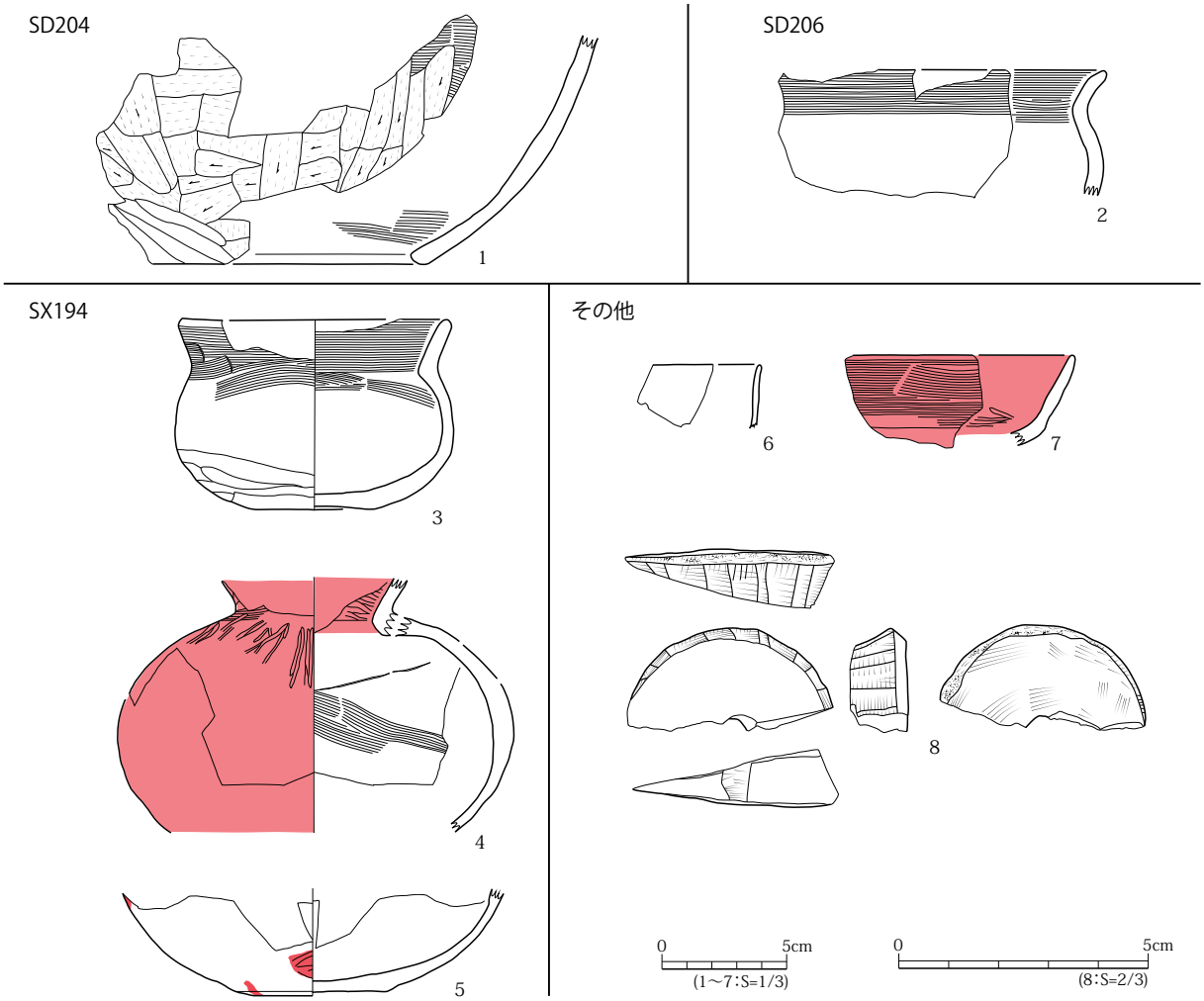
南東部に位置する。SD193 溝跡と重複し、これより古い。平面は南北に長軸をもつ不整な楕円形で、規模は長軸 2.1m、短軸 0.7m 以上である。遺構確認面、堆積土から非ロクロ調整の土師器坏（第 73 図 3）・壺（4・5）・甕が出土した。

D. その他の出土遺物

上記の遺構以外に、遺構確認面、表土、排土から、青磁碗（第 73 図 6）、非ロクロ調整の土師器坏（7）、須恵器、瓦、石製の紡錘車（8）が出土した。

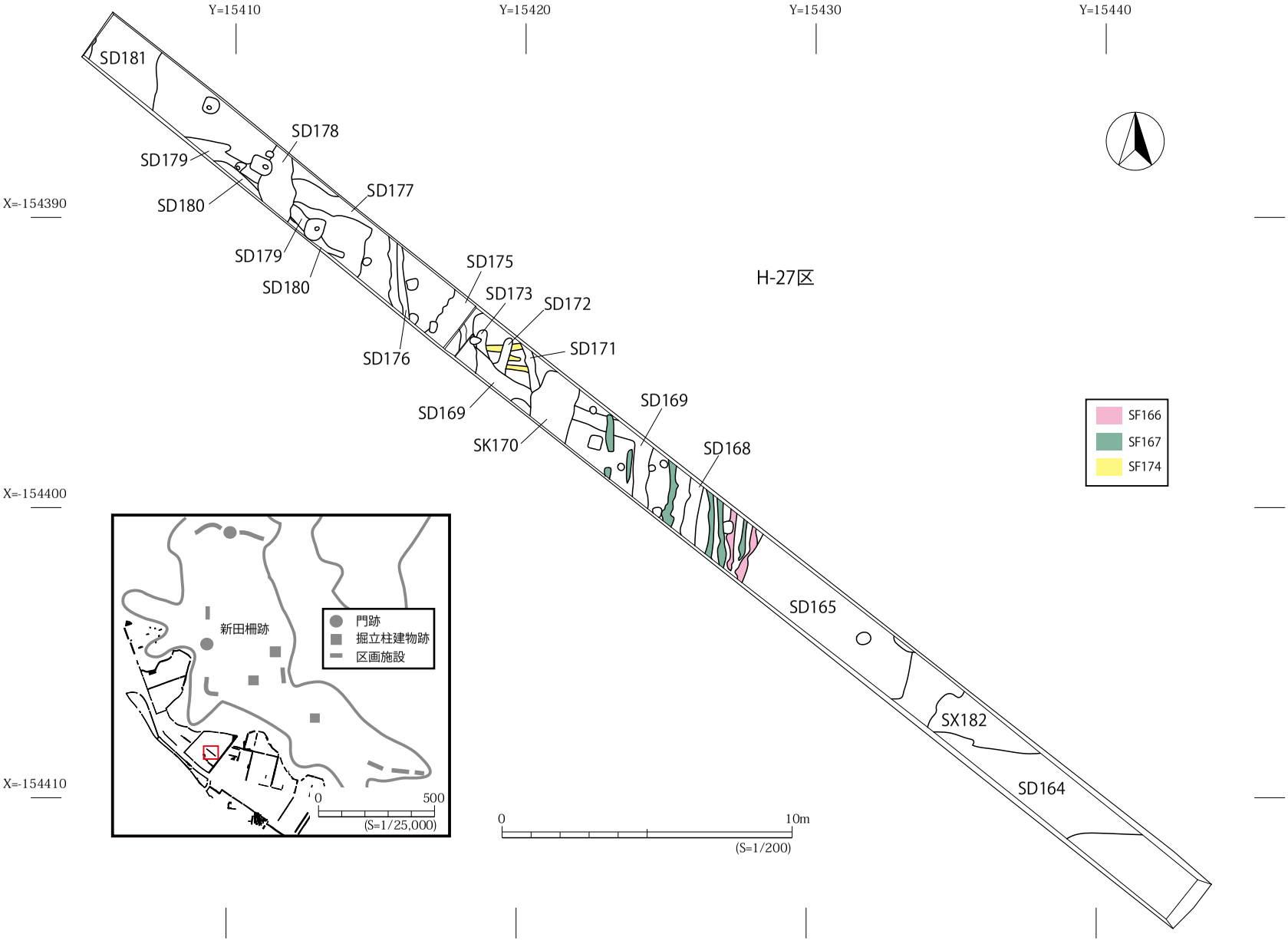


遺構	層	土色	土性	特徴
SD204	1	黒褐色（10YR3/2）	シルト	
SD203	2	暗褐色（10YR3/4）	シルト	
	3	黒褐色（10YR3/2）	シルト	
	4	黒褐色（10YR3/1）	粘土	
	5	灰黄褐色（10YR5/2）	粘土質シルト	酸化鉄を含む
SD209	6	褐色（10YR4/4）	シルト	V層小ブロックをわずかに含む
	7	灰黄褐色（10YR4/2）	シルト	V層小ブロックを含む
	8	にぶい黄褐色（10YR5/3）	シルト	
SD208	9	黒褐色（10YR3/2）	シルト	V層粒を斑に含む
SD210	10	にぶい黄褐色（10YR4/3）	粘土質シルト	V層小ブロックを含む
SD211	11	灰黄褐色（10YR4/2）	粘土質シルト	V層小ブロック・ブロックを含む



No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	土師器　甑	SD204　堆	（胴～底）一部	外：ハケメ→ヘラケズリ→（胴下）ヘラミガキ　内：ハケメ	60-12	R623
2	土師器　坏	SD206　堆	（口～体）一部	外内：（口）ナデ（体）不明	60-11	R625
3	土師器　坏	SX194　堆	（口）1/4（底）1/1	口径（11.0cm）　底径 4.5cm　器高 7.65cm　外：（口）ナデ→（体上）ヘラナデ（体下）ヘラミガキ、ヘラケズリ　内：（体上）ナデ→（口）ナデ　底：ヘラケズリ	60-7	R632
4	土師器　壺	SX194　堆	（頸～体）一部	外：（頸）ナデ→（頸～体下）ヘラミガキ→赤彩　内：（頸）ヘラミガキ→赤彩（体）ナデ	60-8	R633
5	土師器　壺	SX194　堆	（胴）一部（底）1/1	底径 5.9cm　外：ヘラミガキ→赤彩　内：不明　底：赤彩	60-9	R634
6	青磁　碗	排土	口縁部		60-13	R613
7	土師器　坏	表土	（口～体）一部	外：ナデ→赤彩　内：ヘラミガキ→赤彩	60-14	R614
8	石製品　紡錘車	表土	破損	粘板岩製　長（2.2cm）　幅（4.1cm）　厚（1.1cm）　重（8.85g）	60-15	R610

第 73 図　H-26区　SD204・206自然流路跡　断面・出土遺物、その他の出土遺物



第 74 図　H-27区　検出遺構

⑨H-27区

溝跡 13 条（SD164・168・169・171 ～ 173・175 ～ 181）、土坑 1 基（SK170）、小溝状遺構群 3 ヶ所（SF166・167・174）、自然流路跡 1 条（SD165）、その他（SX182）を検出した（第 74 図）。遺構確認のみの調査である。SD164・177・180 溝跡、SD165 自然流路跡のみ記述し、それ以外については第 8・10 ～ 21 表に特徴をまとめた。

【SD164溝跡】（平面図：第 74 図）

東西方向の溝跡で、SX182 性格不明遺構と重複し、これより新しい。検出長は 1.8m、規模は上幅 3.0m である。堆積土から磁器の碗、土師器坏・甕、須恵器坏・甕が出土した。

【SD177溝跡】（平面図：第 74 図、遺物：第 75 図）

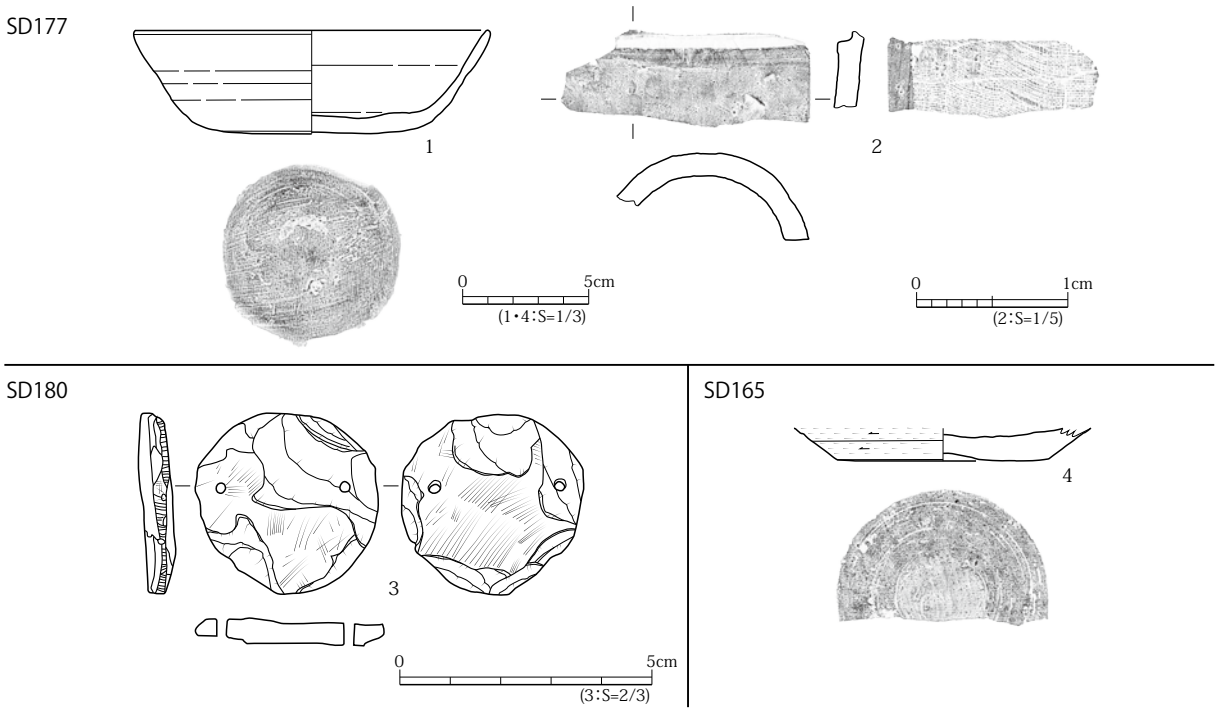
SD178 溝跡と重複し、これより古い。北西―南東と南北方向からなる「L」字形の溝跡である。検出長は北西―南東 3.0m、南北 2.1m、規模は上幅 0.6 ～ 1.08m である。堆積土から、非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏（第 75 図 1）・壺・甕、丸瓦（2）が出土した。

【SD180溝跡】（平面図：第 74 図、遺物：第 75 図）

SD178・179 溝跡と重複し、これらより古い。北西―南東方向の溝跡で、検出長は 5.4m、規模は上幅 0.18 ～ 0.24m である。堆積土から石製模造品（第 75 図 3）が出土した。

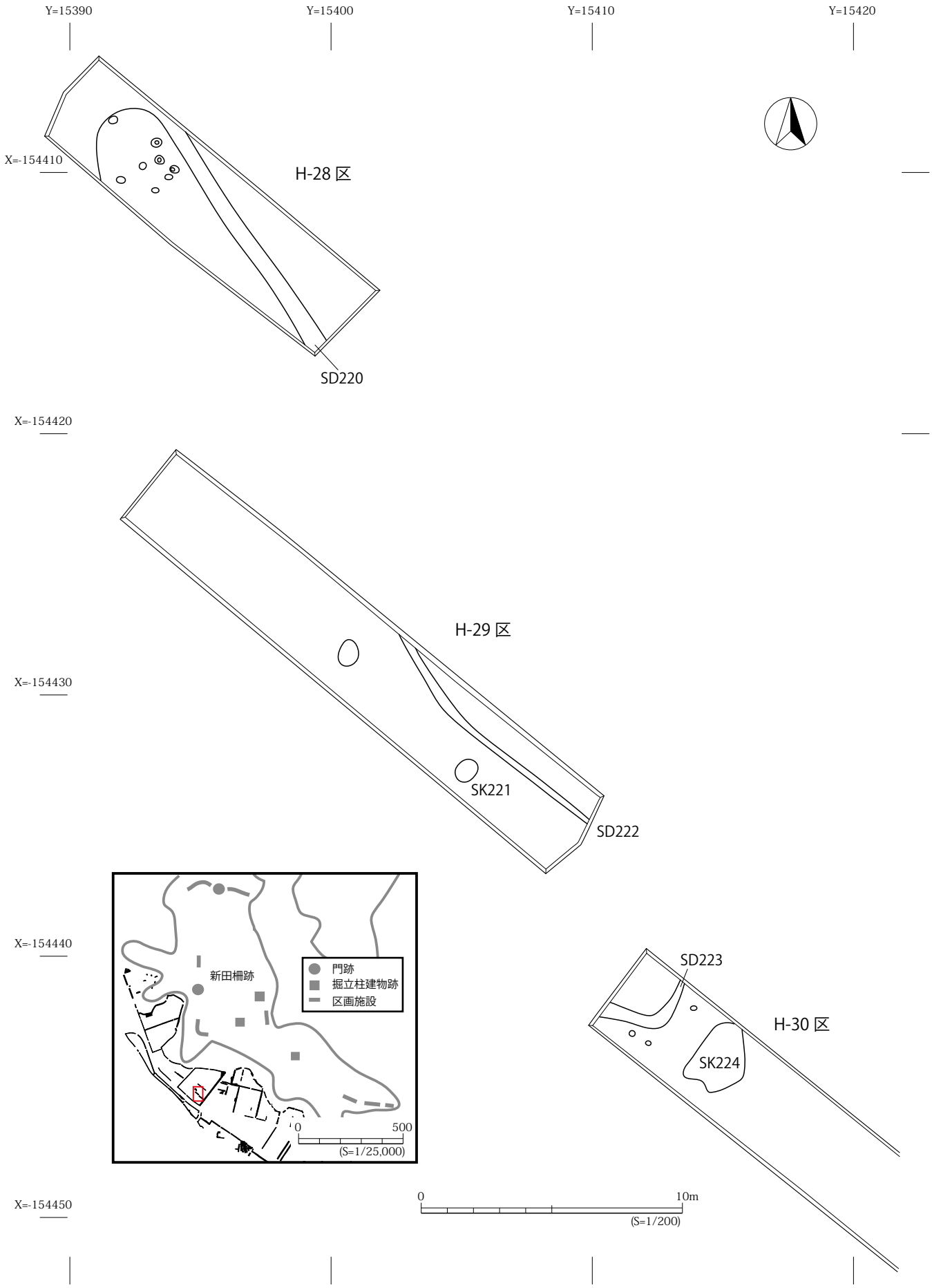
【SD165自然流路跡】（平面図：第 74 図、遺物：第 75 図）

北東―南西方向の自然流路跡で、SF166 小溝状遺構群と重複し、これより新しい。検出長は 1.8m、規模は上幅 6.6 ～ 6.9m である。堆積土には灰白色火山灰層が認められた。堆積土から非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏（第 75 図 4）・甕が出土した。



No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	須恵器　坏	SD177　堆	（口）1/5 （底）1/1	口径（14.2cm）　底径 7.0cm　器高 4.1cm　外内：ロクロナデ 底：切り離し不明→手持ちヘラケズリ　内面底部摩耗	60-16	R645
2	丸瓦	SD177　堆	破損	凸面：ロクロナデ　凹面：粘土紐痕→布目　玉縁あり	60-17	R650
3	石製模造品　有孔円板	SD180　堆	完形	粘板岩製　長 35.7㎜　幅 36.0㎜　厚 4.8㎜　重 8.54g　孔径 1.1 ～ 2.0㎜	60-18	R651
4	須恵器　坏	SD165　堆	（体～底）1/2	底径（8.4cm）　外内：ロクロナデ　底：静止糸切り→（体下～底外周）回転ヘラケズリ	60-19	R639

第 75 図　H-27区　出土遺物



第 76 図　H-28~30 区　検出遺構

⑩H-28～30区

H-28 区で溝跡 1 条（SD220）（第 76 図）、H-29 区で溝跡 1 条（SD222）、土坑 1 基（SK221）（第 76 図）、H-30 区で溝跡 4 条（SD139・223・226・227）、土坑 4 基（SK224・228・233・234）、性格不明遺構（SX225）（第 63・76 図）を検出した。いずれも遺構確認のみの調査である。SD220 溝跡、SK221・228 土坑のみ記述し、その他の遺構については第 8・10・12 表にまとめた。

【SD220溝跡】（平面図：第 76 図、遺物：第 77 図）

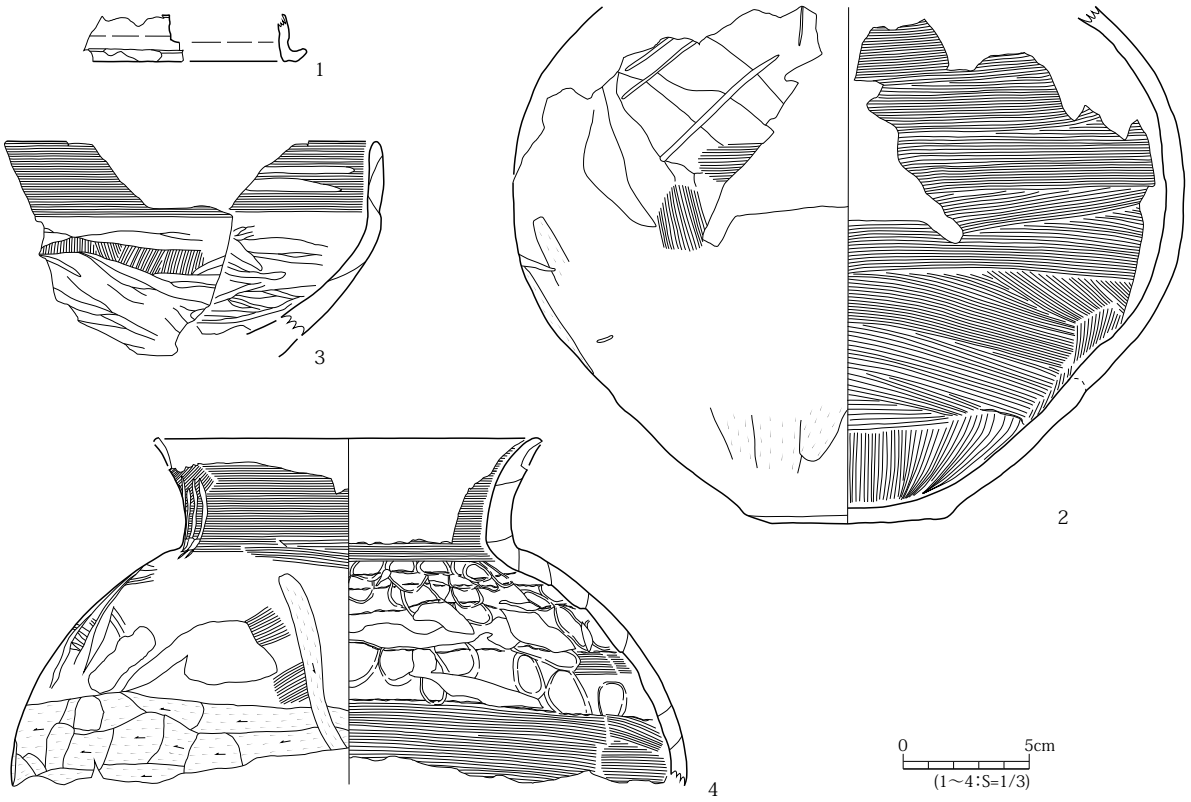
H-28 区に位置し、平面は北東―南西と北西―南東方向からなる「L」字形である。検出長は、北東―南西 3.5m、北西―南東 10.6m、規模は上幅 0.6 ～ 2.6m である。堆積土から土師器甕、須恵器甕、円面硯（第 77 図 1）が出土した。

【SK221土坑】（平面図：第 76 図、遺物：第 77 図）

H-29 区南東部に位置する。平面は北東―南西方向に長軸を持つ楕円形で、規模は長軸 0.9m、短軸 0.7m である。堆積土から非ロクロ調整の土師器甕（第 77 図 2）が出土した。

【SK228土坑】（平面図：第 63 図、遺物：第 77 図）

H-30 区南東部に位置する。平面は不整な楕円形で、規模は長軸 0.9m、短軸 0.8m である。堆積土から非ロクロ調整の土師器鉢（第 77 図 3）・甕（4）が出土した。



No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	須恵器　円面硯	SD220　堆	圏足部	外内：ロクロナデ　透かしあり	60-20	R665
2	土師器　甕	SK221　堆	（胴）1/3（底）1/1	底径 8.0cm　外：ヘラケズリ→ヘラミガキ→一部ナデ　内：ヘラナデ　外面胴下～底部被熱	61-1	R666
3	土師器　鉢	SK228　堆	（口～体）一部	外：（口）ナデ（体）ハケメ→ヘラミガキ　内：（口）ナデ→ヘラミガキ（体）ヘラミガキ	61-3	R663
4	土師器　甕	SK228　堆	（口）1/2（胴）1/4	口径（15.4cm）　外：（口）ナデ→ヘラミガキ（胴上）ナデ、ヘラミガキ（胴下）ヘラケズリ 内：（胴下）ナデ→（胴上）オサエ→ヘラミガキ→（口）ナデ	61-2	R664

第 77 図　H-28～30区　出土遺物

第5表　H区　道路跡　属性表

遺構	区	時期	側溝位置	側溝	側溝心々間距　離（m）	方向	検出長（　m）	側溝規模（m）			断面形	堆積土	出土遺物	備考	本文（頁）	図 No.	
								上幅	下幅	深さ						平面	断面
SX 200	H-25	A 期	東側溝	SD 82A	9.4	N-3°-E	5.7（北側）2.9（南側）	0.3以上	0.18以上	0.06（北端）0.2以上（南端）	—	自然		SD82 → SK83、SD84	57	28,37	38
			西側溝	SD 76A			20.8	1.44（中央部）0.18（北端部）	0.2	0.43（北端部）0.44以上（中央部）	逆台形	自然		SD76→SE88、SK80・90、SD160			
		B 期	東側溝	SD 82B	9.2 ～ 9.7		17.8	0.5～1.05	0.3～0.35以上	0.11（北端）0.38（南端）	逆台形	自然	土師器・須恵器・瓦	SD82→SK83、SD84			
			西側溝	SD 76B			32.9	0.6（北端部）1.17（中央部）	0.2～0.3	0.35（北端部）0.5（中央部）	逆台形	自然	土師器・須恵器・瓦	SD76→SE88、SK80・90、SD160			

第6表　H区　掘立柱建物跡　属性表

遺構	区	建物間数		棟方向	平面規模（m）						方向		柱痕（cm）	柱穴		備考	本文（頁）	図 No.	
		桁行	梁行		桁行総長/測定柱列/柱間寸法			梁行総長/測定柱列/柱間寸法			建物傾斜角度/真北基準			規模（cm）	平面形			平面	断面
SB 51	H-22	1以上	1	南北ヵ	2.3 以上	西	—	2.3	南	—	西	N-24°-E	12～14	32～36	円、楕円	SB51 → SD47	42	22,23	23
SB 52	H-22	1以上	1	南北ヵ	2.0 以上	西	—	1.8	南	—	西	N-20°-E	12～15	36	隅丸方・楕円		43	22,23	23
SB 122	H-25	3	2以上	南北ヵ	6.6	北	2.5＋2.1＋2.0	3.8	東	1.9＋1.9	東	N-15°-E	12～18	20～30	隅丸方・楕円	SD118・129・140→SB122	80	28,58	58
SB 163	H-25	1以上	1	東西ヵ	2.3 以上	北	—	2.2	西	—	北	W-15°-N	15～19	48～66	隅丸方・楕円	SB163→SD117・120、SK124	80	28,58	58
SB 201	H-26	2以上	1	南北	3.4	東	1.7＋1.7	3.1	北	—	東	N-11°-E	20	60～84	隅丸方		93,94	70,71	71

第7表　H区　竪穴建物跡　属性表

遺構	区	検出	平面形	方向	規模（m）		主柱穴	カマド			貯蔵穴		周溝	備考	本文（頁）	図No.	
					長軸	短軸		位置	側壁	煙道長（m）	位置	形状	有無			平面	断面
SI 196	H-26	一部	隅丸方形ヵ	N-40°-E	4.9	3.0以上	—	—	—	—	—	—	—	平面確認のみ SD197→SI196	94	70	—

第8-1表　H区　溝跡　属性表

遺構	区	方向	検出長（m）	規模（m）			断面形	出土遺物	備考	本文（頁）	図No.	
				上幅	下幅	深さ					平面	断面
SD13	H-14	北西－南東	3.6	0.8以上	—	0.7	逆台形	土師器	「L」字形 SD13→SK21→SK20	27	10,11	13
		北東－南西	18.7	1.4以上	0.24～0.6							
SD14	H-14	北東－南西	4.1	0.4	0.1	0.2	逆台形	土師器		—	10,11	—
SD15	H-14	東西	19.6	1.0	0.4	0.2	逆台形	土師器・須恵器・瓦・石製品		—	10,11	—
SD16	H-14	東西	2.5	0.12～0.6	0.2	0.1	皿状			—	10,11	—
SD17	H-14	北西－南東	4.0	2.1以上	0.08以上	0.2	皿状？	土師器・須恵器・瓦		—	10	—
SD18	H-14	南北	13.8	0.24～0.9	0.18～0.54	0.2	皿状	土師器	SD19→SD18→SD4	—	10,12	—
SD19	H-14	北西－南東	15.4	0.9～2.58	0.66～1.26	0.6	逆台形	土師器・須恵器	SD19→SD213→SD4・18	27	10,12	13
SD213	H-14	北西－南東	14.4	0.3～0.48	0.18～0.24	—	—	土師器	SD19→SD213→SD4	—	10,12	—
SD28	H-15	北東－南西	3.7	0.9～0.2	0.18～0.30	0.3	逆台形		SD33→SD28	—	15	—
SD29	H-15	北西－南東	3.3	0.43～0.82	0.24～0.48	0.3	逆台形	陶器		—	15	—
SD30	H-15	北西－南東	5.9	0.5	0.2	0.2	逆台形			—	15	—
SD31	H-15	北西－南東	5.6	0.8	0.3	0.3	逆台形	土師器		—	15	—
SD32	H-15	北西－南東	3.8	0.5	0.2	0.1	皿状			—	15	—
SD33	H-15	北西－南東	3.7	0.64以上	0.3以上	0.3	—	瓦	SD33→SD28	—	15	—
SD36	H-15	南北	3.6	1.2～1.5	0.36～0.6	0.4	逆台形	土師器・須恵器		—	15	—
SD25	H-17	北西－南東	4.5	1.32～1.85	0.42～0.84	0.5	逆台形	須恵器		—	19	—
SD26	H-17	北西－南東	5.5	1.52～1.6	0.5	0.5	逆台形			—	19	—
SD39	H-19	北西－南東	2.3	0.6	0.3	0.2	皿状			—	20	—
SD40	H-19・20	北東－南西、北西－南東	50.5	0.5～0.6	0.2～0.3	0.2～0.3	皿状	土師器	鉤形	—	20	—
SD47	H22	北東－南西、東西	北東－南西2.9、東西2.5	0.3～0.45	0.09～0.24	0.1～0.2	逆台形	土師器	卜字形 SB51、SD46→SD47	—	22	—
SD55	H-24	北西－南東	3.0	0.9～1.2	0.33～0.48	0.2	皿状	土師器・須恵器		—	30	—
SD56	H-24	北西－南東	1.7	1.14～1.48	0.6～0.78	0.2	皿状			—	30	—
SD58	H-24	北西－南東	1.8	0.78～1.26	0.4	—	—	須恵器		—	30	—
SD59	H-24	北西－南東	1.7	0.3	0.1	0.1	皿状			—	30	—
SD61	H-24	北西－南東	1.6	1.02～1.9	0.6～1.35	0.2	皿状	土師器・須恵器・石器		—	29	—
SD62	H-24	北西－南東	5.7	0.84～1.2	0.3～0.8	0.2	皿状	土師器・石製品		—	29	—
SD63	H-24	北東－南西	1.8	2.88～3.0	0.24～0.3	0.76	逆台形	土師器・須恵器	SD64→SD63	45	27,29	31
SD64	H-24	北東－南西	1.8	1.4以上	1.02以上	0.26	—	土師器・須恵器	SD64→SD63	45	27,29	31
SD66	H-24	北西－南東	8.4	0.48～0.78	0.26～0.42	0.1	皿状	土師器		—	29	—
SD69	H-24	北東－南西	1.65	0.84～0.95	0.3～0.36	0.35	逆台形	土師器・須恵器・石製品	SE68→SD69	50	28,29	31
SD70	H-24	北東－南西	1.7	0.42～0.48	0.18～0.24	0.2	逆台形	須恵器		—	28,29	31
SD71	H-24	東西	3.6	0.3	0.1	0.1	—			—	29	—
SD73	H-24	北東－南西	1.8	1.62～1.68	0.96～1.14	0.43	逆台形	土師器		50	27,32	32

第 8-2 表　溝跡　属性表

遺構	区	方向	検出長(m)	規模(m)			断面形	出土遺物	備考	本文(頁)	図No.	
				上幅	下幅	深さ					平面	断面
SD74	H-25	南北	2.2	2.2～2.3	0.38～0.48	1.0	V字形	土師器・須恵器・瓦・動植物遺存体	Ⅱ層掘り込み	60	28,40	40
SD75	H-25	東西	27.8	1.46 以上	0.4 以上	0.5	逆台形?	土師器・須恵器・瓦・植物遺存体		—	28	—
SD84	H-25	東西、南北	東西 5.8、南北 6.0	0.67 ～ 2.0	0.32 ～ 0.54	0.35	逆台形	土師器・須恵器・中世陶器・瓦・石製品	「L」字形 SD82→SD84	60	28,37	40
SD86	H-25	南北	5.5	0.3	0.1	0.0	皿状			—	37	—
SD92	H-25	北東－南西	2.0	0.24 ～ 0.3	0.06 ～ 0.12	0.1	皿状			—	37	—
SD103	H-25	北西－南東	5.4	0.3 ～ 0.5	0.15 ～ 0.25	0.5	逆台形	土師器・須恵器	SD110・SF102→SD103	—	50	—
SD111	H-25	北東－南西、北西－南東	北東－南西 10.8、北西－南東 5.58	0.54 ～ 1.26	0.12 ～ 0.72	0.18	逆台形	土師器・須恵器・瓦	「L」字形 SD110・112・113・115・116、SK123→SD111→SD114	80	28,57,58	59
SD112	H-25	北西－南東	2.2	0.36 ～ 0.48	0.12 ～ 0.18	0.3	U 字形	土師器・須恵器	SD115→SD112→SD110・111	—	57	—
SD113	H-25	北西－南東	1.9	0.3 ～ 0.54	0.12 ～ 0.18	0.3	U 字形	土師器・須恵器・鉄滓	SD115→SD113→SD110・111	—	57	—
SD114	H-25	北西－南東	5.5	0.54 ～ 0.66	0.15 ～ 0.18	0.48	U 字形	土師器・須恵器・中世陶器	SD111・116→SD114	82	57,58	59
SD116	H-25	北西－南東	5.3	1.5 ～ 2.2	0.66 ～ 0.9	0.37	逆台形	土師器・須恵器・動物遺存体	SD116→SD111・114	82	28,59	59
SD126	H-25	北西－南東、北東－南西	北西－南東 5.7、北東－南西 4.5	0.6 ～ 1.02	0.12 ～ 0.3	0.2	皿状	土師器・須恵器・瓦	「T」字形 SD127・130・140→SD126	—	57	—
SD127	H-25	北西－南東、北東－南西	北西－南東 5.8、北東－南西 3.6	0.6 ～ 0.9	0.18 ～ 0.6	0.2	—	土師器・須恵器	「T」字形 SD127・140→SD126	—	57	—
SD137	H-25	北西－南東	5.1	0.5	0.3	0.2	逆台形	土師器・須恵器		—	63	—
SD138	H-25	北東－南西	33.0	0.6 ～ 1.32 以上	0.24 ～ 0.36	0.56	逆台形	土師器・須恵器・縄文土器・瓦・石製品	SK151・153→SD138→SD139・145・152	82	28,63	64
SD139	H-25・30	北東－南西	20.4	1.2 ～ 3.84	0.12 ～ 0.48	0.6	逆台形	土師器・須恵器・瓦・石器・鉄製品・植物遺存体	SD138→SD139→SD145・152・227、SK234	82	28,63	64
SD146	H-25	北東－南西	7.2	1.0 ～ 1.2	0.18 ～ 0.36	0.3 ～ 0.4	逆台形	土師器・須恵器・瓦	SD4→SD146→SD145	—	63	—
SD149	H-25	北東－南西	1.9	0.27 ～ 0.3	0.12 ～ 0.15	0.1	皿状	土師器・須恵器	SD149→SD145	—	63	—
SD150	H-25	北東－南西	2.2	0.4	0.1	0.1	皿状			—	63	—
SD152	H-25	北東－南西	18.0	0.48 ～ 0.6	0.2	0.2	皿状	土師器	SD138・139→SD152	—	63	64
SD160	H-25	東西	3.2	0.54 ～ 0.84	0.24 ～ 0.42	0.4	逆台形	土師器	SD76→SD160	—	37	—
SD161	H-25	北東－南西	10.4	0.36 ～ 0.63	0.12 ～ 0.33	0.2	逆台形	土師器・須恵器	SF99・101・102→SD161	—	50	51
SD162	H-25	北東－南西	9.8	0.24 ～ 0.36	0.09 ～ 0.12	0.1	逆台形	土師器・須恵器	SF100・101・102→SD162	—	50	51
SD216	H-25	東西	6.6	0.24 ～ 0.33	0.12 ～ 0.15	0.1	皿状	土師器・須恵器	SF157、SD140→SD216	—	57	—
SD229	H-25	北東－南西	1.9	0.4	0.3	0.1	皿状		SD229→SF101	—	50	—
SD230	H-25	北西－南東	0.8	0.5	0.1	—	—		SD110→SD230	—	50	—
SD231	H-25	北西－南東	0.8	0.3	0.1	—	—		SF102、SD110→SD231	—	50	—
SD185	H-26	北東－南西	0.2	0.2	—	—	—		平面確認のみ SD185→SX183	—	70	—
SD186	H-26	北西－南東	1.9	0.23 以上	—	—	—		平面確認のみ SD186→SX183	—	70	—
SD190	H-26	北西－南東	3.7	0.35 以上	—	—	—	土師器	平面確認のみ SD192、SX199→SD190→SX187、SF189	—	70	—
SD191	H-26	北東－南西	2.7	0.25 ～ 0.34	—	—	—		平面確認のみ SX187、SF189→SD191	—	70	—
SD192	H-26	北東－南西	3.2	0.4	—	—	—	土師器	平面確認のみ SX199→SD192→SF189、SD190	—	70	—
SD193	H-26	北東－南西	3.8	0.11 ～ 0.43	—	—	—		平面確認のみ SX194→SD193→SF189、SX199	—	70	—
SD197	H-26	北東－南西	0.9	0.2	—	—	—		平面確認のみ SD197→SI196	—	70	—
SD205	H-26	北東－南西	1.7	1.1 ～ 2.1	—	—	—		平面確認のみ	—	70	—
SD212	H-26	北東－南西	0.2	0.5	—	—	—	土師器	平面確認のみ	—	70,71	—

第 8-3 表　溝跡　属性表

遺構	区	方向	検出長(m)	規模(m)			断面形	出土遺物	備考	本文	図No.	
				上幅	下幅	深さ				(頁)	平面	断面
SD164	H-27	東西	1.8	3.0	—	—	—	土師器・須恵器・磁器	平面確認のみ SX182→SD164	100	74	—
SD168	H-27	北東－南西	2.0	0.36 ～ 0.54	—	—	—	土師器	平面確認のみ	—	74	—
SD169	H-27	南北、 北西－南東	南北 2.1、 北西－南東 5.7	0.36 ～ 0.63	—	—	—	土師器	平面確認のみ 「L」字形 SD172・173→SD169→ SF167、SK170、SD171・175	—	74	—
SD171	H-27	北西－南東	1.5	0.18 ～ 0.3	—	—	—	須恵器	平面確認のみ SD169、 SF174→SD171→SK170	—	74	—
SD172	H-27	北東－南西	1.2	0.12 ～ 0.42	—	—	—	土師器	平面確認のみ SF174→SD172→SD169･173	—	74	—
SD173	H-27	南－北	0.7	0.3 ～ 0.36	—	—	—		平面確認のみ SF174→SD173→SD169	—	74	—
SD175	H-27	北東－南西	1.8	1.08 ～ 2.22	—	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ SD169→SD175	—	74	—
SD176	H-27	南北	2.4	0.18 ～ 0.24	—	—	—		平面確認のみ	—	74	—
SD177	H-27	北西－南東、 南北	北西－南東 3.0、 南北 2.1	0.6 ～ 1.08	—	—	—	土師器・須恵器・瓦	平面確認のみ 「L」字形 SD177→SD178	100	74	—
SD178	H-27	北東－南西	2.1	0.6 ～ 1.2	—	—	—	土師器	平面確認のみ SD177・179・180→SD178	—	74	—
SD179	H-27	北西－南東	4.8	0.3 ～ 0.6	—	—	—		平面確認のみ SD180→SD179→SD178	—	74	—
SD180	H-27	北西－南東	5.4	0.18 ～ 0.24	—	—	—	石製品	平面確認のみ SD180→SD178・179	100	74	—
SD181	H-27	北東－南西	1.8	2.22 ～ 2.52	—	—	—		平面確認のみ	—	74	—
SD220	H-28	北西－南東、 北東－南西	北西－南東 10.6、 北東－南西 3.5	0.6 ～ 2.6	—	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ 「L」字形	102	76	—
SD222	H-29	北西－南東	9.8	0.2 ～ 0.4	—	—	—		平面確認のみ SD220 と一連か	—	76	—
SD223	H-30	北西－南東、 北東－南西	北西－南東 2.4、北 東－南西 2.0	0.2 ～ 0.6	—	—	—		平面確認のみ 「L」字形	—	76	—
SD226	H-30	北東－南西	3.5	9.8 以上	—	—	—		平面確認のみ SD226→SD227、SK234	—	63	—
SD227	H-30	北西－南東	1.9	0.23 ～ 0.36	—	—	—		平面確認のみ SD139・226→SD227	—	63	—

第 9 表　H 区　井戸跡　属性表

遺構	区	構造	形状		規模（m）			堆積土	出土遺物	備考	本文	図 No.	
			平面	断面	長軸	短軸	深さ				(頁)	平面	断面
SE65	H-24	素堀	楕円形？	—	2.58 以上	1.02 以上	1.0 以上	自然	土師器・須恵器		50	27,29	33
SE67	H-24	素堀	円形	漏斗形	2.3	1.7 以上	1.5	自然	土師器･須恵器･瓦･金属製品・木製品・動物遺存体		52	28,29	33
SE68	H-24	素堀	円形ヵ	—	1.2	0.78 以上	0.64 以上	自然	土師器・須恵器・木製品	SE68→SD69	52	28,29	33
SE87	H-25	素堀	楕円形	漏斗形	3.0	2.46	1.36	自然	土師器・須恵器・中世陶器・瓦・硯・石製品・木製品・植物遺存体		62	28,37	41
SE88	H-25	素堀	楕円形	漏斗形	3.24	2.93	1.32	自然	土師器・須恵器・中世陶器･瓦･石製品・木製品・竹製品・植物遺存体	SD76、SK90→SE88	62,64	28,37	42
SE96	H-25	素堀	円形	U 字形	1.2	1.0 以上	0.8	自然	土師器・須恵器		64	28,37	44
SE97	H-25	素堀	円形ヵ	U 字形	1.75	0.6 以上	1.0	自然	須恵器・中世陶器		64	28,37	44
SE135	H-25	素堀	楕円形	漏斗形	2.0	1.64	1.45	自然 ＋人為	土師器･須恵器･瓦･漆器	SE135→SX133	82	28,63, 65	65
SE136	H-25	素堀	円形	U 字形	1.6	1.6	0.95	自然	土師器・須恵器・瓦		82	28,63	66

第 10-1 表　H 区　土坑　属性表

遺構	区	形状		規模（m）			堆積土	出土遺物	備考	本文	図 No.	
		平面	断面	長軸	短軸	深さ				(頁)	平面	断面
SK20	H-14	不整形	—	1.9	1.6	—	自然		平面確認のみ SD13 → SK21 → SK20	—	10,11	—
SK21	H-14	不整楕円形？	—	1.8 以上	0.8	—	自然		平面確認のみ SD13 → SK21 → SK20	—	10,11	—
SK22	H-14	不整楕円形	—	1.0	0.7	—	自然		平面確認のみ	—	10,11	—
SK215	H-14	円形	—	0.8	0.8	0.2	人為？	土師器	SK215 → SD4	—	12	—
SK23	H-16	—	—	1.38 以上	0.9 以上	—	自然		平面確認のみ	—	18	—
SK44	H-21	円形	V 字状	2.4	2.2	0.9	自然	土師器・須恵器・土製品・木製品・鉄滓		43	22,24	24
SK45	H-21	—	逆台形	1.3 以上	0.4 以上	0.5	自然	土師器		—	22,24	—
SK53	H-24	円形	逆台形	0.96	0.96	0.54	人為＋自然	土師器・須恵器・石製品		52	27,30	33
SK54	H-24	楕円形	逆台形	0.8	0.6	0.2	自然			—	30	—
SK60	H-24	楕円形？	—	1.68 以上	0.48 以上	0.4	自然	土師器		—	29	—
SK72	H-24	楕円形？	—	0.4 ～	0.3	—	—		平面確認のみ	—	29	—

第 10-2 表　H 区　土坑　属性表

遺構	区	形状		規模（m）			堆積土	出土遺物	備考	本文	図 No.	
		平面	断面	長軸	短軸	深さ				（頁）	平面	断面
SK77	H-25	楕円形？	皿状？	0.7	0.6	0.3	自然	土師器		—	37	—
SK78	H-25	長方形	皿状	1.2	0.4	0.2	人為		SK79 → SK78	—	40	—
SK79	H-25	楕円形	逆台形	0.8	0.6	0.3	自然		SK79 → SK78	—	40	—
SK80	H-25	隅丸方形	逆台形	0.8	0.8	0.2	人為		SK81 → SK80	—	40	—
SK81	H-25	楕円形？	皿状	0.53 以上	0.32 以上	0.1	自然		SK81 → SK80	—	40	—
SK83	H-25	楕円形	逆台形	2.7	2.04	0.9	自然	土師器・須恵器・瓦	灰白色火山灰あり SD82 → SK83	64	28,37	45
SK89	H-25	楕円形	逆台形	3.66	3.36	1.04	自然+人為	土師器・須恵器・中世陶器・瓦・木製品・植物遺存体	SD76 → SK89 → SK93	65	28,37	46
SK90	H-25	楕円形	逆台形	2.9	2.6	0.85	自然+人為	土師器・須恵器・中世陶器・瓦・土製品・壁土・漆器・木製品・鉄滓・植物遺存体	SD76 → SK90 → SE88	65,66	28,37	49
SK91	H-25	—	逆台形	0.9	0.7	0.4	自然	土師器・須恵器		—	37	—
SK93	H-25	楕円形	逆台形	0.7	0.7	0.2	自然	須恵器	SK89 → SK93	—	37	—
SK95	H-25	—	皿状	4.2 以上	0.9 以上	0.4	自然+人為	土師器・須恵器・瓦		—	37	—
SK123	H-25	楕円形	皿状	0.6 以上	0.4	0.12	自然	土師器・須恵器	SK123 → SD111	86	57	67
SK124	H-25	不整楕円形	皿状	1.4	0.8	0.2	自然	土師器・須恵器	SB163 → SK124	—	57	—
SK125	H-25	不整楕円形？	—	0.88 以上	0.7	0.1	—	土師器・須恵器		—	57	—
SK132	H-25	不整円形	皿状	1.1	0.96 以上	0.1	自然	土師器	SK132 → SD131	—	57	—
SK134	H-25	楕円形？	逆台形	2.1 以上	1.4	0.4	自然	土師器・須恵器・瓦	SK134 → SX133	—	63	—
SK143	H-25	北東－南西	皿状	1.4	0.8	0.1	皿状	自然堆積		—	57	—
SK147	H-25	楕円形	逆台形	1.6	1.2	0.6	自然	土師器・須恵器・植物遺存体		—	63	—
SK151	H-25	不整形	逆台形	1.5	1.2	0.1	自然		SK151 → SD138・145	—	63	—
SK153	H-25	隅丸方形	逆台形or箱形	0.8	0.7	0.2	人為	土師器・須恵器	SK153 → SD138	—	63	—
SK154	H-25	楕円形	逆台形	1.32	0.96	0.26	自然+人為	土師器・須恵器・壁土	SK154 → SD131	86	57	67
SK184	H-26	楕円形	—	1.3	1.0	—	—		平面確認のみ SX183 → SK184	—	70	—
SK188	H-26	楕円形	—	0.7	0.3	—	—	土師器・石核ヵ	平面確認のみ	—	70	—
SK202	H-26	楕円形	—	0.9 以上	0.7	—	—		平面確認のみ SK202 → SX198	—	70,71	—
SK170	H-27	—	—	1.8 以上	1.6	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ SD169・171 → SK170	—	74	—
SK221	H-29	楕円形	—	0.9	0.7	—	—	土師器	平面確認のみ	102	76	—
SK224	H-30	不整形	—	2.8	2.0	—	—		平面確認のみ	—	76	—
SK228	H-30	不整楕円形	—	0.9	0.8	—	—	土師器	平面確認のみ	102	63	—
SK233	H-30	楕円形	—	0.7	0.5	—	—		平面確認のみ	—	63	—
SK234	H-30	楕円形	—	0.8	0.6	—	—		平面確認のみ SD139 → SK234	—	63	—

第 11 表　H 区　小溝状遺構群　属性表

遺構	区	方向・数	範囲（m）		溝間（m）	検出長	規模（m）			断面形	出土遺物	備考	本文（頁）	図 No.	
			東西	南北			上幅	下幅	深さ					平面	断面
SF99	H-25	北東－南西 3	北西－南東 4.3	北東－南西 7.7	1.8	5.5～6.4	0.12～0.36	0.03～0.25	0.03～0.08	皿状	須恵器	SF102・105・106 →SF99→SD161、SX104	66	28,50	51
SF100	H-25	北東－南西 3	北西－南東 4.1	北東－南西 5.8	1.8	3.3～5.9	0.24～0.36	0.05～0.18	0.03～0.05	皿状	須恵器	SF102・105・106 →SF100→SD162	72	28,50	51
SF101	H-25	北東－南西 5	北西－南東 5.5	北東－南西 7.9	0.9～1.4	1.8～7.9	0.21～0.42	0.05～0.28	0.03～0.08	皿状	土師器・須恵器	SD229→SF101→SF102、SD161・162	72	28,50	51
SF102	H-25	北東－南西 4	北西－南東 5.0	北東－南西 11.7	1.2～1.4	4.8～11.8	0.21～0.66	0.08～0.4	0.04～0.08	皿状	土師器・須恵器	SF101→SF102→SF99・100、SD103・110・161・162	72	28,50	51
SF105	H-25	北西－南東 4	北西－南東 5.3	北東－南西 1.6	0.7～1.0	0.6～2.6	0.18～0.42	0.05～0.18	0.02～0.08	皿状	須恵器	SF105→SF106→SF99・100	72	28,50	51
SF106	H-25	北西－南東 3	北西－南東 5.6	北東－南西 1.9	0.4～0.9	1.0～5.5	0.4～0.6	0.1～0.25	0.02～0.08	皿状	須恵器	SF105→SF106→SF99・100	72	28,50	51
SF155	H-25	南北 3	3.0	2.0	0.6	1.7～2.0	0.18～0.54	0.05～0.12	0.02～0.05	皿状	土師器・須恵器	SF156、SD130→SF155	88	57	67
SF156	H-25	北西－南東 2	北西－南東 1.7	北東－南西 1.1	0.9	1.7～1.8	0.18～0.3	0.03～0.15	0.03～0.09	U 字形・皿状	土師器	SF156→SF155、SD118	88	57	67
SF157	H-25	南北 4	3.5	4.7	0.7～0.9	0.7～3.0	0.27～0.42	0.09～0.25	0.03～0.07	逆台形	土師器・須恵器	SF157→SD216	88	57	67
SF189	H-26	北西－南東 3	北西－南東 6.1	北東－南西 3.7	1.5	1.9～6.0	0.14～0.46	—	—	—	土師器・須恵器・石核ヵ	平面確認のみ SD190・192・193、SX187・199→SF189→SD191	—	70	—
SF166	H-27	南北 2	1.1	2.5	1.8	2.0～2.1	0.12～0.3	—	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ SF166→SD165	—	74	—
SF167	H-27	南北 6	4.8	5.1	0.3～1.9	1.2～2.4	0.12～0.36	—	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ SD169→SF167	—	74	—
SF174	H-27	東西 3	1.5	1.0	0.3～0.4	0.45～1.25	0.12～0.24	—	—	—	土師器	平面確認のみ SF174→SD171・172・173	—	74	—

第 12-1 表　H 区　SX 竪穴状遺構・性格不明遺構・自然堆積層　属性表

遺構	区	形状		規模（m）			堆積土	出土遺物	備考	本文	図 No.	
		平面	断面	長軸	短軸	深さ				（頁）	平面	断面
SX98	H-25	不整形	皿状	1.38	1.32	0.2	自然		自然流路あるいは SD110A の堆積土の一部 SF100 → SX98	—	50	—
SX104	H-25	不整形	—	検出長 2.52	上幅 0.9 ～ 1.02	—	—	須恵器	灰白色火山灰あり SF99 → SX104	—	50	—
SX133	H-25	やや不整な溝状	皿状	検出長 5.34	検出幅 8.46	0.24	自然	土師器・須恵器・陶器・瓦・鉄滓	自然堆積層（河川由来） SK134、SE135 → SX133	—	28	—
SX144	H-25	調査区南部を覆う	—	24 以上	5.0 以上	0.45（南端）	自然	土師器・須恵器・石器・植物遺存体	河川堆積層 あるいは近現代の耕作層 SD4・145・146・138・139 → SX144	—	63	—

第 12-2 表　H 区　SX 竪穴状遺構・性格不明遺構・自然堆積層　属性表

遺構	区	形状		規模（m）			堆積土	出土遺物	備考	本文（頁）	図 No.	
		平面	断面	長軸	短軸	深さ					平面	断面
SX183	H-26	—	—	4.0 以上	2.3 以上	—	—	土師器・須恵器・石製品	平面確認のみ SX207、SD185・186 → SX183 → SK184、SX187	94,96	70	—
SX187	H-26	—	—	3.9	2.9 以上	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ SX183・207、SD190 → SX187 → SF189、SD191	96	70	—
SX194	H-26	不整形	—	2.1	0.7 以上	—	—	土師器	平面確認のみ SX194 → SD193	97	70	—
SX195	H-26	不整楕円形？	—	0.9 以上	0.8 以上	—	—			—	70	—
SX198	H-26	不整形	—	2.1	0.9（東側）・ 0.7（中央）・ 1.4（西側）	—	—	土師器	平面確認のみ SK202 → SX198	—	70,71	—
SX199	H-26	不整形	—	2.7 以上	1.6 以上	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ SD193 → SX199 → SD190・192、SF189	—	70	—
SX207	H-26	—	—	1.5 以上	1.1 以上	—	—		平面確認のみ SX207 → SX183・187	96	70	—
SX182	H-27	不整形	—	1.8 以上	3.2	—	—	土師器	平面確認のみ SX182 → SD164	—	74	—
SX225	H-30	不整形	—	2.0 以上	1.6 以上	—	—		平面確認のみ	—	63	—

第 13-1 表　H 区　河川跡・自然流路跡　属性表

遺構	区	方向	検出長（m）	規模（m）			出土遺物	備考	本文（頁）	図 No.	
				上幅	下幅	深さ				平面	断面
SD1A	H-1	西－南	東西 10、南北 10	4.2	0.3～0.43	0.76	土師器・須恵器・瓦・石器・木製品	灰白色火山灰あり SD2 → SD1	24	7	8
SD1B			東西 14、南北 8	2.5	0.3～0.53	0.6					
SD1C			東西 16、南北 7	3.2	0.44～0.73	0.4					
SD2	H-1	西－南	東西 6、南北 7	3.2 以上	1.0～1.3	0.2	土師器・須恵器	SD2 → SD1	24	7	8
SD3	H-1	北西－南東、 北東－南西	北西－南東 5.1、 北東－南西 4.6	0.8～1.8	0.6	0.7			—	7	—
SD2	H-11	北西－南東	5.1	0.7～0.9	0.15～0.3	0.2	土師器・須恵器	SD2 → SD8	24	7	—
SD5	H-11	—	2.0	1.5～4.2	0.2～0.4	0.44		SD6・7・8 → SD5 → SD4	—	7	—
SD6	H-11	—	6.3	3.1 以上	1.0	1.2		SD7・8 → SD6 → SD4・5	—	7	—
SD7	H-11	—	2.2	2.3～2.5	0.8～1.0	0.7		SD8 → SD7 → SD5・6	—	7	—
SD8	H-11	—	4.7	4.8 以上	3.8 以上	0.6	須恵器	SD2 → SD8 → SD5・7	—	7	—
SD10	H-11	—	3.6	0.5～0.9	0.2	0.5			—	7	—
SD4A	H-10・ 11・12	北東－南西	2.0	5.6	3.2～3.6	0.9		SD5・6・9 → SD4	24,26	7	9
SD4B			9.0	4.1	0.6～0.8	1.0					
SD4C			11.0	2.2～16.0	1.5	0.85～0.95	土師器・須恵器・瓦				
SD9A	H-11・12	南－北	5.5	—	—	0.7		SD11 → SD9 → SD4	26	7	9
SD9B			14.5	5.5～9.0 以上	4.3～5.7	0.75	土師器				
SD11	H-12	—	—	—	—	—		西壁で検出、SD11 → SD9	—	7	9
SD4A	H-14	南北	42.2	1.5 以上	—	1.2 以上	土師器・須恵器・石製品	SD12・9 → SD4	27,30	10	13
		北西－南東	64.0	1.6～2.4	0.24～1.2	0.34		SD19・18・213、SK215 → SD4			
SD4B		北西－南東	2.0	17.0 以上	12.5	0.9 以上	縄文土器・土師器・須恵器・陶器・瓦・植物遺存体	SD12・9 → SD4			
SD4C		北西－南東	2.0	14.5 以上	13.5 以上	0.5	土師器・須恵器・磁器・植物遺存体				
SD9	H-14	北東－南西、 北西－南東	北東－南西 1.3、 北西－南東 0.5	12.5 以上	10.7 以上	1.0 以上	土師器・須恵器・石器	SD12 → SD9 → SD4	30	10	13
SD12	H-14	北東－南西、 北西－南東	0.5～1.2	6.5～13.0 以上	—	0.9～1.3 以上	土師器・須恵器・瓦・石器・石製品・植物遺存体	灰白色火山灰あり SD12 → SD4・9	30	10	13
		北西－南東	14.0	3.5 以上	—	—					
SD4A	H-15	北西－南東	3.0	7.5 以上	3.0	1.2	土師器・須恵器・鉄製品・動植物遺存体	SD9・12・38・48・49・50 → SD4	33	15	16
SD4B		北西－南東、 北東－南西	27.5	18.8 以上	6.1	1.0	土師器・須恵器				
SD4C		北西－南東、 北東－南西	38.0	2.4～7.0 以上	1.1	0.7	土師器・須恵器				
SD9	H-15	北西－南東	1.6	13.8 以上	9.0	1.4	土師器・須恵器	SD12 → SD9 → SD4・48・49・50	33	—	16
SD12	H-15	北西－南東	4.0	12.1	1.6	0.6	土師器・須恵器・瓦・動植物遺存体	灰白色火山灰あり SD12 → SD4・9・49	33	15	16
SD34	H-15	北西－南東	3.6	1.08～2.16	0.24～1.0	0.2			—	15	—
SD35	H-15	北東－南西	3.5	1.14～2.25	0.49	0.19	土師器		—	15	—
SD37	H-15	南北	3.6	0.78～0.9	0.3～0.42	0.24	土師器	灰白色火山灰あり	—	15	—
SD38	H-15	北西－南東	3.0	1.74～2.13	0.54	0.42	土師器・須恵器	灰白色火山灰あり SD38 → SD4	—	15	—
SD48	H-15	南北	50.6	15.0 以上	—	0.6 以上	土師器・須恵器	SD9・49 → SD48 → SD4・50	33	15	16
SD49A	H-15	北西－南東	1.7	5.1～	3.6	0.8	土師器・須恵器	SD12・9・49 → SD48・4	—	—	16
SD49B			1.7	3.9	1.5	0.6	土師器・須恵器・陶器・動物遺存体・植物遺存体				
SD50	H-15	北西－南東	0.3	2.8	0.7	0.8		SD9・48 → SD50 → SD4	—	15	16

第 13-2 表　河川跡・自然流路跡　属性表

遺構	区	方向	検出長（m）	規模（m）			出土遺物	備考	本文（頁）	図 No.	
				上幅	下幅	深さ				平面	断面
SD24	H-17	北西－南東	3.3	0.84～0.88	0.68	0.21	須恵器	灰白色火山灰あり	—	19	—
SD27	H-18	北東－南西	4.8	4.6～7.8	1.47	0.42	土師器・須恵器	灰白色火山灰あり	—	19	—
SD4C	H-19	東西	2.0	8.0 以上	—	—		平面確認のみ	—	20	—
SD42	H-19	北東－南西	2.5	2.3	0.76	0.45	土師器・須恵器		—	20	—
SD43	H-19	北西－南東	17.7	4.3 以上	—	0.74 以上	土師器・須恵器・石製品・植物遺存体	灰白色火山灰あり	37	20	21
SD110A	H-19	北西－南東	1.5	13.6	2.8	0.5	土師器・須恵器・瓦・植物遺存体	灰白色火山灰あり	37	20	21
SD110B		北西－南東	1.5	3.0～7.0	0.6～5.9	0.1～0.5	土師器				
SD46	H21・22	南北	7.2	13.8～23.4	13.2～20.9	0.46	土師器・須恵器・土製品・植物遺存体	灰白色火山灰あり SD46 → SD47	44	22,24	25
SD4A	H-23	北東－南西	2.0	12.8	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ　SD12 → SD4	52	26	—
SD4B		東西	7.6	1.6 以上	—	—	土師器・須恵器・陶器	平面確認のみ　SD12 → SD4			
SD4C		北東－南西	2.0	15.0	—	—		平面確認のみ　SD12 → SD4			
SD12	H-23	東西、 北東―南西	東西 12.0、 北東―南西 2.0	9.4 以上	—	1.0 以上	土師器・須恵器・瓦・植物遺存体	SD12 → SD4	52	26	—
SD4A	H-24	北西－南東	2.0	9.0 以上	2.1	0.6		SD12 → SD4	52	27	34
SD4B			2.0	9.3 以上	—	1.0 以上					
SD4C			2.0	12.7	—	0.8 以上	土師器・須恵器				
SD12	H-24	北東－南西	34.8	3.5 以上	—	1.0 以上	土師器・須恵器・石製品	灰白色火山灰あり SD12 → SD4	52	27	34
SD110A	H-24	北西－南東	1.8	5.1	2.0	0.94	土師器・須恵器・石器・石製品		52	27,29	34
SD110B			1.8	4.3	1.5	0.77	土師器・須恵器・石器・石製品・動物遺存体				
SD4A	H-25	北西－南東	—	—	—	—		平面確認のみ SD12 → SD4 → SD145	90	27	—
SD4B			11.2	6.0	—	—					
SD4C			43.0	4.0 以上	—	—	土師器・須恵器				
SD12	H-25	北西－南東	36.0	25.0 以上	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ　SD12 → SD4	90	27	—
SD110A	H-25	北西－南東	7.0	25.5	17.0（北側） 2.0（南側）	0.9	土師器・須恵器・瓦・石製品・壁土・土製品・木製品・動植物遺存体	SD112・113、 SF102 → SD110 → SD103・111・230・231	72,74	28,50	51
SD110B			5.5	19.0	16.2	0.8	土師器・須恵器・瓦・植物遺存体				
SD115	H-25	東西、南北	東西 3.2、南北 2.9	1.86 以上	0.4～1.5	0.18	土師器・須恵器	SD115 → SD111・112・113	—	57	—
SD117	H-25	東西	4.4	0.6 以上	0.15 以上	0.06～0.08	土師器・須恵器	SB163 → SD117	—	57	—
SD118	H-25	東西・南北、 南北	東西 5.1・ 南北 8.9、 南北 6.0	0.4～2.2	0.1～2.0	0.16～0.22	土師器・須恵器・瓦	SD117・119・120・129～131、 SF156 → SD118 → SB122、 SD128	90	57	67,68
SD119	H-25	北西－南東	1.6	0.4～2.20.6	0.1～0.3	0.2～0.26		SD120 → SD119 → SD118	—	57	68
SD120	H-25	北西－南東	4.1	0.24～0.39	0.1～0.2	0.15～0.3	土師器・須恵器	SB163、SD121 → SD120 → SD118・119	93	57	68
SD121	H-25	北西－南東	2.7	0.24～2.0	0.1～0.35	0.1～0.29	土師器	SD121 → SD120	—	57	68
SD128	H-25	北西－南東	2.1	0.42～0.54	0.12～0.18	0.26		SD118・140 → SD128	—	57	—
SD129	H-25	東西	5.7	0.48～0.9	0.12～0.48	0.2	土師器	SD140 → SD129 → SB122、 SD118	93	57	68
SD130	H-25	東西	4.8	0.45～0.87	0.18～0.48	0.16	土師器・須恵器	SD130 → SF155、SD118・126	93	57	68
SD131	H-25	東西	2.9	0.36～0.42	0.24～0.3	0.04～0.11		SK132・154 → SD131 → SD118	93	57	—
SD140	H-25	南北	6.4	1.1～2.16	0.36～1.0	0.22	土師器・須恵器・瓦	SD140 → SD126・128・129・216	—	57	—
SD141	H-25	東西	5.8	0.56～1.8	0.32～0.84	0.22	土師器・須恵器		93	57	68
SD142	H-25	東西	3.7	0.48～1.6	0.24～0.8	0.1	土師器・須恵器		93	57	68
SD145	H-25	北東－南西	15.0	1.08 以上	0.15 以上	0.2 以上	土師器・須恵器	SD4・138・139・146・149、 SK151 → SD145	—	63	—
SD203	H-26	北東－南西	4.1	4.14	0.3	0.89	土師器・須恵器	SD208・209 → SD203 → SD204	—	70,71	73
SD204	H-26	北東－南西	3.96	2.58 以上	—	0.56 以上	土師器・須恵器・瓦・石器	SD203 → SD204	97	70,71	73
SD206	H-26	南北	1.9	7.4 以上	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ	97	70	—
SD208	H-26	北東－南西	2.9	1.02	0.12	0.3		SD208 → SD203・209	—	70,71	73
SD209	H-26	北東－南西	4.2	2.11 以上	0.9	0.39	土師器・須恵器・瓦	SD208・210・211 → SD209 → SD203	—	70,71	73
SD210	H-26	北東－南西	0.4	0.24	—	0.15		SD210 → SD209	—	70,71	73
SD211	H-26	北東－南西	0.6	0.48	—	0.16 以上		SD211 → SD209	—	70,71	73
SD165	H-27	北東－南西	1.8	6.6～6.9	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ 灰白色火山灰あり SF166 → SD165	100	74	—

(2) I区

I-1 ～ 19 区を設定した（第 78 図）。第 14 表はＩ区の各調査区の内容をまとめたものである。

1）地形と基本層序

①地形

Ｉ区は遺跡の長軸方向の中央部分にあたり、田尻川に並行する帯状の調査区である（第 4 図）。地形は微高地と旧河道で、特に I-1 ～ 4・12 区では広い範囲で旧河道が確認された。遺構確認面である基本層序Ⅴ層上面の標高値から地形を概観すると、巨視的には、Ｉ区の西側部分にあたる I-1 ～ 5・10 ～ 13 区では、北東側に位置するＨ区から南西の田尻川に向かって、Ｉ区の東側部分にあたる I-6 ～ 9・14 ～ 19 区では、北西から南東方向に標高を下げながら緩やかに傾斜する（第 79 図）。微視的には、I-1 区から I-8 区中央・西端から西側は、I-12 区南東部と I-16 区北西部、I-9 区南部でやや標高が下がるが、それ以外は標高値に大きな差がなく、ほぼ平坦である。I-10 区は周辺よりも標高値が大きく、周囲よりも一段高い島状の地形となる。I-8 区中央から東側は、南東方向に向かって緩やかに標高を下げながら傾斜する。

②基本層序

基本層序はＨ区と対比可能である（第 79 図）。Ｈ区の一部で確認されたⅣ層とⅥ層は確認できなかった。調査地点によって若干の相違はあるが、概ね以下のようになる。なお、遺構確認はⅤ層上面で行った。

Ⅰ層：表土

Ⅱ層：暗褐色（10YR3/3）粘土質シルトでＨ区のⅡａ・Ⅱｂ層のいずれかに対応するとみられる。I-10 区でのみ確認した。

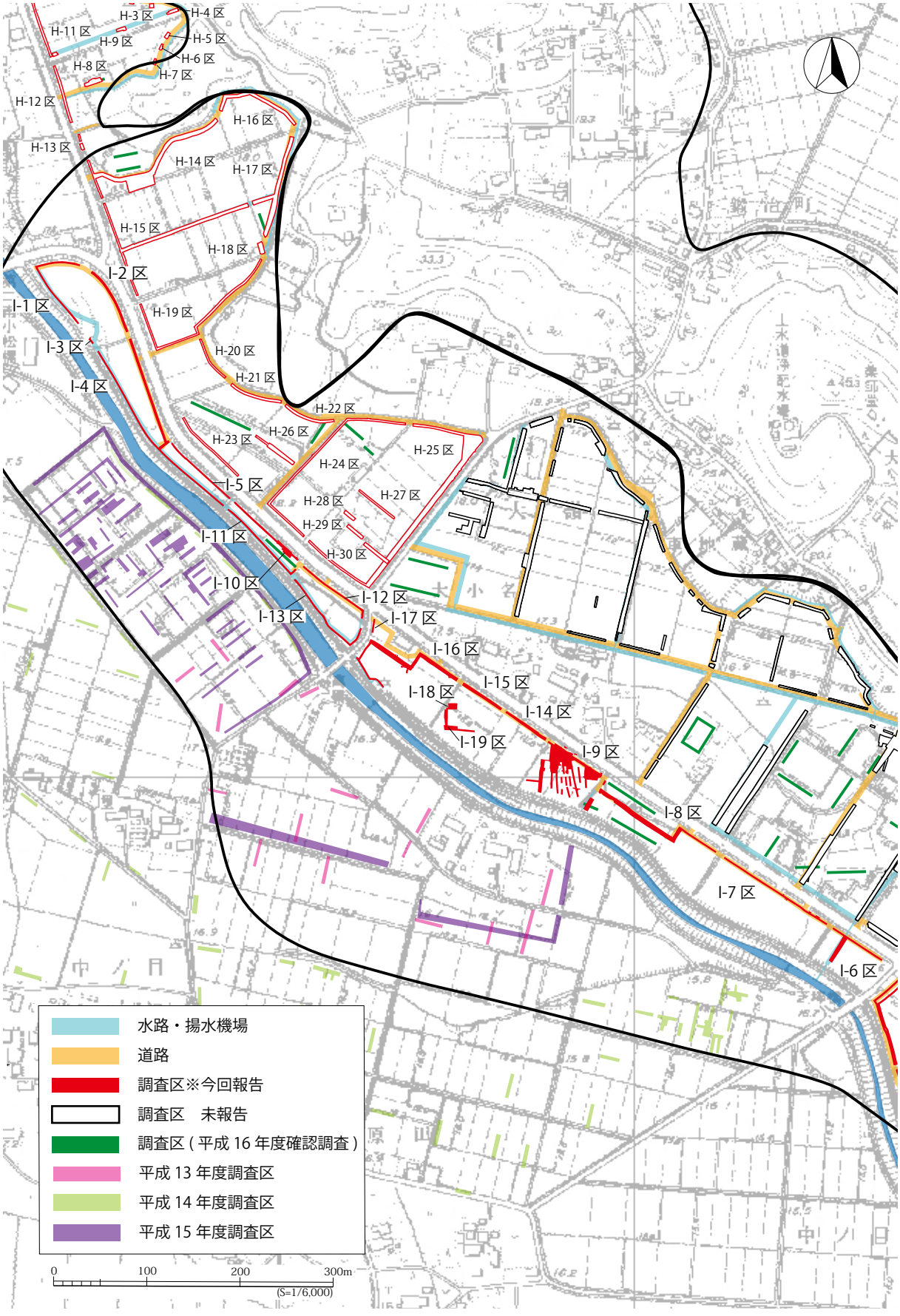
Ⅲ層：灰白色火山灰（十和田ａ火山灰（To-a））層である。湿地や河川跡、一部の遺構の堆積土中に認められた。

Ⅴ層：灰白色（10YR8/2）、浅黄橙色（10YR8/3）、にぶい黄橙色（10YR7/3・6/4）、灰黄色（2.5Y7/2）、浅黄色（2.5Y7/3）、にぶい黄色（2.5Y6/3・6/4）の細砂、砂質シルト、シルト、シルト質粘土、粘土などである。全ての調査区で認められたが、地点によって土色・土性が異なる。I-1 区周辺は砂質、I-6 ～ 8・14・15 区は粘土質、I-9・10 ～ 13・16・18・19 区はシルトが主体である。また、I-6 ～ 9 区では、Ⅴ層中に黒色（10YR2/1）・黒褐色（10YR3/1・3/2、2.5Y3/1）の粘土質シルトやシルト質粘土、粘土が挟在する。

各調査区でⅠ層の直下にⅤ層が確認されることが多く、全体的に大きく削平されている。

2）検出遺構と遺物

検出した遺構は、道路跡 2 条、掘立柱建物跡 20 棟、竪穴建物跡 17 棟、柱列跡 7 条、材木塀跡 1 条、溝跡 86 条、井戸跡 2 基、土器埋設遺構 1 基、土坑 56 基、小溝状遺構群 7 ヶ所、河川・自然流路跡 25 条、湿地跡である。出土遺物は、土師器、須恵器、赤焼土器、中世陶器、瓦、土製品、石製品、石器、鉄製品、銅銭、木製品、動植物遺存体である。I-9・10 区で遺構密度が高く、さまざまな種類の遺構が認められるのに対し、それ以外の調査区では遺構密度が低く遺構の種類も多くない（第 14 表）。



第 78 図　I 区　調査区の位置

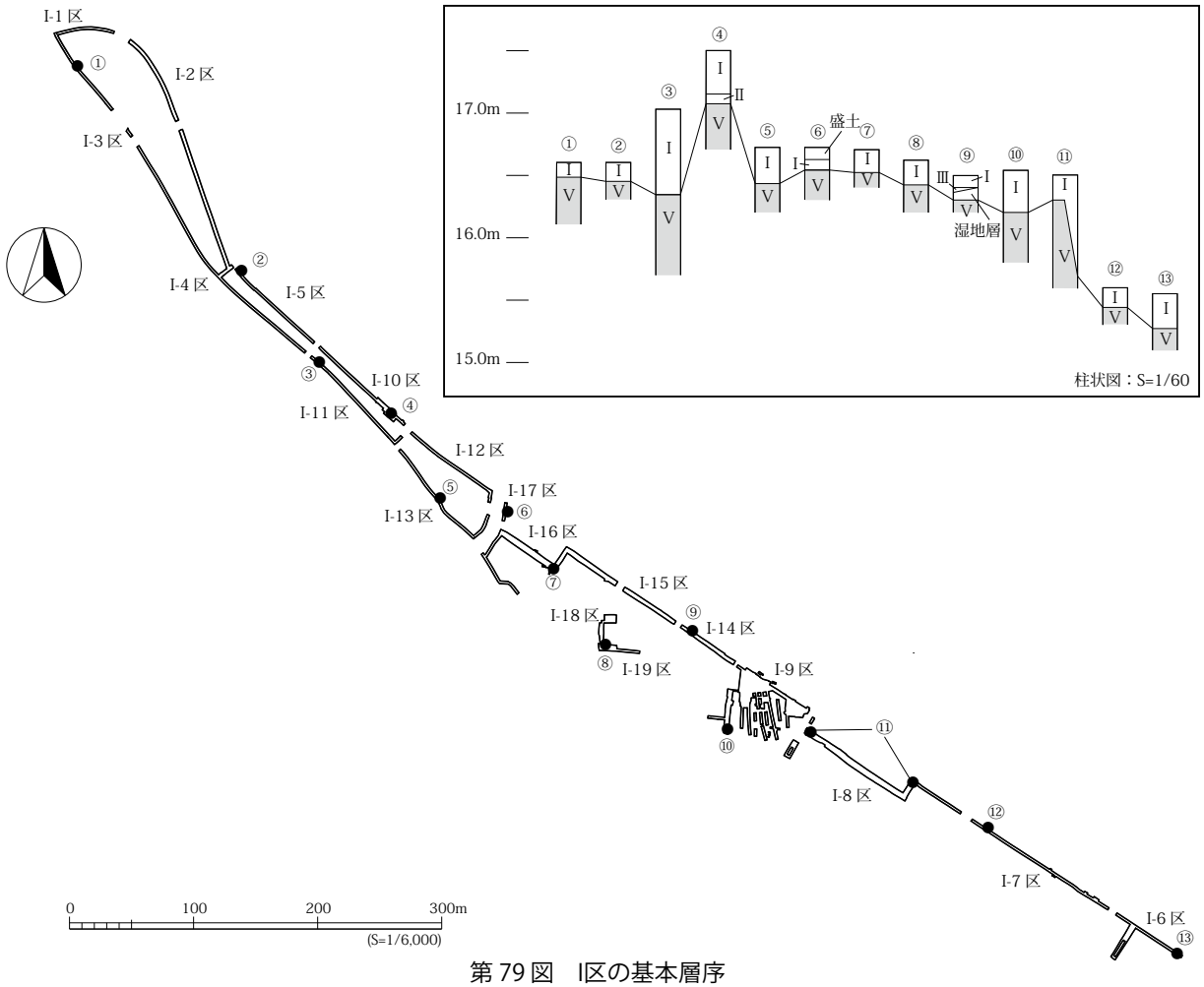
第 14 表　I 区の調査内容

調査区	調査	年度	発掘面積	基本層堆積状況	検出遺構	出土遺物
I-1	本発掘・確認	H23	254.2 （本発掘 145.0、確認 109.2）	Ⅰ・Ⅴ	溝跡（SD258）、河川跡（SD253・256・257）	土師器・須恵器・石・石器・石製模造品・植物遺存体
I-2	確認	H23	222.6	Ⅰ・Ⅴ	河川跡（SD250・253・263）	土師器・須恵器・瓦・石
I-3	本発掘	H23	13.5	Ⅰ・Ⅴ		土師器
I-4	本発掘・確認	H23	808.4 （本発掘 438.0、確認 370.4）	Ⅰ・Ⅴ	溝跡（SD251・262）、 土坑（SK259）・河川跡（SD4・252・253）	土師器・須恵器・赤焼土器・中世陶器・陶器・磁器・瓦・石・石製模造品・動物骨・植物遺存体
I-5	確認	H23	166.9	Ⅰ・Ⅴ	溝跡（SD254・255）、土坑（SK260）、河川跡（SD252）	土師器・須恵器・瓦
I-6	本発掘・確認	H24	271.9 （本発掘 145.0、確認 136.9）	Ⅰ・Ⅴ	道路跡（SX400（SD272・277））、掘立柱建物跡（SB276）、 溝跡（SD264・265・269–271・273・278・279）、 土坑（SK280）、小溝状遺構群（SF274）	土師器・須恵器・赤焼土器・鉄滓
I-7	確認	H24	273.4	Ⅰ・Ⅴ	竪穴建物跡（SI283・288）、柱列跡（SA290・291）、 溝跡（SD281・282・292）、土坑（SK284・285・289・308）、 自然流路跡（SD287）	土師器・須恵器・土製品・瓦・粘土塊・鉄製品
I-8	本発掘・確認	H24	703.0 （本発掘 77.5、確認 625.5）	Ⅰ・Ⅴ	掘立柱建物跡（SB296・306・309）、竪穴建物跡（SI294・295）、 溝跡（SD297・299–304・307）、土坑（SK298・305）、 その他（SX293）	土師器・須恵器・瓦・鉄滓
I-9	確認	H24	1338.2	Ⅰ・Ⅴ	掘立柱建物跡（SB311・312・315・316・318・320–323・327）、 竪穴建物跡（SI392・394–397・399・401・402・455）、 柱列跡・材木塀（SA325・404）、 溝跡（SD310・378・380・383・403・456）、井戸跡（SE384）、 土　坑（SK319・379・381・382・385–387・390・393・398・421～438・440～445・448・452～454）、自然流路跡（SD389）	土師器・須恵器・陶器・瓦・土製品・石器・石製品・鉄滓
I-10	本発掘	H24	256.3	Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ	掘立柱建物跡（SB348）、 竪穴建物跡（SI339・341・349）、柱列跡（SA347）、 溝跡（SD342・350・351・353・354・356・359・361–364）、 井戸跡（SE344）、土坑（SK343・346・355・357・360・376）、 河川跡・自然流路跡（SD352・358）	土師器・須恵器・陶器・瓦・土製品・石器・石製品・鉄製品
I-11	本発掘・確認	H24	215.9 （本発掘 6.0、確認 209.9）	Ⅰ・Ⅴ	溝跡（SD372・375）、河川跡（SD373・374）	土師器・須恵器・瓦・石製品・鉄滓
I-12	確認	H24	180.2	Ⅰ・Ⅴ	溝跡（SD331）、河川跡（SD330・332–334・477）	土師器・須恵器・瓦
I-13	本発掘	H24	235.7	Ⅰ・Ⅴ	竪穴建物跡（SI367）、柱列跡（SA336・338）、 溝跡（SD335・366・368）、自然流路跡（SD337・365）	土師器・須恵器・瓦・石製品
I-14	確認	H24	167.6	Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	溝跡（SD380・406・409・411・414–416・418・420・510）、 土坑（SK419）、小溝状遺構群（SF412・413・417）、 自然流路跡（SD511）、その他（SX407・408・410）	土師器・須恵器・陶器・瓦・土製品・石器・鉄製品・鉄滓・動物骨
I-15	確認	H24	173.8	Ⅰ・Ⅴ	溝跡（SD492・493・496–499・501）、 小溝状遺構群（SF494・495・502）、 自然流路跡（SD491）、その他（SX408）	土師器・須恵器・瓦・土製品・石器
I-16	本発掘・確認	H24	689.5 （本発掘 91.0、確認 598.5）	Ⅰ・Ⅴ	道路跡（SX200（SD460・461））、 掘立柱建物跡（SB469–472・481）、柱列跡（SA468）、 溝跡（SD462・463・466・467・475・476・479・480）、 土坑（SK464・473）、河川跡・自然流路跡（SD465・474）	土師器・須恵器・中世陶器・陶器・瓦・石器・銅銭・植物遺存体・ガラス瓶
I-17	確認	H24	29.6	Ⅰ・Ⅴ	竪穴状遺構（SX478）、河川跡（SD333・334・477）	土師器・須恵器・陶器・瓦
I-18 I-19	確認	H24	240.5	Ⅰ・Ⅴ	道路跡（SX200（SD460・461））、 溝跡（SD482–489・503–509）、自然流路跡（SD490）	土師器・須恵器・陶器

以下、西側の調査区から東側へ向かって順に記述を行う。その際、地形や遺構の分布状況から、I-1 ～ 5 区、I-12・17 区、I-16・18・19 区についてはそれぞれまとめて扱うこととする。また、I 区の南側に位置する田尻川で古代の遺物が採集できたため、これについてもその他の遺物として最後に記述する。

①I-1～5区

I-1 区で溝跡 1 条（SD258）、河川跡 3 条（SD253･256･257）（第 80 図）、I-2 区で河川跡 3 条（SD250･253・263）（第 80 図）、I-4 区で溝跡 2 条（SD251・262）、土坑 1 基（SK259）、河川跡 3 条（SD4・252･253）（第 80 ～ 82 図）、I-5 区で溝跡 2 条（SD254･255）、土坑 1 基（SK260）、河川跡 1 条（SD252）（第 82 図）を検出した。ここでは、SD4・253・257・252 河川跡のみ記述し、それ以外については第 19・21・24 表に特徴をまとめた。



第 79 図　I区の基本層序

A. 河川跡

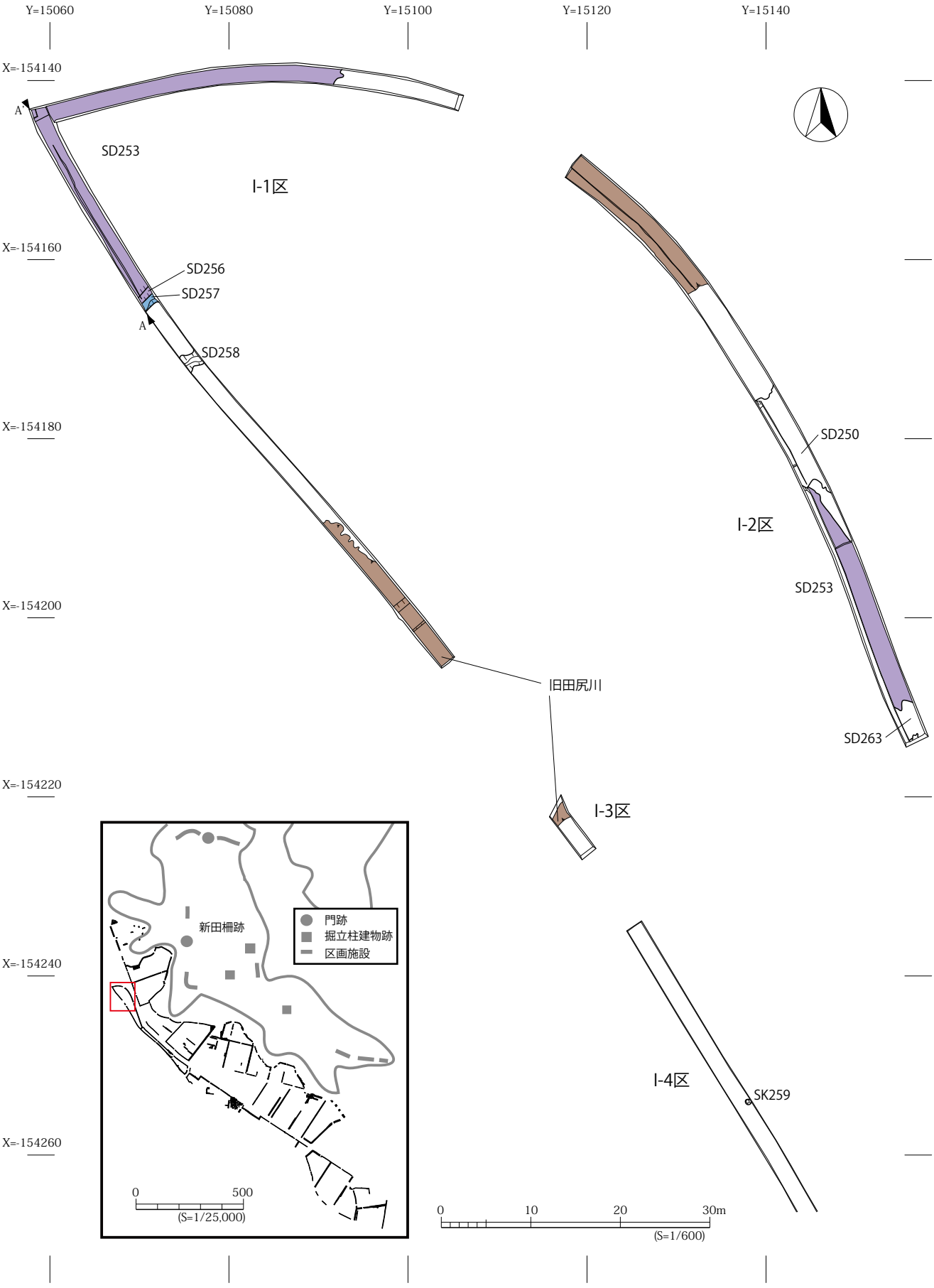
【SD4河川跡】（平面図：第 81 図、遺物：第 84 図）

I-4 区北東側に位置する。SD252・253 河川跡と重複し、これらより新しい。遺構確認のみの調査である。3 時期（A → B → C）確認した。

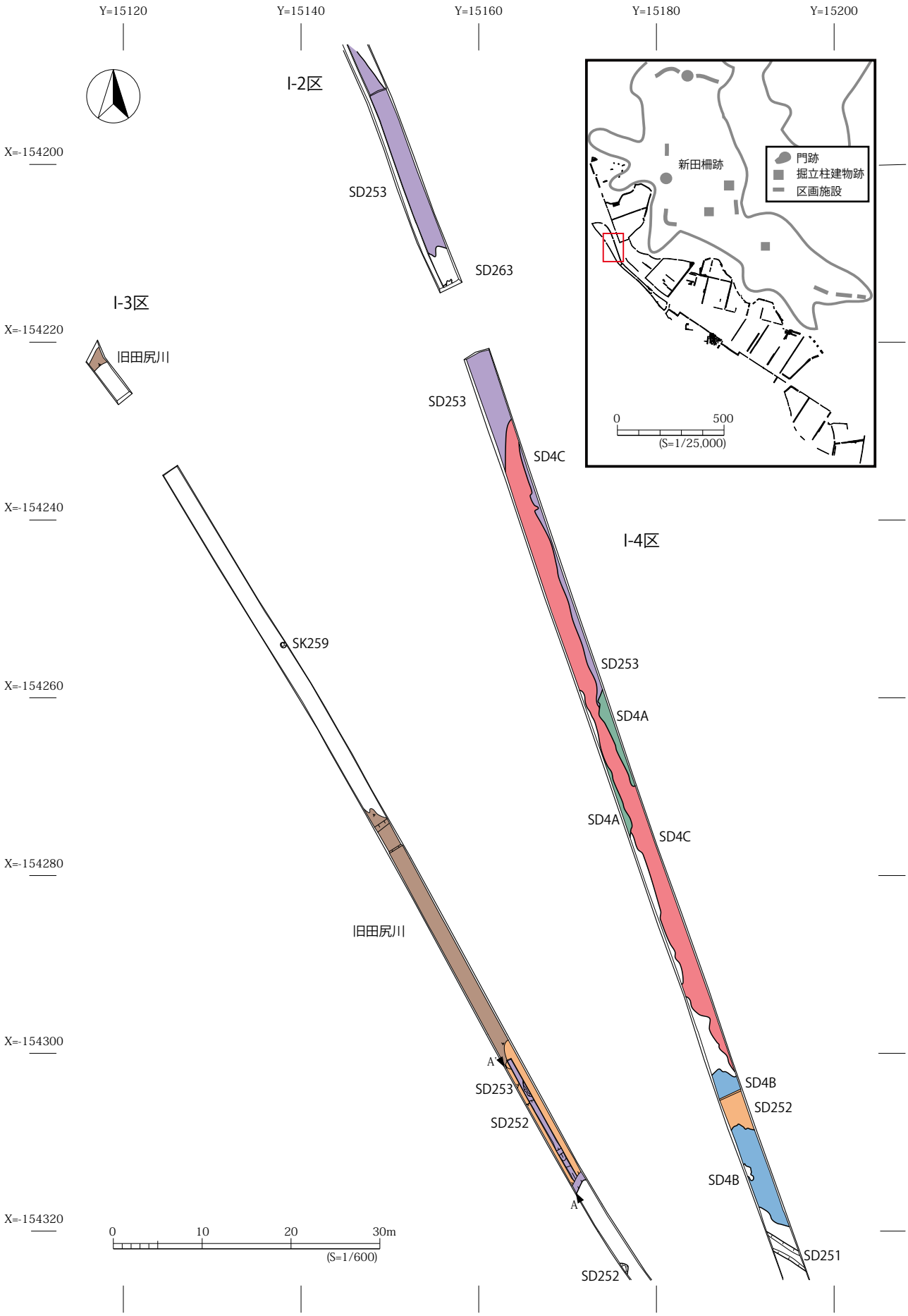
SD4A は部分的な検出で、規模は不明である。土師器坏・甕が出土した。SD4B は東西方向で、検出長 14.0m、上幅 15.5m である。土師器甕、瓦が出土した。SD4C は北西－南東方向で、検出長 77m、上幅 2.5m 以上である。土師器坏・壺（第 84 図 1）・甕、須恵器、中世陶器甕（2）、平瓦、丸瓦、石製模造品（3）、植物遺存体が出土した。

【SD253河川跡】（平面図：第 80・81 図、断面図：第 83 図、遺物：第 84・85 図）

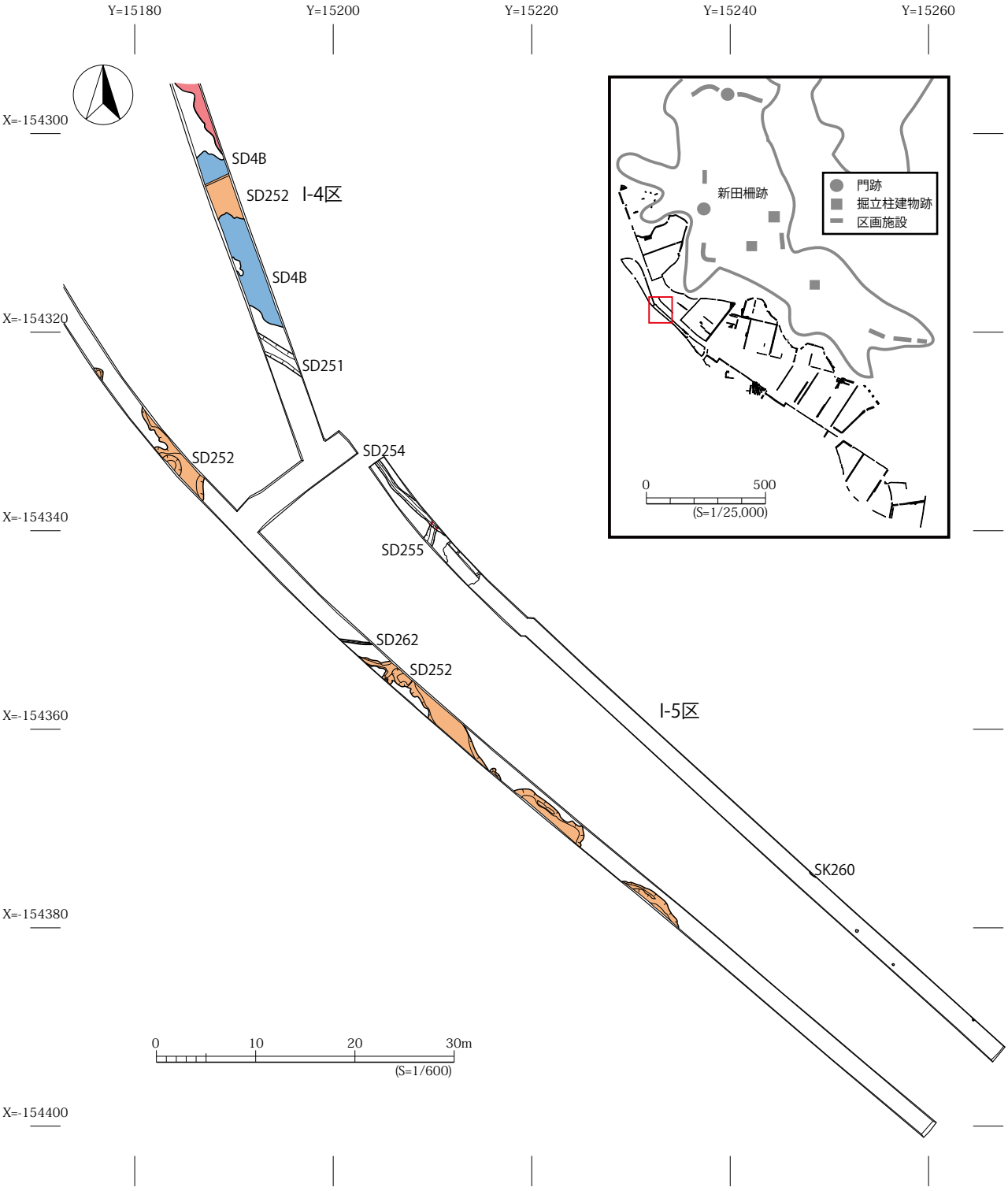
I-1・2・4 区に位置する。I-1 区で SD256・257 河川跡、I-2 区で SD250・263 河川跡、I-4 区で SD4・252 河川跡と重複し、SD256・257 より新しく、SD4・250・252・263 より古い。一部で截ち割り調査を行った。検出長は約 110m、規模は上幅 3.0 ～ 32.0m 以上、深さ 0.94 ～ 2.2m 以上である。堆積土上層には灰白色火山灰層が認められ、これより下位の層から、ロクロ調整の土師器坏（第 84 図 4 ～ 6）・高台坏（7）、非ロクロ調整の土師器坏（第 84 図 8、第 85 図 1・2）・壺・甕・手捏土器（3）、須恵器坏・甕、石製模造品とその未製品（第 84 図 9 ～ 11）、黒曜石製石器（12）、植物遺存体が出土した。



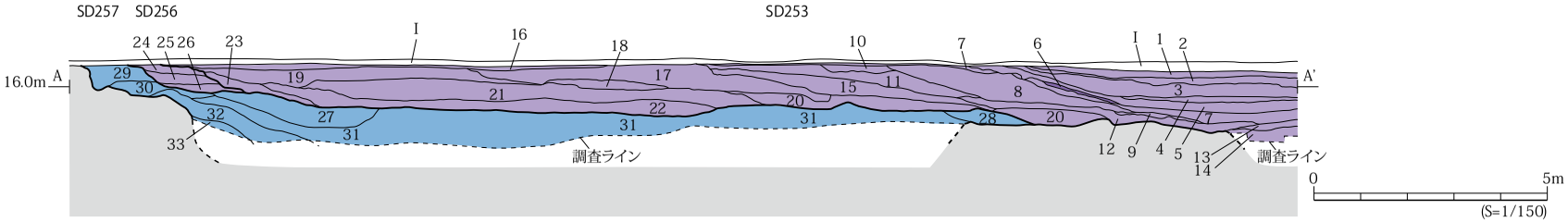
第 80 図　I-1~3 区　遺構配置図



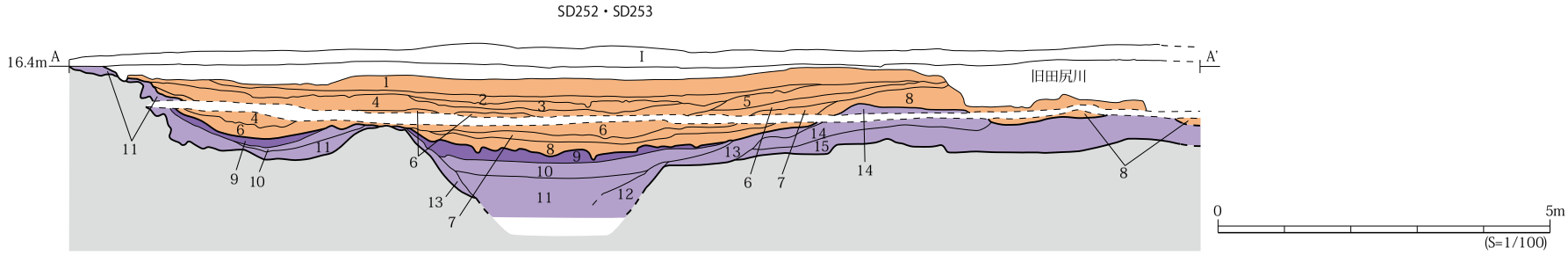
第 81 図　I-4 区北側　遺構配置図



第 82 図　I-4 区南側、I-5 区　遺構配置図



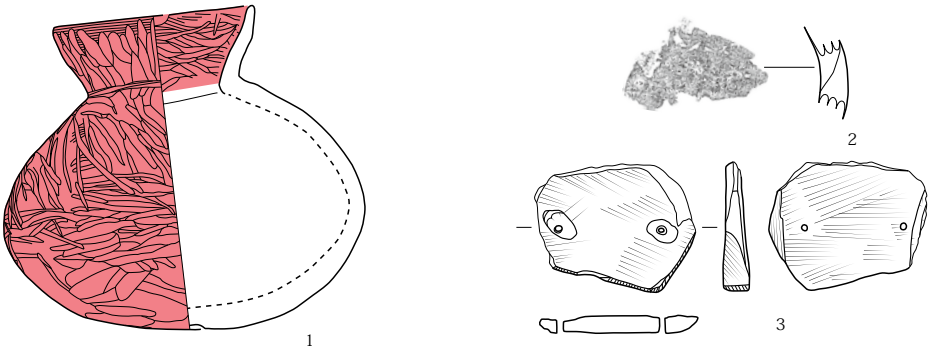
遺構	層	土色	土性	含有物など
SD 253	1	暗灰黄色（2.5 Y 4/2）	粘性シルト	酸化鉄を多量に含む
	2	黒褐色（2.5 Y 3/2）	粘質シルト	Ⅴ層小ブロックを少量、酸化鉄を含む
	3	黒褐色（10 Y R 3/1）	粘質シルト	Ⅴ層小ブロック多量に、酸化鉄少量含む
	4	暗赤褐色（10 R 3/2）	粘質シルト	
	5	黒色（10 Y R 2/1）	粘質シルト	灰白色火山灰小ブロックを少量含む
	6	灰白色火山灰	シルト	
	7	黄灰色（2.5 Y 4/1）	砂質シルト	酸化鉄、褐灰色（10YR4/1）粘質シルト小ブロックを含む
	8	褐灰色（10 Y R 5/1）	砂質シルト	酸化鉄を含む
	9	褐灰色（10 Y R 4/1）	粘質シルト	酸化鉄を含む
	10	黄褐色（2.5 Y 5/4）	細砂	細砂ブロックを含む
	11	暗灰黄色（2.5 Y 5/2）	砂質シルト	細砂小ブロックを斑に含む
	12	黄灰色（2.5 Y 5/1）	砂質シルト	酸化鉄を含む
	13	褐灰色（10 Y R 4/1）	粘質シルト	黒色粘質シルト、細砂と互層になる
	14	褐灰色（10 Y R 4/1）	粘質シルト	黒色粘質シルト、細砂と互層になる（13 層より細砂の割合多）
	15	暗灰黄色（2.5 Y 5/2）	砂質シルト	細砂と互層になる
	16	暗灰黄色（2.5 Y 5/2）	粘質シルト	酸化鉄を多量に含む
	17	灰黄色（2.5 Y 6/2）	砂質シルト	黄灰色（2.5Y4/1）砂質シルト、細砂と互層になる
SD 253	18	灰黄色（2.5 Y 6/2）	砂質シルト	細砂、粗砂と互層になる
	19	暗灰黄色（2.5 Y 5/2）	砂質シルト	細砂、粗砂ブロックと互層になる
	20	灰黄褐色（10 Y R 4/2）	粗砂	黄灰色（2.5Y5/1）シルト、細砂と互層になる
	21	暗灰黄色（2.5 Y 5/2）	細砂	細砂、粗砂と互層になる　炭化物片をわずかに含む
	22	黄褐色（10 Y R 5/6）	粗砂	灰白色（10YR7/1）細砂、灰黄褐色（10YR4/2）粗砂、小礫と互層になる
	23	黄灰色（2.5 Y 5/1）	砂質シルト	暗灰黄色（2.5Y5/2）砂質シルト、細砂と互層になる
SD 256	24	灰黄色（2.5 Y 6/2）	砂質シルト	炭化物片をわずかに含む
	25	黄灰色（2.5 Y 6/1）	砂質シルト	細砂と互層になる
	26	灰黄色（2.5 Y 6/2）	砂質シルト	細砂と互層になる
SD 257	27	褐色（7.5 Y R 4/3）	粗砂	小礫を多量に含む
	28	灰黄褐色（10YR4/2）	粗砂	小礫と互層になる
	29	灰黄色（2.5 Y 7/2）	砂質シルト	細砂、灰黄褐色（10YR4/2）粗砂と互層になる
	30	にぶい黄色（2.5 Y 6/4）	粗砂	小礫を多量に含む
	31	にぶい黄褐色（10 Y R 5/4）	粗砂	細砂と互層になる
	32	暗灰黄色（2.5 Y 4/2）	粗砂	小礫を多量に、灰黄色（2.5Y6/2）粘質シルト小ブロックを少量含む
	33	灰黄色（2.5 Y 7/2）	細砂	細砂と互層になる



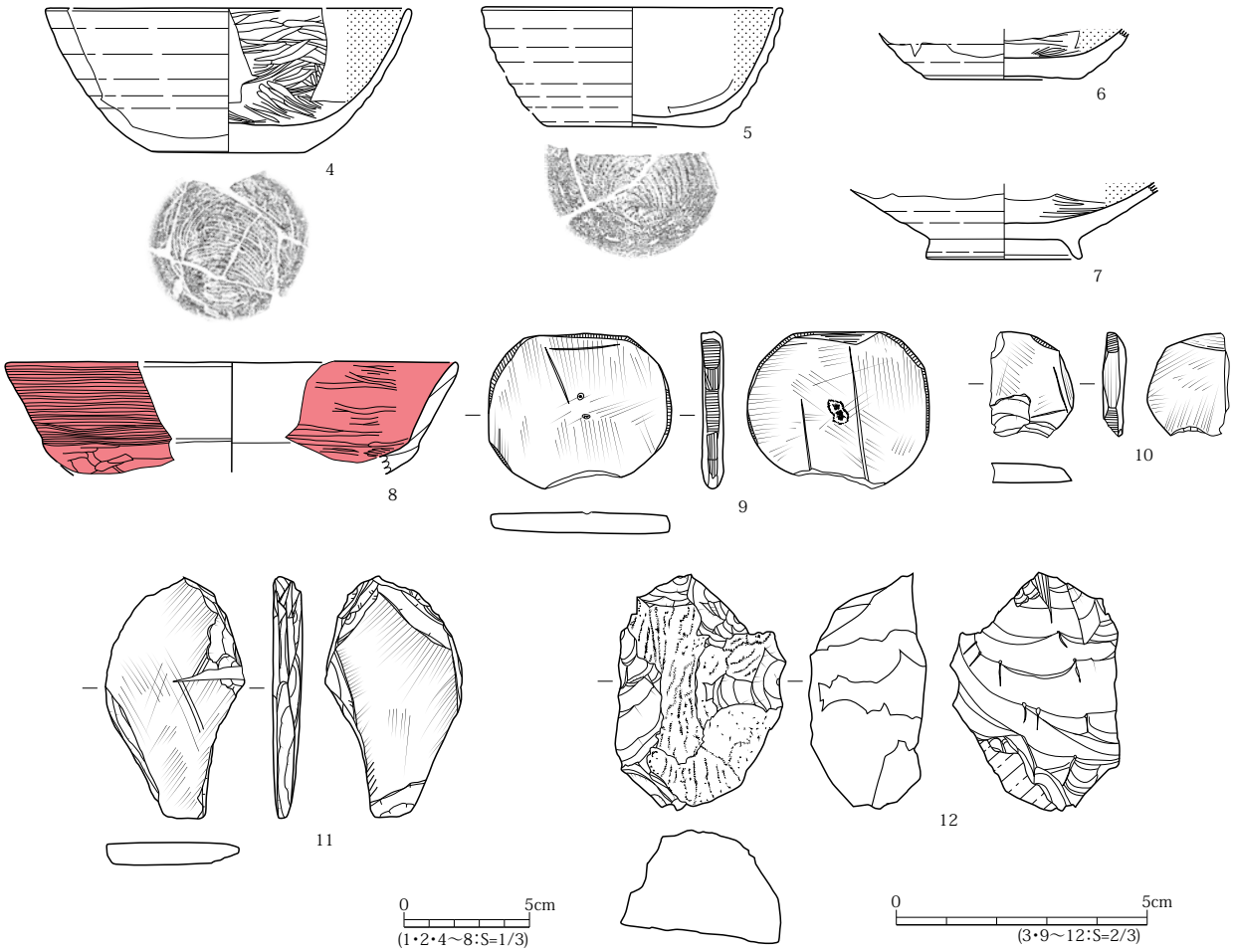
遺構	層	土色	土性	含有物など
SD 252	1	黄灰色（2.5Y5/1）	シルト	礫を含む
	2	黄灰色（2.5Y4/1）	シルト	Ⅴ層ブロック・大ブロックをやや多く含む
	3	黄灰色（2.5Y4/1）	シルト	酸化鉄を含む
	4	暗灰黄色（2.5Y5/2）	シルト	酸化鉄を少量含む
	5	暗灰黄色（2.5Y4/2）	シルト	Ⅴ層小ブロックをわずかに、酸化鉄を含む
	6	灰黄褐色（10YR4/2）	粘土質シルト	酸化鉄を含む
	7	黒褐色（10YR3/2）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを少量、酸化鉄を含む
	8	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック・ブロックを含む
SD 253	9	灰白色火山灰	シルト	
	10	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	Ⅴ層大ブロックを多量に含む
	11	黒色（10YR2/1）	粘土質シルト	酸化鉄を含む
	12	黄灰色（2.5Y4/1）	粘土質シルト	酸化鉄を含む
	13	褐灰色（10YR4/1）	シルト	Ⅴ層小ブロックをわずかに、酸化鉄を含む
	14	暗灰黄色（2.5Y4/2）	シルト	Ⅴ層小ブロックを含む
	15	黒褐色（10YR3/2）	粘土質シルト	

第 83 図　I-1 区　SD253・256・257 河川跡、I-4 区　SD252・253 河川跡　断面

I-4 区　SD4C



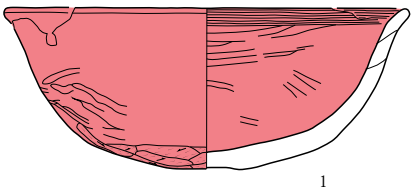
I-1 区　SD253



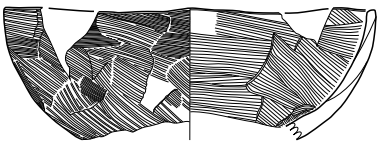
No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	土師器　壺	SD4C　堆	完形	口径 8.0cm　器高 12.6cm　外：(口頸)ナデ→ヘラミガキ→赤彩(体)ヘラミガキ→赤彩(底)ヘラケズリ、ハケメ→ヘラミガキ→赤彩 内：(口頸)ヘラミガキ→赤彩(体)ヘラナデ　丸底	61-4	R730
2	中世陶器　甕	SD4C 堆 ＋ SD253 堆	胴部	外内：ナデ　色調：(外内)にぶい赤褐色(2.5YR5/4)(断)橙色(2.5YR7/8) 胎土：径 1 ～ 2㎜の小礫、径 1㎜以下の砂粒含む　在地産	61-6	R734
3	石製模造品　有孔円板	SD4C　堆	破損	粘板岩製　長(25.3㎜)　幅(31.1㎜)　厚(3.6㎜)　重(4.24g)　孔径 1.0 ～ 1.1㎜	61-5	R732
4	土師器　坏	SD253 8・12 層	(口～体)一部 (底)9/10	口径(14.6cm)　底径 6.0cm　器高 5.7cm 外：ロクロナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理　底：回転糸切り無調整	61-7	R709
5	土師器　坏	SD253 8・13 層	(口～体)1/4 (底)1/2	口径(12.0cm)　底径 6.9cm　器高 4.75cm 外：ロクロナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理　底：回転糸切り無調整　内外面被熱	61-8	R710
6	土師器　坏	SD253　7 層	(体)一部 (底)1/1	底径 6.2cm　外：ロクロナデ 内：ヘラミガキ→黒色処理　底：回転糸切り無調整	61-10	R704
7	土師器　高台坏	SD253 21・22 層	(体)一部 (底)3/4	高台径 6.2cm　外：ロクロナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理 底：回転糸切り無調整→高台取り付け→ロクロナデ	61-11	R723
8	土師器　坏	SD253 13・14 層	(口～体)1/6	口径(18.0cm)　外：(口頸)ナデ→ヘラナデ→ハケメ→(体)ヘラミガキ→赤彩 内：ヘラミガキ→赤彩	61-9	R714
9	石製模造品　未製品	SD253　7 層	破損	粘板岩製　長(29.9㎜)　幅 35.8㎜　厚 4.2㎜　重(7.47g)　単孔の有孔円板の未製品	61-14	R705
10	石製模造品　有孔円板	SD253　7 層	破損	粘板岩製　長(20.0㎜)　幅(16.6㎜)　厚(3.6㎜)　重(1.6g)	61-13	R706
11	石製模造品　未製品	SD253 13・14 層	破損	粘板岩製　長(47.0㎜)　幅(26..8㎜)　厚(4.6㎜)　重(7.51g)　剣の未製品	61-12	R721
12	石器　二次加工ある剥片	SD253 8・12 層	完形	黒曜石製　長 4.7㎝　幅 3.5㎝　厚 2.1㎝　重 34.35g　湯の倉産ヵ	61-15	R713

第 84 図　I-4 区　SD4C 河川跡、I-1 区　SD253 河川跡　出土遺物

I-4 区　SD253



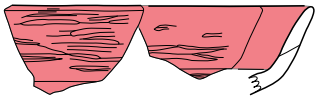
1



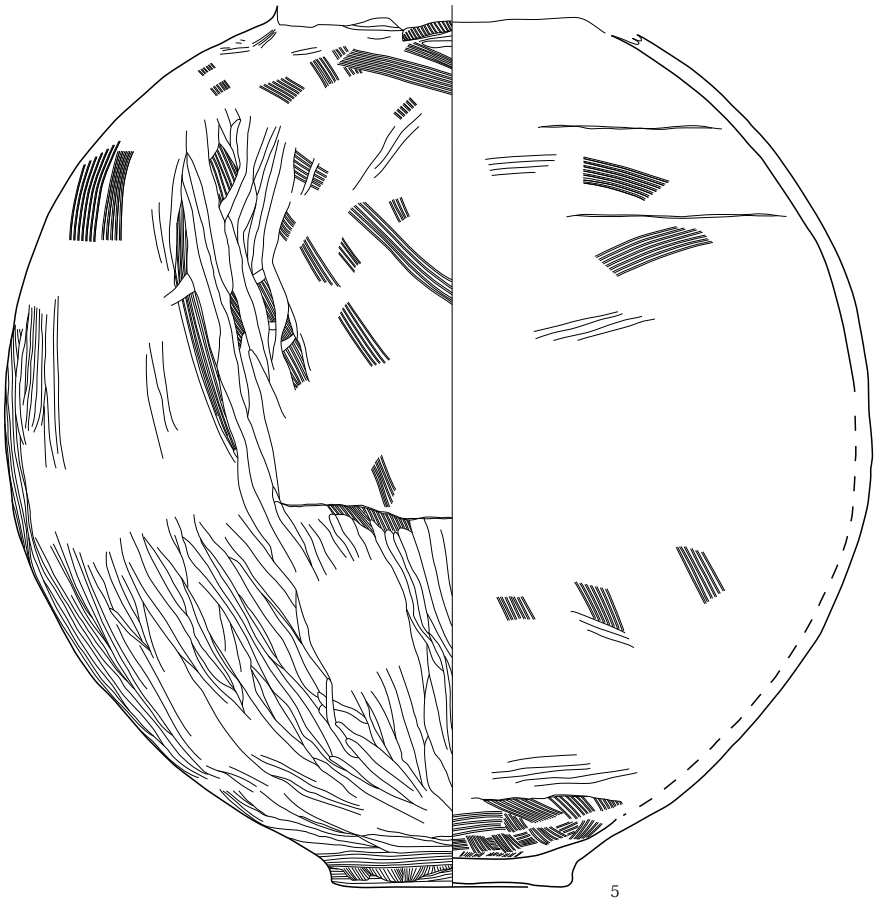
2

3

I-1 区　SD257

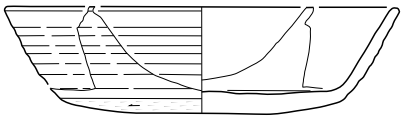


4

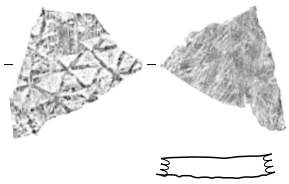


5

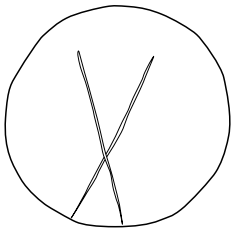
その他の出土遺物



6



7



0　5cm
(1～6：S=1/3)

0　10cm
(7：S=1/5)

No.	種別・器種	遺構・層	残存	法量（cm）			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径	器高			
1	土師器　坏	SD253　15 層	（口）一部 （底）1/3	（16.0）		6.35	外：（体）ヘラミガキ→（底）ヘラケズリ→（口～底）赤彩 内：（体）ヘラミガキ→（口）ナデ→（口～底）赤彩	61-16	R745
2	土師器　坏	SD253　15 層	（口～体）1/3	（14.6）			外：ハケメ→（口縁端部）面取り　内：ヘラナデ	61-17	R743
3	土師器　手捏土器	SD253　15 層	完形	4.3	1.75	3.1	外：オサエ　内：ナデ	61-18	R744
4	土師器　坏	SD257　28 層	口頸部				外内：ヘラミガキ→赤彩	62-2	R725
5	土師器　甕	SD257　28 層	（胴～底）1/1		9.5		外：ハケメ→ヘラミガキ（胴下）ナデ、ヘラナデ　内：ハケメ→ヘラミガキ（底）ハケメ　外面では成形時の粘土紐の継ぎ目にハケメが覆われる	62-1	R724
6	須恵器　坏	I-1 区　カクラン	（口～体）一部 （底）1/1	（15.7）	9.0	4.2	外内：ロクロナデ　底：切り離し不明→（体下～底）回転ヘラケズリ 外面底部に刻書『×』	62-5	R728
7	平瓦	SD251　堆	破損				凸面：花文タタキ目　凹面：ナデ	62-3	R737

第 85 図　I-1・4 区　SD253・257 河川跡　出土遺物、その他の出土遺物

【SD257河川跡】（平面図：第 80 図、断面図：第 83 図、遺物：第 85 図）

I-1 区に位置する。SD253・256 河川跡と重複し、これらより古い。一部で截ち割り調査を行った。検出長は 1.4m、規模は上幅 19.0m 以上、深さ 1.8m 以上である。堆積土から非ロクロ調整の土師器坏（第 85 図 4）・甕（5）が出土した。

【SD252河川跡】（平面図：第 81・82 図、断面図：第 83 図）

I-4・5 区に位置する。SD4・253 河川跡と重複し、SD253 より新しく、SD4 より古い。一部で截ち割り調査を行った。検出長は約 38m、規模は上幅 5.25～15.6m 以上、深さ 0.69～1.48m である。堆積土から土師器坏・鉢・壺（図版 62-4）・甕、須恵器坏・高台坏・壺・甕、瓦が出土した。

B. その他の出土遺物

上記の遺構以外に、I-1 区のカクランから底部に「×」と線刻された須恵器坏（第 85 図 6）、I-4 区の SD251 溝跡から凸面に花文タタキ目が施された平瓦（7）が出土した。

②I-10区

掘立柱建物跡 1 棟（SB348）、竪穴建物跡 3 棟（SI339・341・349）、柱列跡 1 条（SA347）、溝跡 11 条（SD342・350・351・353・354・356・359・361～364）、井戸跡 1 基（SE344）、土坑 6 基（SK343・346・355・357・360・376）、河川跡・自然流路跡 2 条（SD352・358）を検出した（第 86～88 図）。SA347 については、掘立柱建物跡の可能性もあるが、調査区の関係から特定することができず、柱列跡として登録した。ここでは、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、柱列跡、井戸跡と SD342・350・351 溝跡、SK343 土坑について記述し、それ以外については第 19・21・24 表に特徴をまとめた。

A. 掘立柱建物跡

【SB348掘立柱建物跡】（平面・断面図：第 89 図）

〔**位置**〕中央やや南東寄りに位置し、北東側柱列すべてと北西・南東側柱列の一部を検出した。

〔**柱間数・棟方向**〕北西―南東 3 間、北東―南西 2 間以上の建物跡である。

〔**重複**〕SI339 竪穴建物跡、SD350 溝跡、SK360 土坑と重複し、これらより新しい。

〔**検出状況**〕6 個検出し、4 個で柱痕跡、2 個（N1E1、N1E2）で柱抜取穴を確認した。

〔**平面規模**〕北東側柱列で総長 6.9m、柱間寸法は北から 2.35m、2.15m、2.4m、南東側柱列が総長 2.55m 以上である。

〔**方向**〕北東側柱列で測ると西で北に 38°偏る。

〔**柱穴**〕掘方は長軸 20～32cm、短軸 15～30cm の円形、楕円形で、深さ 19cm である。柱痕跡は長軸 10～15cm の円形、楕円形である。

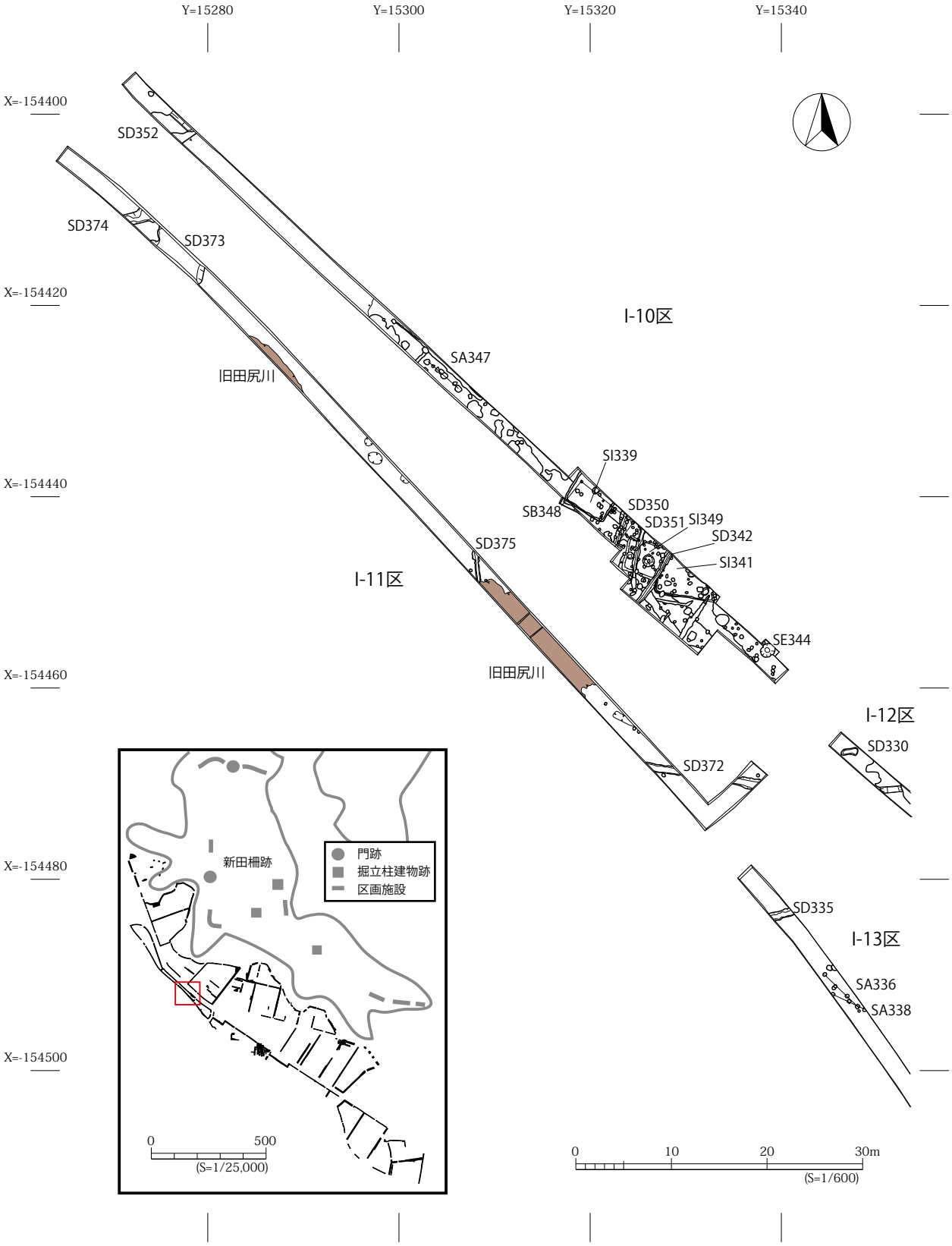
B. 竪穴建物跡

【SI339竪穴建物跡】（平面・断面図：第 90 図、遺物：第 91 図）

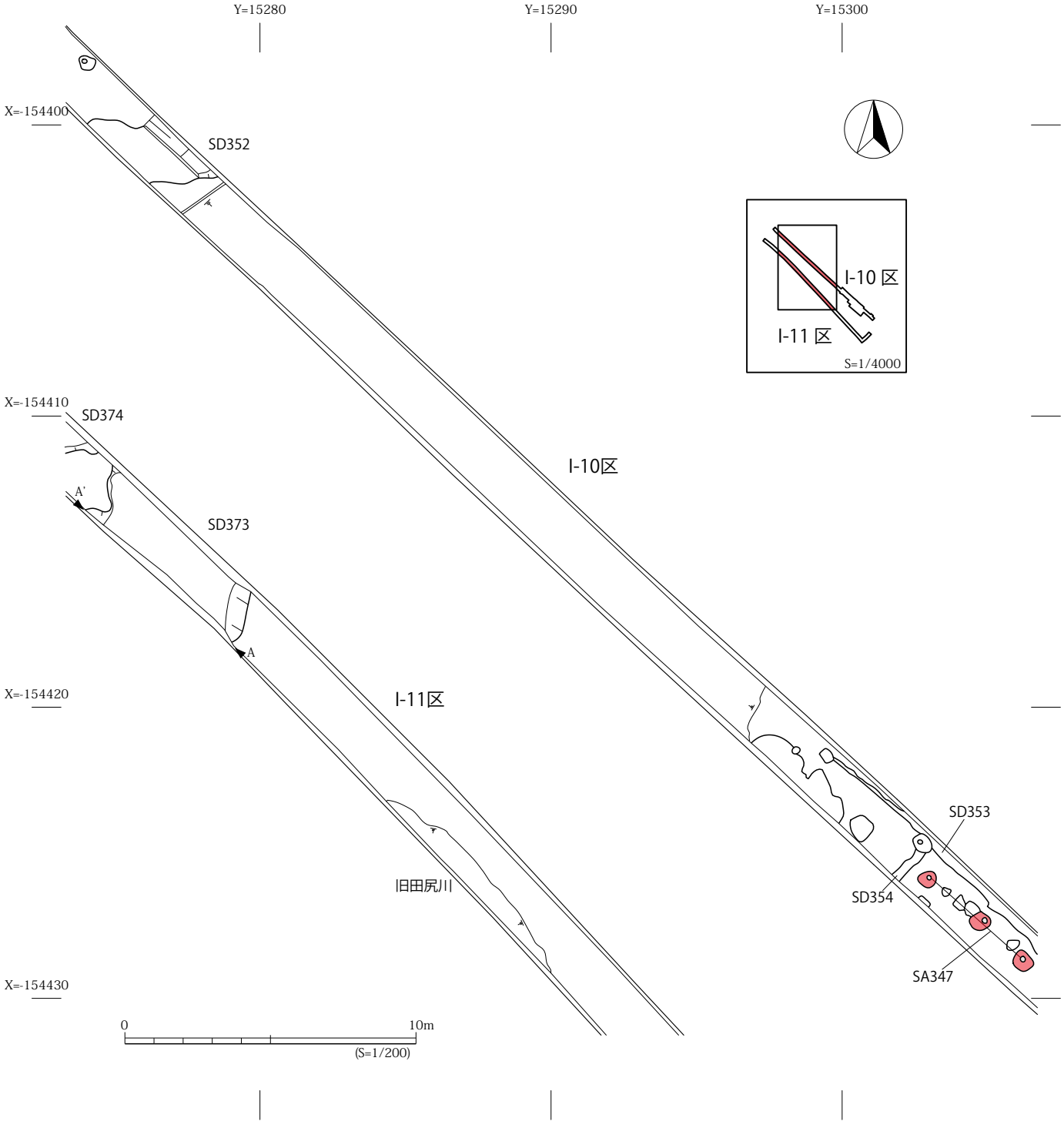
〔**位置・検出**〕中央やや南東寄りに位置し、南半部を検出した。主柱穴のみ 1 度（A→B）改修されている。

〔**重複**〕SB348 掘立柱建物跡、SK343・360 土坑と重複し、SK360 より新しく、それ以外より古い。

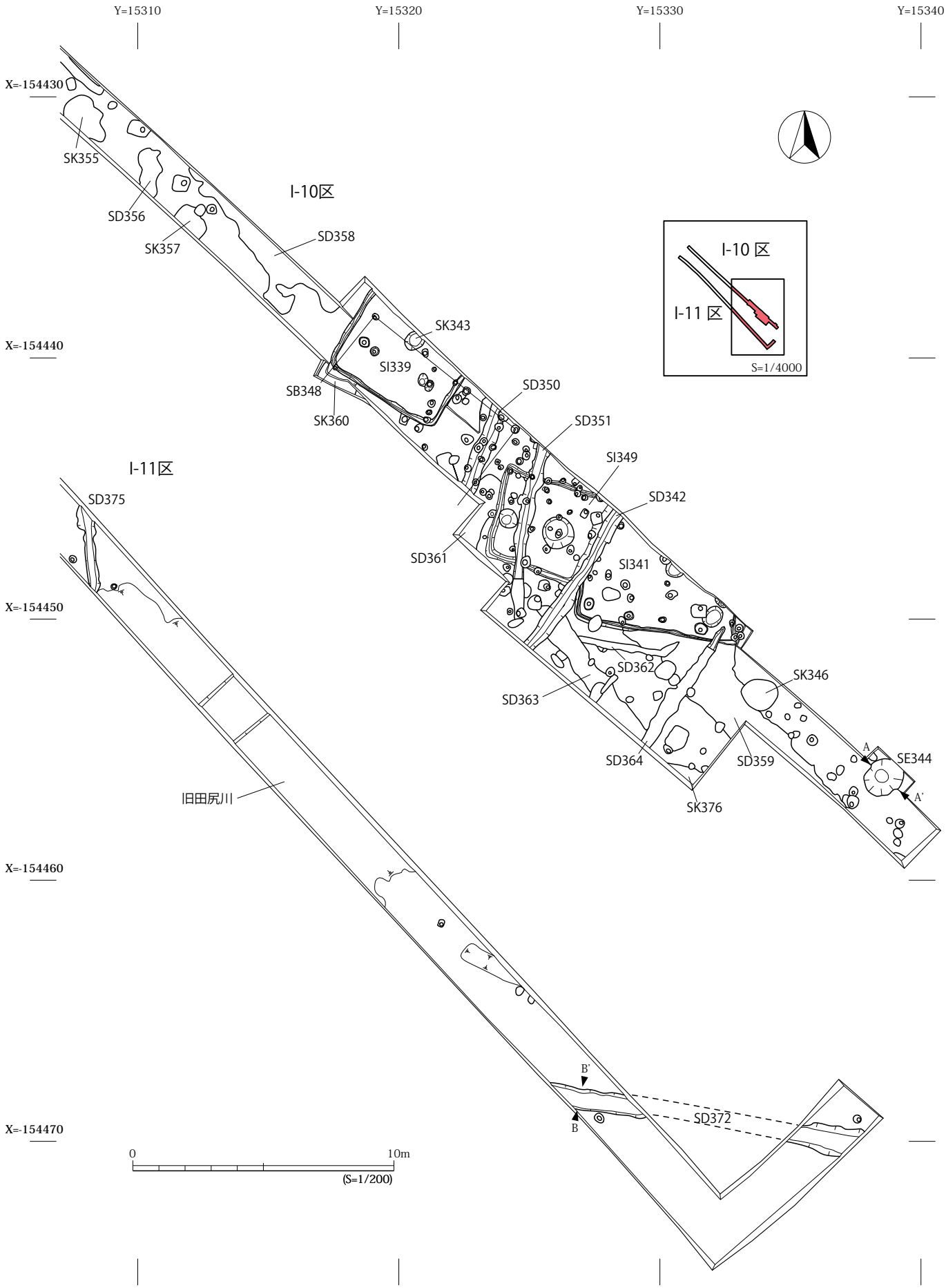
〔**平面形・規模**〕隅丸方形あるいは隅丸長方形で、北西―南東 4.9m、北東―南西 3.3m 以上である。



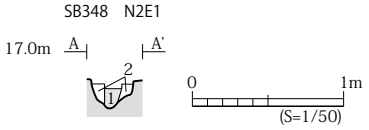
第 86 図　I-10・11 区　遺構配置図



第 87 図　I-10・11 区　北半の検出遺構

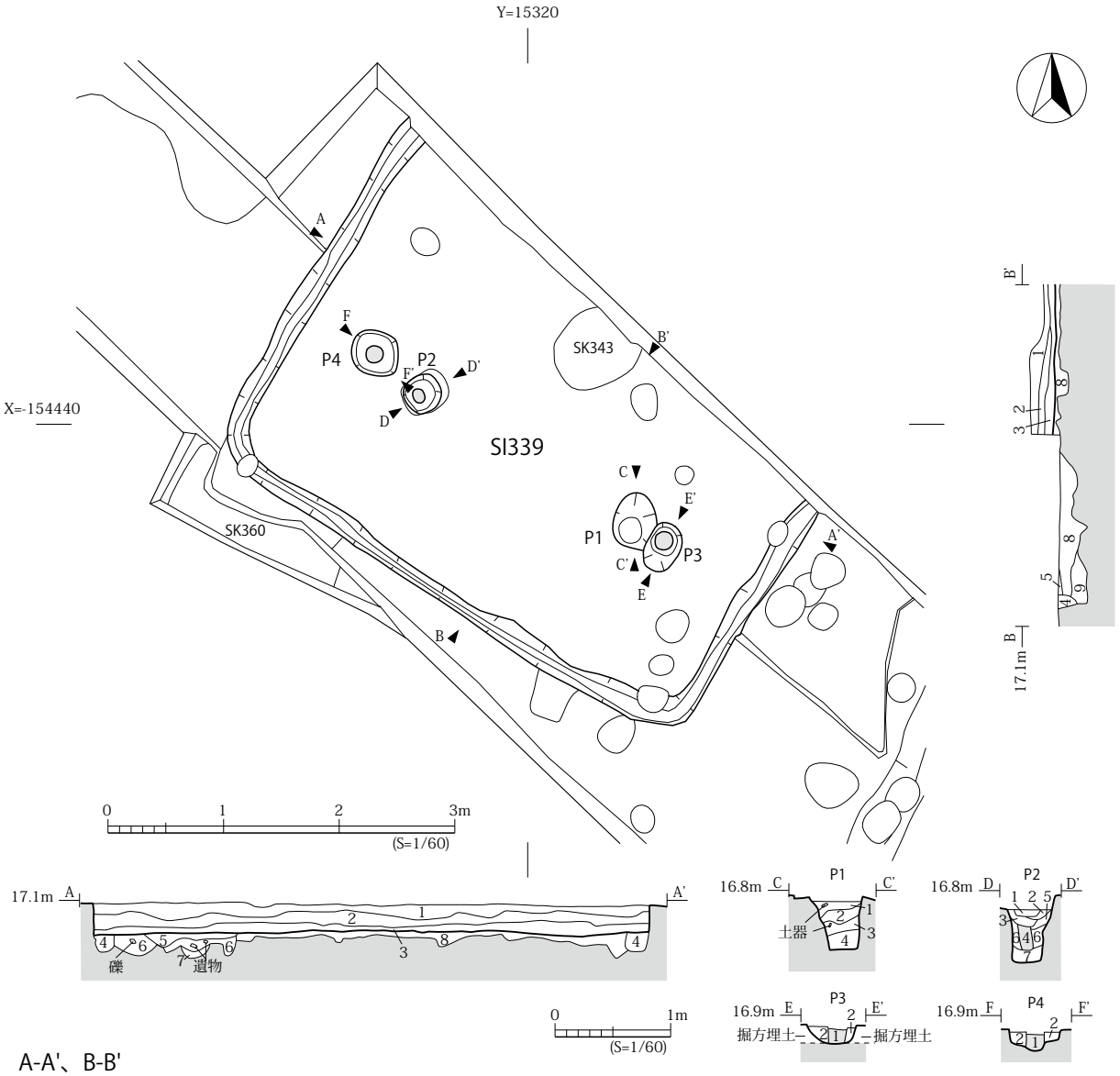


第 88 図　I-10・11 区　南半の検出遺構



層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色（10YR3/1）	シルト	焼土粒、炭化物片をわずかに含む	柱痕跡
2	灰黄褐色（10YR4/2）	シルト	V層粒、焼土粒、炭化物片を少量含む	掘方埋土

第 89 図　I-10 区　SB348 掘立柱建物跡、SD342・350・351 溝跡、SK343 土坑



A-A'、B-B'

層	土色	土性	含有物など	備考
1	暗褐色（10YR3/3）	シルト	焼土粒をわずかに、にぶい黄褐色（10YR4/3）シルトブロックを含む	自然堆積
2	暗褐色（10YR3/3）	シルト	灰黄褐色（10YR4/2）シルト小ブロックを多量に、炭化物片を少量含む	
3	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	V層ブロックをやや多く含む	
4	褐灰色(10YR4/1)	シルト	V層粒をやや多く含む	周溝埋土
5	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	V層小ブロック・ブロックをやや多く含む	掘方埋土
6	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	V層粒・小ブロック、ブロックを含む、炭化物粒をわずかに含む	
7	にぶい黄褐色(10YR5/4)	砂質シルト	V層小ブロック、ブロックをやや多く含む	
8	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層小ブロックを非常に多く含む	
9	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層小ブロックを多量に含む	

P1（C-C'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	にぶい黄褐色(10YR5/3)	シルト	V層粒・小ブロック、炭化物粒、焼土粒を少量含む	抜取穴
2	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	V層粒・小ブロック、炭化物粒をわずかに含む	
3	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	V層小ブロックをわずかに、砂を少量含む	
4	黒褐色(10YR3/2)	砂質シルト	V層粒～ブロックを少量含む	

P2（D-D'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	V層粒をわずかに含む	抜取穴
2	褐灰色(10YR4/1)	シルト	V層粒を少量含む	
3	褐灰色(10YR4/1)	シルト	V層粒・小ブロックをやや多く含む	
4	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層粒・小ブロックを含む	柱痕跡
5	にぶい黄褐色(10YR4/3)	砂質シルト		掘方埋土
6	褐灰色(10YR4/1)	シルト	V層粒・小ブロックをやや多く含む	
7	褐灰色(10YR5/1)	砂質シルト	V層粒・小ブロックを多量に含む	

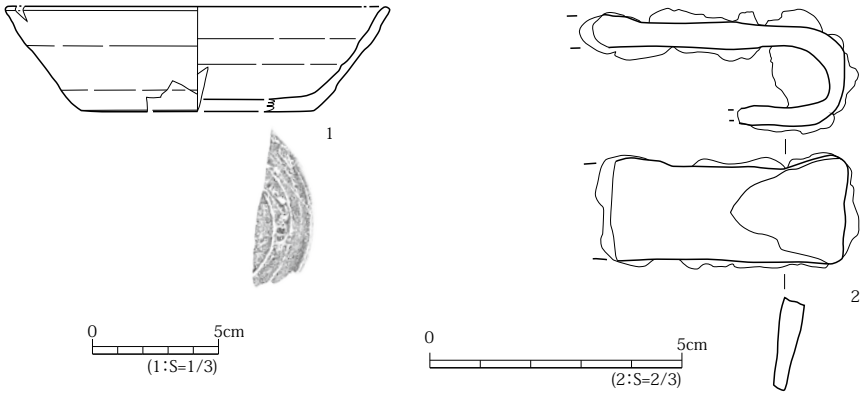
P3（E-E'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層粒・小ブロックを少量、炭化物粒をわずかに含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR2/3)	シルト	炭化物粒、焼土粒をわずかに、V層粒～ブロックを含む	掘方埋土

P4（F-F'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層小ブロックを少量含む	柱痕跡
2	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	V層小ブロックを含む	掘方埋土

第 90 図　I-10 区　SI339 竪穴建物跡



No.	種別・器種	層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	須恵器　坏	P1 掘方埋土	(口～体)1/4(底)1/6	口径(15.2cm)　底径(9.2cm)　器高(4.15cm)　外内：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り→ナデ	63-1	R831
2	鉄製品　刀子	掘方埋土	先端・茎部破損	長(4.7cm)　幅(2.0cm)　厚(0.6cm)	63-2	R832

第 91 図　I-10 区　SI339 竪穴建物跡　出土遺物

〔**方向**〕南辺でみると西で北に 33°偏る。

〔**壁**〕地山を壁とし、床面から垂直に立ち上がる。高さは、最も残りの良い北西辺北側で床面から 27cm である。

〔**床面**〕掘方埋土を床面としている。床面はほぼ平坦である。

〔**主柱穴**〕A 期（P1・2）と B 期（P3・4）で 2 個ずつ検出した。

A 期の掘方の規模は長軸 32 ～ 48cm、短軸 32 ～ 38cm 以上の楕円形、隅丸方形で、深さ 46 ～ 58cm である。P1・2 で柱抜取穴、P2 で柱痕跡を確認した。柱痕跡は径 10cm の円形である。

B 期の掘方の規模は長軸 38 ～ 42cm、短軸 38 ～ 40cm の隅丸長方形、隅丸方形で、深さ 16 ～ 18cm である。すべての柱穴で柱痕跡を確認した。柱痕跡は径 13 ～ 16cm の円形である。

〔**カマド**〕検出した範囲では確認できなかった。

〔**周溝**〕北西辺、南西辺、南東辺で検出した。規模は上幅 12 ～ 22cm、下幅 4 ～ 14cm、深さ 15 ～ 17cm である。堆積土は人為的埋土である。

〔**堆積土**〕3 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

〔**出土遺物**〕掘方埋土から土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏・甕、刀子（第 91 図 2）、P1 の掘方埋土から土師器坏・鉢・甕、須恵器坏（1）、柱痕跡、柱抜取穴から土師器甕、堆積土から土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏・甕が出土した。なお、出土した土師器はすべて非ロクロ調整である。

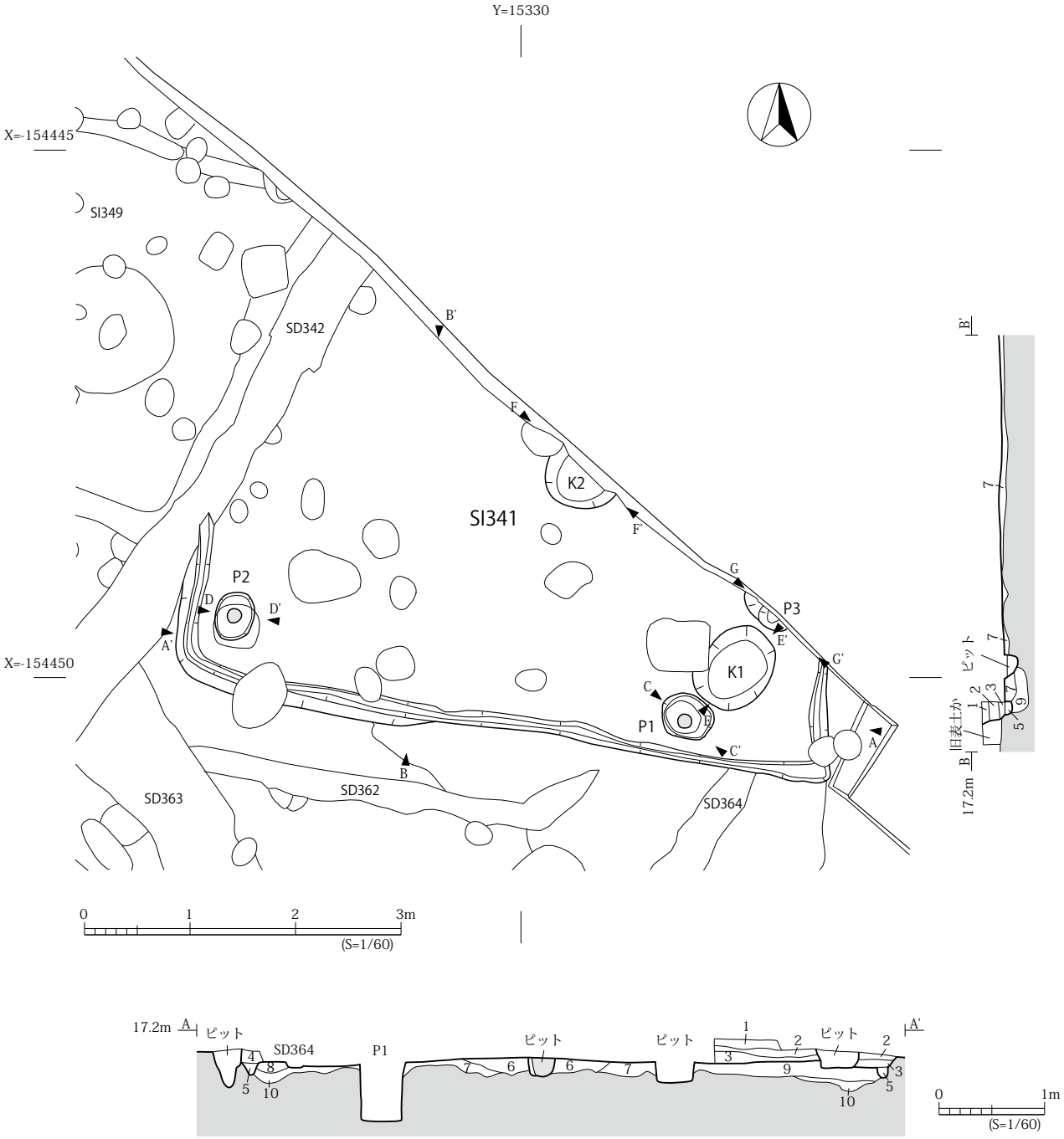
【SI341竪穴建物跡】（平面図：第 92 図、断面図：第 92・93 図、遺物：第 94 図）

〔**位置・検出**〕中央やや南東寄りに位置し、南側を検出した。

〔**重複**〕SI349 竪穴建物跡、SD342･359･364 溝跡と重複し、SD359 より新しく、それ以外より古い。

〔**平面形・規模**〕隅丸方形あるいは隅丸長方形とみられ、東西 6.2m、南北 4.3m 以上である。

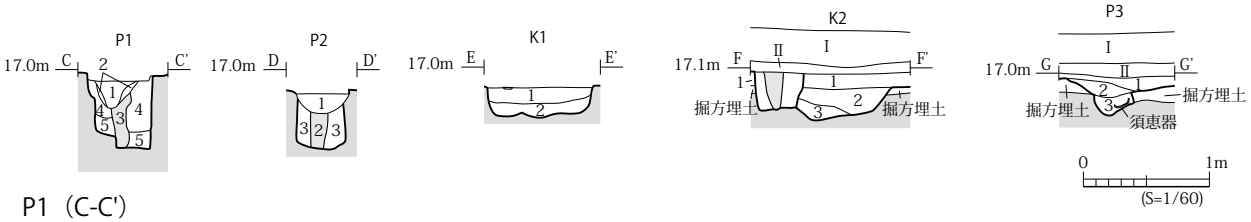
〔**方向**〕南辺でみると西で北に 10°偏る。



A-A',B-B'

層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	V層粒を含む	自然堆積
2	暗褐色(10YR3/3)	シルト	V層粒・小ブロックを含む	
3	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層粒・小ブロックをやや多く含む	
4	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層粒を含む	
5	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層粒・小ブロックを含む	
6	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層粒・小ブロック、にぶい黄褐色(10YR4/3)小ブロックを多量に含む	掘方埋土
7	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層粒を多量に含む	
8	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	V層小ブロックを多量に含む	
9	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層小ブロックを非常に多く含む	
10	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層小ブロックを多量に含む	

第 92 図　I-10 区　SI341 竪穴建物跡（1）



P1（C-C'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	炭化物、褐色(10YR4/4)シルト小ブロックを少量含む	抜取穴
2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	にぶい黄橙色(10YR7/2)粘土質シルト粒・小ブロックを含む	
3	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	黄褐色(2.5Y5/3)シルト小ブロック・ブロックを含む	柱痕跡
4	にぶい黄色(2.5Y6/3)	粘土質シルト	黒褐色(10YR3/2)小ブロックを含む	掘方埋土
5	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	Ⅴ層大ブロックを含む	

P2（D-D'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを含む	抜取穴
2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層小ブロックを少量含む	柱痕跡
3	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む	掘方埋土

K1（E-E'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層ブロックを非常に多く、焼土小ブロックを多量に含む	人為
2	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	Ⅴ層小ブロック、黒褐色(10YR3/1)シルト小ブロック、焼土小ブロック、炭化物片を多量に含む	

K2（F-F'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	Ⅴ層粒を少量含む（覆土）	自然堆積
2	黒褐色(10YR3/1)	シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む	人為
3	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む	

P3（G-G'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	暗褐色(10YR3/3)	シルト	Ⅴ層小ブロック、炭化物片、焼土小ブロックを含む（覆土）	自然堆積
2	黒褐色(10YR3/1)	シルト	Ⅴ層粒、焼土粒、炭化物粒を多量に含む（覆土）	
3	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	Ⅴ層粒多量に、焼土粒、炭化物粒を少量含む	

第 93 図　I-10 区　SI341 竪穴建物跡（2）

〔**壁**〕地山を壁とし、床面から外側に傾斜をもって立ち上がる。高さは、最も残りの良い南辺で床面から 22cm である。

〔**床面**〕掘方埋土を床面としている。床面はほぼ平坦である。

〔**主柱穴**〕2 個（P1・2）検出した。掘方は長軸 46 ～ 47cm、短軸 36 ～ 42cm の楕円形で、深さ 47 ～ 57cm である。すべての柱穴で柱抜取穴と柱痕跡を確認した。柱痕跡は径 13 ～ 15cm の円形である。

〔**カマド**〕検出した範囲では確認できなかった。

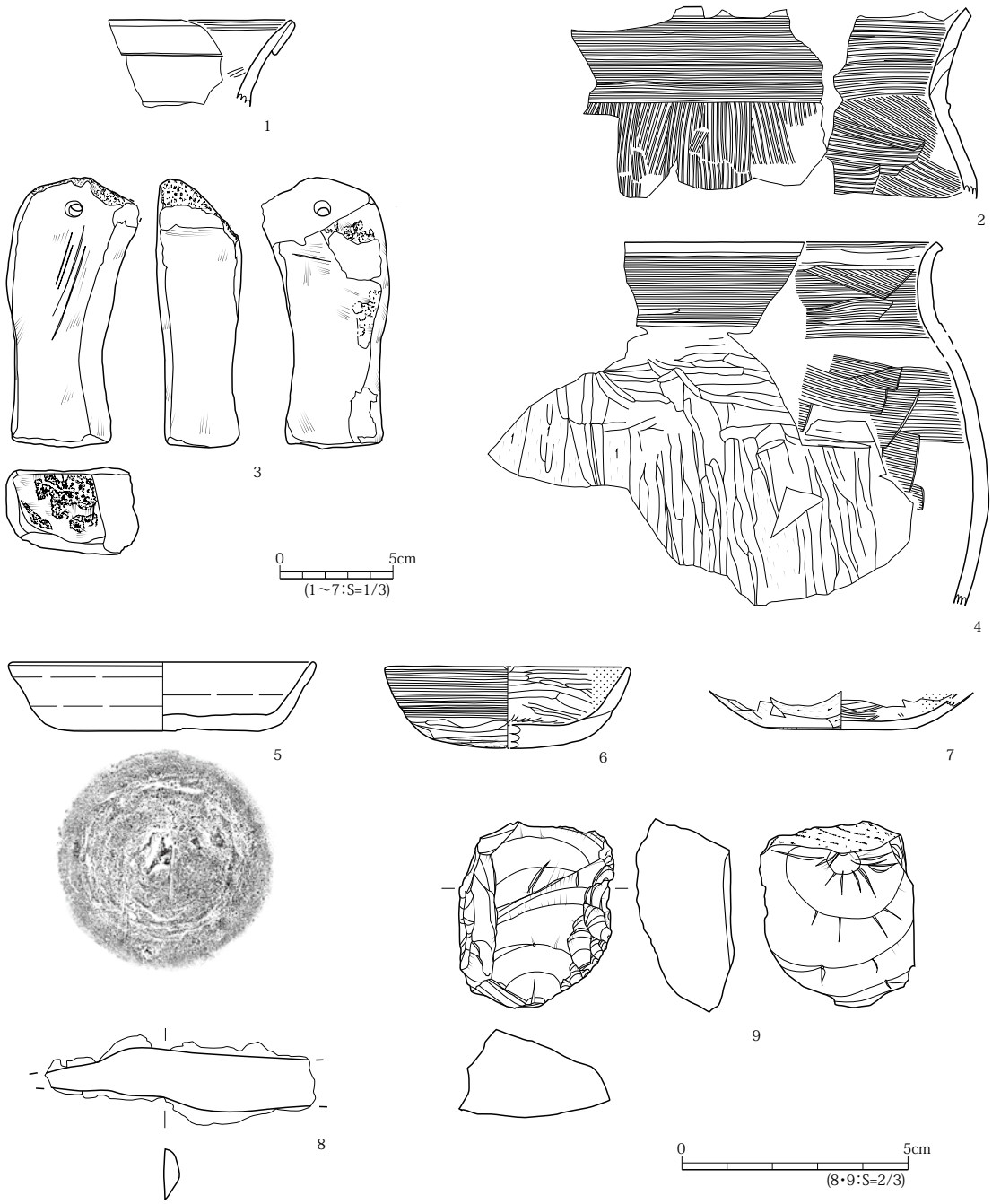
〔**周溝**〕南辺、東西辺の南側で検出した。規模は上幅 8 ～ 22cm、下幅 4 ～ 14cm、深さ 6 ～ 12cm である。堆積土は自然堆積である。

〔**その他**〕土坑 2 基（K1・2）、ピット 1 個（P3）を検出した。

K1 は南東隅に位置し、長軸 72cm、短軸 66cm の楕円形で、深さ 25cm である。断面は逆台形である。堆積土は 2 層に分かれ、どちらも人為的埋土である。K2 は中央付近に位置し、南半を検出した。北西―南東 75cm、北東―南西 40cm 以上で、深さは 26cm である。断面は逆台形である。堆積土は 2 層に分かれ、どちらも人為的埋土である。

P3 は南東部に位置し、南側一部の検出である。北西―南東 54cm、北東―南西 14cm 以上で、深さは 28cm である。断面は「U」字形である。堆積土は 1 層で、自然堆積である。

〔**堆積土**〕4 層に分かれ、いずれも自然堆積である。



No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	土師器　壺	掘方埋土	口縁部	外：不明　内：ナデ、ヘラミガキ　複合口縁	63-4	R833
2	土師器　甕	K1-1 層＋掘方埋土＋確認面	(口～胴)一部	外：(口)ナデ(胴)ハケメ→(頸)ヘラナデ 内：(胴)ハケメ→(口)ハケメ	63-7	R836
3	石製品　砥石	床	破損	凝灰岩製　長 12.0㎝　幅(5.8㎝)　厚 3.6㎝　重(275.58g)　砥面 5 面　孔径 7.0㎜	63-6	R834
4	土師器　甕	K1-1 層	(口～胴)一部	外：(口)ナデ→ヘラミガキ(胴)ヘラケズリ→ヘラミガキ 内：(口)ヘラナデ→ヘラミガキ(胴)ヘラナデ	63-5	R835
5	須恵器　坏	P3　堆	(口～体)3/4 (底)1/1	口径 13.5cm　底径 9.2cm　器高 3.05cm　外内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切り→ナデ　火襷痕あり　外面底部に棒状圧痕(2 ヶ所)あり	63-8	R838
6	土師器　坏	堆	(口～体)1/4 (底)1/2 弱	口径(10.8cm)　器高(3.6cm)　(口)ナデ→(頸)ヘラナデ(体)ヘラケズリ→ヘラミガキ(底)ヘラケズリ　内：ヘラミガキ→黒色処理　丸底	63-9	R840
7	土師器　坏	堆 2 層	(体～底)1/4	底径(6.6cm)　外：ロクロナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理 底：切り離し不明→(体下～底)手持ちヘラケズリ	63-10	R839
8	鉄製品　刀子	掘方埋土	先端・茎部破損	長(5.8㎝)　幅(1.25㎝)　厚(0.3㎝)	63-3	R841
9	石器　スクレイパー	確認面	完形	黒曜石製　長 4.1㎝　幅 3.4㎝　厚 2.0㎝　重 27.13g　湯の倉産ヵ	63-11	R857

第 94 図　I-10 区　SI341 竪穴建物跡　出土遺物

〔**出土遺物**〕掘方埋土から土師器壺（第 94 図 1）・甕（2）、須恵器坏・甕、鉄製の刀子（8）、床から砥石（3）、K1 埋土から土師器甕（4）、P3 堆積土から須恵器坏（5）、P1 の掘方埋土と柱痕跡から土師器甕、須恵器坏・甕、周溝堆積土から土師器坏・甕、堆積土から土師器坏（6・7）・甕、須恵器坏・甕、遺構確認面から黒曜石製スクレイパー（9）が出土した。なお、土師器は、堆積土から出土した坏（7）のみロクロ調整で、それ以外は非ロクロ調整である。

【SI349竪穴建物跡】（平面・断面図：第 95 図）

〔**位置・検出**〕南東に位置し、北東隅以外を検出した。壁は残存していない。

〔**重複**〕SI341 竪穴建物跡、SD342・351・361 溝跡と重複し、SI341 と SD361 より新しく、それ以外より古い。

〔**平面形・規模**〕隅丸長方形で、北西―南東 4.5m、北東―南西 3.8m である。

〔**方向**〕南辺でみると西で北に 21°偏る。

〔**床面**〕掘方埋土を床面にしたとみられる。

〔**主柱穴・カマド**〕確認できなかった。

〔**周溝**〕各辺で検出した。規模は上幅 14 ～ 48cm、下幅 4 ～ 11cm、深さ 12 ～ 22cm である。堆積土は人為的埋土である。北西隅と北辺の一部以外で壁材痕跡が検出され、ほぼ全周する。規模は上幅 4 ～ 12cm、深さ 6 ～ 14cm である。

〔**その他**〕土坑 2 基（K1・2）を検出した。K1 は中央に位置し、円形で、長軸 118cm、短軸 104cm、深さ 17cm である。断面は逆台形である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも人為的埋土である。K2 は北西辺中央に位置し、周溝よりも古い。楕円形で、長軸 96cm、短軸 66cm、深さ 19cm である。断面は逆台形である。堆積土は 3 層に分かれ、いずれも人為的埋土である。

〔**堆積土**〕1 層認められ、自然堆積である。

〔**出土遺物**〕掘方埋土から土師器甕、周溝埋土から土師器坏・甕、須恵器坏・甕、K1 埋土から土師器坏・甕、須恵器坏、K2 埋土から土師器甕、堆積土から土師器坏・甕、須恵器坏・甕が出土した。なお、出土した土師器はすべて非ロクロ調整である。

C. 柱列跡

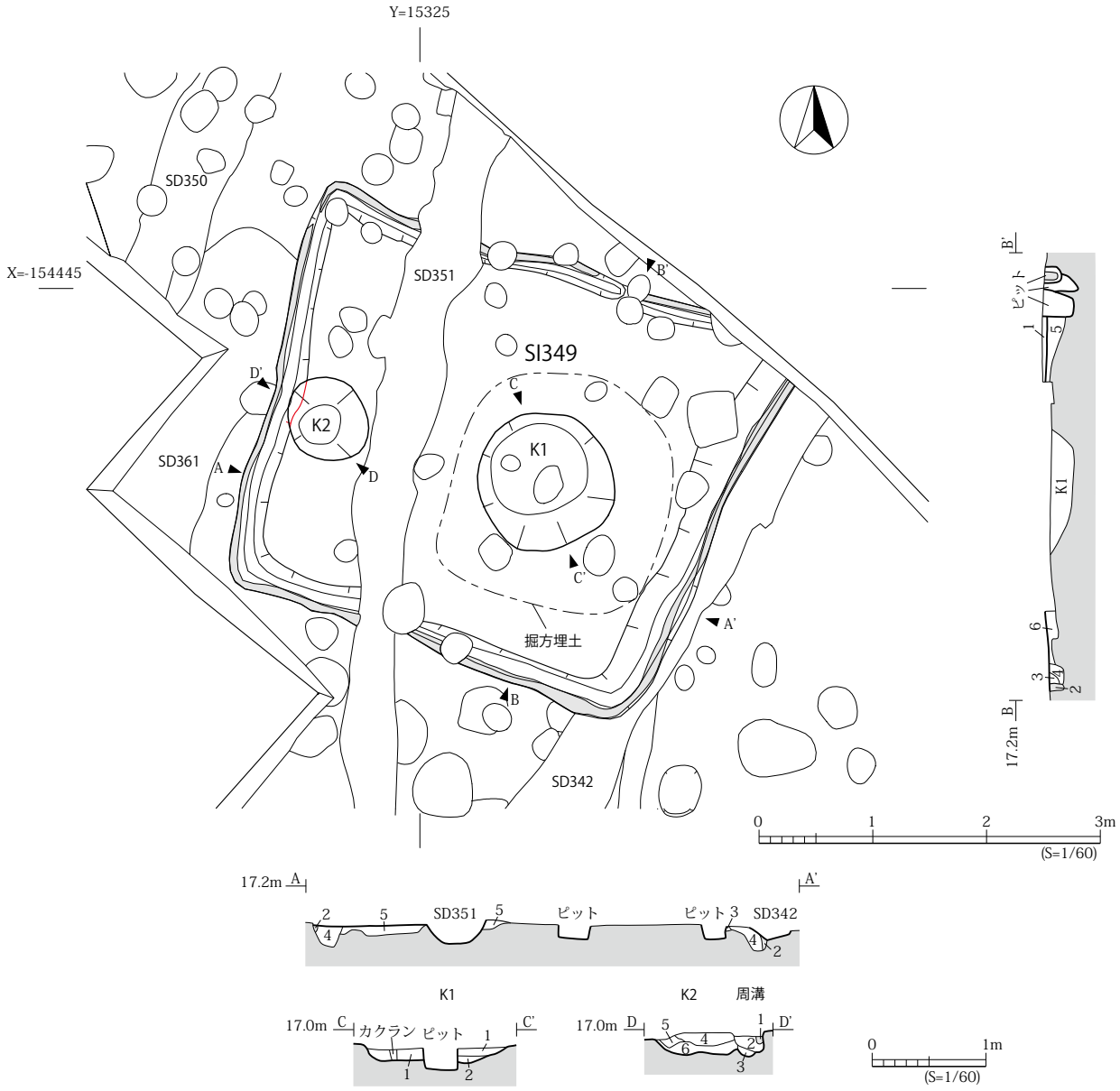
【SA347柱列跡】（平面図：第 87 図）

中央に位置し、北西―南東 2 間分を検出した。遺構確認のみの調査である。3 個すべての柱穴で柱痕跡を確認した。総長は 4.3m、柱間寸法は北から 2.4m、1.9m である。方向は西で北に 42°偏る。柱穴掘方は長軸 65 ～ 70cm、短軸 55 ～ 60cm の隅丸長方形、楕円形で、柱痕跡は長軸 15 ～ 20cm の円形、楕円形である。

D. 溝跡

【SD342溝跡】（平面図：第 89 図、断面図：第 95 図（A-A'、対応する部分は第 89 図 B-B'））

南東側に位置する。SI341・349 竪穴建物跡、SD363 溝跡と重複し、これらより新しい。北東―南西方向で、検出長は 6.2m、規模は上幅 0.28 ～ 0.66m、下幅 0.12 ～ 0.24m、深さ 0.37m である。断面は逆台形である。堆積土は自然堆積で、土師器甕、須恵器坏・高台坏・甕、平瓦が出土した。



A-A'、B-B'

層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	V層粒・小ブロックを少量含む	自然堆積
2	褐灰色(10YR4/1)	シルト	V層粒・小ブロックを少量含む	壁材痕跡
3	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	V層ブロックを含む	周溝埋土
4	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層ブロックを多量に、南辺で焼土小ブロック、褐灰色(10YR4/1)シルト小ブロックを含む	
5	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層粒・小ブロックを多量に、黒褐色(10YR3/2)シルトブロックを含む	掘方埋土
6	黒褐色(10YR3/2)	シルト	焼土小ブロックを多量に、V層粒・小ブロックを含む	

K1（C-C'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	V層小ブロック、黒褐色(10YR3/1)シルト小ブロックを多量に含む	人為
2	褐灰色(10YR4/1)	シルト	V層小ブロックを多量に含む	

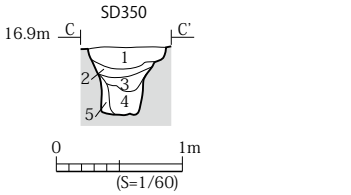
周溝・K2（D-D'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	褐灰色(10YR4/1)	シルト	V層粒・小ブロックを少量含む	壁材痕跡
2	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	V層ブロックを含む	周溝埋土
3	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層ブロックを多量に、南辺で焼土小ブロック、褐灰色(10YR4/1)シルト小ブロックを含む	
4	黒褐色(10YR3/2)	シルト	にぶい黄橙色(10YR6/3)粒を含む	人為
5	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	V層大ブロックを含む	
6	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層小ブロック、灰黄褐色(10YR4/2)シルトブロックを含む	

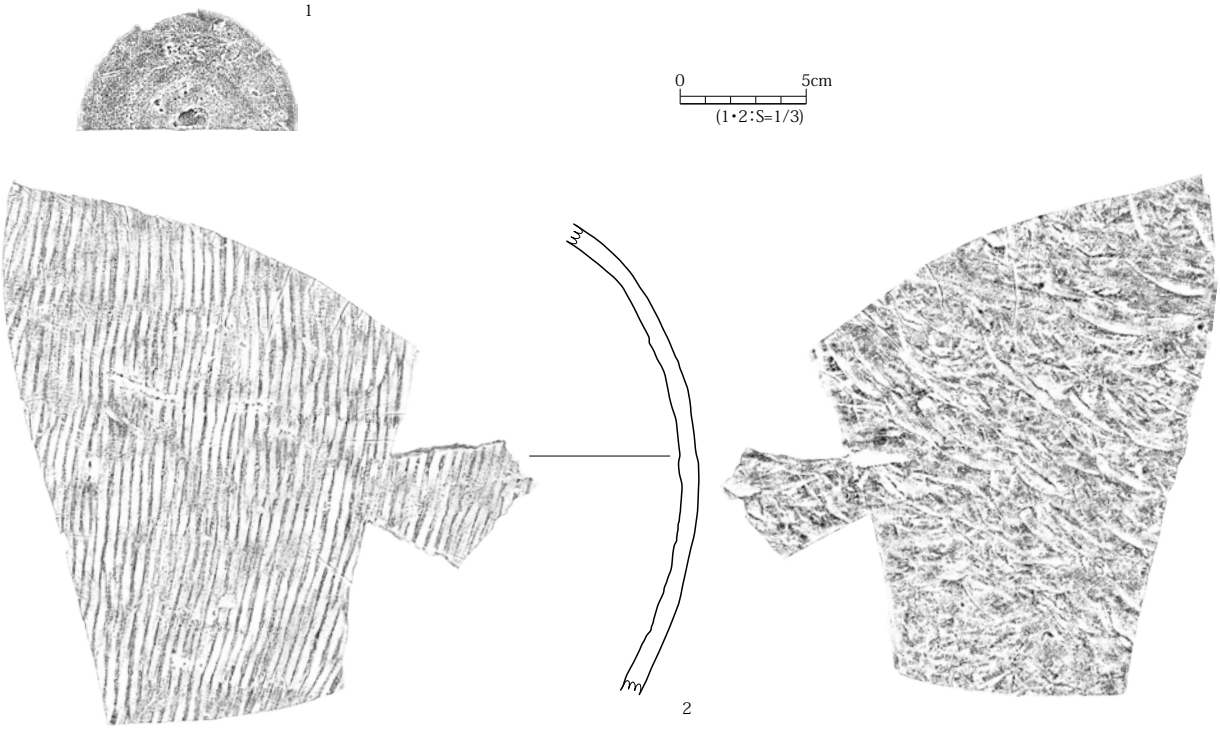
第 95 図　I-10 区　SI349 竪穴建物跡

【SD350溝跡】（平面図：第 89 図、断面図・遺物：第 96 図）

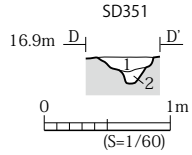
南東側に位置する。SB348 掘立柱建物跡、SD361 溝跡と重複し、SD361 より新しく SB348 より古い。北東―南西方向で、検出長 3.55m、規模は上幅 0.6 ～ 0.7m、下幅 0.1 ～ 0.25m、深さ 0.53m である。断面は箱形である。堆積土は 5 層に分かれ、自然堆積とみられるが、5 層については地山ブロックが多く含まれており、人為的埋土の可能性がある。堆積土から土師器坏・甕、須恵器坏（第 96 図 1）・甕（2）が出土した。



層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	炭化物、にぶい黄橙色(10YR6/3)砂質シルト小ブロック・ブロックを多量に、酸化鉄を少量含む	自然堆積
2	にぶい黄褐色(10YR4/3)	粘土質シルト	にぶい黄橙色(10YR7/2)シルト小ブロックを少量含む	
3	黒褐色(10YR2/3)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを斑に、黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト小ブロックを少量含む	
4	砂色(10YR5/4)	細砂	酸化鉄を少量含む	
5	黒褐色(10YR2/3)	粘土質シルト	Ⅴ層ブロック・大ブロックを多量に、灰黄褐色(10YR6/2)粘土ブロックを層下部に、酸化鉄を少量含む	



No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	須恵器　坏	SD350　堆	(口～体)1/4(底)1/2	口径(13.8cm)　底径 8.2cm　器高 3.9cm　外内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切り→ナデ　外面底部に棒状圧痕あり	63-12	R849
2	須恵器　甕	SD350 堆 ＋SD342 確認面	胴部	外：平行タタキ　内：無文の当て具→ナデ	63-13	R850



層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物を層上面、酸化鉄、Ⅴ層粒、焼土粒を少量含む	自然堆積
2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト粒・小ブロックを含む	

第 96 図　I-10 区　SD350・351 溝跡　断面・出土遺物

【SD351溝跡】（平面図：第 89 図、断面図：第 96 図）

南東側に位置する。SI349 竪穴建物跡と重複し、これより新しい。南北方向で、検出長は 6.85m、規模は上幅 0.35 ～ 0.7m、下幅 0.07 ～ 0.3m、深さ 0.21m である。断面は逆台形である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から土師器坏・甕、須恵器甕が出土した。

E. 井戸跡、土坑

【SE344井戸跡】（平面図：第 88 図、断面図・遺物：第 97 図）

南東端に位置する。平面は北東―南西方向に長軸を持つ楕円形で、規模は長軸 1.45m 以上、短軸 1.42m、深さ 1.52m である。断面は箱形である。堆積土は 6 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏・甕、土製の紡錘車（第 97 図 1）が出土した。

【SK343土坑】（平面図：第 89 図、断面図：第 97 図）

中央南寄りに位置する。SI339 竪穴建物跡と重複し、これより新しい。平面は北東―南西方向に長軸を持つ楕円形で、規模は長軸 0.7m 以上、短軸 0.65m、深さ 0.08m である。断面は皿状である。堆積土は 1 層で自然堆積である。堆積土から土師器坏・甕、須恵器坏・蓋・甕、鉄釘が出土した。

F. その他の出土遺物

上記の遺構以外に、SK376 土坑から須恵器坏（第 97 図 2）、表土直下で検出され、古代の旧表土の可能性がある基本層序Ⅱ層から、非ロクロ調整の土師器坏（3）、ロクロ調整の土師器高台坏（4）、平瓦（5）、排土から非ロクロ調整の土師器壺（6）が出土した。

③I-11区

溝跡 2 条（SD372・375）、河川跡 2 条（SD373・374）を検出した（第 86 ～ 88 図）。SD372 溝跡、SD373 河川跡のみ記述し、それ以外については第 19・24 表に特徴をまとめた。

A. 溝跡、河川跡

【SD372溝跡】（平面図：第 88 図、断面図・遺物：第 98 図）

南東隅に位置する。北西―南東方向で、検出長は 12.2m、規模は上幅 0.7 ～ 1.15m、下幅 0.45 ～ 0.7m、深さ 0.15m である。断面は逆台形である。堆積土は 3 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土からロクロ調整の土師器甕（第 98 図 2）、須恵器坏（1）・甕が出土した。

【SD373河川跡】（平面図：第 87 図、断面図・遺物：第 98 図）

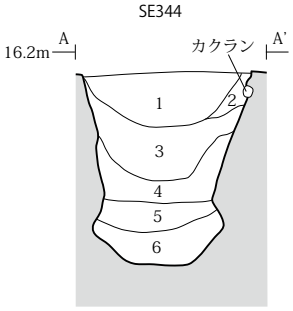
北西隅に位置する。北東―南西方向とみられ、検出長は 4.95m、規模は上幅 6.15m、深さ 0.62m である。堆積土からロクロ調整の土師器坏・高台坏・甕、須恵器坏（第 98 図 3）・高台坏・蓋（4）・甕、硯ヵ（5）、瓦、石製模造品（6）、鉄滓が出土した。

B. その他の出土遺物

上記の遺構以外に、カクランから非ロクロ調整の土師器坏（第 98 図 7）が出土した。

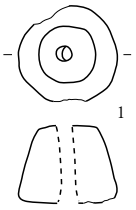
④I-12・17区

I-12 区では溝跡 1 条（SD331）、河川跡 5 条（SD330・332 ～ 334・477）（第 99 図）、I-17 区では竪穴状遺構 1 基（SX478）、河川跡 3 条（SD333・334・477）（第 99 図）を検出した。竪穴状遺構のみ記述し、それ以外については第 19・24 表に特徴をまとめた。



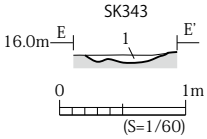
層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	炭化物片、Ⅴ層粒を少量含む	自然堆積
2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層粒多量に含む	
3	黒褐色(10YR3/1)	シルト	Ⅴ層小ブロック・ブロック、炭化物片を少量含む　黒色の有機物層と互層になる	
4	黒褐色(10YR3/1)	シルト	褐灰色(10YR4/1)シルトブロック、Ⅴ層ブロックを多量に含む	
5	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを少量含む	
6	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	Ⅴ層ブロックを非常に多く含む	

0　1m
(S=1/60)



0　5cm
(1:S=1/3)

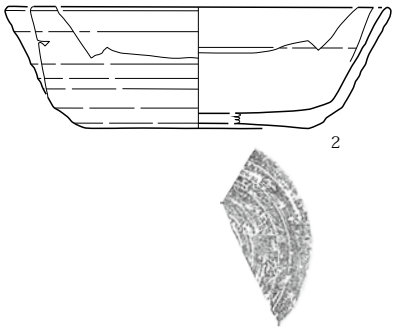
No.	器種	遺構・層	残存	法量(cm)			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径(高台径)	器高			
1	土製品　紡錘車	SE344　4層	ほぼ完形				長 3.8cm　幅 3.9cm　高 3.0cm 孔径 5.5㎜	64-1	R847



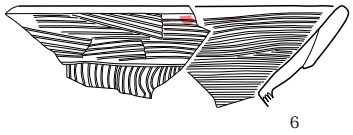
0　1m
(S=1/60)

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	黄褐色(10YR5/6)シルト小ブロック、炭化物を少量、 にぶい黄橙色(10YR6/3)シルト小ブロックを含む	自然堆積

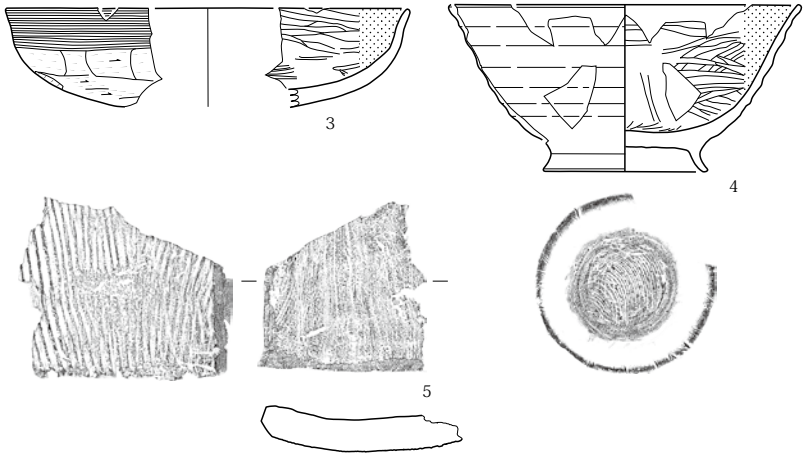
SK376



その他



基本層序Ⅱ層

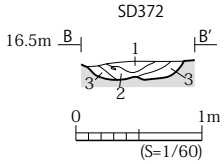


0　10cm
(5:S=1/5)

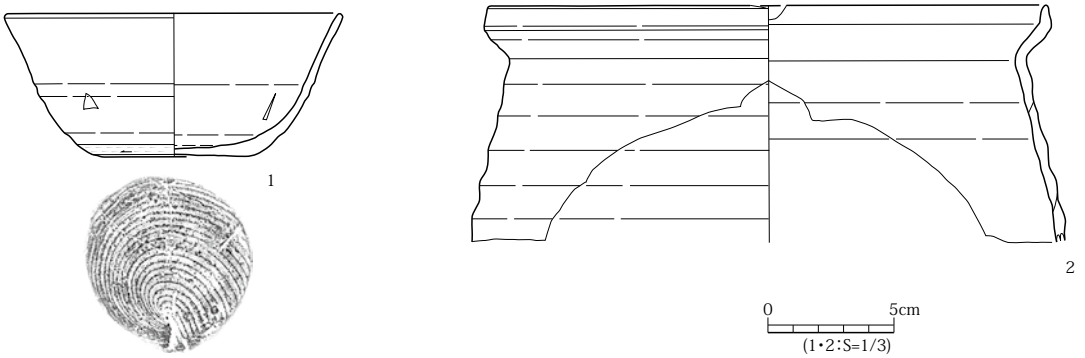
0　5cm
(2～4･6:S=1/3)

No.	器種	遺構・層	残存	法量(cm)			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径(高台径)	器高			
2	須恵器　坏	SK376　堆	(口～体)一部(底)1/4	(15.2)	(8.8)	(4.65)	外内：ロクロナデ　底：切り離し不明→回転ヘラケズリ	64-2	R846
3	土師器　坏	Ⅱ層	(口～体)1/5	(16.0)			外：(口)ナデ(体)ヘラケズリ　内：ヘラミガキ→黒色処理　丸底	64-4	R852
4	土師器　高台坏	Ⅰ層＋Ⅱ層	(口～体)一部 (高台)3/4 強	(13.9)	6.5	(6.6)	外：ロクロナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理 底：回転糸切り無調整→高台取り付け→ロクロナデ	64-5	R853
5	平瓦	Ⅱ層	破損				凸面：平行タタキ目　凹面：糸切痕→ナデ	64-6	R854
6	土師器　壺	排土	口縁部				外：ハケメ→赤彩　内：ナデ→ハケメ→赤彩　複合口縁	64-3	R858

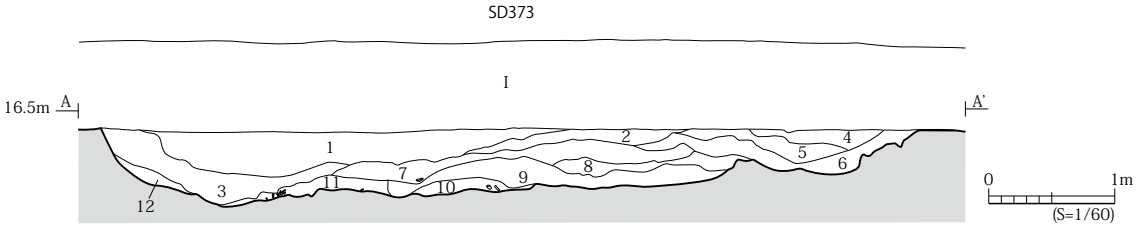
第 97 図　I-10 区　SE344 井戸跡　断面・出土遺物、SK343 土坑　断面、その他の出土遺物



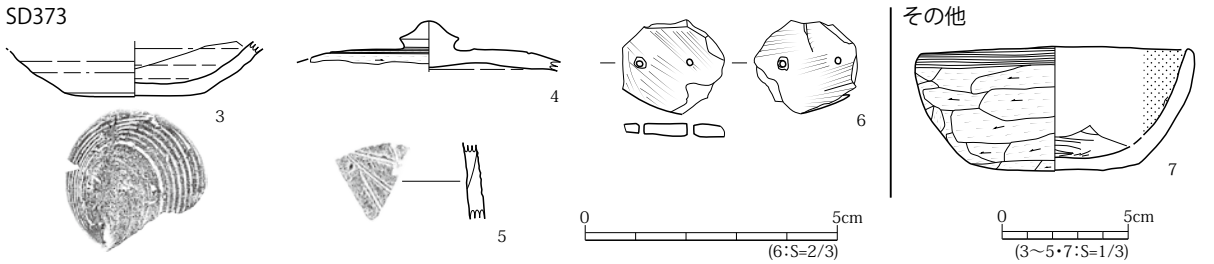
層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR2/2)	シルト	V層粒小ブロック、褐灰色(10YR4/1)シルト小ブロックをやや多く含む	自然堆積
2	褐灰色(10YR4/1)	シルト	V層小ブロックを含む	
3	褐灰色(10YR5/1)	砂質シルト	V層小ブロックを多量に含む	



No.	種別・器種	層	残存	法量(cm)			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径	器高			
1	須恵器　坏	2・3層	(口～体)1/3(底)1/1	(13.4)	6.4	5.65	外：ロクロナデ→(体下)回転ヘラケズリ 内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整	64-7	R859
2	土師器　甕	2・3層	(口～体)1/4	(22.2)			外内：ロクロナデ	64-8	R860

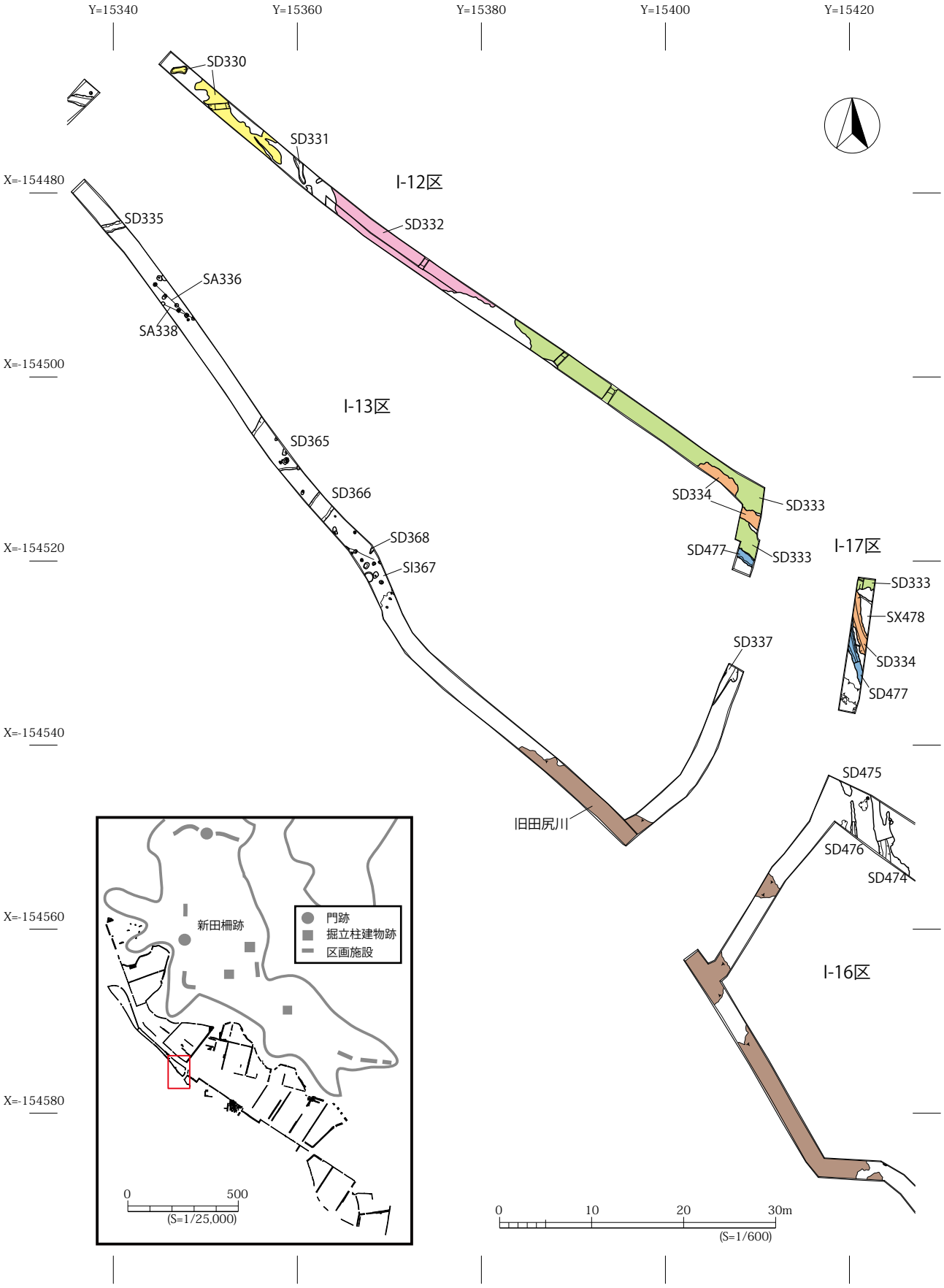


層	土色	土性	含有物など
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト質粘土	層下部に黒褐色(10YR3/1)粘土を層状に、酸化鉄を層下部に多量に、 灰黄褐色(10YR5/2)粘土質シルトを少量、黒褐色(10YR2/3)ブロック・大ブロックを含む
2	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	灰黄褐色(10YR4/2)シルトを層状に、 黒色(10YR1.7/1)粘土質シルトを層下部に層状に、V層ブロック・大ブロックを含む
3	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	灰黄褐色(10YR5/2)粘土質シルトブロック、酸化鉄少量、層下部にV層粒を含む
4	黒色(10YR2/1)	粘土質シルト	V層粒をわずかに、灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト小～大ブロックを含む
5	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	黒色(10YR2/1)粘土質シルトブロックを少量、V層小ブロック・ブロックを多量に含む
6	黒色(10YR2/1)	シルト質粘土	灰黄褐色(10YR5/2)粘土質シルトブロックを少量、黒褐色(10YR3/2)粘土質シルトブロック・大ブロックを含む
7	黄灰色(2.5Y4/1)	砂質シルト	黒褐色(10YR3/1)粘土小ブロック・ブロック、 褐灰色(10YR4/1)粘土質シルトブロックを少量、V層粒・小ブロックを多量に含む
8	灰黄褐色(10YR6/2)	シルト質粘土	褐灰色(10YR4/1)粘土質シルト粒を非常に多く、黒褐色(10YR3/1)粘土粒を多量に含む
9	黒色(10YR2/1)	粘土	黒褐色(10YR3/1)粘土質シルトブロック・大ブロックを含む
10	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	褐灰色(10YR4/1)粘土質シルト小ブロック、V層粒・小ブロックを多量に含む
11	黒色(10YR2/1)	粘土	黒褐色(7.5YR3/1)粘土小～大ブロック、にぶい黄橙色(10YR7/3)粘土小ブロックを層の東側に多量に含む
12	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	にぶい黄橙色(10YR7/3)粘土と互層になる　酸化鉄を多量に含む



No.	種別・器種	層	残存	特徴	写真図版	登録番号
3	須恵器　坏	堆	(体)一部(底)3/4	底径 5.5cm　外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整	64-9	R862
4	須恵器　蓋	堆	(体～つまみ)1/4	外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ取り付け→ロクロナデ 内：ロクロナデ　宝珠形つまみ	64-10	R864
5	須恵器　硯カ	堆	圏足部	外面に線刻あり	64-11	R865
6	石製模造品　有孔円板	堆	破損	粘板岩製　長(18.1㎜)　幅(20.0㎜)　厚 2.8㎜　重(1.22g)　孔径 1.0 ～ 1.2㎜	64-12	R867
7	土師器　坏	I-11区　カクラン	(口～体)1/2 (底)1/1	口径 11.0cm　底径 6.6cm　器高 4.9cm　外：(体～底)ヘラケズリ→(口)ナデ 内：ヘラミガキ→黒色処理	64-13	R870

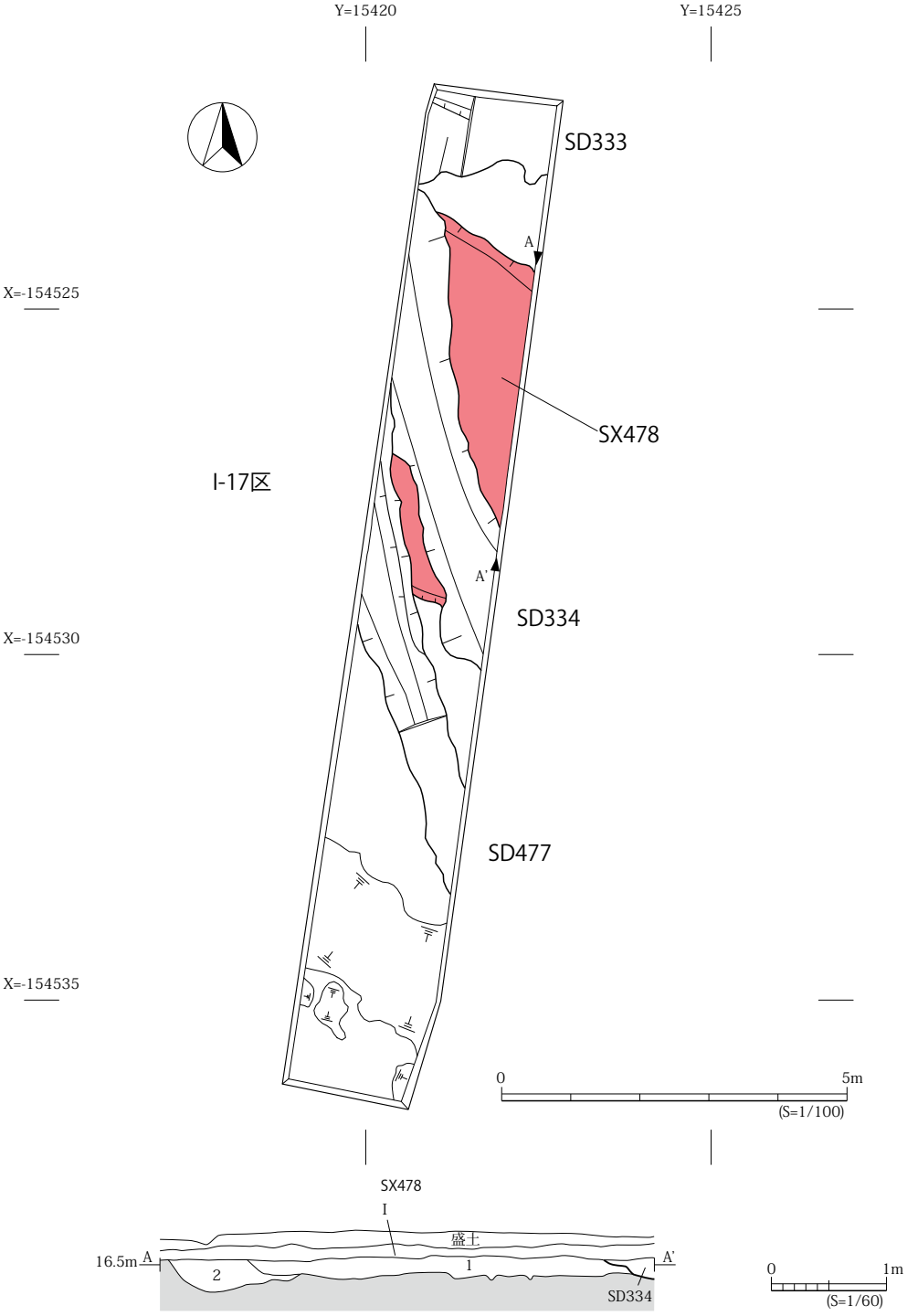
第 98 図　I-11 区　SD372 溝跡・SD373 河川跡　断面・出土遺物



第 99 図　I-12・13・17 区　遺構配置図

【SX478竪穴状遺構】（平面・断面図：第 100 図）

I-17 区で検出した。SD334・477 河川跡と重複し、これらより古い。竪穴建物跡の可能性があるが、一部のみの検出で、周溝や主柱穴等の床面施設が認められなかったことから竪穴状遺構とした。北東―南西 5.0m、北西―南東 3.0m 以上である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも人為的埋土である。埋土から土師器甕が出土した。



層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/1)	シルト	炭化物粒をわずかに、地山粒～ブロックを含む	人為
2	褐灰色(10YR5/1)	粘土質シルト	炭化物粒をわずかに含む	

第 100 図　I-17 区　SX478 竪穴状遺構

⑤I-13区

竪穴建物跡1棟（SI367）、柱列跡2条（SA336・338）、溝跡3条（SD335・366・368）、自然流路跡2条（SD337・365）を検出した（第99図）。SA336・338については、掘立柱建物跡の可能性もあるが、調査区の関係から特定することができず、柱列跡として登録した。竪穴建物跡と柱列跡、SD366溝跡、SD365自然流路跡を記述し、それ以外については第19・24表に特徴をまとめた。

A. 竪穴建物跡

【SI367竪穴建物跡】（平面・断面図：第101図）

〔位置・検出〕中央に位置し、北側の一部を検出した。後世の削平により残存状態が悪く、表土直下で掘方埋土と一部の床面施設を確認した。

〔平面形・規模〕形状は不明である。北西―南東6.8m以上、北東―南西4.4m以上である。

〔方向〕北辺でみると西で北に25°偏る。

〔壁・床面〕残存しておらず不明である。

〔主柱穴・カマド〕検出した範囲では確認できなかった。

〔周溝〕北辺の一部で検出した。規模は上幅35cm、下幅25cm、深さ18cmである。堆積土は人為的埋土である。

〔その他〕土坑2基（K1・2）を検出した。K1は楕円形で、長軸110cm以上、短軸90cm以上、深さ36cmである。断面は逆台形である。堆積土は3層に分かれ、いずれも人為的埋土である。K2も楕円形で、長軸70cm、短軸50cm、深さ24cmである。断面は浅い「V」字形である。堆積土は2層に分かれ、いずれも人為的埋土である。

〔堆積土〕なし。

〔出土遺物〕掘方埋土から土師器坏・甕、須恵器坏・甕、K1埋土から土師器甕、須恵器坏、K2埋土から土師器甕が出土した。土師器はすべて非ロクロ調整である。

B. 柱列跡

【SA336柱列跡】（平面・断面図：第102図）

北西部に位置し、北西―南東3間分を検出した。4個すべての柱穴で柱痕跡を確認した。総長は4.9m、柱間寸法は北から1.7m、1.5m、1.7mである。方向は西で北に44°偏る。柱穴掘方は長軸33～43cm、短軸32～40cmの円形、楕円形、隅丸方形で、柱痕跡は長軸10～14cmの円形、楕円形である。

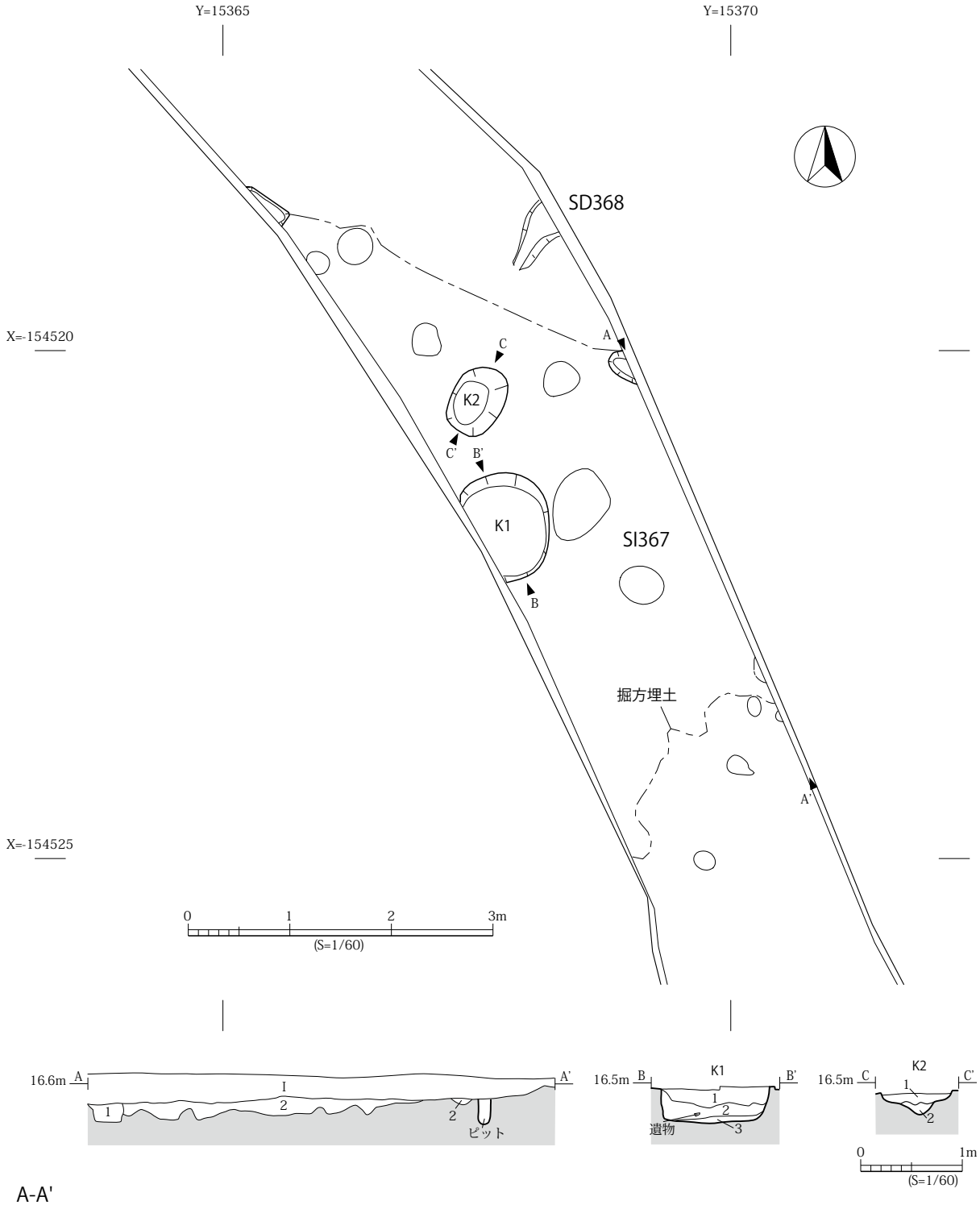
【SA338柱列跡】（平面・断面図：第102図）

北西部に位置し、北西―南東2間分を検出した。2個の柱穴で柱痕跡を確認した。総長は3.7m、柱間寸法は1.85m等間である。方向は西で北に25°偏る。柱穴掘方は長軸35～38cm、短軸35cmの隅丸方形で、柱痕跡は長軸15cmの楕円形である。

C. 溝跡、自然流路跡

【SD366溝跡】（平面・断面図：第103図、遺物：第104図）

中央に位置する。北東―南西方向で、検出長は1.8m、規模は上幅2.35～2.4m、下幅1.85～1.95m、深さ0.4mである。断面は逆台形である。堆積土は7層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から



A-A'

層	土色	土性	含有物など	備考
1	褐灰色(10YR4/1)	シルト	V層粒～ブロックを含む	周溝埋土
2	褐灰色(10YR5/1)	砂質シルト	V層粒～ブロック、炭化物粒・小片を少量含む	掘方埋土

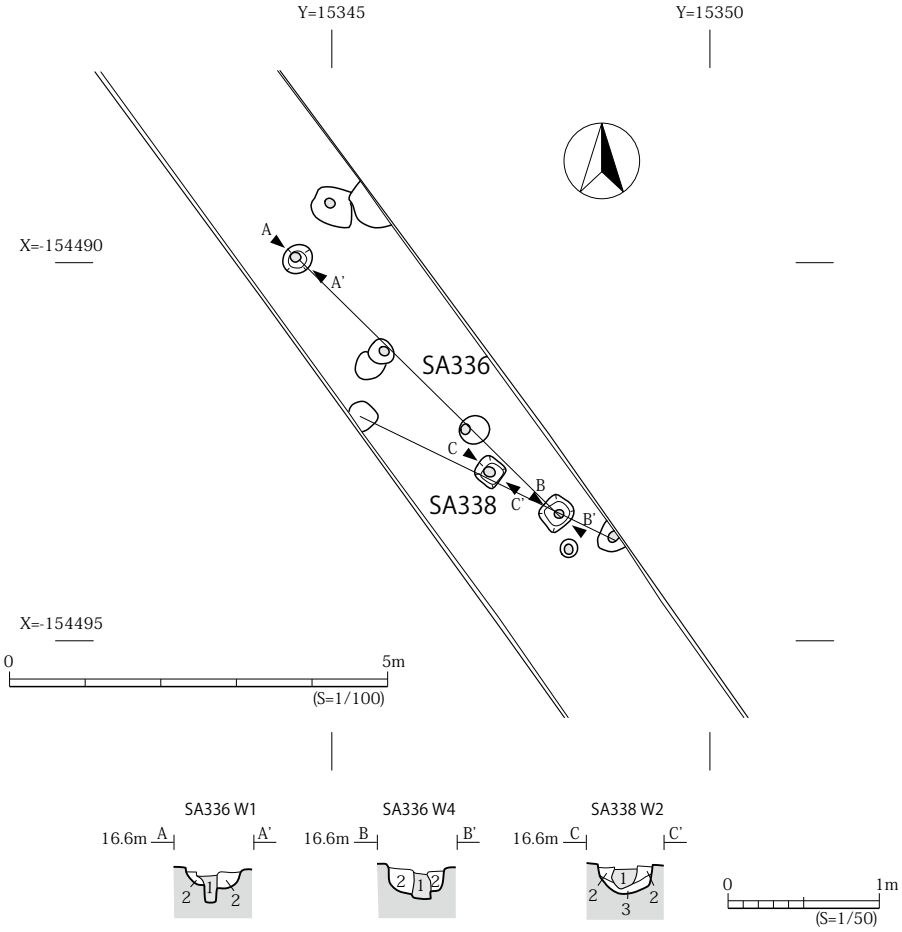
K1（B-B'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒を少量、焼土粒をわずかに、V層粒・小ブロックを含む	人為
2	褐灰色(10YR4/1)	シルト	炭化物粒・小片をわずかに、V層粒・小ブロックを含む	
3	褐灰色(10YR6/1)	シルト質砂	V層粒・小ブロックをやや多く含む	

K2（C-C'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	褐灰色(10YR4/1)	シルト	V層粒・小ブロックを少量、炭化物粒をわずかに含む	人為
2	褐灰色(10YR5/1)	シルト	V層小ブロック・ブロック、炭化物片を含む	

第 101 図　I-13 区　SI367 竪穴建物跡



SA336（A-A'、B-B'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	焼土粒、炭化物を少量、V層小ブロックを含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	焼土粒を少量、V層大ブロックを含む	掘方埋土

SA338（C-C'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	焼土粒を少量、V層大ブロックを多量に、炭化物ブロックを含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	V層大ブロック、炭化物ブロックを含む	掘方埋土
3	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	V層ブロックを多量に含む	

第 102 図　I-13 区　SA336・338 柱列跡

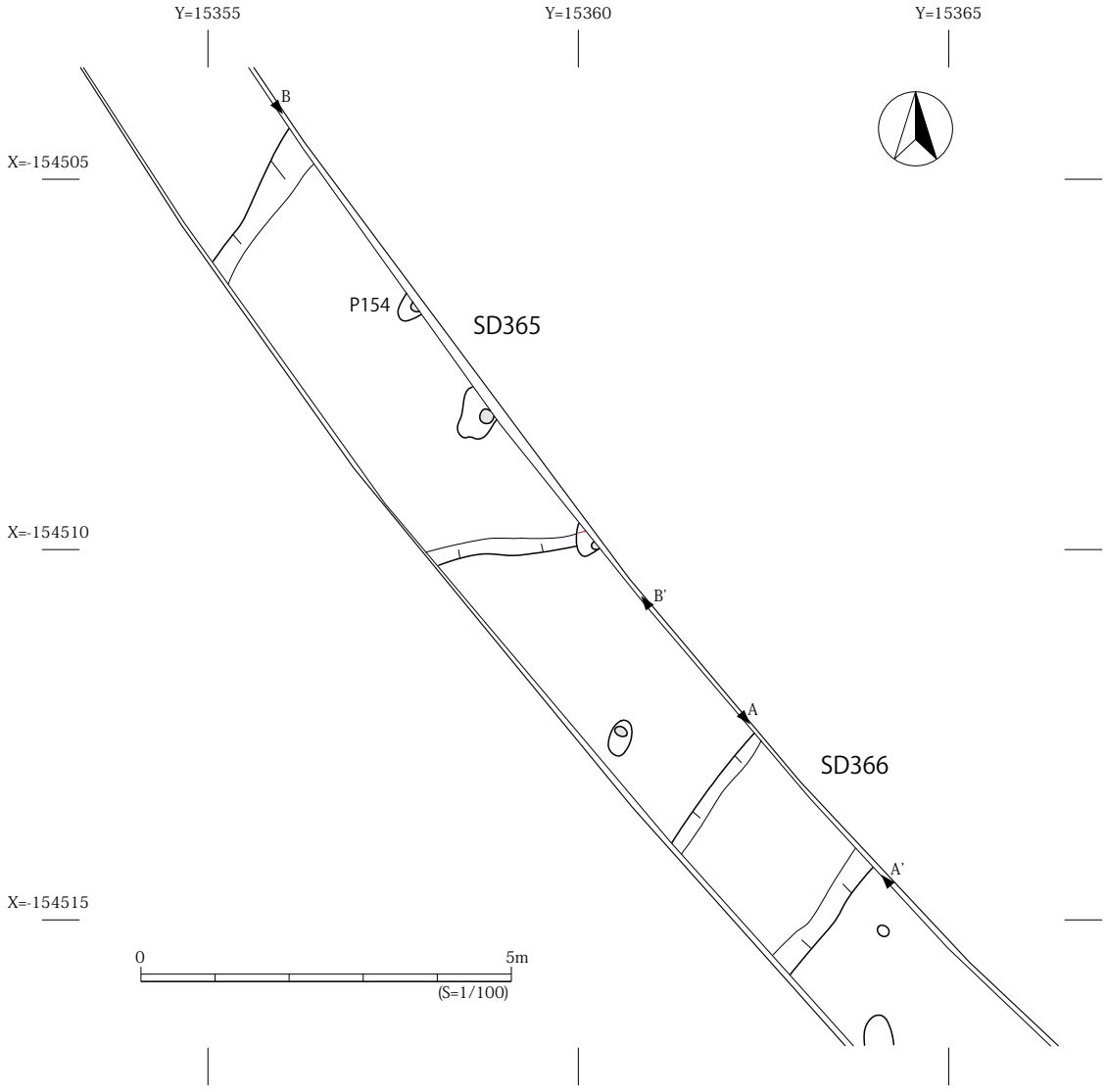
非ロクロ調整の土師器坏（第 104 図 1 ～ 3）・埦（4）・甕、須恵器坏（5 ～ 7）・稜埦（8）・蓋・甕、平瓦が出土した。

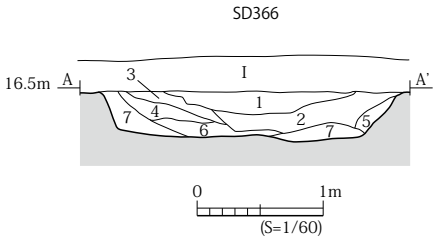
【SD365自然流路跡】（平面・断面図：第 103 図、遺物：第 104 図）

中央に位置する。北東―南西方向で、検出長は 1.9m、規模は上幅 5.1 ～ 6.7m、深さ 0.35m である。堆積土から非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏（第 104 図 9・10）・高台坏（11）・蓋・甕、丸瓦、土製の紡錘車（12）、砥石（13）が出土した。

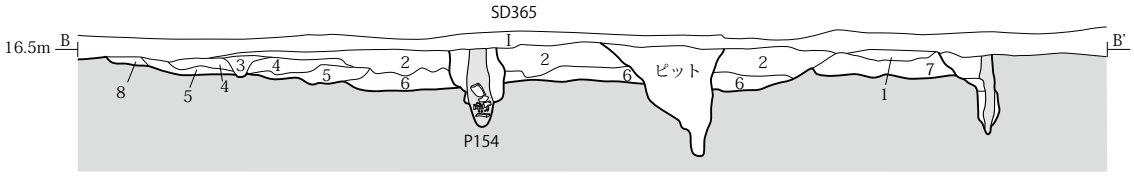
D. その他の出土遺物

上記の遺構以外に、SD337 自然流路跡から非ロクロ調整で複合口縁の土師器壺（図版 65-6）、P154 柱痕跡から凸面に平行タタキ目、凹面にナデが施された平瓦（図版 65-7）が出土した。





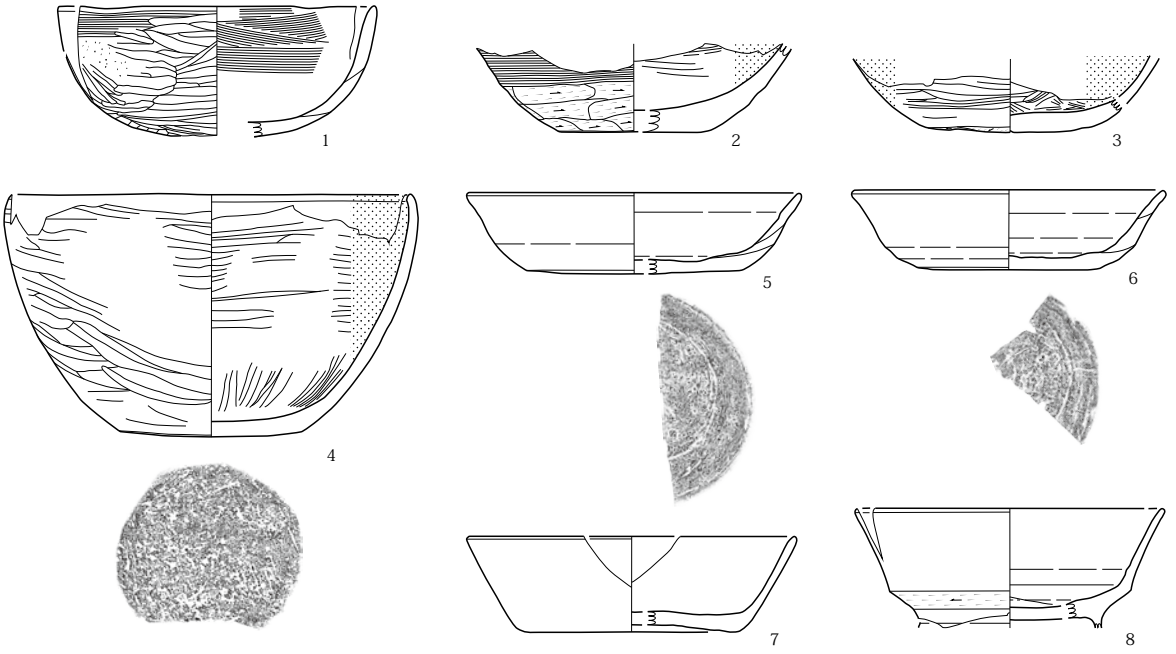
層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	砂質シルト	V層粒・小ブロックを少量、炭化物粒・小片を含む	自然堆積
2	灰黄褐色(10YR4/2)	砂質シルト	炭化物粒・小片、V層粒・小ブロックを少量含む	
3	にぶい黄褐色(10YR4/3)	砂質シルト	炭化物粒をわずかに、V層を少量含む	
4	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト質砂	V層小ブロックをやや多く含む	
5	灰黄褐色(10YR6/2)	シルト質砂	V層小ブロックをやや多く含む	
6	褐灰色(10YR4/1)	シルト質砂	V層、黒褐色(10YR3/1)シルト小ブロックを少量含む	
7	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層小ブロックを少量含む	



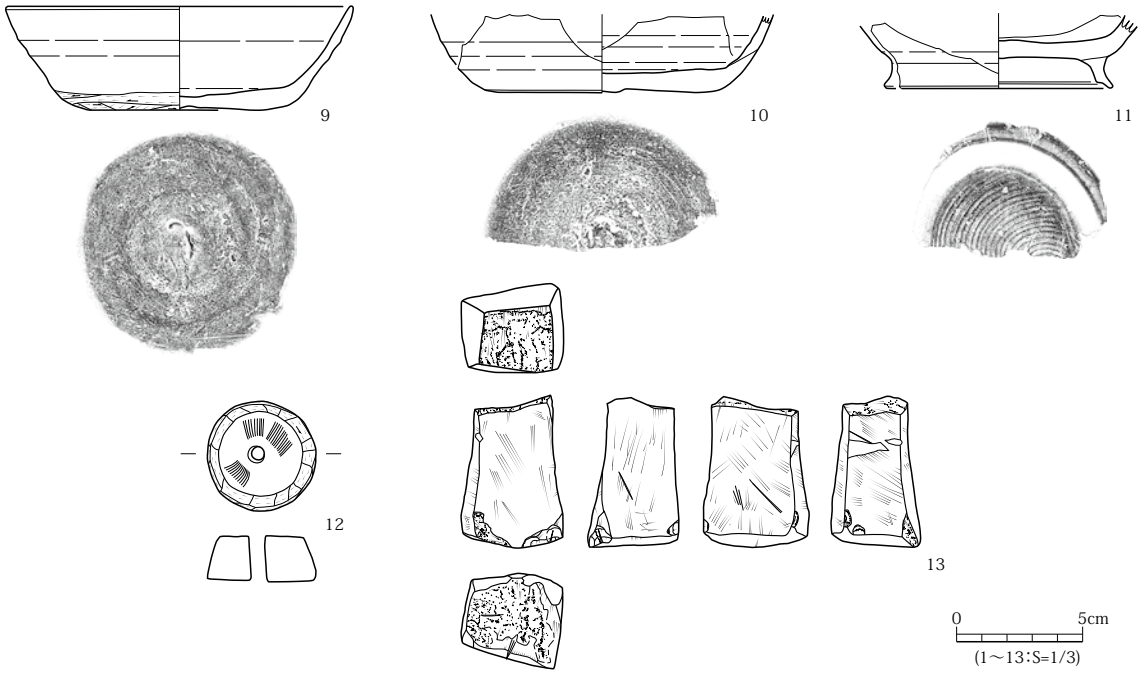
層	土色	土性	含有物など
1	暗褐色(10YR3/3)	シルト質砂	V層小ブロックを含む
2	黒褐色(10YR3/2)	シルト質砂	V層小ブロック、酸化鉄、炭化物をやや多く含む
3	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト質砂	V層粒・小ブロック、暗褐色(10YR3/3)砂をブロック状に含む
4	暗褐色(10YR3/3)	砂	灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルトブロックを含む
5	暗褐色(10YR3/4)	砂	
6	暗褐色(10YR3/3)	砂	黒褐色(10YR3/1)砂質シルト小ブロックを少量、酸化鉄を含む
7	にぶい黄褐色(10YR4/3)	砂質シルト	炭化物、酸化鉄、V層小ブロックを含む
8	灰黄褐色(10YR5/2)	砂	細砂を多量に含む

第 103 図　I-13 区　SD366 溝跡、SD365 自然流路跡

SD366



SD365



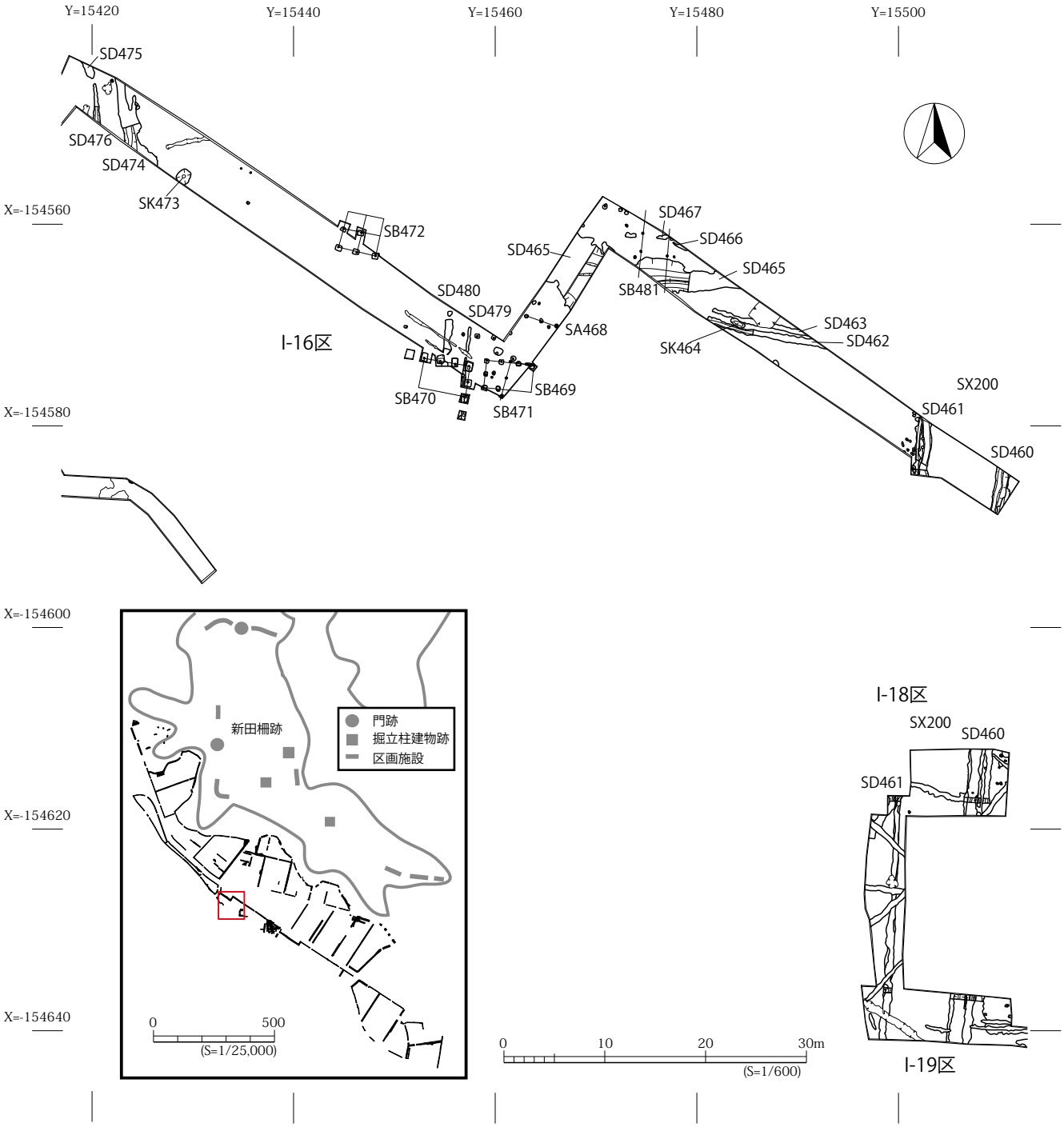
(1～13:S=1/3)

No.	種別・器種	遺構・層	残存	法量(cm)			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径(高台径)	器高			
1	土師器　坏	SD366　1層	(口～体)1/5	(12.6)			外：(口)ナデ(体)ヘラケズリ→(口～体)ヘラミガキ　内：ナデ	64-17	R886
2	土師器　坏	SD366　2～7層	(体～底)1/3		(6.0)		外：ヘラケズリ→ナデ 内：ヘラミガキ→黒色処理　底：ヘラケズリ→ナデ	64-14	R887
3	土師器　坏	SD366　1層	(体)一部(底)1/1		6.3		外内：ヘラミガキ→黒色処理　底：ヘラケズリ	64-15	R885
4	土師器　埦	SD366　堆	(口)一部 (体)1/4　(底)3/4	(15.7)	7.2	9.6	外：ヘラケズリ→ヘラミガキ 内：ヘラミガキ→黒色処理　底：ヘラケズリ　平底	64-16	R888
5	須恵器　坏	SD366　1層	(口～底)1/2弱	(13.2)	(8.4)	3.2	外内：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り→ナデ	64-19	R881
6	須恵器　坏	SD366　1層	(口～底)1/4	(12.4)	(7.2)	(3.15)	外内：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り→ナデ	64-20	R882
7	須恵器　坏	SD366　1層	(口～体)1/5(底)1/2弱	(13.0)	(8.4)	(3.8)	外内：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り→ナデ　火襷痕あり ロクロ目摩滅	64-21	R883
8	須恵器　稜埦	SD366　1層	(口～体)1/4 (底～高台)一部	(12.2)			外：ロクロナデ→(体下)回転ヘラケズリ　内：ロクロナデ	64-18	R884
9	須恵器　坏	SD365　堆	(口～体)1/4 (底)1/1	(14.4)	8.5	4.1	外内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切り→ナデ→(体下～底外周)手持ちヘラケズリ　火襷痕あり	65-1	R876
10	須恵器　坏	SD365　堆	(体)一部(底)1/2		(9.2)		外内：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り→ナデ	65-2	R875
11	須恵器　高台坏	SD365　堆	(体)一部(高台)1/6		(9.0)		外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整→高台取り付け→ロクロナデ	65-3	R877
12	土製品　紡錘車	SD365　堆	完形				長 4.2cm　幅 4.2cm　厚 1.8cm　孔径 6.0mm　表裏面はナデ、 側面はヘラケズリ	65-4	R878
13	石製品　砥石	SD365　堆	完形				凝灰岩製　長 6.0cm　幅 4.1cm　厚 3.6cm　重 106.47g　砥面 6 面 上下端は破損後も砥面として利用	65-5	R879

第 104 図　I-13 区　SD366 溝跡・SD365 自然流路跡　出土遺物

⑥I-16・18・19区

I-16 区では道路跡 1 条(SX200)、掘立柱建物跡 5 棟(SB469～472・481)、柱列跡 1 条(SA468)、溝跡 8 条(SD462・463・466・467・475・476・479・480)、土坑 2 基(SK464・473)、河川跡・自然流路跡 2 条(SD465・474)(第 105 図)、I-18・19 区では道路跡 1 条(SX200)、溝跡 15 条(SD482～489・503～509)、自然流路跡 1 条(SD490)(第 105 図)を検出した。SA468 については、掘立柱建物跡の可能性もあるが、調査区の関係から特定することができず、柱列跡として登録した。ここでは、道路跡と掘立柱建物跡、柱列跡、SK473 土坑のみ記述し、それ以外については第 19・21・24 表に特徴をまとめた。



第 105 図　I-16 区　遺構配置図

A. 道路跡

【SX200南北道路跡】（平面・断面図：第 106 ～ 109 図、遺物：第 110 図）

I-16・18・19 区で検出した南北方向の道路跡である。北側の H-25 区から続く一連のものである。東側と西側に素掘りの道路側溝（SD460・461）を伴い、それぞれ同位置で 1 度改修されている（SD460A→460B、SD461A→461B）。SD460 は H-25 区の SD82、SD461 は H-25 区の SD76 の AB 期に対応すると推定される。SD460 は、I-18・19 区で SD482・487・508・509 溝跡と重複し、SD482 より新しく、SD487・508・509 より古い。SD461 は、I-18・19 区で SD485・503 ～ 506 溝跡と重複し、これらより古い。

路面は削平されており残存していない。また、道路造成時の基礎地業などの痕跡も認められなかった。方向は、北で東に 4°偏る。南北端とも調査区外へ延び、側溝底面の標高は北から南に向かって僅かではあるが低くなる。

SX200A

検出長は未調査部分を含めて 57.8m、規模は I-16 区の側溝心々で 8.9 ～ 9.0m である（第 107 図）。路面幅は不明である。

〔**東側溝**〕SD460A は、検出長が I-16 区で 4.4m（第 107 図）、I-18 区で 6.6m（第 108 図）、I-19 区で 4.8m（第 109 図）、調査区間を含めると 57.0m である。規模は、残存している範囲では上幅 0.3 ～ 0.5m 以上、下幅 0.25 ～ 0.32m、深さ 0.14 ～ 0.3m である。断面は逆台形である。堆積土は、I-16 区で 1 層、I-18 区で 2 層、I-19 で 3 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から須恵器甕が出土した。

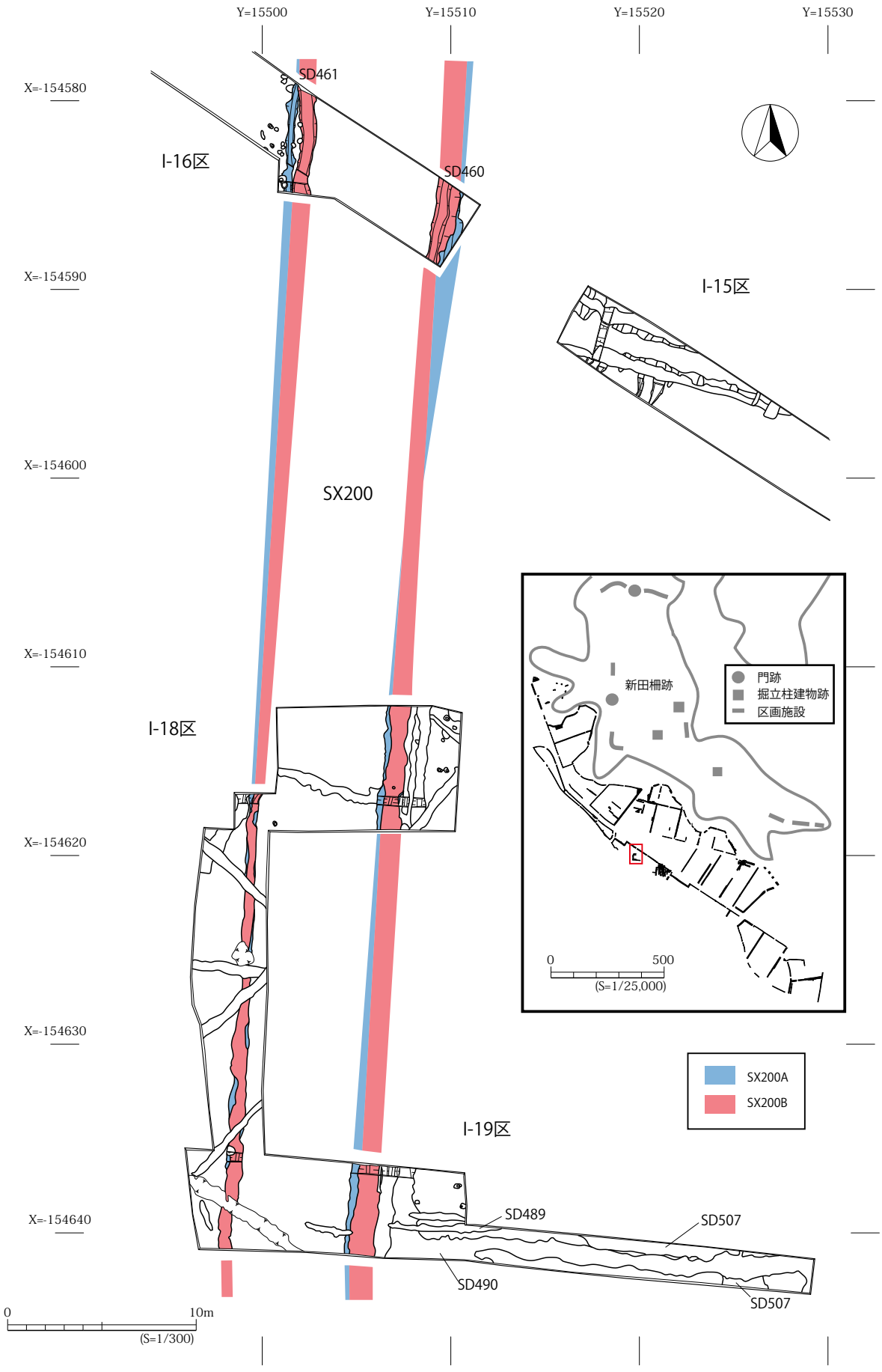
〔**西側溝**〕SD461A は、検出長が I-16 区で 5.8m（第 107 図）、I-18・19 区で部分的ではあるが 20.0m（第 108・109 図）、調査区間を含めると 57.8m である。規模は、残存している範囲では上幅 0.3 ～ 0.65m、下幅 0.15 ～ 0.25m、深さ 0.1 ～ 0.17m である。断面は逆台形とみられる。堆積土は、I-16・19 区で 2 層、I-18 区で 1 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から土師器甕、須恵器甕が出土した。

SX200B

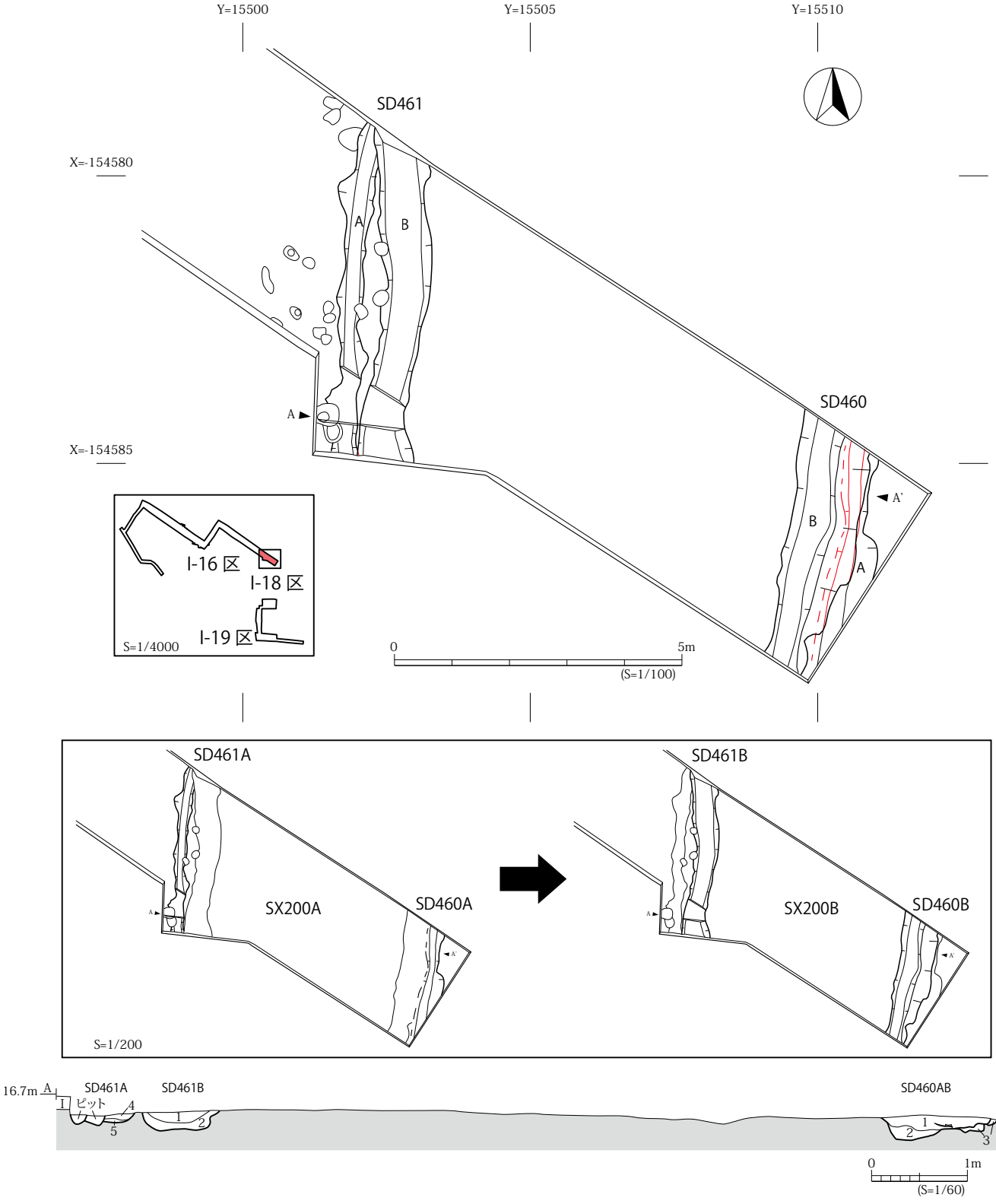
検出長は未調査部分を含めて 62.0m、規模は I-16 区の側溝心々で 7.7 ～ 7.9m（第 107 図）、I-18 区で 7.2m（第 108 図）、I-19 区で 7.0 ～ 7.2m（第 109 図）である。路面幅は I-16 区で 6.4 ～ 6.9m、I-18 区で 6.3 ～ 6.8m、I-19 区で 6.0 ～ 6.5m である。

〔**東側溝**〕SD460B は、検出長が I-16 区で 4.9m（第 107 図）、I-18 区で 6.6m（第 108 図）、I-19 区で 4.8 m（第 109 図）、調査区間を含めると 57.5m である。規模は上幅 0.55 ～ 1.4m、下幅 0.15 ～ 0.5m、深さ 0.26 ～ 0.3m である。断面は逆台形で、I-16・19 区では東側にテラス状の段がつく。堆積土は I-16 区で 2 層、I-18・19 区で 3 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から非ロクロ調整の土師器坏・甕（第 110 図 2）、須恵器坏・甕が出土した。

〔**西側溝**〕SD461B は、検出長が I-16 区で 5.8m（第 107 図）、I-18・19 区で 24.2m（第 108・109 図）、調査区間を含めると 62.0m である。規模は、残存している範囲では上幅 0.35 ～ 1.0m、下幅 0.14 ～ 0.7m、深さ 0.2m である。断面は逆台形である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

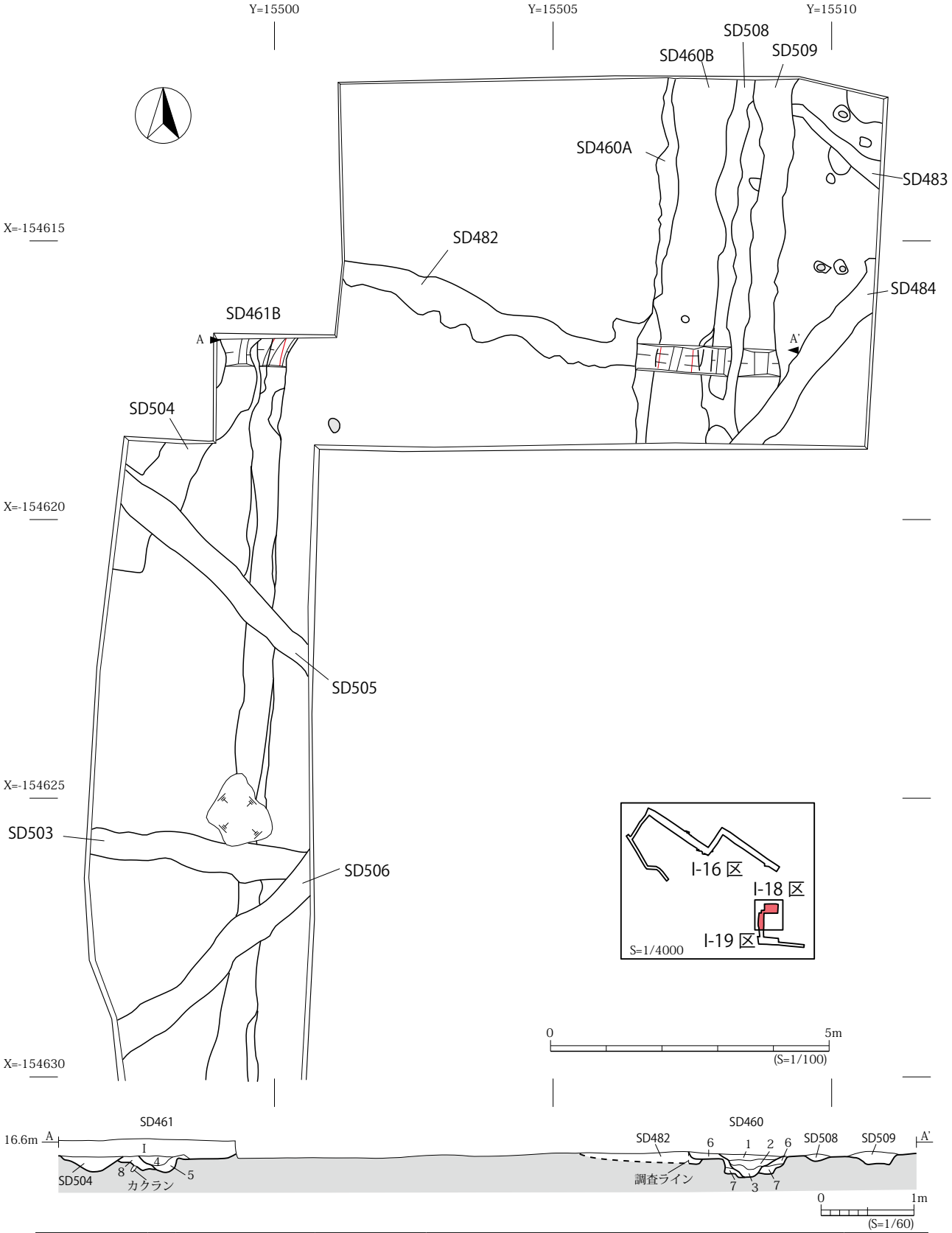


第 106 図　I-16 区東端・18・19 区　遺構配置図



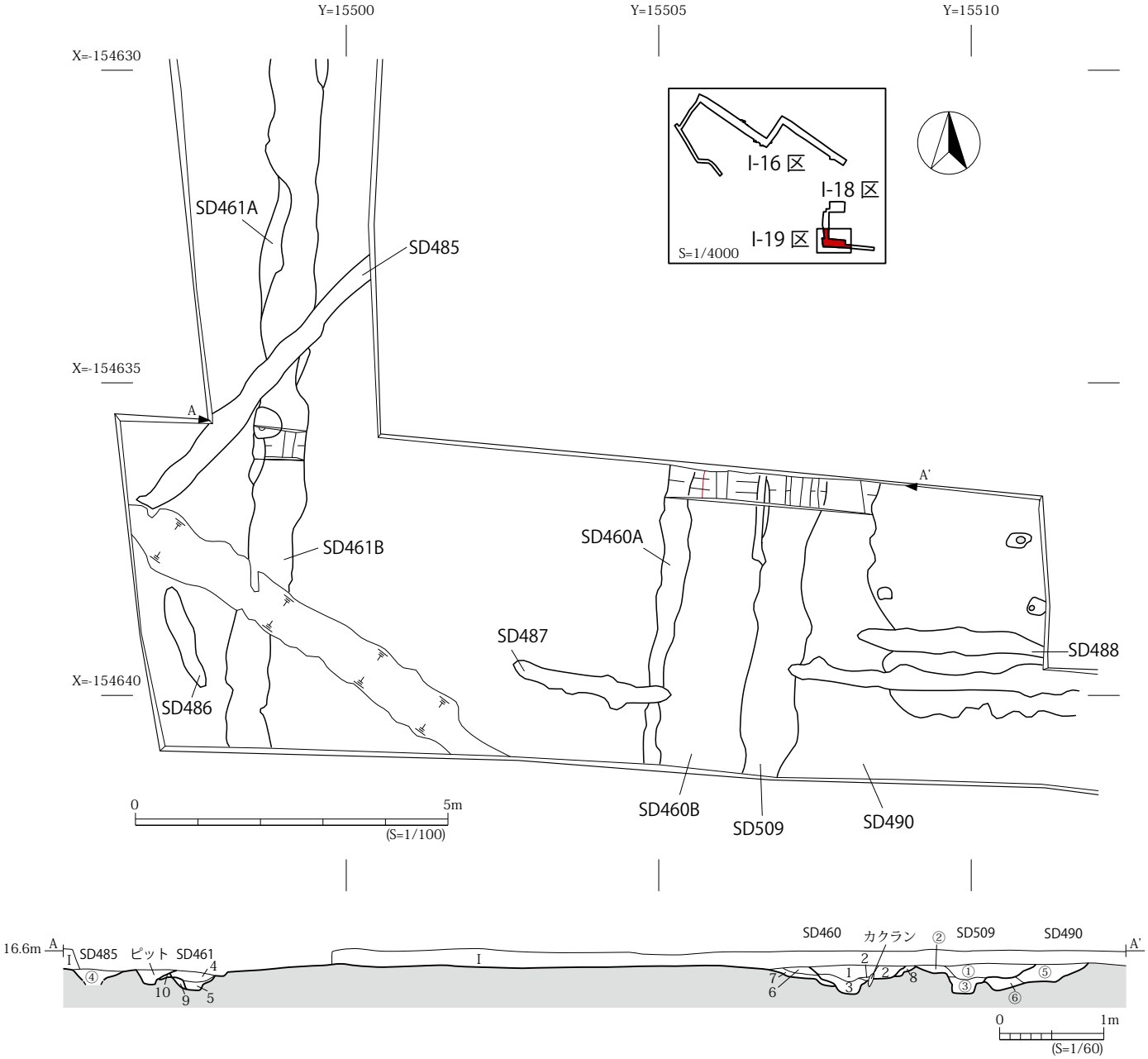
遺構	層	土色	土性	含有物など	備考
SD460B・461B	1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロック少量含む	自然堆積
	2	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック多量に含む	
SD460A	3	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	Ⅴ層粒・小ブロックやや多く含む	自然堆積
SD461A	4	黒褐色(2.5Y3/1)	粘土質シルト	Ⅴ層粒少量含む	自然堆積
	5	黒褐色(2.5Y4/1)	粘土質シルト	Ⅴ層粒・小ブロックやや多く含む	

第 107 図　I-16 区　SX200 南北道路跡



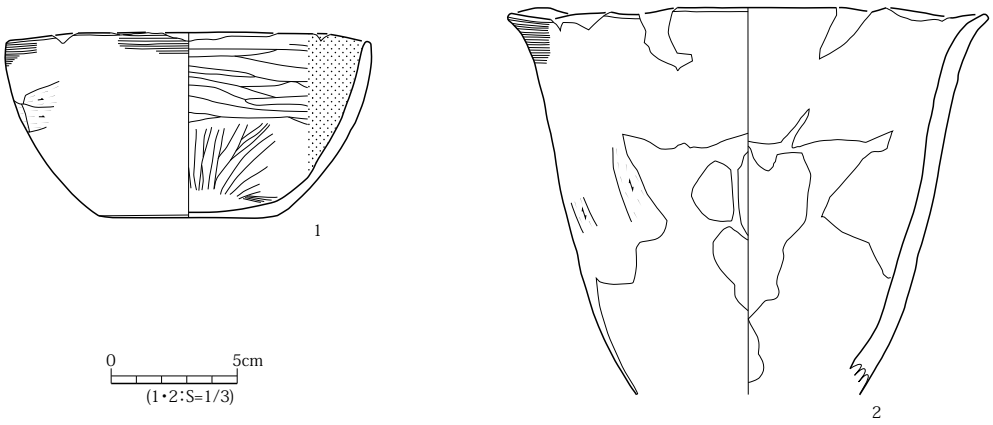
遺構	層	土色	土性	含有物など	備考
SD460B	1	褐灰色(10YR5/1)	砂質シルト	白色粒子を含む	自然堆積
	2	褐灰色(10YR4/1)	シルト	V層粒を少量含む	
	3	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	V層粒・小ブロックを含む	
SD461B	4	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	V層粒を含む	自然堆積
	5	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	V層粒・小ブロックを多量に、黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト小ブロックを含む	
SD460A	6	褐灰色(10YR5/1)	砂質シルト	V層粒・小ブロックを多量に含む	自然堆積
	7	褐灰色(10YR4/1)	砂質シルト	V層粒・小ブロックをやや多く含む	
SD461A	8	褐灰色(10YR4/1)	砂質シルト	V層粒を多量に含む	自然堆積

第 108 図　I-18 区　SX200 南北道路跡



遺構	層	土色	土性	含有物など	備考
SD460B	1	灰黄褐色(10YR4/2)	砂質シルト	Ⅴ層粒・小ブロック含む	自然堆積
	2	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層小ブロックやや多く含む	
	3	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層小ブロック少量含む	
SD461B	4	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロック含む	自然堆積
	5	灰黄褐色(10YR5/2)	細砂	Ⅴ層粒・小ブロック、褐灰色(10YR4/1)シルト小ブロック含む	
SD460A	6	灰黄褐色(10YR4/2)	砂質シルト	Ⅴ層粒・小ブロック含む	自然堆積
	7	灰黄褐色(10YR5/2)	砂質シルト	Ⅴ層粒、褐灰色(10YR4/1)シルト小ブロック含む	
	8	褐灰色(10YR6/1)	砂質シルト	灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト小ブロック含む	
SD461A	9	灰黄褐色(10YR6/2)	細砂	Ⅴ層粒・小ブロックわずかに含む	自然堆積
	10	褐灰色(10YR4/1)	砂質シルト	Ⅴ層粒・小ブロックやや多く含む	
SD509	①	褐灰色(10YR4/1)	シルト	白色粒子を多量に、Ⅴ層粒少量含む	自然堆積
	②	黒褐色(10YR3/1)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロック含む	
	③	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	Ⅴ層粒・小ブロックやや多く含む	
SD485	④	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層小ブロック含む	自然堆積
SD490	⑤	にぶい黄褐色(10YR4/3)	砂質シルト	Ⅴ層粒含む	自然堆積
	⑥	灰黄褐色(10YR4/2)	砂質シルト	Ⅴ層粒・小ブロック、褐灰色(10YR4/1)シルト小ブロック含む	

第 109 図　I-19 区　SX200 南北道路跡



No.	種別・器種	遺構・層	残存	法量(cm)			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径	器高			
1	土師器　埦	SD461B　1層	(口～体)1/4(底)1/1	(14.4)	7.0	7.3	外：(口)ナデ(体)ヘラケズリ　内：ヘラミガキ→黒色処理　平底	65-8	R911
2	土師器　甕	SD460B　堆	(口)1/2 弱(胴)1/4	(19.0)			外：(口)ナデ(胴)ヘラケズリ　内：不明	65-9	R910

第 110 図　I-16 区　SD460・461 道路側溝　出土遺物

堆積土から非ロクロ調整の土師器埦（第110図1）・甕、須恵器坏・甕が出土した。

B. 掘立柱建物跡

【SB469掘立柱建物跡】（平面図：第 112 図、断面図：第 113 図）

〔位置〕 I-16 区中央に位置し、西側柱列と北側柱列のすべて、南側柱列の一部を検出した。

〔柱間数・棟方向〕 桁行 3 間、梁行 2 間の東西棟建物跡である。

〔検出状況〕 7 個検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認した。

〔平面規模〕 桁行が北側柱列で総長 4.7m、柱間寸法は東から 1.55m、1.7m、1.45m、梁行が西妻で総長 2.7m、柱間寸法が 1.35m 等間である。

〔方向〕 北側柱列で測ると西で北に 7°偏る。

〔柱穴〕 掘方は長軸 42 ～ 52cm、短軸 34 ～ 48cm の隅丸方形、隅丸長方形で、深さは 16 ～ 21cm である。柱痕跡は長軸 10 ～ 16cm の円形、楕円形である。

【SB470掘立柱建物跡】（平面図：第 112 図、断面図：第 113 図）

〔位置〕 I-16 区中央に位置し、北側柱列と東側柱列を検出した。

〔柱間数・棟方向〕 桁行 3 間、梁行 2 間の東西棟建物跡である。

〔重複〕 SD479 溝跡と重複し、これより古い。

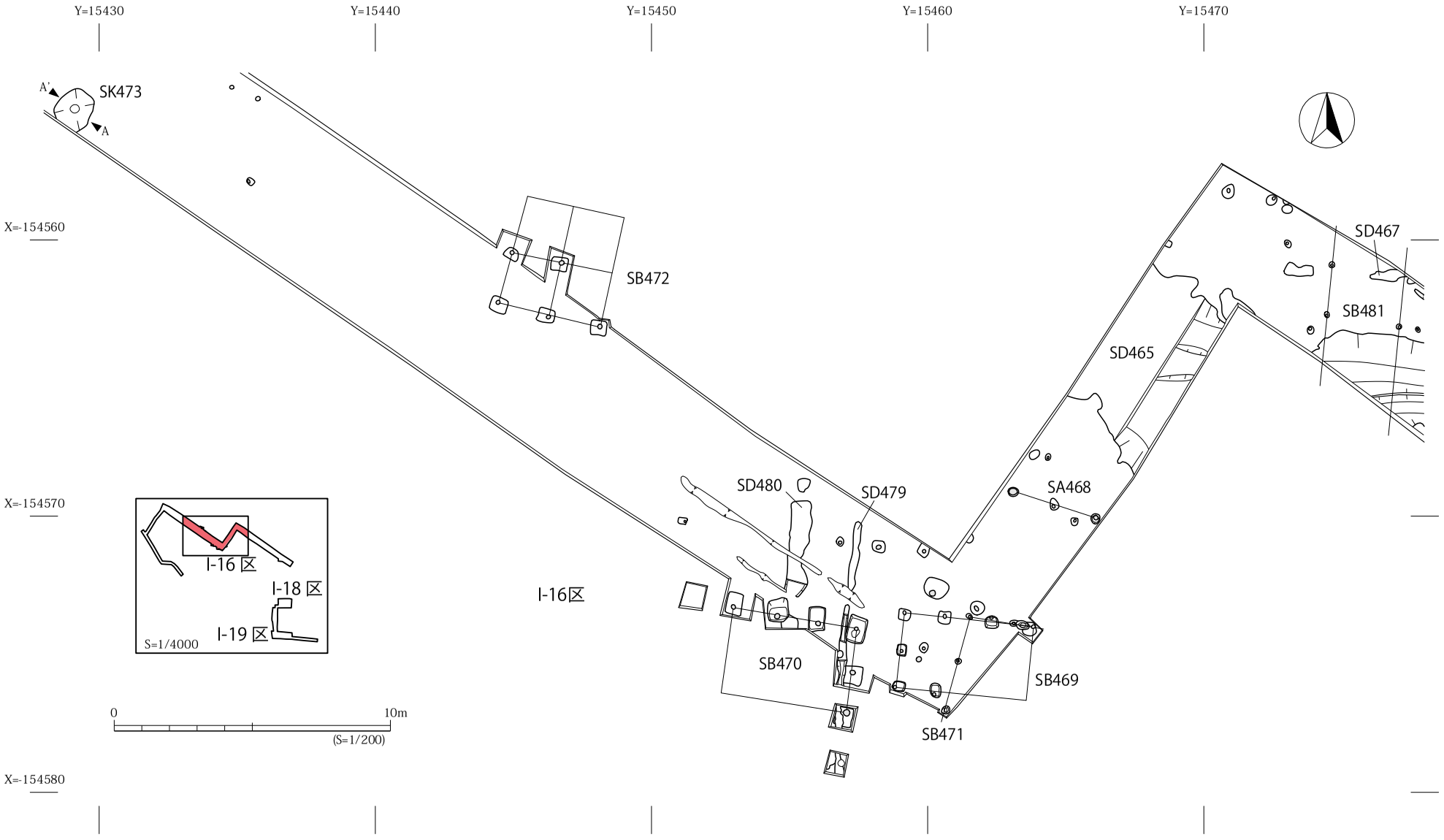
〔検出状況〕 6 個検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認した。

〔平面規模〕 桁行が北側柱列で総長 4.5m、柱間寸法は東から 1.4m、1.45m、1.65m、梁行が東妻で総長 3.1m、柱間寸法は北から 1.6m、1.5m である。

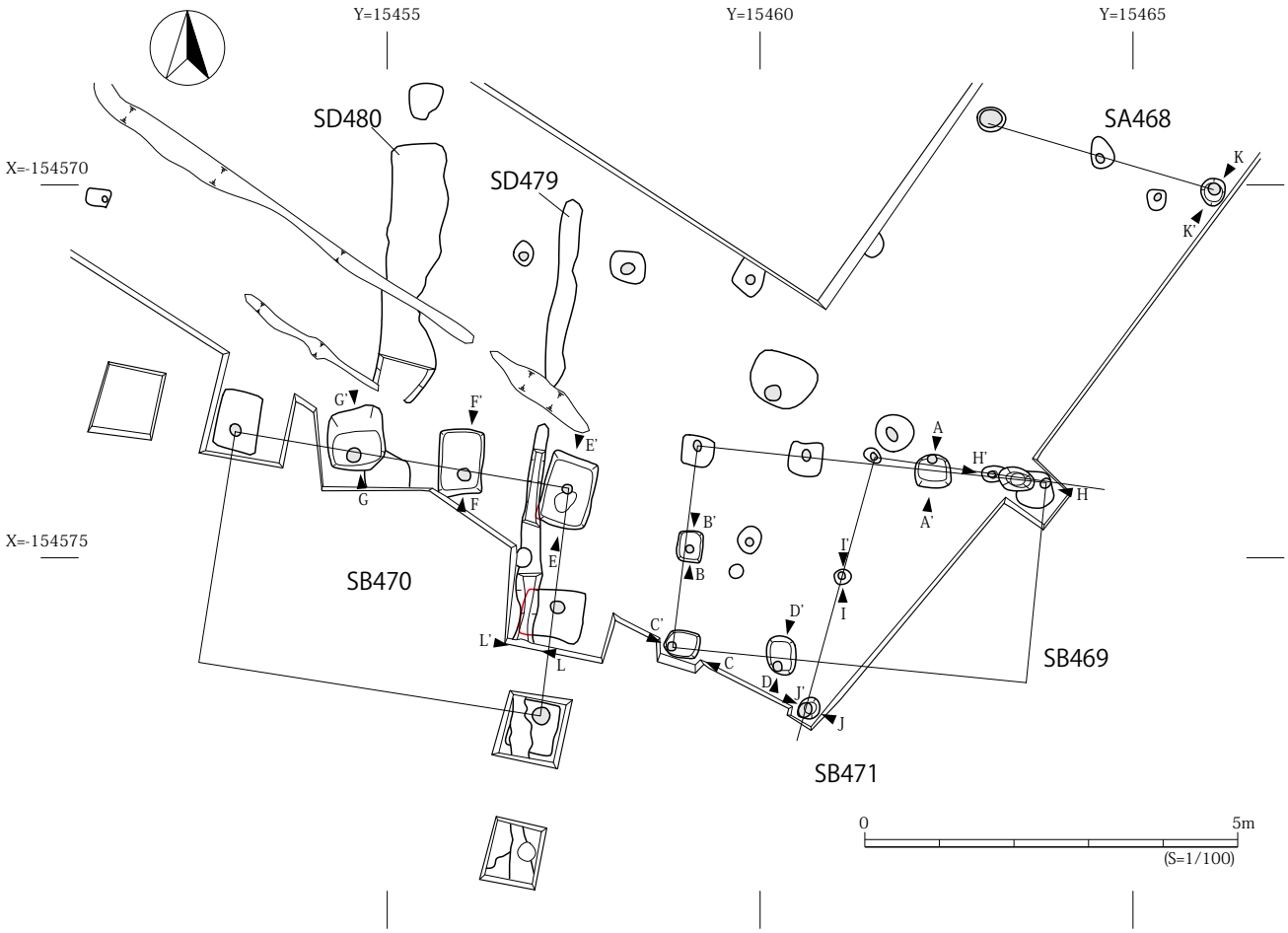
〔方向〕 北側柱列で測ると西で北に 10°偏る。

〔柱穴〕 掘方は長軸 69 ～ 90cm、短軸 60 ～ 77cm の隅丸方形、隅丸長方形で、深さは 33 ～ 48cm である。柱痕跡は長軸 14 ～ 22cm の円形である。

〔出土遺物〕 掘方埋土や柱痕跡から土師器坏・甕、須恵器坏が出土した。



第 111 図　I-16 区中央　検出遺構



第 112 図　I-16 区　SB469~471 掘立柱建物跡・SA468 柱列跡・SD479 溝跡

【SB471掘立柱建物跡】（平面図：第 112 図、断面図：第 113 図）

〔**位置**〕I-16 区中央に位置し、西側柱列と北側柱列の一部を検出した。

〔**柱間数・棟方向**〕南北 2 間以上、東西 1 間以上である。

〔**検出状況**〕4 個検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認した。

〔**平面規模**〕西側柱列で総長 3.5m 以上、柱間寸法は北から 1.65m、1.85m、北側柱列で総長 1.1m 以上である。

〔**方向**〕西側柱列で測ると北で東に 15°偏る。

〔**柱穴**〕掘方は長軸 22 ～ 32cm、短軸 17 ～ 28cm の円形、楕円形で、深さは 12 ～ 25cm である。柱痕跡は長軸 10 ～ 12cm の円形、楕円形である。

【SB472掘立柱建物跡】（平面図：第 111 図）

〔**位置**〕I-16 区中央より西側で検出した。遺構確認のみの調査である。

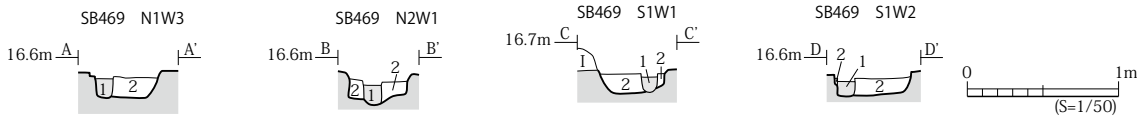
〔**柱間数・棟方向**〕東西 2 間、南北 2 間以上の総柱建物跡とみられる。

〔**検出状況**〕5 個検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認した。

〔**平面規模**〕南側柱列で総長 3.8m、柱間寸法は 1.9m 等間、西側柱列で総長 1.9m である。

〔**方向**〕南側柱列で測ると西で北に 13°偏る。

〔**柱穴**〕掘方は長軸 55 ～ 64cm、短軸 40 ～ 54cm の隅丸方形、隅丸長方形、柱痕跡は長軸 14 ～ 19cm の円形、楕円形である。



N1W3、S1W1（A-A'、C-C'）

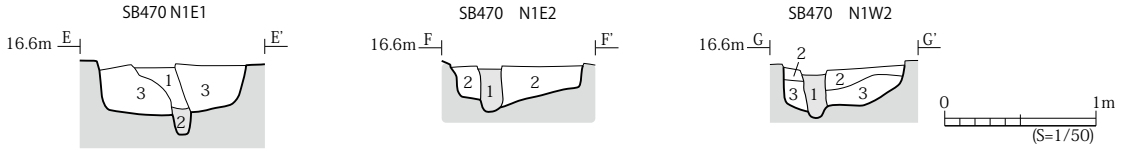
層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト質粘土	Ⅴ層粒、酸化鉄含む	柱痕跡
2	にぶい黄褐色(10YR5/3)	シルト質砂	黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト小～大ブロックを多量に、酸化鉄、 灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト小～大ブロックを含む	掘方埋土

N2W1（B-B'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック・ブロック、酸化鉄含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	Ⅴ層中ブロックを多量に、酸化鉄、炭化物少量、 にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質砂ブロックを含む	掘方埋土

S1W2（D-D'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	Ⅴ層粒・小ブロック、黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト小ブロック含む	柱痕跡
2	灰黄褐色(10YR5/2)	粘土質シルト	黒褐色(10YR3/1、10YR3/2)粘土質シルト小ブロック・ブロックを多量に、酸化鉄、 にぶい黄褐色(10YR5/3)細砂ブロックを含む	掘方埋土



N1E1（E-E）

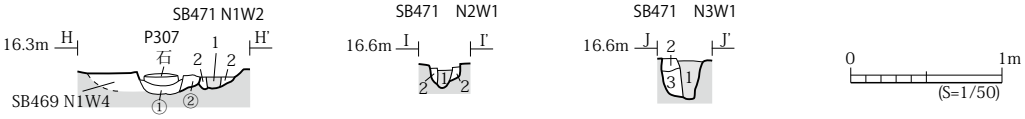
層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	砂質シルト	Ⅴ層粒、炭化物片を少量含む	抜取穴
2	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	Ⅴ層粒少量含む	柱痕跡
3	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを非常に多く含む	掘方埋土

N1E2（F-F'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	Ⅴ層粒を多量に、黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト小ブロックを少量、酸化鉄、炭化物を含む	柱痕跡
2	暗褐色(10YR3/3)	シルト	Ⅴ層小ブロック・ブロックを多量に、黒褐色(10YR2/2)粘土質シルト小～大ブロックを少量、灰黄褐色 (10YR6/2)粘土質シルトブロック・大ブロック、にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質砂大ブロックを含む	掘方埋土

N1E2（G-G'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト質粘土	酸化鉄を多量に、にぶい黄橙色(10YR7/3)粘土小ブロック・ブロック、黒褐色(10YR3/1)シルト質粘土 小ブロックを含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR3/2)	シルト質粘土	酸化鉄、炭化物、浅黄色(2.5Y7/3)粘土小～大ブロックを多量に、黒褐色(10YR2/2)シルト質粘土小ブロッ クを含む	掘方埋土
3	浅黄色(2.5Y7/3)	粘土	黒褐色(10YR3/1)粘土小ブロックを少量、にぶい黄褐色(10YR5/3)細砂ブロック、酸化鉄を多量に含む	



N1W2（H-H'）

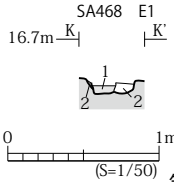
層	土色	土性	含有物など	備考
1	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	Ⅴ層粒含む	柱痕跡
2	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	Ⅴ層粒・小ブロック多量に含む	掘方埋土
①	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	Ⅴ層粒少量含む	P307 抜取穴
②	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	Ⅴ層粒やや多く含む	P307 掘方埋土

N2W1（I-I'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト大ブロック、酸化鉄含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	灰黄褐色(10YR6/2)砂質シルト小ブロック・ブロック少量含む	掘方埋土

N3W1（J-J'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	酸化鉄少量、褐灰色(10YR4/1)シルトブロック、Ⅴ層小ブロックを含む	柱痕跡
2	にぶい黄橙色(10YR7/2)	粘土	灰黄褐色(10YR5/2)粘土質シルト小ブロック、酸化鉄少量含む	掘方埋土
3	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	Ⅴ層粒多量に、酸化鉄少量含む	



SA468 E1（K-K'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト		柱痕跡
2	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック、灰黄褐色(10YR5/2)細砂小ブロックを多量に含む	掘方埋土

第 113 図　I-16 区　SB469~471 掘立柱建物跡・SA468 柱列跡　断面

【SB481掘立柱建物跡】（平面・断面図：第 114 図）

〔**位置**〕I-16 区中央より東側に位置し、東・西側柱列の一部を検出した。

〔**柱間数・棟方向**〕桁行 2 間以上、梁行 1 間の南北棟建物跡である。

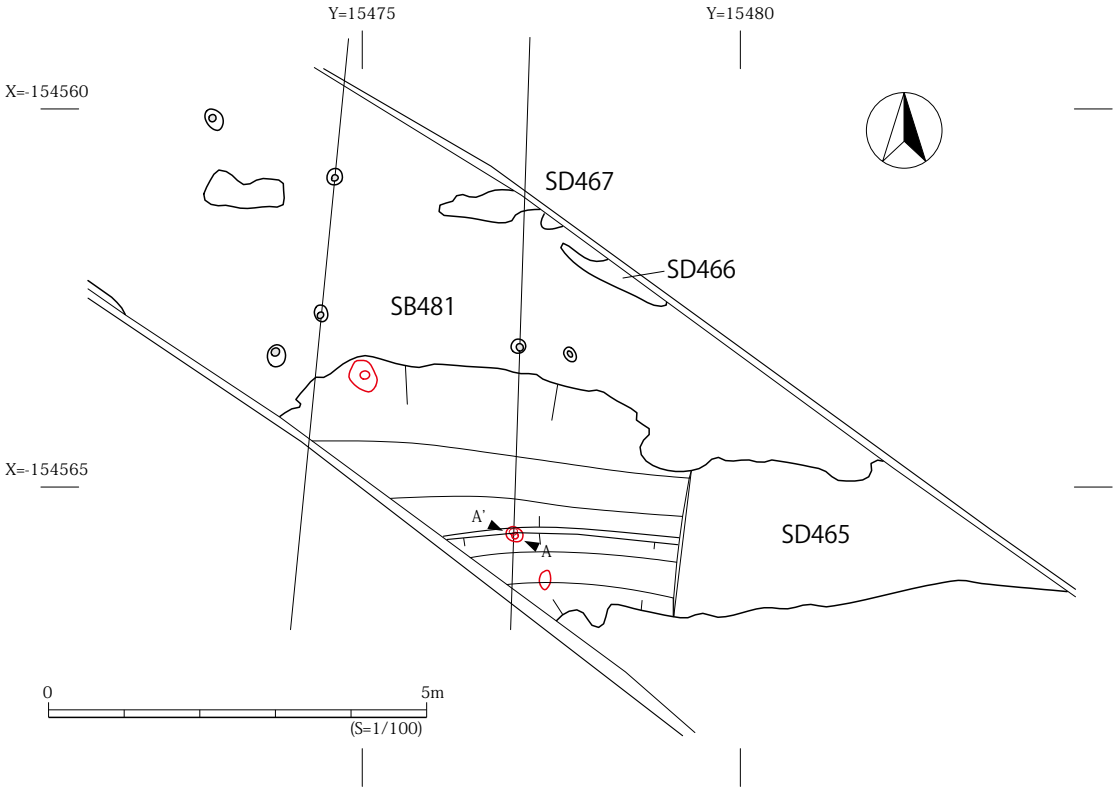
〔**重複**〕SD465 河川跡と重複し、これより古い。

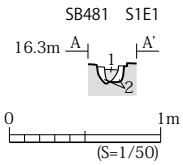
〔**検出状況**〕4 個検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認した。

〔**平面規模**〕南北の総長は推定で 4.3m 以上、柱間寸法は西側柱列の北から 1 間目が 1.8m、東側柱列の北から 2 間目が 2.5m、東西の総長は、北から 2 間目で 2.65m である。

〔**方向**〕西側柱列で測ると北で東に 7°偏る。

〔**柱穴**〕掘方は長軸 20 ～ 22cm、短軸 15 ～ 20cm の楕円形で、深さは 14cm である。柱痕跡は長軸 8 ～ 10cm の円形、楕円形である。





層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/1)	粘土	酸化鉄、にぶい黄色(2.5Y6/3)粘土小ブロックを含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR3/2)	粘土	酸化鉄を少量、にぶい黄色(2.5Y6/3)粘土ブロック・大ブロックを含む	掘方埋土

第 114 図　I-16 区　SB481 掘立柱建物跡

C. 柱列跡

【SA468柱列跡】（平面図：第 112 図、断面図：第 113 図）

I-16 区中央に位置し、北西―南東 2 間分を検出した。2 個で柱痕跡、1 個（W1）で柱抜取穴を確認した。

総長は 3.15m、柱間寸法は東から 1.6m、1.55m である。方向は西で北に 20°偏る。掘方は長軸 38 ～ 42cm、短軸 30 ～ 35cm の円形、楕円形で、柱痕跡は長軸 12 ～ 15cm の円形、楕円形である。柱痕跡からロクロ調整の土師器坏が出土した。

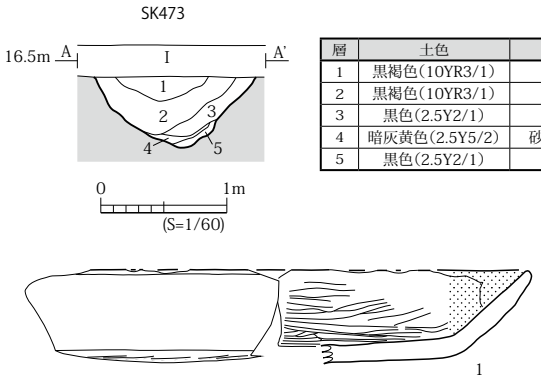
D. 土坑

【SK473土坑】（平面図：第 111 図、断面図・遺物：第 115 図）

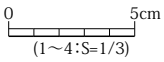
I-16 区北西側に位置する。平面は北東―南西方向に長軸を持つ楕円形で、規模は長軸 1.35m、短軸 1.25m、深さ 0.57m である。断面は「V」字状である。堆積土は 5 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から非ロクロ調整の土師器坏（第 115 図 1）・甕が出土した。

E. その他の出土遺物

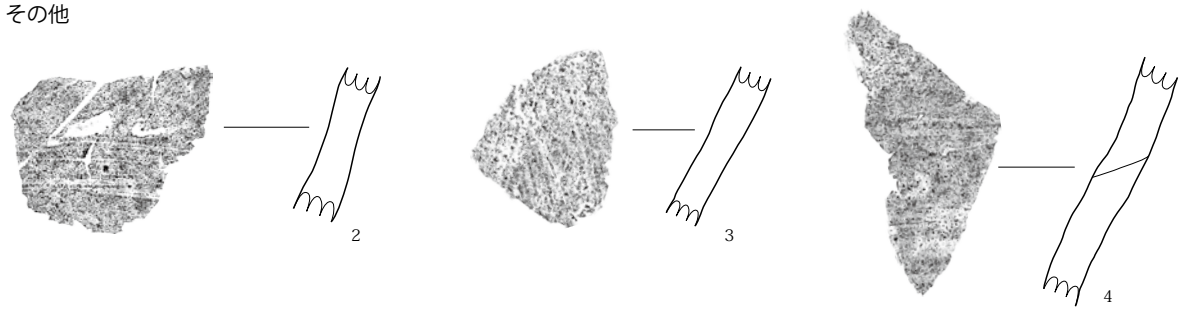
上記の遺構以外に、SD465 河川跡から中世陶器甕（第 115 図 2 ～ 4）が出土した。



層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層粒・小ブロックをわずかに含む	自然堆積
2	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層粒・小ブロックやや多く含む	
3	黒色(2.5Y2/1)	シルト	V層粒・小ブロック、黄灰色(2.5Y4/1)シルト小ブロックを多量に含む	
4	暗灰黄色(2.5Y5/2)	砂質シルト		
5	黒色(2.5Y2/1)	シルト	V層粒・小ブロックを多量に含む	



その他



No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	土師器　坏	SK473　2 層	(口～底)一部	外：(口)不明(体)ヘラケズリ　内：ヘラミガキ→黒色処理　丸底	65-10	R919
2	中世陶器　甕	SD465　堆	胴部	外：ヘラナデ　内：ナデ　色調(外)降灰のため不明(内)赤灰色(2.5YR4/1)(断) 灰赤色(10R4/2)、にぶい橙色(5YR6/4)、赤色(10R5/6)が層状になる 胎土：径 1 ～ 3㎜の白色小礫・小礫、径 1㎜以下のガラス粒含む　在地産	65-11	R913
3	中世陶器　甕	SD465　堆	胴部	外：降灰のため不明　内：ヘラナデ　色調：(外内)不明(断) 灰赤色(10R4/2)、赤色(10R5/6)が層状になる 胎土：径 1 ～ 2㎜の白色小礫、径 1㎜の小礫・ガラス粒含む　在地産	65-12	R915
4	中世陶器　甕	SD465　堆	胴部	外：ヘラナデ　内：ナデ　色調：(外)降灰のため不明(内)赤灰色(2.5YR4/1)(断) 灰赤色(10R4/2)、にぶい橙色(5YR6/4)、赤色(10R5/6)が層状になる 胎土：径 1 ～ 3㎜の白色小礫・小礫、径 1㎜以下のガラス粒含む　在地産	65-13	R914

第 115 図　I-16 区　SK473 土坑　断面・出土遺物、その他の出土遺物

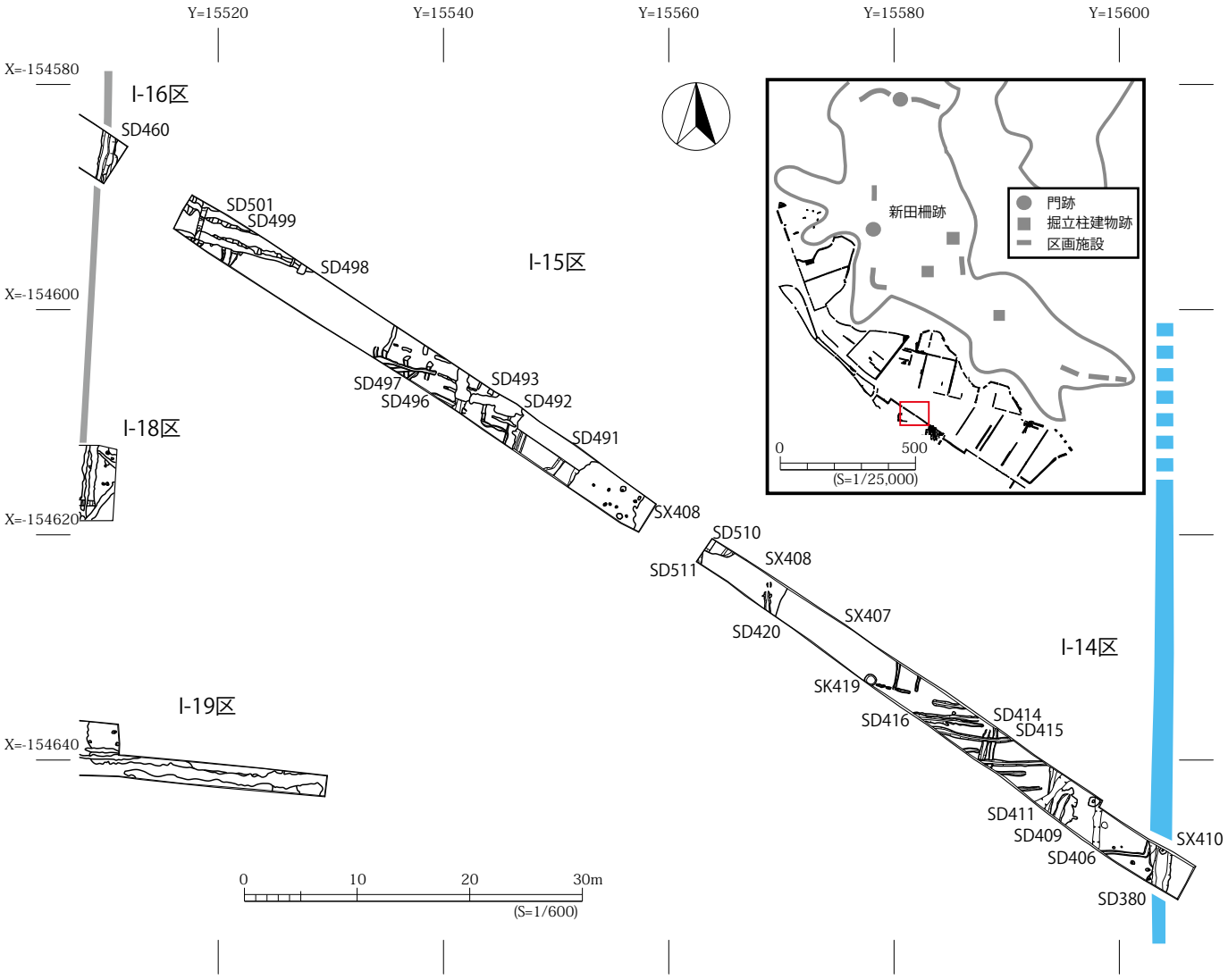
⑦I-15区

溝跡 7 条（SD492・493・496 ～ 499・501）、小溝状遺構群 3 ヶ所（SF494・495・502）、自然流路跡 1 条（SD491）、湿地跡（SX408）を検出した（第 116 図）。小溝状遺構群と自然流路跡のみ記述し、それ以外については第 19 表に特徴をまとめた。なお、SX408 湿地跡については、I-14 区でまとめて記述する。

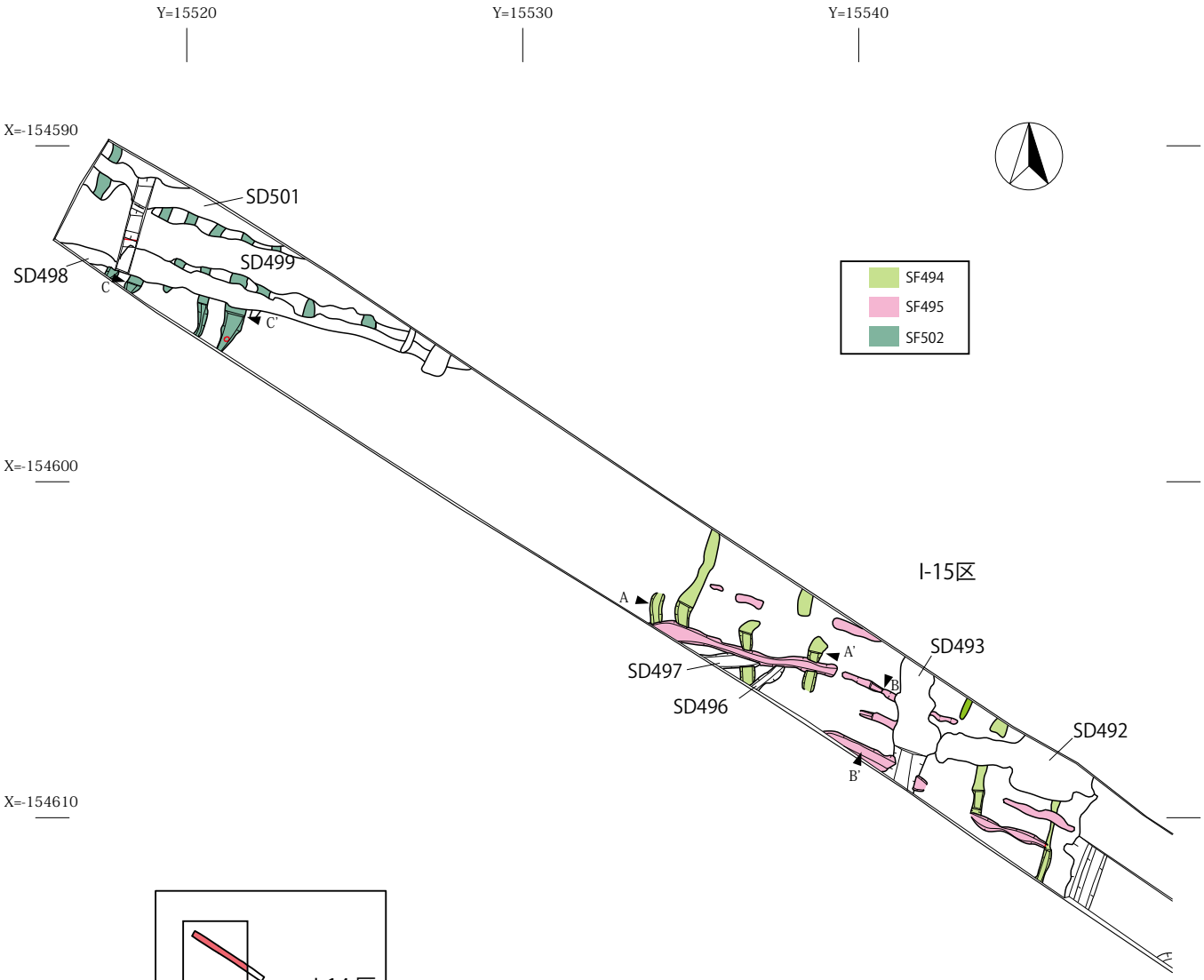
A. 小溝状遺構群

【SF494小溝状遺構群】（平面・断面図：第 117 図）

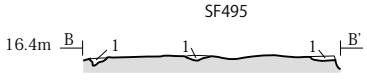
中央に位置する。SD492･496･497 溝跡、SF495 小溝状遺構群と重複し、これらより古い。7 条検出し、東西 12.5m、南北 10.5m の範囲に分布する。北東―南西方向で、検出長は最大で 2.95m、規模は上幅 0.1 ～ 0.5m、下幅 0.1 ～ 0.3m、深さ 0.02 ～ 0.07m、溝中心間の距離は 0.6 ～ 2.4m である。断面は皿状である。



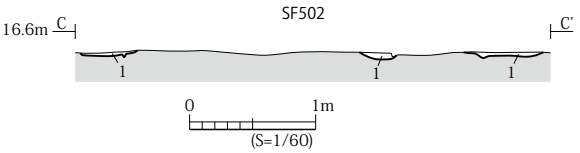
第 116 図　I-14・15 区　遺構配置図



層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック・ブロックを多量に、酸化鉄を含む	自然堆積

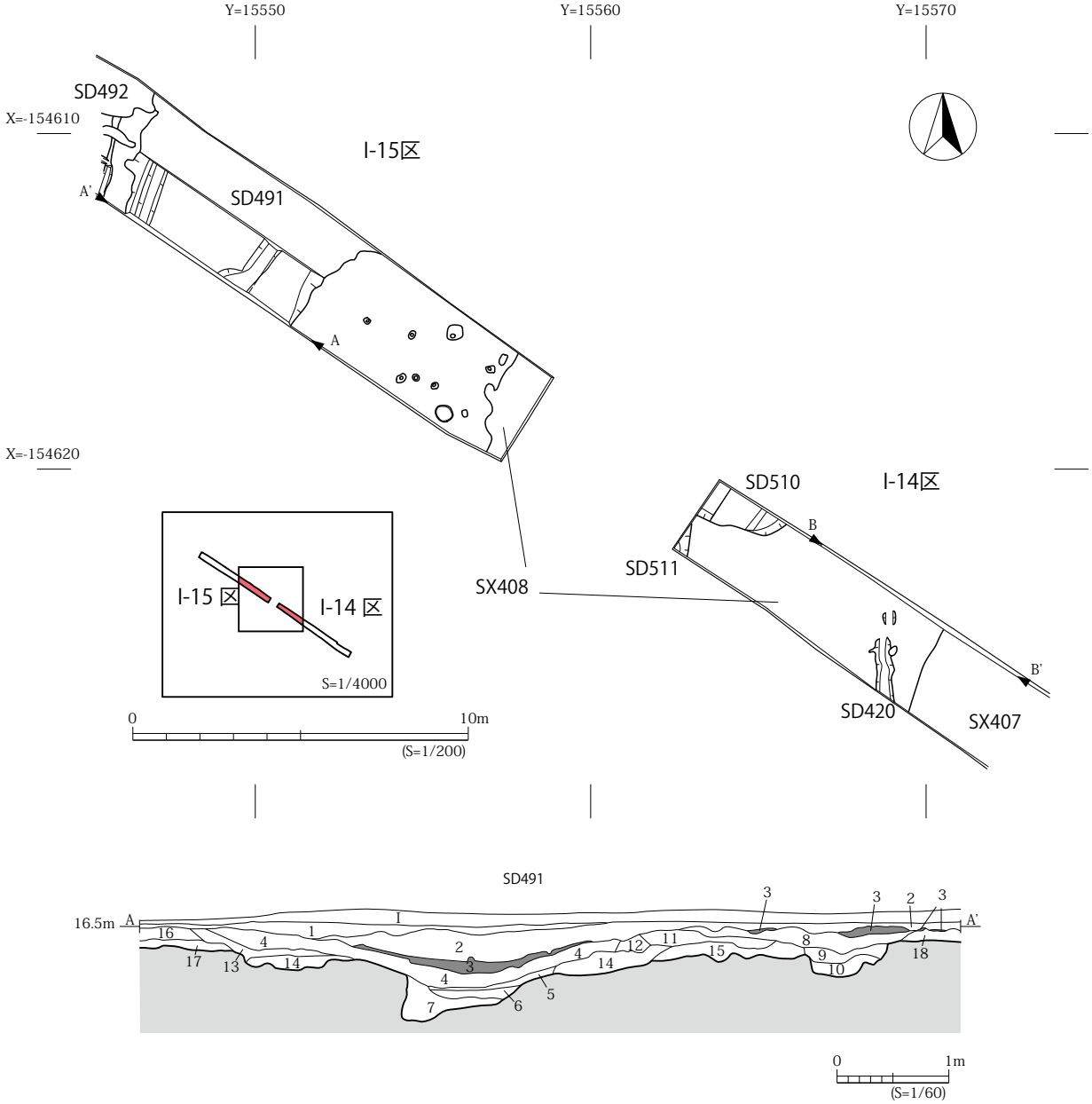


層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック・ブロック多量に、酸化鉄含む	自然堆積



層	土色	土性	含有物など	備考
1	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを少量含む	自然堆積

第 117 図　I-15 区　検出遺構



層	土色	土性	含有物など
1	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	酸化鉄を少量含む
2	黒色(10YR1.7/1)	シルト質粘土	褐灰色(10YR4/1)シルト質粘土小ブロック、酸化鉄を少量含む
3	灰白色火山灰	シルト	
4	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	Ⅴ層ブロックを少量、酸化鉄、黒褐色(10YR 3/1)粘土質シルト粒・小ブロックを層上部に含む
5	褐灰色(10YR4/1)	粘土	酸化鉄、黒褐色(10YR3/2)粘土大ブロックを含む
6	灰黄褐色(10YR5/2)	粘土	酸化鉄を少量、灰白色小ブロック・ブロック含む
7	褐灰色(10YR4/1)	粘土	にぶい黄橙色(10YR7/3)粘土大ブロック、酸化鉄、黒褐色(10YR2/1)粘土ブロックを含む
8	黒褐色(10YR3/2)	粘土	酸化鉄を少量、黒褐色(10YR2/1)粘土質シルト粒を層上部に含む
9	黒褐色(10YR3/1)	シルト質粘土	炭化物片を少量、Ⅴ層粒～ブロックを多量に、酸化鉄を含む
10	黒褐色(10YR3/1)	シルト質粘土	Ⅴ層ブロック・大ブロックを多量に、酸化鉄を含む
11	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	Ⅴ層粒を少量、黒褐色(10YR3/1)シルト質粘土小ブロックを含む
12	灰黄褐色(10YR5/2)	シルト質粘土	Ⅴ層ブロックを多量に、酸化鉄を含む
13	黒褐色(10YR3/2)	シルト質粘土	Ⅴ層粒・小ブロック、酸化鉄を多量に、黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト小ブロックを少量含む
14	褐灰色(10YR4/1)	シルト質粘土	Ⅴ層粒～ブロック、酸化鉄を多量に含む
15	褐灰色(10YR4/1)	粘土	黒褐色(10YR3/2)シルト質粘土大ブロック、Ⅴ層小～大ブロックを多量に、酸化鉄を含む
16	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土	Ⅴ層粒・小ブロックを多量に、黒色(10YR1.7/1)シルト質粘土小ブロック、酸化鉄を少量含む
17	褐灰色(10YR4/1)	粘土	Ⅴ層粒・小ブロックを多量に、酸化鉄を少量含む
18	褐灰色(10YR4/1)	シルト質粘土	黒褐色(10YR2/1)粘土質シルト小ブロックを多量に、Ⅴ層粒を含む

第 118 図　I-14 区西端、I-15 区東端　検出遺構

【SF495小溝状遺構群】（平面・断面図：第 117 図）

中央に位置する。SD493・496・497 溝跡、SF494 小溝状遺構群と重複し、SD496・497、SF494 より新しく、SD493 より古い。5 条検出し、東西 13.0m、南北 6.5m の範囲に分布する。北西―南東方向で、検出長は最大で 5.75m、規模は上幅 0.1 ～ 0.48m、下幅 0.05 ～ 0.45m、深さ 0.03 ～ 0.08m、溝中心間の距離は 0.8 ～ 1.5m である。断面は皿状である。堆積土から土師器甕が出土した。

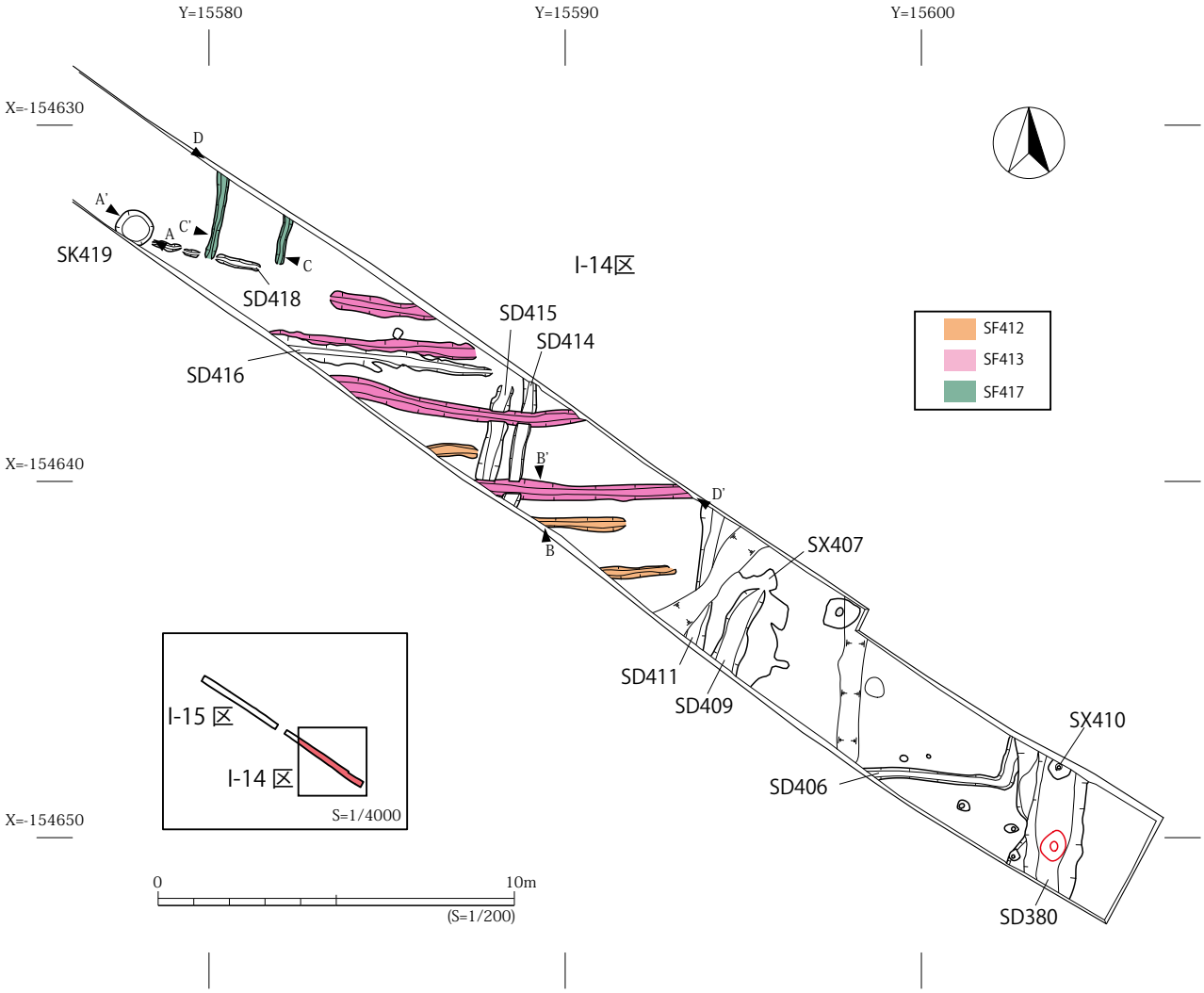
【SF502小溝状遺構群】（平面・断面図：第 117 図）

北西端で検出した。SD498・499・501 溝跡と重複し、これらより古い。9 条検出し、北東―南西 9.4m、北西―南東 4.6m の範囲に分布する。北東―南西方向で、検出長は最大で 3.55m、規模は上幅 0.18 ～ 0.55m、下幅 0.05 ～ 0.45m、深さ 0.04 ～ 0.05m、溝中心間の距離は 0.8 ～ 1.8m である。断面は皿状である。

B. 自然流路跡

【SD491自然流路跡】（平面・断面図：第 118 図）

東側に位置する。SD492 溝跡と重複し、これより新しい。截ち割り調査を行った。北東―南西方向で、検出長は 3.3m、規模は上幅 6.7 ～ 8.3m、深さ 0.84m である。3 層は灰白色火山灰層である。土師器坏・甕、須恵器坏・甕が出土した。



第 119 図　I-14 区　検出遺構

⑧I-14区

溝跡 10 条（SD380・406・409・411・414 ～ 416・418・420・510）、土器埋設遺構 1 基（SX410）、土坑 1 基（SK419）、小溝状遺構群 3 ヶ所（SF412・413・417）、自然流路跡 1 条（SD511）、湿地跡（SX407・408）を検出した（第 116 図）。SD380・406 溝跡、土器埋設遺構、土坑、小溝状遺構群、湿地跡のみ記述し、それ以外については第 19・24 表に特徴をまとめた。

A. 溝跡

【SD380溝跡】（平面・断面図：第 120 図、遺物：第 121 図）

南東端に位置する。南側延長部分を I-9 区で確認している。SX410 土器埋設遺構、SD406 溝跡と重複し、SD406 より新しく、SX410 より古い。南北方向で、検出長は 4.15m、規模は上幅 1.45 ～ 2.0m、下幅 0.6 ～ 1.0m、深さ 0.37m である。断面は逆台形である。堆積土は 7 層に分かれ、すべて自然堆積である。1 層は灰白色火山灰層である。堆積土からロクロ調整の土師器坏（第 121 図 1・2）、須恵器坏・高台坏・双耳坏（3）・盤（4・5）・蓋・鉢（6）が出土した。

【SD406溝跡】（平面・断面図：第 120 図）

南東端に位置する。SD380 溝跡と重複し、これより古い。東西･南北方向で、検出長は、東西 4.0m、南北 1.2m、規模は上幅 0.28 ～ 0.5m、下幅 0.15 ～ 0.28m、深さ 0.14m である。断面は逆台形である。堆積土は 1 層で、自然堆積である。土師器坏が出土した。

B. 土器埋設遺構

【SX410土器埋設遺構】（平面・断面図：第 120 図、遺物：第 121 図）

南東端に位置し､SD380 溝跡の堆積土上面で検出した｡円形の土坑に須恵器壺が埋設された遺構である。南西側のみの検出である。

土坑は、長軸 0.31m、短軸 0.24m 以上、深さ 0.3m で、断面は箱形である。堆積土は 4 層に分かれ、いずれも人為的埋土である。口頸部と底部が欠損した須恵器長頸壺（第 121 図 7）が、土坑中央部の埋土 4 層上面に正位の状態で設置されていた。壺内部に充填していた土壌の水洗篩を行ったが、出土遺物はなかった。

C. 土坑

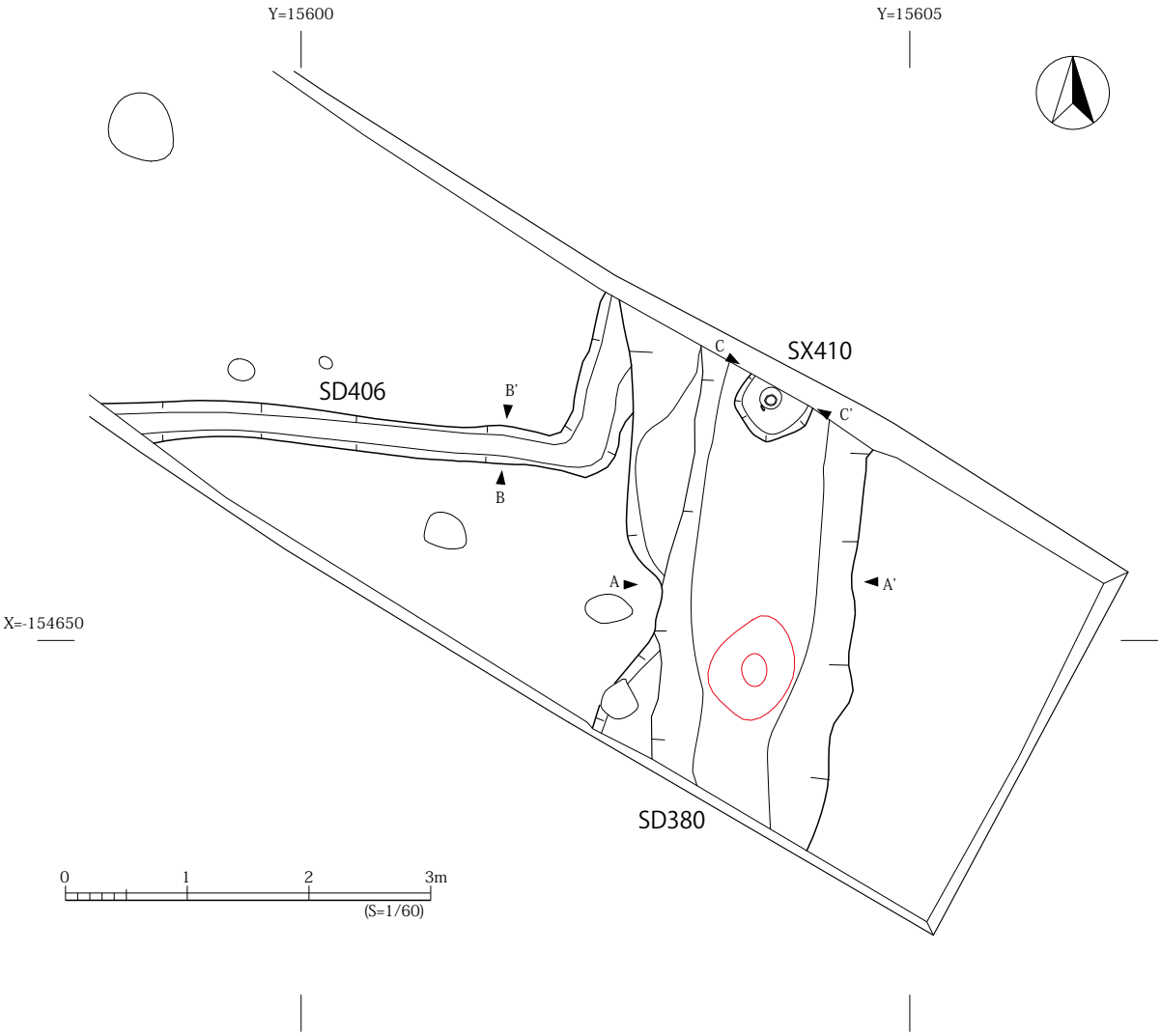
【SK419土坑】（平面図：第 119 図、断面図：第 122 図）

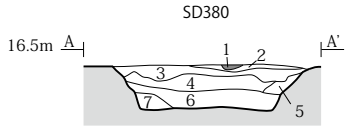
中央北西寄りに位置する。SX407 湿地跡と重複し、これより新しい。平面は北西―南東に長軸を持つ楕円形で、規模は長軸 1.0m、短軸 0.85m 以上、深さ 0.26m である。断面は逆台形である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも人為的埋土である。埋土から土師器甕が出土した。

D. 小溝状遺構群

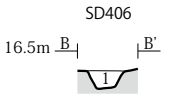
【SF412小溝状遺構群】（平面図：第 119 図、断面図：第 122 図）

中央に位置する。SX407 湿地跡と重複し、これより新しい。3 条検出し、東西 7.0m、南北 4.7m の範囲に分布する。東西方向で､検出長は最大で 2.65m､規模は上幅 0.25 ～ 0.42m､下幅 0.08 ～ 0.23m､深さ 0.06m､溝中心間の距離は 1.4 ～ 2.0m である｡断面は皿状である｡堆積土から土師器甕が出土した。

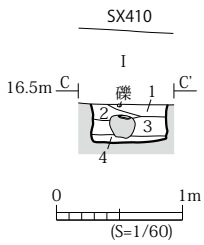




層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰白色火山灰	シルト		自然堆積
2	灰黄褐色(10YR5/2)	シルト	灰白色火山灰粒～大ブロックを含む	
3	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層粒、炭化物粒、焼土粒をわずかに含む	
4	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒、Ⅴ層粒・小ブロックをわずかに含む	
5	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物粒をわずかに、Ⅴ層粒・小ブロックを含む	
6	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層粒をわずかに、炭化物粒を少量含む	
7	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層粒をわずかに、炭化物粒少量、Ⅴ層小ブロック・ブロックを含む	

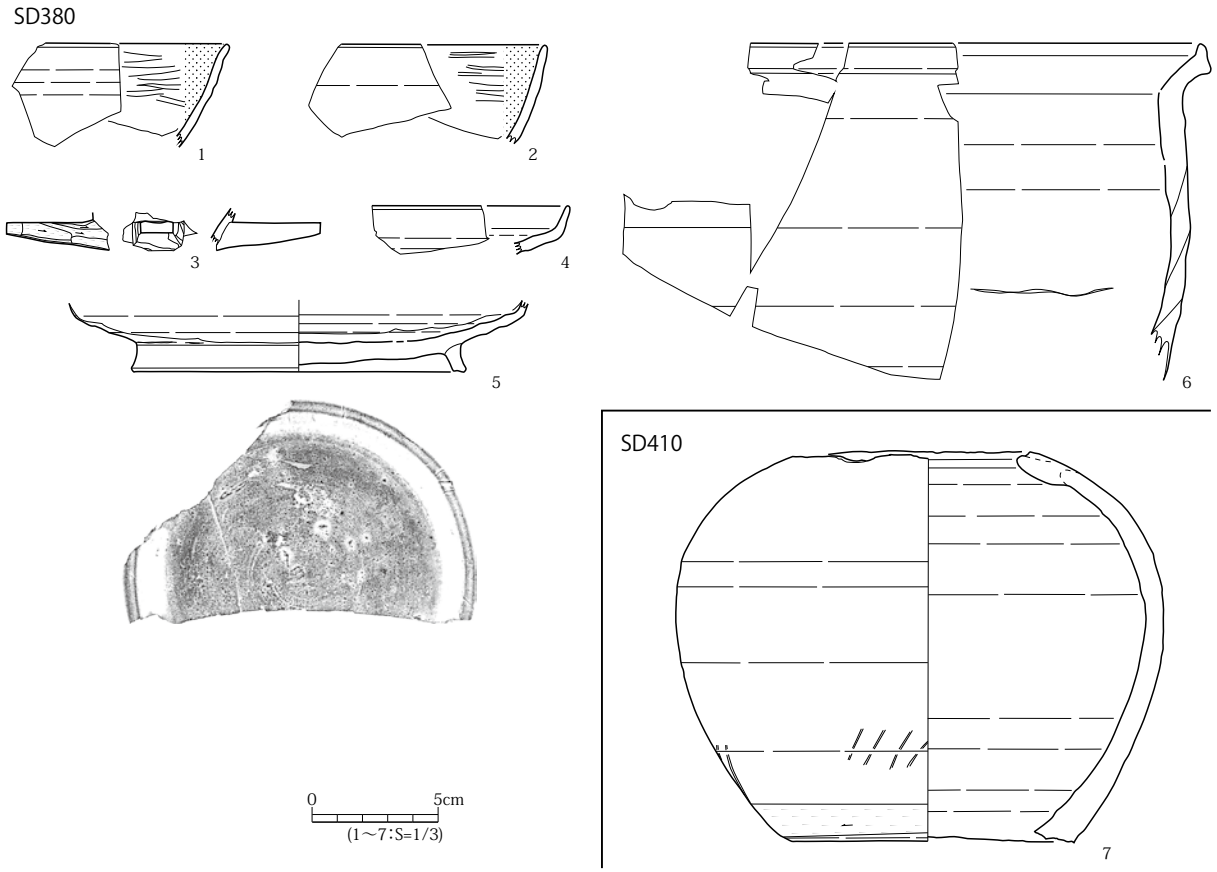


層	土色	土性	含有物など	備考
1	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックをやや多く含む	自然堆積



層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	灰黄褐色(10YR5/2)シルト粒を多量に、灰白色火山灰粒、炭化物粒を少量含む	人為
2	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	灰黄褐色(10YR5/2)シルト粒・小ブロックを多量に含む	
3	褐灰色(10YR4/1)	シルト	灰黄褐色(10YR5/2)シルト粒を多量に、炭化物粒片、礫を含む	
4	黒褐色(10YR3/2)	シルト	灰黄褐色(10YR5/2)シルト、Ⅴ層粒をやや多く、炭化物片を含む	

第 120 図　I-14 区　SD380・406 溝跡、SX410 土器埋設遺構



No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	土師器　坏	SD380　4層	(口～体)一部	外：ロクロナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理	66-1	R894
2	土師器　坏	SD380　6層	(口～体)一部	外：ロクロナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理	66-2	R898
3	須恵器　双耳坏	SD380　堆	耳部	外：手持ちヘラケズリ	66-3	R897
4	須恵器　盤	SD380　3層	(口～体)一部	外内：ロクロナデ	66-4	R926
5	須恵器　盤	SD380　6層	(体)一部(底)1/2 弱 (高台)1/4	高台径(13.2cm)　外内：ロクロナデ 底：切り離し不明→回転ヘラケズリ→高台取り付け→ロクロナデ	66-5	R895
6	須恵器　鉢	SD380　3層	(口～胴)一部	外内：ロクロナデ	66-6	R892
7	須恵器　長頸壺	SX410　埋	(胴)1/1	器高(15.4cm)　外：平行タタキ→ロクロナデ→(胴下)回転ヘラケズリ 内：ロクロナデ　焼成後に口頸部・底部剥離　胴部径 19.3cm	66-7	R903

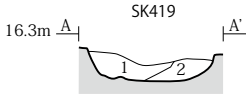
第 121 図　I-14 区　SD380 溝跡・SX410 土器埋設遺構　出土遺物

【SF413小溝状遺構群】（平面図：第 119 図、断面図：第 122 図）

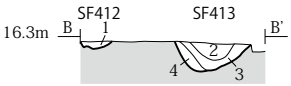
中央に位置する。SD414 ～ 416 溝跡、SX407 湿地跡と重複し、SD414・415、SX407 より新しく、SD416 より古い。4 条検出し、東西 12.0m、南北 6.0m の範囲に分布する。東西方向で、検出長は最大で 7.2m、規模は上幅 0.35 ～ 0.55m、下幅 0.15 ～ 0.25m、深さ 0.19 ～ 0.35m、溝中心間の距離は 1.2 ～ 2.2m である。断面は箱形、逆台形である。堆積土からロクロ調整の土師器坏、非ロクロ調整の土師器甕、須恵器坏・高台坏・甕が出土した。

【SF417小溝状遺構群】（平面図：第 119 図、断面図：第 122 図）

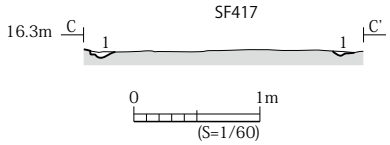
中央に位置する。SX407 湿地跡と重複し、これより新しい。2 条検出し、北東―南西 2.5m、北西―南東 2.4m の範囲に分布する。北東―南西方向で、検出長は最大で 2.5m、規模は上幅 0.23 ～ 0.34m、下幅 0.05 ～ 0.15m、深さ 0.04 ～ 0.28m、溝中心間の距離は 2.0m である。断面は皿状である。



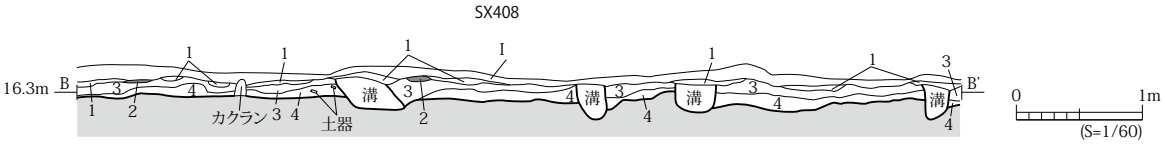
層	土色	土性	含有物など	備考
1	にぶい黄色(2.5 Y 6/3)	粘土質シルト	黒褐色(2.5Y3/1)粘土質シルトブロック・大ブロック、酸化鉄を含む	人為
2	黄褐色(2.5Y5/3)	粘土質シルト	黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト小ブロック、酸化鉄を含む	



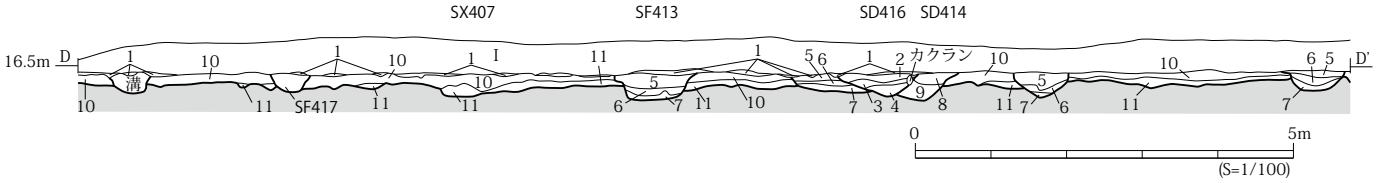
層		土色	土性	含有物など	備考
SF412	1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層粒～ブロックを少量、炭化物粒をわずかに含む	自然堆積
SF413	2	褐灰色(10YR5/1)	シルト	V層小ブロック・ブロックをやや多く含む	自然堆積
	3	褐灰色(10YR4/1)	シルト	V層小ブロック・ブロックを少量含む	
	4	褐灰色(10YR4/1)	シルト	V層小～大ブロックを多量に含む	



層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	酸化鉄を少量、V層ブロック・大ブロックを含む	自然堆積

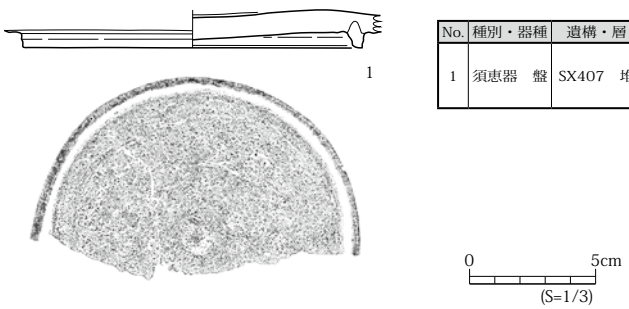


層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒色(10YR2/1)	シルト	灰白色火山灰をブロックを含む	自然堆積
2	灰白色火山灰	シルト		
3	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層粒・小ブロックを少量、炭化物粒をわずかに含む	SX408 湿地層
4	黒褐色(10YR3/2)	シルト	炭化物粒をわずかに、V層粒・小ブロックを含む	



遺構	層	土色	土性	含有物など	備考
	1	黒色(10YR3/1)	シルト	灰白色火山灰ブロックを層状にやや多く含む	自然堆積
SD416	2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層粒、炭化物粒をわずかに含む	自然堆積
	3	黒褐色(10YR3/2)	粘質シルト	V層粒を少量、炭化物粒をわずかに含む	
	4	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層粒、炭化物粒・小ブロックをわずかに含む	
SF413	5	褐灰色(10YR4/1)	シルト	V層粒～ブロックを含む	自然堆積
	6	褐灰色(10YR4/1)	シルト	V層粒をわずかに含む	
	7	褐灰色(10YR5/1)	シルト	V層粒～大ブロックを含む	
SD414	8	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	V層粒・小ブロックを少量含む	自然堆積
	9	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	V層粒～ブロックを含む	
SX407	10	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層粒・小ブロックを少量含む	自然堆積
	11	黒褐色(10YR3/2)	シルト	炭化物粒をわずかに、V層粒～大ブロックを含む	

SX407



No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	須恵器　盤	SX407　堆	(底～高台)1/2	高台径(13.4cm)　外内：ロクロナデ 底：切り離し不明→ロクロナデ→高台取り付け→ロクロナデ	66-8	R896

第 122 図　I-14 区　SK419 土坑・SF412・413・417 小溝状遺構群・SX407・408 湿地跡　断面・出土遺物

E. 湿地跡

【SX407・408湿地跡】（平面図：第 118・119 図、断面図・遺物：第 122 図）

I-15 区南東端から I-14 区南東の範囲で検出した。SX407・408 はこの範囲に広がる一連の湿地層であり、遺物が多く出土した I-15 区南東端と I-14 区北西端を便宜的に SX408 とした。SD409・411・414 ～ 416・418・420・510 溝跡、SK419 土坑、SF412・413・417 小溝状遺構群、SD511 自然流路跡と重複し、これらより古い。北西―南東 54.5m、北東―南西 3.5m 以上の範囲に分布する。堆積土上部には灰白色火山灰層が認められる。土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏・盤（第 122 図 1）・蓋・甕、鉄釘、石器が出土した。

⑨I-9区

掘立柱建物跡 10 棟（SB311・312・315・316・318・320 ～ 323・327）、竪穴建物跡 9 棟（SI392・394 ～ 397・399・401・402・455）、柱列跡 1 条（SA325）、材木塀跡 1 条（SA404）、溝跡 6 条（SD310・378・380・383・403・456）、井戸跡 1 基（SE384）、土坑 38 基（SK319・379・381・382・385 ～ 387・390・393・398・421 ～ 438・440 ～ 445・448・452 ～ 454）、自然流路跡 1 条（SD389）を検出した（第 123 図）。掘立柱建物跡、竪穴建物跡、柱列跡、材木塀跡、井戸跡、SD310・378・380・383・403 溝跡、SK421 ～ 423・426・433・444・445 土坑を記述し、それ以外については第 19・21・24 表に特徴をまとめた。

A. 掘立柱建物跡

西側と東側に建物群の分布が認められるため、建物群ごとに記述する。

＜西側＞

6 棟（SB311・312・320 ～ 323）検出した（第 124 図）。

【SB311掘立柱建物跡】（平面・断面図：第 125 図、遺物：第 126 図）

〔**位置**〕中央の北端に位置し、南側柱列すべてと西側柱列、北側柱列の一部を検出した。南西隅柱の S1W1 と側柱の S1W3 を半截、完掘し、それ以外の柱穴については遺構確認のみ行った。1 度（A → B）建て替えられている。

〔**柱間数・棟方向**〕桁行 5 間、梁行 3 間の東西棟建物跡である。

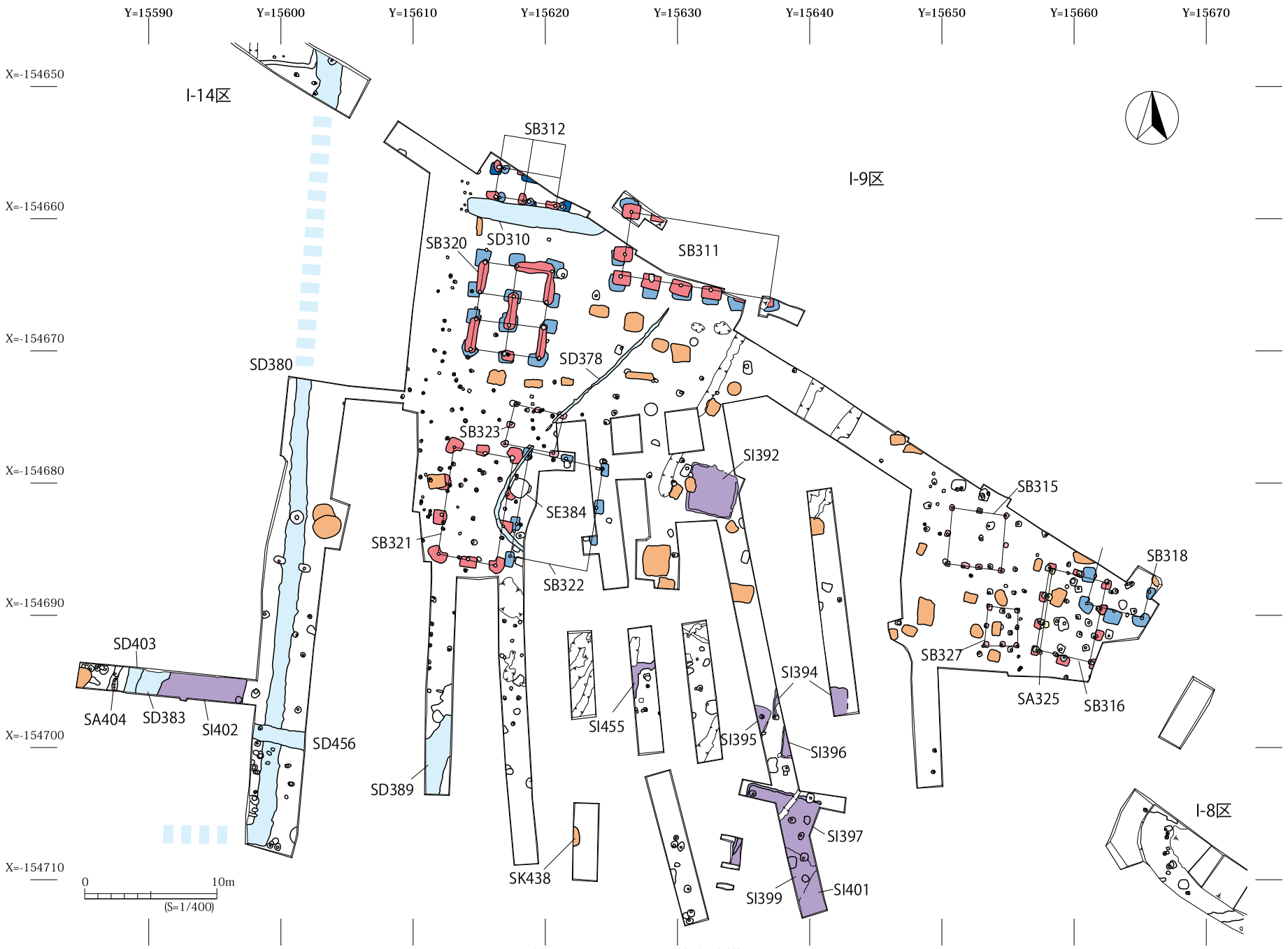
SB311A

〔**検出状況**〕8 個検出した。1 個（S1W1）で柱痕跡を確認したが、それ以外はいずれも柱が抜き取られており確認できていない。

〔**平面規模・方向**〕柱痕跡が確認できず、正確な平面規模・方向は不明であるが、B 期とほぼ同様とみられる。

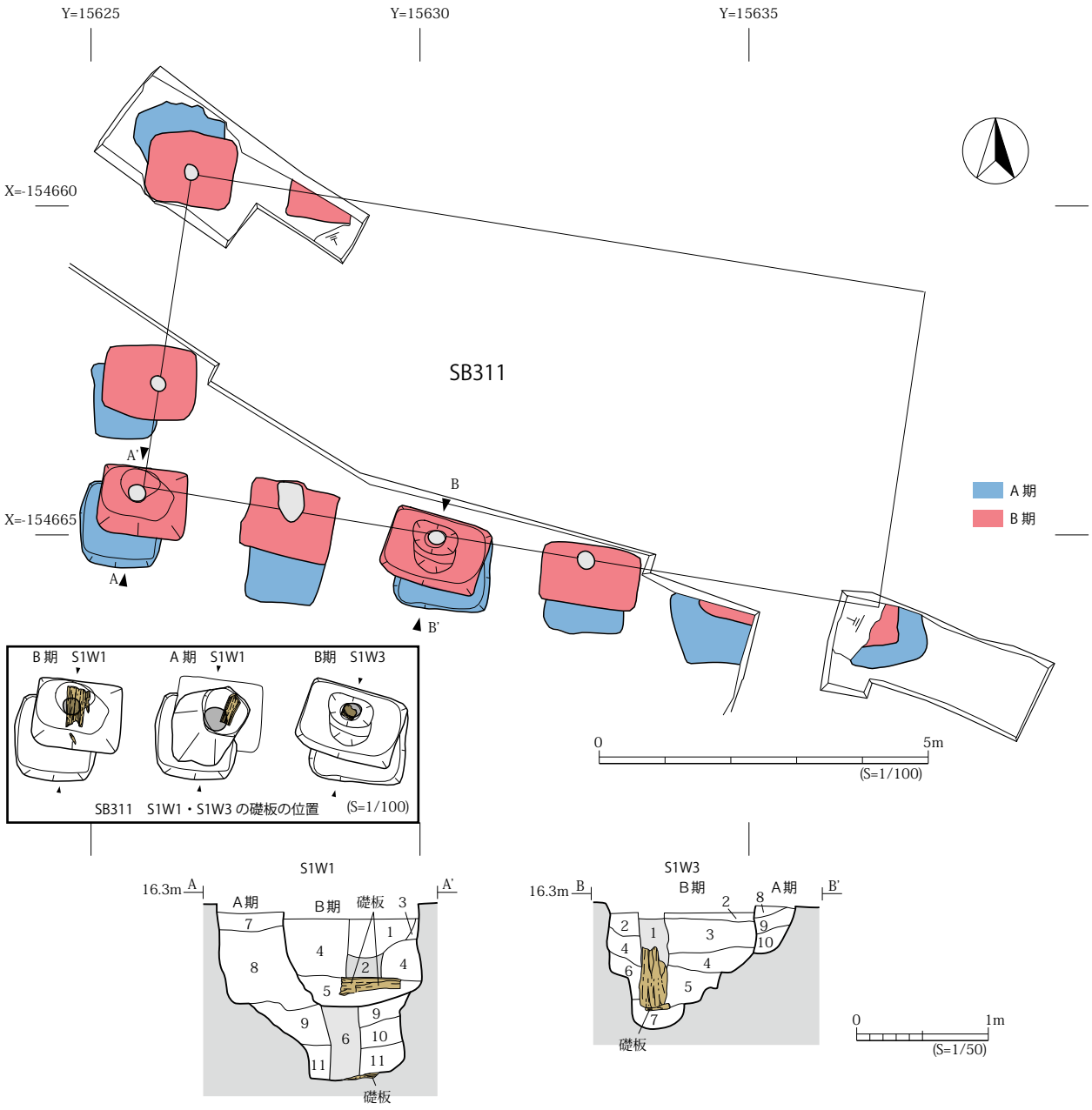
〔**柱穴**〕掘方は規模が計測できたもので長軸 116 ～ 144cm、短軸 104 ～ 144cm の隅丸方形、隅丸長方形で、深さは 36 ～ 133cm である。S1W1 では柱痕跡が確認され、径 26cm の円形である。S1W1 の柱痕跡の最下部には、長さ 49cm、幅 20cm の板材を素材とした礎板が残存していた。

〔**出土遺物**〕掘方埋土から非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏が出土した。



第 123 図　I-9 区　検出遺構

第 124 図　I-9 区西側　検出遺構



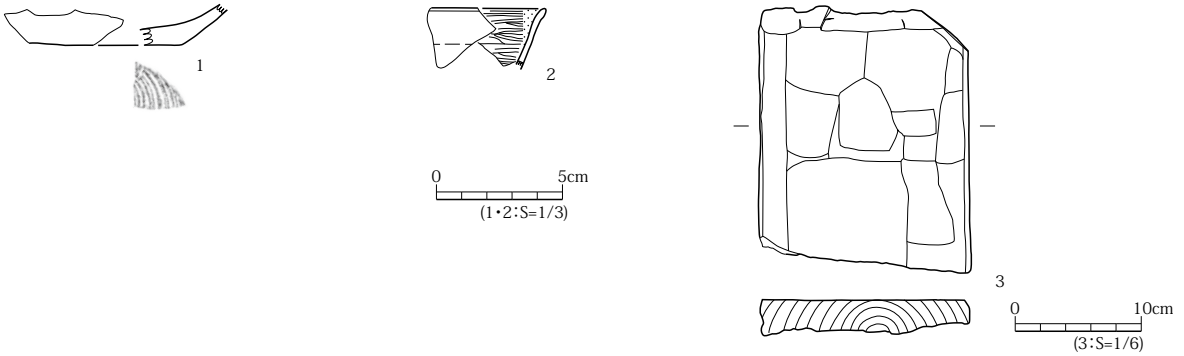
S1W1（A-A'）

遺構	層	土色	土性	含有物など	備考
SB311B	1	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックをやや多く含む	抜取穴
	2	黄灰色(2.5Y4/1)	シルト	Ⅴ層粒を含む	柱痕跡
	3	黒褐色(10YR3/1)	シルト	Ⅴ層小ブロックを非常に多く含む	掘方埋土
	4	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを非常に多く含む	
	5	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層小ブロック・ブロックを多量に含む	
SB311A	6	黒褐色(10YR3/1)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックをやや多く含む	柱痕跡
	7	灰黄褐色(10YR5/2)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを非常に多く、黒褐色（10YR3/1）シルト小ブロックを多量に含む	掘方埋土
	8	にぶい黄橙色(10YR7/2)	シルト	Ⅴ層主体　褐灰色（10YR4/1）シルト小ブロック、黒褐色（10YR3/1）粘土質シルト小ブロック・ブロックを含む	
	9	黒色(10YR2/1)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを非常に多く、南壁側にⅤ層大ブロックを含む	
	10	黒色(10YR2/1)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む	
	11	黒色(10YR2/1)	粘土質シルト	Ⅴ層大ブロックを多量に含む	

S1W3（B-B'）

遺構	層	土色	土性	含有物など	備考
SB311B	1	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	Ⅴ層粒を少量含む	柱痕跡
	2	黒褐色(10YR3/1)	シルト	Ⅴ層小ブロックを非常に多く含む	掘方埋土
	3	褐灰色(10YR4/1)	シルト	層下部にⅤ層ブロックを多量に含む	
	4	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを非常に多く含む	
	5	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層ブロックを非常に多く含む	
	6	灰黄褐色(10YR5/2)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを非常に多く含む	
	7	黒色(10YR2/1)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む	
SB311A	8	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを多量に含む	掘方埋土
	9	灰黄褐色(10YR5/2)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを非常に多く、黒褐色（10YR3/1）シルト小ブロックを多量に含む	
	10	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを非常に多く含む	

第 125 図　I-9 区　SB311 掘立柱建物跡



No.	種別・器種	層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	須恵器　坏	B 期 S1W1　一段下げ	(体～底)一部	外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整	66-9	R794
2	土師器　坏	B 期 S1W2　掘方埋土	(口～体)一部	外：ロクロナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理	66-10	R792
3	木製品　礎板	B 期 S1W3	ほぼ完形	長 21.1㎝　幅 16.9㎝　厚 3.1㎝　木取り：板目	66-11	R927

第 126 図　I-9 区　SB311 掘立柱建物跡　出土遺物

SB311B

〔**検出状況**〕9 個検出し、5 個で柱痕跡、2 個（S1W1、S1W2）で柱抜取穴を確認した。

〔**平面規模**〕桁行は、南側柱列で、柱痕跡が確認でき柱穴の全体が検出できた西側 3 間分で 6.9m、柱間寸法は 2.3m 等間であり、これらから推定される総長は 11.5m とみられる。梁行は、西妻で総長 5.0m、柱間寸法は北から 2 個目の柱穴が確認できておらず、北 2 間分が 3.3m であり、ここから推定すると北から 1.65m、1.65m、1.7m である。

〔**方向**〕西側柱列で測ると北で東に 9°偏る。

〔**柱穴**〕掘方は長軸 136 ～ 152cm、短軸 94 ～ 120cm の隅丸長方形で、深さは 77 ～ 95cm である。柱痕跡は長軸 18 ～ 26cm の円形、楕円形である。

S1W3 では下部で柱材と礎板が残存しており、柱材は径 23cm、礎板は長さ 22cm、幅 18cm、厚さ 3cm の板材を素材としている（第 126 図 3）。礎板は、柱材の下端面の南側に掘方埋土 7 層上面と柱材の隙間に差し込まれた状態で設置されていた

S1W1 では礎板のみ残存しており、板状のもの 2 点と角材状のもの 1 点を検出した。板状のものは、長さ 62cm、幅 31cm と長さ 18cm、幅 4cm、角材状のものは長さ 33cm、幅 9cm 程度である。

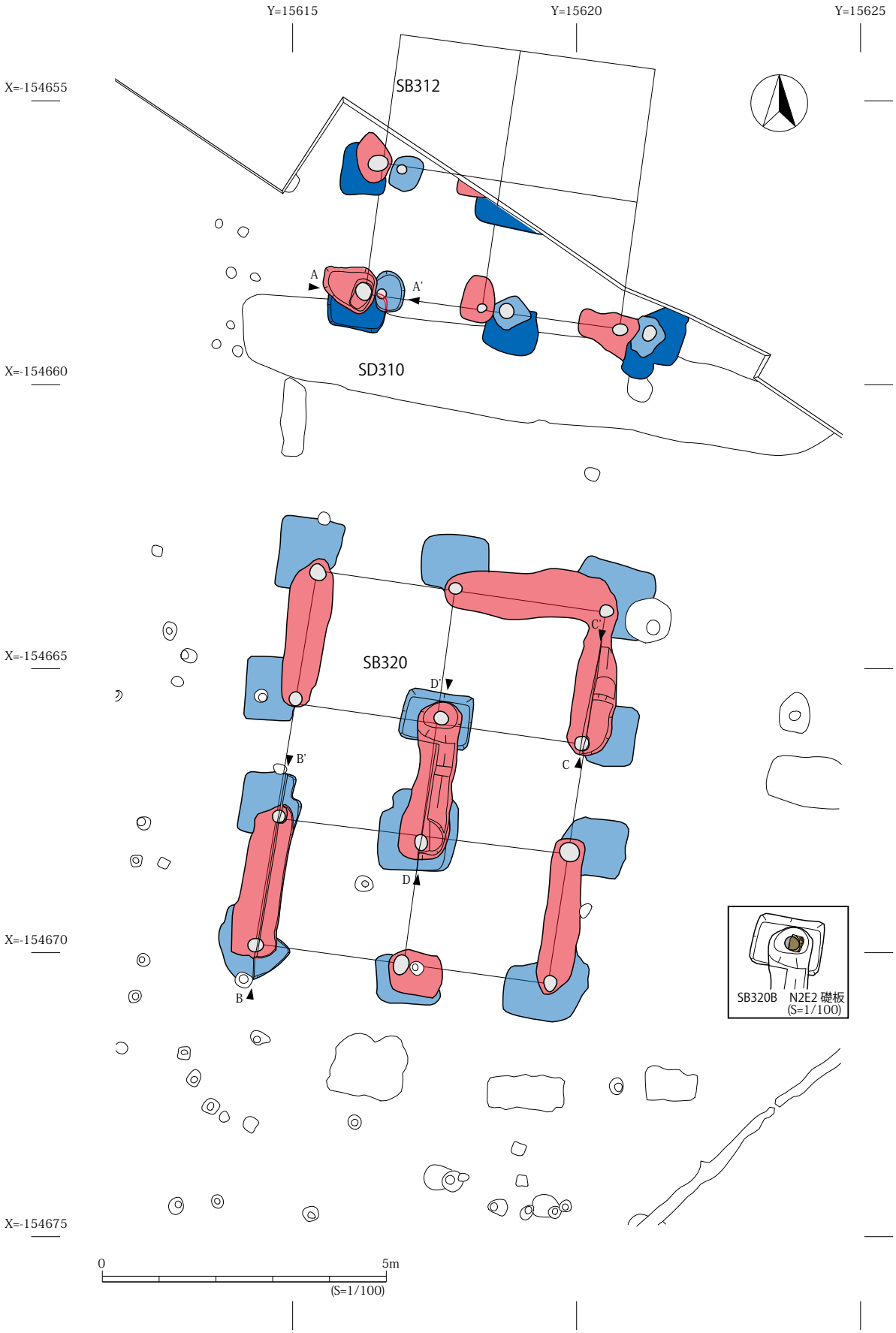
〔**出土遺物**〕掘方埋土からロクロ調整の土師器坏（第 126 図 2）と非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏、柱痕跡と柱抜取穴から非ロクロ調整の土師器甕、須恵器甕、一段下げ時にロクロ調整の土師器坏、須恵器坏（1）が出土した。

【SB312掘立柱建物跡】（平面図：第 127 図、断面図・遺物：第 128 図）

〔**位置**〕北西端に位置し、南側柱列と西側柱列の一部を検出した。南西隅柱の S1W1 を半截、完掘し、それ以外の柱穴については遺構確認のみ行った。2 度（A → B → C）建て替えられている。

〔**柱間数・棟方向**〕東西 2 間、南北 2 間以上の総柱建物跡とみられる。

〔**重複**〕SD310 溝跡と重複し、これより古い。



第 127 図　I-9 区　SB312・320 掘立柱建物跡

SB312A

〔**検出状況**〕5 個検出した。いずれの柱も抜き取られており、柱痕跡を確認できない。

〔**平面規模・方向**〕柱痕跡が確認できず、正確な平面規模・方向は不明である。

〔**柱穴**〕掘方は長軸 92 ～ 135cm の隅丸長方形で、深さは S1W1 で 26cm である。

〔**出土遺物**〕掘方埋土から土師器甕が出土した。

SB312B

〔**検出状況**〕4 個検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認した。

〔**平面規模**〕南側柱列が総長 4.8m、柱間寸法は東から 2.6m、2.2m、西側柱列が総長 2.2m 以上である。

〔**方向**〕西側柱列で測ると北で東に 9°偏る。

〔**柱穴**〕掘方は長軸 62 ～ 70cm の隅丸方形、隅丸長方形、楕円形で、深さは S1W1 で 21cm である。柱痕跡は長軸 16 ～ 28cm の円形、楕円形である。

〔**出土遺物**〕掘方埋土から土師器甕が出土した。

SB312C

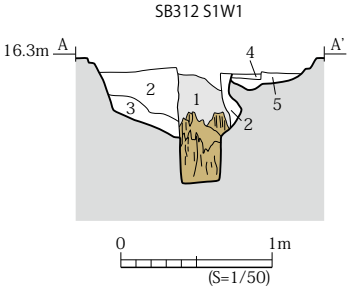
〔**検出状況**〕5 個検出し、3 個で柱痕跡、1 個（S2W1）で柱抜取穴を確認した。

〔**平面規模**〕南側柱列が総長 4.6m、柱間寸法は東から 2.5m、2.1m、西側柱列が総長 2.3m 以上である。

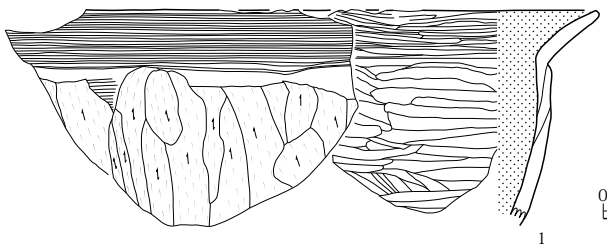
〔**方向**〕西側柱列で測ると北で東に 7°偏る。

〔**柱穴**〕掘方は長軸 82 ～ 110cm の隅丸長方形、楕円形で、深さは S1W1 で 82cm である。柱痕跡は長軸 17 ～ 28cm の円形､楕円形である。S1W1 では柱痕跡の下部に径 28cm の柱材が残存していた。

〔**出土遺物**〕掘方埋土から非ロクロ調整の土師器鉢（第 128 図 1）・甕、柱痕跡から土師器甕、須恵器坏が出土した。



遺構	層	土色	土性	含有物など	備考
SB312C	1	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	灰黄褐色(10YR6/2)シルト粒を含む	柱痕跡
	2	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト小ブロック、灰黄色(2.5Y6/2)シルト質砂小～大ブロックを多量に含む	掘方埋土
	3	暗灰黄色(2.5Y5/2)	砂質シルト	黒褐色(10YR3/1)粘土質シルトブロック・大ブロックを含む	
SB312B	4	灰黄色(2.5Y6/2)	シルト質砂	黒褐色(10YR3/1)シルト小ブロック・ブロックを含む	掘方埋土
	5	灰黄色(2.5Y6/2)	シルト質砂	褐灰色(10YR5/1)粘土質シルト小ブロックを少量含む	



No.	種別・器種	層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	土師器　鉢	C 期 S1W1 掘方埋土	(口～体)一部	外：(口)ナデ(体)ナデ→ヘラケズリ→(頸)棒状工具によるナデで段作出 内：ヘラミガキ→黒色処理	66-12	R795

第 128 図　I-9 区　SB312 掘立柱建物跡　断面・出土遺物

【SB320掘立柱建物跡】（平面図：第 127 図、断面図：第 129 図）

〔**位置**〕北西部に位置し、すべての柱穴を検出した。隅柱の S1W1 と S2W1、棟通りの N2E2 と N3E2、側柱の N2E1 の半截を行い、N2E2 のみ完掘した。それ以外の柱穴については遺構確認のみ行った。1 度（A → B）建て替えられ、掘方が壺掘りから壺掘りと溝状へ変化する。

〔**柱間数・棟方向**〕桁行 3 間、梁行 2 間の南北棟総柱建物跡である。

SB320A

〔**検出状況**〕12 個検出した。いずれも柱が抜き取られており、柱痕跡を確認できない。

〔**平面規模・方向**〕柱痕跡が確認できず、正確な平面規模・方向は不明であるが、B 期とほぼ同様とみられる。

〔**柱穴**〕掘方は長軸 110 ～ 150cm の隅丸長方形、不整な隅丸長方形で、隅柱が「L」字形ないしそれを回転させた形になる可能性がある。深さは 35 ～ 50cm である。

〔**出土遺物**〕掘方埋土から土師器坏・甕、須恵器坏・甕が出土した。

SB320B

〔**検出状況**〕S1E2 が壺掘り、それ以外は溝状の掘方である。すべての柱穴で柱痕跡を確認した。

〔**平面規模**〕桁行が西側柱列で総長 6.7m、柱間寸法は北から 2.3m、2.1m、2.3m、梁行が南妻で総長 5.2m、柱間寸法は東から 2.6m 等間である。南北方向の棟通りは総長 6.7m で、柱間寸法は北から 2.3m、2.2m、2.2m である。

〔**方向**〕西側柱列で測ると北で東に 9°偏る。

〔**柱穴**〕S1E2 の掘方は長軸 100cm、短軸 76cm の隅丸長方形である。これ以外が溝状の掘方で、北東隅柱周辺は「L」字形となる。掘方は長さ 266 ～ 325cm、幅 54 ～ 90cm で、深さ 64 ～ 90cm である。柱痕跡は長軸 22 ～ 36cm の円形、楕円形である。

N2E1 と S2W1 で柱材、棟通りの N2E2 と S2E2 では柱材と礎板が残存していた。N2E1 の柱材は径 29cm、S2W1 は径 30cm である。N2E2 では、柱材が径 28cm、礎板が長さ 29cm、幅 18cm、厚さ 4cm である。礎板は、柱の下端面の東側に掘方底面と柱材の隙間に差し込まれた状態で設置されていた。S2E2 では、柱材が径 25cm、礎板が厚さ 3cm で、半截のみのため全体を検出しておらず礎板の長さと幅は不明である。

〔**出土遺物**〕掘方埋土から土師器坏・甕、須恵器坏・蓋・甕、柱痕跡から土師器甕、須恵器坏・蓋が出土した。

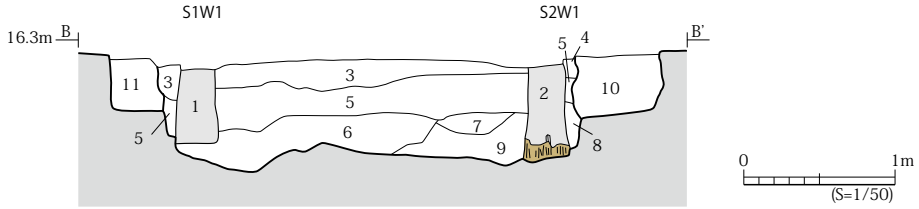
【SB321掘立柱建物跡】（平面・断面図：第 130 図、遺物：第 131 図）

〔**位置**〕西側中央に位置し、すべての柱穴を検出した。南西隅柱の S1W1 のみ截ち割りを行い、それ以外の柱穴については遺構確認のみ行った。

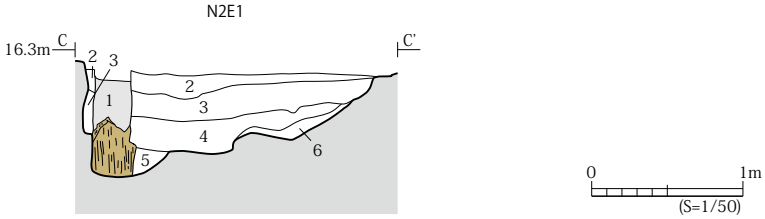
〔**柱間数・棟方向**〕桁行 3 間、梁行 2 間の床束を伴う南北棟建物跡である。

〔**重複**〕SB322 掘立柱建物跡、SD378 溝跡、SE384 井戸跡と重複し、SB322 より新しく、それ以外より古い。

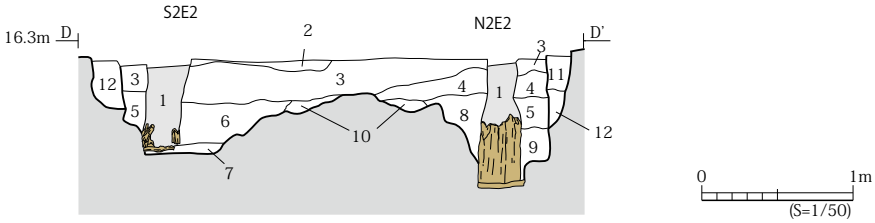
〔**検出状況**〕10 個検出し、8 個で柱痕跡、2 個（N1E1、N1E2）で柱抜取穴を確認した。



遺構	層	土色	土性	含有物など	備考
SB320B	1	黒褐色(10YR3/2)	砂質シルト	灰黄褐色(10YR5/2)シルト粒・小ブロックを少量、層上部に黒褐色(10YR3/1)粘土を層状に、酸化鉄を層上部と中心部に多量に含む	柱痕跡
	2	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	黒色(10YR2/1)シルト小ブロックを多量に、酸化鉄含む	
	3	にぶい黄褐色(10YR7/2)	シルト質粘土	黒褐色(10YR3/2)シルト質砂ブロック・大ブロック、にぶい黄橙色(10YR6/3)シルトブロック・大ブロックを層上部に多量に、酸化鉄を含む	掘方埋土
	4	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	V層小ブロックを少量、酸化鉄を含む	
	5	灰黄褐色(10YR6/2)	砂質シルト	酸化鉄を層中部に多量に、黒褐色(10YR3/2)シルト質砂ブロック・大ブロックを含む	
	6	灰黄褐色(10YR5/2)	砂質シルト	酸化鉄、黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト小ブロックを少量、灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト小ブロック・ブロックを多量に含む	
	7	灰黄褐色(10YR5/2)	シルト質砂	酸化鉄、黒色(10YR2/1)シルト質砂小ブロック・ブロックを少量含む	
	8	灰黄褐色(10YR5/2)	シルト質砂	酸化鉄、黒色(10YR2/1)シルト質砂小ブロック、黒褐色(10YR3/2)シルト質粘土大ブロックを少量含む	
	9	灰黄褐色(10YR5/2)	粘土	酸化鉄、黒褐色(10YR3/1)砂質シルト小ブロックを少量、黒褐色(10YR3/2)シルト質粘土大ブロックを含む	
SB320A	10	灰黄色(2.5Y6/2)	シルト	酸化鉄を少量、黒褐色(10YR2/2)粘土質シルトを層中部に、黒褐色(10YR3/2)砂質シルトブロックを含む	掘方埋土
	11	にぶい黄褐色(10YR6/3)	砂質シルト	酸化鉄を少量、黒褐色(10YR3/2)砂質シルトを含む	

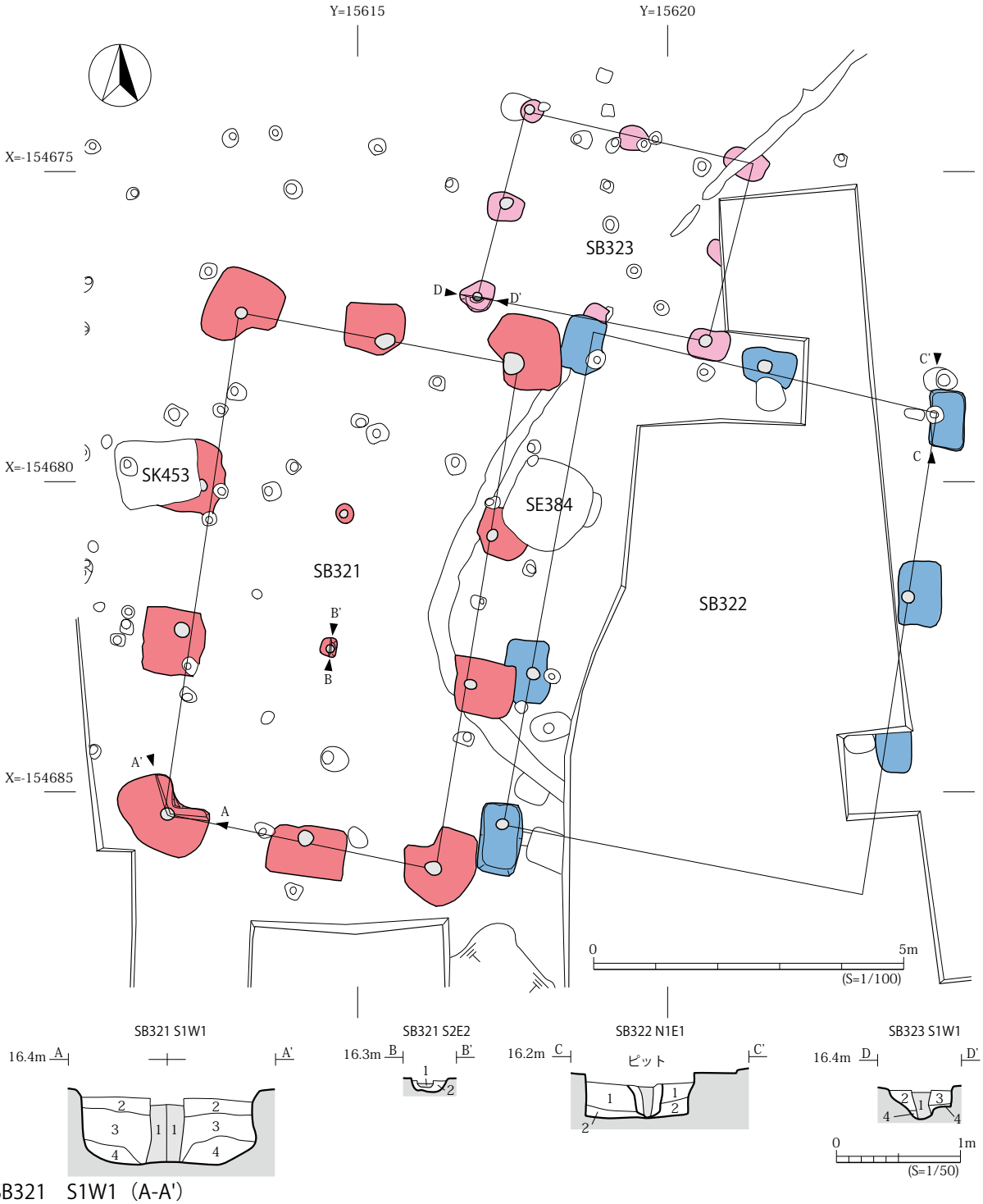


遺構	層	土色	土性	含有物など	備考
SB320B	1	黒褐色(10YR3/2)	粘土	褐灰色(10YR4/1)シルト質粘土大ブロックを含む	柱痕跡
	2	灰黄褐色(10YR5/2)	砂質シルト	灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト小ブロック・ブロック、褐灰色(10YR4/1)シルト小ブロック・ブロックを多量に含む	掘方埋土
	3	にぶい黄色(10YR6/3)	シルト質砂	暗褐色(10YR3/3)粘土質シルト粒・小ブロックを少量含む	
	4	暗灰黄色(2.5Y5/2)	シルト質砂	黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト小ブロック・ブロックを含む	
	5	暗灰黄色(2.5Y5/2)	シルト質砂	黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト粒を少量含む	
	6	灰黄褐色(10YR5/2)	シルト質粘土	灰黄色(2.5Y6/2)シルト質砂小ブロックを含む	



遺構	層	土色	土性	含有物など	備考
SB320B	1	黒褐色(10YR3/2)	粘土	褐灰色(10YR4/1)シルト質粘土大ブロックを含む	柱痕跡
	2	灰黄褐色(10YR6/2)	シルト	V層粒・小ブロックを非常に多く、黒褐色(10YR3/2)シルト小ブロックを含む	掘方埋土
	3	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層粒・小ブロックを非常に多く含む	
	4	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	V層粒・小ブロック、黒褐色(10YR3/2)シルト小ブロックを多量に含む	
	5	灰白色(2.5Y7/1)	シルト	黒褐色(10YR3/1)シルト小ブロックをやや多く含む	
	6	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	V層粒・小ブロックを非常に多く含む	
	7	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	V層小ブロックをやや多く含む	
	8	灰黄色(2.5Y6/2)	シルト	黒褐色(10YR3/1)シルト粒・小ブロックを多量に含む	
	9	褐灰色(10YR4/1)	シルト	V層小ブロックを多量に含む	
	10	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	V層ブロックを多量に含む	
SB320A	11	にぶい黄橙色(10YR7/2)	砂質シルト	黒褐色(10YR3/2)シルト小ブロックを含む	掘方埋土
	12	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層小ブロックを含む	

第 129 図　I-9 区　SB320 掘立柱建物跡　断面



SB321　S1W1（A-A'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層粒を少量含む	柱痕跡
2	暗褐色(10YR3/3)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックをやや多く含む	掘方埋土
3	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層小ブロックを非常に多く含む	
4	灰黄褐色(10YR6/2)	シルト	Ⅴ層小ブロックを非常に多く含む	

SB321　S2E2（B-B'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	Ⅴ層粒を少量含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層小ブロックをやや多く含む	掘方埋土

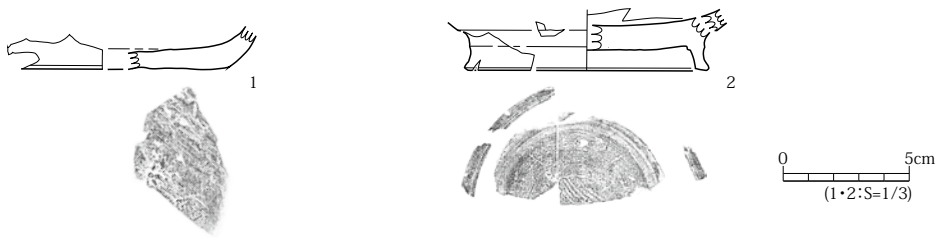
SB322　N1E1（C-C'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを非常に多く含む	掘方埋土
2	灰白色(2.5Y7/1)	シルト	黒褐色(10YR3/1)シルト小ブロックを少量含む	

SB323　S1W1（D-D'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	焼土粒、Ⅴ層粒、黒色(10YR2/1)粘質シルト小ブロックを含む	柱痕跡
2	暗褐色(10YR3/3)	シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む	掘方埋土
3	暗褐色(10YR3/3)	シルト	Ⅴ層小ブロックを含む	
4	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	Ⅴ層小ブロックをやや多く含む	

第 130 図　I-9 区　SB321・322・323 掘立柱建物跡



No.	種別・器種	層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	須恵器　坏	N1E1　掘方埋土	（体～底）一部	外内：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り→ナデ　火襷痕あり	66-14	R800
2	須恵器　高台坏	S2W1　掘方埋土	（高台）1/2	高台径（9.6cm）　外内：ロクロナデ 底：回転糸切り→外周を回転ヘラケズリ→高台取り付け→ロクロナデ	66-15	R803

第 131 図　I-9 区　SB321 掘立柱建物跡　出土遺物

〔**平面規模**〕桁行が西側柱列で総長 8.2m、柱間寸法は北から 2.9m、2.3m、3.0m、梁行が南妻で総長 4.4m、柱間寸法は東から 2.1m、2.3m である。

〔**方向**〕西側柱列で測ると北で東に 8°偏る。

〔**柱穴**〕掘方の平面は、隅柱が「L」字形ないしそれを回転させた形で、それ以外が隅丸長方形である。隅柱は長軸 125 ～ 140cm、短軸 118 ～ 136cm、深さは S1W1 で 60cm である。それ以外の柱穴は、長軸 106 ～ 125cm、短軸 84 ～ 102cm の隅丸長方形である。柱痕跡は長軸 18 ～ 28cm の円形、楕円形で、建物内部側に位置する。N1E1 と N1E2 の掘方埋土と柱抜取穴には焼土と炭化物が含まれている。

〔**束柱**〕棟通り下で 2 個検出した。長軸 32cm、短軸 26 ～ 30cm の楕円形、隅丸方形で、深さは S2E2 で 11cm である。どちらの柱穴でも柱痕跡が確認され、径 12 ～ 14cm の円形である。

〔**出土遺物**〕掘方埋土から土師器坏・甕、須恵器坏（第 131 図 1）・高台坏（2）・甕、瓦、柱痕跡から土師器坏・甕、須恵器坏・甕、柱抜取穴から土師器甕が出土した。

【SB322 掘立柱建物跡】（平面・断面図：第 130 図）

〔**位置**〕中央西側に位置し、北側柱列と東西柱列の一部を検出した。北東隅柱の N1E1 と南西隅柱の S1W1 の半截、完掘、それ以外の柱穴については遺構確認のみ行った。

〔**柱間数・棟方向**〕桁行 3 間、梁行 2 間の南北棟建物跡である。

〔**重複**〕SB321・323 掘立柱建物跡、SD378 溝跡、SE384 井戸跡と重複し、SB323 より新しく、それ以外より古い。

〔**検出状況**〕7 個検出し、4 個で柱痕跡を確認した。

〔**平面規模**〕桁行が西側柱列で総長 8.1m、柱間寸法は北から 2 間分が 5.6m、次の 1 間分が 2.5m、梁行が北妻で推定総長 5.7m、柱間寸法は東からおよそ 2.9m、2.8m である。

〔**方向**〕西側柱列で測ると北で東に 10°偏る。

〔**柱穴**〕掘方は長軸 90 ～ 120cm、短軸 60 ～ 80cm の隅丸長方形で、深さは N1E1 と S1W1 で 36cm と 42cm である。柱痕跡は長軸 20 ～ 23cm の円形、楕円形である。N1W1 と N1E2、N2E1、N3E1 の掘方埋土には、焼土や炭化物が含まれ、このほかに N1W1 では被熱した壁土が多く含まれている。

〔**出土遺物**〕掘方埋土から土師器坏・甕、須恵器坏・蓋、柱痕跡から土師器甕と須恵器坏が出土した。

【SB323掘立柱建物跡】（平面・断面図：第 130 図）

〔**位置**〕西側中央に位置し、すべての柱穴を検出した。南西隅柱である S1W1 のみ半截し、それ以外の柱穴については遺構確認のみ行った。

〔**柱間数・棟方向**〕東西 2 間、南北 2 間の東西棟建物跡である。

〔**重複**〕SB322 掘立柱建物跡、SD378 溝跡と重複し、これらより古い。

〔**検出状況**〕8 個検出し、4 個で柱痕跡を確認した。

〔**平面規模**〕桁行は南側柱列で総長 3.8m、柱間寸法は東から 1.9m 等間とみられ、梁行は西妻で総長 3.2m、柱間寸法は北から 1.6m 等間である。

〔**方向**〕西側柱列で測ると北で東に 15°偏る。

〔**柱穴**〕掘方は長軸 38 ～ 76cm の隅丸長方形、円形、楕円形で、深さは S1W1 で 26cm である。柱痕跡は長軸 13 ～ 22cm の円形、楕円形である。

〔**出土遺物**〕掘方埋土から土師器甕が出土した。

＜東側＞

4 棟（SB315・316・318・327）検出した（第 132 図）。

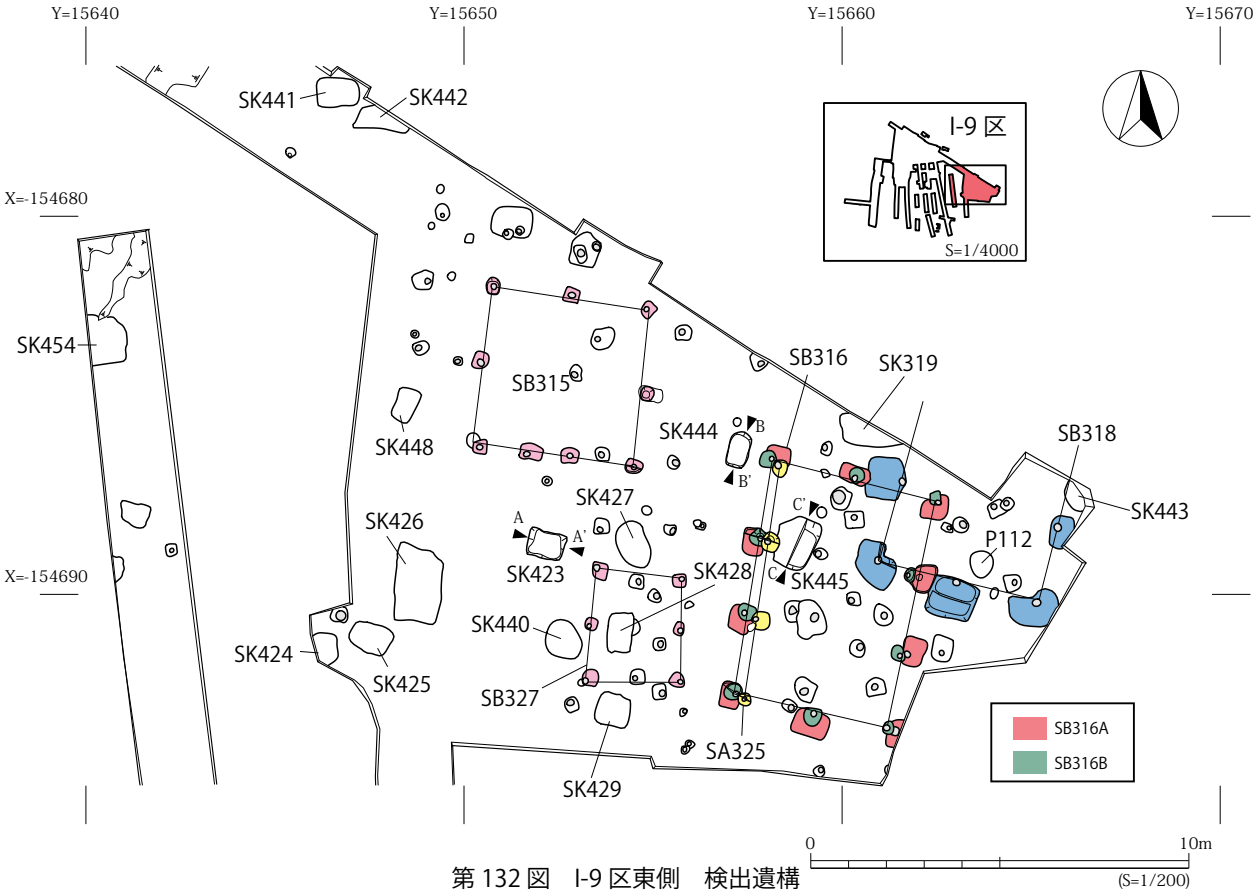
【SB315掘立柱建物跡】（平面図：第 133 図、断面図：第 134 図）

〔**位置**〕南東端に位置し、すべての柱穴を検出した。北西隅柱の N1W1 と側柱の N2E1 を半截、完掘、南東隅柱の S1E1 を半截し、それ以外の柱穴については遺構確認のみ行った。

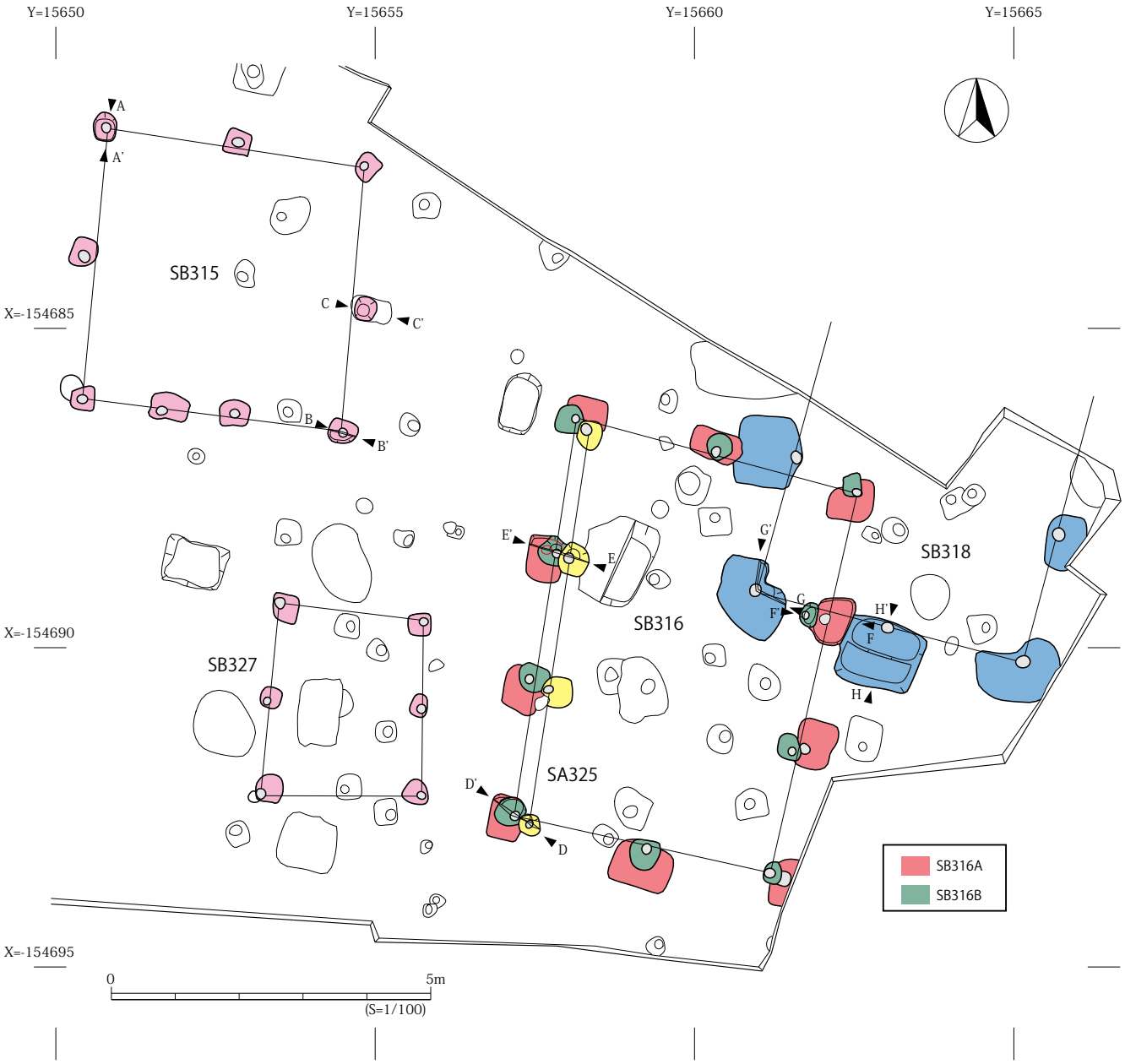
〔**柱間数・棟方向**〕東西 2 間、南北 2 間で、南側柱列が 3 間となる方形の建物跡である。

〔**検出状況**〕9 個検出し、8 個で柱痕跡、1 個（N2E1）で柱抜取穴を確認した。

〔**平面規模**〕西側柱列で総長 4.3m、柱間寸法は北から 2.05m、2.25m、北側柱列で総長 4.1m、柱間寸法は東から 2.0m、2.1m、南側柱列で総長 4.1m、柱間寸法は東から 1.7m、1.15m、1.25m である。



第 132 図　I-9 区東側　検出遺構



第 133 図　I-9 区　SB315・316・318・327 掘立柱建物跡、SA325 柱列跡

〔**方向**〕西側柱列で測ると北で東に 5°偏る。

〔**柱穴**〕掘方は長軸 38 ～ 65cm、短軸 35 ～ 45cm の隅丸方形、隅丸長方形、楕円形で、深さは 14 ～ 30cm である。柱痕跡は長軸 14 ～ 20cm の円形、楕円形である。

〔**出土遺物**〕掘方埋土から土師器坏・甕、柱痕跡から土師器甕が出土した。

【SB316掘立柱建物跡】（平面図：第 133 図、断面図・遺物：第 134 図）

〔**位置**〕南東端に位置し、すべての柱穴を検出した。1 度（A → B）建て替えられている。側柱の N2E1 を半截、完掘、側柱の N2W1 と南西隅柱の S1W1 を半截、それ以外の柱穴については遺構確認のみ行った。

〔**柱間数・棟方向**〕桁行 3 間、梁行 2 間の南北棟建物跡である。

〔**重複**〕SB318 掘立柱建物跡、SA325 柱列跡と重複し、SB318 より新しく、SA325 より古い。

〔**方向**〕東側柱列で測ると北で東に 9°偏る。

SB316A

〔**検出状況**〕10 個検出し、4 個で柱痕跡、1 個（N2E1）で柱抜取穴を確認した。建て替えの際に A 期の柱は抜き取られたとみられる。

〔**平面規模**〕桁行が東側柱列で推定総長 6.2m、柱間寸法は北から 2.1m、2.0m、2.1m とみられ、梁行が南妻で推定総長 4.5m、柱間寸法は東から 2.2m、2.3m とみられる。

〔**柱穴**〕掘方は長軸 66 ～ 100cm、短軸 50 ～ 74cm の隅丸方形、隅丸長方形で、深さは 26 ～ 59cm である。柱痕跡は長軸 16 ～ 22cm の円形、楕円形である。

〔**出土遺物**〕掘方埋土から土師器坏・甕、須恵器坏・甕、柱痕跡から須恵器坏（第 134 図 1）が出土した。

SB316B

〔**検出状況**〕10 個検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認した。

〔**平面規模**〕桁行が西側柱列で総長 6.3m、柱間寸法は北から 2.1m、2.0m、2.2m、梁行が南妻で総長 4.1m、柱間寸法は東から 2.0m、2.1m である。

〔**柱穴**〕掘方は長軸 36 ～ 50cm、短軸 26 ～ 46cm の円形、楕円形、隅丸方形、隅丸長方形で、深さは 24 ～ 44cm である。柱痕跡は長軸 12 ～ 18cm の円形、楕円形である。

〔**出土遺物**〕掘方埋土から土師器坏・甕、須恵器坏・甕、柱痕跡から土師器坏・甕、須恵器坏が出土した。

【SB318掘立柱建物跡】（平面図：第 133 図、断面図：第 135 図）

〔**位置**〕南東端に位置し、南側柱列と東西柱列の一部を検出した。側柱の S1E2 を半截、完掘、南西隅柱の S1W1 を截ち割り、それ以外の柱穴については遺構確認のみ行った。

〔**柱間数・棟方向**〕桁行 2 間以上、梁行 2 間の南北棟建物跡とみられる。

〔**重複**〕SB316 掘立柱建物跡と重複し、これより古い。

〔**検出状況**〕5 個検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認した。

〔**平面規模**〕桁行が西側柱列で総長 2.2m 以上、梁行が南妻で総長 4.4m、柱間寸法は 2.2m 等間である。

〔**方向**〕西側柱列で測ると北で東に 17°偏る。

〔**柱穴**〕掘方の平面は、隅柱である S1E1 と S1W1 が「L」字形とそれを反転させた形、それ以外が隅丸方形、隅丸長方形である。隅柱は長軸 125 ～ 130cm、短軸 96 ～ 110cm、S1W1 で深さ 52cm、それ以外は長軸 88 ～ 126cm、短軸 60 ～ 110cm、S1E2 で深さ 50cm である。柱痕跡は建物内部側に位置し、西側柱列の S2W1 は掘方の東壁中央、南側柱列の S1E2 は掘方の北壁中央に接する。規模は長軸 16 ～ 22cm、平面は円形、楕円形である。

〔**出土遺物**〕掘方埋土から土師器坏・甕、須恵器坏・蓋・壺・甕、柱痕跡から土師器坏・甕、須恵器坏が出土した。

【SB327掘立柱建物跡】（平面図：第 133 図）

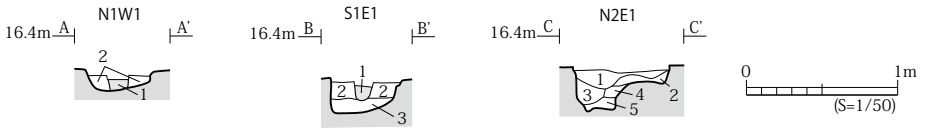
〔**位置**〕南東端に位置し、すべての柱穴を検出した。遺構確認のみ行った。

〔**柱間数・棟方向**〕桁行 2 間、梁行 1 間の南北棟建物跡である。

〔**検出状況**〕6 個検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認した。

〔**平面規模**〕桁行は西側柱列で総長 3.0m、柱間寸法が北から 1.55m、1.45m、梁行は南妻で 2.55m である。

SB315



N1W1（A-A'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/1)	シルト		柱痕跡
2	黒褐色(10YR3/1)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを少量含む	掘方埋土

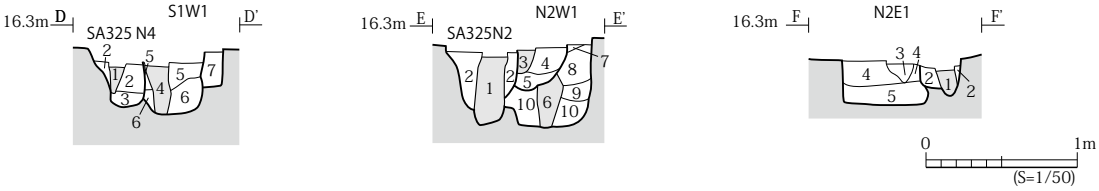
S1E1（B-B'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	炭化物片をわずかに含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層粒をやや多く、Ⅴ層小ブロックを少量含む	掘方埋土
3	黒褐色(10YR3/1)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを多量に含む	

N2E1（C-C'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層小ブロック・ブロックを含む	抜取穴
2	黒褐色(10YR3/1)	シルト	Ⅴ層小ブロック含む	
3	黒褐色(10YR3/1)	シルト	Ⅴ層粒をわずかに含む	
4	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む	掘方埋土
5	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを非常に多く含む	

SB316



S1W1・SA325　N4（D-D'）

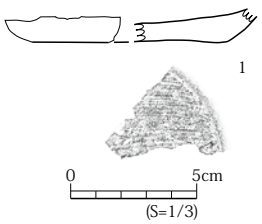
遺構	層	土色	土性	含有物など	備考
SA325	1	暗褐色(10YR3/3)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを少量含む	柱痕跡
	2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む	掘方埋土
	3	黒褐色(10YR3/3)	シルト	Ⅴ層粒を含む	
SB316B	4	黒褐色(10YR3/4)	シルト	Ⅴ層粒を含む	柱痕跡
	5	黒褐色(10YR3/5)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを多量に含む	掘方埋土
	6	黒褐色(10YR3/6)	シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む	
SB316A	7	黒褐色(10YR3/7)	シルト	Ⅴ層小ブロックを非常に多く含む	掘方埋土

N2W1・SA325　N2（E-E'）

遺構	層	土色	土性	含有物など	備考
SA325	1	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを少量含む	柱痕跡
	2	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを多量に含む	掘方埋土
SB316B	3	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを含む	柱痕跡
	4	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを多量に含む	掘方埋土
	5	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを含む	
SB316A	6	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを含む	柱痕跡
	7	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを非常に多く、炭化物片を少量含む	掘方埋土
	8	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを多量に含む	
	9	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを含む	
	10	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを非常に多く含む	

N2E1（F-F'）

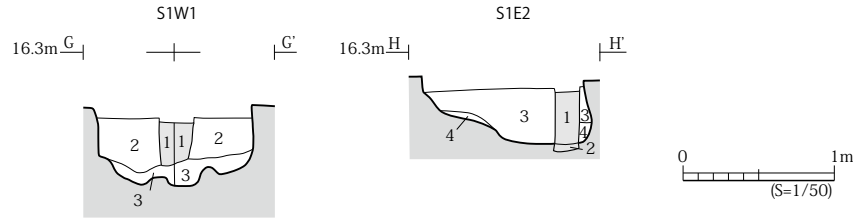
遺構	層	土色	土性	含有物など	備考
SB316B	1	黄灰色(2.5Y4/1)	粘土質シルト	Ⅴ層粒をやや多く含む	柱痕跡
	2	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	Ⅴ層粒・小ブロックをやや多く含む	掘方埋土
SB316A	3	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	Ⅴ層粒を含む	抜取穴
	4	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを多量に含む	掘方埋土
	5	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック・ブロックを多量に含む	



No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	須恵器　坏	SB316A N2E1　柱痕跡	(体～底)一部	外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整	66-13	R797

第 134 図　I-9 区　SB315・316 掘立柱建物跡　断面・出土遺物

SB318



S1W1（G-G'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR3/3)	シルト	Ⅴ層小ブロック・ブロックを非常に多く含む	掘方埋土
3	灰白色(10YR8/2)	粘土質シルト	黒褐色(10YR3/1)シルト小ブロックをやや多く含む	

S1E2（H-H'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	Ⅴ層粒を含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックをやや多く含む	
3	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック・ブロックを多量に、炭化物粒を少量含む	掘方埋土
4	灰白色(10YR8/2)	粘土	黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト小ブロックを少量含む	

第 135 図　I-9 区　SB318 掘立柱建物跡　断面

〔**方向**〕西側柱列で測ると北で東に 5°偏る。

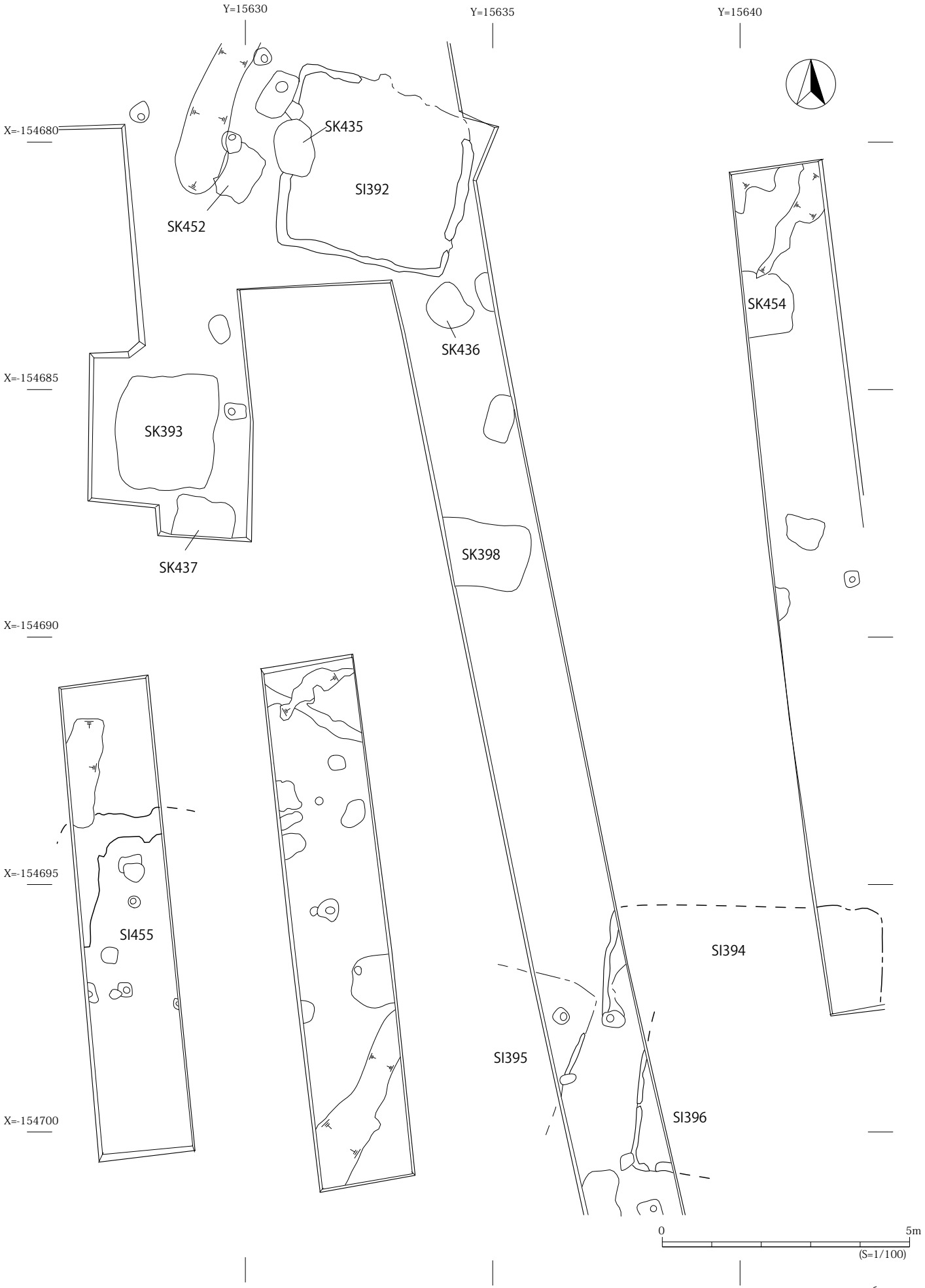
〔**柱穴**〕掘方は長軸 34 ～ 46cm、短軸 26 ～ 42cm の隅丸方形、隅丸長方形、楕円形である。柱痕跡は長軸 12 ～ 18cm の円形、楕円形である。

B. 竪穴建物跡

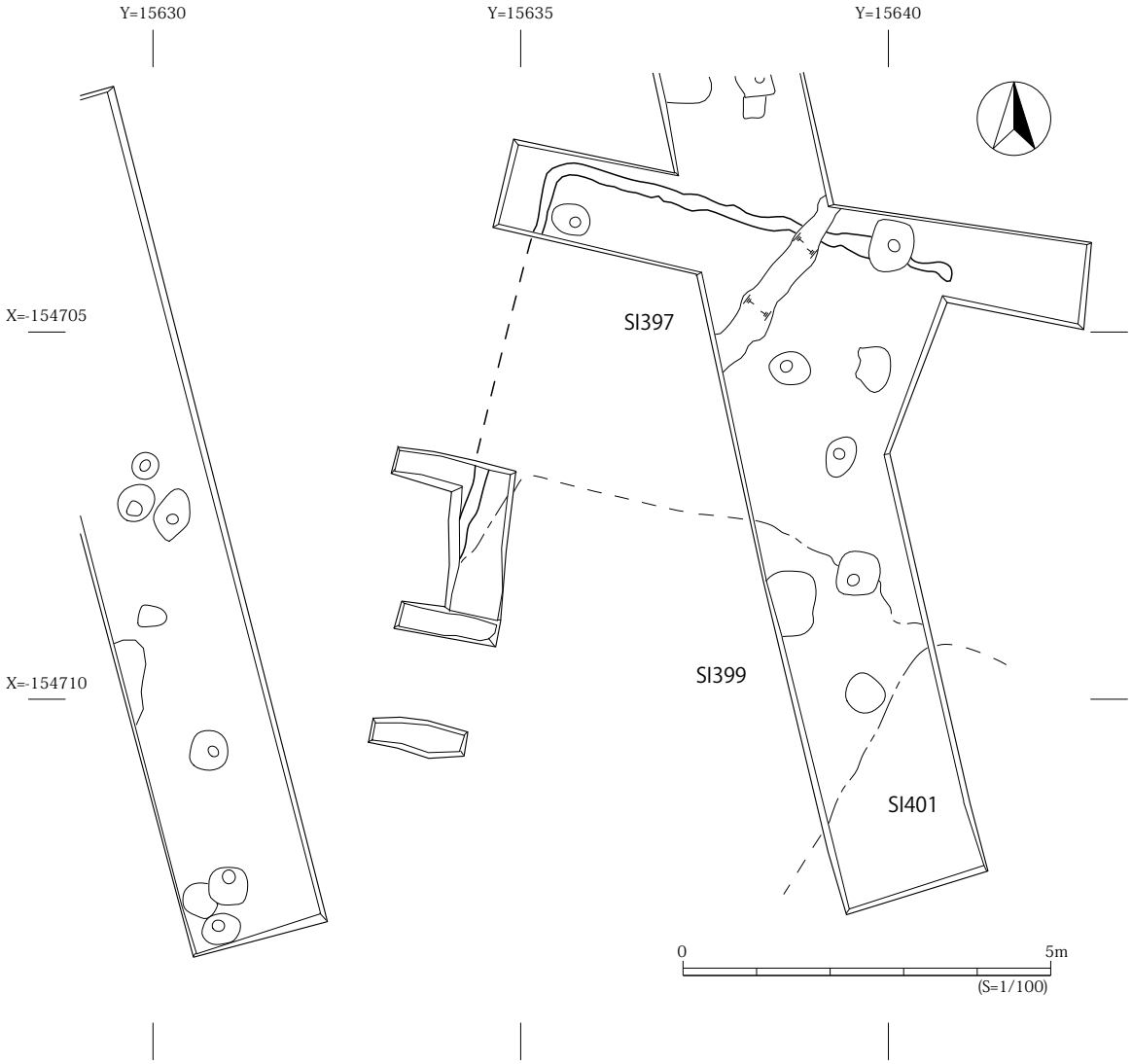
検出した 9 棟は、調査区中央から南端（SI392・394 ～ 397・399・401・455）と南西端（SI402）に分布する（第 123 図）。全体を確認したのは SI392 のみで、それ以外は一部の確認である。部分的な截ち割りを行ったのは、南西端に位置する SI402 のみである。後世の削平により残りが悪く、特に中央に分布する 8 棟については表土直下に掘方埋土が確認される状況で、床面やカマドなどの施設は残存していなかった。各属性については第 17 表にまとめており、これに基づいて概要を記述する。

中央から南端に位置する 8 棟については、SI397・399・401 に重複関係が認められ、SI397 よりも SI399 のほうが新しい（第 136・137 図）。SI401 については残存状態が悪く重複は不明である。平面は隅丸方形あるいは隅丸長方形で、規模が判明したものでは、1 辺 5m 以上が 3 棟（SI394・397・399）、4m 以下が 1 棟（SI392）である。検出できた床面施設は周溝のみで、5 棟（SI392・394 ～ 397）で認められた。方向は東西辺のいずれかで、北で東に 10°前後偏るものが 4 棟（SI392・394・396・397）、20°以上偏るものが 2 棟（SI395・399）である。SI392 の掘方埋土から須恵器甕、SI396・397 の掘方埋土から土師器坏が出土した。

南西端に位置する SI402 は SD383 溝跡と重複し、これより古い（第 138 図）。1 辺 6.5m 以上で、床面と周溝が検出され、周溝は人為的埋土である。方向は東辺で、北で東に 13°偏る。堆積土が 1 層認められ、自然堆積である。掘方埋土から土師器甕と須恵器坏、床面から土師器甕（第 139 図 2・3）と須恵器蓋（1）、堆積土から土師器甕、須恵器坏・甕が出土した。



第 136 図　I-9 区　SI392・394・395・396・455 竪穴建物跡

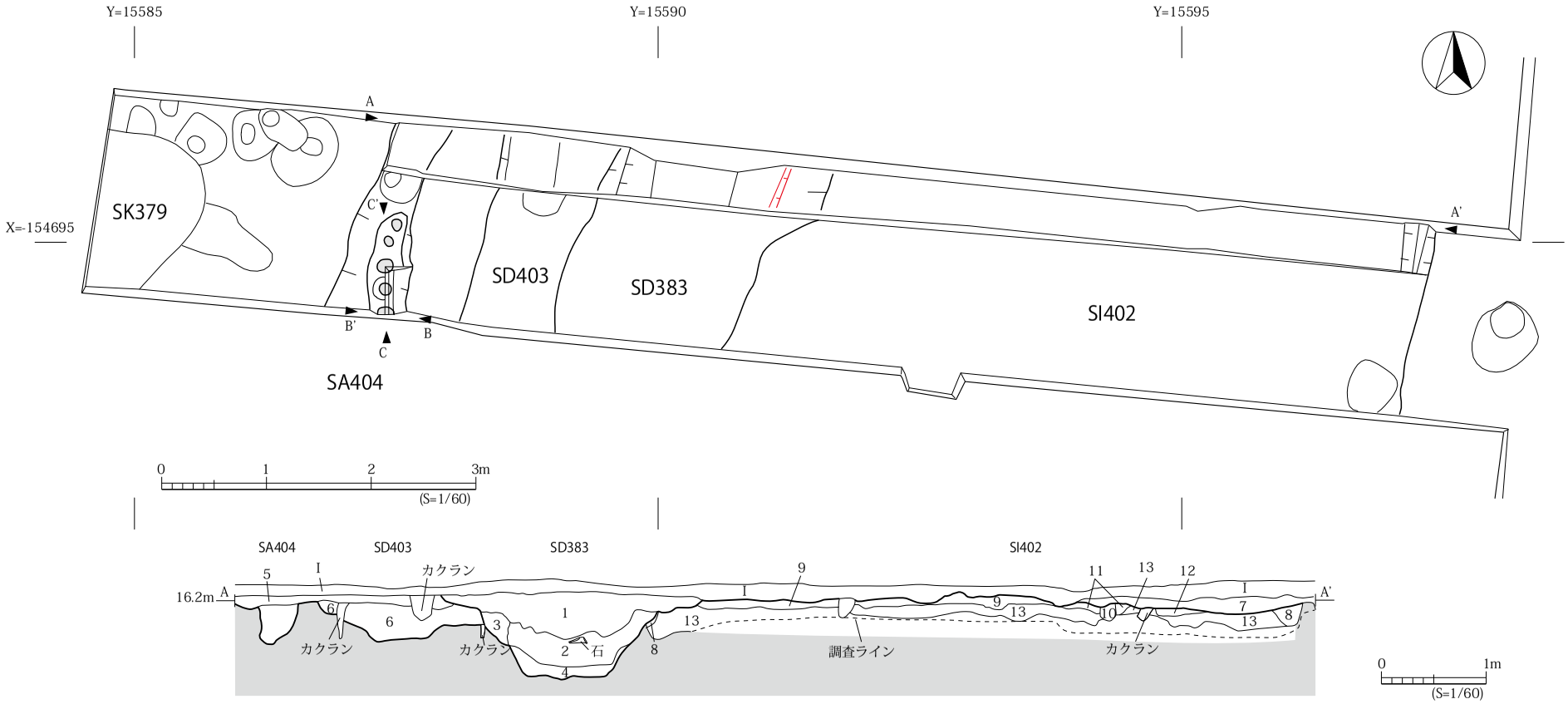


第 137 図　I-9 区　SI397・399・401 竪穴建物跡

C. 柱列跡、材木塀跡

【SA325柱列跡】（平面図：第 133 図、断面図：第 134 図）

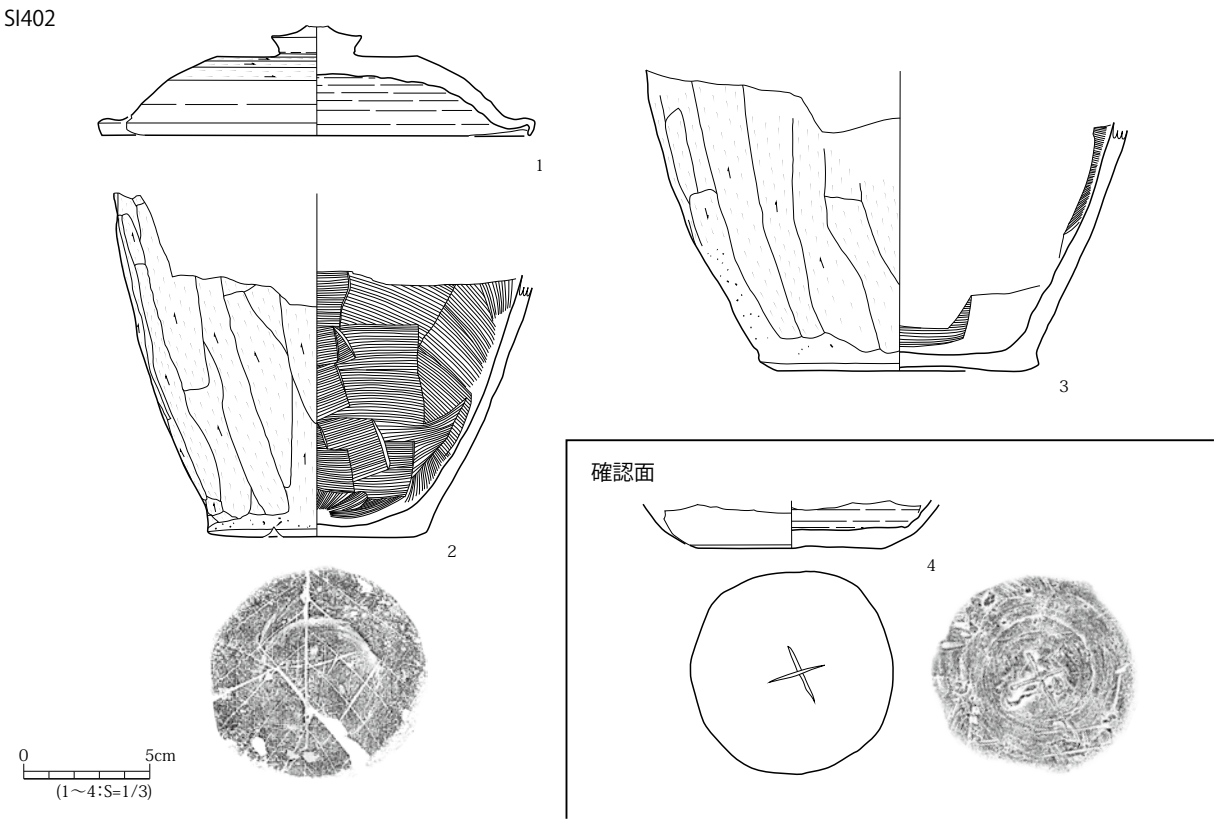
南東端に位置する。SB316 掘立柱建物跡、SK445 土坑と重複し、これらより新しい。北東―南西方向の 3 間分を検出し、4 個すべての柱穴で柱痕跡を確認した。N2 と N4 については半截を行い、それ以外は遺構確認のみ行った。総長は 6.3m、柱間寸法は北から 2.0m、2.1m、2.2m である。方向は北で東に 8°偏る。柱穴掘方は長軸 34 ～ 50cm、短軸 32 ～ 50cm の隅丸長方形、楕円形で、深さ 39 ～ 51cm である。柱痕跡は長軸 14 ～ 20cm の円形、楕円形である。掘方埋土から土師器坏、柱痕跡から土師器甕、須恵器坏が出土した。



遺構	層	土色	土性	含有物など	備考
SD383	1	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	灰黄褐色(10YR6/2)粘土質シルト小ブロック・ブロックを少量含む	自然堆積
	2	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト大ブロックを層東端に、灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルトブロック・大ブロックを含む	
	3	暗褐色(10YR3/3)	シルト	にぶい黄褐色(10YR4/3)粒を多量に含む	
	4	黒褐色(10YR2/3)	粘土質シルト	黒褐色(10YR3/2)砂質シルトと互層になる　地山粒を少量含む	
SD403 カ	5	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	地山小ブロックを少量、にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト小ブロックを含む	自然堆積
SD403	6	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	にぶい黄橙色(10YR6/3)シルトブロック、褐色(10YR4/4)砂質シルトブロックを多量に、酸化鉄少量含む	

遺構	層	土色	土性	含有物など	備考
SI402	7	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルトを層下部に、地山粒を少量含む	自然堆積
	8	暗褐色(10YR3/3)	粘土質シルト	灰黄褐色(10YR6/2)シルトブロックを多量に、酸化鉄を少量含む	周溝埋土
	9	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	炭化物片少量、にぶい黄橙色(10YR7/4)粘土質シルト粒～大ブロックを含む	掘方埋土
	10	にぶい黄橙色(10YR4/3)	シルト	にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト小～大ブロックを含む	
	11	暗褐色(10YR3/4)	シルト	地山粒・小ブロックを含む	
	12	にぶい黄褐色(10YR4/3)	粘土質シルト	酸化鉄を少量、にぶい黄橙色(10YR6/3)粘土質シルトブロック、にぶい黄褐色(10YR5/3)シルトブロックを含む	
	13	にぶい黄橙色(10YR6/3)	シルト	灰黄褐色(10YR4/2)シルト小～大ブロックを非常に多く含む	

第 138 図　I-9 区　SI402 竪穴建物跡、SA404 材木塀跡、SD383・403 溝跡



No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	須恵器　蓋	SI402　床	(口～体)1/4 (つまみ)1/1	口径(17.2cm)　外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ取り付け→ロクロナデ 内：ロクロナデ　宝珠形つまみ　火襷痕あり	66-16	R805
2	土師器　甕	SI402　床	(胴～底)1/1	底径 8.6cm　外：ヘラケズリ　内：ヘラナデ　底：木葉痕　底部被熱	66-17	R806
3	土師器　甕	SI402　床	(胴)3/4(底)1/1	底径 11.0cm　外：ヘラケズリ　内：ヘラナデ　底：木葉痕　外面全体被熱	66-18	R807
4	須恵器　坏	SD383、SI402、 SA404 確認面	(体)一部 (底)1/1	底径 8.0cm　外内：ロクロナデ 底：回転ヘラ切り→ナデ　外面底部に刻書「×」 内面立上がりに沈線　火襷痕あり	67-3	R810

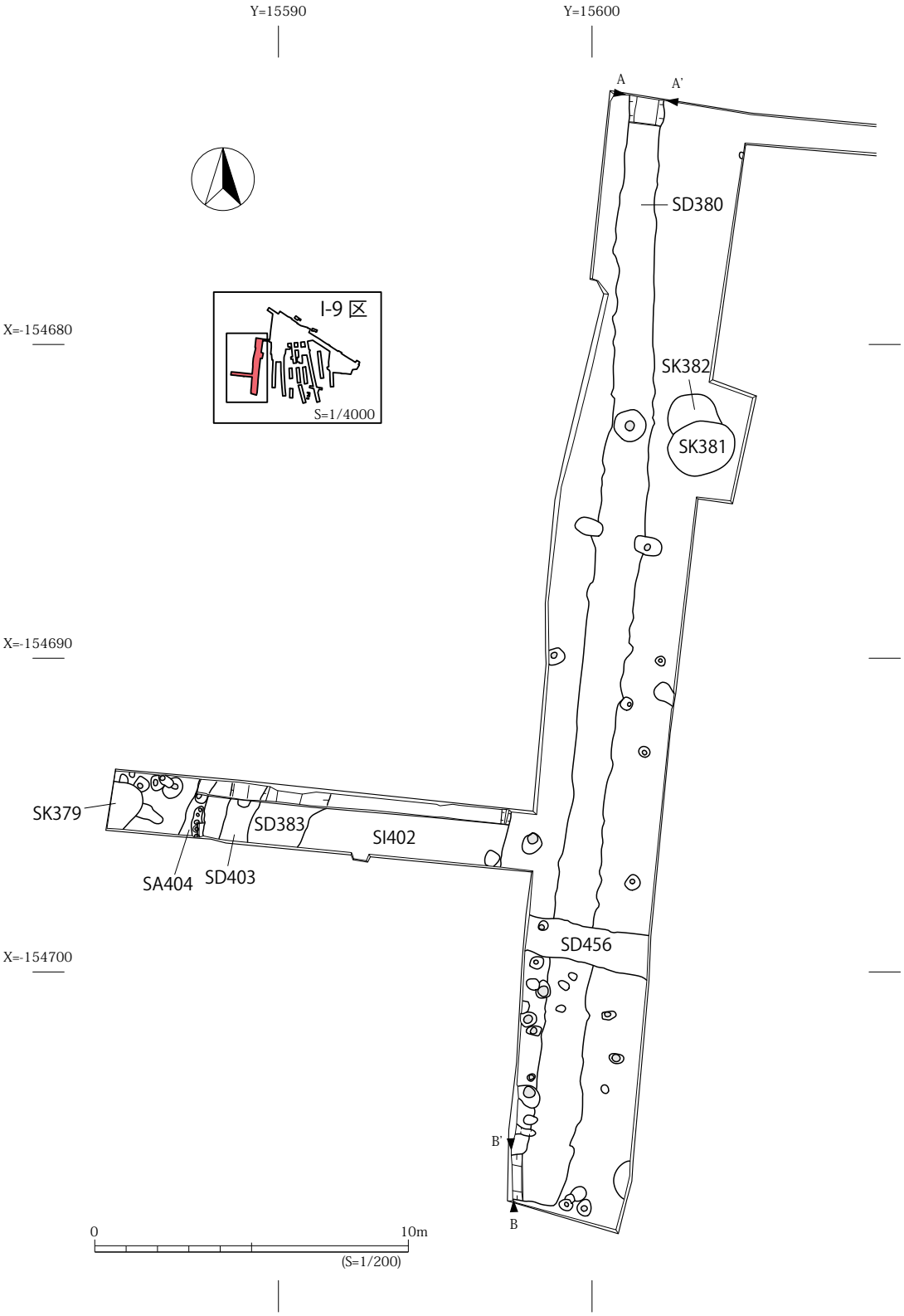
第 139 図　I-9 区　SI402 竪穴建物跡　出土遺物

【SA404材木塀跡】（平面図：第 138 図、断面図：第 140 図）

南西端に位置する。北東―南西方向の布掘り状の掘方とその南側で 5 個の材痕跡を検出した。南端部を南北方向に截ち割りを行った。検出長は 1.8m、規模は上幅 0.38 ～ 0.74m、深さ 0.26 ～ 0.28m である。底面には凹凸がある。材痕跡は長軸 10 ～ 15cm の円形、楕円形で、材の間隔は 8 ～ 12cm である。

層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	Ⅴ層粒を含む	材痕跡
2	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを含む	掘方埋土
①	にぶい黄褐色(10YR5/3)	シルト		自然堆積

第 140 図　I-9 区　SA404 材木塀跡　断面



第 141 図　I-9 区　SD380 溝跡

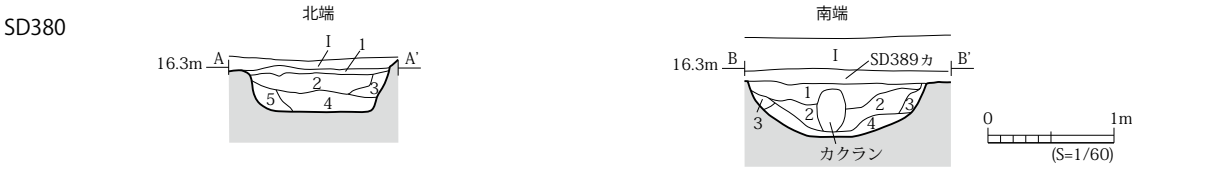
D. 溝跡

【SD380溝跡】（平面図：第 141 図、断面図・遺物：第 142 図）

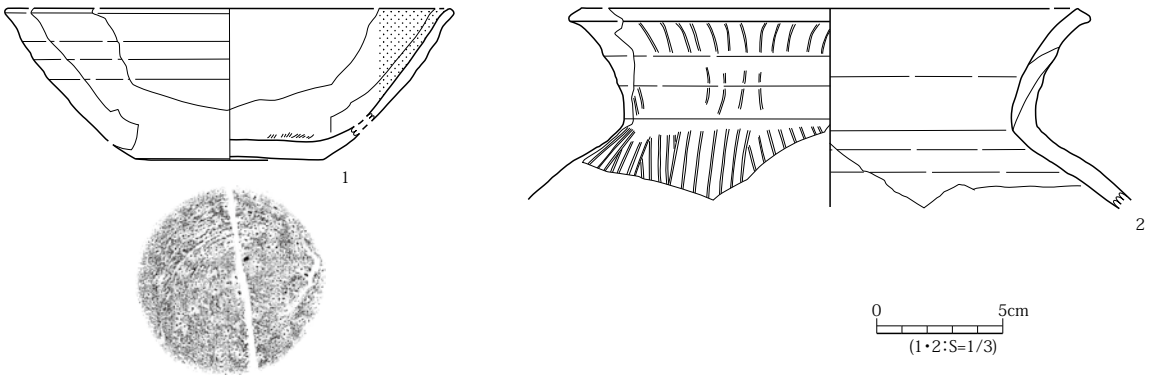
西端に位置する。南北方向で南端が西側に屈曲する。北端と屈曲部分である南端で截ち割りを行った。SD456 溝跡と重複し、これより古い。検出長は南北 35.4m、東西 2.0m で、規模は上幅 1.0 ～ 1.5m、下幅 0.7 ～ 0.8m、深さ 0.36 ～ 0.42m である。断面は逆台形である。堆積土は、北端で 5 層、南端で 4 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土からロクロ調整の土師器坏（第 142 図 1）・甕、須恵器坏・甕（2）が出土した。

【SD310溝跡】（平面図：第 124 図、断面図：第 142 図）

北西端に位置する。SB312 掘立柱建物跡と重複し、これより新しい。東西方向で、検出長は 16.2m、規模は上幅 1.2 ～ 1.6m、下幅 1.0 ～ 1.22m、深さ 0.14m である。断面は皿状である。堆積土は 3 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から土師器甕、須恵器坏・甕が出土した。

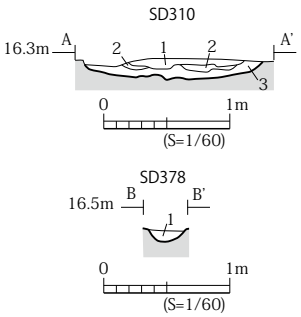


層	土色	土性	含有物など	備考
1	暗褐色(10YR3/3)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックをわずかに含む	自然堆積
2	灰黄褐色(10YR5/2)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを含む	
3	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを少量含む	
4	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層粒～大ブロックを多量に含む	
5	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを多量に含む	



No.	種別・器種	層	残存	法量(cm)			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径	器高			
1	土師器　坏	南端 1 層	(口)一部(底)1/1	(17.7)	7.4	(6.0)	外：ロクロナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理　底：回転糸切り無調整	67-1	R808
2	須恵器　甕	南端 2 層	(口～胴)1/6	(20.6)			外：(口頸)平行タタキ→ロクロナデ(胴)平行タタキ　内：ロクロナデ	67-2	R809

SD310・378



層	土色	土性	含有物など	備考
1	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層ブロックを多量に、Ⅴ層大ブロック、黒褐色(10YR3/2)シルトブロックを含む	自然堆積
2	灰黄色(10YR5/2)	砂質シルト	Ⅴ層小ブロックを少量含む	
3	褐灰色(10YR4/1)	砂質シルト	Ⅴ層ブロックをわずかに含む	

層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	Ⅴ層小ブロックを含む	自然堆積

第 142 図　I-9 区　SD380 溝跡　断面・出土遺物、SD310・378 溝跡　断面

【SD378溝跡】（平面図：第 124 図、断面図：第 142 図）

中央に位置する。SB321 ～ 323 掘立柱建物跡と重複し、これらより新しい。部分的に截ち割りを行った。北東―南西方向で、南端が北西―南東方向に屈曲する。検出長は前者が 20.7m、後者が 3.7m、規模は上幅 0.15 ～ 0.42m、下幅 0.07 ～ 0.2m、深さ 0.1m である。断面は「U」字形である。堆積土は 1 層で、自然堆積である。遺構確認面から土師器坏・高台坏・甕、須恵器坏・甕、鉄滓が出土した。

【SD383溝跡】（平面・断面図：第 138 図、遺物：第 139 図）

南西端に位置する。SI402 竪穴建物跡、SD403 溝跡と重複し、これらより新しい。北東―南西方向で、検出長は 1.9m、規模は上幅 2.5m、下幅 0.76m、深さ 0.83m である。断面は逆台形である。堆積土は 4 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から土師器甕、須恵器坏・蓋・甕、遺構確認面から陶器が出土した。

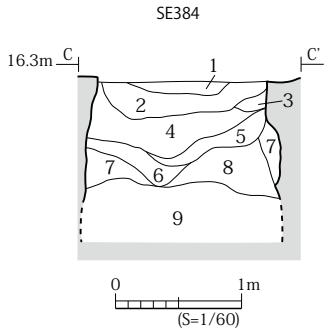
【SD403溝跡】（平面・断面図：第 138 図）

南西端に位置する。SD383 溝跡と重複し、これより古い。北東―南西方向で、検出長は 1.9m、規模は上幅 1.56m 以上、下幅 0.46m、深さ 0.4m である。断面は逆台形とみられる。堆積土は 1 層で、自然堆積である。堆積土から土師器甕、須恵器甕が出土した。

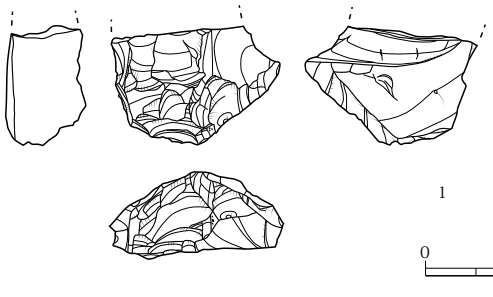
E. 井戸跡

【SE384井戸跡】（平面図：第 124 図、断面図・遺物：第 143 図）

中央西側に位置する。深さ 1m 分のみ調査を行っており、底面は検出していない。SB321・322 掘立柱建物跡と重複し、これらより新しい。平面は隅丸方形、規模は長軸 1.45m、短軸 1.3m、深さ 1.0m 以上である。堆積土は 9 層に分かれ、1・2・8・9 層が自然堆積、3 ～ 7 層が人為的埋土である。3・5 層には焼土や炭化物を含む。堆積土から土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏・蓋・甕、壁土、瓦、黒曜石製のスクレイパー（第 143 図 1）が出土した。



層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR5/2)	シルト	Ⅴ層粒、灰黄褐色(10YR)シルト粒を多量に含む	自然堆積
2	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックをやや多く、炭化物片、焼土粒を含む	
3	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	Ⅴ層粒、焼土粒、炭化物粒を含む	人為
4	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層小ブロック・ブロック多量に含む	
5	暗褐色(10YR3/3)	シルト	焼土粒を多量に、Ⅴ層小ブロックを含む	
6	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層ブロックを層状に多量に含む	
7	にぶい黄橙色(10YR7/2)	粘土	褐灰色(10YR4/1)シルトを層状に含む	
8	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	Ⅴ層ブロックを斑に多量に含む	自然堆積
9	黒褐色(10YR3/1)	シルト	Ⅴ層ブロックを斑に多量に含む	



No.	種別・器種	層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	石器 スクレイパー	堆	破損	黒曜石製　長(2.8㎝)　幅(3.4㎝) 厚(1.7㎝)　重(11.44g)　湯の倉産ヵ	67-8	R821

第 143 図　I-9 区　SE384 井戸跡　断面・出土遺物

F. 土坑

土坑は調査区全域に分布する。38 基のうち、半截、完掘を行ったのは 5 基（SK421 ～ 423・444・445）のみである。SK421・422・433 が西側（第 124 図）、SK423・426・444・445 が東側（第 132 図）に分布しており、この分布のまとまりごとに記述する。

＜西側＞

【SK421土坑】（平面図：第 124 図、断面図・遺物：第 144 図）

平面は隅丸方形で、規模は長軸 1.48m、短軸 1.4m、深さ 0.27m である。断面は逆台形である。堆積土は 3 層に分かれ、2・3 層が人為的埋土、1 層が自然堆積である。2・3 層から土師器甕、須恵器坏（第 144 図 1）・高台坏・甕が出土した。

【SK422土坑】（平面図：第 124 図、断面図・遺物：第 144 図）

平面は北西―南東方向に長軸を持つ隅丸長方形で、規模は長軸 1.22m、短軸 0.94m、深さ 0.23m である。断面は逆台形である。堆積土は 3 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から土師器坏・甕、須恵器坏（第 144 図 2）・高台坏・甕が出土した。

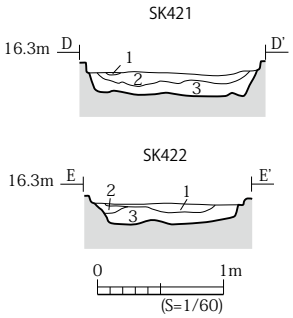
【SK433土坑】（平面図：第 124 図、遺物：第 144 図）

平面は隅丸方形で、規模は長軸 1.45m、短軸 1.42m である。土師器甕、須恵器坏（第 144 図 3）・高台坏が出土した。

＜東側＞

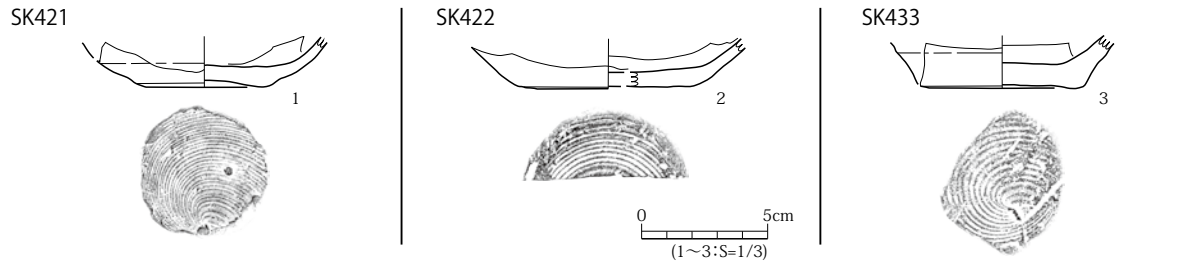
【SK423土坑】（平面図：第 132 図、断面図：第 145 図）

平面は東西方向に長軸を持つ隅丸長方形で、規模は長軸 1.0m、短軸 0.74m、深さ 0.24m である。断面は不整形である。堆積土は 1 層で自然堆積である。堆積土から土師器甕、須恵器坏が出土した。



層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト		自然堆積
2	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	黒褐色(10YR2/2)粘土質シルト小ブロック・ブロックを少量、V層小～大ブロックを多量に含む	人為
3	黒褐色(10YR3/2)	シルト	黒色(10YR2/1)シルト小ブロック、V層小ブロックを少量含む	

層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	V層小ブロック、酸化鉄、黒色(10YR2/1)粘土質シルト小ブロックを少量含む	自然堆積
2	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト		
3	黒褐色(10YR3/2)	シルト	炭化物粒、V層粒・小ブロック、黒色(10YR2/1)粘土質シルト小ブロックを少量含む	



No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	須恵器　坏	SK421　3層	(体)一部(底)1/1	底径 5.4cm　外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整　内面摩耗	67-4	R812
2	須恵器　坏	SK422　堆	(体～底)1/2 弱	底径(6.6cm)　外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整　内面摩耗	67-5	R817
3	須恵器　坏	SK433　堆	(体)一部(底)1/2	底径(6.4cm)　外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整	67-6	R819

第 144 図　I-9 区　SK421・422・433 土坑　断面・出土遺物

【SK426土坑】（平面図：第 132 図、遺物：第 145 図）

平面は南北方向に長軸を持つ隅丸長方形で、規模は長軸 2.1m、短軸 1.25m である。堆積土から土師器甕、須恵器坏（第 145 図 1）・甕が出土した。

【SK444土坑】（平面図：第 132 図、断面図：第 145 図）

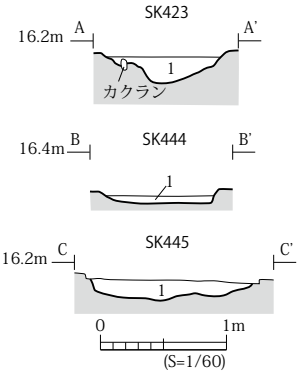
平面は南北方向に長軸を持つ隅丸長方形で、規模は長軸 0.97m、短軸 0.57m、深さ 0.1m である。断面は逆台形である。堆積土は 1 層で自然堆積である。

【SK445土坑】（平面図：第 132 図、断面図：第 145 図）

SA325 柱列跡と重複し、これより古い。平面は北東―南西方向に長軸を持つ隅丸長方形で、規模は長軸 1.4m、短軸 1.01m、深さ 0.21m である。断面は逆台形である。堆積土は 1 層で人為的埋土である。

G. その他の出土遺物

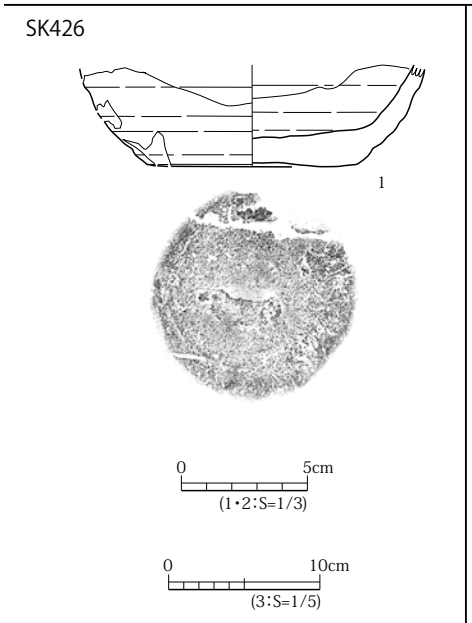
上記の遺構以外に、P112（第 132 図）からロクロ調整の土師器坏（第 145 図 2）、P129（第 124 図）の柱痕跡から丸瓦（3）が出土した。

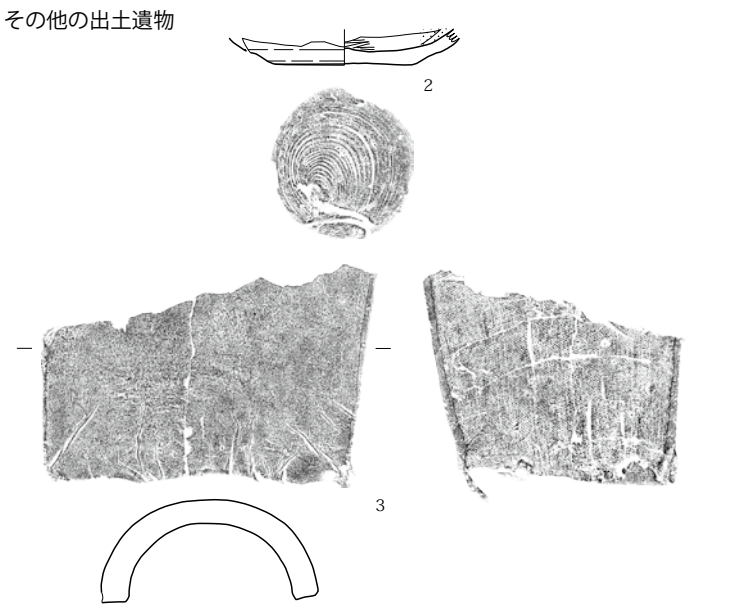


層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層小ブロックを少量、炭化物粒、焼土粒をわずかに含む	自然堆積

層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックをわずかに含む	自然堆積

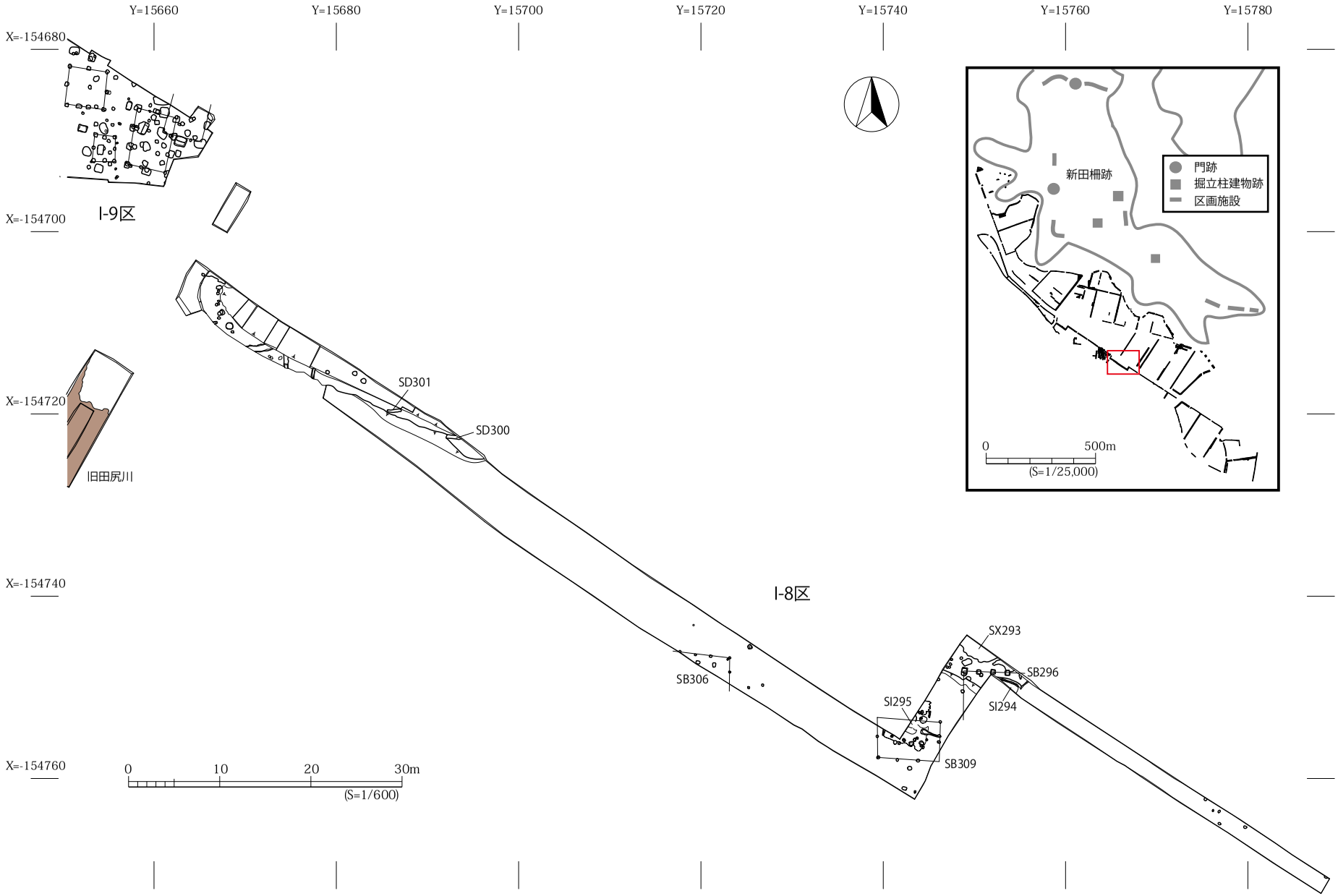
層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	Ⅴ層粒～ブロックをやや多く、炭化物粒をわずかに含む	人為





No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	須恵器　坏	SK426　堆	(体)一部(底)ほぼ 1/1	底径 8.3㎝　外内：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り→ナデ　火襷痕あり　内面摩耗	67-7	R818
2	土師器　坏	P112	(体)一部(底)1/1	底径 5.5㎝　外：ロクロナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理　底：回転糸切り無調整	67-9	R823
3	丸瓦	P129　柱痕跡	破損	凸面：ロクロナデ　凹面：粘土紐痕→布目　焼成時の歪みあり	67-10	R828

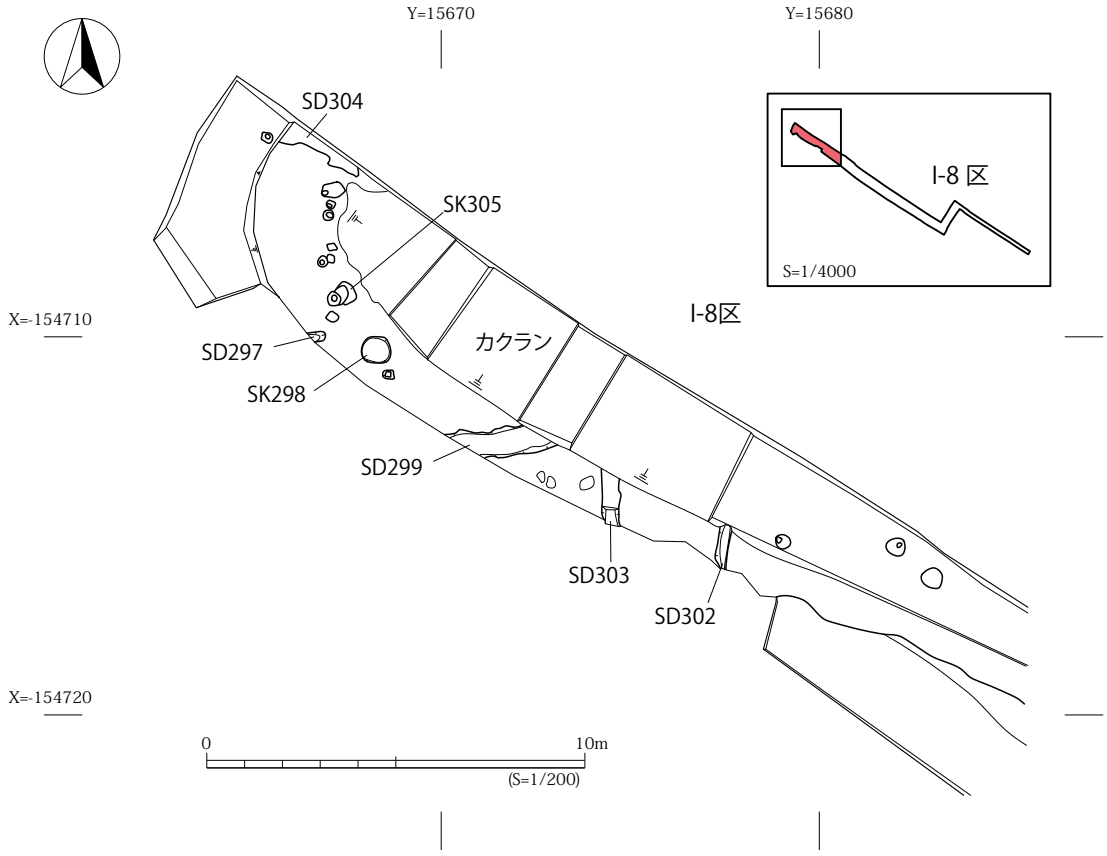
第 145 図　I-9 区　SK423・444・445 土坑　断面、その他の出土遺物



第 146 図　I-8 区　遺構配置図

⑩I-8区

掘立柱建物跡3棟（SB296・306・309）、竪穴建物跡2棟（SI294・295）、溝跡8条（SD297・299～304・307）、土坑2基（SK298・305）、その他（SX293）を検出した（第146・147図）。掘立柱建物跡、竪穴建物跡のみ記述し、それ以外については第19・21・23表に特徴をまとめた。



第147図　I-8区西端　検出遺構

A. 掘立柱建物跡

【SB306掘立柱建物跡】（平面・断面図：第148図）

〔**位置**〕中央に位置し、北側柱列と東側柱列の一部を検出した。

〔**柱間数・棟方向**〕桁行3間以上、梁行2間以上の東西棟建物跡とみられる。

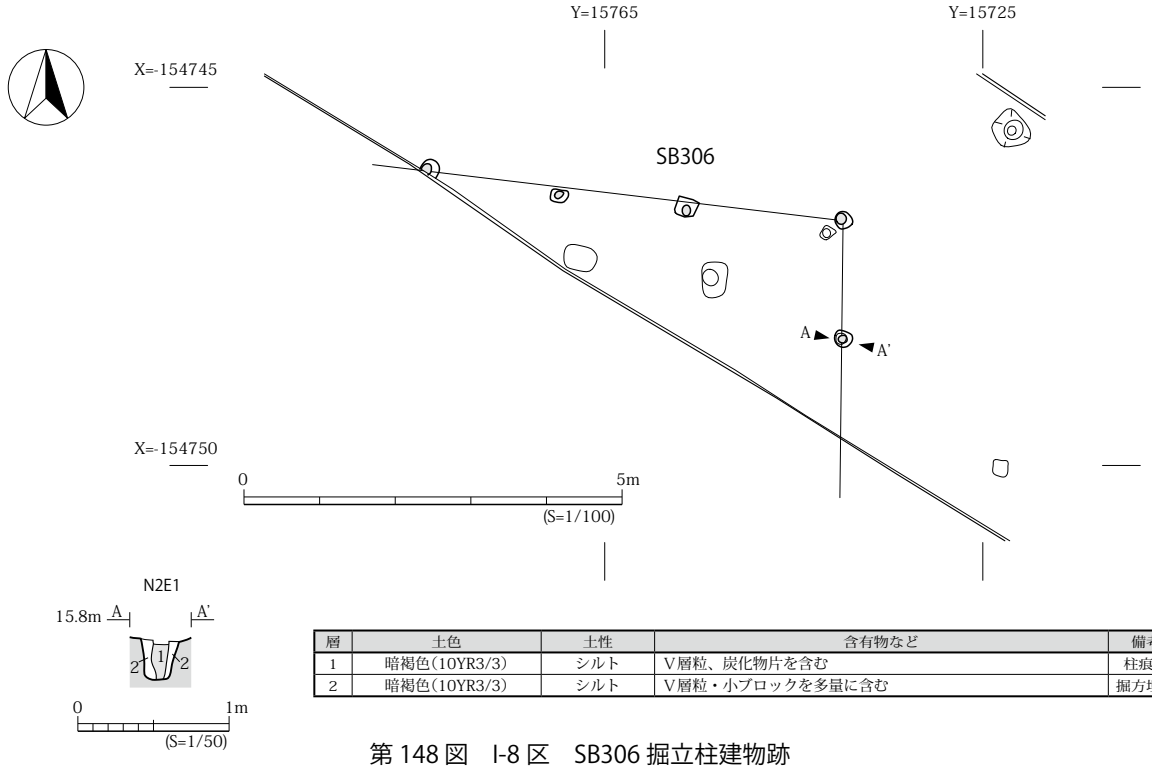
〔**検出状況**〕5個検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認した。

〔**平面規模**〕桁行が北側柱列で総長5.55m以上、柱間寸法は東から2.05m、1.7m、1.8m、梁行が東妻で総長1.6m以上である。

〔**方向**〕北側柱列で測ると西で北に7°偏る。

〔**柱穴**〕掘方は長軸25～28cm、短軸20～25cmの楕円形で、深さは17～28cmである。柱痕跡は長軸10～15cmの円形、楕円形である。

〔**出土遺物**〕柱痕跡から土師器坏が出土した。



層	土色	土性	含有物など	備考
1	暗褐色(10YR3/3)	シルト	Ⅴ層粒、炭化物片を含む	柱痕跡
2	暗褐色(10YR3/3)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを多量に含む	掘方埋土

第 148 図　I-8 区　SB306 掘立柱建物跡

【SB296掘立柱建物跡】（平面・断面図：第 149 図）

〔**位置**〕中央よりやや南東側の周囲よりも一段高い地点に位置する。北側柱列と西側柱列の一部を検出した。

〔**柱間数・棟方向**〕桁行 3 間以上、梁行 2 間以上の東西棟建物跡とみられる。

〔**重複**〕SD307 溝跡と重複し、これより新しい。

〔**検出状況**〕5 個検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認した。

〔**平面規模**〕桁行が北側柱列で総長 4.8m 以上、柱間寸法は 1.6m 等間、梁行が西妻で総長 2.3m 以上である。

〔**方向**〕北側柱列で測ると西で北に 3°偏る。

〔**柱穴**〕掘方は長軸 36 ～ 60cm、短軸 36 ～ 56cm の隅丸方形で、深さは 28 ～ 66cm である。柱痕跡は長軸 14 ～ 18cm の円形、楕円形である。

〔**出土遺物**〕掘方埋土からロクロ調整の土師器坏、須恵器蓋、柱痕跡から土師器坏・甕が出土した。

【SB309掘立柱建物跡】（平面・断面図：第 149 図）

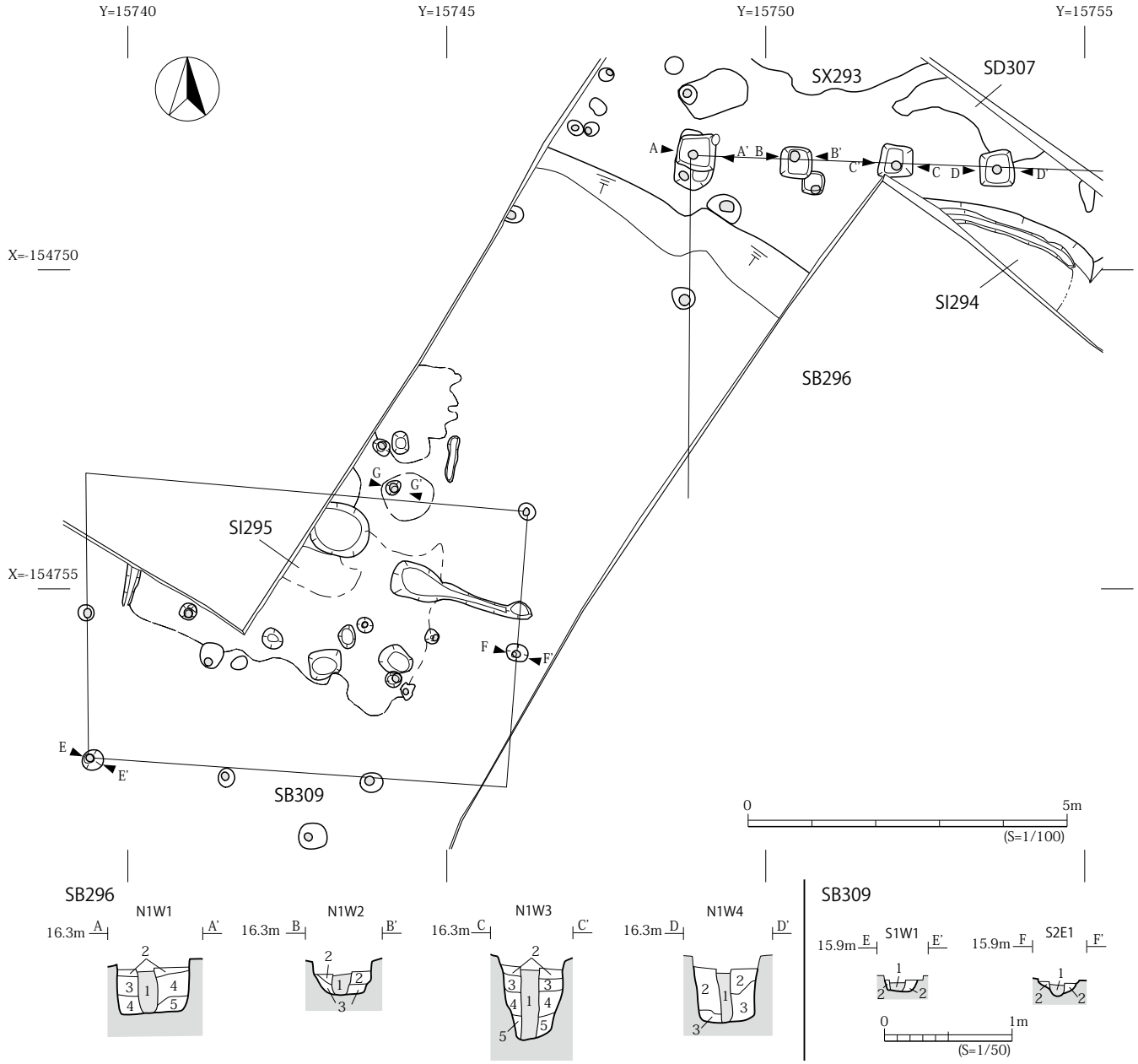
〔**位置**〕中央よりやや南東側に位置し、東・西・南・北側柱列の一部を検出した。

〔**柱間数・棟方向**〕南東隅柱と北西隅柱が調査区外で確認できていないが、それ以外の柱穴の配置から桁行 3 間、梁行 2 間の東西棟建物跡とみられる。

〔**重複**〕SI295 竪穴建物跡と重複し、これより新しい。

〔**検出状況**〕7 個検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認した。

〔**平面規模**〕桁行は推定総長 6.6m、柱間寸法は西から 2.15m、2.25m、2.2m、梁行は西妻で推定総長 4.55m、柱間寸法は北から 2.25m、2.3m である。



N1W1（A-A'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロック、焼土粒、炭化物片をわずかに含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層粒を少量含む	掘方埋土
3	黒褐色(10YR3/1)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを少量含む	
4	黒褐色(10YR3/1)	シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む	
5	褐灰色(10YR5/1)	砂質シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む	

N1W2（B-B'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロック、焼土粒、炭化物片をわずかに含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層粒を少量含む	掘方埋土
3	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層小ブロックを少量含む	

N1W3（C-C'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロック、焼土粒、炭化物片をわずかに含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層粒を少量含む	掘方埋土
3	黒褐色(10YR3/1)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを少量含む	
4	黒褐色(10YR3/1)	シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む	
5	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層小ブロックを少量含む	

N1W4（D-D'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR2/3)	シルト	Ⅴ層小ブロック、焼土粒、炭化物粒を少量含む	柱痕跡
2	暗褐色(10YR3/4)	シルト	Ⅴ層大ブロック、焼土粒、炭化物粒を少量、Ⅴ層小ブロックを含む	掘方埋土
3	暗褐色(10YR3/4)	シルト	Ⅴ層大ブロックを多量含む	

SB309　S1W1、S2E1（E-E'、F-F'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR2/3)	シルト	Ⅴ層小ブロック、焼土粒少量、炭化物粒をわずかに含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR2/3)	シルト	焼土粒、炭化物粒を少量、Ⅴ層大ブロックを含む	掘方埋土

第 149 図　I-8 区　SB296・309 掘立柱建物跡

〔**方向**〕南側柱列で測ると西で北に 4°偏る。

〔**柱穴**〕掘方は長軸 25 ～ 35cm、短軸 20 ～ 30cm の円形、楕円形で、深さは 12 ～ 14cm である。柱痕跡は長軸 10 ～ 15cm の円形、楕円形である。

〔**出土遺物**〕柱痕跡から土師器坏・甕が出土した。

B. 竪穴建物跡

【SI294竪穴建物跡】（平面・断面図：第 150 図）

〔**位置・検出**〕南東側の周囲よりも一段高い地点に位置し、北側の一部を検出した。

〔**平面形・規模**〕形状は不明である。北西―南東 2.9m 以上、北東―南西 1.1m 以上である。

〔**方向**〕北辺でみると西で北に 20°偏る。

〔**壁**〕地山を壁とし、床面から外側に傾斜をもって立ち上がる。高さは、最も残りの良い北辺西側で床面から 44cm である。

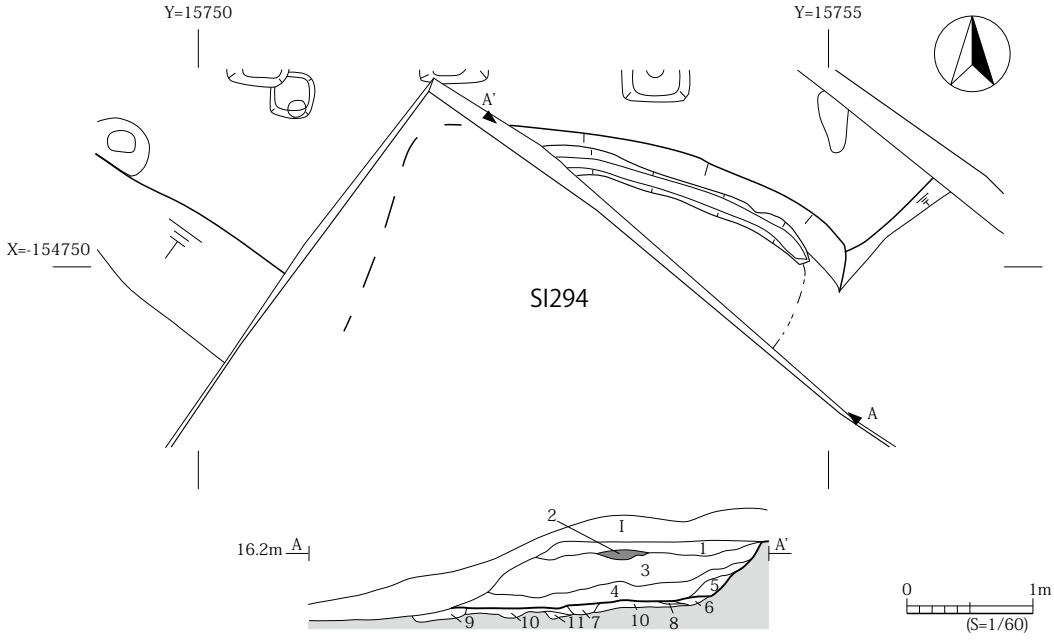
〔**床面**〕検出した範囲では掘方埋土を床面としている。

〔**主柱穴・カマド**〕検出した範囲では確認できなかった。

〔**周溝**〕北辺で検出した。規模は上幅 14 ～ 20cm、下幅 5 ～ 10cm、深さ 7cm である。堆積土は人為的埋土である。

〔**堆積土**〕5 層に分けられ、いずれも自然堆積である。2 層は灰白色火山灰層である。

〔**出土遺物**〕掘方埋土から土師器坏・甕、周溝埋土から土師器甕が出土した。



層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	層上部に黒褐色(10YR3/1)シルト小ブロックを含む	自然堆積
2	灰白色火山灰	シルト		
3	暗褐色(10YR3/3)	シルト	V層粒、焼土粒を少量含む	
4	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層粒・小ブロックを含む	
5	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層粒・小ブロックをやや多く含む	
6	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	V層小ブロック、灰黄褐色(10YR5/2)シルト小ブロックを多量に含む	周溝埋土
7	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層小ブロック、黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト小ブロックを多量に含む	掘方埋土
8	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	V層粒を含む	
9	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	V層小ブロック、黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト小ブロックを多量に含む	
10	暗褐色(10YR3/3)	粘土質シルト	V層小ブロックを多量に含む	
11	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層粒を多量に含む	

第 150 図　I-8 区　SI294 竪穴建物跡

【SI295竪穴建物跡】（平面図：第 151・152 図、断面図：第 151 ～ 153 図、遺物：第 153 図）

〔**位置・検出**〕中央やや南側に位置し、東半と南側の一部を検出した。後世の削平により残存状態は悪く、表土直下で掘方埋土と煙道部、煙出しピット、床面施設を確認した。主柱穴が 1 度（A → B）改修され、それにあわせて一部の床面施設が新たに造られている。

〔**重複**〕SB309 掘立柱建物跡と重複し、これより古い。

〔**平面形・規模**〕掘方埋土の分布から、隅丸長方形とみられる。規模は、北西―南東 4.8m、北東―南西 5.6m 程度である。

〔**方向**〕東辺でみると北で東に 8°偏る。

〔**壁・床面**〕残存しておらず不明である。

SI295A（平面・断面図：第151図、遺物：第153図）

〔**主柱穴**〕南東部と南西部で 2 個（P1・2）検出した。P2 は南半の検出である。掘方は長軸 51cm、短軸 22cm 以上と 42cm の隅丸方形で、深さ 43 ～ 50cm である。両者とも柱痕跡を確認できなかった。

〔**カマド**〕東辺にカマドが認められるが、全体を検出できていないため A 期のものかは不明である。

〔**その他**〕土坑 1 基（K1）を検出した。K1 は南辺中央に位置し、B 期の P6 と重複する。この他に土坑 1 基（K4）とピット 1 個（P8）が確認されたが、確実に A 期に伴うか不明であるため、これらについては B 期の中で記述する。

K1 は隅丸方形で、長軸 132cm、短軸 122cm、深さ 33cm である。断面は逆台形状で、底面には凹凸が多い。南側には底面から 20cm 上に幅 102cm、奥行き 35 ～ 60cm のテラス状の段が認められる。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも人為的埋土である。

〔**出土遺物**〕掘方埋土からロクロ調整の土師器坏（第 153 図 1）・甕、須恵器坏・甕、鉄滓が出土した。

SI295B（平面図：第152図、断面図：第151～153図、遺物：第153図）

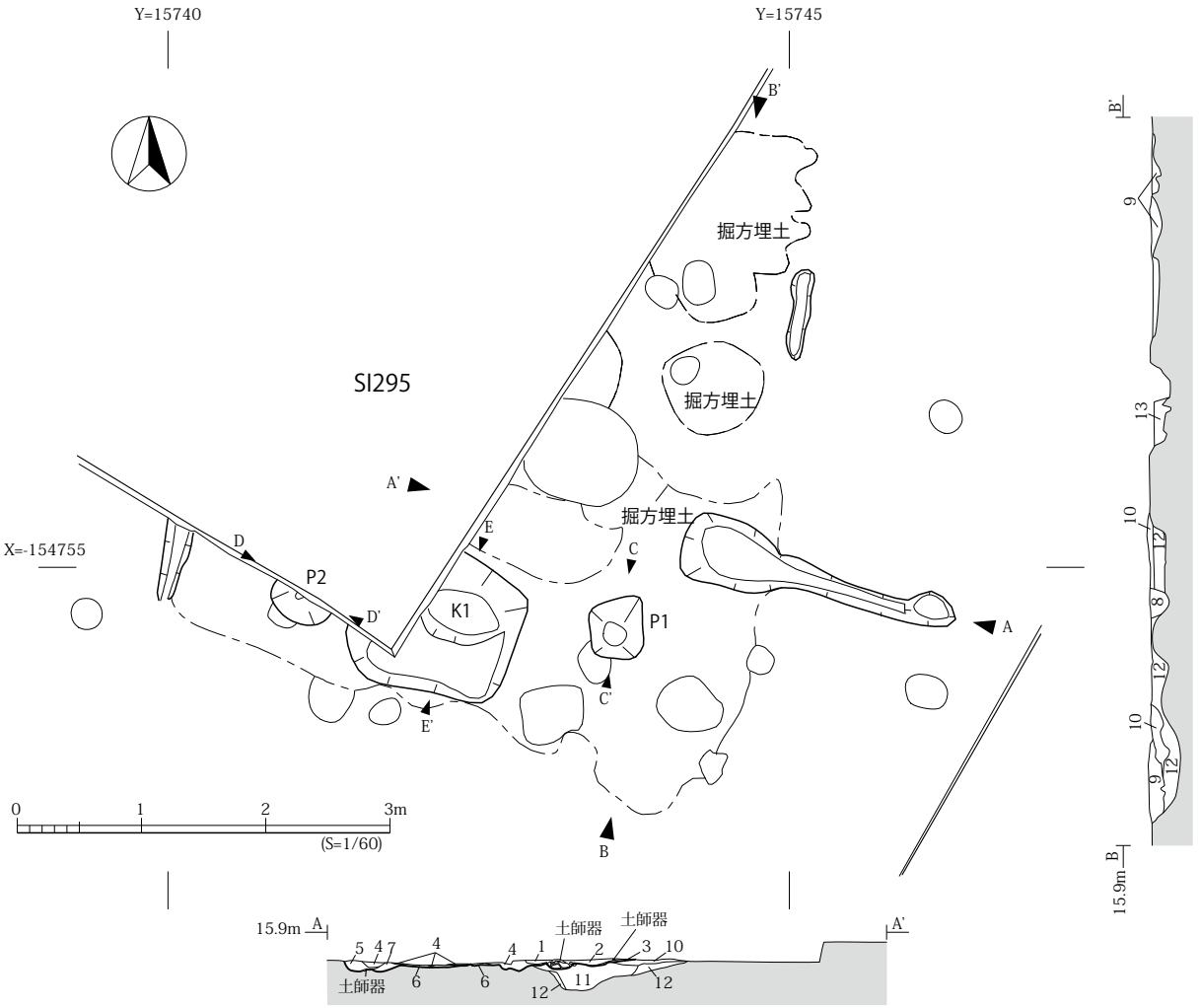
〔**主柱穴**〕北東部と南東部、南西部で 3 個（P3 ～ 5）検出した。P3・4 は P1・2 と重複し、それらより新しい。掘方は長軸 26 ～ 28cm、短軸 24 ～ 25cm の楕円形で、深さ 21 ～ 29cm である。3 個すべてで柱痕跡、P3 では柱抜取穴を確認した。柱痕跡は径 10 ～ 16cm の円形である。

〔**カマド**〕東辺に付設されている。燃焼部と煙道部、煙出しピットを検出した。燃焼部は幅 55cm、奥行き 75cm 程度で、床面から 4cm 窪む。燃焼部内には土師器甕が逆位で潰れた状態で出土した。煙道部は長さ 104cm、幅 16 ～ 24cm、深さ 2 ～ 8cm、煙出しピットは、長軸 45cm、短軸 28cm、深さ 9cm である。

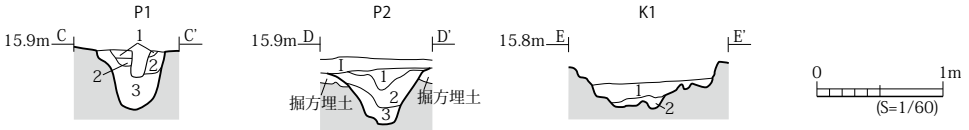
堆積土は、カマド内で 3 層（第 151 図 1 ～ 3 層）、煙道部で 2 層（第 151 図 4・6 層）、煙出しピットで 3 層（第 151 図 4・5・7 層）に分かれ、いずれも自然堆積である。煙道部の 6 層と煙出しピットの 7 層は機能時の堆積土とみられる。

〔**周溝**〕東辺の北側と西辺の南側で部分的に検出した。規模は上幅 13 ～ 21cm、下幅 6 ～ 12cm、深さ 2 ～ 6cm である。断面は皿状で、堆積土は人為的埋土である。

〔**貯蔵穴状土坑**〕南東隅周辺で 1 基（K2）検出した。楕円形で、長軸 50cm、短軸 40cm、深さ 12cm である。断面は逆台形で、底面に凹凸がある。堆積土は 1 層で、自然堆積である。堆積土には焼土小ブ



層	土色	土性	含有物など	備考
1	にぶい黄褐色(10YR5/3)	シルト質粘土	焼土粒を非常に多く、暗灰黄色(2.5Y4/2)シルトブロック、炭化物を含む	カマド堆積土
2	黒褐色(10YR3/2)	シルト質粘土	焼土粒を多量に、黒色(10YR1.7/1)粘土質シルトを層状に、灰白色(2.5Y8/1)シルト砂小ブロックを少量含む	
3	黒(10YR1.7/1)	シルト質粘土	V層小ブロックを少量、焼土粒を含む	
4	黒褐色(10YR3/1)	シルト質粘土	黒色(10YR1.7/1)シルト質粘土小ブロック・ブロック、焼土粒を含む	煙道、煙出ピット堆積土
5	黄灰(2.5Y4/1)	シルト	褐灰色(10YR4/1)シルト小ブロック・ブロック、炭化物、酸化鉄を少量、焼土粒を含む	
6	灰黄褐(10YR4/2)	砂質シルト	酸化鉄を少量含む	
7	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	焼土粒を多量に、V層小ブロック、炭化物を少量含む	
8	褐灰灰(10YR5/1)	砂質シルト	V層粒・小ブロックを含む	掘方埋土
9	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	V層小～大ブロックを多量に含む	
10	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	V層小ブロックを多量に、黒色(10YR2/1)粘土質シルト小ブロックを含む	
11	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	V層、灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト、灰黄褐色(10YR5/2)粘土質シルト・砂質シルト小ブロックを非常に多く含む	
12	浅黄橙色(10YR8/3)	砂質シルト	黒褐色(10YR3/1)、灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト小ブロックを多量に含む	
13	浅黄色(2.5Y7/3)	砂質シルト	黒褐色(10YR3/1)、灰黄褐色(10YR4/2)粘土質シルト小ブロックを多量に含む	



P1(C-C')

層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物を少量、酸化鉄を含む	抜取穴埋土
2	灰黄褐色(10YR5/2)	砂質シルト	黒褐色(10YR3/2)シルト質粘土小ブロックを含む	
3	にぶい黄橙色(10YR7/4)	シルト質砂	黒褐色(10YR3/2)シルト質粘土小ブロック・ブロックを含む	掘方埋土

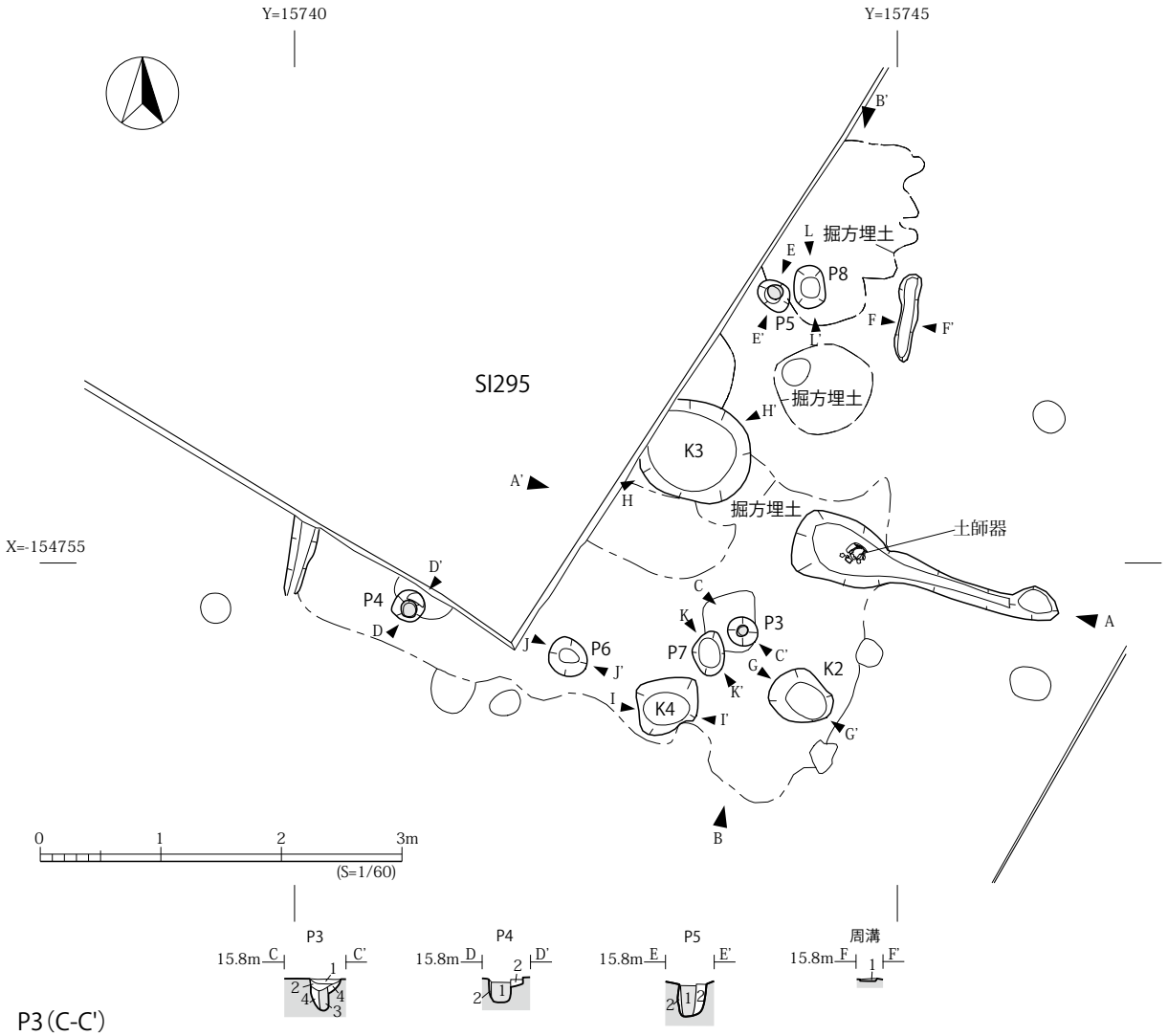
P2(D-D')

層	土色	土性	含有物など	備考
1	暗褐色(10YR3/3)	粘土質シルト	V層小ブロックを層下部に、黒褐色(10YR3/2)小ブロック、炭化物を少量含む	掘方埋土
2	にぶい黄褐色(10YR5/3)	砂質シルト	黒褐色(10YR3/2)砂質シルト、灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト小ブロック・ブロック、酸化鉄を含む	
3	にぶい黄色(2.5YR6/3)	砂質シルト	黒褐色(10YR3/1)砂質シルト、黒褐色(10YR3/2)シルト質粘土小ブロック、酸化鉄を多量に含む	

K1 (E-E')

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR2/2)	シルト質粘土	褐灰色(10YR4/1)粘土質シルトを小ブロック・ブロック、V層小ブロックを多量に、焼土粒、炭化物、酸化鉄を少量含む	人為
2	暗灰黄色(2.5Y5/2)	シルト質粘土	黒褐色(10YR2/2)粘土質シルト小ブロック、酸化鉄を含む	

第 151 図　I-8 区　SI295A 竪穴建物跡



P3(C-C')

層	土色	土性	含有物など	備考
1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	V層小ブロックを多量に、焼土小ブロック、炭化物を含む	抜取穴
2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層大ブロックを少量、V層小ブロックを多量に、炭化物粒、焼土粒を含む	
3	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	V層大ブロックを多量に、焼土小ブロックを少量含む	柱痕跡
4	暗褐色(10YR3/3)	シルト	V層大ブロックを多量に、焼土小ブロックを少量含む	掘方埋土

P4(D-D')

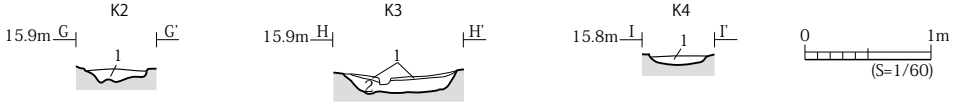
層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト質粘土	V層小ブロック、炭化物を少量、酸化鉄を含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層ブロックを多量に、炭化物、酸化鉄を少量含む	掘方埋土

P5 (E-E')

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層粒を含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層粒・小ブロックを多量に含む	掘方埋土

周溝 (F-F')

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層小ブロックを少量、酸化鉄を含む	人為



K2(G-G')

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層小ブロック、灰黄褐色(10YR5/2)シルト小ブロックを多量に、焼土小ブロック、炭化物片を少量含む	自然堆積

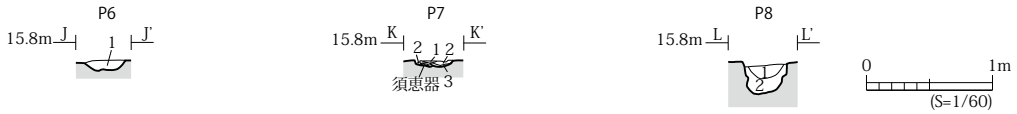
K3 (H-H')

層	土色	土性	含有物など	備考
1	にぶい黄橙(10YR6/3)	シルト	黒褐色(10YR3/1)粘土質シルトブロックを少量含む	人為
2	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	V層小ブロック・ブロックを多量に、焼土粒、炭化物、酸化鉄を少量含む	

K4 (I-I')

層	土色	土性	含有物など	備考
1	にぶい黄褐色(10YR5/3)	砂質シルト	V層小ブロック、黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト小ブロックを多量に含む	人為

第 152 図　I-8 区　SI295B 竪穴建物跡



P6(J-J')

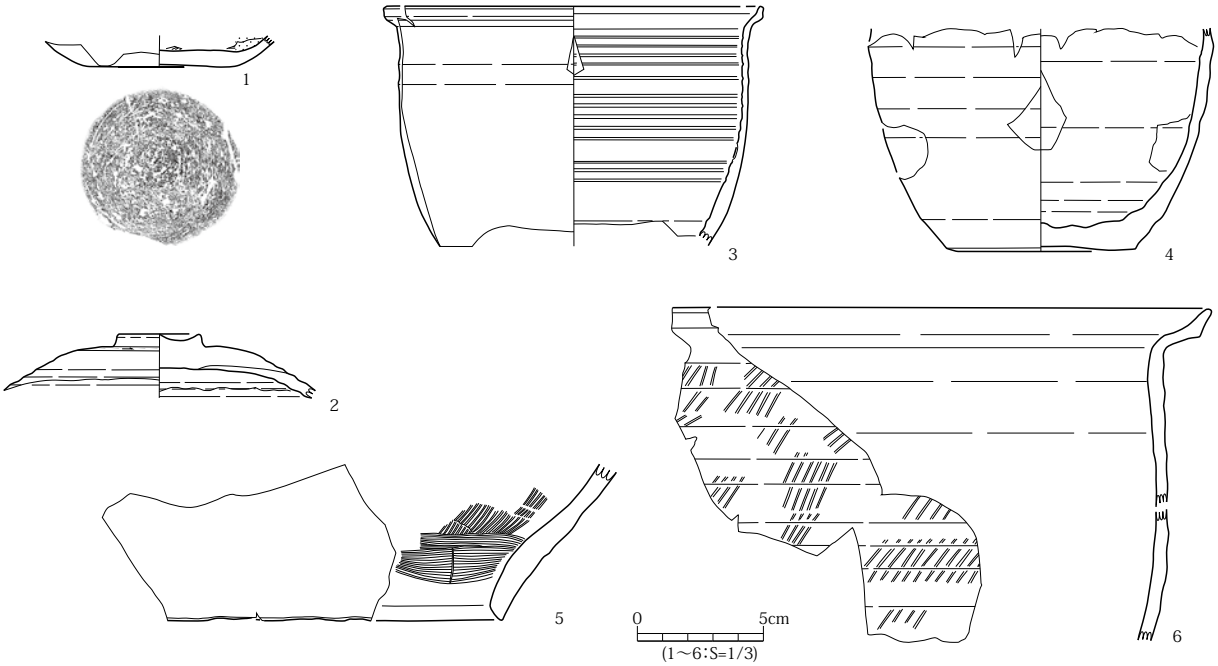
層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	V層小ブロックを少量、層上面に焼土粒、炭化物を非常に多く含む	自然堆積

P7(K-K')

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒色(10YR2/1)	シルト	黒褐色(10YR3/2)シルト質粘土小ブロック、 明黄褐色(10YR6/6)シルト粒・小ブロックを少量含む	自然堆積
2	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	炭化物を少量、V層小ブロックを含む	
3	黒(10YR1.7/1)	シルト質粘土	酸化鉄を少量含む	

P8 (L-L')

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR2/3)	シルト	V層小ブロック、酸化鉄を含む	人為
2	にぶい黄褐色(10YR6/3)	シルト	黒褐色(10YR3/2)シルト質粘土小ブロック・ブロックを多量に、酸化鉄を少量含む	



No.	種別・器種	層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	土師器　坏	掘方埋土	(体)一部(底)4/5	底径 6.2cm　外：ロクロナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理 底：切り離し不明→回転ヘラケズリ	67-13	R779
2	須恵器　蓋	P7　堆	(体〜つまみ)1/2	外：ロクロナデ→回転ヘラケズリ→つまみ取り付け→ロクロナデ 内：ロクロナデ　宝珠形つまみ	67-16	R787
3	土師器　甕	カマド堆+K3-1・2 層+堆	(口〜胴)1/6	口径(15.0cm)　外：ロクロナデ　内：ロクロナデ→(胴上)カキメ	67-11	R785
4	土師器　甕	カマド+堆+K3-2 層+P6 堆	(胴)1/4(底)1/2 弱	底径 7.5cm　外内：ロクロナデ　内面に付着物あり　底部被熱	67-12	R782
5	土師器　甑	煙出しピット　堆	胴部	外：不明　内：ハケメ→ヘラナデ	67-14	R790
6	土師器　甕	P7 堆+K3-2 層	(口〜胴)一部	外：平行タタキ→ロクロナデ　内：当て具→ロクロナデ	67-15	R786

第 153 図　I-8 区　SI295 竪穴建物跡　断面・出土遺物

ロックや炭化物片が含まれる。

〔**その他**〕土坑 2 基（K3・4）とピット 3 個（P6 〜 8）を検出した。K3 は中央、K4、P7 は南東隅周辺、P6 は南辺中央付近、P8 は北東部に位置する。

K3 は楕円形で、長軸 92cm、短軸 82cm、深さ 15cm である。断面は逆台形である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも人為的埋土である。K4 は隅丸長方形で、長軸 51cm、短軸 46cm、深さ 8cm である。断面は逆台形である。堆積土は 1 層で、人為的埋土である。

P6 は K1 と重複し、これより新しい。楕円形で、長軸 36cm、短軸 30cm、深さ 8cm である。断面は

逆台形である。堆積土は1層で、上面に炭化物と焼土粒を非常に多く含む。自然堆積である。P7はA期の主柱穴であるP1と重複する。楕円形で、長軸40cm、短軸26cm、深さ6cmである。断面は皿状である。堆積土は3層に分かれ、いずれも自然堆積である。P8は楕円形で、長軸34cm、短軸26cm、深さ25cmである。断面は「U」字形である。堆積土は2層に分かれ、いずれも人為的埋土である。

〔**出土遺物**〕カマド堆積土とK3埋土、P6･7堆積土からロクロ調整の土師器甕（第153図3･4･6）、K2堆積土から土師器甕、K3埋土から土師器甕、須恵器坏･蓋･甕、P6堆積土からロクロ調整の土師器坏･甕、P7堆積土から土師器甕、須恵器蓋（2）、煙出しピットからロクロ調整の土師器甕や非ロクロ調整の土師器甕･甑（5）が出土した。

⑪I-7区

竪穴建物跡2棟（SI283･288）、柱列跡2条（SA290･291）、溝跡3条（SD281･282･292）、土坑4基（SK284･285･289･308）、自然流路跡1条（SD287）を検出した（第154図）。SA290･291については、掘立柱建物跡の可能性もあるが、調査区の関係から特定することができず、柱列跡として登録した。竪穴建物跡、柱列跡、SK285土坑のみ記述し、それ以外については第19･21･24表に特徴をまとめた。

A. 竪穴建物跡

【SI283竪穴建物跡】（平面･断面図：第155図、遺物：第156図）

〔**位置･検出**〕南東端に位置し、北半を検出した。SI288竪穴建物跡造成の際に大きく壊されており、残存状態は悪い。掘方埋土と周溝、床面施設を確認した。

〔**重複**〕SI288竪穴建物跡と重複し、これより古い。

〔**平面形･規模**〕隅丸方形とみられる。規模は、東西4.2m、南北3.5m以上である。

〔**方向**〕東辺でみると北で東に8°偏る。

〔**壁**〕残存しておらず不明である。

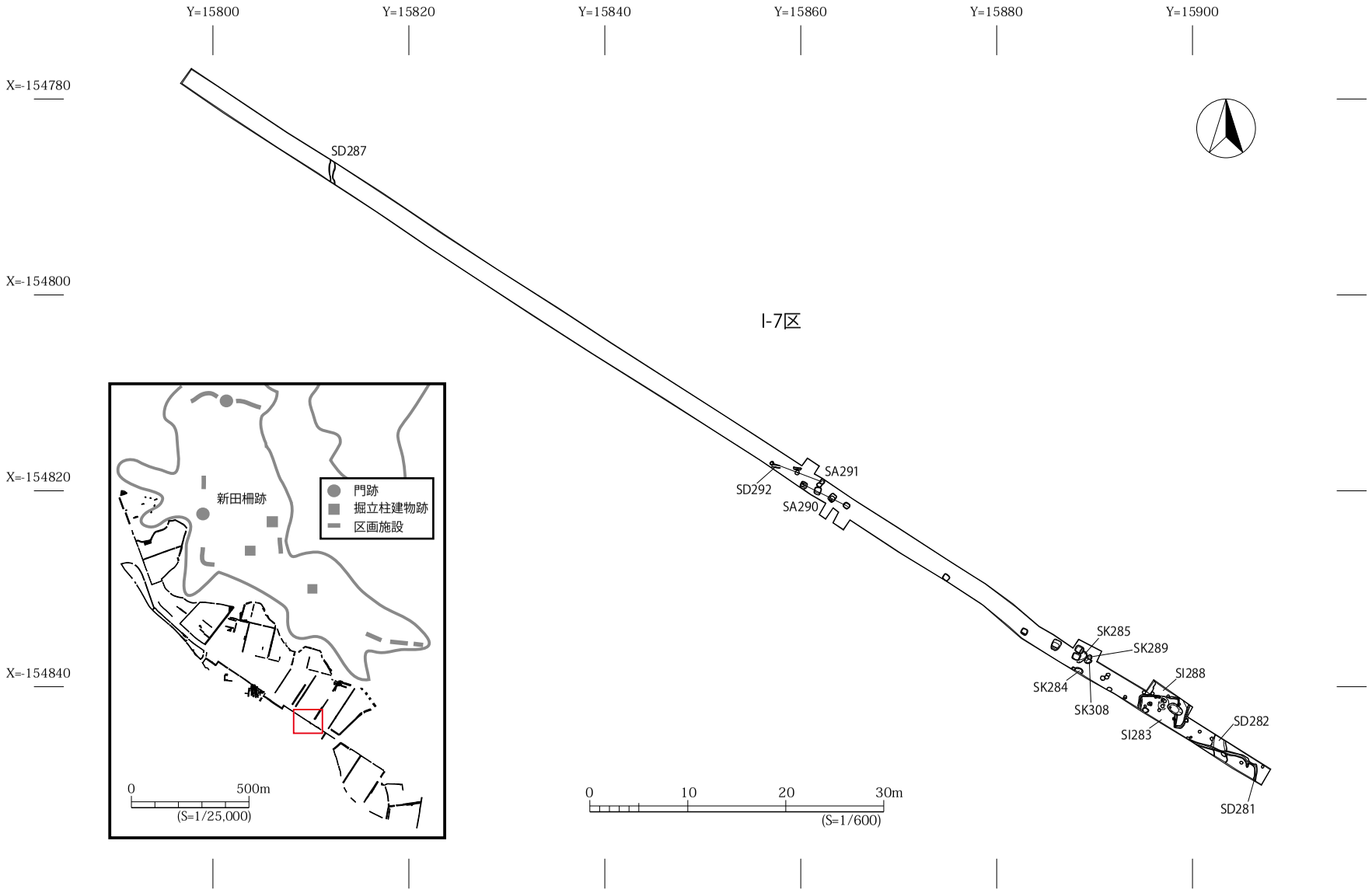
〔**床面**〕掘方埋土を床面としている。床面は概ね平坦である。

〔**主柱穴**〕北東部と北西部で2個(P1･2)検出した。掘方は長軸35～43cm､短軸26～35cmの隅丸長方形で、深さ46～54cmである。P1･2ともに柱痕跡が確認され、径11～14cmの円形である。

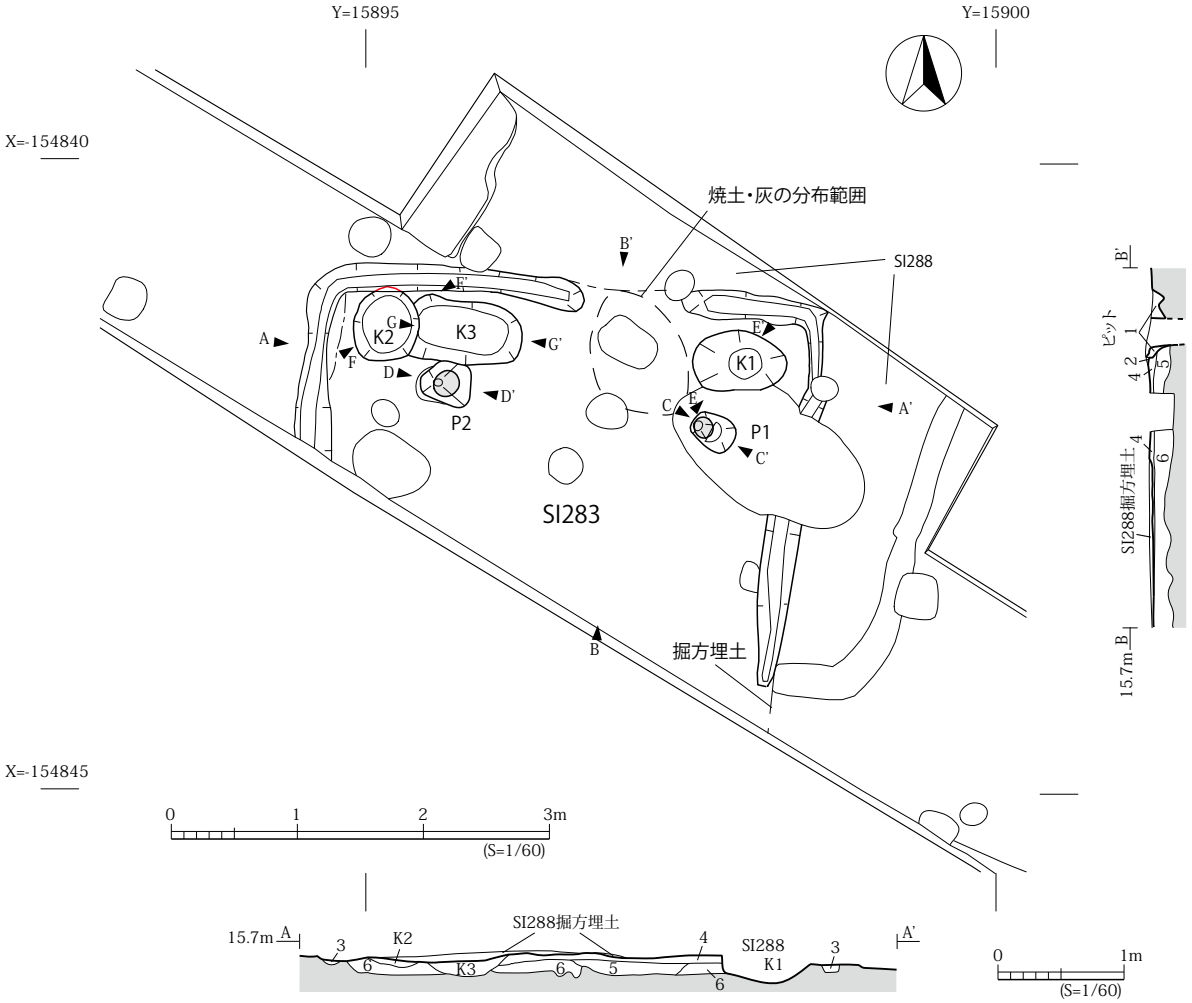
〔**カマド**〕燃焼部や煙道部は確認できなかったが、北辺中央よりやや東側の位置で周溝が途切れ、その部分で焼土層と灰層が堆積する床面から深さ16cmの窪みが認められた（第155図1･2層）。したがって、この位置にカマドが付設された可能性がある。焼土層と灰層の分布範囲は、南北90cm、東西75cmである。

〔**周溝**〕北辺と東西辺で検出した。規模は上幅10～32cm、下幅5～12cm、深さ2～11cmである。断面は「U」字形で、堆積土は人為的埋土である。

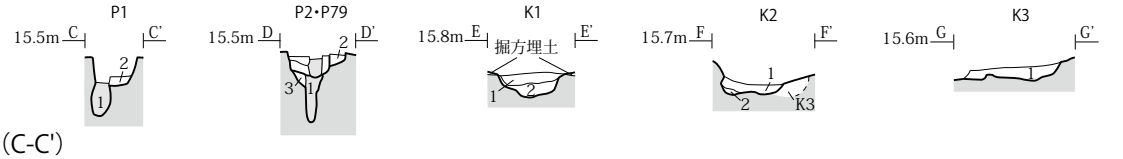
〔**貯蔵穴状土坑**〕1基（K1）検出した。北東隅に位置し、SI288K1により南側が壊されている。楕円形で、長軸75cm、短軸45cm以上、深さ18cmである。断面は逆台形である。堆積土は2層に分かれ、いずれも人為的埋土である。1層には地山小ブロック、焼土小ブロック、炭化物片が多く含まれ、2層には地山小ブロックが多く、焼土小ブロックが少量含まれる。



第 154 図　I-7 区　遺構配置図



層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層粒・小ブロック、焼土粒を非常に多く含む	カマド堆積土
2	黒色(10YR2/1)	シルト	灰と互層になる　V層粒、焼土粒を含む	
3	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層小ブロックを多量に含む	周溝埋土
4	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層粒、黒褐色(10YR3/1)シルト小ブロックを多量に含む	掘方埋土
5	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層小ブロックを多量に含む	
6	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層小ブロックを非常に多く含む	



P1(C-C')

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層小ブロックを含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR4/1)	シルト	V層小ブロックを多量に含む	掘方埋土

P2(D-D')

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層小ブロックをわずかに含む	柱痕跡
2	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	V層小ブロックを非常に多く含む	掘方埋土
3	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	V層粒を多量に含む	

K1 (E-E')

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層、焼土小ブロック、炭化物片を多量に含む	人為
2	にぶい黄褐色(10YR5/3)	シルト	V層小ブロックを多量に、焼土小ブロックを少量含む	

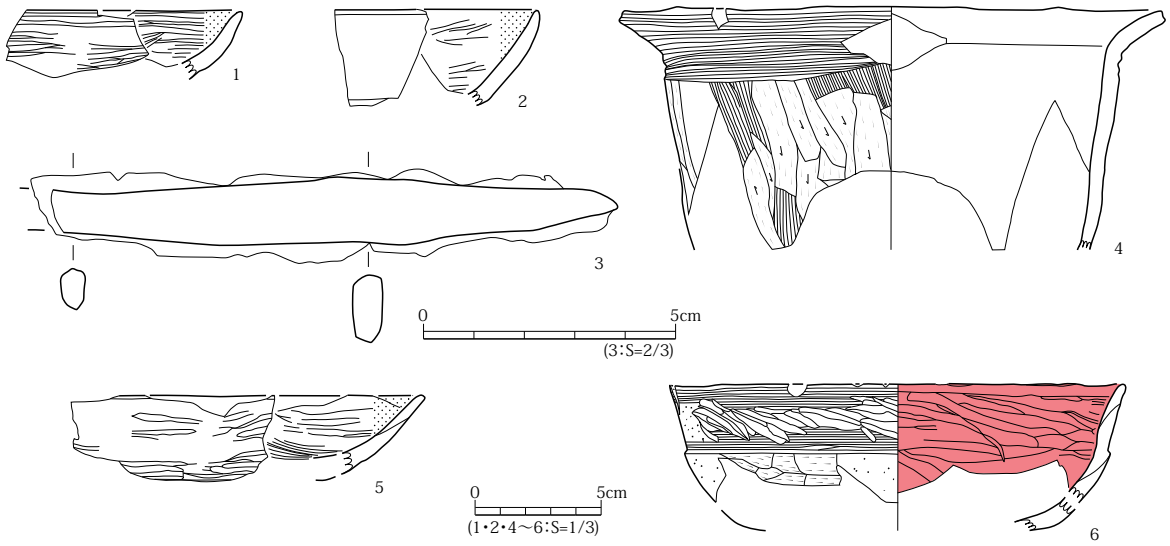
K2 (F-F')

層	土色	土性	含有物など	備考
1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	粘土質シルト	V層小ブロックを非常に多く、黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト小ブロック、焼土小ブロック、炭化物片を含む	人為
2	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	V層小ブロックを多量に含む	

K3 (G-G')

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR2/3)	シルト	V層小ブロックを多量に、焼土粒、炭化物片を含む	人為

第 155 図　I-7 区　SI283 竪穴建物跡



No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	土師器　坏	掘方埋土	口縁部	外：ヘラミガキ　内：ヘラミガキ→黒色処理	68-1	R767
2	土師器　坏	掘方埋土	口縁部	外：不明　内：ヘラミガキ→黒色処理	68-2	R768
3	鉄製品　刀子	掘方埋土	先端・茎部破損	長 (11.2cm)　幅 1.3cm　厚 (0.6cm)	68-6	R925
4	土師器　甕	掘方埋土 +SI283K2-1 層	(口)1/4 (体)一部	口径 21.4cm　外：(口) ナデ (体) ヘラナデ→ヘラケズリ→ (頸) 棒状工具によるナデ 内：不明	68-5	R772
5	土師器　坏	SI283-K1 埋 +SI288-K1 埋	(口～底) 一部	外：(口) ナデ→ヘラミガキ (体) ヘラケズリ→ヘラミガキ　内：ヘラミガキ→黒色処理	68-3	R770
6	土師器　坏	SI283-K1 埋 +SI288-K1 埋	(口～体)1/4・ (口～底)一部	外：(口) ナデ→ヘラミガキ (体) ヘラケズリ　内：ヘラミガキ→赤彩	68-4	R769

第 156 図　I-7 区　SI283 竪穴建物跡　出土遺物

〔**その他**〕土坑 2 基（K2・3）を検出した。どちらも北西隅に位置する。

K2 は K3 と重複し、これより新しい。楕円形で、長軸 60cm、短軸 55cm、深さ 25cm である。断面は逆台形状で、底面に凹凸がある。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも人為的埋土である。K3 は隅丸長方形で、長軸 85cm 以上、短軸 50cm、深さ 15cm である。断面は逆台形で、底面に凹凸がある。堆積土は 1 層で、人為的埋土である。

〔**出土遺物**〕掘方埋土から土師器坏（第 156 図 1・2）・甕（4）、須恵器坏・蓋、刀子（3）、K1 埋土から土師器坏（5・6）・甕、須恵器坏、K2 埋土から土師器甕、K3 埋土から土師器坏、P1 掘方埋土と柱痕跡から土師器坏・甕が出土した。出土した土師器はすべて非ロクロ調整である。なお、K1 埋土と SI288 竪穴建物跡 K1 埋土・掘方埋土と接合するものがあるが（第 156 図 5・6）、これらは SI283 に帰属するものと判断した。

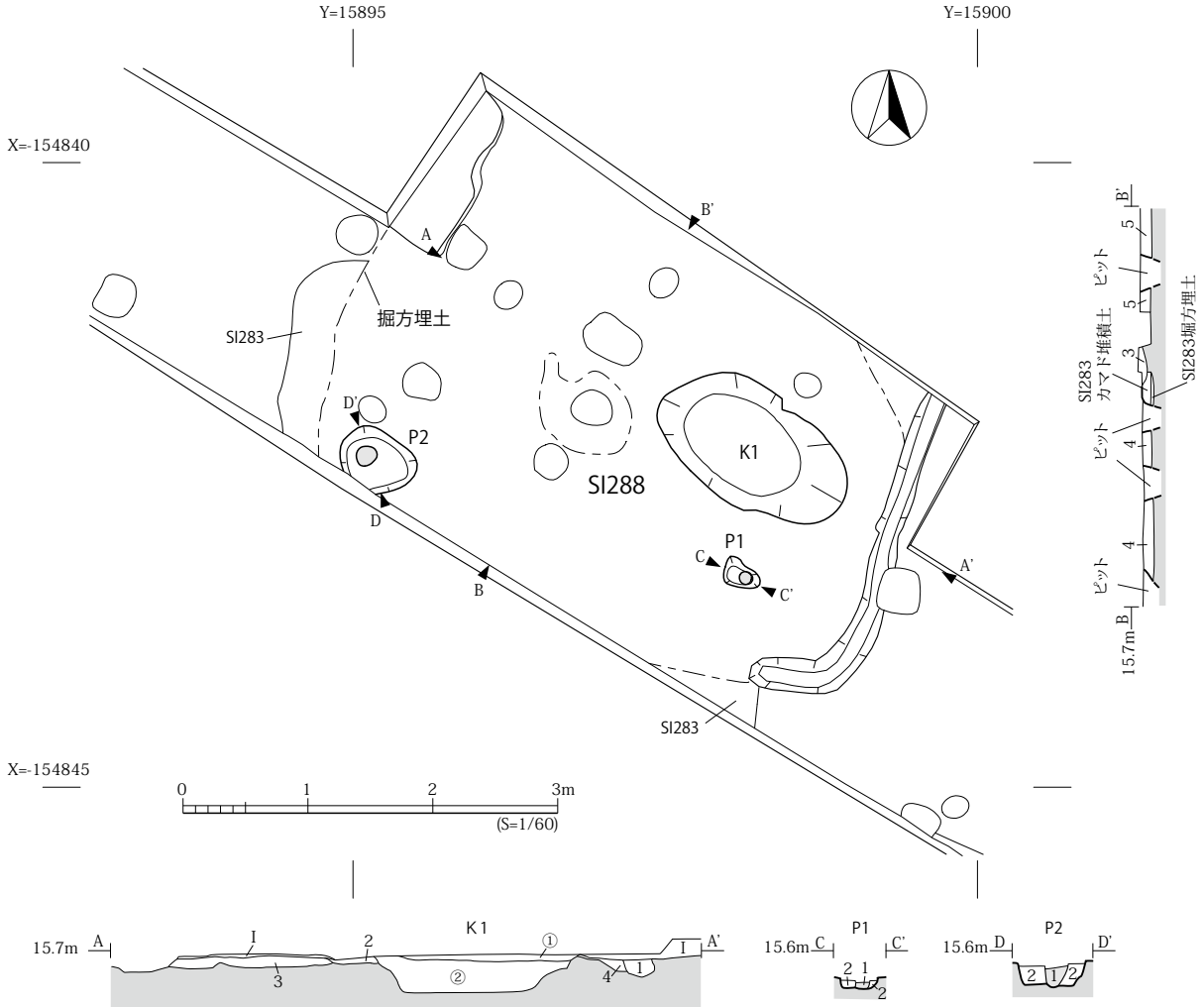
【SI288竪穴建物跡】（平面・断面図、遺物：第 157 図）

〔**位置・検出**〕南東端に位置し、南半を検出した。後世の削平により掘方埋土と周溝、一部の床面施設のみの検出であり、残存状態が悪い。

〔**重複**〕SI283 竪穴建物跡と重複し、これより新しい。

〔**平面形・規模**〕隅丸方形あるいは隅丸長方形とみられる。規模は、北西―南東 4.85m 程度、北東―南西 3.9m 以上である。

〔**方向**〕東辺でみると北で東に 20°偏る。



A-A'、B-B'

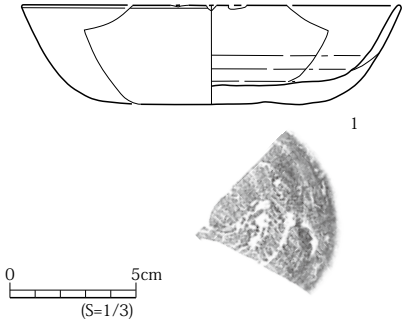
層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層小ブロック、褐灰色(10YR4/1)シルト小ブロックを多量に含む	周溝埋土
2	暗褐色(10YR3/3)	シルト	V層小ブロック、黒褐色(10YR3/1)シルト小ブロックを含む	掘方埋土
3	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層粒・小ブロックをやや多く含む	
4	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層小ブロックを非常に多く含む	
5	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層小ブロックを多量に含む	
①	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層粒・小ブロックを含む	K1 埋土
②	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層小ブロックを非常に多く含む	

P1 (C-C')

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層小ブロックを含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層粒・小ブロックを多量に含む	掘方埋土

P2 (D-D')

層	土色	土性	含有物など	備考
1	暗褐色(10YR3/3)	シルト	V層小ブロックを含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層小ブロックをやや多く含む	掘方埋土



No.	種別・器種	層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	須恵器　坏	掘方埋土＋K1 埋	(口～体)一部(底)1/5	口径(15.0cm)　底径(8.2cm)　器高(3.9cm)　外内：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り→ナデ　内面底部摩耗　ロクロ目摩滅	68-7	R773

第 157 図　I-7 区　SI288 竪穴建物跡

〔**壁**〕残存していない。

〔**床面**〕残存していない。全面に掘方埋土が分布しており、これを床面としていた可能性がある。

〔**主柱穴**〕南東部と南西部で 2 個（P1・2）検出した。P2 は南端が調査区外となる。掘方は長軸 30 ～ 65cm、短軸 24 ～ 50cm の楕円形と不整な隅丸方形で、深さ 9 ～ 21cm である。P1・2 ともに柱痕跡が確認され、径 12 ～ 18cm の円形である。

〔**カマド**〕検出した範囲では不明である。

〔**周溝**〕東辺と南辺の東端で検出した。規模は上幅 16 ～ 27cm、下幅 7 ～ 12cm、深さ 4 ～ 14cm である。断面は「U」字形で、堆積土は人為的埋土である。

〔**その他**〕土坑 1 基（K1）を検出した。南東側に位置する。楕円形で、長軸 165cm、短軸 93cm、深さ 30cm である。断面は逆台形である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも人為的埋土である。

〔**堆積土**〕なし。

〔**出土遺物**〕掘方埋土と K1 埋土から土師器坏･甕､須恵器坏（第 157 図 1）･甕､周溝埋土から土師器坏･甕が出土した。出土した土師器はすべて非ロクロ調整である。

B. 柱列跡

【SA290柱列跡】（平面・断面図：第 158 図）

中央やや南東側に位置し、北西―南東 3 間分を検出した。4 個すべての柱穴で柱痕跡を確認した。総長は 5.1m、柱間寸法は東から 1.8m、1.65m、1.65m である。方向は西で北に 26°偏る。柱穴掘方は長軸 65 ～ 80cm、短軸 55 ～ 70cm の隅丸方形、隅丸長方形で、柱痕跡は長軸 9 ～ 15cm の円形、楕円形である。土師器坏・甕が出土した。

【SA291柱列跡】（平面・断面図：第 158 図）

中央やや南東側に位置し、北西―南東 2 間分を検出した。3 個すべての柱穴で柱痕跡を確認し、E3 では柱材が残存していた。総長は 5.5m、柱間寸法は東から 2.7m、2.8m である。方向は西で北に 20°偏る。柱穴掘方は長軸 37 ～ 53cm、短軸 32 ～ 45cm の隅丸方形、楕円形で、柱痕跡は長軸 12 ～ 18cm の円形、楕円形である。掘方埋土から須恵器甕、柱痕跡から土師器甕、須恵器甕が出土した。

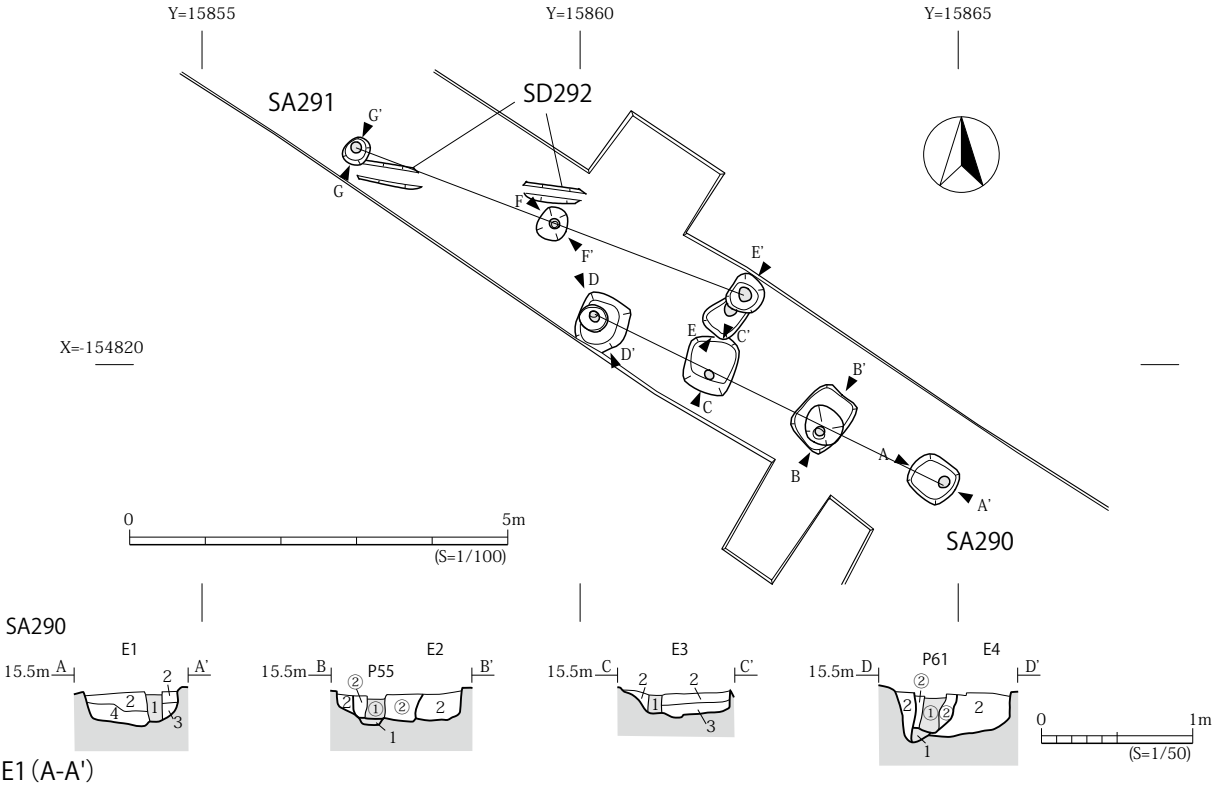
C. 土坑

【SK285土坑】（平面・断面図：第 159 図）

南東部に位置する。SK308 土坑、大型の柱穴 2 個と重複し、SK308 より新しく、柱穴より古い。平面は北東―南西方向に長軸を持つ楕円形で、規模は長軸 1.3m、短軸 0.6m 以上、深さ 0.31m である。断面は逆台形とみられる。堆積土は 3 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・甕が出土した。

D. その他の出土遺物

上記の遺構以外に、SD281・282 溝跡の堆積土から出土し接合した須恵器稜埦（第 159 図 1）、P46 の柱痕跡から須恵器坏（2）が出土した。



E1（A-A'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	層下部に酸化鉄を多量に含む	柱痕跡
2	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	炭化物を少量、V層小ブロック・ブロック、酸化鉄を含む	掘方埋土
3	黒褐色(10YR2/3)	シルト	V層小ブロック・ブロック、酸化鉄を含む	
4	黄褐色(10YR5/3)	シルト質粘土	黒褐色(10YR2/3)シルト小ブロック・ブロック、酸化鉄を含む	

E2・P55（B-B'）

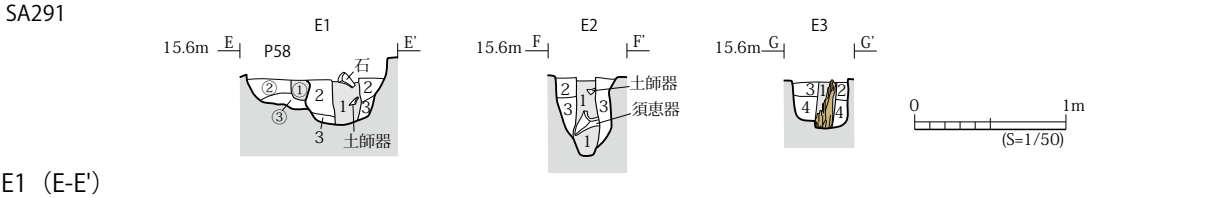
層	土色	土性	含有物など	備考
1	浅黄色(2.5Y7/4)	シルト質粘土	酸化鉄を含む	E2 柱痕跡
2	浅黄色(2.5Y7/3)	シルト質粘土	黒色(7.5Y2/1)粘土ブロック・大ブロックを含む	E2 掘方埋土
①	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	灰黄褐色(10YR6/2)粘土質シルト小ブロック、酸化鉄を含む	P55 柱痕跡
②	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	V層小ブロック・ブロックを多量に、酸化鉄を含む	P55 掘方埋土

E3（C-C'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	V層小ブロックを多量に、炭化物を少量、酸化鉄を含む	柱痕跡
2	にぶい黄褐色(10YR7/2)	粘土質シルト	黒褐色(10YR3/2)粘土質シルトブロック・大ブロック、酸化鉄を含む	掘方埋土
3	にぶい黄褐色(10YR7/2)	粘土質シルト	黒褐色(10YR3/2)粘土質シルトブロック・大ブロックをやや多く含む	

E4・P61（D-D'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	V層小ブロック・ブロック、層状部に酸化鉄を含む	E4 柱痕跡
2	にぶい黄褐色(10YR6/3)	砂質シルト	黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト小ブロック・ブロック、酸化鉄を含む	E4 掘方埋土
①	褐灰色(10YR4/1)	シルト質粘土		P61 柱痕跡
②	灰黄色(2.5Y7/2)	粘土質シルト	黒褐色(10YR3/2)粘土小～大ブロック、酸化鉄を含む	P61 掘方埋土



E1（E-E'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	V層ブロックを多量に、炭化物、酸化鉄を少量含む	E1 柱痕跡
2	浅黄色(2. 5Y7/3)	シルト	褐灰色(10YR4/1)シルトブロックを多量に、酸化鉄を含む	E1 掘方埋土
3	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	V層小ブロック・ブロック、酸化鉄を含む	
①	浅黄色(2. 5Y8/3)	シルト	黒褐色(10YR3/2)シルトブロック、酸化鉄を含む	P58 柱痕跡
②	灰黄褐色(10YR4/1)	シルト	V層小ブロック・ブロック、酸化鉄を含む	P58 掘方埋土
③	灰黄褐色(10YR4/1)	シルト	V層小ブロック・ブロックを多量に含む	

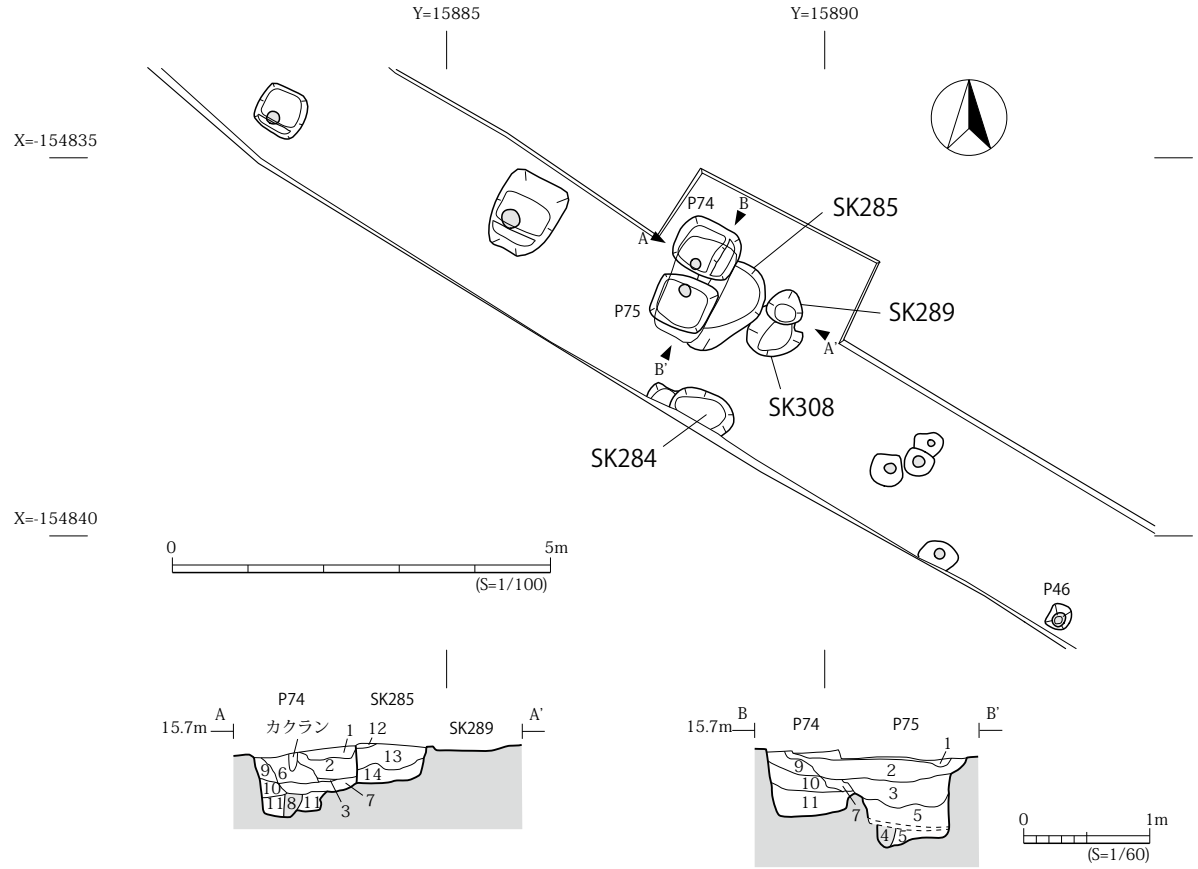
E2（F-F'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(2.5Y3/1)	粘土質シルト	V層小ブロック・ブロック、酸化鉄を含む	柱痕跡
2	にぶい黄色(2.5Y6/3)	粘土質シルト	灰黄褐色(10YR4/2)シルト小ブロックを含む	掘方埋土
3	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	V層小ブロック、酸化鉄を含む	

E3（G-G'）

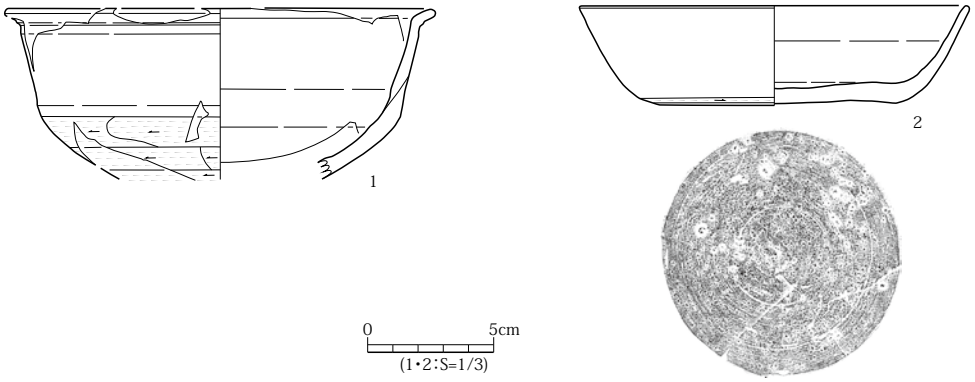
層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒色(10YR2/1)	シルト		柱痕跡
2	褐灰色(10YR4/1)	シルト	V層粒・小ブロックを多量に含む	掘方埋土
3	褐灰色(10YR4/1)	シルト	V層小ブロックをやや多く含む	
4	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層小ブロックを含む	

第 158 図　I-7 区　SA290・291 柱列跡



遺構	層	土色	土性	含有物など	備考
P75	1	暗褐色(10YR3/3)	シルト	焼土粒、炭化物粒を少量、V層小ブロックを含む	抜取穴
	2	暗褐色(10YR3/3)	シルト	V層ブロックややを多く含む	
	3	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	V層ブロックを少量含む	
	4	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層小ブロック・ブロックを多量に含む	柱痕跡
	5	黒色(10YR2/1)	粘土質シルト	V層小ブロック・ブロックを多量に含む	掘方埋土
P74	6	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層ブロックを非常に多く含む	抜取穴
	7	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層ブロック、褐灰色(10YR4/1)シルト小ブロックを多量に含む	
	8	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層ブロックを少量含む	柱痕跡
	9	褐灰色(10YR4/1)	シルト	V層小ブロック・ブロックを非常に多く含む	掘方埋土
	10	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層小ブロック・ブロックを多量に含む	
	11	黒色(10YR2/1)	粘土質シルト	V層小ブロックを多量に、V層ブロックをわずかに含む	
SK285	12	暗褐色(10YR3/3)	シルト	炭化物片をわずかに含む	自然堆積
	13	暗褐色(10YR3/3)	シルト	V層粒を含む	
	14	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層粒・小ブロックを含む	

その他



No.	種別・器種	遺構・層	残存	法量(cm)			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径	器高			
1	須恵器　稜埦	SD281堆+SD282堆	(口～体)1/3	(17.0)			外：ロクロナデ→(体下)回転ヘラケズリ　内：ロクロナデ	68-8	R775
2	須恵器　坏	P46　柱痕跡	(口～体)2/3(底)1/1	15.4	9.6	3.95	外内：ロクロナデ　底：切り離し不明→(体下～底)回転ヘラケズリ	68-9	R777

第 159 図　I-7 区　SK285 土坑、その他の出土遺物

⑫I-6区

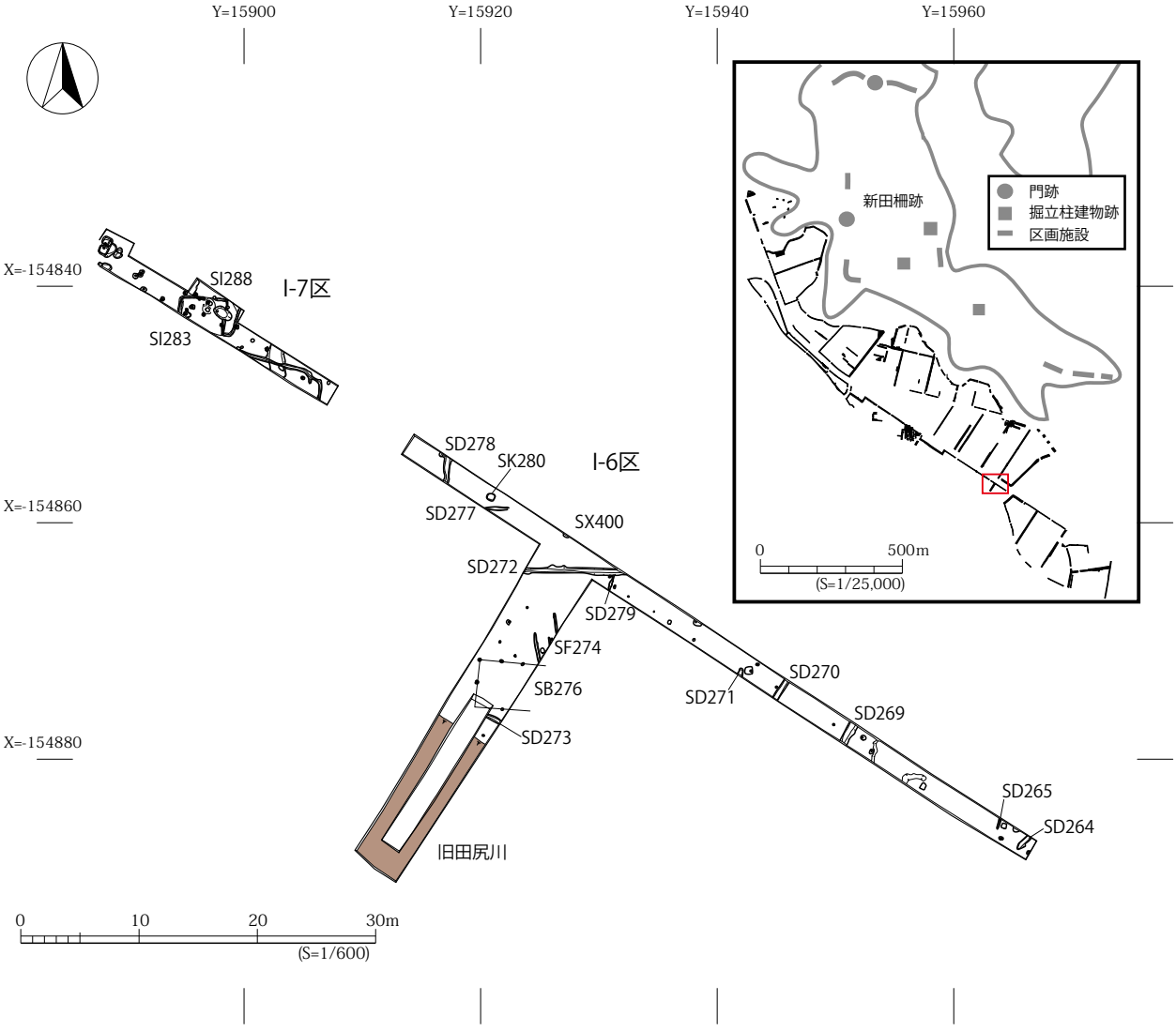
道路跡 1 条（SX400）、掘立柱建物跡 1 棟（SB276）、溝跡 8 条（SD264・265・269 ～ 271・273・278・279）、土坑 1 基（SK280）、小溝状遺構群 1 ヶ所（SF274）を検出した（第 160 図）。道路跡、掘立柱建物跡、土坑、小溝状遺構群を記述し、それ以外については第 19 表に特徴をまとめた。

A. 道路跡

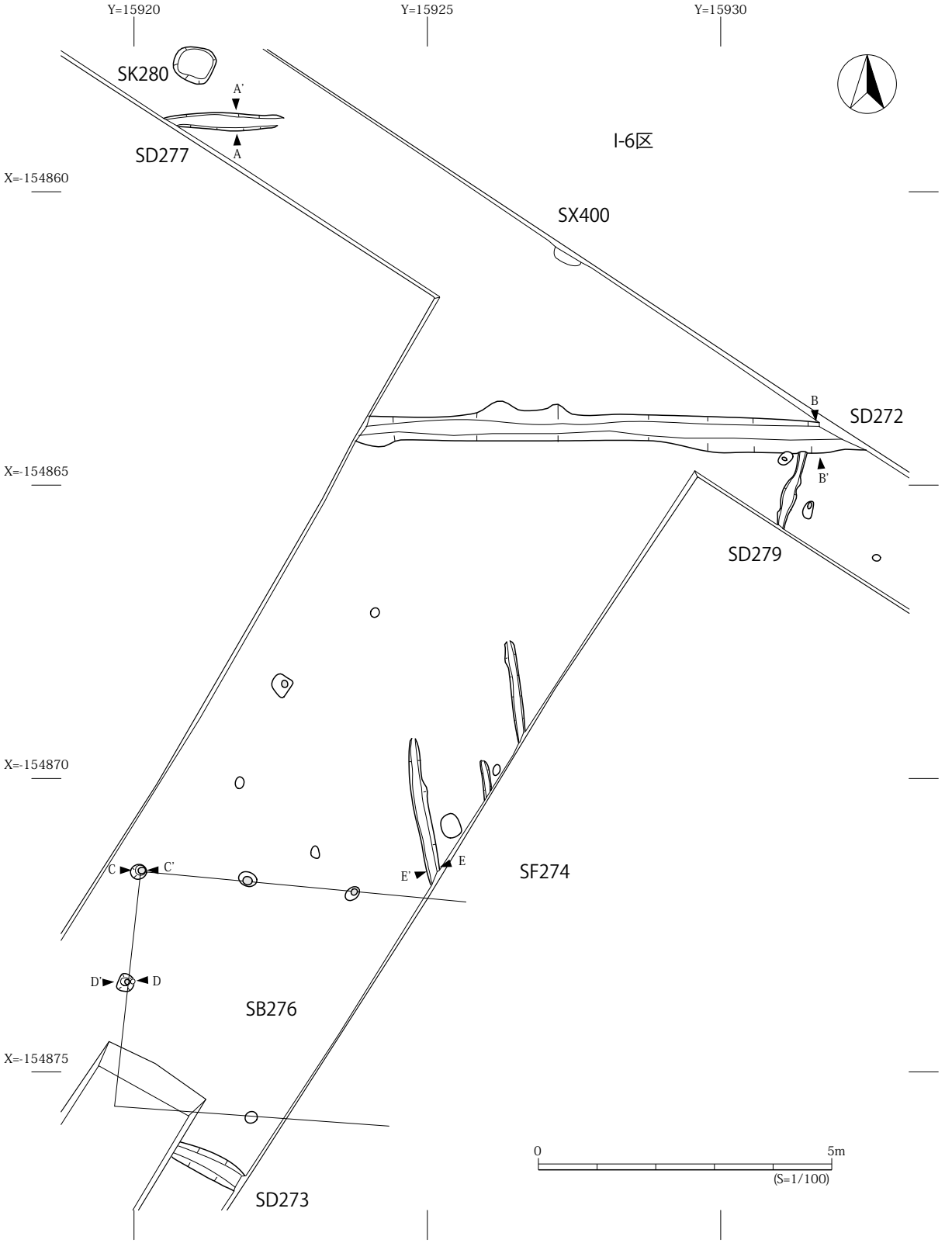
【SX400東西道路跡】（平面・断面図：第 161 図）

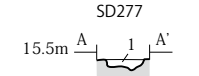
I-6 区で検出した東西方向の道路跡である。東側に位置する平成 27 年度調査の K-6 区（第 4 図）でその延長を確認した（宮城県教育委員会 2016a）。北側と南側に素掘りの道路側溝（SD277・272）を伴う。どちらも改修は認められない。なお、平成 27 年度調査時点では SX1487 道路跡としていたが、今回の報告にあたり遺構名を SX400 道路跡に変更した。ここでは I-6 区の内容についてのみ記述する。

路面は削平されており残存していない。また、道路造成時の基礎事業などの痕跡も認められなかった。検出長は 12.0m、規模は側溝心々で推定 5.3m である。方向は東で南に 0.5°偏る。東西端とも調査区外へ延びる。検出した範囲では、側溝底面は平坦で東西いずれかへの傾斜は確認できない。

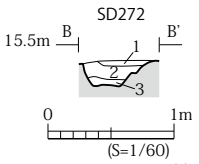


第 160 図　I-6 区　遺構配置図





層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	V層大ブロックを多量に、酸化鉄を含む	自然堆積



層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	V層ブロックを多量に含む	自然堆積
2	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	V層大ブロックを多量に含む	
3	黒褐色(10YR2/2)	粘土質シルト	V層大ブロックを多量に含む	

第 161 図　I-6 区　SX400 東西道路跡、SB276 掘立柱建物跡、SF274 小溝状遺構群

〔**北側溝**〕東側は削平により残存していない。検出長は 2.0m、規模は上幅 0.2 ～ 0.3m、下幅 0.12 ～ 0.22m、深さ 0.08m である。断面は皿状である。堆積土は 1 層で、自然堆積である。堆積土から土師器坏・甕、須恵器坏が出土した。

〔**南側溝**〕検出長は 8.7m、規模は上幅 0.4 ～ 0.6m、下幅 0.12 ～ 0.25m、深さ 0.2m である。断面は逆台形である。堆積土は 3 層に分かれ、いずれも地山ブロックを多く含むが自然堆積とみられる。堆積土から土師器鉢・甕、須恵器坏が出土した。

B. 掘立柱建物跡

【SB276掘立柱建物跡】（平面図：第 161 図、断面図：第 162 図）

〔**位置**〕南西部に位置し、西・北・南側柱列の一部を検出した。

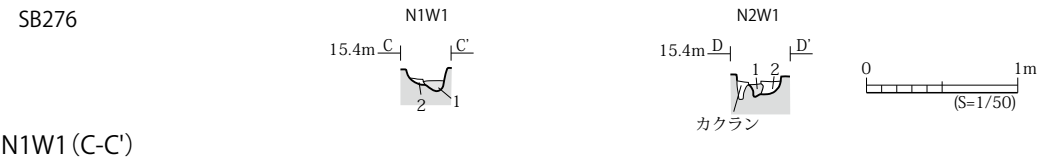
〔**柱間数・棟方向**〕桁行 3 間以上、梁行 2 間の東西棟建物跡である。

〔**検出状況**〕5 個検出し、4 個で柱痕跡を確認した。

〔**平面規模**〕桁行が北側柱列で総長 3.6m 以上、柱間寸法は 1.8m 等間、梁行の総長が西妻で推定 4.0m である。

〔**方向**〕北側柱列で測ると西で北に 7°偏る。

〔**柱穴**〕掘方は長軸 20 ～ 30cm、短軸 20 ～ 25cm の円形、楕円形、隅丸方形で、深さは 14 ～ 16cm である。柱痕跡は長軸 10 ～ 15cm の円形、楕円形である。



N1W1（C-C'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR2/2)	粘土質シルト	Ⅴ層ブロックを少量含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR2/2)	粘土質シルト	Ⅴ層大ブロックを多量に含む	掘方埋土

N2W1（D-D'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR2/2)	粘土質シルト	Ⅴ層ブロックを含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR2/2)	粘土質シルト	Ⅴ層大ブロックを多量に含む	掘方埋土

第 162 図　I-6 区　SB276 掘立柱建物跡　断面

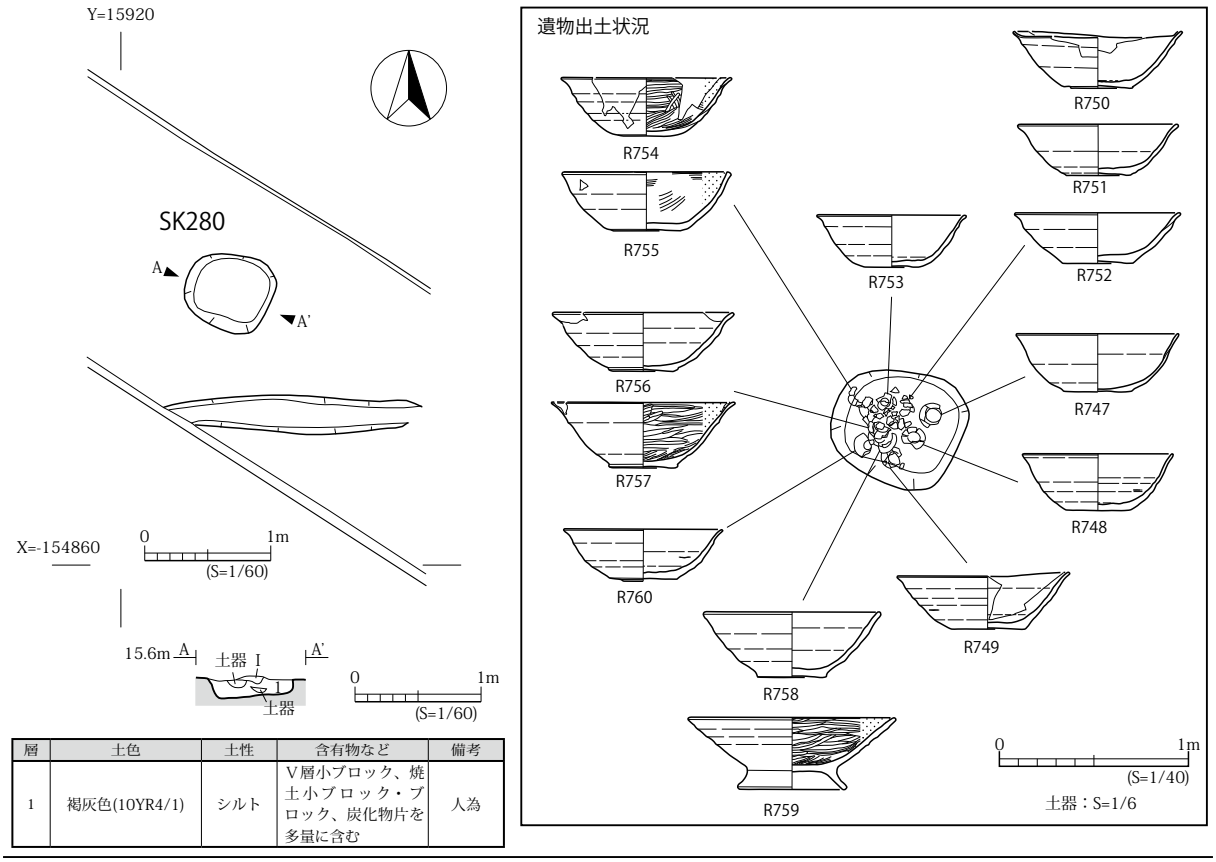
C. 土坑・小溝状遺構群

【SK280土坑】（平面・断面図：第 163 図、遺物：第 164 図）

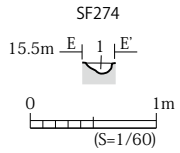
北西部に位置する。平面は北西―南東方向に長軸をもつ隅丸長方形で、規模は長軸 0.67m、短軸 0.63m、深さ 0.16m である。断面は逆台形である。堆積土は 1 層で、人為的埋土である。埋土中から赤焼土器坏（第 164 図 1 ～ 15）、土師器坏（16 ～ 19）・高台坏（20）が重なった状態でまとまって出土した（図版 37-2）。

【SF274小溝状遺構群】（平面図：第 161 図、断面図：第 163 図）

南西部に位置する。3 条検出し、北西―南東 4.0m、北東―南西 2.3m の範囲に分布する。北西―南東方向で、検出長は最大で 2.25m、規模は上幅 0.15 ～ 0.25m、下幅 0.1 ～ 0.15m、深さ 0.08m、溝中心間の距離は 0.7 ～ 1.2m である。断面は「U」字形である。



層	土色	土性	含有物など	備考
1	褐灰色(10YR4/1)	シルト	V層小ブロック、焼土小ブロック・ブロック、炭化物片を多量に含む	人為



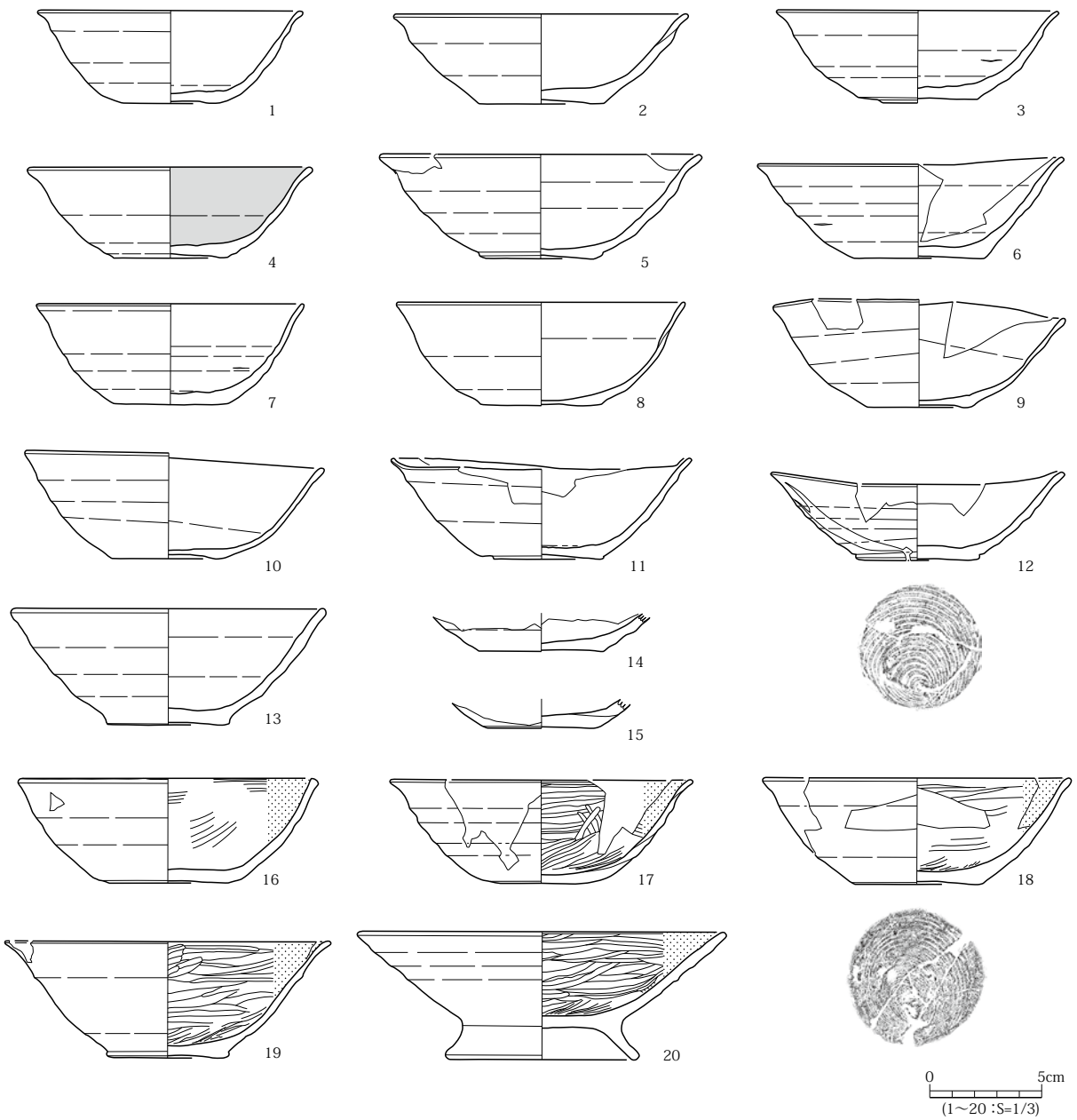
層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR2/2)	粘土質シルト	V層大ブロックを多量に含む	自然堆積

第 163 図　I-6 区　SK280 土坑・SF274 小溝状遺構群　断面

⑬田尻川で採集された遺物

I-13 区と I-16 区の間に位置し、田尻川に架かる「高橋」付近で須恵器 3 点と平瓦 1 点が採集された。須恵器は甕の口頸部（図版 70-1）と胴部（2）である。2 は、外面が平行タタキの後ヘラケズリ、内面が無文の当て具である。平瓦（3）は、凸面が平行タタキ目、凹面が糸切痕とナデである。

現在の田尻川は、航空写真から昭和 39（1964）年から昭和 47（1972）年の間に直線的に改修されたもので、それ以前は小さな蛇行を繰り返したものであった（図版 1）。I 区の調査から、古代の田尻川に相当する河川は現在とは異なる位置であった可能性が高く、改修前の旧田尻川は古代の遺構に重複した位置を流路としていたことが推定される。今後の田尻川に関する工事等には注意する必要がある。



No.	種別・器種	層	残存	法量(cm)			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径	器高			
1	赤焼土器　坏	1層	(口～体)3/4(底)1/1	11.8	4.5	4.1	外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整　外面底部に棒状圧痕あり	68-10	R753
2	赤焼土器　坏	1層	(口～体)3/4(底)1/1	13.1	5.5	4.0	外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整	68-11	R752
3	赤焼土器　坏	1層	(口～体)2/3(底)1/1	12.6	5.3	4.1	外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整	68-12	R760
4	赤焼土器　坏	1層	ほぼ完形	12.7	5.0	4.05	外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整　内面に油煙付着	68-13	R751
5	赤焼土器　坏	1層	(口)1/4(体)1/2 (底)ほぼ 1/1	(14.4)	5.4	(4.65)	外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整	68-14	R756
6	赤焼土器　坏	1層	(口～体)3/4(底)1/1	13.8	6.0	4.5	外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整	68-15	R749
7	赤焼土器　坏	1層	ほぼ完形	12.2	5.0	4.5	外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整	68-16	R748
8	赤焼土器　坏	1層	(口～体)3/4(底)1/1	13.0	5.4	4.6	外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整	68-17	R747
9	赤焼土器　坏	1層	(口～体)3/4(底)1/1	13.0	4.6	4.8	外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整　内面底部に棒状圧痕あり	69-1	R761
10	赤焼土器　坏	1層	完形	13.3	5.0	4.8	外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整	69-2	R762
11	赤焼土器　坏	1層	(口)1/6(体)1/4(底)1/1	13.4	5.4	4.5	外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整	69-3	R750
12	赤焼土器　坏	1層	(口～体)1/5(底)1/1	(13.0)	5.5	(3.95)	外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整　内面底部に回転糸切りの痕跡あり	69-5	R766
13	赤焼土器　坏	1層	ほぼ完形	14.0	5.5	5.2	外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整	69-4	R758
14	赤焼土器　坏	1層	(体)一部(底)1/1	5.5			外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整	69-6	R764
15	赤焼土器　坏	1層	(体)一部(底)3/4	5.2			外内：ロクロナデ　底：回転糸切り無調整	69-7	R765
16	土師器　坏	1層	(口～体)2/3(底)1/1	13.4	6.0	4.65	外：ロクロナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理　底：回転糸切り無調整　被熱	69-8	R755
17	土師器　坏	1層	(口～体)1/4(底)1/2	(13.4)	5.3	(4.6)	外：ロクロナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理　底：回転糸切り無調整	69-9	R754
18	土師器　坏	1層	(口～体)1/8(底)1/1	(13.8)	5.9	4.75	外：ロクロナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理　底：回転糸切り無調整	69-10	R763
19	土師器　坏	1層	(口)1/2(体)3/4(底)1/1	14.4	5.5	5.2	外：ロクロナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理　底：回転糸切り無調整	69-11	R757
20	土師器　高台坏	1層	(口～体)2/3 (高台)ほぼ 1/1	16.4	(高台径) 8.6	5.7	外：ロクロナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理　底：回転糸切り無調整→高台取り付け→ロクロナデ　外面被熱	69-12	R759

第 164 図　I-6 区　SK280 土坑　出土遺物

第 15 表　I 区　道路跡　属性表

遺構	区	時期	側溝位置	側溝	側溝心々間距離（m）	方向	検出長（m）	側溝規模（m） 上幅	下幅	深さ	断面形	堆積土	出土遺物	備考	本文（頁）	図版 No. 平面	断面
SX400	I-6	—	北側溝	SD277	（5.3）	E-0.5 °-S	2.0	0.2 ～ 0.3	0.12 ～ 0.22	0.08	皿状	自然	土師器・須恵器		204, 206	160, 161	161
			南側溝	SD272			8.7	0.4 ～ 0.6	0.12 ～ 0.25	0.2	逆台形	自然	土師器・須恵器	SD279 との重複は不明			
SX200	I-16・18・19	A 期	東側溝	SD460A	8.9 ～ 9.0	N-4° -E	57.0	0.3 ～ 0.5 以上	0.25 ～ 0.32	0.14 ～ 0.3	逆台形	自然	須恵器	SD482 → SD460 → SD487・508・509 SD461 → SD485・503 ～ 506	143, 148	105 ～ 109	107 ～ 109
			西側溝	SD461A			57.8	0.3 ～ 0.65	0.15 ～ 0.25	0.1 ～ 0.17	逆台形	自然	土師器・須恵器				
		B 期	東側溝	SD460B	7.0 ～ 7.9		57.5	0.55 ～ 1.4	0.15 ～ 0.5	0.26 ～ 0.3	逆台形	自然	土師器・須恵器				
			西側溝	SD461B			62.0	0.35 ～ 1.0	0.14 ～ 0.7	0.2	逆台形	自然	土師器・須恵器				

第 16-1 表　I 区　掘立柱建物跡　属性表

遺構	区	建物間数 桁行	梁行	棟方向	平面規模 桁行総長(m)/測定柱列/柱間寸法(m)			梁行総長(m)/測定柱列/柱間寸法(m)			方向 建物傾斜角度/真北基準		柱痕(cm)	柱穴掘方 規模(cm)	平面形	備考	本文（頁）	図版 No. 平面	断面
SB276	I-6	3 以上	2	東西	3.6 以上	北	1.8＋1.8	（4.0）	西	1.9 ＋（2.1）	北	W-7° -N	10 ～ 15	20 ～ 30	円・楕円・隅丸方		206	161	162
SB296	I-8	3 以上	2 以上	東西	4.8 以上	北	1.6＋1.6＋1.6	2.3 以上	西	—	北	N-3° -E	14 ～ 18	36 ～ 60	隅丸方	SD307 → SB296	189	146, 149	149
SB306	I-8	3 以上	2 以上	東西	5.55 以上	北	2.05＋1.7＋1.8	1.6 以上	東	—	北	W-7° -N	10 ～ 15	25 ～ 28	楕円		188	146, 148	148
SB309	I-8	3	2	東西	（6.6）	南	2.15＋2.25 ＋（2.2）	（4.55）	西	（2.25） ＋（2.3）	南	W-4° -N	10 ～ 15	25 ～ 35	円・楕円	SI295 → SB309	189, 191	146, 149	149
SB311A	I-9	5	3	東西	—	—	—	—	—	—	—	—	26	116 ～ 144	隅丸方 隅丸長方		162, 166	123 ～ 125	125
SB311 B					（11.5）	南	（2.3）＋（2.3） ＋2.3＋2.3＋2.3	5	西	（1.65） ＋（1.65） ＋1.7	西	N-9° -E	18 ～ 26	136 ～ 152	隅丸長方				
SB312A	I-9	2 以上	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	92 ～ 135	隅丸長方	総柱建物 SB312 → SD310	166, 168	123, 124, 127	128
SB312B					2.2 以上	西	—	4.8	南	2.6 ＋2.2	西	N-9° -E	16 ～ 28	62 ～ 70	隅丸方・隅丸長方・楕円				
SB312C					2.3 以上	西	—	4.6	南	2.5 ＋2.1	西	N-7° -E	17 ～ 28	82 ～ 110	隅丸長方・楕円				
SB315	I-9	2	2	—	4.3	西	2.05＋2.25	4.1	北	2.0 ＋2.1	西	N-5° -E	14 ～ 20	38 ～ 65	隅丸方・隅丸長方・楕円	南妻は 3 間	173, 174	123, 132, 133	134
SB316A	I-9	3	2	南北	6.2	東	2.1＋2.0＋2.1	4.5	南	2.2 ＋2.3	東	N-9° -E	16 ～ 22	66 ～ 100	隅丸方・隅丸長方	SB318 → SB316 → SA325	174, 175	123, 132, 133	134
SB316B					6.3	西	2.1＋2.0＋2.2	4.1	南	2.0 ＋2.1	東	N-9° -E	12 ～ 18	36 ～ 50	円・楕円・隅丸方・隅丸長方				
SB318	I-9	2 以上	2	南北ヵ	2.2 以上	西	—	4.4	南	2.2 ＋2.2	西	N-17° -E	16 ～ 22	88 ～ 130	隅丸方 隅丸長方・「L」字	SB318 → SB316	175	123, 132, 133	135
SB320A	I-9	3	2	南北	—	—	—	—	—	—	—	—	—	110 ～ 150	隅丸長方・不整な隅丸長方	総柱建物	169	123, 124, 127	129
SB320B					6.7	西	2.3＋2.1＋2.3	5.2	南	2.6 ＋2.6	西	N-9° -E	22 ～ 36	溝状：長 266 ～ 325 幅 54 ～ 90 隅丸長方：長軸 100 短軸 76	溝状・隅丸長方	総柱建物 掘方が溝状			
SB321	I-9	3	2	南北	8.2	西	2.9＋2.3＋3.0	4.4	南	2.1 ＋2.3	西	N-8° -E	18 ～ 28	106 ～ 140	隅丸長方・「L」字	SB322 → SB321 → SE384、SD378	169, 172	123, 124, 130	130
SB322	I-9	3	2	南北	8.1	西	（2.8）＋（2.8） ＋2.5	5.7	北	（2.9） ＋（2.8）	西	N-10° -E	20 ～ 23	90 ～ 120	隅丸長方	SB323 → SB322 → SB321 → SE384、SD378	172	123, 124, 130	130
SB323	I-9	2	2	東西	3.8	南	（1.9）＋（1.9）	3.2	西	1.6 ＋1.6	西	N-15° -E	13 ～ 22	38 ～ 76	隅丸長方・円・楕円	SB323 → SB322、SD378	173	123, 124, 130	130
SB327	I-9	2	1	南北	3	西	1.55＋1.45	2.55	南	—	西	N-5° -E	12 ～ 18	34 ～ 46	隅丸方・隅丸長方・楕円		175, 177	123, 132, 133	—
SB348	I-10	3	2 以上	北西-南東	6.9	北東	2.35＋2.15 ＋2.4	2.55	南東	—	北東	W-38°-N	10 ～ 15	20 ～ 32	円・楕円	SI339、SD350、SK360 → SB348	119	86, 88, 89	89

※（ ）は推定値

第 16-2 表　Ⅰ区　掘立柱建物跡　属性表

遺構	区	建物間数		棟方向	平面規模						方向		柱痕（cm）	柱穴掘方		備考	本文（頁）	図版 No.	
		桁行	梁行		桁行総長（m）/ 測定柱列 / 柱間寸法（m）			梁行総長（m）/ 測定柱列 / 柱間寸法（m）			建物傾斜角度 / 真北基準			規模（cm）	平面形			平面	断面
SB469	I-16	3	2	東西	4.7	北	1.55 ＋1.7 ＋1.45	2.7	西	1.35＋1.35	北	W-7° -N	10 ～ 16	42 ～ 52	隅丸方・隅丸長方		148	105,111, 112	113
SB470	I-16	3	2	東西	4.5	北	1.4 ＋1.45 ＋1.65	3.1	東	1.6＋1.5	北	W-10°-N	14 ～ 22	69 ～ 90	隅丸方・隅丸長方	SB470 → SD479	148	105,111, 112	113
SB471	I-16	2 以上	1 以上	不明	3.5 以上	西	1.65 ＋1.85	1.1 以上	北	—	西	N-15° -E	10 ～ 12	22 ～ 32	円・楕円		150	105,111, 112	113
SB472	I-16	2 以上	2	不明	1.9 以上	西	—	3.8	南	1.9＋1.9	南	W-13°-N	14 ～ 19	55 ～ 64	隅丸方・隅丸長方	総柱建物	150	105,111	—
SB481	I-16	2 以上	1	南北	（4.3） 以上	東・西	（1.8） ＋(2.5)	（2.65）	南	—	西	N-7° -E	8 ～ 10	20 ～ 22	楕円	SB481 → SD465	152	105,111, 114	114

※（ ）は推定値

第 17 表　Ⅰ区　竪穴建物跡　属性表

遺構名	区	検出	平面形	方向	規模（m）		主柱穴	カマド			貯蔵穴		周溝		備考	本文（頁）	図版No.	
					長軸	短軸		位置	側壁	煙道長（m）	位置	形状	有無	状態			平面	断面
SI283	I-7	2/3 以上	隅丸方形ヵ	N-8°-E	4.2	3.5以上	（2）	北か	—	—	北東隅	楕円形	北・東西	埋土	土坑２基あり SI283→SI288	196, 199	154,155	155
SI288	I-7	一部	隅丸方形or 隅丸長方形	N-20°-E	4.85程	3.9以上	（2）	—	—	—	—	—	東・南	埋土	土坑１基あり SI283→SI288	199, 201	154,157	157
SI294	I-8	一部	隅丸方形ヵ	W-20°-N	2.9以上	1.1以上	—	—	—	—	—	—	北	埋土		191	146,150	150
SI295A	I-8	部分	隅丸長方形ヵ	N-8°-E	5.6程	4.8	（2）	—	—	—	—	—	東西	埋土	土坑1基あり SI295→SB309	192, 195, 196	146,151	151
SI295B							（3）	東	—	1.5	南東隅	楕円形			土坑2基 ピット2個あり SI295→SB309		146,152	152, 153
SI392	I-9	全体	隅丸方形	N-9°-E	3.8	3.6	—	北ヵ	—	—	—	—	東西 南北	埋土	残り悪い SI392→SK435	177	123,124, 136	—
SI394	I-9	一部	隅丸方形or 隅丸長方形	N-5°-E	5.6	2.2以上	—	—	—	—	—	—	西	—	残り悪い	177	123,136	—
SI395	I-9	一部	隅丸方形or 隅丸長方形	N-22°-E	2.2以上	1.4以上	—	—	—	—	—	—	東	—	残り悪い	177	123,136	—
SI396	I-9	一部	隅丸方形or 隅丸長方形	N-8°-E	1.4以上	1.0以上	—	—	—	—	—	—	西・南	—	残り悪い	177	123,136	—
SI397	I-9	部分	隅丸方形or 隅丸長方形	N-15°-E	5.7以上	5.6以上	—	—	—	—	—	—	北・西	—	残り悪い SI397→SI399	177	123,137	—
SI399	I-9	部分	隅丸方形or 隅丸長方形	N-30°-E	6.1	3.3以上	—	—	—	—	—	—	—	—	残り悪い SI397→SI399	177	123,137	—
SI401	I-9	一部	隅丸方形or 隅丸長方形	不明	3.6以上	1.1以上	—	—	—	—	—	—	—	—	残り悪い SI399との 重複は不明	177	123,137	—
SI402	I-9	部分	不明	N-13°-E	6.5以上	1.8以上	—	—	—	—	—	—	東西	埋土	SI402→SD383	177	123,138	138
SI455	I-9	一部	隅丸方形or 隅丸長方形	不明	2.7以上	1.8以上	—	—	—	—	—	—	—	—	残り悪い	177	123,136	—
SI339	I-10	部分	隅丸方形or 隅丸長方形	W-33°-N	4.9	3.3以上	（2）	—	—	—	—	—	北西・南西・南東	埋土	主柱穴に旧あり SK360→SI339→ SK343、SB348	119, 125	86,88,90	90
SI341	I-10	部分	隅丸方形or 隅丸長方形	W-10°-N	6.2	4.3以上	（2）	—	—	—	—	—	東西・南	自然	土坑２基、 ピット１個あり SD359→SI341→ SI349、SD342・364	125, 127, 129	86,88,92	92,93
SI349	I-10	ほぼ全体	隅丸長方形	W-21°-N	4.5	3.8	0	—	—	—	—	—	東西 南北	埋土	壁材痕跡、 土坑２基あり SI341、SD361→ SI349→SD342・351	129	86,88,95	95
SI367	I-13	一部	—	W-25°-N	6.8以上	4.4以上	—	—	—	—	—	—	北	埋土	土坑２基あり	137	99,101	101

第 18 表　Ⅰ区　柱列跡・材木塀跡　属性表

遺構	区	間数	方向	平面規模（m）		柱痕（cm）	柱穴掘方		備考	本文（頁）	図版 No.	
				総長	柱間寸法		規模（cm）	平面形			平面	断面
SA290	I-7	3	W-26° -N	5.1	1.8＋1.65＋1.65	9 ～ 15	65 ～ 80	隅丸方・隅丸長方	柱列跡	201	154,158	158
SA291	I-7	2	W-20° -N	5.5	2.7＋2.8	12 ～ 18	37 ～ 53	楕円・隅丸方	柱列跡	201	154,158	158
SA325	I-9	3	N-8° -E	6.3	2.0＋2.1＋2.2	14 ～ 20	34 ～ 50	隅丸長方・楕円	柱列跡 SB316、SK445 → SA325	179	123,132,133	134
SA404	I-9	—	N-22° -E	1.8	—	10 ～ 15	上幅 0.38 ～ 0.74	—	材木塀跡 材の間隔は 8 ～ 12cm	181	123,138,141	140
SA347	I-10	2	W-42° -N	4.3	2.4＋1.9	15 ～ 20	65 ～ 70	隅丸長方・楕円	平面確認のみ 柱列跡	129	86,87	—
SA336	I-13	3	W-44° -N	4.9	1.7＋1.5＋1.7	10 ～ 14	33 ～ 43	円・楕円・隅丸方	柱列跡	137	99,102	102
SA338	I-13	2	W-25° -N	3.7	1.85＋1.85	15	35 ～ 38	隅丸方	柱列跡	137	99,102	102
SA468	I-16	2	W-20° -N	3.15	1.6＋1.55	12 ～ 15	38 ～ 42	円・楕円	柱列跡	153	105,111,112	113

第 19-1 表　I 区　溝跡　属性表

遺構	区	方向	検出長（m）	規模（m）			断面形	堆積土	出土遺物	備考	本文（頁）	図版 No.	
				上幅	下幅	深さ						平面	断面
SD258	I-1	北東－南西	1.8	1.38～2.1	0.3～0.72	0.4	逆台形	自然	土師器		—	80	—
SD251	I-4	北西－南東	6.0	1.4～1.47	0.6～0.85	0.19	皿状	自然	土師器・須恵器・瓦		—	82	—
SD262	I-4	東西	3.3	0.24～0.27	0.04	0.04	皿状	自然			—	82	—
SD254	I-5	北西－南東	10.3	0.5～0.8	0.15～0.35	0.16	逆台形	自然	土師器・須恵器	SD255 → SD254	—	82	—
SD255	I-5	北東－南西	2.4	0.83～1.05	0.3～0.35	0.4	U字形	自然	土師器・瓦	SD255 → SD254	—	82	—
SD264	I-6	北東－南西	1.5	0.4～0.55	—	—	箱形	自然			—	160	—
SD265	I-6	北東－南西	0.9	0.2	0.1	0.21	不整形	自然			—	160	—
SD269	I-6	北東－南西	1.8	0.65～0.85	0.25～0.45	0.31	U字形	自然	土師器・須恵器・鉄滓	灰白色火山灰あり	—	160	—
SD270	I-6	北東－南西	1.9	0.5	0.3～0.35	0.26	逆台形	自然	土師器	灰白色火山灰あり	—	160	—
SD271	I-6	北東－南西？	0.5	0.5	0.4	0.22	不整形	自然			—	160	—
SD273	I-6	北西－南東	1.2	0.3～0.43	0.15～0.2	0.35	不整形	自然			—	160,161	—
SD278	I-6	南北	2.6	0.35～0.6	0.15～0.3	0.08	皿状	自然			—	160	—
SD279	I-6	北東－南西	1.35	0.1～0.25	0.05～0.18	0.05	皿状	自然			—	160,161	—
SD281	I-7	北西－南東と南北	北西－南東 7.4 南北 1.7	0.25～0.37	0.05～0.15	0.09	逆台形	自然	土師器・須恵器	「F」字状 SD282 → SD281	—	154	—
SD282	I-7	南北	2.8	1.3～1.6	1.0～1.15	0.17	不整形	自然	土師器・須恵器	SD282 → SD281	—	154	—
SD292	I-7	北西－南東	3.05	0.2～0.3	0.08～0.18	0.02	皿状	自然			—	154,158	—
SD297	I-8	東西	0.5	0.25	0.2	0.22	U字形	自然			—	147	—
SD299	I-8	東西	2.1	0.6～0.8	0.5～0.6	0.09	不整形	自然	土師器		—	147	—
SD300	I-8	東西	1.65	0.3	—	—	—	自然			—	146	—
SD301	I-8	東西	1.6	0.4	—	—	—	自然			—	146	—
SD302	I-8	南北	1.2	0.3～0.35	0.18～0.2	0.08	—	自然	土師器		—	147	—
SD303	I-8	南北	1.4	0.45～0.5	0.25～0.45	0.25	U字形	自然			—	147	—
SD304	I-8	北西－南東	2.2	0.6 以上	—	—	—	自然	土師器		—	147	—
SD307	I-8	東西・北西－南東	東西 1.1 北西－南東 1.7	0.4 以上	—	—	—	自然		SD307 → SB296	—	149	—
SD310	I-9	東西	16.2	1.2～1.6	1.0～1.22	0.14	皿状	自然	土師器・須恵器	SB312 → SD310	183	123,124	142
SD378	I-9	北東－南西 北西－南東	北東－南西 20.7 北西－南東 3.7	0.15～0.42	0.07～0.2	0.1	U字形	自然	土師器・須恵器・鉄滓	「L」字 SB321・322・323 → SD378	184	123, 124	142
SD380	I-9・14	南北・東西	南北 60.1 東西 2.0	1.0～2.0	0.6～1.0	0.36～0.42	逆台形	自然	土師器・須恵器	「L」字　灰白色火山灰あり SD406 → SD380 → SX410、SD456	158, 183	119,120, 123,141	120, 142
SD383	I-9	北東－南西	1.9	2.5	0.76	0.83	逆台形	自然	土師器・須恵器・陶器	SI402、SD403 → SD383	184	123, 138,141	138
SD403	I-9	北東－南西	1.9	1.56 以上	0.46	0.4	逆台形ヵ	自然	土師器・須恵器	SD403 → SD383	184	123, 138,141	138
SD456	I-9	東西	3.94	1.16～1.32	—	—	—	自然		SD380 → SD456	—	123,141	—
SD342	I-10	北東－南西	6.2	0.28～0.66	0.12～0.24	0.37	逆台形	自然	土師器・須恵器・瓦	平面確認のみ SI341・349、SD363 → SD342	129	88,89	95
SD350	I-10	北東－南西	3.55	0.6～0.7	0.1～0.25	0.53	箱形	自然	土師器・須恵器	SD361 → SD350 → SB348	131	88,89	96
SD351	I-10	南北	6.85	0.35-0.7	0.07～0.3	0.21	逆台形	自然	土師器・須恵器	SI349 → SD351	132	88,89	96
SD353	I-10	北西－南東	12.1	0.1～0.38 以上	—	—	—	—	土師器	平面確認のみ	—	87,88	—
SD354	I-10	北東－南西	1.2	0.3	—	—	—	—		平面確認のみ	—	87	—
SD356	I-10	南北	1.9	0.8	—	—	—	—		平面確認のみ	—	88	—
SD359	I-10	北西－南東	10.95	1.7～2.7	—	—	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ SD359 → SI341、 SD362・364、SK346	—	88	—
SD361	I-10	北東－南西	2.7	1.0 以上	—	—	—	—	土師器	平面確認のみ SD361 → SI349、SD350	—	88	—
SD362	I-10	東西	3.9	0.23～0.3	—	—	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ SD359 → SD362 → SD363	—	88	—
SD363	I-10	北西－南東	5.6	0.75～1.05	—	—	—	—		平面確認のみ SD362 → SD363 → SD342・364	—	88	—
SD364	I-10	北東－南西	5.45	0.25～0.78	0.1～0.15	0.06	皿状	自然	土師器	平面確認のみ SI341、SD359・363 → SD364	—	88	—
SD372	I-11	北西－南東	12.2	0.7～1.15	0.45～0.7	0.15	逆台形	自然	土師器・須恵器		132	86,88	98
SD375	I-11	北西－南東	3.4	0.4～0.65	0.2	0.07	皿状	自然			—	86,88	—
SD331	I-12	南北	3.3	0.45～0.8	0.3～0.5	0.29	箱形	自然			—	99	—
SD335	I-13	北東－南西	2.5	0.82～0.9	0.4～0.55	0.18	皿状	自然	土師器		—	99	—
SD366	I-13	北東－南西	1.8	2.35～2.4	1.85～1.95	0.4	逆台形	自然	土師器・須恵器・瓦		137, 139	99,103	103
SD368	I-13	北東－南西	0.7	0.2～0.4	0.1～0.32	0.28	逆台形	自然	土師器		—	99	—

第 19-2 表　I 区　溝跡　属性表

遺構	区	方向	検出長（m）	規模（m）			断面形	堆積土	出土遺物	備考	本文（頁）	図版 No.	
				上幅	下幅	深さ						平面	断面
SD406	I-14	東西・南北	東西 4.0 南北 1.2	0.28 ～ 0.5	0.15 ～ 0.28	0.14	逆台形	自然	土師器	「L」字　SD406 → SD380	158	116,119, 120	120
SD409	I-14	北東－南西	2.4	0.65 ～ 0.75	0.4 ～ 0.53	0.26	逆台形	自然		SX407 → SD409	—	116,119	—
SD411	I-14	北東－南西	4.1	0.5	0.25 ～ 0.33	0.3	逆台形	自然		SX407 → SD409	—	116,119	—
SD414	I-14	北東－南西	3.45	0.35 ～ 0.5	0.12 ～ 0.3	0.18 ～ 0.36	箱形	自然	土師器	SX407 → SD414 → SF413	—	116,119	122
SD415	I-14	北東－南西	2.7	0.47 ～ 0.6	0.2 ～ 0.32	0.2	逆台形	自然	土師器・石器	SD415 → SF413	—	116,119	—
SD416	I-14	東西	6.3	0.4 ～ 0.55	0.12 ～ 0.55	0.18 ～ 0.3	逆台形	自然	土師器	SX407 → SF413 → SD416	—	116,119	122
SD418	I-14	北西－南東	3.1	0.18 ～ 0.22	0.04 ～ 0.12	0.04	皿状	自然		SX407 → SD418	—	119	—
SD420	I-14	南北	1.98	0.45 ～ 0.5	0.18 ～ 0.28	0.23	逆台形	自然	土師器・須恵器	SX407 → SD420	—	116,118	—
SD510	I-14	北西－南東？	2.35	1.2 以上	0.95 以上	0.06 ～ 0.15	—	自然	土師器・須恵器	SX408 → SD510	—	116,118	—
SD492	I-15	東西	4.75	0.75 ～ 0.8	—	—	—	自然	土師器	平面確認のみ SF494、SD493 → SD492 → SD491	—	116,117	—
SD493	I-15	南北	4.0	0.85 ～ 1.45	0.35 ～ 0.45	0.21	逆台形	自然	土師器	SF495 → SD493 → SD492	—	116,117	—
SD496	I-15	北東－南西	1.15	0.25 ～ 0.36	0.12 ～ 0.15	0.04	皿状	自然		SF494 → SD496 → SF495	—	116,117	—
SD497	I-15	東西	1.8	0.45	0.3	0.08	逆台形	自然		SF494 → SD497 → SF495	—	116,117	—
SD498	I-15	北西－南東	12.7	0.18 ～ 0.9	0.75	0.23	逆台形	自然	土師器・須恵器	SF502 → SD498 → SD499	—	116,117	—
SD499	I-15	北西－南東	10.9	0.9 ～ 2.3	0.57	0.33	逆台形	自然	須恵器・瓦	SF502 → SD498 → SD499 → SD501	—	116,117	—
SD501	I-15	北西－南東	6.2	0.45 ～ 0.98	0.48 ～ 0.65	0.1	皿状	自然	土師器・須恵器	SF502 → SD498 → SD499 → SD501	—	116,117	—
SD462	I-16	北西－南東	12.3	0.35~0.78	0.2~0.32	0.15	不整形	自然	土師器・須恵器		—	105	—
SD463	I-16	北西－南東	9.8	0.25 ～ 0.6	—	—	—	—		平面確認のみ　SD463 → SK464	—	105	—
SD466	I-16	北西－南東？	1.6	0.3 以上	—	—	—	—	土師器	平面確認のみ	—	105,114	—
SD467	I-16	東西	4.45	0.36 ～ 0.45	—	—	—	—		平面確認のみ	—	105,114	—
SD475	I-16	北西－南東	2.0	0.85	—	—	—	—		平面確認のみ	—	105	—
SD476	I-16	南北	4.05	0.3 ～ 0.65	0.2 ～ 0.3	0.09 ～ 0.17	皿状	自然			—	105	—
SD479	I-16	南北	9.2	0.15 ～ 0.35	0.06 ～ 0.15	0.08	皿状	—	土師器	SB470 → SD479	—	105,111, 112	—
SD480	I-16	南北	3.5	0.5 ～ 0.8	0.45 ～ 0.6	0.02	皿状	—			—	105,111, 112	—
SD482	I-18・19	北西－南東	6.4	0.35 ～ 0.8	—	—	—	—		平面確認のみ　SD482 → SD460	—	108	—
SD483	I-18・19	北西－南東	2.2	0.3 ～ 0.4	—	—	—	—		平面確認のみ　SD483 → SD509	—	108	—
SD484	I-18・19	北東－南西	4.2	0.48 ～ 0.58	—	—	—	—		平面確認のみ　SD509 → SD484	—	108	—
SD485	I-18・19	北東－南西	5.4	0.26 ～ 0.42	—	—	—	—		平面確認のみ　SD461 → SD485	—	109	109
SD486	I-18・19	北西－南東	1.7	0.24 ～ 0.35	—	—	—	—		平面確認のみ	—	109	—
SD487	I-18・19	東西	2.58	0.25 ～ 0.45	—	—	—	—		平面確認のみ　SD460 → SD487	—	109	—
SD488	I-18・19	東西	3.0	0.2 ～ 0.4	—	—	—	—		平面確認のみ　SD490 → SD488	—	109	—
SD489	I-18・19	東西	6.1	0.2 ～ 0.5	—	—	—	—		平面確認のみ SD490 → SD509 → SD489	—	106	—
SD503	I-18・19	東西	3.85	0.46 ～ 0.75	—	—	—	—	須恵器	平面確認のみ SD461 → SD503 → SD506	—	108	—
SD504	I-18・19	北東－南西 北西－南東カ	北東－南西 4.8 北西－南東 1.2	0.55 ～ 0.9	0.1 ～ 0.15	0.18	浅い V 字状	自然		「L」字カ SD461 → SD504 → SD505	—	108	108
SD505	I-18・19	北西－南東	4.95	0.38 ～ 0.65	—	—	—	—		平面確認のみ SD461 → SD504 → SD505	—	108	—
SD506	I-18・19	北東－南西	5.05	0.4 ～ 0.63	—	—	—	—		平面確認のみ SD461 → SD503 → SD506	—	108	—
SD507	I-18・19	不明	8.6	0.7 以上	—	—	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ　SD507 → SD490	—	106	—
SD508	I-18・19	南北	5.75	0.2 ～ 0.4	0.2 ～ 0.25	0.09	皿状	自然		SD460 → SD508 → SD509	—	108	108
SD509	I-18・19	南北	84	0.45 ～ 0.95	0.15 ～ 0.25	0.15 ～ 0.32	逆台形	自然	土師器	SD460・508・483・490 → SD509 → SD484・489	—	108,109	108, 109

第 20 表　I 区　井戸跡　属性表

遺構	区	構造	形状		規模（m）			堆積土	出土遺物	備考	本文（頁）	図版 No.	
			平面	断面	長軸	短軸	深さ					平面	断面
SE384	I-9	素掘	隅丸方形	—	1.45	1.3	1.0 以上	自然＋人為	土師器・須恵器・瓦・ 土製品・石器・鉄滓	底面まで調査していない SB321・322 → SE384	184	123, 124	143
SE344	I-10	素掘	楕円形	箱形	1.45 以上	1.42	1.52	自然	土師器・須恵器・土製品		132	86,88	97

第 21 表　I 区　土坑　属性表

遺構	区	形状		規模（m）			堆積土	出土遺物	備考	本文（頁）	図版 No.	
		平面	断面	長軸	短軸	深さ					平面	断面
SK259	I-4	楕円形	皿状	0.62	0.58 以上	0.12	自然	土師器		—	80,81	—
SK260	I-5	—	—	0.84 以上	0.1 以上	0.06 以上	自然			—	82	—
SK280	I-6	隅丸長方形	逆台形	0.67	0.63	0.16	人為	土師器、赤焼土器		206	160,161,163	163
SK284	I-7	楕円形	逆台形	0.9	0.45	0.22	—			—	154,159	—
SK285	I-7	楕円形	逆台形ヵ	1.3	0.6 以上	0.31	自然	土師器・須恵器	SK308 → SK285	201	154,159	159
SK289	I-7	不整な円形	逆台形	0.5	0.5	0.16	自然		SK308 → SK289	—	154,159	—
SK308	I-7	不整形	皿状	0.7	0.5	0.13	自然	須恵器	SK308 → SK285・289	—	154,159	—
SK298	I-8	楕円形	皿状	0.78	0.7	0.09	自然	土師器・瓦		—	147	—
SK305	I-8	隅丸方形	—	0.6	0.4	—	自然			—	147	—
SK319	I-9	隅丸長方形	—	1.6 以上	0.9	—	—	土師器	平面確認のみ	—	132	
SK379	I-9	—	—	1.5 以上	1.1 以上	—	—	須恵器	平面確認のみ	—	141	—
SK381	I-9	楕円形	—	2.18	1.72	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ SK382 → SK381	—	141	—
SK382	I-9	楕円形	—	1.6	1.1 以上	—	—		平面確認のみ SK382 → SK381	—	141	—
SK385	I-9	隅丸長方形	—	1.4	0.46	—	—	須恵器	平面確認のみ	—	124	—
SK386	I-9	不整形	—	1.4	1.2	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ	—	124	—
SK387	I-9	不整な隅丸長方形	—	1.36	0.68	—	—	土師器	平面確認のみ	—	124	—
SK390	I-9	円形	—	1.03	1.0	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ	—	124	—
SK393	I-9	隅丸方形	—	2.36	2.1	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ	—	124	—
SK398	I-9	隅丸長方形	—	1.86 以上	1.34	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ	—	124	—
SK421	I-9	隅丸方形	逆台形	1.48	1.4	0.27	自然＋人為	土師器・須恵器		185	124	144
SK422	I-9	隅丸長方形	逆台形	1.22	0.94	0.23	自然	土師器・須恵器		185	124	144
SK423	I-9	隅丸長方形	不整形	1.0	0.74	0.24	自然	土師器・須恵器		185	132	145
SK424	I-9	—	—	0.88	0.64	—	—	土師器・須恵器・瓦	平面確認のみ	—	132	—
SK425	I-9	隅丸長方形	—	1.06	0.86	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ	—	132	—
SK426	I-9	隅丸長方形	—	2.1	1.25	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ	186	132	—
SK427	I-9	楕円形	—	1.3	0.82	—	—	土師器・須恵器・石器	平面確認のみ	—	132	—
SK428	I-9	隅丸長方形	—	1.06	0.66	—	—		平面確認のみ	—	132	—
SK429	I-9	隅丸方形	—	0.92	0.88	—	—		平面確認のみ	—	132	—
SK430	I-9	不整な隅丸長方形	—	0.92	0.6	—	—		平面確認のみ	—	124	—
SK431	I-9	隅丸長方形	—	1.46	0.9	—	—		平面確認のみ	—	124	—
SK432	I-9	隅丸長方形	—	2.16	0.54	—	—		平面確認のみ	—	124	—
SK433	I-9	隅丸方形	—	1.45	1.42	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ	185	124	—
SK434	I-9	不整な隅丸方形	—	1.26	1.08	—	—		平面確認のみ	—	124	—
SK435	I-9	楕円形	—	1.18	0.76	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ,SI392 → SK435	—	124	—
SK436	I-9	不整な楕円形	—	0.92	0.82	—	—		平面確認のみ	—	124	—
SK437	I-9	—	—	1.2	0.8 以上	—	—		平面確認のみ	—	124	—
SK438	I-9	—	—	1.5 以上	0.48 以上	—	—		平面確認のみ	—	123	—
SK440	I-9	楕円形	—	1.12	0.9	—	—		平面確認のみ	—	132	—
SK441	I-9	隅丸方形	—	1.12	0.8	—	—		平面確認のみ	—	132	—
SK442	I-9	不整形	—	1.5 以上	0.74 以上	—	—		平面確認のみ	—	132	—
SK443	I-9	—	—	0.9 以上	0.4 以上	—	—		平面確認のみ	—	132	—
SK444	I-9	隅丸長方形	逆台形	0.97	0.57	0.1	自然		SK423 と同じ堆積土	186	132	145
SK445	I-9	隅丸長方形	逆台形	1.4	1.01	0.21	人為		SK445 → SA325	186	132	145
SK448	I-9	隅丸長方形	—	0.92	0.6	—	—		平面確認のみ	—	132	—
SK452	I-9	不整な隅丸長方形	—	1.2	0.84	—	—		平面確認のみ	—	124	—
SK453	I-9	隅丸長方形	—	1.34	1.12	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ,SB321 → SK453	—	124	—
SK454	I-9	—	—	1.36	1.0 以上	—	—	須恵器	平面確認のみ	—	132	—
SK343	I-10	楕円形	皿状	0.7 以上	0.65	0.08	自然	土師器・須恵器・鉄製品	SI339 → SK343	132	88,89	97
SK346	I-10	楕円形	—	1.4	1.2	—	—	土師器	平面確認のみ,SD359 → SK346	—	88	—
SK355	I-10	不整形	—	2.0	1.2 以上	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ	—	88	—
SK357	I-10	—	—	1.3	0.8 以上	—	—		平面確認のみ	—	88	—
SK360	I-10	—	—	1.6 以上	0.75 以上	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ, SK360 → SI339 → SB348	—	88	—
SK376	I-10	—	—	1.4 以上	0.6 以上	—	—	土師器・須恵器		—	88	—
SK419	I-14	楕円形	逆台形	1.0	0.85 以上	0.26	人為	土師器	SX407 → SK419	158	116,119	122
SK464	I-16	楕円形	皿状	1.49	0.7	0.12	自然	土師器・須恵器	SD463 → SK464	—	105	—
SK473	I-16	楕円形	「V」字状	1.35	1.25	0.57	自然	土師器		153	105,111	115

第 22 表　I 区　小溝状遺構群　属性表

遺構	区	方向・数	範囲（m）		溝間（m）	検出長(m)	規模（m）			断面形	出土遺物	備考	本文（頁）	図版 No.	
			東西	南北			上幅	下幅	深さ					平面	断面
SF274	I-6	北西－南東 3	北東 - 南西 2.3	北西 - 南東 4.0	0.7 ～ 1.2	0.7 ～ 2.25	0.15 ～ 0.25	0.1 ～ 0.15	0.08	U 字形			206	160,161	163
SF412	I-14	東西 3	7.0	4.7	1.4 ～ 2.0	1.45～2.65	0.25 ～ 0.42	0.08 ～ 0.23	0.06	皿状	土師器	SX407 → SF412	158	119	122
SF413	I-14	東西 4	12.0	6.0	1.2 ～ 2.2	3.05 ～ 7.2	0.35 ～ 0.55	0.15 ～ 0.25	0.19 ～ 0.35	箱形逆台形	土 師 器・須恵器	SX407 → SD414・415 → SF413 → SD416	160	119	122
SF417	I-14	北東－南西 2	北東 - 南西 2.5	北西 - 南東 2.4	2.0	1.4 ～ 2.5	0.23 ～ 0.34	0.05 ～ 0.15	0.04 ～ 0.28	皿状		SX407 → SF417	160	119	122
SF494	I-15	北東－南西 7	12.5	10.5	0.6 ～ 2.4	0.6 ～ 2.95	0.1 ～ 0.5	0.1 ～ 0.3	0.02 ～ 0.07	皿状		SF494 → SD492・496・497、SF495	154	117	117
SF495	I-15	北西－南東 5	13.0	6.5	0.8 ～ 1.5	1.15～5.75	0.1 ～ 0.48	0.05 ～ 0.45	0.03 ～ 0.08	皿状	土師器	SF494 → SD496・497 → SF495 → SD493	157	117	117
SF502	I-15	北東－南西 9	北東 - 南西 9.4	北西 - 南東 4.6	0.8 ～ 1.8	0.35～3.55	0.18 ～ 0.55	0.05 ～ 0.45	0.04 ～ 0.05	皿状		SF502 → SD498・499・501	157	117	117

第 23 表　I 区　SX 土器埋設遺構・竪穴状遺構・自然堆積層　属性表

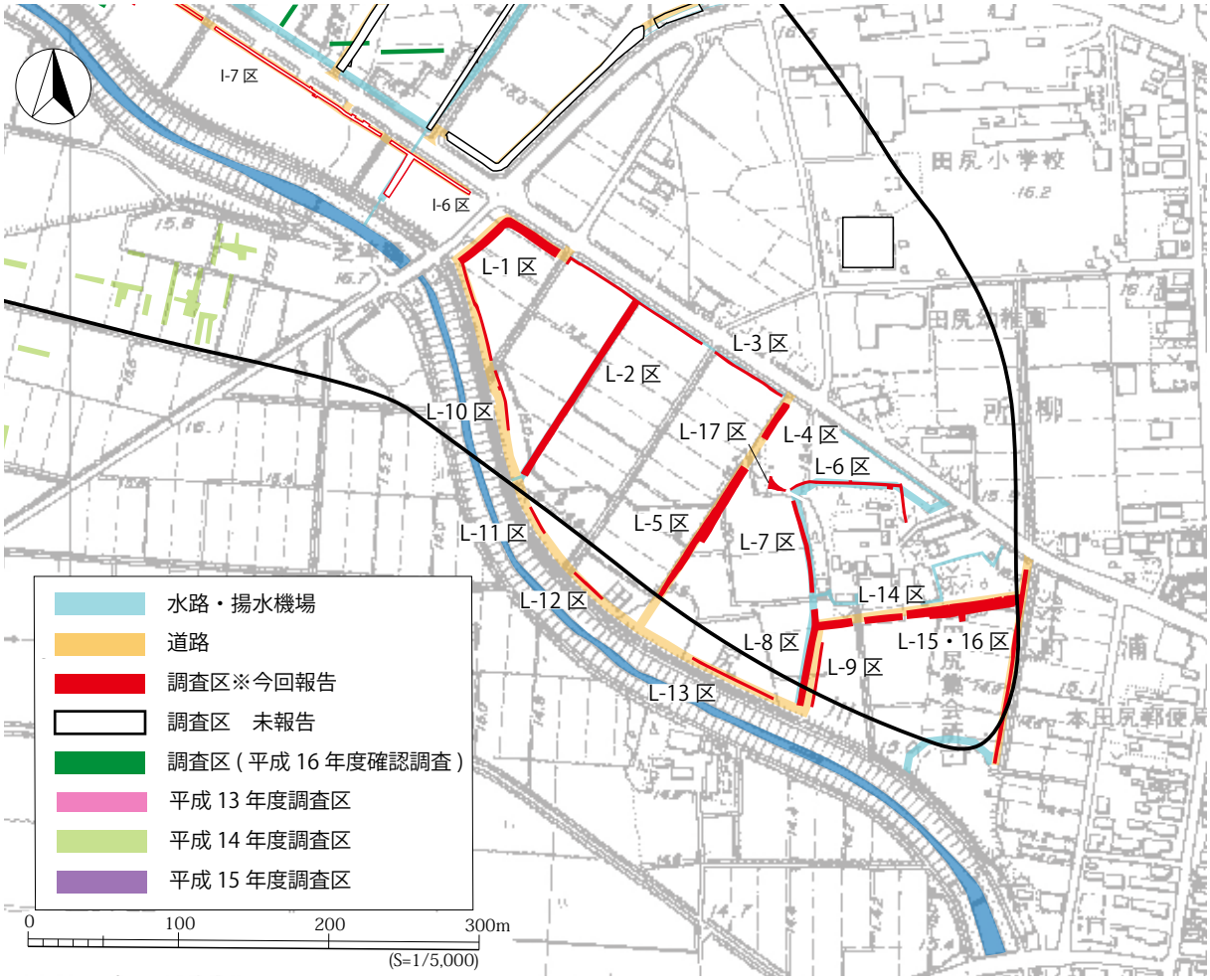
遺構	区	形状		規模（m）			堆積土	出土遺物	備考	本文（頁）	図版 No.	
		平面	断面	上幅	下幅	深さ					平面	断面
SX293	I-8	不整形	—	北西－南東 4.2 北東－南西 1.6	—	—	自然	土師器・須恵器	古代以降の流路ヵ	—	146	—
SX407・408	I-14・15	—	—	北西－南東 54.5 北東－南西 3.5 以上	短軸 3.5 以上	0.1 ～ 0.3	自然	土師器・須恵器・陶器・石器・鉄製品・動物遺存体	湿地跡　灰白色火山灰あり SX407・408 → SD409・411・414 ～ 416・418・420・510・511、SK419、SF412・413・417	162	116,118,119	122
SX410	I-14	円形	箱形	長軸 0.31	短軸 0.24 以上	0.3	人為	土師器・須恵器	土器埋設遺構 SD380 → SX410	158	116,119,120	120
SX478	I-17	—	—	長軸 5.0	短軸 3.0 以上	—	—	土師器	竪穴状遺構 SX478 → SD334・477	136	99,100	100

第 24 表　I 区　河川跡・自然流路跡　属性表

遺構	区	方向	検出長（m）	規模（m）			出土遺物	備考	本文（頁）	図版 No.	
				上幅	下幅	深さ				平面	断面
SD256	I-1	—	1.4	19.5 以上	—	1.3 以上	土師器	SD257 → SD256 → SD253	—	80	83
SD257	I-1	—	1.4	19.0 以上	—	1.8 以上	土師器	SD257 → SD256 → SD253	119	80	83
SD250	I-2	北東－南西	3.0	14.96	11.06	0.86 以上	土師器	SD253 → SD250	—	80	—
SD263	I-2	北東－南西	3.0	3.7 以上	0.2 以上	0.94 以上	土師器	SD253 → SD263	—	80	—
SD253	I-1・2・4	北西－南東	110	3.0 ～ 32.0 以上	2 ～ 2.8 以上	0.94 ～ 2.2 以上	土師器・須恵器・石器・石製品・植物遺存体	SD257 → SD256 → SD253 → SD4・263・250・252	112	80,81	83
SD4A	I-4	—	—	—	—	—	土師器	平面確認のみ SD252・253 → SD4	112	81	—
SD4B		東西	14.0	15.5	—	—	土師器・瓦				
SD4C		北西－南東	77.0	2.5 以上	—	—	土師器・須恵器・中世陶器・瓦・石製品・植物遺存体				
SD252	I-4・5	—	38.0	5.25 ～ 15.6 以上	2.0 ～ 4.2 以上	0.69 ～ 1.48 以上	土師器・須恵器・赤焼土器・瓦・石	SD253 → SD252 → SD4	119	81,82	83
SD287	I-7	南北	2.5	0.25 ～ 0.65	0.15 ～ 0.46	0.12	土師器・須恵器		—	154	—
SD389	I-9	北東－南西	6.0	2.2	—	—	土師器・須恵器		—	123	—
SD352	I-10	東西？	4.55	2.3	—	0.56	土師器・須恵器		—	86,87	—
SD358	I-10	不明	7.9	1.7 以上	—	—	土師器・陶器		—	88	—
SD373	I-11	北東－南西ヵ	4.95	6.15	4.9	0.62	土師器・須恵器・瓦・碗・石製品・鉄滓	SD374 と同一の可能性あり	132	86,87	98
SD374	I-11	北東－南西	3.05	1.2 ～ 1.5	0.28 ～ 1.3	0.36	土師器・須恵器	SD373 と同一の可能性あり	—	86	—
SD330	I-12	北西－南東	12.0	2.5	1.0 ～ 1.2	0.18	土師器・須恵器		—	99	—
SD332	I-12	—	22.0	—	—	0.88	土師器・須恵器・瓦		—	99	—
SD333	I-12・17	—	48.6	7.2 以上	—	1.07 以上		SD333 → SD334・477	—	99,100	—
SD334	I-12・17	北西－南東	28.4	1.05 ～ 1.35	—	—		平面確認のみ SD333 → SD334 → SD477	—	99,100	—
SD477	I-12・17	北西－南東	21.0	0.6 ～ 1.02	0.2 ～ 0.9	0.12 ～ 0.19	土師器・須恵器	SX478、SD333・334 → SD477	—	99,100	—
SD337	I-13	北東－南西	4.8	0.8 ～ 1.4	0.6	0.37	土師器		—	99	—
SD365	I-13	北東－南西	1.9	5.1 ～ 6.7	4.5 ～ 6.2	0.35	土師器・須恵器・瓦・土製品・石製品		139	99,103	103
SD511	I-14	—	1.0	0.4 以上	0.16 以上	0.18 以上	土師器	灰白色火山灰あり	—	116,118	—
SD491	I-15	北東－南西	3.3	6.7 ～ 8.3	5.8	0.84	土師器・須恵器	灰白色火山灰あり SD492 → SD491	157	116,118	118
SD465	I-16	北西－南東、東西	北西－南東 3.45 東西 10.65	1.6 ～ 6.4	0.4 ～ 2.9	0.4	土師器・須恵器・中世陶器・瓦・石器・銅銭・植物遺存体・ガラス瓶	SB481 → SD465	—	105,111,114	—
SD474	I-16	北西－南東	9.5	0.75 ～ 1.76	0.45 ～ 0.52	0.37	土師器・須恵器		—	105	—
SD490	I-18・19	東西・南北	東　西 22.6 南北 4.4	0.6 ～ 1.5	0.7	0.28	須恵器	SD507 → SD490 → SD509 → SD488・489	—	106,109	109

(3) L 区

L-1 ～ 17 区を設定した（第 165 図）。第 25 表は L 区の各調査区の内容をまとめたものである。



第 165 図　L 区　調査区の位置

第 25 表　L 区の調査内容

遺構	区	方向・数	範囲（m）	溝間（m）	検出長（m）	
L-1	確認	H24	627.0	Ⅰ・Ⅴ	溝跡(SD603･604･613)、河川跡(SD601･602･605･633･634)	土師器・須恵器・中世陶器・陶器・石製品・鉄滓
L-2	本発掘	H24	881.0	Ⅰ・Ⅴ	溝跡(SD606･609･610･615~618･620~622)、土坑(SK623)、小溝状遺構群(SF614)、河川跡・自然流路跡(SD605･619)	土師器・須恵器・青磁・陶器・磁器・瓦
L-3	本発掘	H24	111.3	Ⅰ・Ⅴ	溝跡(SD611･612)	
L-4	確認	H24	138.3	Ⅰ・Ⅴ	溝跡(SD612･626･627)、土坑(SK624)、小溝状遺構群(SF625)	陶器・磁器
L-5	確認	H24	585.5	Ⅰ・Ⅴ	溝跡(SD630･632･696･697)、小溝状遺構群(SF628･629)、その他(SX631)	土師器・須恵器・中世陶器・陶器・磁器・土製品・銅銭
L-6	本発掘・確認	H24	215.7(本発掘 38.0、確認 177.7㎡)	Ⅰ・Ⅴ	柱列跡(SA655)、溝跡(SD637~642･646~649･651~654)、井戸跡(SE650)、土坑(SK644)、小溝状遺構群(SF643)、河川跡(SD645)	土師器・須恵器・中世陶器・石製品・鉄滓・植物遺存体
L-7	本発掘	H24	186.8	Ⅰ・Ⅴ	溝跡(SD656･658･659)、小溝状遺構群(SF657･660)	土師器・須恵器・磁器・石製品
L-8	本発掘	H24	439.8	Ⅰ・Ⅴ	自然流路跡(SD698)、その他(SX661)	土師器・須恵器・陶器
L-9	確認	H24	88.8	Ⅰ・Ⅴ	自然流路跡(SD698)	土師器・須恵器
L-10	確認	H24	85.9	Ⅰ・Ⅴ	溝跡(SD636)、土坑(SK635)	
L-11	確認	H24	40.4	Ⅰ・Ⅴ		
L-12	確認	H24	55.7	Ⅰ・Ⅴ		
L-13	確認	H24	124.3	Ⅰ・Ⅴ		
L-14	確認	H24	120.2	Ⅰ・Ⅴ	溝跡(SD662･663)	
L-15	確認	H24	890.6	Ⅰ・Ⅴ	竪穴建物跡(SI670)、溝跡(SD667･669･671･673･675･676･678･680~683･685~687・689~691・693・694)、土坑(SK666･668･672･679･684･692･695)、小溝状遺構群(SF664･665･688)、河川跡(SD677)、その他(SX674)	土師器・須恵器・陶器・磁器・動物遺存体
L-16	本発掘	H25	143.7	Ⅰ・Ⅴ	溝跡(SD1050~1052)	
L-17	本発掘	H25	52.5	Ⅰ・Ⅴ	溝跡(SD1057･1058･1060~1062)、土坑(SK1059)	

1）地形と基本層序

①地形

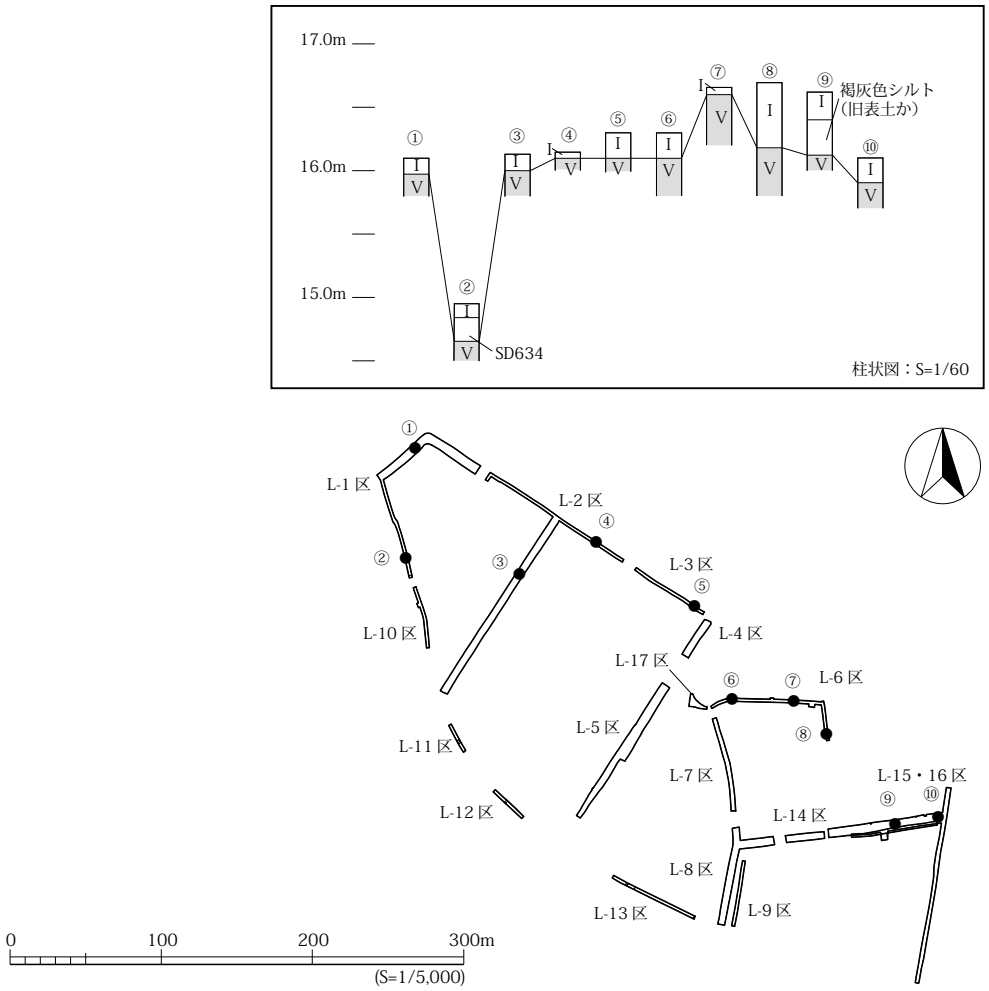
L区は遺跡の南東部分にあたり、田尻川に面した調査区である（第4図）。地形は微高地と旧河道で、特に、L-1区の広い範囲で旧河道が確認された。遺構確認面である基本層序Ⅴ層上面の標高値から地形を概観すると、巨視的には、北東から南西に田尻川に向かって緩やかに標高を下げながら傾斜する（第166図）。微視的には、L-6区とL-15区北東部で周辺よりも標高値が大きく、周囲よりも一段高い島状の地形となる。

②基本層序

基本層序はH・I区と対比可能である（第166図）。Ⅱ層とⅣ層、Ⅵ層は確認できなかった。調査地点によって若干の相違はあるが、概ね以下のようになる。なお、遺構確認はⅤ層上面で行った。

Ⅰ層：表土

Ⅲ層：灰白色火山灰（十和田a火山灰（To-a））層である。河川跡・自然流路跡の堆積土中で認められた。



第166図　L区の基本層序

Ⅴ層：浅黄橙色（10YR8/4）、灰白色（2.5Y7/1）、にぶい黄褐色（10YR5/3）、浅黄色（2.5Y7/3）の砂質シルト、粘土質シルト、シルト質粘土、粘土などである。全ての調査区で認められたが、地点によって土色・土性が異なる。L-1 ～ 5 区では、粘土質、L-6・15 区ではシルトが主体である。L-1 区では、Ⅴ層中に黒褐色（10YR3/1）シルト質粘土が挟在する。

各調査区でⅠ層の直下にⅤ層が確認されることが多く、全体的に大きく削平されている。

2）検出遺構と遺物

L-1 ～ 17 区において、竪穴建物跡 1 棟、柱列跡 1 条、溝跡 68 条、井戸跡 1 基、土坑 12 基、小溝状遺構群 10 ヶ所、河川・自然流路跡 9 条などを検出した。出土遺物は、土師器、須恵器、中世陶器、磁器、瓦、土製品、石製品、石器、金属製品、木製品、動植物遺存体である。L-6・15 区で遺構密度が高く、様々な種類の遺構が認められるのに対し、それ以外の調査区では遺構密度が低く遺構の種類も少ない（第 25 表）。

以下、西側の調査区から順に記述を行う。その際、地形と遺構の分布状況から、L-1・10 区、L-3 ～ 5・17 区、L-6 ～ 9・14 区、L-15・16 区についてはまとめて扱うこととする。遺構が検出されなかった L-11 ～ 13 区については記述を省略した。

①L-1・10区

L-1 区で溝跡 3 条（SD603・604・613）、河川跡 5 条（SD601・602・605・633・634）（第 167 図）、L-10 区で溝跡 1 条（SD636）、土坑 1 基（SK635）を検出した（第 167 図）。ここでは、SD636 溝跡、SD601・633・634 河川跡のみ記述し、それ以外については第 28・30・33 表に特徴をまとめた。

【SD636溝跡】（平面・断面図：第 168 図）

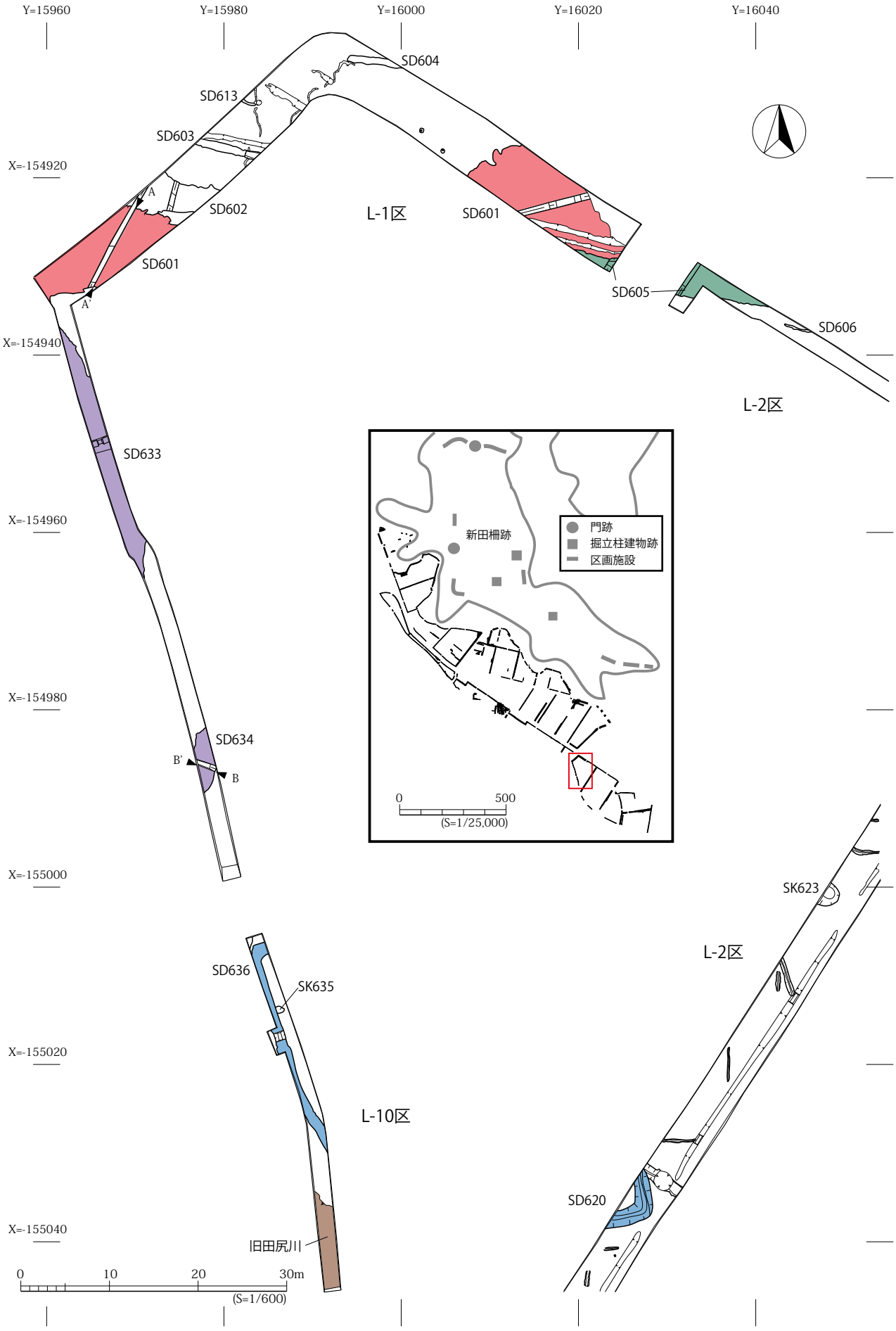
L-10 区に位置する。SK635 土坑と重複し、これより新しい。北西―南東方向に調査区を縦断し、北端で東に屈曲する。中央部分で截ち割りを行った。検出長は 25.2m、規模は上幅 1.0 ～ 1.5m、下幅 0.35 ～ 0.4m、深さ 0.6m である。断面は「U」字形である。堆積土は 12 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

【SD601河川跡】（平面図：第 167 図、断面図・遺物：第 169 図）

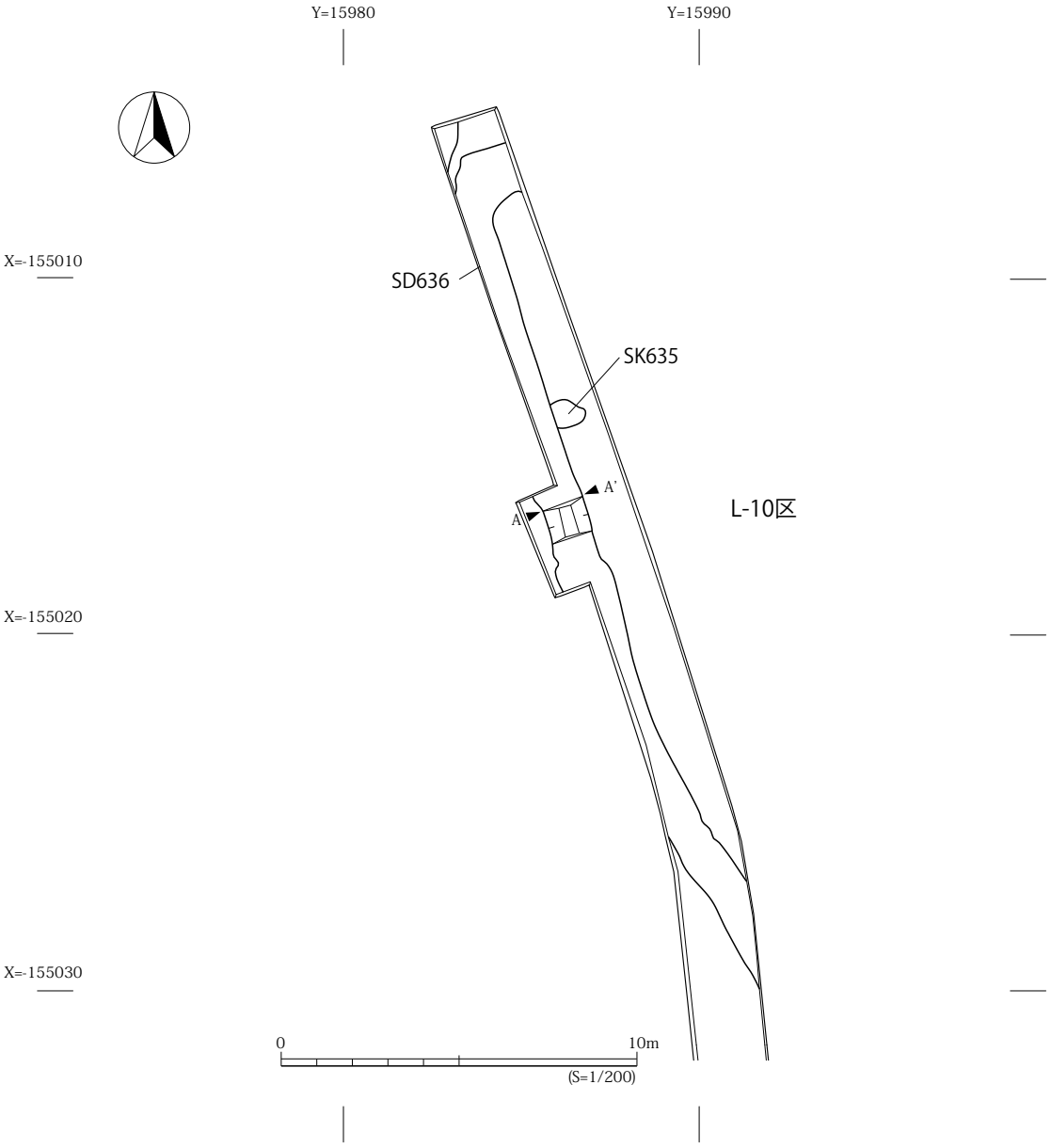
L-1 区中央と北東端に位置する。SD602・605 河川跡と重複し、SD602 より新しく SD605 より古い。一部で截ち割りを行った。東西方向で、検出長は約 34m、規模は上幅 10.0m、深さ 1.0m 以上である。堆積土から土師器坏・甕、須恵器坏（第 169 図 1）・高台坏・甕、中世陶器甕（2）、砥石が出土した。

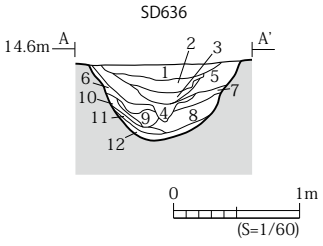
【SD633・634河川跡】（平面図：第 167 図、断面図：第 169 図）

L-1 区南西部に位置する。別遺構として登録したが堆積土の特徴が類似することから同じ河川跡の可能性があり、まとめて記述する。それぞれ截ち割りを行った。SD633 は検出長が 30.0m、規模が上幅 1.8m 以上、深さ 0.9m 以上、SD634 は検出長が 7.0m、規模が上幅 4.2m、深さ 0.8m 以上である。どちらも堆積土に灰白色火山灰層が認められる。SD634 の堆積土から土師器坏が出土した。



第 167 図　L-1・10 区　遺構配置図

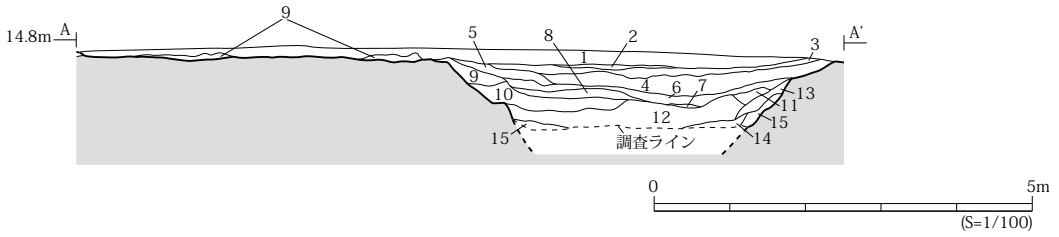




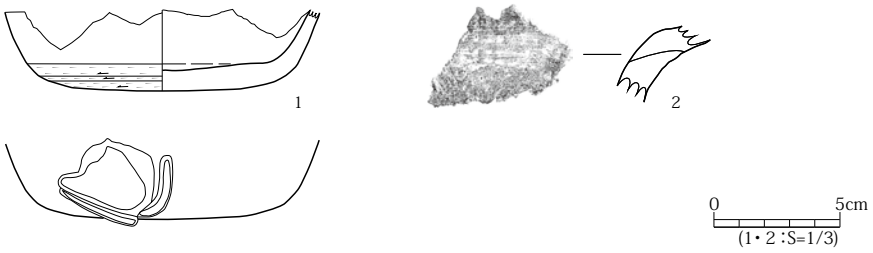
層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	Ⅴ層ブロックを含む	自然堆積
2	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	褐色(7.5YR4/4)ブロックを多量に、砂層を含む	
3	黒褐色(10YR3/2)	粘土	褐色(7.5YR4/4)ブロックを含む	
4	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト質砂	砂層主体　Ⅴ層小ブロックを少量含む	
5	にぶい黄褐色(10YR4/2)	シルト質粘土	Ⅴ層小ブロックを多量に含む	
6	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト質砂	砂層主体　Ⅴ層ブロックを含む	
7	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト質粘土	Ⅴ層小ブロックを含む	
8	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト質粘土	Ⅴ層小ブロックを多量に含む	
9	黒褐色(10YR3/2)	シルト質粘土	Ⅴ層小ブロックを含む	
10	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト質粘土	Ⅴ層小ブロック、下部に砂層を含む	
11	にぶい黄橙色(10YR6/3)	シルト質砂	砂主体	
12	にぶい黄褐色(10YR5/3)	シルト質粘土	褐色(7.5YR4/4)ブロックを多量に、Ⅴ層小ブロックを含む	

第 168 図　L-10 区　SD636 溝跡

SD601

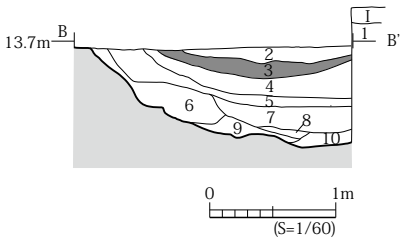


層	土色	土性	含有物など
1	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層粒、炭化物粒をわずかに含む
2	黒褐色(10YR2/2)	シルト	
3	灰黄褐色(10YR5/2)	シルト	灰白色火山灰粒～大ブロックをやや多く、炭化物粒をわずかに含む
4	黒褐色(10YR3/2)	シルト	
5	褐灰色(10YR5/1)	シルト質粘土	粘土粒～ブロック少量、炭化物粒をわずかに含む
6	黒褐色(10YR3/1)	粘土	Ⅴ層粒・小ブロックを少量含む
7	黒褐色(10YR2/3)	粘土	
8	褐灰色(10YR5/1)	シルト質粘土	砂をブロック状に少量含む
9	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	Ⅴ層粒～ブロックをやや多く、砂を層状に少量含む
10	褐灰色(10YR5/1)		砂を層状に含む
11	褐灰色(10YR4/1)	シルト質粘土	砂を層状に少量含む
12	褐灰色(10YR5/1)	シルト質粘土	砂を層状に含む
13	黒褐色(10YR3/2)	粘土	Ⅴ層粒をわずかに含む
14	褐灰色(10YR4/1)	粘土	Ⅴ層粒～ブロックを少量、砂を層状に含む
15	黒色(10YR2/1)	粘土	砂をブロック状にわずかに、Ⅴ層粒～ブロックを含む



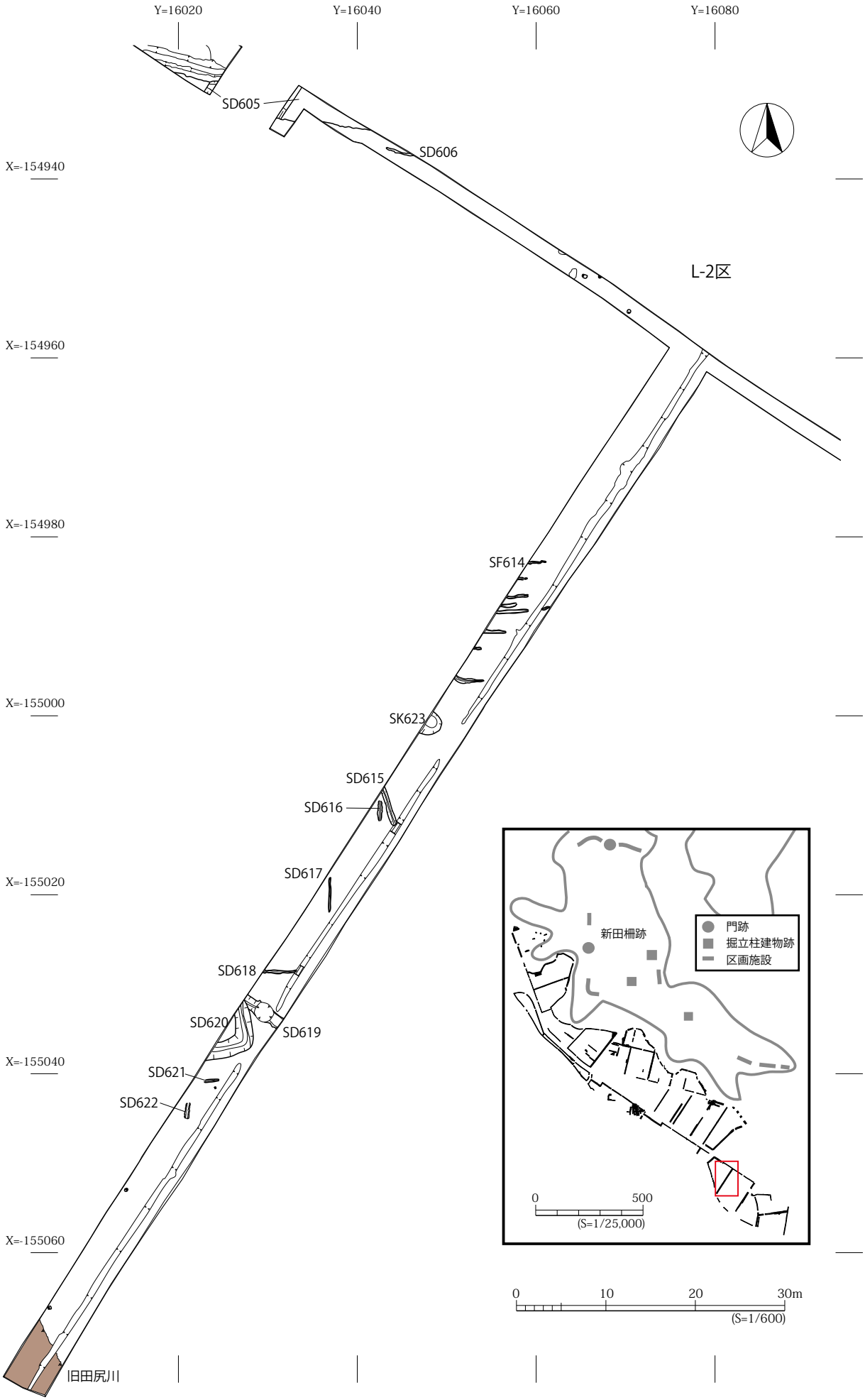
No.	種別・器種	層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	須恵器　坏	1・2 層	(体～底)1/1	底径 9.0cm　外内：ロクロナデ　底：切り離し不明→(体下～底)回転ヘラケズリ　外面に溶着物あり	70-4	R951
2	中世陶器　甕	堆	頸部	外：ナデ→簾状の押印？　内：ナデ、オサエ　色調：(外)赤灰色(2.5YR5/1)(内)灰赤色(2.5YR5/2)(断)にぶい赤褐色(2.5YR5/3)　胎土：径 1 ～ 2㎜の白色小礫・小礫、ガラス粒多量に含む　在地産	70-5	R953

SD634



層	土色	土性	含有物など
1	黒褐色(10YR3/1)	シルト質粘土	白色粘土大ブロックを含む
2	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	灰白色火山灰ブロックを下層に、褐色(7.5YR4/4)シルトブロックを含む
3	灰白色火山灰	シルト	
4	黒褐色(10YR3/2)	シルト質粘土	炭化物をわずかに、褐色(7.5YR4/4)シルトブロックを多量に含む
5	黒褐色(10YR3/2)	シルト質粘土	褐色(7.5YR4/4)シルトブロックを多量に、Ⅴ層小ブロックを含む
6	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト質粘土	Ⅴ層ブロック主体
7	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	砂を層状に、Ⅴ層ブロック、褐色(7.5YR4/4)シルトブロックを含む
8	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを含む
9	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に含む
10	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	Ⅴ層ブロック、砂を含む

第 169 図　L-1 区　SD601 河川跡　断面・出土遺物、SD634 河川跡　断面



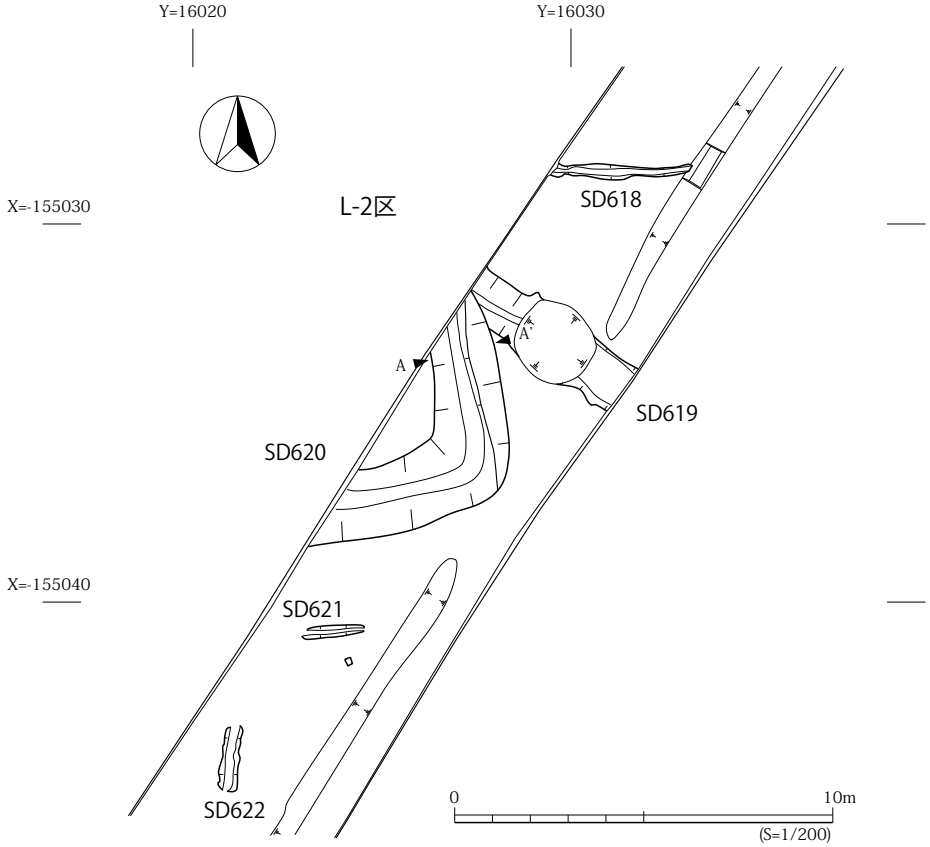
第 170 図　L-2 区　遺構配置図

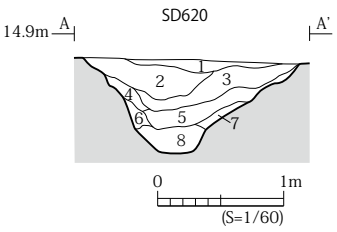
②L-2区

溝跡 10 条（SD606・609・610・615 ～ 618・620 ～ 622）、土坑 1 基（SK623）、小溝状遺構群 1 ヶ所（SF614）、河川跡・自然流路跡 2 条（SD605・619）を検出した（第 170・173 図）。SD620 溝跡と SF614 小溝状遺構群のみ記述し、それ以外については第 28・30・33 表に特徴をまとめた。

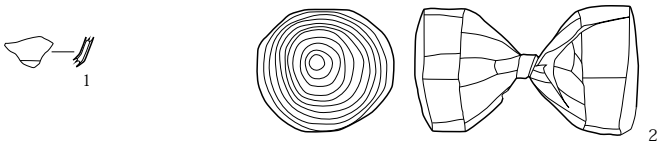
【SD620溝跡】（平面・断面図、遺物：第 171 図）

南西部に位置する。SD619 自然流路跡と重複し、これより新しい。東西方向と南北方向からなる「L」字形で、検出長は東西 5.8m、南北 6.0m、規模は上幅 1.7 ～ 1.9m、下幅 0.25 ～ 0.5m、深さ 0.76m である。断面は「V」字形である。堆積土は 8 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から青磁碗（第 171 図 1）、木錘（2）、土師器甕、須恵器坏・甕が出土した。



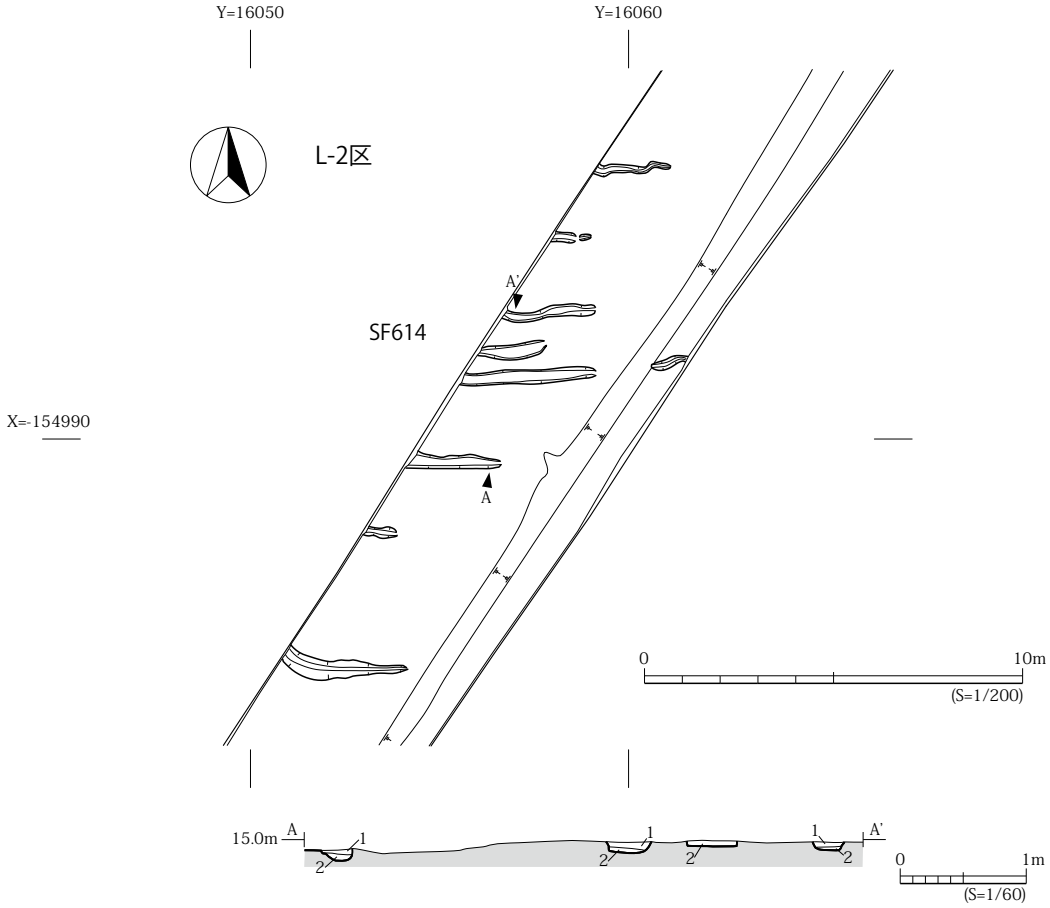


層	土色	土性	含有物など	備考
1	黄灰色(2.5Y5/1)	シルト	V層小ブロックを少量、酸化鉄を多量に含む	自然堆積
2	暗灰黄色(2.5Y4/2)	シルト	V層小ブロック、黒褐色(10YR3/2)粘土小ブロックをやや多く、酸化鉄を多量に含む	
3	黄灰色(2.5Y4/1)	粘土質シルト	V層小ブロック、細砂ブロックをやや多く、酸化鉄を含む	
4	黄灰色(2.5Y5/1)	粘土質シルト	V層粒を多量に含む	
5	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	V層粒、細砂ブロック、暗灰黄色(2.5Y4/2)粘土質シルト小ブロックを含む	
6	黒褐色(10YR3/1)	粘土	V層粒、黄灰色(2.5Y5/1)粘土粒を多量に含む	
7	黒褐色(10YR3/1)	粘土	V層小ブロックを含む	
8	黒褐色(10YR3/1)	粘土	暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質シルトブロックを多量に、V層小ブロックを含む	



No.	種別・器種	層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	青磁　碗	堆	体部		70-6	R955
2	木製品　木錘	8 層	ほぼ完形	長 8.9㎝　幅 5.4㎝　厚 4.9㎝　木取り：縦木　芯持材	70-7	R979

第 171 図　L-2 区　SD620 溝跡



層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを少量含む	自然堆積
2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層粒～大ブロックをやや多く含む	

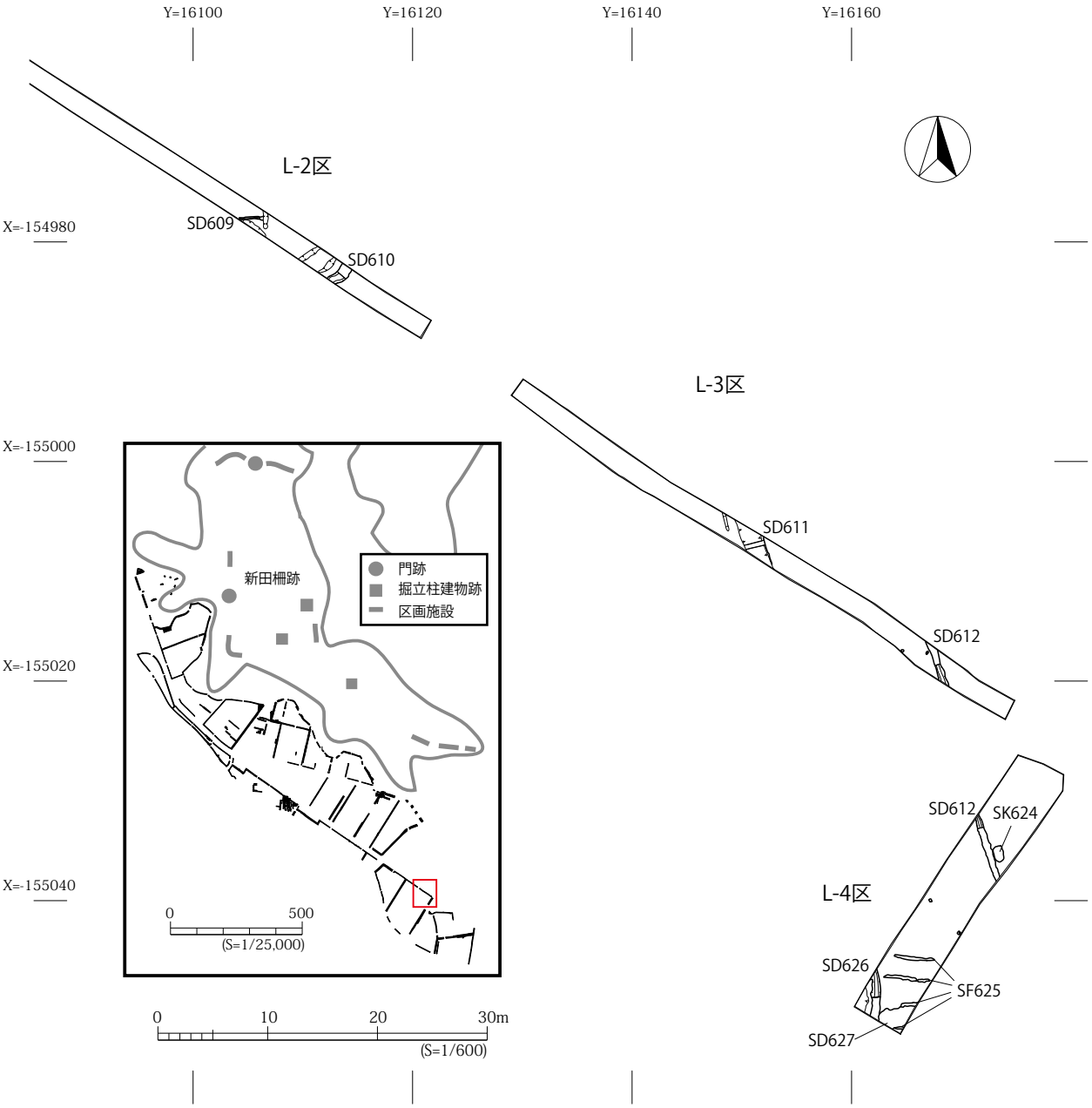
第 172 図　L-2 区　SF614 小溝状遺構群

【SF614小溝状遺構群】（平面・断面図：第 172 図）

中央よりやや北西側に位置する。8 条検出し、東西 11.0m、南北 13.6m の範囲に分布する。東西方向で、検出長は最大で 4.6m、規模は上幅 0.25 ～ 0.6m、下幅 0.1 ～ 0.25m、深さ 0.04 ～ 0.09m、溝中心間の距離は 0.7 ～ 3.6m である。断面は逆台形である。

③L-3～5・17区

L-3 区で溝跡 2 条（SD611・612）（第 173 図）、L-4 区で溝跡 3 条（SD612・626・627）、土坑 1 基（SK624）、小溝状遺構群 1 ヶ所（SF625）（第 173 図）、L-5 区で溝跡 4 条（SD630・632・696・697）、小溝状遺構群 2 ヶ所（SF628・629）、自然堆積層（SX631）（第 174 図）、L-17 区で溝跡 5 条（SD1057・1058・1060 ～ 1062）、土坑 1 基（SK1059）（第 174 図）を検出した。SF625・628・629 小溝状遺構群のみ記述し、それ以外については第 28・30 表に特徴をまとめた。



第 173 図　L-2 区東端、L-3・4 区　遺構配置図

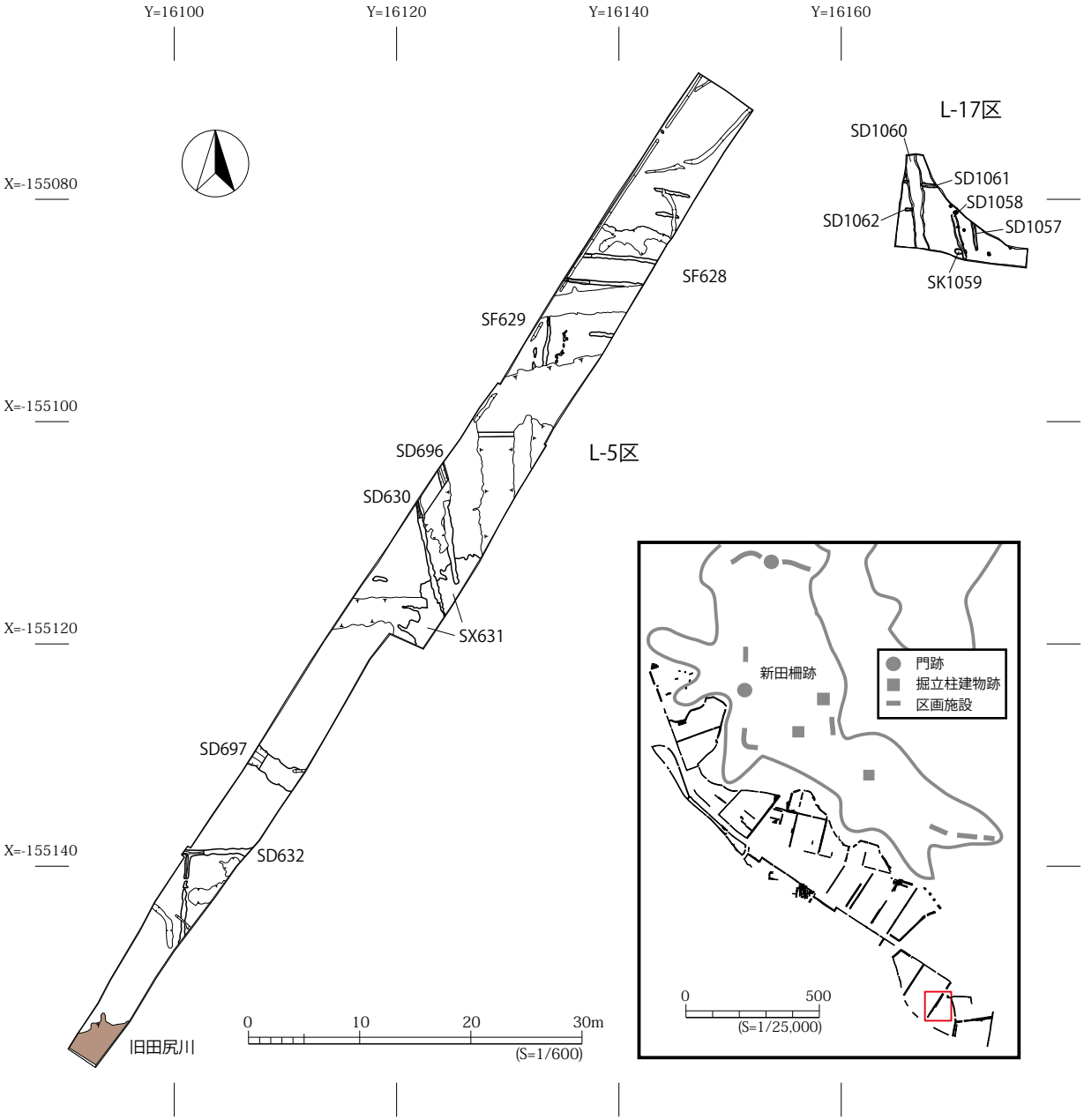
A. 小溝状遺構群

【SF625小溝状遺構群】（平面図：第 173 図）

L-4 区南端に位置する。SD627 溝跡と重複し、これより古い。遺構確認のみ行った。4 条検出し、東西 4.6m、南北 6.8m の範囲に分布する。東西方向で、検出長は最大で 4.25m、上幅 0.1 ～ 0.3m である。溝中心間の距離は 1.9 ～ 2.2m である。

【SF628小溝状遺構群】（平面・断面図：第 175 図）

L-5 区北部に位置する。5 条検出し、東西 11.0m、南北 13.7m の範囲に分布する。東西方向で、検出長は最大で 7.1m、規模は上幅 0.2 ～ 0.4m、下幅 0.15 ～ 0.25m、深さ 0.07 ～ 0.09m、溝中心間の距離は 2.0 ～ 4.6m である。断面は皿状である。



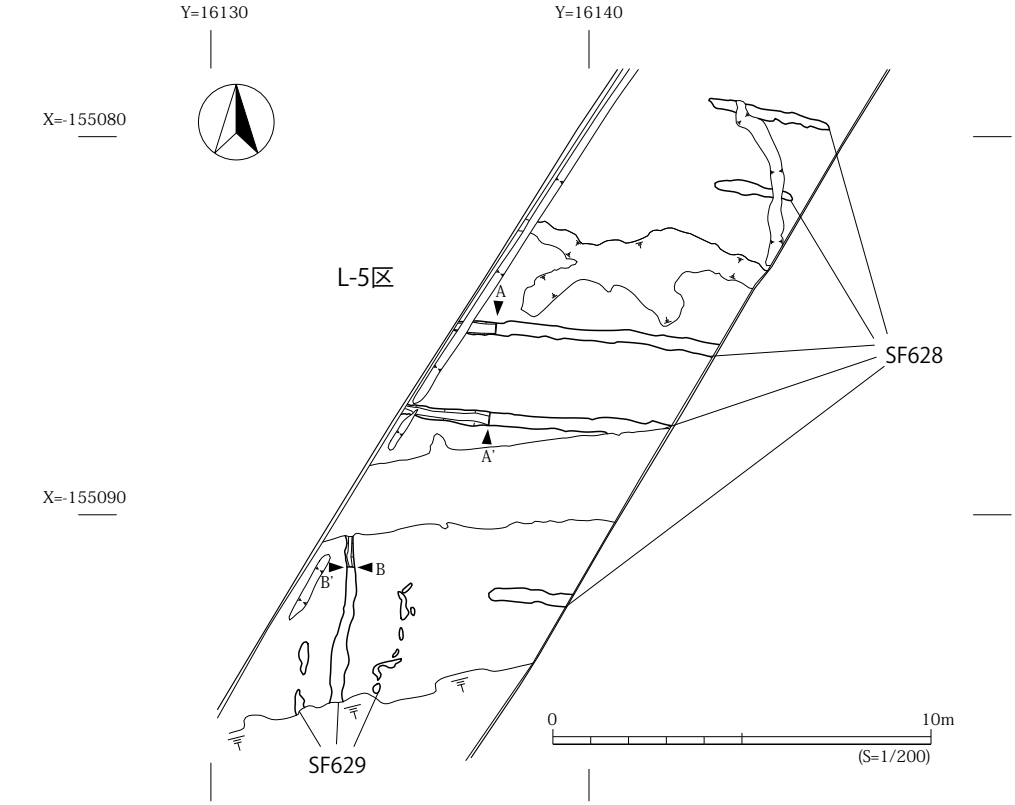
第 174 図　L-5・17 区　遺構配置図

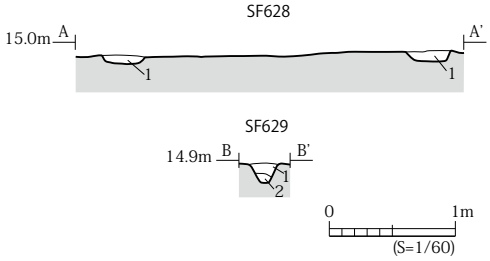
【SF629小溝状遺構群】（平面・断面図：第 175 図）

L-5 区北部に位置する。3 条検出し、東西 3.0m、南北 5.0m の範囲に分布する。南北方向で、検出長は最大で 4.4m、規模は上幅 0.2 ～ 0.5m、下幅 0.08 ～ 0.1m、深さ 0.16m、溝中心間の距離は 1.0 ～ 1.5m である。断面は逆台形である。

B. その他の出土遺物

上記の遺構以外に、SX631 堆積土から須恵器坏（第 175 図 1）、遺構確認面と表土から中世陶器甕（2・3）が出土した。

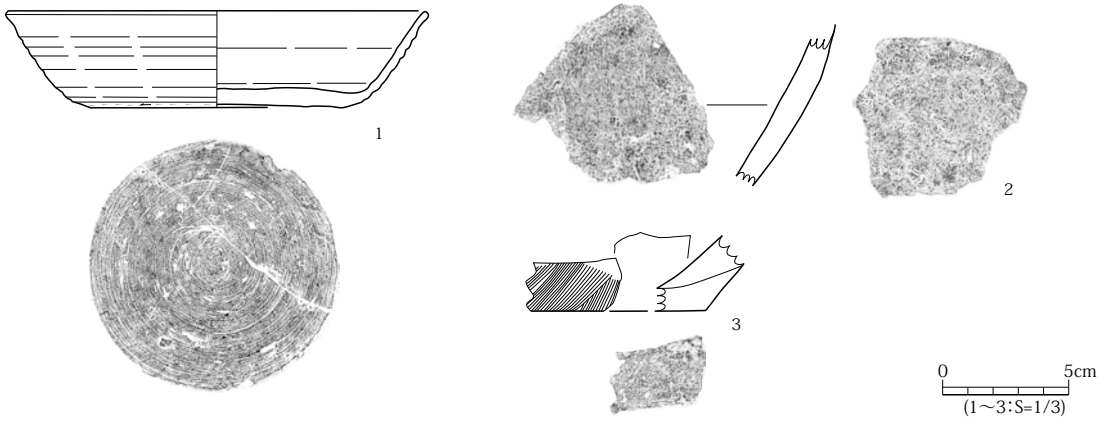




層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR2/3)	粘土質シルト	V層ブロックを多量に、黒色(10YR2/1)シルトブロックを少量含む	自然堆積

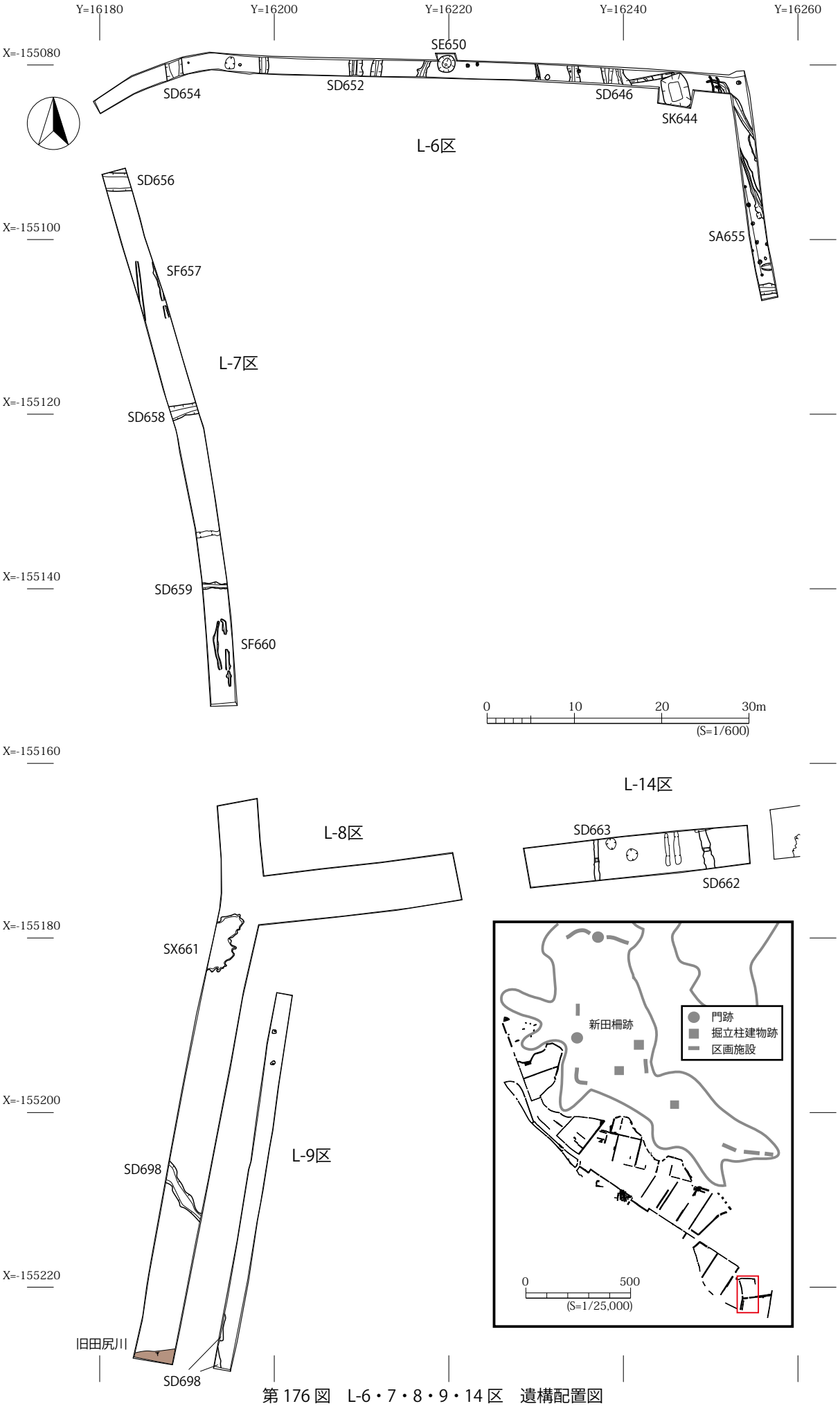
層	土色	土性	含有物など	備考
1	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	V層粒～ブロックを含む	自然堆積
2	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	V層粒・小ブロックを含む	

その他



No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	須恵器　坏	SX631　堆	(口～体)1/3～(底)1/1	口径(16.6cm)　底径 9.9cm　器高(3.8cm) 外内：ロクロナデ　底：切り離し不明→(体下～底)回転ヘラケズリ　内面摩耗	70-8	R956
2	中世陶器　甕	確認面	胴部	外：ナデ　内：ナデ　色調：(外内)赤灰色(2.5YR4/1)、灰赤色(2.5YR4/2)、 にぶい赤褐色(2.5YR4/3)(断)にぶい赤褐色(2.5YR5/4)、明赤褐色(2.5YR5/6) 胎土：径 2㎜の小礫、径 1㎜の白色小礫含む　在地産	70-9	R957
3	中世陶器　甕	表土	底部	外：ナデ　内：降灰・自然釉により不明　色調：(外)にぶい赤褐色(5YR5/4)、にぶい橙色(5YR6/4) (内)不明(断)褐灰色(7.5YR4/1)　胎土：径 1㎜の小礫、径 1～3㎜の黒色小礫含む　在地産	70-10	R958

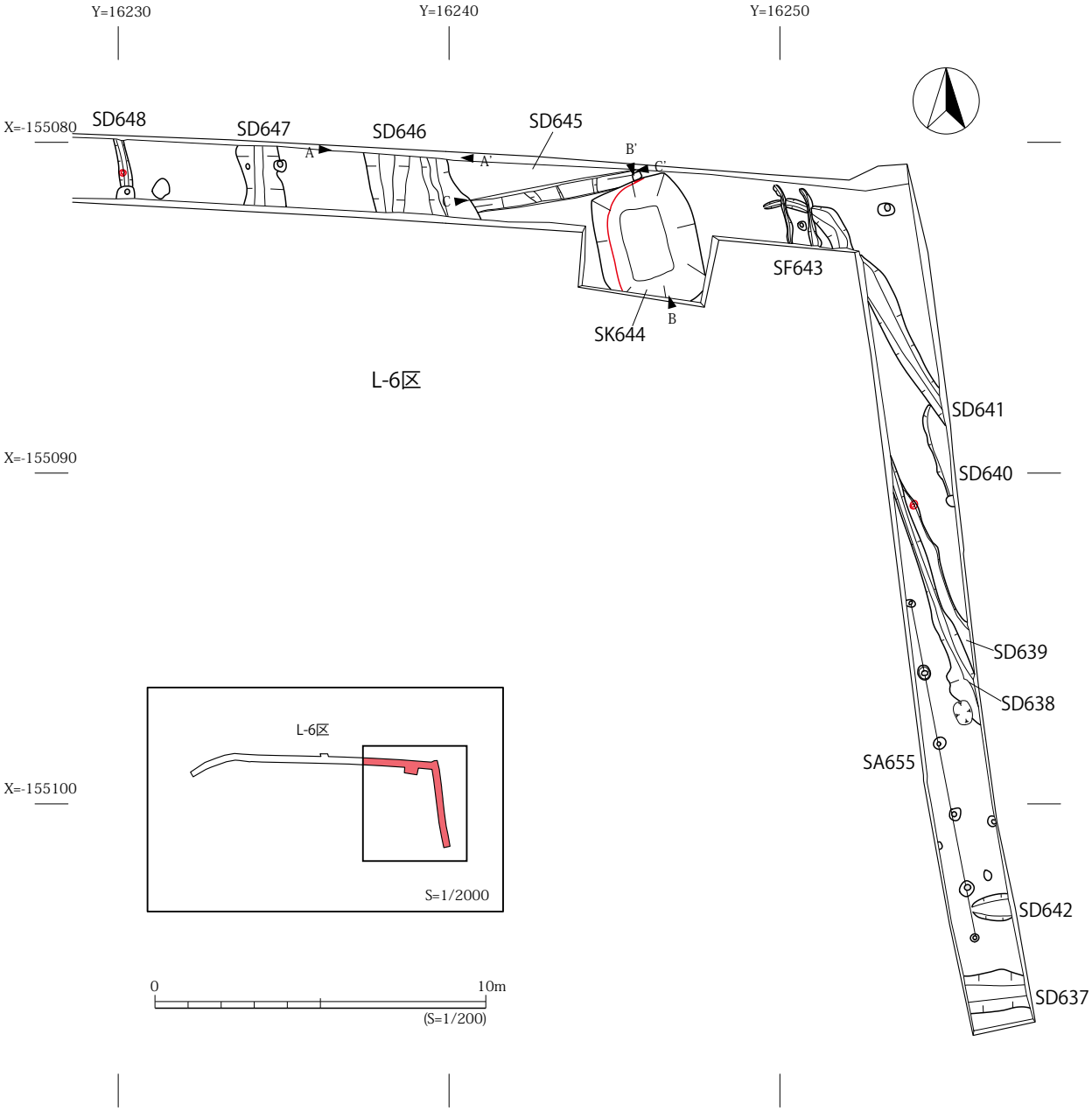
第 175 図　L-5 区　SF628・629 小溝状遺構群、その他の出土遺物



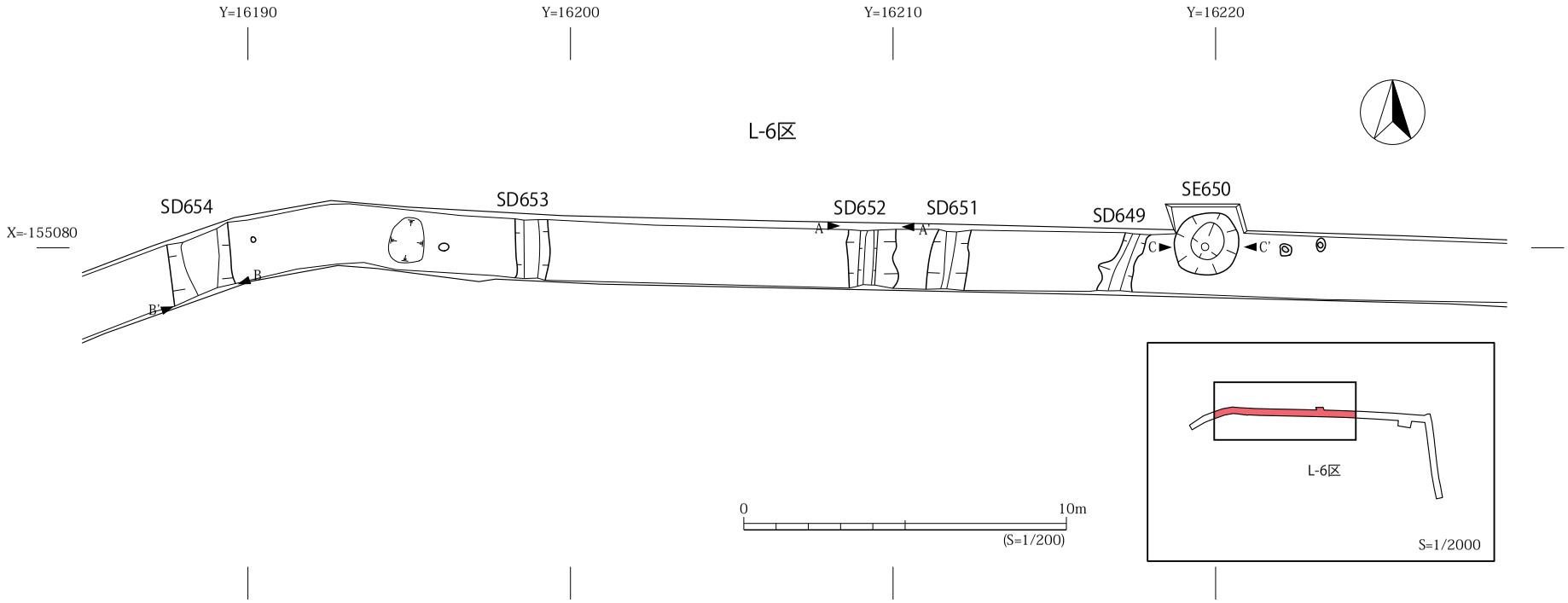
第 176 図　L-6・7・8・9・14 区　遺構配置図

④L-6～9・14区

L-6 区で柱列跡 1 条（SA655）、溝跡 14 条（SD637 ～ 642・646 ～ 649・651 ～ 654）、井戸跡 1 基（SE650）、土坑 1 基（SK644）、小溝状遺構群 1 ヶ所（SF643）、河川跡 1 条（SD645）（第 176 ～ 178 図）、L-7 区で溝跡 3 条（SD656・658・659）、小溝状遺構群 2 ヶ所（SF657・660）（第 176 図）、L-8 区で自然流路跡 1 条（SD698）、自然堆積層（SX661）（第 176 図）、L-9 区で自然流路跡 1 条（SD698）（第 176 図）、L-14 区で溝跡 2 条（SD662・663）（第 176 図）を検出した。ここでは、L-6 区の柱列跡、SD646・652・654 溝跡、井戸跡、土坑、河川跡のみ記述し、それ以外については第 28・31・32 表に特徴をまとめた。



第 177 図　L-6 区東側　検出遺構

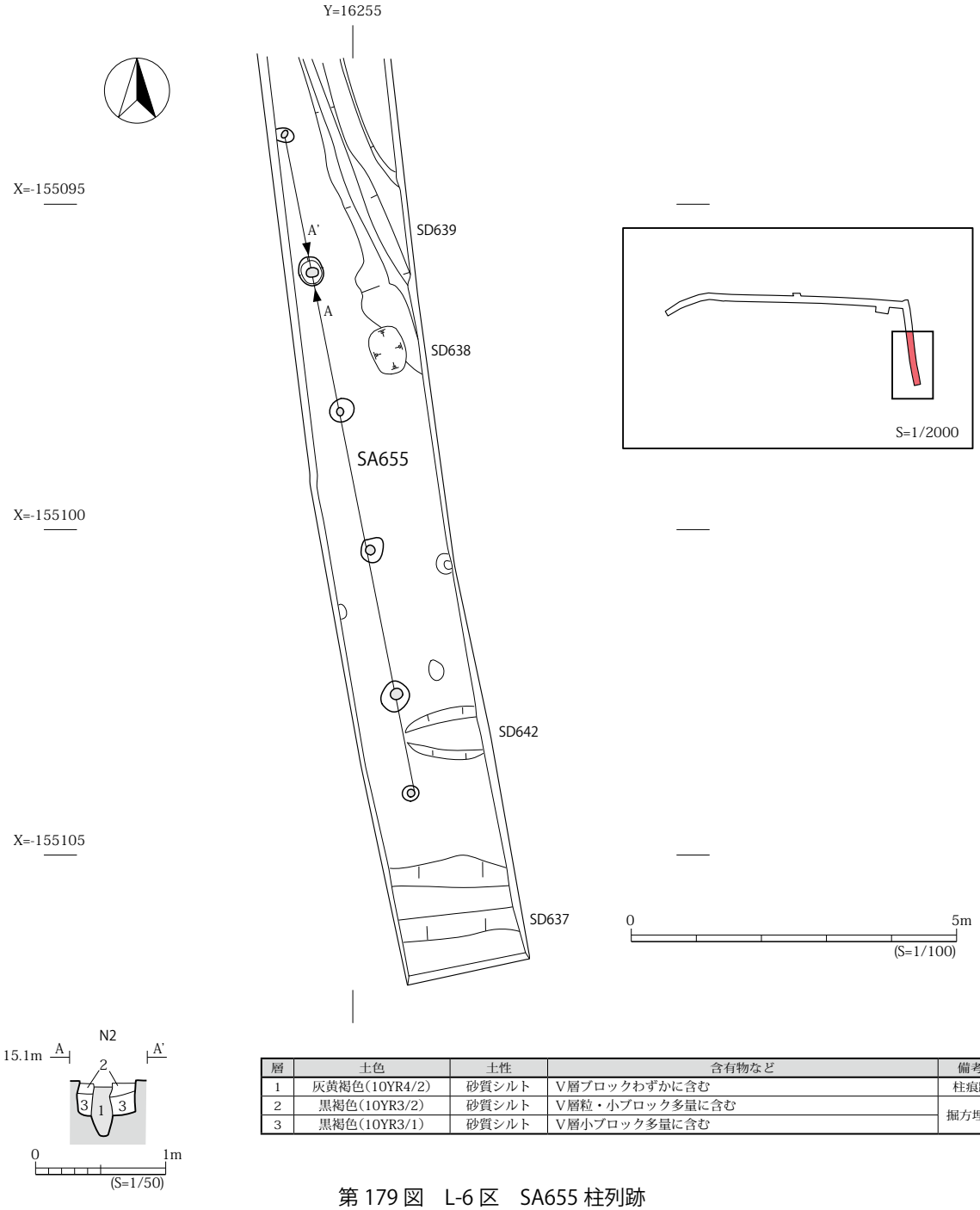


第 178 図　L-6 区西側　検出遺構

A. 柱列跡

【SA655柱列跡】（平面・断面図：第 179 図）

L-6 区南東部に位置し、北西―南東 5 間分を検出した。6 個すべての柱穴で柱痕跡を確認した。総長は 10.35m、柱間寸法は北から 2.2m、2.2m、2.15m、2.3m、1.5m である。方向は北で西に 11°偏る。柱穴掘方は長軸 25 ～ 45cm、短軸 21 ～ 40cm の楕円形、円形、隅丸長方形で、柱痕跡は長軸 10 ～ 20cm の円形、楕円形である。調査区の関係から柱列跡として登録したが、柱穴掘方の規模が大きく、柱間寸法が均一であること、南端の柱穴の掘方が他よりも小さく、南側 1 間分の柱間寸法が他よりも小さいことから、南側に庇あるいは下屋をもつ掘立柱建物跡の可能性がある。



層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	砂質シルト	Ⅴ層ブロックわずかに含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR3/2)	砂質シルト	Ⅴ層粒・小ブロック多量に含む	掘方埋土
3	黒褐色(10YR3/1)	砂質シルト	Ⅴ層小ブロック多量に含む	

第 179 図　L-6 区　SA655 柱列跡

B. 溝跡

【SD646溝跡】（平面図：第 177 図、断面図・遺物：第 180 図）

L-6 区北東部に位置する。SD645 河川跡と重複し、これより新しい。北西―南東方向で、検出長は 2.45m、規模は上幅 2.5 ～ 3.18m、下幅 0.3 ～ 0.9m、深さ 0.97m である。断面は逆台形で、東西の両壁に幅の狭いテラス状の段がある。堆積土は 7 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から中世陶器甕（第 180 図 1）、石製の紡錘車（2）が出土した。

【SD652溝跡】（平面図：第 178 図、断面図・遺物：第 180 図）

L-6 区北側中央に位置する。南北方向で、検出長 1.8m、規模は上幅 1.4 ～ 1.55m、下幅 0.2 ～ 0.28m、深さ 0.75m である。断面は漏斗形である。堆積土は 4 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から中世陶器甕（第 180 図 3）が出土した。

【SD654溝跡】（平面図：第 178 図、断面図・遺物：第 180 図）

L-6 区北西部に位置する。南北方向で、検出長は 2.35m、規模は上幅 1.9 ～ 1.95m、下幅 0.65 ～ 1.15m、深さ 0.49m である。断面は逆台形で、底面には凹凸がある。堆積土は 8 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土から中世陶器甕（第 180 図 4）が出土した。

C. 井戸跡、土坑

【SE650井戸跡】（平面図：第 178 図、断面図：第 181 図）

L-6 区北側中央に位置する。平面は円形で、規模は径 1.95m、深さ 0.86m である。断面は「V」字形である。堆積土は 6 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

【SK644土坑】（平面図：第 177 図、断面図・遺物：第 181 図）

L-6 区北東部に位置する。SD645 河川跡と重複し、これより新しい。南西隅と南東隅以外を検出した。北西―南東方向に長軸を持つ隅丸長方形で、規模は長軸 3.95m 以上、短軸 3.05m、深さ 1.4m である。断面は長軸、短軸の両方向でともに逆台形である。堆積土は 17 層に分かれ、1・2 層は廃絶後の自然堆積、3 ～ 6 層は人為的埋土、7 ～ 17 層は機能時の廃棄層と自然堆積層である。17 層から箸（第 181 図 1）、堆積土から鉄滓、植物遺存体、土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏・甕が出土した。

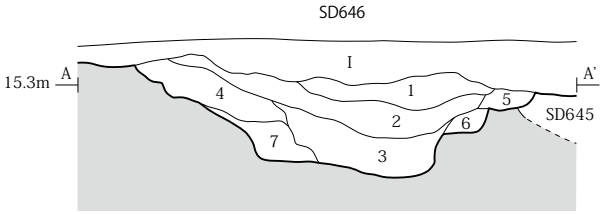
D. 河川跡

【SD645河川跡】（平面図：第 177 図、断面図：第 182 図）

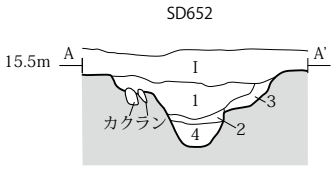
L-6 区北東部に位置する。SD646 溝跡、SK644 土坑と重複し、これらより古い。一部で截ち割りを行った。北西―南東方向で、検出長は 6.1m、規模は上幅 4.9m、深さ 1.38m である。堆積土には灰白色火山灰層が認められる。

E. その他の出土遺物

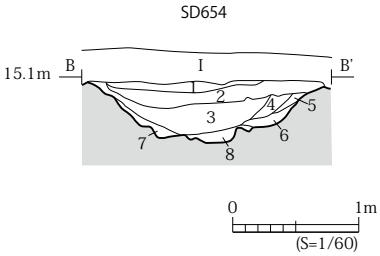
上記の遺構以外に、SK644 土坑付近の排土から下駄（第 181 図 2）が出土した。排土の特徴が SK644 の堆積土に類似すること、他に木製品が出土した遺構がないことから、本来的には SK644 に帰属するものと推定される。



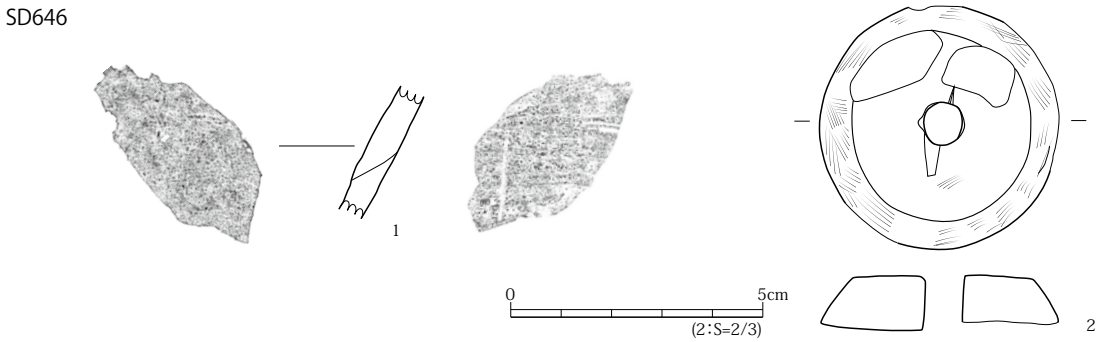
層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	砂質シルト	炭化物粒、V層粒をわずかに、酸化マンガンを斑に含む	自然堆積
2	灰黄褐色(10YR5/2)	砂質シルト	炭化物片、褐灰色(10YR4/1)シルト小ブロックをやや多く、酸化マンガンを斑に含む	
3	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層小ブロック、褐灰色(10YR4/1)シルト小ブロックを多量に含む	
4	黄灰色(2.5Y 4/1)	砂質シルト	V層粒・小ブロック、酸化マンガンを斑に含む	
5	暗褐色(10YR3/3)	砂質シルト	V層小ブロック、酸化マンガンを斑に含む	
6	灰黄褐色(10YR6/2)	砂質シルト	V層小ブロックを少量、酸化マンガンを斑に含む	
7	黒褐色(10YR3/1)	シルト	細砂、灰黄褐色(10YR5/2)砂質シルトと互層になる	

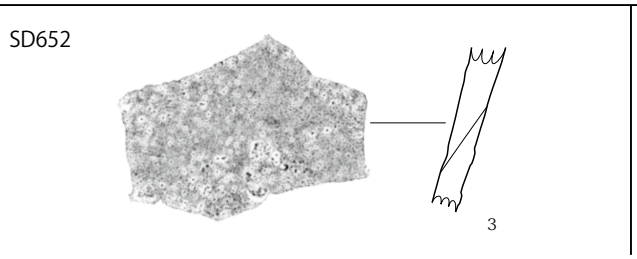


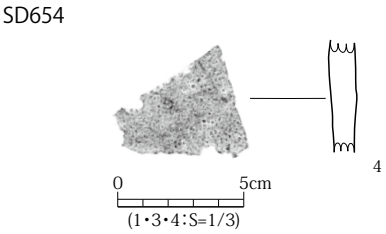
層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	V層小ブロック・ブロックを西側に多量に、炭化物を少量含む	自然堆積
2	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	灰黄褐色(10YR5/2)シルト小ブロックを多量に、酸化鉄、V層小ブロック・ブロックを含む	
3	暗褐色(10YR3/3)	粘土質シルト	黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト小ブロック、V層粒・小ブロックを含む	
4	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層小〜大ブロックを多量に含む	



層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR2/3)	粘土質シルト		自然堆積
2	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	V層小ブロック・ブロックを少量含む	
3	黒褐色(10YR3/3)	シルト質粘土	細砂小ブロック・ブロック多量に、V層粒少量、酸化鉄を含む	
4	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	酸化鉄を少量含む	
5	黒褐色(10YR1/3)	粘土質シルト	酸化鉄を少量含む	
6	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層粒、細砂を層状に少量含む	
7	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	V層粒を少量含む	
8	黒褐色(10YR3/2)	シルト質粘土	V層粒・小ブロックを含む	

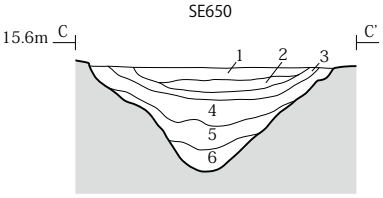




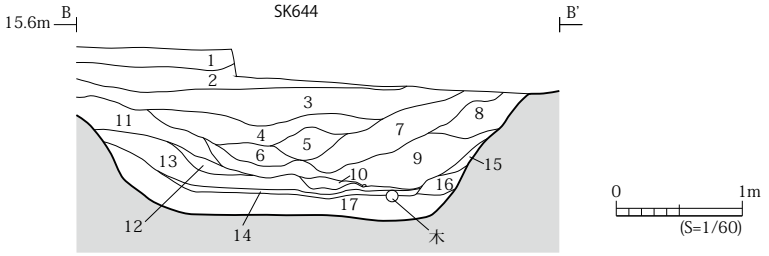


No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	中世陶器　甕	SD646　堆	胴部	外：ナデ、ヘラナデ　内：ヘラナデ 色調：(外内)赤灰色(2.5YR4/1)、灰赤色(2.5YR4/2)、にぶい赤褐色(2.5YR4/3)(断) にぶい赤褐色(2.5YR5/4)、明赤褐色(2.5YR5/6)　胎土：径 2㎜の小礫、径 1㎜の白色小礫含む　東海産ヵ	70-11	R959
2	石製品　紡錘車	SD646　堆	破損	粘板岩製　長(4.8cm)　幅(4.7cm)　厚(1.2cm)　重(41.5g)　孔径 7.5 〜 8.0㎜	70-12	R960
3	中世陶器　甕	SD652　堆	胴部	外内：ナデ　色調：(外内)灰褐色(5YR4/2)(断)灰白色(N7/0) 胎土：径 1 〜 3㎜の白色小礫、径 1㎜の小礫多量に含む　東海産ヵ	70-13	R961
4	中世陶器　甕	SD654　堆	胴部	外内：ナデ　色調：(外内)赤灰色(2.5YR4/1)、灰赤色(2.5YR4/2)、にぶい赤褐色(2.5YR4/3)(断) にぶい赤褐色(2.5YR5/4)、明赤褐色(2.5YR5/6)　胎土：径 2㎜の小礫、径 1㎜の白色小礫含む　東海産ヵ	70-14	R962

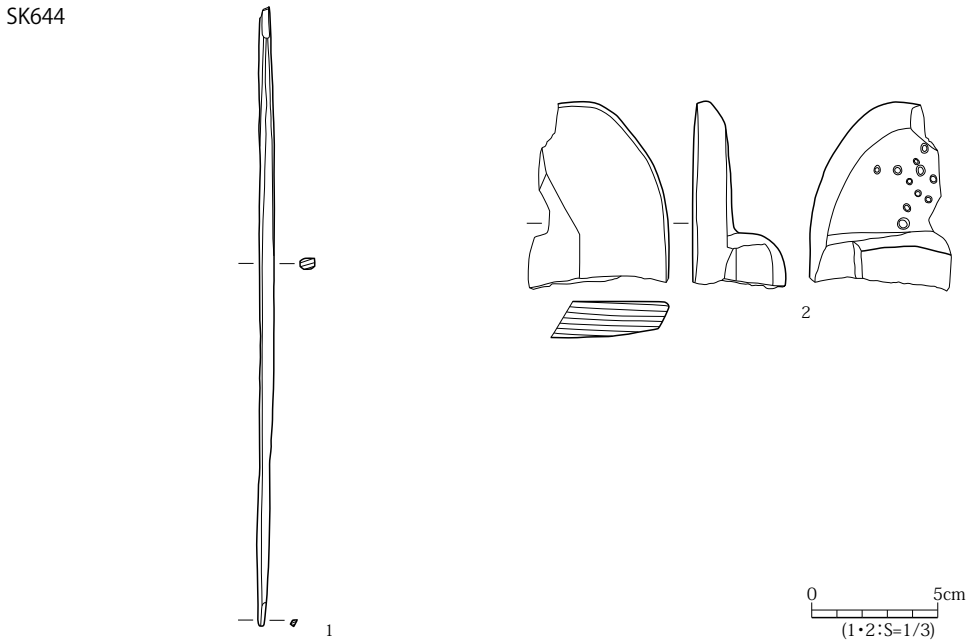
第 180 図　L-6 区　SD646・652・654 溝跡　断面・出土遺物



層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層粒、黒色(10YR2/1)シルト小ブロックを含む	自然堆積
2	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層粒を多量に含む	
3	黒褐色(10YR3/2)	シルト	褐灰色(10YR4/1)シルト、有機質層と互層になる	
4	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層粒・小ブロックを斑に、東壁付近でV層ブロックを含む	
5	にぶい黄色(2.5Y6/3)	砂質シルト	黒褐色(10YR3/1)シルトブロックを斑に、黄灰色(2.5Y5/1)砂質シルト小ブロックを多量に含む	
6	にぶい黄色(2.5Y6/3)	砂質シルト	黄灰色(2.5Y5/1)砂質シルトと互層になる	

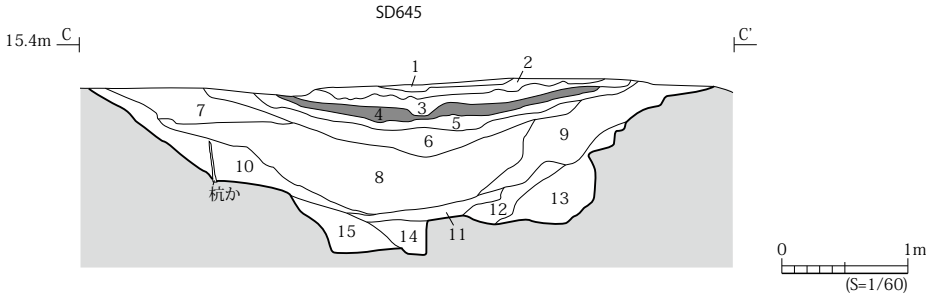


層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(2.5Y3/2)	シルト	V層粒・小ブロック、炭化物片を少量含む	自然堆積
2	黒褐色(2.5Y3/2)	シルト	V層粒・小ブロック、炭化物片をやや多く含む	
3	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	酸化鉄を少量、灰黄褐色(10YR6/2)砂質シルト小ブロック・ブロックを含む	人為
4	灰黄色(2.5Y6/2)	シルト質粘土	酸化鉄を多量に、黒褐色(10YR2/2)粘土質シルト小ブロックを含む	
5	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層小ブロック、黄灰色(2.5Y5/1)粘土、暗灰黄色(2.5Y5/2)粘土小ブロック・ブロックを多量に含む	
6	灰黄色(2.5Y6/2)	粘土	黒色(10YR2/1)粘土を層状に、灰黄色(2.5Y6/2)シルト質砂小ブロック、黒褐色(10YR2/2)シルト質粘土大ブロックを含む	
7	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層小ブロック・ブロック、褐灰色(10YR4/1)シルト小ブロックを多量に含む	廃棄層
8	黄灰色(2.5Y6/1)	シルト質粘土	V層小ブロック・ブロック、黒褐色(10YR3/1)シルト、褐灰色(10YR4/1)シルト小ブロックを多量に含む	
9	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層小ブロック、黄灰色(2.5Y5/1)粘土、褐灰色(10YR4/1)シルト小ブロックをやや多く含む	
10	黄灰色(2.5Y6/1)	粘土		
11	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層粒・小ブロック、黒色(10YR2/1)粘土質シルトブロック、炭化物片、木枝を多量に含む	
12	黒褐色(10YR3/1)	シルト	V層粒・小ブロックを含む	
13	黒色(10YR2/1)	シルト	V層粒を含む	
14	黒褐色(2.5Y3/1)	粘土質シルト	V層粒・小ブロック、黒色(10YR2/1)粘土質シルトブロックを含む	自然堆積(機能時)
15	黄灰色(2.5Y5/1)	粘土	V層粒を少量、V層小ブロック・ブロック非常に多く含む	
16	黄灰色(2.5Y4/1)	シルト質粘土	V層小ブロック、黒褐色(2.5Y3/2)シルト質粘土小ブロックをやや多く含む　細砂と互層になる	
17	黄灰色(2.5Y5/1)	細砂	V層小ブロック、黒褐色(10YR3/1)シルト小ブロック、黄灰色(2.5Y4/1)シルト質粘土ブロックを含む	



No.	種別・器種	遺構・層	残存	特徴	写真図版	登録番号
1	木製品　箸	SK644　17 層	端部破損	長(24.0cm)　幅 0.6cm　厚 0.45cm	70-16	R980
2	木製品　連歯下駄	L-6 区　排土	破損	長(7.4cm)　幅(5.5cm)　高(3.7cm)	70-15	R981

第 181 図　L-6 区　SE650 井戸跡　断面、SK644 土坑　断面・出土遺物



層	土色	土性	含有物など
1	黒褐(7.5YR3/1)	シルト	暗褐色(10YR3/3)シルト小ブロック・ブロックを含む
2	黒色(10YR2/1)	粘土質シルト	黒褐色(10YR3/2)シルト小ブロック多量に含む
3	灰黄褐色(10YR5/2)	砂質シルト	黒褐色(10YR3/2)シルト小ブロック少量含む
4	灰白色火山灰	シルト	
5	黒色(10YR1.7/1)	シルト質粘土	黒褐色(10YR3/2)粘土を層上部に層状に含む
6	黒褐色(10YR2/3)	シルト質粘土	にぶい黄橙色(10YR7/2)シルト小ブロックを少量、黒褐色(10YR3/2)細砂小ブロック・ブロックを層中央に多量に、酸化鉄含む
7	黒褐色(10YR2/2)	砂質シルト	酸化鉄含む
8	黒褐色(10YR3/1)	粘土	黒褐色(10YR3/1)細砂小ブロックを含む
9	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	灰黄褐色(10YR4/2)細砂小ブロック多量に、酸化鉄を含む
10	黒色(10YR2/1)	シルト質粘土	灰黄褐色(10YR4/2)シルト質粘土小ブロック、黒色(10YR2/1)粘土小ブロック、スクモ少量、酸化鉄を含む
11	黒色(10YR2/1)	粘土	スクモを含む
12	黒褐色(2.5Y3/1)	シルト質粘土	灰色(5Y5/1)シルト質砂小ブロックを含む
13	黒褐色(10YR3/1)	シルト質粘土	黄灰(2.5Y5/1)細砂ブロック・大ブロック、黄褐色(2.5Y5/4)細砂小～大ブロックを多量に含む
14	黒褐色(10YR3/1)	粘土	スクモを少量含む
15	黒褐色(10YR3/1)	シルト質粘土	褐灰(10YR4/1)粘土小ブロックを少量含む

第 182 図　L-6 区　SD645 河川跡　断面

⑤L-15・16区

L-15･16 区は多くの範囲が重複しており、まとめて扱う。竪穴建物跡 1 棟(SI670)、溝跡 23 条(SD667･669･671･673･675･676･678･680～683･685～687･689～691･693･694･1050～1052)、土坑 7 基(SK666･668･672･679･684･692･695)、小溝状遺構群 3 ヶ所(SF664･665･688)、河川跡 1 条(SD677)、自然堆積層(SX674)を検出した(第 183 図)。竪穴建物跡、SD669･678 溝跡、SF664･665 小溝状遺構群、SD677 河川跡のみ記述し、それ以外については第 28･30～32 表に特徴をまとめた。

A. 竪穴建物跡

【SI670竪穴建物跡】(平面図：第 184 図、断面図：第 184･185 図、遺物：第 186 図)

〔位置･検出〕北側中央に位置し、全体を検出した。

〔重複〕SF664･665 小溝状遺構群と重複し、これらより古い。

〔平面形･規模〕隅丸方形で、規模は、南北 4.22m、東西 4.4m である。

〔方向〕西辺でみると北で西に 12°偏る。

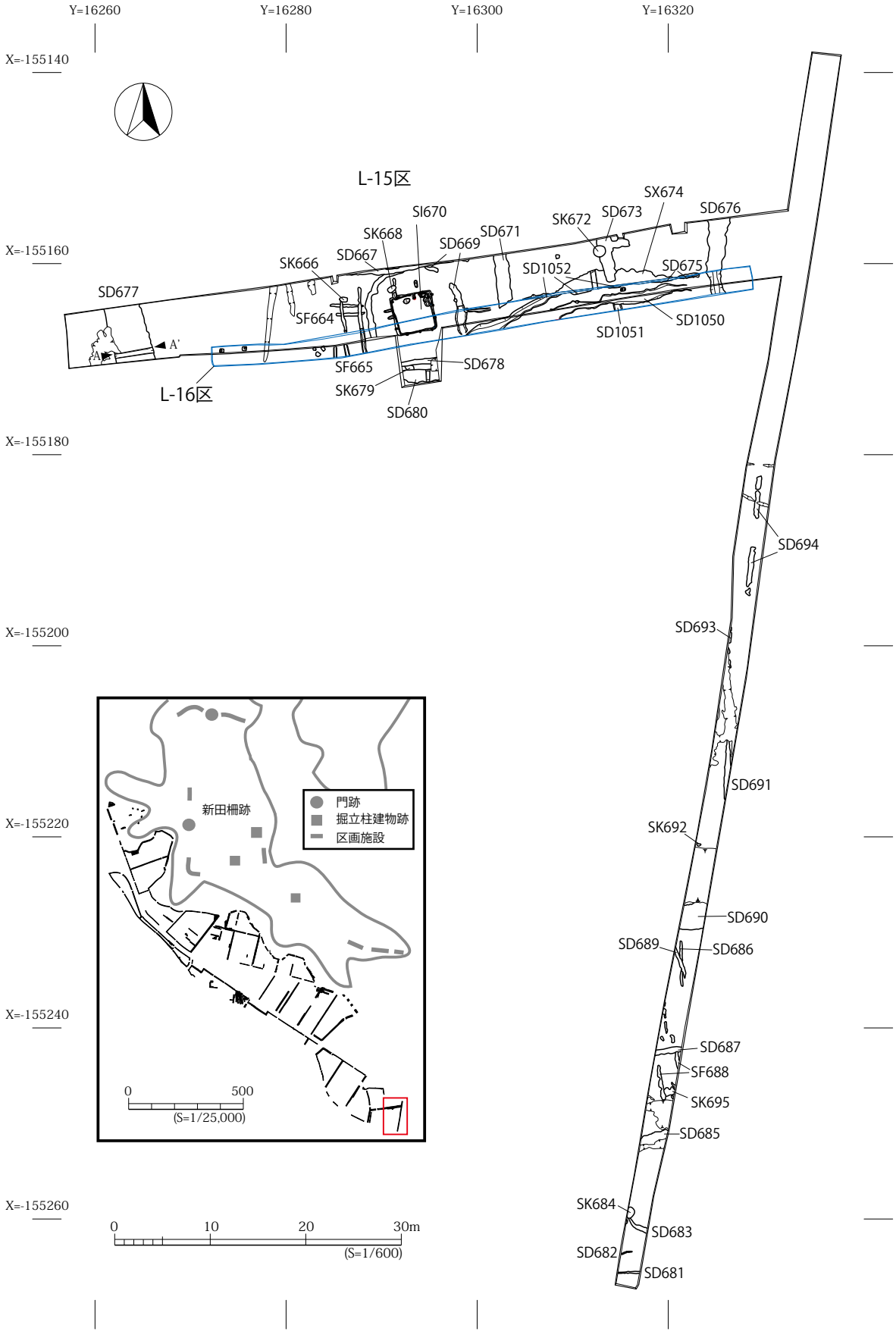
〔壁〕地山を壁とし、床面から急角度で立ち上がる。高さは、最も残りの良い東辺北側で床面から 14cm である。

〔床面〕掘方埋土を床面としている。床面は平坦である。

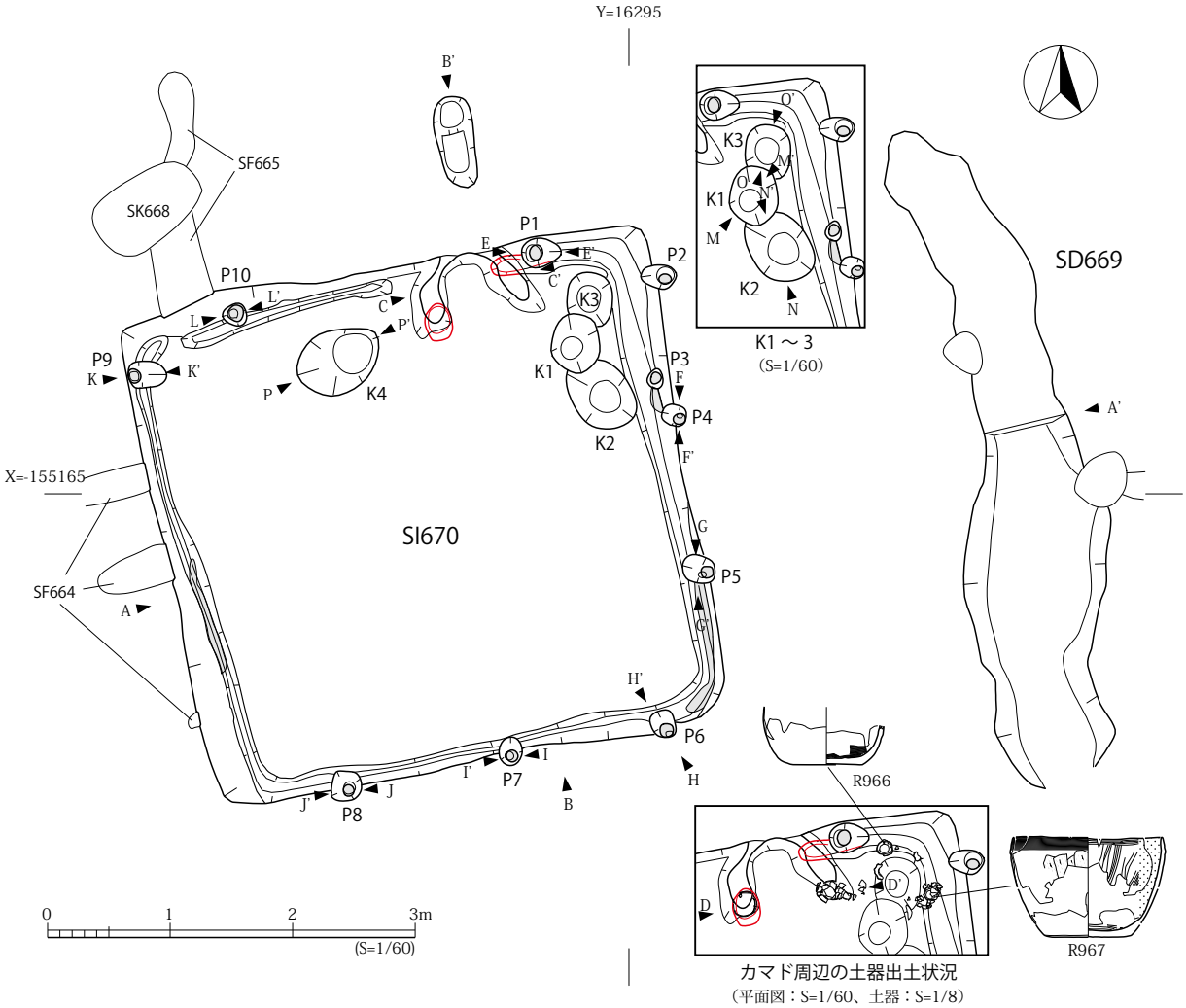
〔主柱穴〕なし。

〔カマド〕北辺東側に付設されている。カマド両側壁と煙道部、煙出しピットを検出した。

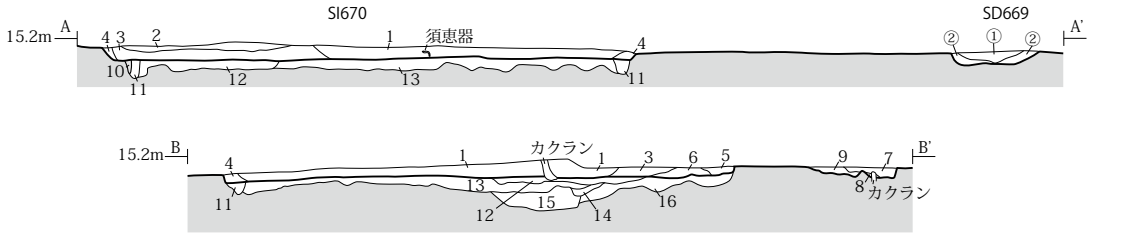
カマド側壁は黄灰色シルトにより構築され、規模は、左側壁が長さ 62cm、幅 28cm、高さ 7cm、右側壁が長さ 60cm、幅 28cm、高さ 11cm である。両側壁とも、先端部に芯材として黄灰色シルトを充填した土師器甕を逆位に据えて焚口部分を補強している。左側壁では、この土師器甕の据え穴が確認され、平面は南北方向に長軸を持つ楕円形で、規模は、長軸 30cm、短軸 22cm、深さ 9cm である。



第 183 図　L-15・16 区　遺構配置図



カマド周辺の土器出土状況
（平面図：S=1/60、土器：S=1/8）



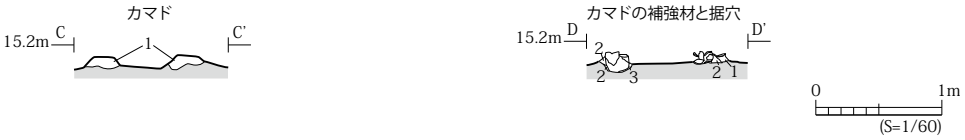
SI670（A-A',B-B'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	暗褐色(10YR3/3)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロック、褐灰色(10YR4/1)シルト小ブロック、黒褐色(10YR3/2 シルト)小ブロックをやや多く含む	自然堆積
2	暗褐色(10YR3/3)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを少量含む	
3	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層粒少量、炭化物片をわずかに含む	
4	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを含む	
5	暗褐色(10YR3/3)	シルト	Ⅴ層粒、焼土粒、灰黄褐色(10YR5/2)粘土質シルト小ブロックを含む	カマド堆積土
6	暗褐色(10YR3/3)	シルト	Ⅴ層粒、焼土粒、炭化物粒をやや多く含む	
7	暗褐色(10YR3/3)	シルト	Ⅴ層粒・炭化物片を含む。	煙道・煙出ピット堆積土
8	黒褐色(10YR3/2)	シルト	Ⅴ層粒を少量含む	
9	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	Ⅴ層粒を少量含む	
10	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	Ⅴ層粒を含む	壁材痕跡
11	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを含む	周溝埋土
12	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	Ⅴ層粒・小ブロックを少量、褐灰色(10YR6/1)シルト小ブロックを多量に含む	掘方埋土
13	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	Ⅴ層小ブロックを多量に、炭化物片を少量含む	
14	黒褐色(10YR3/1)	粘土質シルト	Ⅴ層小ブロック、灰黄褐色(10YR4/2)シルト小ブロックを多量に含む	
15	褐灰色(10YR6/1)	シルト	Ⅴ層小ブロック、黒褐色(10YR3/2)シルト小ブロックを多量に含む	
16	褐灰色(10YR4/1)	シルト	Ⅴ層小ブロック、黒褐色(10YR3/2)シルト小ブロックを多量に含む	

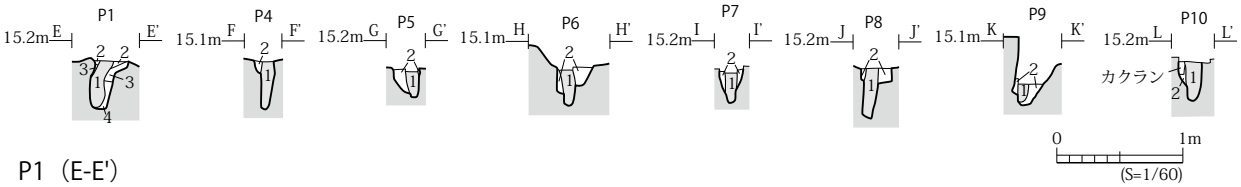
SD669

層	土色	土性	含有物など	備考
①	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	地山小ブロック、酸化鉄を少量含む	自然堆積
②	褐色(10YR4/4)	粘土質シルト	地山ブロックを多量に、酸化鉄を含む	

第 184 図　L-15 区　SI670 竪穴建物跡（1）



層	土色	土性	含有物など	備考	層	土色	土性	含有物など	備考
1	黄灰色(2.5Y5/1)	シルト	V層粒・小ブロック、灰黄褐色(10YR4/2)シルト小ブロックをわずかに含む	カマド構築土	1	暗褐色(10YR3/3)	シルト	焼土小ブロック、炭化物片を含む	カマド構築土
					2	黄灰色(2.5Y5/1)	シルト	V層粒・小ブロック、灰黄褐色(10YR4/2)シルト小ブロックをわずかに含む	
					3	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層粒を少量含む	据穴



P1（E-E'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	炭化物片を少量、V層小ブロック・ブロック、灰黄褐色(10YR4/2)シルト小ブロック・ブロック、黒色(10YR2/1)シルト小ブロックを含む	柱痕跡
2	暗褐色(10YR3/3)	シルト	V層小ブロック、炭化物片を少量含む	掘方埋土
3	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	V層粒を多量に含む	
4	黒褐色(10YR3/1)	シルト質粘土	酸化鉄、V層小ブロック・ブロックを多量に含む	

P4（F-F'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層粒を含む	柱痕跡
2	褐灰色(10YR4/1)	シルト	V層粒・小ブロックを多量に含む	掘方埋土

P5（G-G'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR2/2)	粘土質シルト	V層粒、酸化鉄を少量含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	酸化鉄、灰黄褐色(10YR4/2)シルト小ブロックを少量、V層ブロックを含む	掘方埋土

P6（H-H'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	V層粒、小礫を含む	柱痕跡
2	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	焼土小ブロックをわずかに、V層粒・小ブロックを含む	掘方埋土

P7（I-I'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒色(10YR2/1)	粘土質シルト	V層小ブロック・ブロックを多量に、暗褐色(10YR3/3)シルト質粘土ブロックを層上部に含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR3/2)	シルト質粘土	V層小ブロックを多量に、酸化鉄を含む	掘方埋土

P8（J-J'）

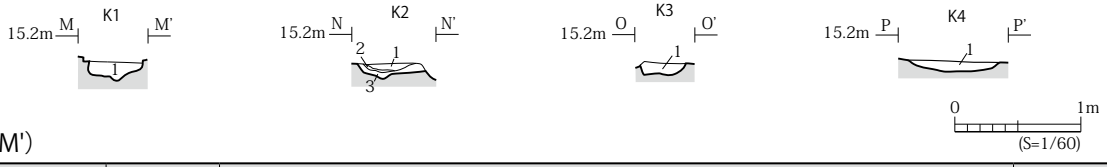
層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	酸化鉄を少量、V層粒・小ブロックを含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR3/2)	シルト質粘土	V層ブロックを多量に、酸化鉄を含む	掘方埋土

P9（K-K'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	V層粒・小ブロックを含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	V層粒・小ブロックを多量に含む	掘方埋土

P10（L-L'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	V層粒・小ブロックを少量含む	柱痕跡
2	暗褐色(10YR3/3)	粘土質シルト	V層粒・小ブロックを含む	掘方埋土



K1（M-M'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	褐灰色(10YR4/1)	シルト	灰黄褐色(10YR5/2)シルト小ブロックを多量に、V層粒・小ブロック、焼土粒・小ブロックを含む	自然堆積

K2（N-N'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	褐灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	V層小ブロックを多量に、炭化物粒、焼土小ブロックを含む	人為
2	灰黄褐色(10YR5/2)	シルト	V層粒、炭化物粒をやや多く含む	
3	灰黄褐色(10YR6/2)	シルト	V層粒、炭化物粒をやや多く含む	

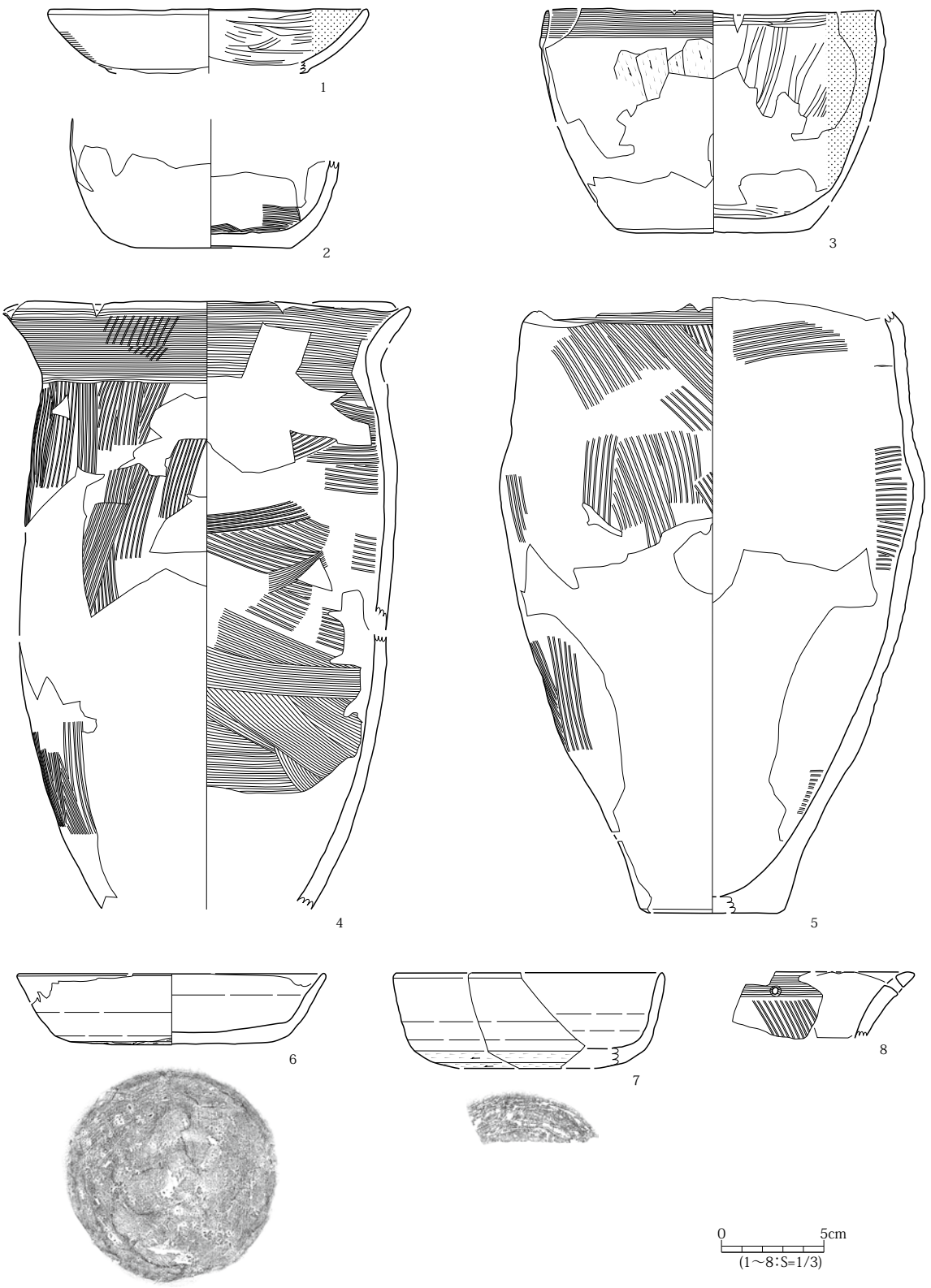
K3（O-O'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	褐灰色(10YR6/1)	シルト	V層粒、焼土小ブロックを多量に、炭化物片を少量含む	人為

K4（P-P'）

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	シルト質粘土	炭化物片、酸化鉄を多量に、焼土粒・小ブロックを非常に多く、V層小ブロックを含む	人為

第 185 図　L-15 区　SI670 竪穴建物跡（2）



No.	種別・器種	層	残存	法量(cm)			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径	器高			
1	土師器　坏	床	(口～体)1/4	(15.6)			外：(口)：ナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理	71-1	R968
2	土師器　甕	床	(胴下～底)1/1		7.8		外：不明　内：ヘラナデ　底：木葉痕　内外面被熱	71-2	R966
3	土師器　埦	床	(口～体) 1/2(底)1/1	(16.2)	9.4	(10.9)	外：(口)ナデ(体)ヘラケズリ 内：ヘラミガキ→黒色処理　平底　外面全体被熱	71-3	R967
4	土師器　甕	カマド東袖	(口)1/1 ～ (胴)1/2 弱	19.8			外：(口)ハケメ→ナデ(胴)ハケメ 内：(口)ナデ(胴上)ハケメ→ヘラナデ(胴下)ヘラナデ	71-4	R969
5	土師器　甕	カマド西袖	(頸～胴)1/2 弱 (底)1/4 弱		(7.0)		外：(頸)ナデ(胴)ハケメ　内：ハケメ	71-5	R970
6	須恵器　坏	堆	(口～体)一部 (底)1/1	(15.0)	9.9	(3.45)	外内：ロクロナデ　底：切り離し不明→(体下～底)手持ちヘラケズリ	71-6	R973
7	須恵器　坏	1 層	(口～底)1/8	(13.2)	(9.4)	(4.65)	外内：ロクロナデ　底：切り離し不明→(体下～底)回転ヘラケズリ	71-7	R972
8	土師器　甕	K4　埋	口頸部				外：(口)ナデ→穿孔　(頸)ハケメ　内：不明	71-8	R971

第 186 図　L-15 区　SI670 竪穴建物跡　出土遺物

奥壁は建物跡壁面と一致し、高さは 5cm である。

煙道部は南半が削平により残存しておらず、北半のみの検出である。長さ 44cm、幅 30cm、深さ 7cm、煙出しピットは、長軸 30cm、短軸 26cm、深さ 7cm である。

堆積土はカマド内で 2 層（第 184 図 5･6 層）、煙道部と煙出しピットで 3 層（第 184 図 7 ～ 9 層）確認され、いずれも自然堆積である。

〔**周溝**〕東・西・南辺と北辺のカマド付設位置以外で検出した。規模は、上幅 8 ～ 27cm、下幅 3 ～ 16cm、深さ 10 ～ 15cm である。断面は「U」字形で、堆積土は人為的埋土である。東辺中央の P3 と P4 の間、南東隅の P5 と P6 の間、西辺中央で壁材痕跡を検出した。規模は上幅 4 ～ 10cm、深さ 10cm である。

〔**壁柱穴**〕10 個（P1 ～ 10）検出した。P1・10 が北辺、P2 ～ 5 が東辺、P6 ～ 8 が南辺、P9 が西辺に位置し、P1 と P6、P10 と P8、P2 と P9 が対向する。掘方は、長軸 15 ～ 30cm、短軸 12 ～ 26cm の楕円形である。すべての柱穴で柱痕跡が確認され、径 8 ～ 13cm の円形である。

〔**その他**〕土坑 4 基（K1 ～ 4）を検出した。K1 ～ 3 は北東隅周辺に位置し、K2・3 より K1 のほうが新しい。K4 は北辺中央よりやや西側に位置する。平面はいずれも楕円形である。

K1 は、長軸 50cm、短軸 40cm、深さ 18cm である。断面は逆台形で、底面に凹凸がある。堆積土は 1 層で、自然堆積であり、焼土粒・小ブロック、地山粒・小ブロックを多く含む。貯蔵穴の可能性がある。K2 は、長軸 66cm 以上、短軸 47cm、深さ 11cm である。断面は逆台形で、底面に凹凸がある。堆積土は 3 層に分かれ、人為的埋土である。K3 は、長軸 44cm 以上、短軸 36cm、深さ 10cm である。断面は逆台形である。堆積土は 1 層で、人為的埋土である。K4 は、長軸 72cm、短軸 52cm、深さ 10cm である。断面は皿状である。堆積土は 1 層で、人為的埋土である。

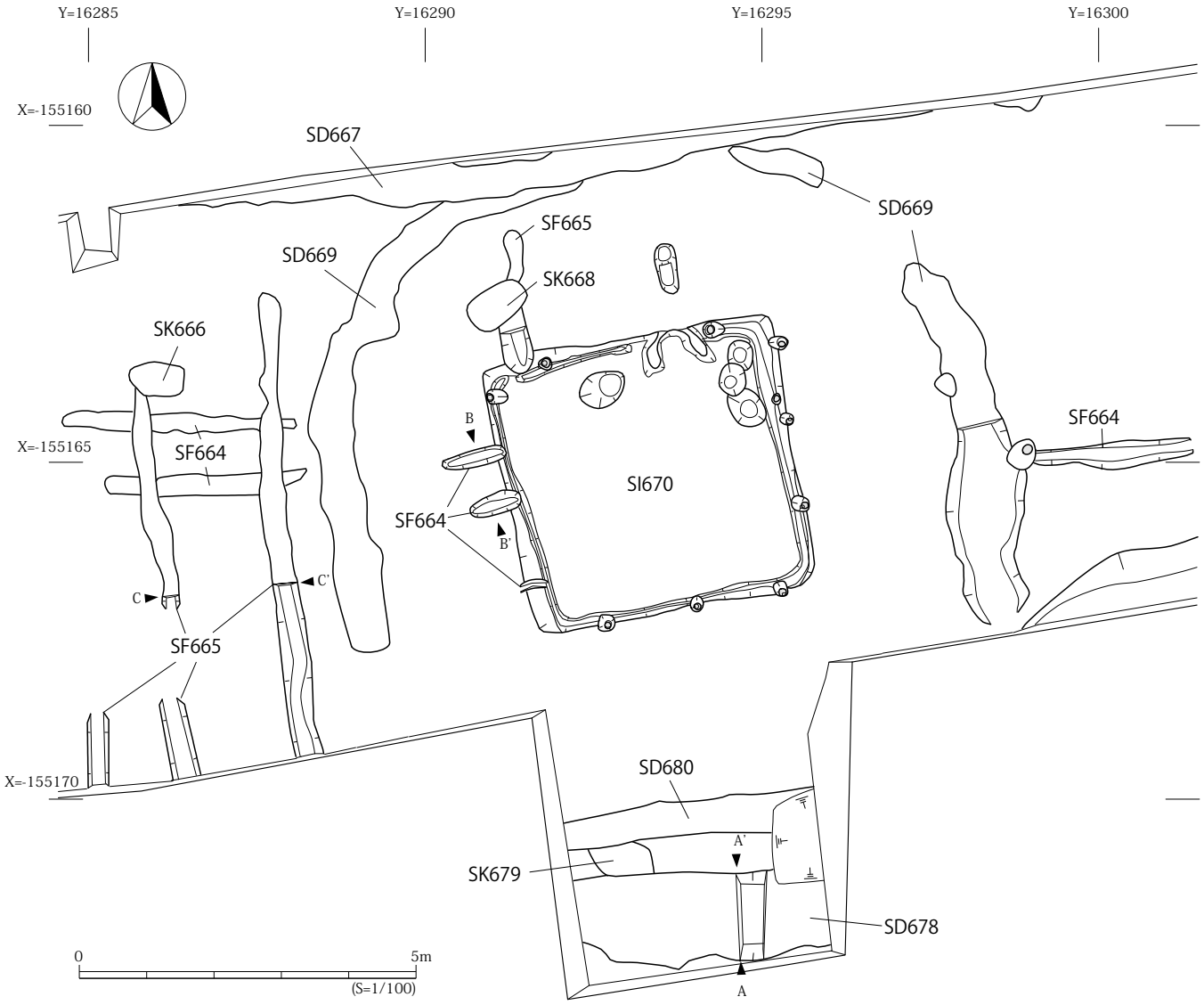
〔**堆積土**〕4 層に分かれ、いずれも自然堆積である。

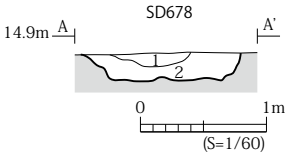
〔**出土遺物**〕掘方埋土や K3・4 埋土から土師器甕（第 186 図 8）、カマド袖から土師器甕（4・5）、床から土師器坏（1）・埦（3）・甕（2）、K1 堆積土から土師器甕、堆積土から土師器坏・甕、須恵器坏（6・7）が出土した。出土した土師器はすべて非ロクロ調整である。

B. 溝跡

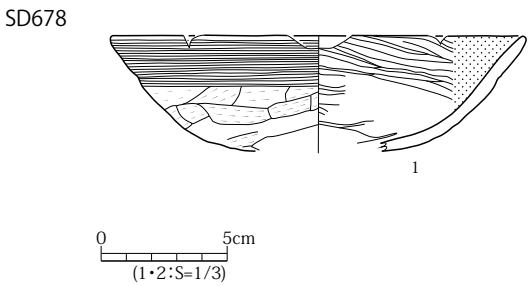
【SD669･678溝跡】（平面図：第 187 図、断面図：第 184・187 図、遺物：第 187 図）

北側中央に位置する。調査区の関係で直接の接続は認められないが、規模や堆積土の特徴が類似することから一連の溝跡とみられる。したがって、まとめて記述する。SD669 は SD667 溝跡と重複し、これより古く、SD678 は SK679 土坑と重複し、これより新しい。どちらも一部で截ち割りを行った。平面は、溝心々で径を測ると、東西方向が 9.5m、南北方向が約 11.5m の楕円形である。規模は上幅 0.4 ～ 1.45m、下幅 0.43 ～ 0.9m、深さ 0.12 ～ 0.22m である。断面は逆台形である。堆積土は 2 層に分かれ、1 層は自然堆積、2 層は地山ブロックが多量に含まれており、人為的埋土の可能性がある。SD669 の遺構確認面から須恵器坏（第 187 図 2）・甕、SD678 の堆積土から非ロクロ調整の土師器坏（1）・甕、須恵器蓋が出土した。





層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	Ⅴ層粒、酸化鉄を少量含む	自然堆積
2	黒褐色(10YR3/1)	シルト質粘土	Ⅴ層ブロック・大ブロックを多量に、灰黄褐色(10YR4/2)シルト質粘土大ブロック、酸化鉄を含む	



No.	種別・器種	遺構・層	残存	法量(cm)			特徴	写真図版	登録番号
				口径	底径	器高			
1	土師器　坏	SD678　堆	(口～体)1/4	(16.4)			外：(体)ヘラケズリ→(口)ナデ　内：ヘラミガキ→黒色処理　丸底	71-9	R977
2	須恵器　坏	SD669　確認面	(口～底)一部	(14.0)	(8.8)	(4.45)	外内：ロクロナデ　底：切り離し不明→回転ヘラケズリ	71-10	R974

第 187 図　L-15 区　SD678 溝跡　断面、SD669・678 溝跡　出土遺物

C. 小溝状遺構群

【SF664小溝状遺構群】（平面図：第 187 図、断面図：第 188 図）

北側中央に位置する。SI670 竪穴建物跡、SF665 小溝状遺構群と重複し、SI670 より新しく、SF665 より古い。4 条検出し、東西 17.0m、南北 2.7m の範囲に分布する。東西方向で、検出長は最大で 16.2m、規模は上幅 0.12 ～ 0.32m、下幅 0.04 ～ 0.2m、深さ 0.07 ～ 0.1m、溝中心間の距離は 0.8 ～ 1.2m である。断面は皿状である。堆積土から土師器甕、須恵器坏が出土した。

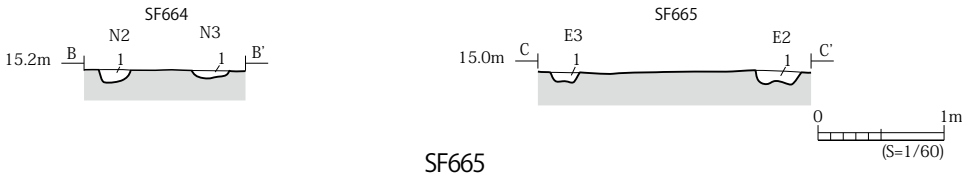
【SF665小溝状遺構群】（平面図：第 187 図、断面図：第 188 図）

北側中央に位置する。SI670 竪穴建物跡、SK666・668 土坑、SF664 小溝状遺構群と重複し、SI670、SF664 より新しく、SK666・668 より古い。4 条検出し、東西 7.4m、南北 7.0m の範囲に分布する。南北方向で、検出長は最大で 6.9m、規模は上幅 0.15 ～ 0.4m、下幅 0.15 ～ 0.25m、深さ 0.08 ～ 0.12m、溝中心間の距離は 1.2 ～ 3.7m である。断面は逆台形である。

D. 河川跡

【SD677河川跡】（平面図：第 183 図、断面図：第 188 図）

北西端に位置する。一部で截ち割りを行った。南北方向で、検出長は 6.3m、規模は上幅 3.95 ～ 4.1m、深さ 1.0m 以上である。堆積土には灰白色火山灰ブロックを多く含む層があり、L-6 区で検出した SD645 河川跡と一連のものの可能性がある。堆積土から土師器坏、須恵器坏、動物遺存体が出土した。

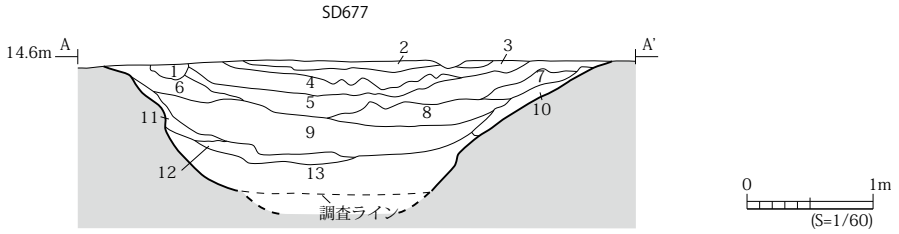


SF664

層	土色	土性	含有物など	備考
1	黒褐色(10YR2/3)	粘土質シルト	下部にV層ブロックを多量に、酸化鉄を少量含む	自然堆積

SF665

層	土色	土性	含有物など	備考
1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	V層小ブロック、褐灰色(10YR4/1)シルト小ブロックを多量に含む	自然堆積



層	土色	土性	含有物など
1	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	V層粒・小ブロックを少量含む
2	褐灰色(10YR5/1)	シルト	灰白色火山灰粒～ブロックを含む
3	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	灰白色火山灰小ブロックを少量含む
4	黒褐色(10YR3/2)	シルト	V層粒～大ブロックを多量に含む
5	褐灰色(10YR5/1)	シルト	砂をわずかに含む
6	褐灰色(10YR4/1)	シルト	V層粒・小ブロックを少量含む
7	褐灰色(10YR4/1)	シルト	V層粒・小ブロックを少量含む
8	黒褐色(10YR2/2)	シルト質粘土	砂をわずかに含む
9	黒色(10YR2/1)	シルト質粘土	砂を少量含む
10	褐灰色(10YR5/1)	粘土質シルト	V層粒・小ブロックを含む
11	黒褐色(10YR3/1)	シルト質粘土	V層粒・小ブロックを少量、砂をわずかに含む
12	黒褐色(10YR3/1)	粘土	V層粒、砂をわずかに含む
13	黒色(10YR2/1)	粘土	V層粒・小ブロック、砂を少量含む

第 188 図　L-15 区　SF664・665 小溝状遺構群・SD677 河川跡　断面

第 26 表　L 区　竪穴建物跡　属性表

遺構	区	検出	平面形	方向	規模(m)		主柱穴	カマド			貯蔵穴		周溝		備考	本文(頁)	図版 No.	
					長軸	短軸		位置	側壁	煙道長(m)	位置	形状	有無	状態			平面	断面
SI670	L-15･16	全体	隅丸方形	N-12°―W	4.4	4.22	0	北	シルト土＋土師器甕	1.23	北東	楕円形	東西南北	埋土	壁柱穴、壁材痕、土坑(3)あり SI670 → SF664・665	234,239	183,184,187	184,185

第 27 表　L 区　柱列跡　属性表

遺構	区	間数	方向	平面規模(m)		柱痕(cm)	柱穴掘方		備考	本文(頁)	図版 No.	
				総長	柱間寸法		規模（cm）	平面形			平面	断面
SA655	L-6	5	N-11°―W	10.35	2.2+2.2+2.15+2.3+1.5	10～20	25～45	楕円･円 隅丸長方	屋敷の主屋の可能性あり	230	176,177,179	179

第 28-1 表　L 区　溝跡　属性表

遺構	区	方向	検出長（m）	規模（m）			断面形	堆積土	出土遺物	備考	本文(頁)	図版 No.	
				上幅	下幅	深さ						平面	断面
SD603	L-1	北西－南東	7.4	0.65～0.9	0.5～0.7	0.15	逆台形	自然	土師器・鉄滓		—	167	—
SD604	L-1	東西	6.3	0.7～0.8	—	—	—	—		平面確認のみ	—	167	—
SD613	L-1	北西－南東	1.6	0.25～0.33	—	0.16 以上	—	自然		平面確認のみ	—	167	—
SD606	L-2	北西－南東	3.1	0.15～0.3	—	—	—	—		平面確認のみ	—	167,170	—
SD609	L-2	東西	2.2	0.2～0.3	0.05～0.1	0.03	皿状	自然			—	173	—
SD610	L-2	北東－南西	2.15	0.85～1.05	0.5～0.65	0.06	皿状	自然			—	173	—
SD615	L-2	北西－南東	4.4	0.5～0.7	0.08～0.15	0.05～0.09	皿状	自然	土師器・須恵器		—	170	—
SD616	L-2	南北	2.25	0.4～0.5	0.1～0.15	0.02～0.13	皿状	自然			—	170	—
SD617	L-2	南北	3.9	0.18～0.25	0.05～0.1	0.05～0.11	箱形	自然			—	170	—
SD618	L-2	東西	3.7	0.2～0.4	0.1～0.2	0.08～0.11	逆台形	自然			—	170	—
SD620	L-2	東西南北	東西 5.8 南北 6.0	1.7～1.9	0.25～0.5	0.76	V 字形	自然	土師器・須恵器・青磁・木製品	「L」字　SD619→SD620	222	167,170,171	171
SD621	L-2	東西	1.6	0.25～0.3	0.08～0.1	0.03～0.08	皿状	自然			—	170	—
SD622	L-2	南北	1.8	0.4～0.5	0.2	0.03～0.05	皿状	自然	須恵器		—	170	—
SD611	L-3	北西－南東	2.9	0.2 以上	—	0.02 以上	—	自然			—	173	—
SD612	L-3・4	北西－南東	23.0	0.5～0.7	0.2～0.75	0.05～0.15	逆台形	自然			—	173	—
SD626	L-4	南北	4.7	0.6～0.9	0.2～0.4	0.03～0.08	皿状	自然		SD627→SD626	—	173	—
SD627	L-4	東西	3.5	1.7～1.9	—	—	—	—		平面確認のみ SF625→SD627→SD626	—	173	—
SD630	L-5	北西－南東	10.7	0.15～0.6	0.1	0.04	皿状	自然		SX631→SD630	—	174	—
SD632	L-5	東西南北	東西 6.4 南北 6.45	0.2～0.7	0.1～0.2	0.05	皿状	自然		「T」字	—	174	—
SD696	L-5	北西－南東	10.9	0.4～0.7	0.2	0.02～0.09	皿状	自然		SX631→SD696	—	174	—
SD697	L-5	北西－南東	4.7	1.6～2.2	0.5	0.22	皿状	自然			—	174	—
SD637	L-6	東西	1.25	1.0～1.25	0.34～0.5	0.3	逆台形	自然			—	177	—
SD638	L-6	北西－南東	8.6	0.26～0.55	0.1～0.2	0.19	逆台形	自然		SD639→SD638	—	177	—
SD639	L-6	北西－南東	6.3	0.4 以上	—	0.08 以上	皿状	自然		SD639→SD638	—	177	—
SD640	L-6	北西－南東	2.9	0.65 以上	0.5 以上	0.1	皿状	自然		SD640→SD641	—	177	—
SD641	L-6	東西 , 北西－南東	7.35	0.2～0.8	0.08～0.45	0.12	浅いV字形	自然		弧状　SD640→SD641→SF643	—	177	—
SD642	L-6	東西	1.15	0.8	0.5	0.13	皿状	自然			—	177	—
SD646	L-6	北西－南東	2.45	2.5～3.18	0.3～0.9	0.97	逆台形	自然	中世陶器・石製品	SD645→SD646	231	176,177	180
SD647	L-6	南北	1.8	1.1～113.0	0.25	0.19	皿状	自然			—	177	—
SD648	L-6	南北	1.8	0.3～1.08	0.1～0.14	0.36	逆台形	自然			—	177	—
SD649	L-6	北東－南西	2.15	0.7～1.1	0.2～0.35	0.15	皿状	自然			—	178	—
SD651	L-6	南北	1.8	1.0～1.2	0.18～0.3	0.32	逆台形	自然			—	178	—
SD652	L-6	南北	1.8	1.4～1.55	0.2～0.28	0.75	漏斗形	自然	中世陶器		231	176,178	180
SD653	L-6	南北	1.8	1.0～1.05	0.4～0.45	0.39	逆台形	自然			—	178	—
SD654	L-6	南北	2.35	1.9～1.95	0.65～1.15	0.49	逆台形	自然	中世陶器		231	176,178	180
SD656	L-7	東西	3.5	2.0～2.1	1.2～1.3	0.32～0.37	逆台形	自然			—	176	—
SD658	L-7	北東－南西	3.1	1.2～1.7	0.45～0.9	0.18～0.24	逆台形	自然			—	176	—
SD659	L-7	東西	2.8	0.5～0.75	0.28～0.45	0.03～0.05	皿状	自然			—	176	—
SD636	L-10	北西―南東　北東―南西	25.2	1.0～1.5	0.35～0.4	0.6	U 字形	自然		「L」字　SK635→SD636	217	167,168	168
SD662	L-14	北西－南東	4.4	0.8～1.2	0.6	0.25	逆台形	自然			—	176	—
SD663	L-14	南北	4.6	0.42～0.63	0.2	0.07	浅いV字形	自然			—	176	—
SD667	L-15	東西ヵ	11.3	0.4～0.5	—	—	—	—		平面確認のみ , SD669 → SD667	—	183,187	—
SD671	L-15	北西－南東	5.5	1.3～1.5	—	—	—	—		平面確認のみ	—	183	—
SD673	L-15	北西－南東	4.6	0.9～1.35	—	—	—	—		「ト」形 平面確認のみ SX674→SD673→SK672	—	183	—
SD678	L-15	東西	3.2	0.95～1.45	0.9	0.22	逆台形	自然＋人為か	土師器・須恵器	SK679→SD678	239	183,187	187
SD680	L-15	東西	3.8	0.4～0.6	—	—	—	—		平面確認のみ , SK679 → SD680	—	183,187	—
SD681	L-15	東西	2.3	0.12～0.25	—	—	—	—		平面確認のみ	—	183	—
SD682	L-15	北東－南西	1.2	0.1	—	—	—	—		弧状　平面確認のみ	—	183	—
SD683	L-15	北西－南東	2.3	0.2～0.55	—	—	—	—		弧状　平面確認のみ , SD683→SK684	—	183	—
SD685	L-15	北東－南西	3.2	1.1 以上	—	—	—	—		平面確認のみ	—	183	—
SD686	L-15	南東	4.8	0.2～0.3	—	—	—	—		平面確認のみ , SD686 → SD689	—	183	—
SD687	L-15	北東－南西	2.9	0.48～0.7	—	—	—	—		平面確認のみ , SF688 → SD687	—	183	—
SD689	L-15	北西－南東	3.4	0.3～0.4	—	—	—	—		平面確認のみ , SD686 → SD689	—	183	—
SD690	L-15	東西	3.0	2.55～2.8	—	—	—	—		平面確認のみ	—	183	—
SD691	L-15	南北	6.2	0.2～0.6	—	—	—	—		平面確認のみ	—	183	—
SD693	L-15	南北	4.3	0.2 以上	—	—	—	—		平面確認のみ	—	183	—
SD694	L-15	北東－南西	12.6	0.4～0.55	—	—	—	—		平面確認のみ	—	183	—

第 28-2 表　L 区　溝跡　属性表

遺構	区	方向	検出長 (m)	規模（m）			断面形	堆積土	出土遺物	備考	本文 (頁)	図版 No.	
				上幅	下幅	深さ						平面	断面
SD675	L-15･16	東西	3.0	0.4～0.5	—	—	—	—		平面確認のみ　SD675 → SD676、SX674	—	183	—
SD676	L-15･16	北東－南西	7.0	0.9～2.3	—	—	—	—	須恵器	平面確認のみ　SD675 → SD676	—	183	—
SD669	L-15･16	—	16.1	0.4～1.2	0.43～0.85	0.12	逆台形	自然＋人為か	須恵器	円形　SD669 → SD667	239	183,184, 187	184
SD1050	L-15･16	北西－南東	14.9	0.3～1.0	0.2～0.95	0.01～0.05	皿状	自然		SD1051 → SD1050 → SX674	—	183	—
SD1052	L-15･16	北東－南西	16.1	0.6～1.1	0.2～0.6	0.02～0.04	皿状	自然		SD1052 → SX674	—	183	—
SD1051	L-16	北東－南西	0.76	0.8	0.56	0.02～0.03	皿状	自然		SD1051 → SD1050	—	183	—
SD1057	L-17	北西－南東	2.6	0.2～0.3	0.1～0.16	0.03～0.07	皿状	自然			—	174	—
SD1058	L-17	北西－南東	4.2	0.3～0.45	0.13～0.28	0.08～0.11	皿状	自然		SK1059 → SD1058	—	174	—
SD1060	L-17	南北	8.5	0.8～1.4	0.6～1.1	0.04～0.15	皿状	自然		SD1061･1062 → SD1060	—	174	—
SD1061	L-17	北西－南東	3.1	0.2～0.3	0.1	0.1～0.12	皿状	自然		SD1061 → SD1060	—	174	—
SD1062	L-17	東西	0.73	0.2	0.07～0.13	0.1	皿状	自然		SD1062 → SD1060	—	174	—

第 29 表　L 区　井戸跡　属性表

遺構	区	構造	形状		規模（m）			堆積土	出土遺物	備考	本文 (頁)	図版 No.	
			平面	断面	長軸	短軸	深さ					平面	断面
SE650	L-6	素掘	円	V 字形	1.95	1.95	0.86	自然			231	176,178	181

第 30 表　L 区　土坑　属性表

遺構	区	形状		規模（m）			堆積土	出土遺物	備考	本文 (頁)	図版 No.	
		平面	断面	長軸	短軸	深さ					平面	断面
SK623	L-2	楕円形	逆台形	3.1	1.7 以上	0.34	自然			—	167,170	—
SK624	L-4	楕円形	—	1.45	0.9	—	—		平面確認のみ	—	173	—
SK644	L-6	隅丸長方形	逆台形	3.95 以上	3.05	1.4	人為＋自然	土師器・須恵器・木製品・鉄滓・植物遺存体	SD645 → SK644	231	176, 177	181
SK635	L-10	楕円形	—	0.95 以上	0.8	—	—		SK635 → SD636	—	167,168	—
SK666	L-15	楕円形	—	0.82	0.5	—	—		平面確認のみ　SF665 → SK666	—	183,187	—
SK668	L-15	隅丸長方形	—	0.9	0.55	—	—		平面確認のみ　SF665 → SK668	—	183,187	—
SK672	L-15	円形	—	1.25	1.2	—	—		平面確認のみ　SD673 → SK672	—	183	—
SK679	L-15	楕円形	—	0.9 以上	0.5 以上	—	—	土師器・須恵器	平面確認のみ　SK679 → SD678・680	—	183,187	—
SK684	L-15	楕円形	—	1.2	0.7 以上	—	—		平面確認のみ　SD683 → SD684	—	183	—
SK692	L-15	不整形	—	0.45	0.3	—	—		平面確認のみ	—	183	—
SK695	L-15	不整形	—	1.1 以上	0.9	—	—		平面確認のみ　SK695 → SF688	—	183	—
SK1059	L-17	楕円形	皿状	1.04	0.5	0.03	自然		SK1059 → SD1058	—	174	—

第 31 表　L 区　小溝状遺構群　属性表

遺構	区	方向・数	範囲（m）		溝間 (m)	検出長 (m)	規模（m）			断面形	出土遺物	備考	本文 (頁)	図版 No.	
			東西	南北			上幅	下幅	深さ					平面	断面
SF614	L-2	東西 8	11.0	13.6	0.7～3.6	0.9～4.6	0.25～0.6	0.1～0.25	0.04～0.09	逆台形			223	170,172	172
SF625	L-4	東西 4	4.6	6.8	1.9～2.2	0.8～4.25	0.1～0.3	—	—	—		平面確認のみ SF625 → SD627	224	173	—
SF628	L-5	東西 5	11.0	13.7	2.0～4.6	2.1～7.1	0.2～0.4	0.15～0.25	0.07～0.09	皿状			224	174,175	175
SF629	L-5	南北 3	3.0	5.0	1.0～1.5	0.9～4.4	0.2～0.5	0.08～0.1	0.16	逆台形			225	174,175	175
SF643	L-6	南北 2	1.6	1.8	0.7	1.85	0.1～0.32	0.02～0.15	0.02～0.03	浅い「V」字型		SD641 → SF643	—	177	—
SF657	L-7	南北 2	3.5	7.0	2.5	6.7～6.9	0.3～0.4	0.18～0.3	0.05	皿状			—	176	—
SF660	L-7	南北 2	2.0	8.0	1.2	5.6～7.8	0.2～0.5	0.1～0.35	0.04～0.08	皿状			—	176	—
SF688	L-15	南北 3	3.0	10.5	1.2～1.5	0.8～3.6	0.3～0.45	—	—	—		SK695 → SF688 → SD687	—	183	—
SF664	L-15･16	東西 4	17.0	2.7	0.8～1.2	0.9～16.2	0.12～0.32	0.04～0.2	0.07～0.1	皿状	土師器・須恵器	SI670 → SF664 → SF665	241	183,187	188
SF665	L-15･16	南北 4	7.4	7.0	1.2～3.7	2.2～6.9	0.15～0.4	0.15～0.25	0.08～0.12	逆台形		SI670、SF664 → SF665 → SK666･668	241	183,187	188

第 32 表　L 区　SX 自然堆積層　属性表

遺構	区	形状		規模（m）			堆積土	出土遺物	備考	本文 (頁)	図版 No.	
		平面	断面	長	短	深さ					平面	断面
SX631	L-5	不整形	—	9.6	3.4 以上	—	—	土師器・須恵器	凹みカ　SX631 → SD630・696	—	174	—
SX661	L-8	不整形	不整形	7.1	3.0 以上	0.02～0.14	自然	土師器・須恵器・陶器	凹み	—	176	—
SX674	L-15･16	不整形	不整形	21.5	3.5	0.21	自然		凹みか　SD675・1050・1052 → SX674 → SD673	—	183	—

第 33 表　L 区　河川・自然流路跡　属性表

遺構	区	方向	検出長 (m)	規模（m）			出土遺物	備考	本文 (頁)	図版 No.	
				上幅	下幅	深さ				平面	断面
SD601	L-1	東西	34.0	10.0	—	1.0 以上	土師器・須恵器・中世陶器・石製品	SD602 → SD601 → SD605	217	167	169
SD602	L-1	東西	10.4	2.8～5.0 以上	2.2	0.62	土師器・須恵器	SD602 → SD601	—	167	—
SD633	L-1	—	30.0	1.8 以上	—	0.9 以上		SD633 と SD634 は一連 灰白色火山灰あり	217	167	—
SD634	L-1	北東－南西	7.0	4.2	—	0.8 以上	土師器		217	167	169
SD619	L-2	北西－南東	4.8	1.28～1.6	0.2～1.1	0.36		SD619 → SD620	—	170	—
SD605	L-1･2	東西	22.0	4.0 以上	—	0.7	土師器・須恵器・中世陶器・瓦	SD601 → SD605	—	167,168	—
SD645	L-6	北西－南東	6.1	4.9	0.5～0.7	1.38		灰白色火山灰あり SD645 → SD646、SK644	231	177	182
SD698	L-8・9	北西－南東	24.5	0.6～1.7	0.3～1.0	0.02～0.19			—	176	—
SD677	L-15	南北	6.3	3.95～4.1	—	1.0 以上	土師器・須恵器・動物遺存体	灰白色火山灰あり	241	183	188

第Ⅳ章　自然科学分析

1. はじめに

(1) 自然科学分析の項目

今回の調査では、2 種類の自然科学分析を実施した。それぞれの分析内容、分析目的、分析機関については以下の通りである。

放射性炭素年代測定

〔**分析内容**〕I-9 区で検出された大型の掘立柱建物跡である SB311・312・320 の柱材と、H-1 区の深掘部分、H-15 区の SD4・9・12・48 ～ 50 河川跡の壁面から底面、I-9 区の SD383 溝跡の壁面で確認された基本層序Ⅴ層中に挟在する黒褐色層の放射性炭素年代測定分析

〔**分析目的**〕各遺構の年代と基本層序Ⅴ層の形成年代の推定

〔**分析委託機関**〕（株）加速器分析研究所

〔**分析結果**〕第Ⅳ章 2 に記載

樹種同定

〔**分析内容**〕I-9 区で検出された大型の掘立柱建物跡である SB311・312・320、大型の柱穴である P306 の柱材、礎板の樹種同定分析

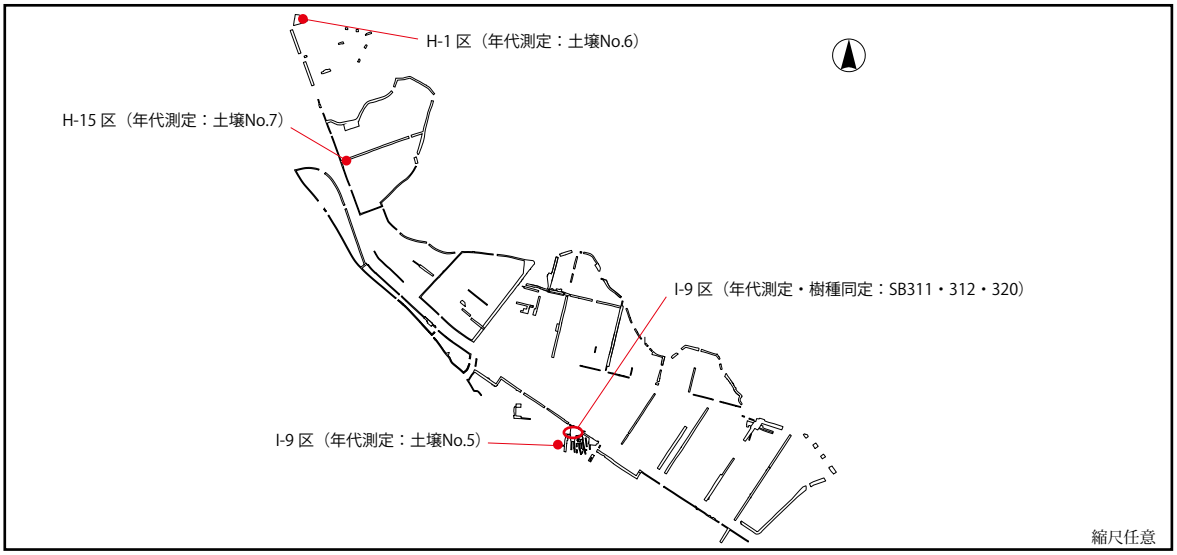
〔**分析目的**〕掘立柱建物跡の柱材、礎板の樹種を明らかにすること

〔**分析委託機関**〕古代の森研究舎

〔**分析結果**〕第Ⅳ章 3 に記載

(2) 試料の採取地点と採取方法

試料の位置は第 189 図の通りである。現場での試料の取り上げは調査担当者が行った。柱材と礎板については取り上げ後に整理場所において水漬けにして、基本層序Ⅴ層中の土壌については移植ごてで採取後、ビニール袋に入れて保管した。土壌以外の試料採取はいずれも委託した業者が行った。



第 189 図　自然科学分析　試料採取地点の位置

2. 団子山西遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定）とウィグルマッチングによる建物柱材の暦年代推定

（株）加速器分析研究所

(1) 測定対象試料

団子山西遺跡は、宮城県大崎市田尻中目などに所在し、田尻川両岸の沖積地に立地する。測定対象試料は、SB311 柱痕跡出土柱材から採取された木片（No.1（12W01）：IAAA-122487）、SB312 柱痕跡出土柱材から採取された木片（No.2（12W02）-1：IAAA-122488 ～ No.2（12W02）-3：IAAA-12490）、SB320 柱痕跡出土柱材から採取された木片（No.3（12W03）：IAAA-122491、No.4（12W05）：IAAA-122492）、V 層採取土壌（No.5（12S01）：IAAA-122493、No.6（10S02）：IAAA-122494、No.7（11S01）：IAAA-122495）の合計 9 点である（第 35 表）。

試料 No.1（12W01）は、SB311 掘立柱建物跡の南辺西から 3 列目の柱穴（S1W3）から出土した柱材から採取された。試料 No.3（12W03）は SB320 掘立柱建物跡の北から 2 列目、東から 2 列目の柱穴（N2E2）から出土した柱材、試料 No.4（12W05）は同建物跡の東辺北から 2 列目の柱穴（N2E1）から出土した柱材から採取された。この建物跡は 1 回の建て替えが確認されており、試料 No.3、4 が採取された柱材は、建て替えられた新期の建物（SB320B）に属する。試料 No.1、3、4 は、いずれも柱材の残存する最外年輪部から数年輪分が採取された。これらの建物跡の時期は、出土土器から 8 世紀後半以降と考えられている。

試料 No.2（12W02）-1 ～ 3 は、SB312 掘立柱建物跡の南西端の柱穴（S1W1）で検出された柱材（12W02）の年輪を観察し、3 点の試料を採取したものである。各々の年代測定を行い、さらにウィグルマッチング（（5）算出方法 5）参照）の手法で最外年輪の暦年代を推定することを目的としている。柱材は、柱穴の検出面から約 30 ～ 82cm の深さに立った状態で残存していた。最大径約 35cm の芯持材で、樹種はクリと同定されている。柱材の表面は加工によって失われている。この建物跡の時期は、出土土器から 8 世紀後半以降と考えられている。

試料採取に当たり、柱の現状を可能な限り損なわないように求められたため、柱材底面において年輪を数え、試料を採取することとなった。柱材の底面は側面部に比べ、組織が粗く、黒色を呈し、一部に亀裂が見られるなど、年輪を数えにくい部分もあった。採取箇所では表面部分を浅く削り、やや内側の新鮮な部分から試料を採取した。

柱材に見られる総年輪数は 69 で、この柱材から 3 点の試料を測定してウィグルマッチングを行うことを要請されたため、暦年較正曲線におけるデータの細かさやウィグルの大きさ等を考慮し、ここでは柱材に残存する最外年輪と最内年輪、およびそれらの中間に当たる部位から各 5 年輪分の木片を採取することを原則とした。この原則を踏まえて年輪の残存状況等を考慮し、外側から 1 ～ 5 年、30 ～ 35 年、60 ～ 65 年の各 5 年輪分を 1 試料として 3 試料採取した。柱材の特徴を第 34 表に、試料の採取位置を最外年輪から数えた年輪数によって第 37 表に示した。また、採取状況の模式図と写真を文末の図版に掲げた。

試料 No.5（12S01）、No.6（10S02）、No.7（11S01）は、V 層中に挟在する黒褐色粘質土層から採取

された。Ⅴ層は黄灰色土で、上位には表土（Ⅰ層）、灰白色火山灰層（Ⅲ層）、スクモ層（Ⅳ層）などが堆積する。この層の時期は、検出された遺構、遺物の時期から 2500 ～ 400 年前の間と考えられている。

第 34 表　柱材の特徴

	木取り	直径（cm）	総年輪数
SB312C柱材12W02	芯持ち丸太材	約35	69

（2）測定の意義

掘立柱建物跡の年代、土壌の形成年代を明らかにする。

（3）化学処理工程

1）木片の化学処理

①メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。

②酸 - アルカリ - 酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と第 35 表に記載する。

③試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

④真空ラインで二酸化炭素を精製する。

⑤精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

⑥グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

2）土壌の化学処理

①メス・ピンセットを使い、石や根などの混入物を取り除く。

②酸処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。処理には 1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用い、第 35 表に「HCl」と記載する。

以下、1）③以降と同じ。

（4）測定方法

加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）、^{14}C 濃度（$^{14}C/^{12}C$）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

(5) 算出方法

1) $\delta^{13}C$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（第 35 表）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

2) ^{14}C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C 年代は $\delta^{13}C$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第 36 表に、補正していない値を参考値として第 37 表に示した。^{14}C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、^{14}C 年代の誤差（± 1 σ）は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。

3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい（^{14}C が少ない）ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上（^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}C$ によって補正する必要があるため、補正した値を第 35 表に、補正していない値を参考値として第 36 表に示した。

4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差（1 σ = 68.2%）あるいは 2 標準偏差（2 σ = 95.4%）で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す（第 190 図）。暦年較正プログラムに入力される値は、$\delta^{13}C$ 補正を行い、下一桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09 データベース（Reimer et al. 2009）を用い、OxCalv4.1 較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第 36 表に示した。暦年較正年代は、^{14}C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

5) 暦年較正を高精度に行うための方法として、ウィグルマッチングが行われる。暦年較正曲線には過去の大気や海洋中における ^{14}C 濃度の変動を反映した起伏が表れる。この起伏はウィグル（wiggle）と呼ばれ、^{14}C 年代に対応する暦年代の絞り込みを困難にする原因の一つとなっている。このウィグルを利用して暦年代を求めるのがウィグルマッチングである。まず年輪を持つ測定対象から年輪によって相互の年代差を確認できるように複数の試料を採取し、各々の ^{14}C 年代を求める。次に試料間の年代差と ^{14}C 年代値の変動パターンを較正曲線に重ね合わせ、最外年輪の暦年代を算出する。こうすることで、単独の試料の ^{14}C 年代に対して算出される暦年代よりも範囲を絞り込むことが可能となる場合がある。ウィグルマッチングの計算に用いる ^{14}C 年代値は、暦年較正の場合と同様 $\delta^{13}C$ 補正を行い、下一桁を丸めない ^{14}C 年代値で、算出される最外年輪の暦年代は 1 標準偏差（1 σ = 68.2%）あるいは 2 標準偏差（2 σ = 95.4%）の範囲

で表示される。ウィグルマッチングの結果を表すグラフは、縦軸が ^{14}C 年代、横軸が最外年輪の暦年代を表す（第 191 図）。なお、ウィグルマッチングの結果は、測定対象における年輪の読み取り、1 測定試料に含まれる年輪数、試料の間隔の取り方など、試料採取の状況によって異なる可能性がある。また測定結果の重ね合わせに用いる較正曲線や較正プログラムの種類によっても結果が異なってくる可能性がある。このため、年代値の利用に当たっては試料採取の状況、使用した較正曲線とプログラムの種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、試料採取の状況について「(1) 測定対象試料」と第 37 表に記載した。ウィグルマッチングの計算には IntCal09 データベース（Reimer et al. 2009）、OxCalv4.1 較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用し、結果を第 37 表に示した。ウィグルマッチングによる最外年輪の暦年代は較正された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される（第 37 表）。

(6) 測定結果

1）SB312 掘立柱建物跡柱材 12W02 の ^{14}C 年代とウィグルマッチングによる暦年代の推定

SB312 掘立柱建物跡の柱材 12W02 からは 3 点の試料が採取され、各試料の ^{14}C 年代測定と暦年較正が行われた。さらに、柱材の残存最外年輪の暦年代を推定するためにウィグルマッチングが試みられた。^{14}C 年代測定の結果を第 35 表に、暦年較正の結果を第 36 表と第 190 図に、ウィグルマッチングの結果を第 37 表と第 191・192 図に示した。

試料の ^{14}C 年代は、No.2（12W02）-1 が 1220 ± 20yrBP、No.2（12W02）-2 が 1310 ± 20yrBP、No.3（12W02）-3 が 1240 ± 20yrBP である。この柱材には 69 年輪認められ、最外年輪側の No.2-1 と中間の No.2-2 の間に 25 年輪分、最内年輪側の No.2-3 と中間の No.2-2 の間に 25 年輪分の間隔がある。3 点のうち、No.2-1 と No.2-3 の値は誤差（± 1 σ）の範囲で一致し、No.2-2 はこれらと一致しない。

暦年較正年代（1 σ）は、No.2-1 が 773 ～ 869cal AD の範囲、No.2-2 が 664 ～ 765cal AD の間に 3 つの範囲、No.2-3 が 695 ～ 856cal AD の間に 5 つの範囲で示される。これら 3 点の年代値を利用してウィグルマッチングを行うと、柱材 12W02 の残存最外年輪の暦年代は、1 σ で 783 ～ 798cal AD の範囲、2 σ で 774 ～ 804cal AD の範囲として示される。

最外年輪の暦年代範囲の中で最も確率分布の高い 792.5cal AD に最外年輪を合わせた場合のマッチング図を第 192 図に示す。全体的に非常に良いマッチングを示している。No.2-1、2-2、2-3 の ^{14}C 年代は、No.2-1 と No.2-2 の値が近く、No.2-3 の値がこれらから離れるため、3 点の間で明瞭なウィグルが表れるという特徴を持つ。このウィグルが 730 ～ 790cal AD 頃の暦年較正曲線に見られるウィグルによく一致したことになる。この範囲の較正曲線は比較的平坦に推移するため、試料 1 点の暦年代範囲は大きな幅を持って示されているが、3 点の試料によって特徴的なウィグルを捉えることができたため、最外年輪の暦年代を絞り込むことができた。

ただし、測定された試料が 3 点と少ないことに注意する必要がある。また、ここで示された年代値は柱材の残存する最外年輪の年代であるため、柱材の素材となった樹木の伐採年代はより新しいと考えられる。

それでも出土土器から考えられる 8 世紀後半以降という時期に矛盾しない結果が得られており、さらに発掘調査の所見でおおむね同時期と考えられている他の掘立柱建物跡も、後述するように近い年代を示していることを指摘できる

2）掘立柱建物跡 SB311 柱材、SB320 柱材、Ⅴ層採取土壌の ^{14}C 年代測定

掘立柱建物跡柱材採取試料の ^{14}C 年代は、SB311 柱材の No.1（12W01）が 1230 ± 20yrBP、SB320 柱材の No.3（12W03）が 1190 ± 20yrBP、No.4（12W05）が 1250 ± 20yrBP である。暦年較正年代（1 σ）は、No.1 が 714 ～ 861cal AD、No.3 が 783 ～ 883cal AD、No.4 が 690 ～ 800cal AD の間に各々複数の範囲で示される。出土土器による 8 世紀後半以降という推定に矛盾しない。また、上述のように、SB312 柱材 12W02 のウィグルマッチングによって求められた最外年輪の年代も、これらの試料の年代値と重なる。

Ⅴ層採取土壌の ^{14}C 年代は、No.5（12S01）が 2480 ± 30yrBP、No.6（10S02）が 2910 ± 30yrBP、No.7（11S01）が 2670 ± 30yrBP である。暦年較正年代（1 σ）は、No.5 が 756 ～ 541cal BC の間に 3 つの範囲、No.6 が 1189 ～ 1044cal BC の間に 3 つの範囲、No.7 が 833 ～ 803cal BC の範囲で示される。No.1 は縄文時代晩期後葉頃、No.6 は晩期前葉頃、No.7 は晩期中葉頃に相当する（小林 2009）。検出された遺構、遺物の状況から推定される 2500 ～ 400 年前に比べて、No.5 は近く、No.6、7 は古い値となっている。

試料の炭素含有率は、木片 No.1 ～ 3 が 50％以上の適正な値、土壌 No.5 ～ 7 が 2 ～ 4％という特に低くない値を示す。化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

小林謙一 2009 近畿地方以東の地域への拡散, 西本豊弘編, 新弥生時代のはじまり　第4巻　弥生農耕のはじまりとその年代, 雄山閣, 55-82

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51(4), 1111-1150

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

第 35 表　^{14}C 年代測定による年代

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}C$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}C$補正あり	
						Libby ge (yrBP)	pMC (%)
IAAA-122487	No.1 (12W01)	SB311　柱痕跡	木片	AAA	-25.59 ± 0.28	85.79 ± 0.25	
IAAA-122488	No.2 (12W02)-1	SB312　柱痕跡	木片	AAA	-28.42 ± 0.39	85.93 ± 0.26	
IAAA-122489	No.2 (12W02)-2	SB312　柱痕跡	木片	AAA	-26.93 ± 0.39	84.97 ± 0.26	
IAAA-122490	No.2 (12W02)-3	SB312　柱痕跡	木片	AAA	-29.18 ± 0.29	85.73 ± 0.26	
IAAA-122491	No.3 (12W03)	SB320　柱痕跡	木片	AAA	-28.18 ± 0.45	86.26 ± 0.26	
IAAA-122492	No.4 (12W05)	SB320　柱痕跡	木片	AAA	-27.91 ± 0.58	85.62 ± 0.27	
IAAA-122493	No.5 (12S01)	V層	土壌	HCl	-20.62 ± 0.59	73.41 ± 0.24	
IAAA-122494	No.6 (10S02)	V層	土壌	HCl	-22.89 ± 0.34	69.61 ± 0.23	
IAAA-122495	No.7 (11S01)	V層	土壌	HCl	-21.11 ± 0.41	71.75 ± 0.23	

[#5492]

第 36-1 表　暦年較正した年代

測定番号	$\delta^{13}C$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC（%）			
IAAA-122487	1,240 ± 20	85.69 ± 0.25	1,231 ± 23	714calAD - 745calAD (22.0%) 767calAD - 823calAD (36.0%) 842calAD - 861calAD (10.2%)	690calAD - 750calAD (32.0%) 762calAD - 879calAD (63.4%)
IAAA-122488	1,270 ± 20	85.33 ± 0.25	1,217 ± 24	773calAD - 869calAD (68.2%)	690calAD - 750calAD (32.0%) 762calAD - 879calAD (63.4%)
IAAA-122489	1,340 ± 20	84.63 ± 0.25	1,308 ± 24	664calAD - 694calAD (44.0%) 702calAD - 707calAD (3.8%) 748calAD - 765calAD (20.4%)	658calAD - 723calAD (67.3%) 740calAD - 771calAD (28.1%)
IAAA-122490	1,310 ± 20	85.00 ± 0.25	1,236 ± 24	695calAD - 700calAD (2.6%) 708calAD - 748calAD (31.5%) 766calAD - 783calAD (13.6%) 789calAD - 812calAD (15.2%) 845calAD - 856calAD (5.3%)	688calAD - 753calAD (40.3%) 760calAD - 875calAD (55.1%)

第 36-2 表　暦年較正した年代

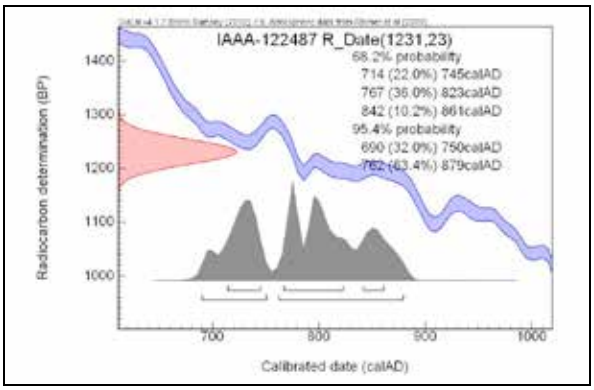
測定番号	δ ^{13}C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC（%）			
IAAA-122491	1,240 ± 20	85.70 ± 0.25	1,187 ± 24	783calAD - 790calAD (6.0%) 810calAD - 883calAD (62.2%)	773calAD - 895calAD (93.7%) 925calAD - 937calAD (1.7%)
IAAA-122492	1,300 ± 20	85.11 ± 0.25	1,247 ± 25	690calAD - 751calAD (51.6%) 762calAD - 779calAD (13.9%) 795calAD - 800calAD (2.7%)	680calAD - 869calAD (95.4%)
IAAA-122493	2,410 ± 20	74.07 ± 0.23	2,482 ± 26	756calBC - 726calBC (12.8%) 694calBC - 684calBC (3.7%) 669calBC - 541calBC (51.7%)	770calBC - 507calBC (93.1%) 460calBC - 453calBC (0.5%) 440calBC - 419calBC (1.8%)
IAAA-122494	2,870 ± 20	69.92 ± 0.23	2,909 ± 27	1189calBC - 1181calBC (3.5%) 1156calBC - 1145calBC (4.7%) 1130calBC - 1044calBC (60.0%)	1211calBC - 1010calBC (95.4%)
IAAA-122495	2,600 ± 20	72.32 ± 0.23	2,667 ± 25	833calBC - 803calBC (68.2%)	896calBC - 868calBC (9.6%) 863calBC - 797calBC (85.8%)

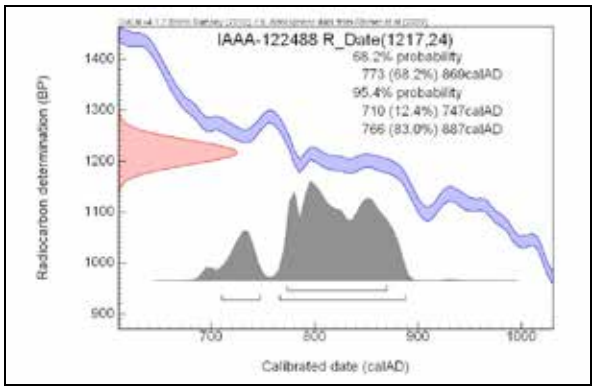
[参考値]

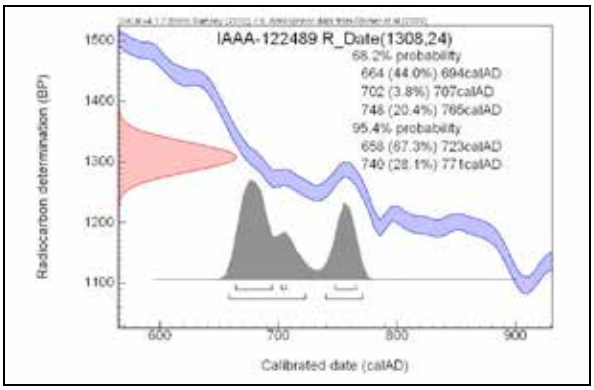
第 37 表　ウィグルマッチングの結果

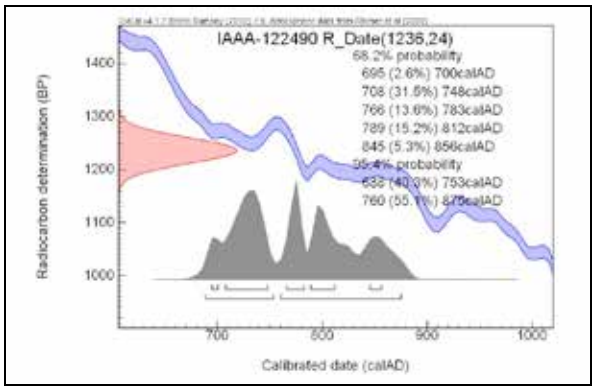
測定番号	採取位置 (最外年輪から)	暦年較正用 (yrBP)	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
IAAA-122488	1 ～ 5 年輪	1217 ± 24	773calAD - 869calAD (68.2%)	710calAD - 747calAD (12.4%) 766calAD - 887calAD (83.0%)
IAAA-122489	31 ～ 35 年輪	1308 ± 24	664calAD - 694calAD (44.0%) 702calAD - 707calAD (3.8%) 748calAD - 765calAD (20.4%)	658calAD - 723calAD (67.3%) 740calAD - 771calAD (28.1%)
IAAA-122490	61 ～ 65 年輪	1236 ± 24	695calAD - 700calAD (2.6%) 708calAD - 748calAD (31.5%) 766calAD - 783calAD (13.6%) 789calAD - 812calAD (15.2%) 845calAD - 856calAD (5.3%)	688calAD - 753calAD (40.3%) 760calAD - 875calAD (55.1%)
		最外年輪年代	783calAD - 798calAD (68.2%)	774calAD - 804calAD (95.4%)

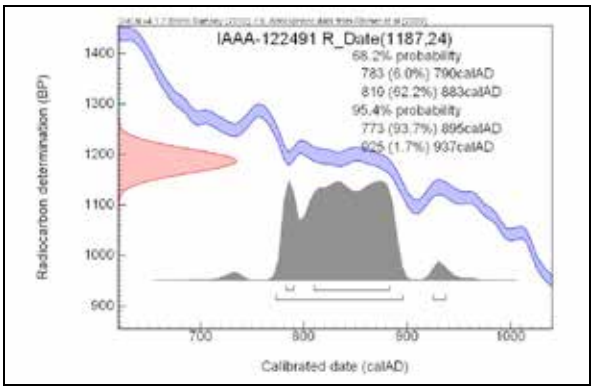
[参考値]

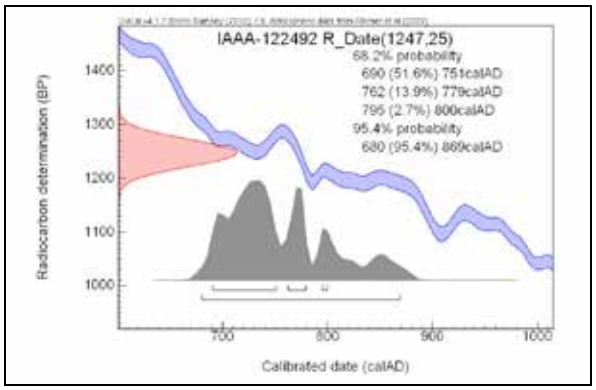


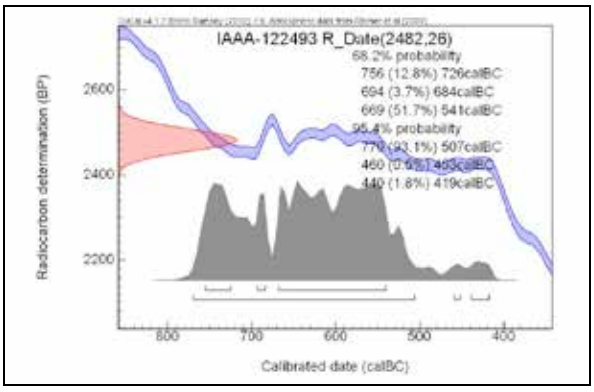


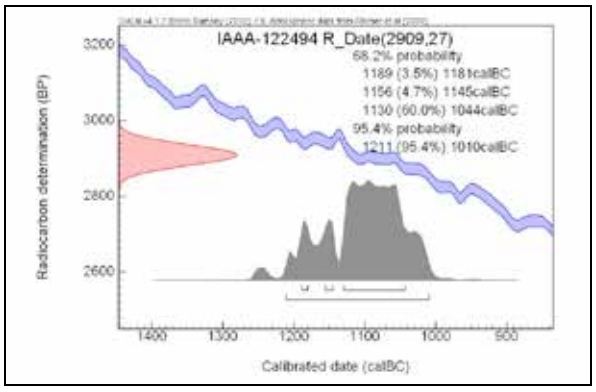


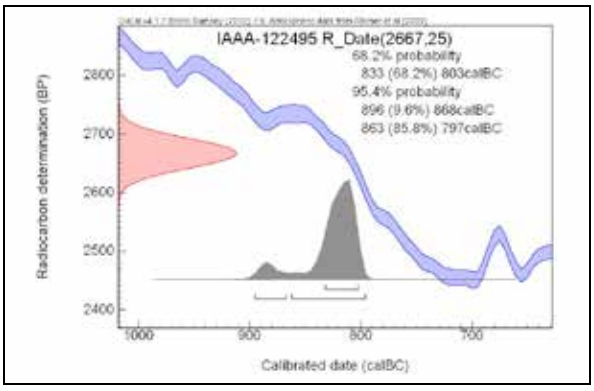




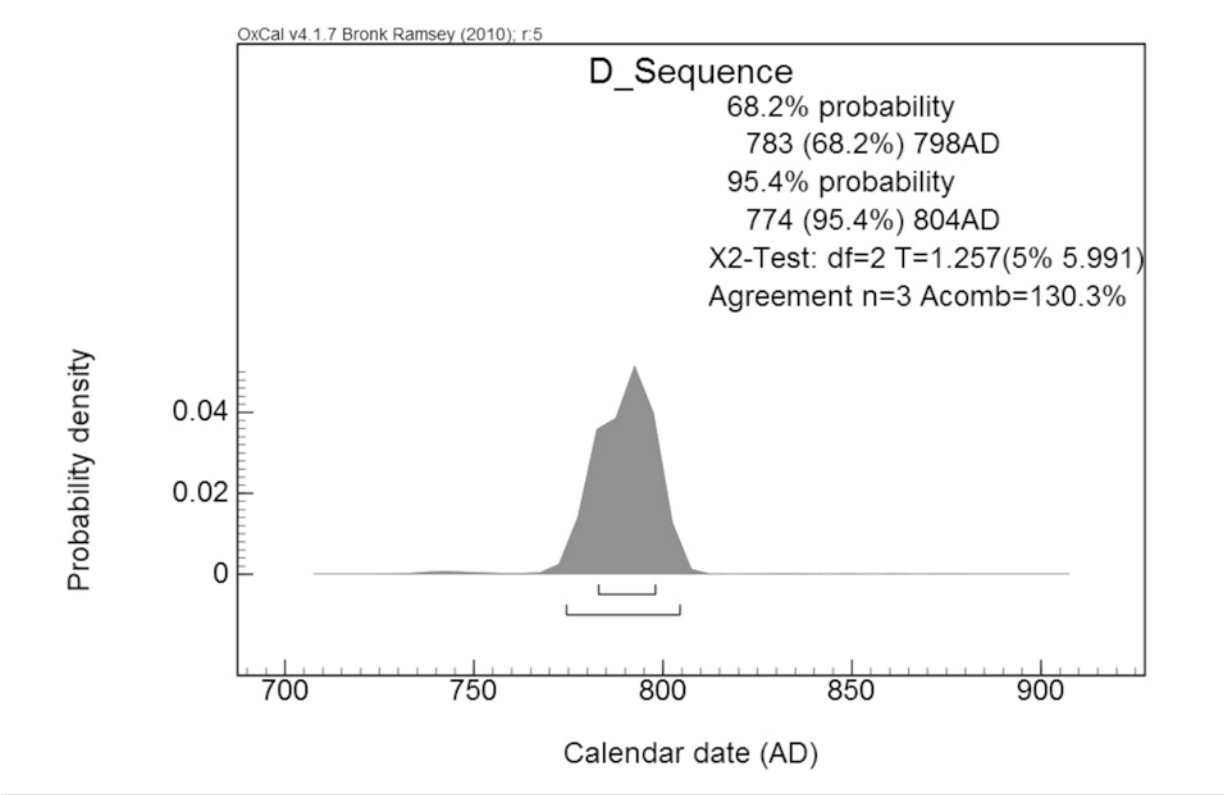




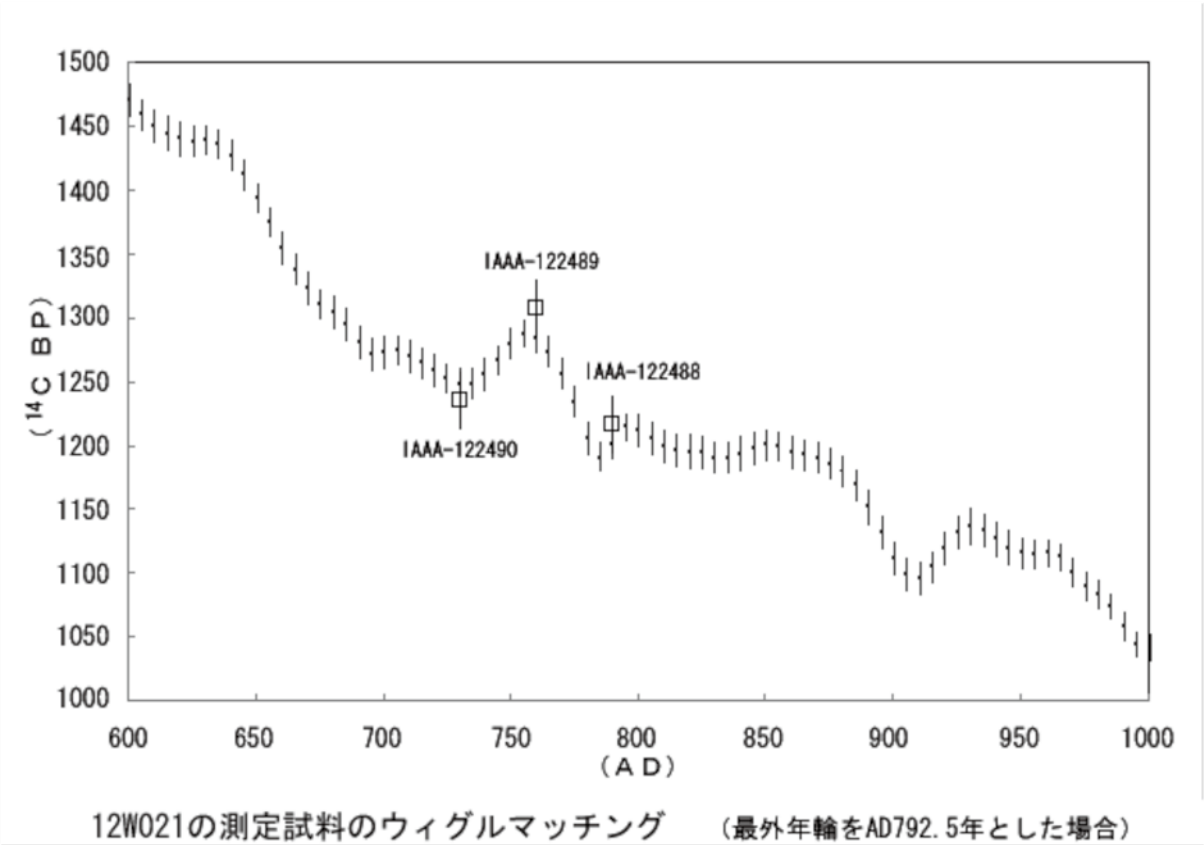




第 190 図　暦年較正年代グラフ

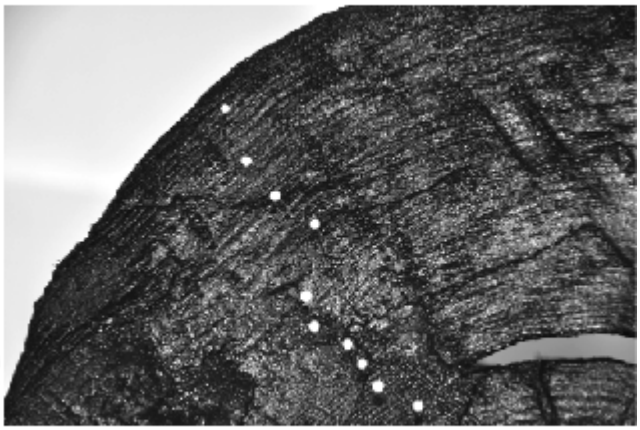


第 191 図　ウィグルマッチングによる最外年輪の暦年代グラフ



第 192 図　測定試料のウィグルマッチング

柱12W02の下面



柱12W02の下面の年輪細部　（ピンは5年間隔）

柱12W02の下面の年輪細部　（ピンは5年間隔）

図版　試料写真

3. 団子山西遺跡から出土した建築材の樹種

吉川純子 (古代の森研究舎)

(1) はじめに

団子山西遺跡は大崎市田尻大嶺・八幡地区の丘陵に所在する新田柵跡の南西低地に位置する奈良・平安時代を中心とした遺跡である。これまでの調査で奈良・平安時代の掘立柱建物跡や材木塀跡などが検出されており、新田柵跡と密接な関連があるとされる。そこで当時の植物資源の利用状況を解明する目的でこれら建築材の樹種同定をおこなった。

(2) 試料と方法

調査した木材は柱材 5 点、礎板 4 点の計 9 点で、試料から剃刀で横断面、放射断面、接線断面の 3 方向の切片を採取し封入剤でプレパラートを作成し生物顕微鏡で観察・同定した。

(3) 同定結果と考察

第 38 表に団子山西遺跡から出土した建築材の同定結果を示す。9 点すべてがクリと同定された。以下に出土した樹種の木材解剖学的記載をおこなう。

クリ (Castanea crenata Sieb. et Zucc.)：年輪最初に大きな道管が数列ややまとまって配列しその後徐々に径を減じて小さい管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔板は単一で道管内にチロースが多く放射細胞は単列で同性である。

第 38 表　団子山西遺跡出土建築材の樹種

試料番号	登録	調査区	遺構	層位	種別	樹種
1	12W01	I9区	SB311BS1W3	柱痕跡	柱材	クリ
2	12W02	I9区	SB312CS1W1	柱痕跡	柱材	クリ
3	12W03	I9区	SB320BN2E2	柱痕跡	柱材	クリ
4	12W04	I9区	SB320BS2W1	柱痕跡	柱材	クリ
5	12W05	I9区	SB320BN2E1	柱痕跡	柱材	クリ
6	12W06	I9区	SB311BS1W3	堀方埋土	礎板	クリ
7	12W07	I9区	SB311BS1W1	堀方埋土	礎板	クリ
8	12W08	I9区	SB320BN2E2	堀方埋土	礎板	クリ
9	12W09	I9区	SB311AS1W1	堀方埋土	礎板	クリ

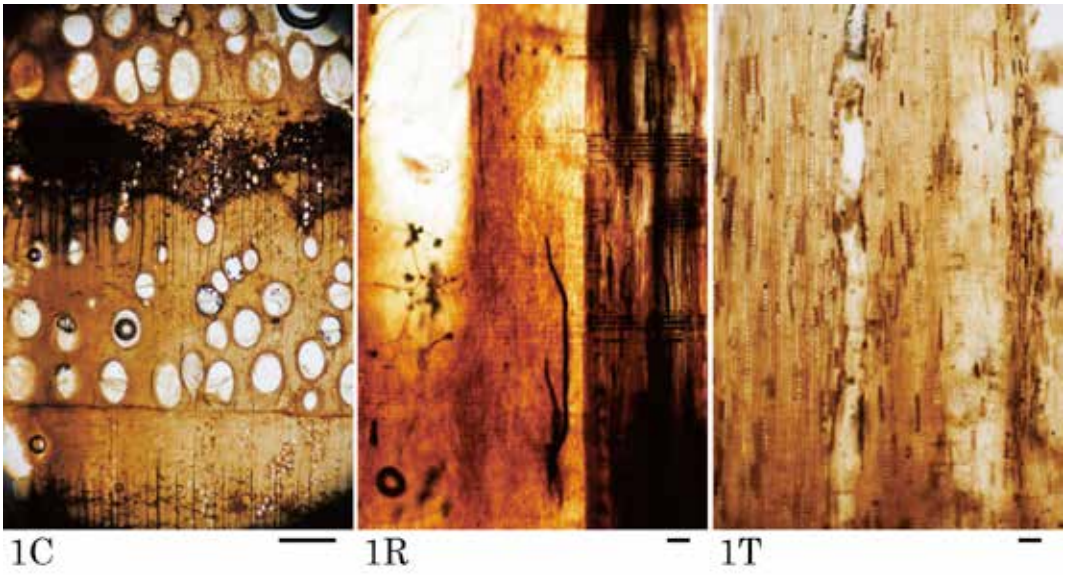
団子山西遺跡の建築材 9 点に使用されていた樹種は全てクリであった。柱材、礎板に関しては極めて高い選択性を示していると言える。古代における周辺の建築材出土例では、20km とやや離れるが加美町壇の越遺跡の分析例があり、建物や塀の柱 20 点中 19 点にクリが使用され井戸枠材は 8 点中 6 点にクリが使用されていた。また、8 世紀代の建築材でも 13 点中 11 点がクリでほかはコナラ節とケヤキが使われていた。東北地方では縄文時代以降建築材においてクリが占める割合が高く、弥生時代～平安時代においてなお約 39% を占め次点のスギ 19% を大きく引き離している（伊東ほか 2012)。今回の樹種同定結果からも宮城県北部の奈良～平安時代にかけて建築材におけるクリの利用頻度が極めて高いことがわかった。大崎市周辺の奈良～平安時代の植生を推定する花粉分析などの資料はないが、仙台市周辺ではコナラ属－ブナ属、モミ属－ブナ属－コナラ属といったタイプの森林が広がって

いたと推定されており（守田ほか 1994）、宮城県北部においても類似した落葉広葉樹林が主体であったとすると、あえて周辺に多く分布していたコナラ属材を使わず、極めて厳密な樹種選択の結果クリ材を利用していたことになる。

引用文献

伊東隆夫・山田昌久．2012．木の考古学　出土木製品用材データベース．海青社．449p

守田益宗・日比野紘一郎．1994．古気候と植生の移り変わり．仙台市史特別編 1 自然．仙台市史編さん委員会編．278-345.



図版　団子山西遺跡出土木材の顕微鏡写真

1. クリ (12W03 SB320BN2E2 柱材）　C：横断面　R：放射断面　T：接線断面、スケールは 0.1mm

第Ⅴ章　総括

平成 22 ～ 25 年度に調査を行ったＨ・Ｉ・Ｌ区の成果について、遺物、遺構、遺跡の検討を行う。なお、調査は平成 29 年度まで行われているため、土器の分類や遺構期の設定については、全体の調査成果を報告する際に行う予定である。

第 39 表　主要遺構における出土遺物の内容

区	遺構	土師器	須恵器	赤焼土器	中世陶器	陶器	磁器	瓦	硯	土製品	石器・石製品	鉄製品	鉄滓	漆製品	木製品	竹製品	動物遺存体	植物遺存体
H-1	SD1 河川跡	○	○					○			○							
H-1・11	SD2 河川跡	○	○					○										
H-10・12・14・15・23 ～ 25、I-4	SD4 河川跡	○	○		○	○	○	○			○	○	○				○	○
H-14・15・23 ～ 25	SD12 河川跡	○	○					○			○						○	○
H-19	SD43 河川跡	○	○								○							
H-19・24・25	SD110 河川跡	○	○					○		○	○				○		○	○
H-21・22	SD46 自然流路跡	○	○							○	○							○
H-24	SD73 溝跡	○																
H-25	SD76・82 道路側溝	○	○					○										
	SB163 掘立柱建物跡	○																
	SD84 溝跡	○	○		○			○			○							
	SD116 溝跡	○	○														○	
	SD139 溝跡	○	○					○			○	○						○
	SE87 井戸跡	○	○		○			○	○		○				○			○
	SE88 井戸跡	○	○		○			○			○				○	○		○
	SE97 井戸跡		○		○													
	SK83 土坑	○	○					○										
	SK89 土坑	○	○		○			○							○			○
	SK90 土坑	○	○		○			○					○	○	○			○
	SK123・154 土坑	○	○															
	SF99 ～ 102・105・156 小溝状遺構群	○	○															
	SD118・120・121・129・130・141・142 自然流路跡	○	○															
H-26	SI196 竪穴建物跡	○	○								○							
	SX194 性格不明遺構	○																
H-27	SD165 自然流路跡	○	○															
H-30	SK228 土坑	○																
I-1・2・4	SD253 河川跡	○	○								○							○
I-1	SD257 河川跡	○																
I-6	SD272・277 道路側溝	○	○															
	SK280 土坑	○		○														
I-7	SI283 竪穴建物跡	○	○									○						
	SI288 竪穴建物跡	○	○															
I-8	SB296 掘立柱建物跡	○	○															
	SI294 竪穴建物跡	○																
	SI295 竪穴建物跡	○	○															
I-9	SB311・312・316・318・320・322 掘立柱建物跡	○	○															
	SB315・323 掘立柱建物跡	○																
	SB321 掘立柱建物跡	○	○					○										
	SI392・396・397 竪穴建物跡	○																
	SI402 竪穴建物跡	○	○															
	SK421 ～ 423・426・433 土坑	○	○															
I-9・14	SD380 溝跡	○	○															
I-10	SI339 竪穴建物跡	○	○									○						
	SI341 竪穴建物跡	○	○					○			○	○						
	SI349 竪穴建物跡	○	○															
	SD350 溝跡	○	○															
I-11	SD372 溝跡	○	○															
I-13	SI367 竪穴建物跡	○	○															
	SD366 溝跡	○	○					○										
	SD365 自然流路跡	○	○					○		○	○							
I-14・15	SX407・408 湿地	○	○			○					○	○						
I-14	SX410 土器埋設遺構	○	○															
I-15	SF495 小溝状遺構群	○																
	SD491 自然流路跡	○	○															
I-16	SB470 掘立柱建物跡	○	○															
I-16・18・19	SD460・461 道路側溝	○	○															
L -1	SD634 河川跡	○																
L -2	SD620 溝跡	○	○				○								○			
L -6	SD646 溝跡				○						○							
	SD652・654 溝跡				○													
	SK644 土坑	○	○										○		○カ			○
L -15・16	SI670 竪穴建物跡	○	○															
	SD669・678 溝跡	○	○															

1．遺物

縄文土器、土師器、須恵器、赤焼土器、中世陶器、陶磁器、瓦、硯、土製品、石器、石製品、金属製品、銭貨、鉄滓、漆製品、木製品、竹製品、動植物遺存体が出土した。このうち、主要な遺構から出土した遺物の内容を第 39 表に示した。

以下、種別ごとに出土状況、特徴と時期について記述し、組み合わせや特徴的な遺物から、各時代の遺物の性格を検討する。なお、土製品、一部の石・金属製品、漆・木・竹製品、動植物遺存体については特徴のみ記述し、共伴遺物により推定された時期を第 47・50 ～ 54 表に記載した。

(1) 特徴と時期

1) 縄文土器

縄文土器は破片数で 66 点出土した（第 40 表）。出土したのは H 区のみで、H-7・24 区の基本層序Ⅵ層出土土器以外は二次堆積である。器種は深鉢・浅鉢・壺である。時期が分かるもののみ詳述する。

H-7 区では、網目状撚糸文が施された深鉢（図版 43-4）と文様は不明だが胎土に植物繊維を含む土器が出土した。これらの類例は北西側に隣接する北小松遺跡で認められ（宮城県教育委員会 2010a・2011）、前者は前期前葉の大木 2a 式（興野 1968）、後者は早期後葉から前期前葉と考えられる。

H-24 区では、浅鉢で匹字文が施されたもの（第 36 図 1）や、口縁形が波状で 2 個 1 対の突起がつくもの（2）、匹字文の可能性がある平行沈線が施されたもの（3）、工字文が施されたもの、LR 縄文が施された深鉢（5）、壺（4）が出土している。これらの類例は北小松遺跡で認められ（宮城県教育委員会 2011・2014a）、晩期後葉の「大洞 A 式」（山内 1930）、「晩期 5 期」（須藤 1998）と考えられる。この他に、胎土に植物繊維を含む深鉢（6）が出土しており、早期後葉から前期前葉と考えられる。

H-25 区 SD138 溝跡からも匹字文が施された浅鉢が出土し（第 64 図 1）、晩期後葉と考えられる。

第 40 表　縄文土器の集計

区	遺構	深鉢				浅鉢				壺	計
		網目状撚糸文	不明（植物繊維含む）	不明	LR 縄文	匹字文	工字文	LR 縄文	不明	LR 縄文	
H-7	Ⅵ層	1	1	2							4
H-14	SD4B 河川跡			1							1
H-24	Ⅵ層		2(2)	15	19(1)	8(2)	1(1)		7(1)	2(1)	54
	その他		1	1				2			4
H-25	SD138 溝跡					1					1
	その他				2						2
計		1	4	19	21	9	1	2	7	2	66

※数字は破片数で、同一個体の資料は1点としている。(　)内の数字は資料化した点数。

2) 土師器・須恵器・赤焼土器

器形や製作技術から古墳時代と古代のものが認められるため、時代ごとに検討を行う。

①古墳時代

土師器と須恵器である。各遺構から出土したが、多くは小破片であり二次堆積と考えられる（第 41 表）。調査した範囲においては、遺跡の中央より北西側の H-24 区南側、H-26 区、I-12 区で出土量がやや多い。須恵器は、遺跡北西部の H-14 区西端から 1 点出土した。

遺構に伴うのは H-24 区 SD73 溝跡、H-26 区 SX194 性格不明遺構、H-30 区 SK228 土坑、I-1 区 SD257 河川跡出土土器である。遺物の出土量は少ないが、遺構ごとに特徴を記述し、時期を検討する。これ以外はその他としてまとめて扱う。検討する土器については、第 193 図にまとめた。

第 41 表　古墳時代の土器の出土位置

区	遺構	遺物	
		土師器	須恵器
H-14	SD4A 河川跡	○	○
	SD12 河川跡	○	
H-15	SD35 自然流路跡	○	
H-19	SD43 河川跡	○	
H-22	SD46 自然流路跡	○	
H-23	SD4 河川跡	○	
	SD4・12 河川跡	○	
	SD12 河川跡	○	
	その他	○	
H-24	SD73 溝跡	◎	
	SD4C 河川跡	○	
	SD12 河川跡	◎	
H-25	SD138 溝跡	○	
	SD4・12 河川跡	○	
	SD110A 河川跡	○	
	その他	○	
H-26	SI196 竪穴建物跡	○	
	SD192 溝跡	○	
	SD212 溝跡	○	
	SF189 小溝状遺構群	○	
	SX183 竪穴状遺構	○	
	SX194 性格不明遺構	○	
	SX198 性格不明遺構	○	
	SX199 性格不明遺構	○	
	SD203 自然流路跡	○	
	SD204 自然流路跡	○	
	SD206 自然流路跡	○	
	その他	○	

区	遺構	遺物
		土師器
H-29	その他	○
H-30	SK228 土坑	○
その他	31T	○
I-1	SD253 河川跡	○
	SD257 河川跡	○
	その他	○
I-4	SD4A 河川跡	○
	SD4C 河川跡	○
	SD252 河川跡	○
	SD253 河川跡	○
	その他	○
I-6	その他	○
I-7	SI283 竪穴建物跡	○
	SI283・288	○
	SK285 土坑	○
I-8	SI295 竪穴建物跡	○
I-9	SB311 掘立柱建物跡	○
	SB320 掘立柱建物跡	○
I-10	SI341 竪穴建物跡	○
	SI349 竪穴建物跡	○
	SD351 溝跡	○
	その他	○
I-11	その他	○
I-12	SD333 河川跡	◎
	SD333・334 河川跡	○
I-13・17	SD366 溝跡	○
	SD337 自然流路跡	○

※◎は多く出土したもの

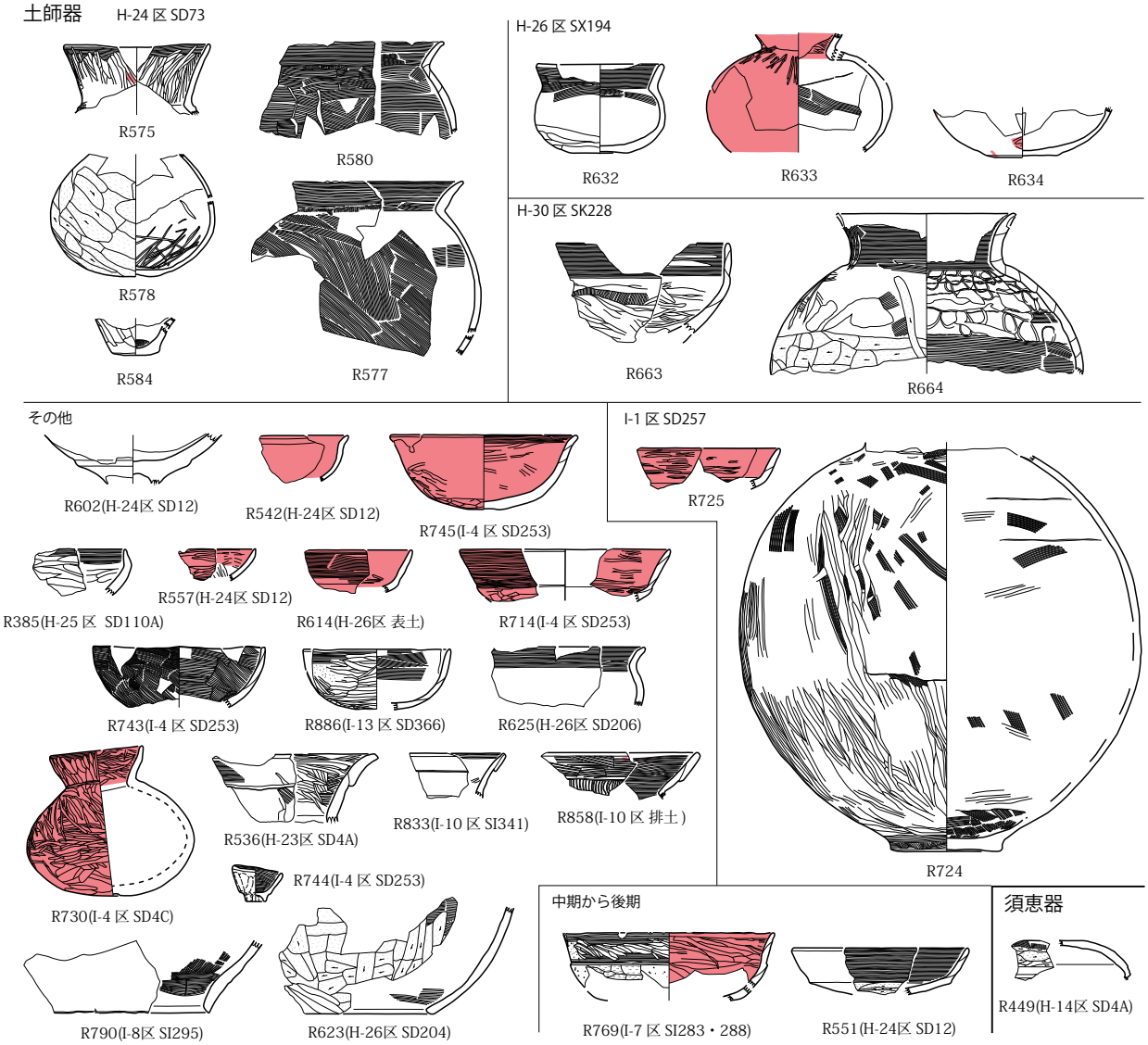
【SD73溝跡】堆積土から出土した土器は　土師器中型壺・甕・手捏土器である（第 193 図）。いずれも器壁は薄手である。中型壺は口頸部（R575）と体部から底部（R578）で、口頸部が直線的に外傾し、頸部と体部の境には凸線が巡る。口縁部内外面はナデの後ヘラミガキが施され、外面のみ赤彩される。体部は最大幅が体部高の中央より下位に位置するやや扁平な形状で、底部は丸底である。外面にヘラケズリ、内面にヘラミガキが施される。この他に、赤彩された中型壺の体部が出土している（図版 45-5）。甕は口縁部から胴部（R577・580）、底部である。口頸部は「く」字状に短く外傾し、R577 の口頸部は肥厚する。胴部は R577 が球胴形で、どちらも口縁部外面にナデ、頸部から胴部外面にハケメ、口頸部内面にハケメ、胴部内面にヘラナデが施される。

類似する土器群は、多賀城市山王遺跡 SX230 遺物包含層（宮城県教育委員会 1994a）、仙台市南小泉遺跡第 16 次調査 SI01 竪穴住居跡（仙台市教育委員会 1990b）、30 次調査 SI32 竪穴住居跡（仙台市教育委員会 1998b）で確認される。これらは、東北地方南部の古墳時代中期「南小泉式」（氏家 1957）ないし「引田式」（氏家 1957）に位置付けられている。SD73 出土土器と比較すると、壺については、調整は異なるが器形が類似し、甕については特に山王遺跡 SX230 出土土器との類似が確認できる。器種に欠落が多く、限られた土器のみの比較ではあるが、SD73 出土土器はこれらの土器群と同様に概ね中期の古段階と考えられる。

【SX194性格不明遺構】堆積土から出土した土器は土師器坏・中型壺である（第 193 図）。坏（R632）は平底で、体部は内湾して扁平な形状となり、口縁部は外傾する。口縁部内外面にナデ、体上部内外面にヘラナデ、体下部外面にヘラミガキ、ヘラケズリ、底部にヘラケズリが施される。中型壺は頸部から体部（R633）と底部（R634）である。R633 は体部が強く膨らむ器形で、頸部外面にナデ、頸部から体部外面にヘラミガキ、口頸部内面にヘラミガキ、体部内面にナデが施され、外面全体と口頸部内面が赤彩される。R634 は平底で外面が赤彩されている。

類似する土器群は、大崎市名生館官衙遺跡 SI85・433 住居跡（宮城県多賀城跡調査研究所 1982b・1986）、仙台市藤田新田遺跡 SI201 住居跡（宮城県教育委員会 1994c）、村田町新峯崎遺跡土壙（村田町教育委員会 1991）で確認される。これらは古墳時代中期の新段階に位置付けられており、SX194 出土土器も同様の時期と考えられる。

【SK228土坑】堆積土から出土した土器は土師器坏・甕である（第 193 図）。坏（R663）は、体部がやや丸みを持って外傾し、口縁部が直立する器形である。口縁部外面にナデ、体部外面にハケメの後



第 193 図　H・I 区出土　古墳時代の土器　　※全て S=1/6

ヘラミガキ、口縁部内面にナデの後一部ヘラミガキ、体部内面にヘラミガキが施される。甕（R664）は口径 15.4cm で、口縁部が直立し端部が外反する。口縁部外面にナデの後一部ヘラミガキ、胴上部外面にナデとヘラミガキ、胴下部外面にヘラケズリ、胴下部内面にナデ、胴上部内面にオサエの後ヘラミガキ、口縁部内面にナデが施される。

類似する土器群は、加美町壇の越遺跡 SI824 住居跡（宮崎町教育委員会 2003）、名生館官衙遺跡 SI433・1155 住居跡（宮城県多賀城跡調査研究所 1982b、古川市教育委員会 1990）で確認される。これらは古墳時代中期の新段階に位置付けられており、SK228 出土土器も同様の時期と考えられる。

【SD257河川跡】堆積土から出土した土器は土師器坏・甕である（第 193 図）。坏（R725）は口縁部と体部の境に稜があり、口縁部が外傾する器形で、内外面にヘラミガキと赤彩が施される。甕（R724）は胴部高 34.8cm と大形である。胴部中央の最大径部分よりやや下位の位置で、外面調整のハケメが成形時の粘土紐の継ぎ目に覆われ、その上にヘラミガキが施されている。したがって、底部から胴部下半

まで粘土紐積み上げによる成形とハケメ調整が行われ、乾燥による中断の後、胴部上半と口頸部が成形され、胴部にヘラミガキが施されたと考えられる。坏（R725）は、多賀城市市川橋遺跡 SX5025 河川跡（宮城県教育委員会 2001a）で類例が認められ、古墳時代中期の新段階と考えられる。

【その他】須恵器（R449）は坏蓋である（第 193 図）。天井部から口縁部の破片で、両者の境に稜があり、やや扁平な天井部にヘラケズリが施されている。胎土の特徴から陶邑産と推定され、器形や調整から TK208 型式（田辺 1981）と考えられる。したがって古墳時代中期で年代は 5 世紀中頃と考えられる（大阪府立近つ飛鳥博物館 2006）。

土師器高坏（R602）は坏部の破片で 1 点出土した（第 193 図）。体部と底部の境に段がつき、体部から口縁部にかけて内湾気味に立ち上がる器形で、古墳時代中期と推定される。

坏には口縁端部が外反するもの（R542・745）、内傾・直立するもの（R385・557）、口縁部と体部の境に段があり、口縁部が外傾するもの（R614・714）、半円形の体部からそのまま口縁に至るもの（R743・886）、口縁部が外反し、最大径が口縁部と体部にあるもの（R625）がある（第 193 図）。R745 は壇の越遺跡 SI824 住居跡（宮崎町教育委員会 2003）、R614・714 は市川橋遺跡 SX5025 河川跡（宮城県教育委員会 2001a）、R743・886 は南小泉遺跡 26 次調査 SI5 竪穴住居跡（仙台市教育委員会 1998a）、名生館官衙遺跡 SI433 住居跡（宮城県多賀城跡調査研究所 1986）、R625 は SX194 の R632 に類例が認められる。中型壺（R730）は丸底で、やや扁平の体部に頸部が大きく括れ、短い口縁部が外傾し端部が直立する器形である。最大径は体部にあり、口縁部高より体部高のほうが大きい。外面全体と内面の口頸部にヘラミガキが施された後に赤彩される。類例は名生館官衙遺跡 SI85 住居跡（宮城県多賀城跡調査研究所 1982b）、仙台市鴻ノ巣遺跡 SI10 竪穴住居跡（仙台市教育委員会 2004b）で認められる。したがって、これらの坏、壺は古墳時代中期の新段階と考えられる。

上記以外の壺には複合口縁の口縁部（R536・833・858・874（図版 65-6））がある（第 193 図）。複合口縁の壺は、古墳時代前期を中心に中期の古い段階まで確認されており、団子山西遺跡 H・I・L 区では明確に前期と判断される遺物が出土していないことから、中期の可能性がある。また、甑（R623・790）、手捏土器（R744）についても中期の可能性がある（第 193 図）。

この他に、口縁部と体部との境に明瞭な段を持ち、底部が丸底の坏（R769・551）が出土している（第 193 図）。R769 は口縁部が直立気味に立ち上がる器形で、口縁部外面にナデの後ヘラミガキ、体部外面にヘラケズリ、内面にヘラミガキが施された後赤彩される。類例は名生館官衙遺跡 SK430 土坑（宮城県多賀城跡調査研究所 1986）、SI1217 住居跡（古川市教育委員会 1991）、美里町駒米遺跡 SI11 住居跡（小牛田町教育委員会 1998）で確認され、中期から後期「住社式」（氏家 1957）の時期で 5 世紀末から 6 世紀前葉頃（佐藤 2007b）と考えられる。R551 は口縁部が外傾し、口縁部外面にナデ、体部外面にヘラケズリ、内面にナデが施され、黒色処理が認められない。類例は加美町米泉館跡 SD6 溝跡（宮崎町教育委員会 1996a）、山元町合戦原遺跡第 1 号住居跡（宮城県教育委員会 1991a）、角田市住社遺跡第 1 号住居跡（角田市教育委員会 1997）で確認され、合戦原遺跡住居跡出土土器が中期から後期で 5 世紀末から 6 世紀前葉頃、米泉館跡 SD6 と住社遺跡住居跡出土土器が後期の「住社式」で 6 世紀中葉から後葉頃（佐藤 2007b）と考えられている。R551 は 1 点のみの出土であり詳細な時

期の検討は困難であることから、概ね 6 世紀代と捉えておく。

②古代

土師器、須恵器、赤焼土器である。多数の遺構から出土したが（第 39 表）、多くは小破片であり二次堆積と考えられる。この中で、遺構に伴うと考えられる土器の出土状況を第 42 表に示した。まとまって出土した遺構が H-25 区 SD116 溝跡、SD110A 河川跡、I-6 区 SK280 土坑に限られることから、これらの遺構ごとに出土土器の特徴をまとめ時期を検討する。それ以外は、各遺構の年代を検討する際に個別に取りあげる。

【SD116溝跡】底・底直上と堆積土から出土した（第 194 図）。底・底直上出土土器は、非ロクロ調整の土師器坏・埦・甕、須恵器蓋である。土師器坏（R29）は、丸底気味で内外面に段や稜がなく、体部から口縁部にかけて外傾する器形である。内外面にヘラミガキが施され、内面のみ黒色処理されている。埦（R30）は、平底で体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾する器形である。口縁部外面にナデ、体部外面にヘラケズリの後、部分的にヘラミガキが施される。内面はヘラミガキの後に黒色処理されている。甕は口縁部から底部（R41）、口縁部から胴部（R45・47）、胴部から底部（R44・56）である。R41 は丸底気味の底部で、口縁部が短く外傾する。口縁部には 2 ヶ所に指で押圧した痕跡が認められる。胴部外面にハケメとヘラケズリが施される。R45 は胴部に、R47 は口縁部に最大径があり、頸部には段が僅かに認められる。外面胴部にヘラケズリが施される。R56 は長胴形、R44 は球胴形と推定され、どちらも外面にヘラケズリが施される。また、R44 の外面には漆とみられる接着痕が認められる。須恵器蓋（R5）は器高が低く、体部が直線的に外傾し口縁端部が短く折り返される器形で、つまみは扁平な宝珠形である。

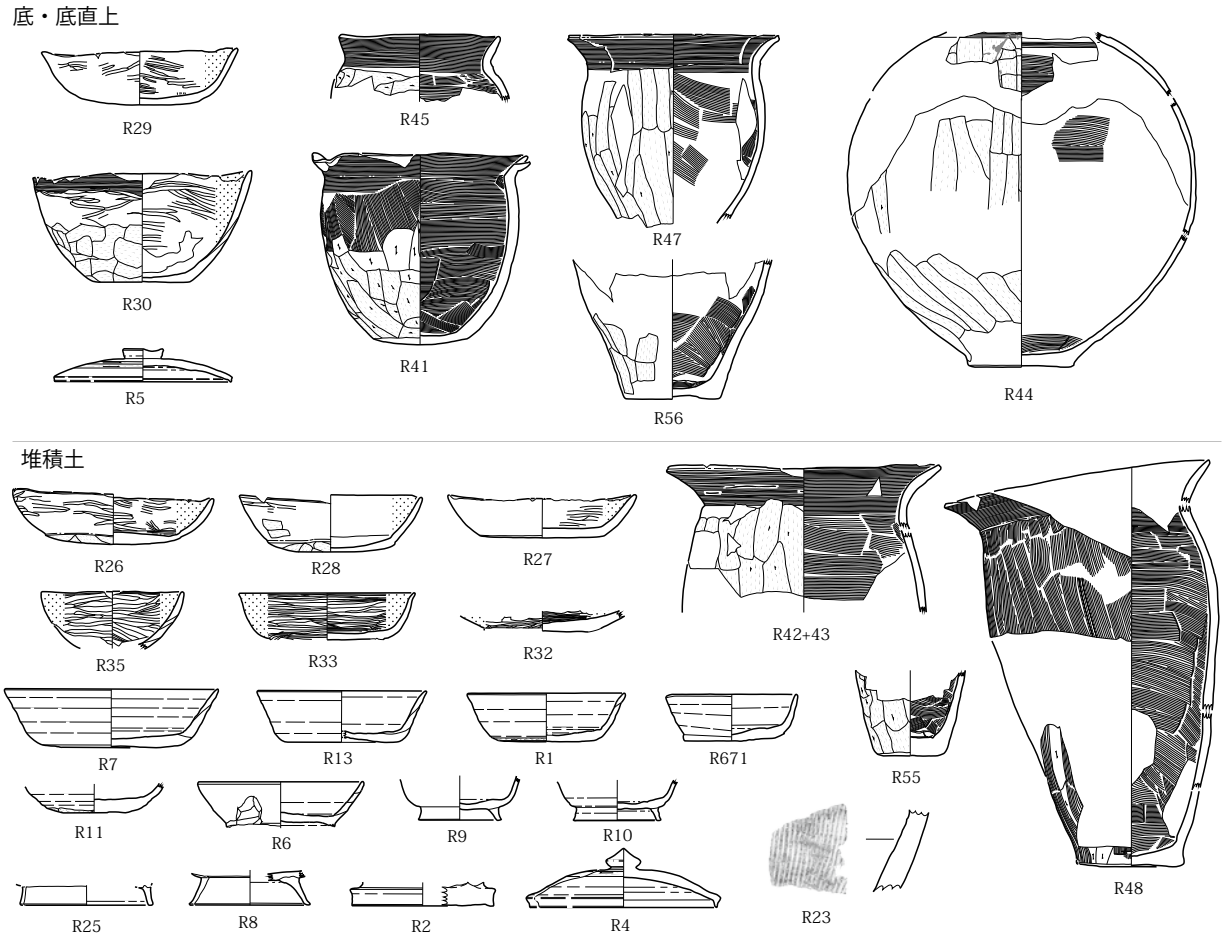
堆積土出土土器は、非ロクロ調整の土師器坏・甕、ロクロ調整の土師器高台坏、須恵器坏・高台坏・蓋・擂鉢・甕である。土師器坏には、外面体下部に段が付き対応する内面にも段や稜が付くもの（R26・28）と、内外面に段や稜がないもの（R27・35）がある。前者は丸底気味で、体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる器形である。口縁から体上部外面は、R26 がヘラミガキ、R28 がヘラケズリとヘラミガキ、体下部から底部はヘラケズリ、内面はヘラミガキの後に黒色処理される。後者は体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる器形で、R27 は平底である。R35 は内外面ともヘラミガキの後に黒色処理されている。なお、R27 の内面には漆被膜が付着している。高台坏（R32・33）は坏部のみの残存で、胎土が精良である。R33 は、体部下端が屈曲し内湾しながら立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。ロクロ調整により整形され、内外面ともヘラミガキの後に黒色処理されている。甕は口縁部から底部（R48）、口縁部から胴部（R42＋43）、胴部から底部（R55）である。R48 と R42＋43 は、大形で口縁部に最大径がある長胴形と推定される。胴部外面には、ハケメとヘラケズリが施される。R55 は全体的に被熱している。

須恵器坏は口径に対して底径が大きく器高が小さい皿形で、体部下端が屈曲して体部から口縁部が直線的に立ち上がる器形である。底部の切り離しが不明で体下部から底部全体にかけて回転ヘラケズリ調整が行われるもの（R1）、静止糸切りのもの（R7）、回転ヘラ切りの後にナデ（R13・671）や底部外周に手持ちヘラケズリ（R11）が施されるものがある。また、R7 の内面立ち上がり部分には沈線が巡る。高台坏については、全体の器形は不明だが、坏部が体部から口縁部にかけて直線的に外傾するもの（R6）、体部下端が屈曲して立ち上がるもの（R9・10）や、高台が低いもの（R9・10・25）、高いもの（R8）がある。

第 42 表　古代の土器の集計

※数字は抽出数、( )内の数字は資料化した点数

出土位置＼土器			土師器					須恵器													赤焼土器	計
区	遺構	層	坏	高台坏	埦	鉢	甕	坏	高坏	高台坏	双耳坏	盤	稜埦	高台埦	蓋	鉢	擂鉢	長頸壺	壺	甕	坏	
H-1	SD1 河川跡	堆積土	2(1)				2	3		2												9(1)
	SD2 河川跡	堆積土	1					1(1)							1							3(1)
H-14	SD12 河川跡	堆積土	3(2)				2	2														7(2)
H-15	SD12 河川跡	堆積土	9(3)	1				14(5)												2(1)		26(9)
H-19	SD43 河川跡	堆積土	3					1(1)														4(1)
	SD110A 河川跡	堆積土						3(2)														3(2)
H-21	SD46 自然流路跡	堆積土	1					1							1(1)							3(1)
H-24	SD110A 河川跡	堆積土					1	2												1		4
H-25	SX200 道路跡	堆積土						2	1(1)	1(1)										4(1)		8(3)
	SD116 溝跡	底・底直上	1(1)		1(1)		12(5)								1(1)							15(8)
		堆積土	11(4)	2(2)			11(3)	9(5)		6(5)					1(1)		1(1)			1(1)		42(22)
	SK83 土坑	堆積土	3					2(1)												1(1)		6(2)
	SK123 土坑	堆積土					1	1(1)														2(1)
	SK154 土坑	堆積土	2(1)				1	2(1)		1(1)					3(2)					1		10(5)
	SF99 小溝状遺構群	堆積土																		1		1
	SF100 小溝状遺構群	堆積土						1														1
	SD110A 河川跡	14 層	10(3)				3(2)	35(17)		4(1)			2(2)	1(1)	10(6)			1(1)	2	5(1)		73(34)
		堆積土	5(2)	1(1)			4(1)	18(6)		4(1)			1		2(2)	1(1)				6(2)		42(16)
	SD118 自然流路跡	堆積土	1				1	1												1		4
	SD130 自然流路跡	堆積土	1(1)																	1		2(1)
	SD140 自然流路跡	堆積土	2					3												2		7
	SD141 自然流路跡	堆積土	1				1(1)	2(1)											1			5(2)
	SD142 自然流路跡	堆積土	1			1											1(1)					3(1)
H-26	SI196 竪穴建物跡	堆積土	1(1)					1(1)												1(1)		3(3)
I-1	SD253 河川跡	堆積土	3(3)	2(1)			3															8(4)
I-6	SK280 土坑	堆積土	4(4)	1(1)																	15(15)	20(20)
I-7	SI283 竪穴建物跡	掘方埋土	2(2)				1(1)															3(3)
		K1	1(1)			1(1)	1															3(2)
	SI288 竪穴建物跡	掘方埋土						1(1)														1(1)
		K1					1															1
	SD281+SD282 溝跡	堆積土											1(1)									1(1)
	P46	柱痕跡						1(1)														1(1)
I-8	SI296 掘立柱建物跡	堀方埋土	1																			1
	SI295 竪穴建物跡	掘方埋土	1(1)				1															2(1)
		P7													1(1)							1(1)
		カマド堆+K3					1(1)															1(1)
		カマド堆+K3+P6					1(1)															1(1)
		カマド堆					1															1
		P7+K3					1(1)															1(1)
		K3						1							1							2
		煙り出しピット					1															1
I-9	SB311 掘立柱建物跡	掘方埋土	1(1)																			1(1)
		一段下げ	1					1(1)														2(1)
	SB312 掘立柱建物跡	掘方埋土				1(1)																1(1)
	SB315 掘立柱建物跡	一段下げ	1																			1
	SB316 掘立柱建物跡	掘方埋土	1																			1
		柱痕跡						1(1)														1(1)
	SB321 掘立柱建物跡	掘方埋土						1(1)		1(1)												2(2)
	SI402 竪穴建物跡	床					2(2)								1(1)							3(3)
	SD380 溝跡	堆積土	1(1)																	1(1)		2(2)
	SK421 土坑	堆積土						2(1)		1												3(1)
	SK422 土坑	堆積土	1					1(1)		1												3(1)
	SK426 土坑	堆積土						1(1)														1(1)
	SK433 土坑	堆積土						1(1)														1(1)
	SK440 土坑	堆積土						1														1
I-10	SI339 竪穴建物跡	P1 掘方埋土						1(1)														1(1)
	SI341 竪穴建物跡	掘方埋土+K1					1(1)															1(1)
		床直上					1															1
		K1					1(1)															1(1)
		P3						1(1)														1(1)
		P2 柱痕跡						1														1
		堆積土	2(2)																			2(2)
	SI349 竪穴建物跡	周溝						1														1
	SD350 溝跡	堆積土						1(1)												1(1)		2(2)
I-11	SD372 溝跡	堆積土					1(1)	1(1)														2(2)
I-13	SD366 溝跡	堆積土	2(2)		1(1)			4(3)					1(1)									8(7)
	SD365 自然流路跡	堆積土						2(2)		1(1)												3(3)
I-14	SD380 溝跡	堆積土	2(2)								1(1)	2(2)								2(1)		7(6)
	SX410 土器埋設遺構	埋土																1(1)				1(1)
	SX407・408 湿地跡	堆積土					2	1				1(1)										4(1)
I-16	SX200 道路跡	堆積土			1(1)		1(1)															2(2)
	SK473 土坑	堆積土	1(1)																			1(1)
L-15	SI670 竪穴建物跡	床	1(1)		1(1)		1(1)															3(3)
		カマド袖					2(2)															2(2)
		K4					1(1)															1(1)
		堆積土						2(2)														2(2)
	SD669 溝跡	堆積土						2(1)														2(1)
	SD678 溝跡	堆積土	1(1)																			1(1)
	SD677 河川跡	堆積土						1														1
計			85(41)	7(5)	4(4)	3(2)	64(26)	134(63)	1(1)	22(11)	1(1)	3(3)	5(4)	1(1)	22(15)	1(1)	2(2)	2(2)	3	31(11)	15(15)	405(209)



第 194 図　SD116 溝跡　出土土器　　※全て S=1/6

R25 には、坏部底面に 1 条の沈線、高台部に 1 条の凸線があり、両者の接合により高台部が取り付けられる。なお、R6 の外面には須恵器片が溶着している。蓋（R4）は器高が高く、口縁端部が内側に短く折り返される器形で、つまみは宝珠形である。擂鉢（R2）は底部破片、甕（R23）は胴部破片で外面に平行タタキ、内面に平行刻み目当て具痕が認められる。

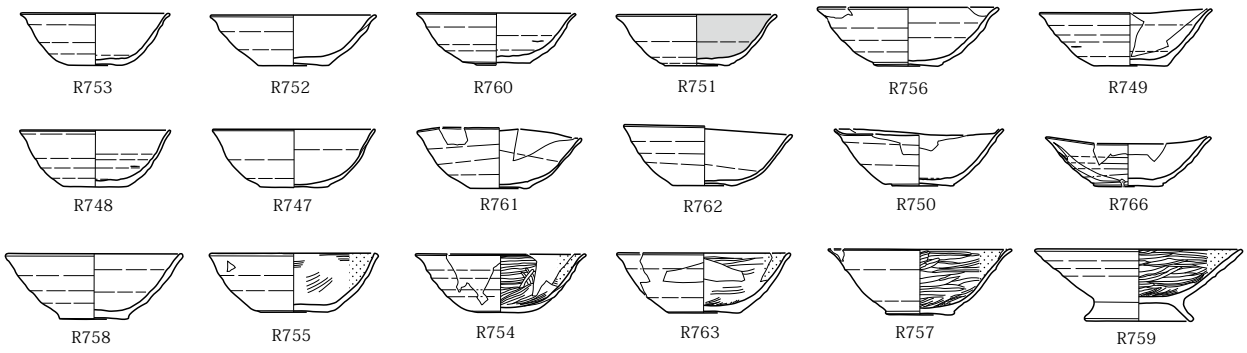
底・底直上と堆積土出土土器には特徴に大きな相違が認められないことから、両者を一括して年代を検討する。土師器と類似する土器群は、栗原市経ヶ崎遺跡 SI6・40 住居跡（高清水町教育委員会 2000）、大崎市新田柵跡 SI73b 住居跡（田尻町教育委員会 1998）で確認され、これらは 8 世紀後半とされている。なお、ロクロ調整による高台坏についても、新田柵跡 SI73 ｂや同じく 8 世紀後半の市川橋遺跡 SX1351A 河川跡（多賀城市教育委員会 2003）でロクロ調整の坏が出土していること、器形の特徴が 9 世紀以降とは異なることから、8 世紀後半と考えられる。須恵器坏は、新田柵跡 SI73ｂや 8 世紀中葉に位置付けられている色麻町日の出山窯跡群 C 地点第 2 号窯跡（色麻町教育委員会 1993）で類例が認められる。土師器と須恵器の年代観に矛盾はなく、SD116 出土土器は 8 世紀後半と考えられる。

【SK280土坑】埋土から出土した土器は、ロクロ調整の土師器坏・高台坏、赤焼土器坏で、赤焼土器が主体である（第 195 図）。重なった状態で出土しており、一括廃棄されたものと考えられる（第 163 図、図版 37-2）。土師器坏は、口径に対して器高が大きく、体部が内湾しながら立ち上がり、口縁部が外傾するもの（R755）、外反するもの（R754・763・757）である。法量は、口径 13.4 ～ 14.4cm、底径 5.3 ～ 6.0cm、器

高 4.6 ～ 5.2cm である。高台坏（R759）は体部から直線的に立ち上がり、口縁部が大きく開く器形である。坏と高台坏の坏部の底部の切り離しは回転糸切り無調整である。

赤焼土器坏は、土師器坏と器形が類似する。口縁部が外傾するもの（R758）と、外反するもの（R747 ～ 753･756･758･760 ～ 762･766）であり、後者が主体である。法量は、口径 11.8 ～ 14.4cm、底径 4.5 ～ 5.5cm、器高 3.95 ～ 5.2cm である。底部の切り離しは回転糸切り無調整である。R766 の底部内面には、剥離した部分に回転糸切り痕が確認され（図版 69-5b）、これによると柱状の粘土を底部にして粘土紐により坏を成形し、回転糸切りで切り離すという工程を数回繰り返す「底部円柱づくり」（仙台市教育委員会 1987、河南町教育委員会 1993）が行われていたことが分かる。R751 の内面には油煙が付着している。内面に摩耗痕が認められるものはない。

類似する土器群は、栗原市手取遺跡第 3 住居跡（宮城県教育委員会 1980a）、色麻町色麻古墳群第 19・31 号住居跡（宮城県教育委員会 1984）で確認され、年代は 10 世紀前葉に位置付けられている（宮城県教育委員会 1985）。したがって、SK280 出土土器の年代も 10 世紀前葉と考えられる。



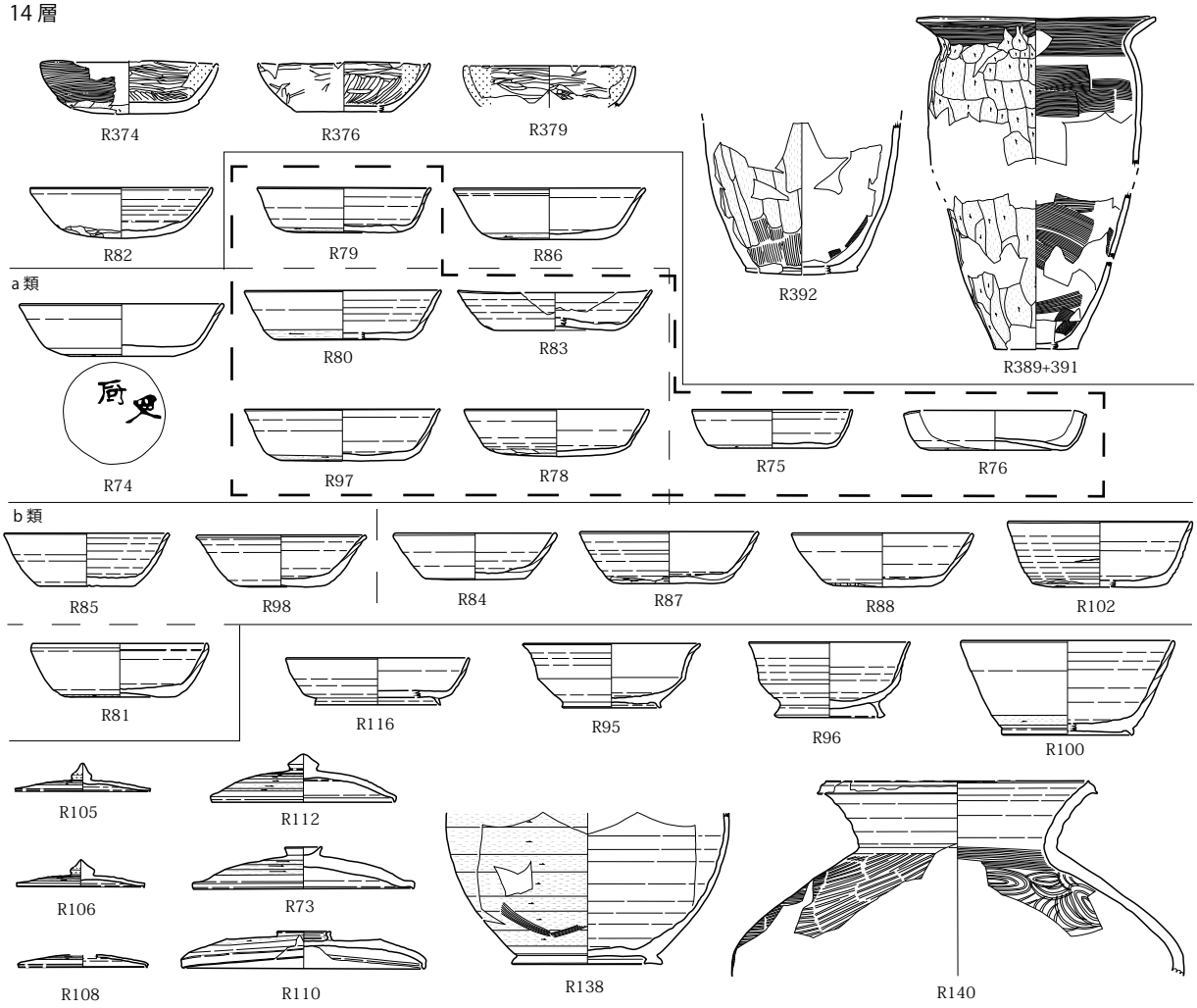
第 195 図　SK280 土坑　出土土器　　※全てS=1/6

【SD110A河川跡】まとまって出土した 14 層とそれ以外の堆積土出土土器に分けて記述する。

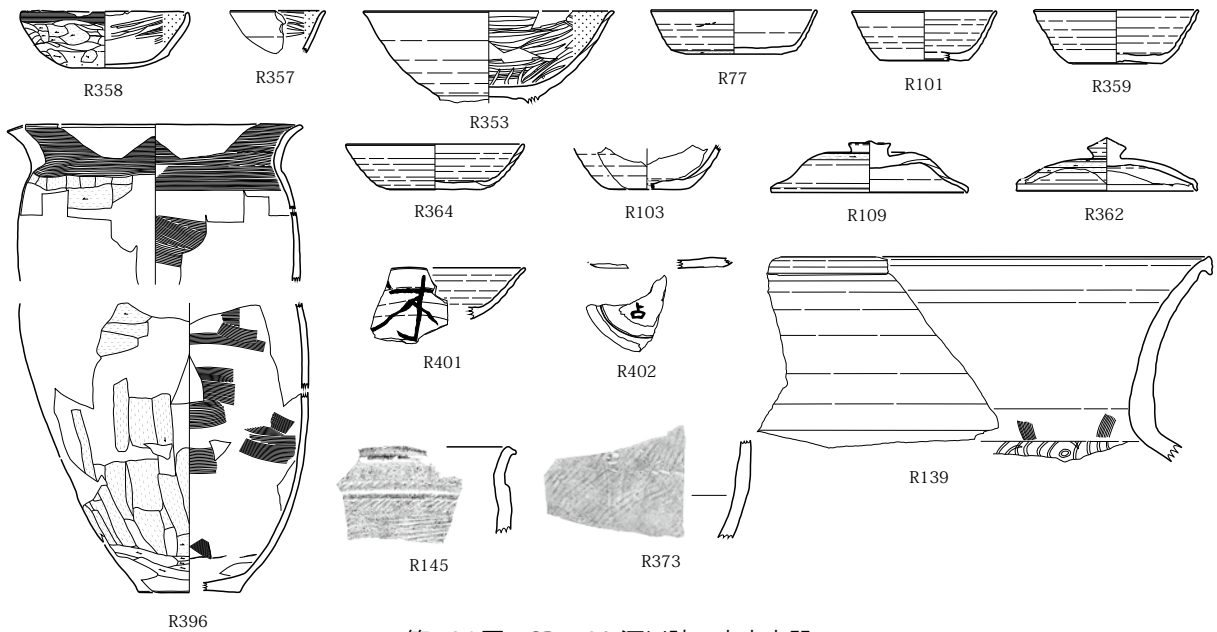
14 層出土土器は、非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏・高台埦・稜埦・蓋・長頸壺・甕で、須恵器坏が多い（第 196 図、第 42 表）。土師器坏には、体部外面に段が付くもの（R374）と付かないもの（R376・379）がある。前者は丸底気味で口縁部から体上部外面がナデ、体下部から底部がヘラケズリ、後者は R376 が平底で、R376・379 ともに内外面ともヘラミガキが施される。内面はヘラミガキの後に黒色処理され、R379 は外面も黒色処理される。甕は、口縁部から底部（R389＋391）、胴部から底部（R392）があり、いずれも長胴形である。R389＋391 は、口縁部が短く外反し、胴部から底部に向かってすぼまる器形である。胴部外面にヘラケズリが施される。

須恵器坏は、口径に対して器高が小さい皿形で、丸底が 1 点ある以外は全て平底である。R82 は丸底で、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する器形で、底部全面に手持ちヘラケズリが施されている。平底の坏は、a 類：底部から体部にかけて屈曲し、外傾しながら立ち上がるもの（R74 ～ 76・78 ～ 80・83・86・97）、b 類：底部から体部の屈曲が目立たず、口縁部にかけて外傾するもの（R81・84・85・87・88・98・102）に大別できる。a 類には、口縁部が外反（R79・86）、直線的に外傾（R74・78・80・83・97）、内湾気味（R75・76）のものがある。いずれも底部切り離し後に再調整が行われ、器形と

14層



堆積土



第196図　SD110A 河川跡　出土土器　※全て S=1/6

の関係では、口縁部が外反・内湾気味のものは体下部から底部に回転ヘラケズリ、外傾するものは体下部から底部に回転ヘラケズリ（R74・80・97）と手持ちヘラケズリ（R83）、底部のみに手持ちヘラケズリ（R78）が施される。a 類の R75・76・78 ～ 80・83・97 は、薄手で焼成が堅緻であり、胎土に混入物が少なく、丁寧な再調整が特徴である。なお、R74 の外面底部に墨書、R97 の外面底部に刻書が認められる。b 類にも、口縁部が外反（R85・98）、直線的（R84・87・88・102）、内湾気味（R81）のものがある。器形と底部切り離し方法との関係では、直線的に立ち上がる R87・88・102 で静止糸切りの後手持ちヘラケズリ、それ以外はいずれも回転ヘラ切りで、R81 では体下部から底部外周に回転ヘラケズリが施される。

高台坏（R116）は、体部下端が屈曲し外傾しながら立ち上がる器形である。高台部は短くやや外側に開く。坏部の器形や焼成、胎土の特徴が坏 a 類と類似する。稜埦（R95・96）は、体部に明瞭な稜を持ち口縁部に向かって外反する器形で、高台が低いもの（R95）と高いもの（R96）がある。高台埦（R100）は底部から直線的に立ち上がる器形で、高台は低い。体下部には回転ヘラケズリが施される。蓋は、小形（R105・106・108）と中形（R112）、大形（R73・110）があり、小形は法量が類似する。つまみは小・中形が宝珠形、大形がリングである。長頸壺（R138）は胴部から高台部の残存で、外面に自然釉と灰が付着している。胴部外面には回転ヘラケズリが施されている。高台部は短く外側に延び、接地面に向かって開く。器壁は薄手で焼成が堅緻、胎土が精良であり、猿投窯の製品と推定される。甕（R140）は口縁部から胴部で、胴部外面に平行タタキ、内面に同心円の当て具痕が認められる。

これらの土師器と類似する土器群は、栗原市大境山遺跡 2 号住居跡（瀬峰町教育委員会 1983）、経ヶ崎遺跡 SI40 住居跡（高清水町教育委員会 2000）で確認され、これらは 8 世紀後半とされており、14 層出土土師器も同様の年代と考えられる。須恵器坏・高台坏・蓋については、器形や調整から 8 世紀代と考えられ（宮城県多賀城跡調査研究所 1994）、坏 a 類の器形や底部再調整は、8 世紀前半に特徴的に認められるものである。このうち、R75・76・78 ～ 80・83・97 と小形の蓋（R105・106・108）は、大崎市田尻に所在する木戸窯跡群で生産されたものと推定される（辻 1984、宮城県多賀城跡調査研究所 2005・2006・2007b、櫻井 2007）。木戸窯跡群出土須恵器については、須恵器や瓦の特徴、「郷里制」の施行を示す平瓦の存在から、養老 5（721）年から天平 12（740）年頃と位置付けられており（宮城県多賀城跡調査研究所 2007b）、上記の坏と蓋も同様の年代と考えられる。坏 b 類の R87・88・102 は、底部切り離しが静止糸切りの後、底部外周に手持ちヘラケズリが施されており、類例は 8 世紀中葉に位置付けられている日の出山窯跡群 C 地点 2 号窯跡（色麻町教育委員会 1993）で認められる。同じく坏 b 類の R84・85・98 は、回転ヘラ切りの後にナデが行われており、類例は 8 世紀中葉の中でも新しい様相とされている大衡村萱刈場窯跡 SR3 窯跡（宮城県教育委員会 1995a）、8 世紀後半の新田柵跡 SI73 b 住居跡（田尻町教育委員会 1998）に認められる。したがって、坏 b 類の年代は 8 世紀後半と考えられる。なお、1 点出土した丸底の坏（R82）については、8 世紀初頭に位置付けられている涌谷町長根窯跡群（涌谷町教育委員会 1974・1976）や、量は少ないが 8 世紀前半と考えられている日の出山窯跡群 C 地点 4 号窯跡（色麻町教育委員会 1993）、同 F 地点 SR5・6 窯跡（宮城県多賀城跡調査研究所 2011）で類例が認められ、8 世紀前半として捉えておく。

以上より、14 層出土土器は、8 世紀前半から後半の年代と考えられ、8 世紀前半は須恵器のみ、8 世紀後半は土師器と須恵器で構成されている。

その他の堆積土出土土器は、非ロクロ調整の土師器坏・甕、ロクロ調整の土師器坏・高台坏、須恵器坏・蓋・鉢・甕である（第 196 図、第 42 表）。様々な特徴を持つものが混在しているため、個別に時期を推定する。非ロクロ調整の土師器坏（R358）は外面に段がつくもので 8 世紀後半、ロクロ調整の土師器坏（R357）・高台坏（R353）は、器形の特徴から 9 世紀後半から 10 世紀前葉と考えられる。須恵器坏（R77・101・103・359・364・401）は、皿形で底部に回転ヘラケズリの再調整が施される R77 が 8 世紀前半、回転ヘラ切りの R359・364、回転糸切り無調整の R101・103 が 8 世紀後半から 9 世紀前半と推定される（河南町教育委員会 1993、吾妻 2001）。したがって、14 層以外の堆積土から出土した土器は、8 世紀前半から 10 世紀前葉までのものと考えられる。

3）磁器

青磁 3 点と白磁 1 点である。器種は碗でいずれも小破片である。青磁は H-25 区北東隅周辺の排土（第 69 図 1）、H-26 区の排土（第 73 図 6）、L-2 区 SD620 溝跡（第 171 図 1）から 1 点ずつ、白磁は H-25 区北東隅の基本層序Ⅱ層（第 69 図 2）から出土した。これらの時期は中世と推定される。

4）中世陶器

①出土状況

酸化焔焼成による無釉陶器で、器種は甕と擂鉢である。全て破片資料である。小破片を含めると全体で 51 点出土し、その内訳は在地産 33 点（甕 29 点、擂鉢 4 点）、東海産の可能性のある甕 10 点、渥美窯産の甕 5 点、不明 3 点である（第 43 表）。H-25 区からの出土が多く、特に北東部の遺構に集中する。この他に、I-4・16 区、L-1・5・6 区からの出土が認められるが、点数は僅かである。

第 43 表　中世陶器の集計

区	遺構	中世陶器					計 1	計 2
		在地産		東海産カ	東海（渥美）産	不明		
		甕	擂鉢	甕	甕	甕		
H-25	SD84 溝跡	3(3)					3	39
	SD114 溝跡			1			1	
	SE87 井戸跡		1(1)				1	
	SE88 井戸跡	4(4)					4	
	SE88+SK89	1(1)					1	
	SE97 井戸跡	1(1)					1	
	SK89 土坑	7(7)		1(1)	4(4)		12	
	SK90 土坑			3(3)	1(1)		4	
	SK89+SK90		1(1)	2(1)			3	
	その他	4(2)	2			3	9	
I-4	SD4・253 河川跡	1(1)					1	5
I-16	SD465 河川跡	4(3)					4	
L-1	SD601 河川跡	1(1)					1	7
	SD605 河川跡	1					1	
L-5	その他	2(2)					2	
L-6	SD646 溝跡			1(1)			1	
	SD652 溝跡			1(1)			1	
	SD654 溝跡			1(1)			1	
計		29	4	10	5	3	51	

※遺構外出土のものを「その他」とした。（　）内の数字は資料化した点数。

②特徴

H-25 区北東部に位置する SD84 溝跡、SE88 井戸跡、SK89・90 土坑と基本層序Ⅱ層から出土した中世陶器については、器形や調整、胎土の共通性、口縁・底部破片資料の存在から、直接の接合関係は確認できなかったが、5 種類の個体別資料の存在を想定できた（第 44 表、第 197 図）。以下、個体別資料 1 ～ 5 の特徴を詳述する。

第 44 表　中世陶器の個体別資料

個体別 No.	器種	遺構	産地	点数	遺物 No.	色調			胎土	その他の特徴
						外面	内面	断面		
1	甕	SD84、SE88、SK89	在地	16	R243・292・326・330 ～ 342	黒褐色 (5YR3/1)，褐灰色 (5YR4/1)，灰褐色 (5YR4/2)	黒褐色 (5YR3/1)，灰赤色 (2.5YR4/2)	褐灰色 (10YR6/1・4/1)，明赤褐色 (5YR5/6)	径 2㎜以下の小礫、ガラス粒多量に、径 3 ～ 6㎜以下の小礫含む	径 7㎜以下の暗赤色 (7.5R3/4)、黒褐色 (5YR3/1) の鉱物が溶け出したものが内外面に多量に認められる、炭化物付着
						暗赤褐色 (10R3/2・3/3・2.5YR3/3)	灰赤色 (10R4/2)，暗赤灰色 (10R3/1)			
						黒褐色 (10YR3/1)	黒褐色 (10YR3/1)，暗赤褐色 (5YR3/2)			
						赤灰色 (2.5YR4/1)，灰赤色 (2.5YR4/2)	降灰により不明			
2	甕→擂鉢	SK89・90	東海か	6	R238・252・305・343 ～ 345	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	降灰により不明	褐灰色 (10YR6/1)，黒褐色 (10YR3/1)	径 1㎜以下の小礫多量に、径 2㎜の小礫含む	焼き締まり良、内面摩耗、甕を擂鉢に転用
						灰赤色 (2.5YR4/2)，にぶい赤褐色 (2.5YR4/3)	降灰により不明			
3	甕	SK89・90	渥美	5	R236・239・251・328・329	灰色 (N4/1)	灰色 (N6/1・N 5/1)	灰色 (N5/1・N6/1)	径 1 ～ 5㎜の小礫含む、砂質の胎土	焼き締まり良、外・内・断面に付着物あり
4	擂鉢	SK89・90、Ⅱ層	在地	2	R346・347	灰褐色 (5YR5/2)，にぶい赤褐色 (5YR5/3)	褐灰色 (5YR5/1)，灰褐色 (5YR5/2)，にぶい赤褐色 (5YR5/4)	にぶい橙色 (5YR7/4)，灰色 (5Y5/1)	径 1 ～ 5㎜の小礫、赤色小礫、ガラス粒含む	内面摩耗　外面胴下部被熱によりハジケ
5	擂鉢	Ⅱ層	在地	1	R291+297	褐灰色 (5YR4/1)	赤灰色 (2.5YR5/1)	にぶい橙色 (2.5YR6/4)	径 2㎜以下の小礫、ガラス粒多量に含む	外面に炭化物あり

【個体別資料 1】（第 44 表、第 197 図）

器種は甕で、口頸部（R331・330）、肩部（胴上部）（R332・333）、胴下部（R243・292・326・334 ～ 342）の破片資料 16 点で構成される。法量は不明である。

〔**出土遺構**〕SD84 溝跡、SE88 井戸跡、SK89 土坑の堆積土である。

〔**器形**〕口縁部は外側に短く外反し、先端部は僅かに外傾しながら直立気味に立ち上がり、1.5cm 程度の幅の狭い口縁帯が形成される。内側には幅 0.6cm 程度の沈線が巡り、受け口状の口縁形となる。頸部は短く「八」字形で肩部との境は明瞭ではない。肩部の立ち上がりは緩やかで「なで肩」状となり、胴下部との境が最大径になると推定される。胴下部は底部に向かって内傾する。

〔**調整**〕外面は、口縁帯に横ナデ、頸部から肩部上半に横方向のヘラナデが施される。特に、頸部には横方向のヘラナデによる顕著な凹凸が確認できる。肩部下半から胴下部にかけては縦・斜方向のヘラナデが主体的に施される。内面は、口縁部にナデ、受け口状の沈線部分にヘラナデ、肩部から胴下部にかけてオサエの後ナデ、一部ヘラナデが施される。

〔**色調**〕外面は黒褐色、褐灰色、灰褐色のものと、暗赤褐色のもの、赤灰色と灰赤色のもの、内面は、黒褐色、灰赤色のものと灰赤色、暗灰赤色のもの、黒褐色と暗赤褐色のものがあり、同一個体内でも多様である。断面はいずれも褐灰色、明赤褐色で（図版 46-12、図版 49-2・6・7）、資料によって両者の割合が異なる。

〔**胎土・焼き締まり**〕胎土には小礫やガラス粒が含まれる。また、内外面には胎土に含まれる鉱物が溶けて器面に噴出し、径 7㎜以下の暗赤褐色や黒褐色の半球状に融着した痕跡が多く認められる（図版 46-14、図版 47-2、図版 48-4、図版 49-7）。焼き締まりは良好ではない。

【個体別資料 2】（第 44 表、第 197 図）

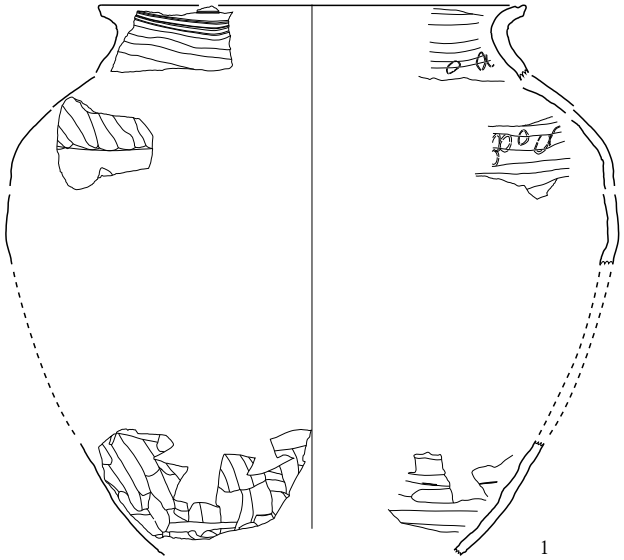
胴下部～底部（R305・344）、胴下部（R252・343）、底部（R238・345）の破片資料 6 点で構成される。底径は約 21.0cm である。甕として利用された後、胴下部～底部が擂鉢に転用される。

〔**出土遺構**〕SK89・90 土坑の堆積土である。

〔**器形**〕底部から緩やかに立ち上がる。

〔**調整**〕外面は縦・斜・横方向のヘラナデを主体とする。内面はナデ、ヘラナデである。

団子山西遺跡

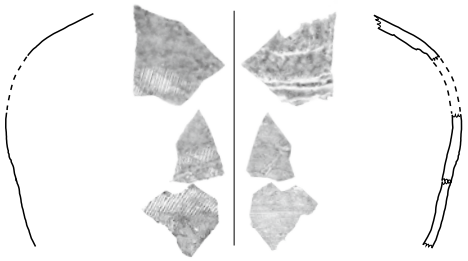


1

個体別資料 1（R243・330 ～ 333・342 より作成）

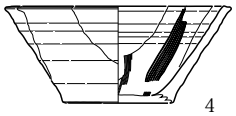
2

個体別資料 2（R305）



3

個体別資料 3（R251・328・329 より作成）



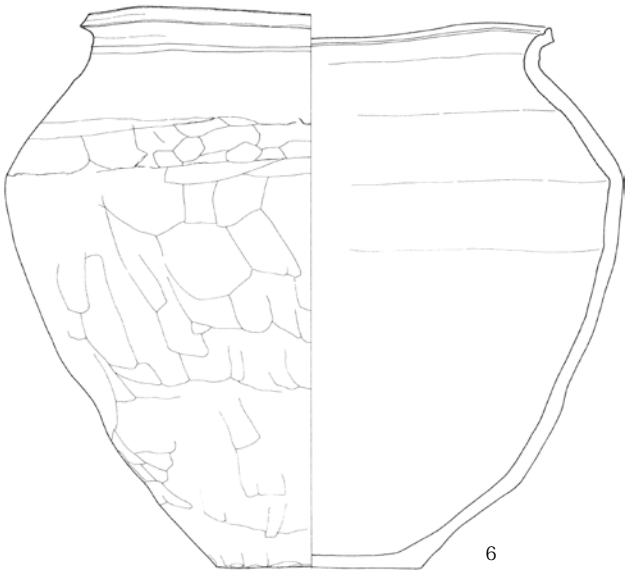
4

個体別資料 4（R346）

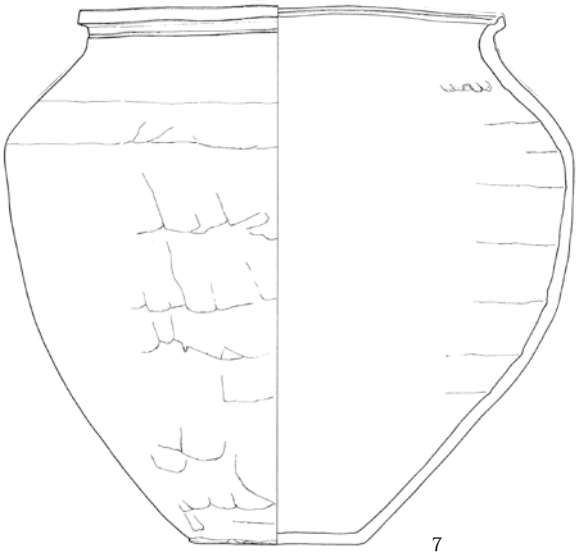
5

個体別資料 5（R291+297）

熊狩 A 窯跡　東北歴史資料館 (1979) より作成

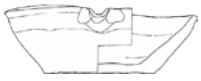


6

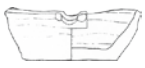


7

8



9



10

6・7：甕、8 ～ 10：擂鉢　　※報告書との対応は、6：『熊狩 A 窯跡』第 9 図 1、7：同第 11 図 3、8：同第 14 図 14、9：同第 14 図 16、10：同第 14 図 19

第 197 図　団子山西遺跡 H 区出土陶器と熊狩 A 窯跡出土陶器　※全て S=1/10

〔**色調**〕外面はにぶい赤褐色、灰赤色、内面はいずれも降灰により不明である。断面は褐灰色、黒褐色である（図版 50-12）。

〔**胎土・焼き締まり**〕胎土には 2㎜以下の小礫が含まれる。焼き締まりは良好である。

【個体別資料 3】（第 44 表、第 197 図）

器種は甕で、肩部（R251）、胴下部（R236・239・328・329）の破片資料 5 点で構成される。器形や法量は不明である。

〔**出土遺構**〕SK89・90 土坑の堆積土である。

〔**調整**〕外面がナデ、ヘラナデ、簾状の押印、内面がナデ、ヘラナデである。押印は肩部の下端と胴上部に認められる。

〔**色調・胎土・焼き締まり**〕色調は外・内・断面ともに灰色である（図版 50-2）。胎土は細かい砂質で、1 ～ 5 ㎜の小礫を含む。焼き締まりは良好である。

【個体別資料 4】（第 44 表、第 197 図）

器種は擂鉢で、口縁～底部（R346）、体部（R347）の破片資料 2 点で構成される。口径約 29.9cm、底径約 14.6cm、器高約 12.85cm である。内面は摩耗し、卸目の痕跡が不明瞭になっている部分がある。被熱により、外面に焼けハジケの痕跡が認められる。

〔**出土遺構**〕SK89・90 土坑の堆積土、基本層序Ⅱ層である。

〔**器形**〕底部から口縁部にかけて直線的に外傾し、口縁先端部はやや外反する。口唇部は内傾し、幅 1.0cm 程度の面が形成される。高台の有無は不明である。

〔**調整**〕内外面ともにロクロナデによって整形される。内面には 18 本 1 単位の卸目が施され、残存している範囲では 4 単位確認できた。

〔**色調**〕外面は灰褐色、にぶい赤褐色、内面は褐灰色、灰褐色、にぶい赤褐色、断面はにぶい橙色、灰色である。被熱の影響により、本来的な色調ではない可能性がある。

〔**胎土・焼き締まり**〕径 1 ～ 5㎜の小礫、赤色小礫、ガラス粒を含む。焼き締まりは良好ではない。

【個体別資料 5】（第 44 表、第 197 図）

器種は擂鉢で、口縁～体部（R291＋297）の破片資料 1 点である。卸目の有無は不明である。

〔**出土遺構**〕基本層序Ⅱ層である。

〔**器形・調整**〕内湾しながら立ち上がる。調整は内外面ともにロクロナデである。

〔**色調・胎土・焼き締まり**〕外面は褐灰色、内面は赤灰色、断面はにぶい橙色である。胎土には 2㎜以下の小礫、ガラス粒が含まれる。焼き締まりは良好ではない。

③産地と時期

個体別資料 1 は、全体の器形や調整、頸部の凹凸が顕著なナデ調整、色調、胎土、内外面に認められる暗赤褐色や黒褐色の噴出物の特徴から、宮城県栗原市と登米市の範囲にわたって分布する伊豆沼窯跡群の熊狩 A 窯跡出土陶器と類似しており（東北歴史資料館 1979、安達 2003）、伊豆沼窯跡群を産地とするものと考えられる（第 197 図）。ただし、口縁部の形状がやや異なることから、熊狩 A 窯跡とは異なる別支群の窯跡産の可能性もある。熊狩 A 窯跡 2 号窯の時期については、常滑窯や越前窯

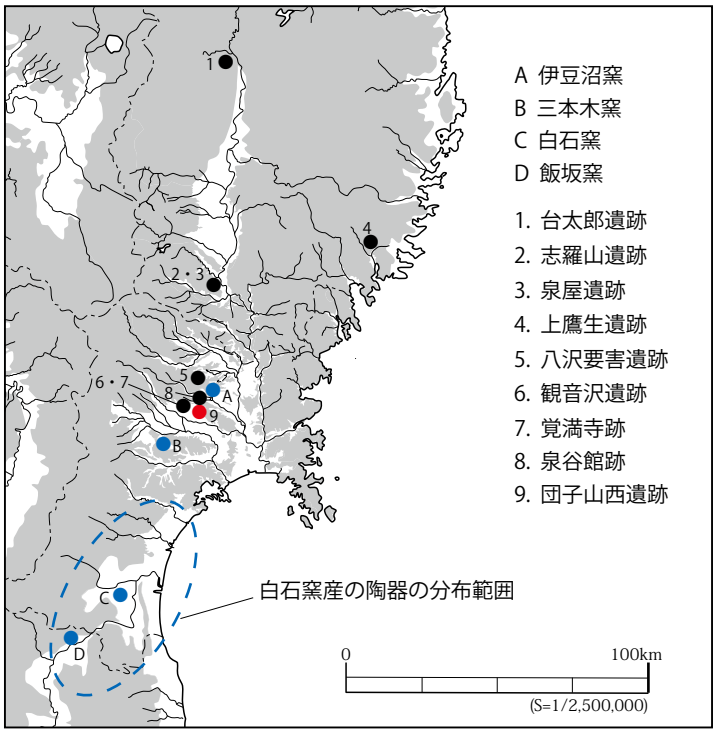
との比較から、地域的特徴を考慮する必要性を指摘しつつ鎌倉時代中頃あるいは後期と推定されている（東北歴史資料館 1979）。この他、器種構成や器形の特徴から 13 世紀中葉から後半（吉岡 1982）、13 世紀半ばや中葉（桑原・藤沼 1981、梁川町教育委員会 1987）、常滑窯との検討より 13 世紀中葉から後半（中野 1997）との見解が示されている。近年では、中世陶器窯の調査事例がほとんどなく、地域性を考慮した変遷案の検討も進んでいないことから 13 世紀中葉から 14 世紀前葉と幅を持った理解が示されている（藤沼 2010）。ここでは、熊狩 A 窯跡と異なる可能性があることから、13 世紀から 14 世紀と広く捉えておく。

個体別資料 2・3 は、胎土や焼き締まりの特徴から在地産ではなく、個体別資料 2 は東海産で常滑窯のものの可能性があり、個体別資料 3 は渥美窯のものと推定される。一方、個体別資料 4・5 は、器形や調整、色調や胎土から在地窯のものと考えられ、個体別資料 1 との共伴から同様に伊豆沼窯跡群のものの可能性がある。時期は、個体別資料 2・4 が個体別資料 1 と共伴することから、13 ～ 14 世紀と推定され、個体別資料 5 は基本層序Ⅱ層出土のため、詳細な時期は不明だが、特徴の類似から他の資料と同時期の可能性がある。なお、熊狩 A 窯跡出土擂鉢には卸目が認められず、一方、伊豆沼窯跡群の支群である登米市品ノ浦窯跡群では内面に卸目をもつ擂鉢が採集されており、個体別資料 4 との関係が注目される。また、内面の卸目はより新しい時期に施されることが推定されており（桑原・藤沼 1981）、これを参考にすると、個体別資料 4 は 13 ～ 14 世紀の中でもより新しい段階の可能性がある。

その他の中世陶器については、L-6 区 SD646・652・654 溝跡出土陶器が東海産、それ以外が在地産と推定される。時期は中世と推定される。

④伊豆沼窯跡群産の中世陶器について

伊豆沼窯跡群産の中世陶器の分布と流通については不明な点が多いが、概ね、宮城県北部の大崎平野を主体として岩手県南部に及ぶ範囲に分布することが指摘されている（田中 2003）。現状で可能性があるものを含めると、岩手県内では盛岡市台太郎遺跡（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006）を北限とし、大船渡市上鷹生遺跡（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1997）や平泉町志羅山遺跡（平泉町教育委員会 1995）、泉屋遺跡（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2003）で、伊豆沼窯ないし熊狩 A 窯跡産と考えられる陶器が出土している（第 198 図）。宮城県内では栗原市築館の八沢要害遺跡出土



第 198 図　主な窯跡群と伊豆沼窯跡群産陶器が出土した遺跡

陶器が品ノ浦窯跡群産に推定されており（藤沼 1976）、栗原市高清水の観音沢遺跡（宮城県教育委員会 1980c）で熊狩 A 窯跡産、覚満寺跡（覚満寺跡発掘調査団 1999）や栗原市瀬峰の泉谷館跡（阿部・赤沢・佐藤 1987）で伊豆沼窯跡群産の可能性のある陶器が確認されている。今回、団子山西遺跡で出土が確認されたことで、現状で南限の遺跡として位置付けることができる。今後は、在地産と考えられる中世陶器について、器形、調整、胎土、内外面の特徴などの諸要素を検討し、その可能性があるものを抽出していく必要がある。併せて、これまでの調査で出土したものについても、再検討することも必要である。

⑤産地別中世陶器に認められる使用履歴の相違

東海産と考えられる個体別資料 2 については、内面に顕著な摩耗痕跡が確認され、甕としての利用の後、胴下部から底部が擂鉢として再利用されている。また、外面と断面に付着物があり、擂鉢として利用され、破損した後に修復あるいは破片を用いた何らかの再利用が行われた可能性がある。陶器の再利用については常滑窯産の製品で確認されており、上半部が破損した甕の下半部を擂鉢として利用する例や、破片の断面を鉄製農具の砥石あるいは鍋や釜の煤落としに利用したと考えられる例が報告されている（宮瀧 1995）。個体別資料 2 の事例もこれと同様と考えられる。また、渥美窯産と考えられる個体別資料 3 についても内外面と断面に付着物が確認でき、これらも修復あるいは破損後の再利用の可能性が推定される。一方、在地窯産と考えられる個体別資料 1・4 は、破片の数量が多くかつ大型の破片が認められるにも関わらず、使用方法の変化や断面への付着物など再利用の痕跡が確認されない。これらは、在地産と遠隔地産の質やそれに伴う利用価値の差に基づいた使用履歴の相違が表れたものと考えられる。

5） 瓦

①出土状況

丸瓦と平瓦である。全て破片資料で、遺構に伴うものはない。微細な破片を含めると全体で 295 点出土し、その内訳は丸瓦 95 点、平瓦 142 点、不明 58 点である（第 45 表）。H-25 区からの出土が最も多く、H-1 区、I-4 区、I-16 区と続く。

②特徴

凸面と凹面の調整の組み合わせとその数量を検討する。

【丸瓦】凹面に粘土紐痕と布目が認められることや、凸面にロクロナデが施されていることから粘土紐巻き作りと考えられる。瓦の両端部を破損しているものが多く、玉縁部が確認されたのは 4 点である。微細な破片を除いた玉縁部あり 4 点、玉縁部なし 46 点の計 50 点を対象とする（第 46 表）。

最も多く出土したのが凸面にロクロナデ、凹面に粘土紐痕→布目やナデ、布目のみが認められるもので 49 点あり、凸面にナデ、凹面に粘土紐痕→布目が認められるものは 1 点のみである。玉縁部が確認されたものは全て前者である。

新田柵跡北辺部（田尻町教育委員会 1998）と西辺部周辺（田尻町教育委員会 2001a）で出土した丸瓦と比較すると（第 46 表）、団子山西遺跡 H・I・L 区で確認された凸面にロクロナデ、凹面に粘土紐痕→布目が施されたものが新田柵跡の丸瓦分類 I 類、凸面にナデ、凹面に粘土紐痕→布目が施されたもの

第 45 表　瓦の集計

区	遺構	丸瓦		平瓦	不明	計 1	計 2
		玉縁あり	玉縁なし				
H-1	SD1 河川跡		7(1)	12	26	45	45
H-2	その他			1		1	1
H-10	SD4 河川跡			1		1	1
H-11	SD2 河川跡				6	6	11
	その他		3		2	5	
H-12	SD4 河川跡			2	1	3	3
H-14	SD13 溝跡			1		1	6
	SD15 溝跡			1		1	
	SD17 溝跡				1	1	
	SD4 河川跡			1		1	
	SD12 河川跡		1			1	
	その他		1			1	
H-15	SD33 溝跡			1		1	4
	SD12 河川跡	1(1)	1			2	
	その他			1		1	
H-16	その他		1	6		7	7
H-17	その他			3		3	3
H-19	SD110 河川跡		1			1	2
	その他		1			1	
H-21	その他		1	2		3	3
H-23	SD12 河川跡			1(1)		1	3
	その他		2			2	
H-24	SE67 井戸跡			1		1	7
	SD4 河川跡		1	3		4	
	その他		2			2	
H-25	SD76B 道路側溝			1		1	41
	SD82B 道路側溝			2(1)		2	
	SD74 溝跡			2		2	
	SD75 溝跡		2			2	
	SD84 溝跡		2			2	
	SD111 溝跡		2			2	
	SD126 溝跡		1			1	
	SD138 溝跡		3	1	1	5	
	SD139 溝跡		1	2		3	
	SD146 溝跡		1			1	
	SE87 井戸跡			1		1	
	SE88 井戸跡			2		2	
	SE135 井戸跡		1	2		3	
	SE136 井戸跡		5(1)			5	
	SK83 土坑			1(1)		1	
	SK89 土坑		1	2	1	5	
	SK90 土坑		1	1	1	3	

区	遺構	丸瓦		平瓦	不明	計 1	計 2
		玉縁あり	玉縁なし				
H-25	SK95 土坑		2			2	52
	SK134 土坑			1		1	
	SX133 自然堆積層		1	5		6	
	SX144 自然堆積層		1			1	
	SD110A 河川跡	2		3	3	8	
	SD110B 河川跡			3	5	8	
	SD140 自然流路跡		1			1	
	その他		9	10(1)	6	25	
H-26	SD204 自然流路跡		1			1	3
	SD209 自然流路跡				1	1	
	その他		1		1	1	
H-27	SD177 溝跡	1	2			3	4
	その他			1		1	
H-30	その他			1		1	1
I-4	SD251 溝跡		1	18(1)		19	30
	SD4 河川跡		2	1		3	
	SD252 河川跡		3	5		8	
I-5	SD255 溝跡			1		1	1
I-7	その他		1			1	1
I-8	SK298 土坑			1		1	3
	その他		1	1		2	
I-9	SB321 掘立柱建物跡			1		1	9
	SE384 井戸跡			2		2	
	SK424 土坑			1		1	
	その他		3(1)	2		5	
I-10	SI341 竪穴建物跡				1	1	11
	SD342 溝跡			1		1	
	その他		1	8(1)		9	
I-11	SD373 河川跡		3	1		4	8
	その他		2	1	1	4	
I-12	SD332 河川跡			2	1	3	4
	SD334 河川跡			1		1	
I-13	SD366 溝跡			1		1	7
	SD365 自然流路跡		1			1	
	その他		3	2		5	
I-14	その他			1		1	1
I-15	SD499 溝跡		1			1	1
I-16	SD465 河川跡		9	6		15	20
	その他			5		5	
L-2	SD605 河川跡			1		1	1
田尻川	その他			1		1	1
計		4	91	142	58	295	

※その他：ピット、遺構外（確認面、表土、排土など）から出土したもの
※数字は破片数で、（　）内の数字は資料化した点数。

がⅢ類に相当する。割合では両遺跡ともに凸面にロクロナデが施されたものが多くを占めており、両遺跡において、出土した瓦の特徴と主体となる瓦に共通点が認められる。

【平瓦】凹面に摸骨痕のあるものが 1 点認められ、これについては桶巻き作りによって製作されたと考えられる。それ以外は製作工程を表す痕跡が認められず、桶巻き作りか一枚作りかは不明である。微細な破片を除いた 75 点を対象とする（第 46 表）。

最も多く出土したのが、凸面にタタキ目、凹面に糸切痕→ナデまたはナデのみが認められるもので 54 点あり、このうち凸面が平行タタキ目のものが 45 点、花文タタキ目のものが 9 点である。この他に、凸面にナデ、凹面にナデ等が認められるものが 15 点、凸面に平行タタキ目→糸切痕または糸切痕のみ、凹面に糸切痕→ナデまたはナデのみ、糸切痕のみ認められるものが 5 点、凸面にナデ、凹面に摸骨痕→布目→ナデが認められるものが 1 点ある。

新田柵跡で出土した平瓦と比較すると（第 46 表）、凸面に平行タタキ目、凹面にナデが施されたものが新田柵跡の平瓦分類ⅠA類、凸面に花文タタキ目が施されたものがⅠB類、凸面と凹面にナデが施されたものがⅢ類に相当する。新田柵跡北辺部の調査で出土した瓦についてはⅠA類の割合が高く（田尻町教育委員会 1998）、一方、西辺部の調査で出土した瓦についてはⅢ類の割合が高い（田尻町教育委員会 2001a）。団子山西遺跡 H・I・L 区と新田柵跡では、出土した瓦に類似点が認められ、主体となる瓦については、凸面に平行タタキ目が施されたⅠA類の割合が高いことから、北辺部と類似した特徴が認められる。

第 46 表　H・I・L 区出土瓦の特徴と新田柵跡との比較

丸瓦

凸面	凹面	点数		備考	新田柵跡		多賀城跡	年代
					北辺部（町 3 集）	西辺部（町 5 集）		
ロクロナデ	粘土紐痕→布目	4	49	玉縁あり	Ⅰ類（多）	Ⅰ類（多）	ⅡB類類似ヵ	多賀城跡政庁第Ⅰ～Ⅳ期
ロクロナデ	粘土紐痕→布目、粘土紐痕→ナデ	43						
ロクロナデ	布目	2						
ナデ	粘土紐痕→布目	1	1		Ⅲ類	Ⅲa類	—	—

平瓦

凸面	凹面	点数		備考	新田柵跡		多賀城跡	年代
					北辺部（町 3 集）	西辺部（町 5 集）		
平行タタキ目	糸切痕→ナデ、ナデ	45	54		ⅠA類（多）	ⅠA類	—	—
花文タタキ目	糸切痕→ナデ、ナデ	9			ⅠB類	ⅠB類	—	—
ナデ	模骨痕→布目→ナデ	1	1	桶巻き作り	Ⅲ類か	Ⅲa類か	ⅠA類類似ヵ	多賀城跡政庁第Ⅰ期
ナデ	布目→ナデ	2	15		Ⅲ類	Ⅲa類（多）		
ナデ	糸切痕→ナデ	1						
ナデ	ナデ	7						
平行タタキ目→ナデ	糸切痕→ナデ、ナデ、ヘラケズリ、糸切痕	5				Ⅲc類	—	—
平行タタキ目→糸切痕	糸切痕→ナデ、ナデ	3	5		—	—	—	—
糸切痕	糸切痕	2			—	—	—	—

③時期

出土状況や残存状況から時期を推定することは困難である。一方、新田柵跡から出土した瓦については、多賀城跡政庁から出土した瓦（宮城県多賀城跡調査研究所 1982a）との比較が行われている（田尻町教育委員会 1998）。それによると、新田柵跡丸瓦Ⅰ類と多賀城跡丸瓦Ⅱｂ類、新田柵跡平瓦Ⅲ類と多賀城跡平瓦ⅠA類に類似が認められ、多賀城跡の瓦の年代観から丸瓦Ⅰ類は多賀城跡政庁第Ⅰ～Ⅳ期、平瓦Ⅲ類は多賀城跡政庁第Ⅰ期の年代に相当すると考えられている。これを参考にすると、団子山西遺跡 H・I・L 区出土瓦についても、新田柵跡出土瓦との類似から同様の年代と推定される。

新田柵跡との類似が認められた瓦については、隣接した位置関係にあることから、新田柵跡に由来する資料と考えられる。

6）硯

円面硯 3 点と石硯 1 点で、いずれも小破片である。円面硯は H-25 区 SE87 井戸跡（R260）、H-28 区 SD220 溝跡（R665）で 1 点ずつ、I-11 区 SD373 河川跡（R865）でその可能性のあるものが 1 点出土した（第 201 図）。R260 は硯部で、脚部に縦方向の平行する線刻が 10 条、R665 は圏足部で、十字型の可能性がある透かしが施されている。R865 は圏足部の可能性があり、外面には葉脈状の線刻が認められる。残存状況から詳細な時期は不明だが、古代陸奥国の陶硯の分布や変遷を考慮すると（関根 2014）、8 ～ 9 世紀頃のものと考えられる。石硯は H-24 区 SD69 溝跡で出土した（第 31 図 1）。破損しており、形状や法量、時期は不明である。

7）土製品

土錘 1 点、土玉 1 点、紡錘車 2 点、羽口 6 点、支脚の可能性があるもの 3 点である（第 47 表）。土錘（第 24 図 1）は円筒状で、土玉（第 25 図 2）は穿孔が貫通していない。

第 47 表　土製品等の集計

区	遺構	時期	土錘	土玉	紡錘車	羽口	支脚か	計
H-21	SK44 土坑	中近世	1(1)					1
	SD46 自然流路跡	古代		1(1)				1
H-24	SD110B 河川跡	古代以降					1	1
H-25	SD110A 河川跡	古代				2		2
I-7	その他						1	1
I-9	その他					2		2
I-10	SE344 井戸跡	古代以降			1(1)			1
I-13	SD365 自然流路跡	8 世紀後半			1(1)			1
I-14	その他					1		1
I-15	その他						1	1
L-5	その他					1		1
計			1	1	2	6	3	13

※数字は点数で、（　）内の数字は資料化した点数。

8）石器・石製模造品・石製品

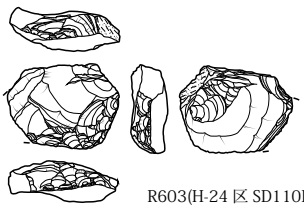
【石器】石鏃 4 点、石匙 2 点、楔形石器 3 点、スクレイパー 5 点、不定形石器 1 点、二次加工ある剥片 1 点、剥片 14 点、敲石 1 点、磨石 1 点である（第 48 表）。H-24 区基本層序Ⅵ層出土剥片以外は二次堆積である。石材は黒曜石が最も多く、特にスクレイパーの 5 点中 4 点が黒曜石製であ

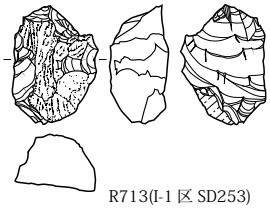
第 48 表　石器の器種と石材との関係

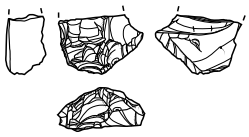
区	遺構	遺物	珪質頁岩	頁岩	玉髄	凝灰岩	鉄石英	砂岩	黒曜石	流紋岩	計 1	計 2
H-1	SD1A 河川跡	石匙	1								1	2
		剥片	1								1	
H-14	SD9B 河川跡	スクレイパー					1				1	2
	SD12 河川跡	磨石								1(1)	1	
H-15	その他	楔形石器							1		1	1
H-19	その他	不定形石器	1								1	1
H-21	その他	スクレイパー							1		1	1
H-24	SD61 溝跡	剥片		2							2	4
	SD110B 河川跡	スクレイパー							1(1)		1	
	Ⅵ層	剥片			1						1	
H-25	SD139 溝跡	剥片					4				4	7
	SX144 自然堆積層	剥片							1		1	
	その他	剥片			1	1					2	
H-26	SD204 自然流路跡	剥片							1		1	1
H-27	その他	石鏃				1					1	1
I-1	SD253 河川跡	二次加工ある剥片							1(1)		1	1
I-9	SE384 井戸跡	スクレイパー							1(1)		1	3
	SK427 土坑	剥片				1					1	
	その他	楔形石器			1						1	
I-10	SI341 竪穴建物跡	スクレイパー							1(1)		1	2
	その他	石鏃				1					1	
I-14	SD415 溝跡	敲石						1			1	3
	SX408 湿地跡	石鏃			1						1	
		剥片			1						1	
I-15	その他	石鏃				1					1	2
		楔形石器カ							1		1	
I-16	SD465 河川跡	石匙カ	1								1	1
計			4	2	5	5	5	1	9	1	32	32

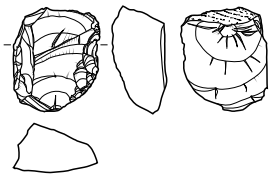
※数字は点数で、(　)内の数字は資料化した点数。

黒曜石製石器

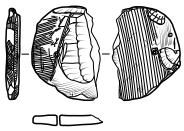

R603(H-24 区 SD110B)


R713(I-1 区 SD253)

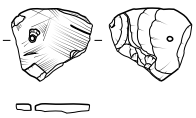

R821(I-9 区 SE384)

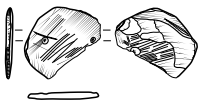

R857(I-10 区 SI341)

石製模造品

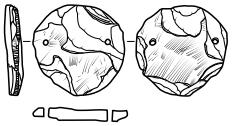

R523(H-19 区 SD43)

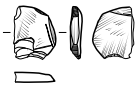
R524(H-19 区 SD43)

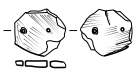

R655(H-21 区 Ⅱ層)


R617(H-26 区 SI196)

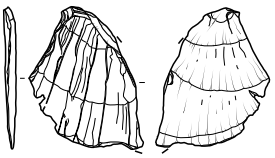
R618(H-26 区 SI196)

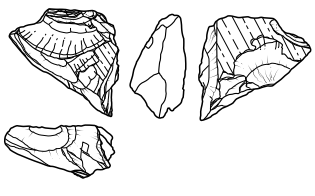

R651(H-27 区 SD180)


R706 (I-1 区 SD253)

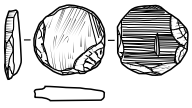

R867(I-11 区 SD373)

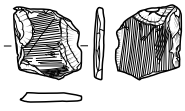
石製模造品の素材剥片と石核


R570(H-24 区 SD110A)

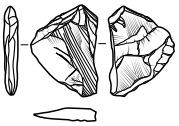

R571(H-24 区 SD110A)

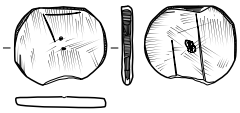
石製模造品の未製品

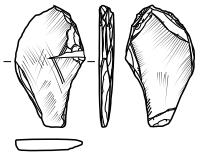

R452(H-14 区 SD4A)


R527(H-19 区 SD43)

R568(H-24 区 SD110A)


R569(H-24 区 SD110A)


R705(I-1 区 SD253)


R721(I-1 区 SD253)

第 199 図　H・I 区出土　黒曜石製石器・石製模造品　※全てS=1/3

る。H-15 区の楔形石器以外の黒曜石製石器は、表面や夾雑物の特徴から加美町の湯の倉産の黒曜石を素材としたものと推定される。

出土した石器の時期は縄文時代と考えられる。ただし、湯の倉産と推定される黒曜石製のスクレイパーや二次加工ある剥片については、古墳時代と推察される（第 199 図）。古墳時代の黒曜石製石器は宮城県中部以北で多く確認されており、トゥールはスクレイパー類に限定され、湯の倉産の黒曜石が主体的に利用される（佐藤 1984、山田晃 2008）。これらは古墳時代前期から後期にかけて確認されるが、特に中期で多く出土している。団子山西遺跡では、遺構に伴うものは僅かだが古墳時代中～後期の土器や中期に特有の石製模造品が出土しており、さらに宮城県北部に位置する地理的な面から、これらの黒曜石製石器が古墳時代中期のものである可能性がある。

【石製模造品】有孔円板 14 点、未製品 5 点、素材剥片 181 点、石核 2 点である（第 49 表）。河川跡からの出土が多く、遺構に伴うものはない。石材は全て粘板岩である。形状が判明したのは全て有孔円板で（第 199 図）、それ以外は剣の未製品の可能性があるもの（R721）1 点のみである。有孔円板は破損しているものが多いが、概ね長さと幅が 30 ～ 40㎜、厚さが 3 ～ 5㎜程度である。出土位置としては、H 区の広範囲に散漫に分布する。

第 49 表　石製模造品とその関係資料の集計

区	遺構	円板	未製品	剥片（素材）	石核	計 1	計 2
H-14	SD4A 河川跡	1(1)		5		6	11
	SD12 河川跡			5		5	
H-15	SD4A 河川跡			7		7	13
	SD9 河川跡			3		3	
	その他			3		3	
H-19	SD43 河川跡	4(2)	1(1)	65		70	79
	SD110A 河川跡			4		4	
	SD42 自然流路跡			1		1	
	その他			4		4	
H-21	SD46 自然流路跡			2		2	3
	その他	1(1)				1	
H-22	SD46 自然流路跡			1		1	10
	その他			9		9	
H-23	SD4・12 河川跡			1		1	1
H-24	SD62 溝跡	1				1	28
	SD110A 河川跡		2(2)	8(1)	1(1)	11	
	SD110B 河川跡			16		16	
H-26 区	SI196 竪穴建物跡	2			1	3	12
	SF189 小溝状遺構群			3		3	
	SX199 性格不明遺構	1				1	
	その他			5		5	
H-27	SD164 溝跡			1		1	7
	SD169 溝跡			1		1	
	SD180 溝跡	1(1)				1	
	SD181 溝跡			1		1	
	SD165 自然流路跡			1		1	
	その他			2		2	
I-1	SD253 河川跡	1(1)	2(2)	6		9	11
	その他			2		2	
I-2	SD253 河川跡			1		1	1
I-4	SD251 溝跡			1		1	25
	SD4C 河川跡	1(1)		17		18	
	SD252 河川跡			4		4	
	SD253 河川跡			1		1	
	その他			1		1	
I-11	SD373 河川跡	1(1)				1	1
計		14	5	181	2	202	202

※数字は点数で、(　)内の数字は資料化した点数。

この他に、H-14 区 SD4A 河川跡（R452）、H-19 区 SD43 河川跡（R527）、H-24 区 SD110A 河川跡（R568・569）、I-1 区 SD253 河川跡（R705・721）から出土したものついては、整形が不十分であること（R527・568・569・721）、穿孔が施されていないこと（R452）や途中であること（R705）から、製作途上の未製品と考えられる。また、H 区を中心に、粘板岩製の剥片（R570）や石核（R571）が出土しており、今回の調査では粘板岩を素材とした剥片石器が認められないこと、石製模造品の石材と同様であることから、これらは石製模造品の素材となる剥片やそれを得るための石核、成形時に生じた剥片と考えられる。出土位置としては、未製品や製作に関連すると考えられる遺物は遺跡の北西側に分布がまとまり、特に H-19 区の西端から I-1・2 区と I-4 区北西部にかけての範囲と H-24 区北西部で出土量が多い（図版 45-22・23）。したがって、この周辺で、素材となる剥片剥離、成形、研磨等による整形、穿孔の一連の製作工程が行われていたと推定される。

これらの時期については、石製模造品が古墳時代中期に多く確認される遺物であることから（村田町教育委員会 1991、佐藤・藤沢・岩見 1993）、古墳時代中期と考えられる。県内で石製模造品が出土した遺跡は、以前に集成が行われている（村田町教育委員会 1991、佐藤・藤沢・岩見 1993）。その後も資料は増加しているが、その中で団子山西遺跡と同様に未製品や剥片の存材から遺跡内での石製模造品

の製作が確認されたものに、美里町駒米遺跡（小牛田町教育委員会 1998）、多賀城市山王遺跡（多賀城市教育委員会 1981）、仙台市鴻ノ巣遺跡（宮城県教育委員会 1974、仙台市教育委員会 2004b）、南小泉遺跡（仙台市教育委員会 1990b・1998a）がある。この他に未製品と推定される石製模造品が出土した遺跡に、仙台市藤田新田遺跡（宮城県教育委員会 1994c）、蔵王町中沢 A 遺跡（蔵王町教育委員会 2007）があり、これらも遺跡内で製作された可能性がある。素材剥片や製作工程の際に生じる剥片、未製品の認識等の問題があり、さらに多くの遺跡で製作されていた可能性があるが、現段階では製作が確認された遺跡数は少なく、遺構に伴わない断片的な出土ではあるが、団子山西遺跡の出土資料は追加事例として位置付けられる。

【石製品】砥石 24 点、紡錘車 4 点、その他の石製品 3 点である（第 50 表）。H-25・26 区からの出土が多い。最も多く出土した砥石には小形から大形まであり、穿孔が施されたもの（第 94 図 3）もある。H-24 区の基本層序Ⅵ層からは、穿孔が施された小形の石製品が出土し、装飾品の可能性がある。器種によって主体となる石材が異なり、砥石は凝灰岩製が最も多く、次に頁岩製と砂岩製、紡錘車は粘板岩製が多い。

第 50 表　石製品の器種と石材との関係

区	遺構	時期	遺物	砂岩	凝灰岩	粘板岩	泥岩	頁岩	計 1	計 2
H-14	SD15 溝跡		砥石		1				1	3
	SD12 河川跡	古代	紡錘車		1(1)				1	
	その他		砥石		1				1	
H-15	その他		砥石	1					1	1
H-24	SK53 土坑	古代以降	砥石		1(1)				1	3
	SD12 河川跡	古代ヵ	砥石			1			1	
	Ⅵ層	縄文時代	その他				1(1)		1	
H-25	SD84 溝跡	13 ～ 14 世紀	砥石	1					1	9
	SD138 溝跡	中近世	砥石	1(1)					1	
	SE87 井戸跡	13 ～ 14 世紀	砥石					1(1)	1	
	SE88 井戸跡	13 ～ 14 世紀	砥石		3(3)				3	
	SD110A 河川跡	古代	砥石		1(1)			1(1)	2	
	その他		砥石		1				1	
H-26	SI196 竪穴建物跡	古代ヵ	砥石		1(1)				1	5
	SX183 竪穴状遺構		紡錘車			1(1)			1	
	その他		紡錘車			1(1)			1	
			その他		1	1			2	
H-27	その他		砥石		1				1	1
I-9	その他		砥石		1				1	1
I-10	SI341 竪穴建物跡	8 世紀後半	砥石		1(1)				1	2
	その他		砥石		1				1	
I-13	SD365 自然流路跡	8 世紀後半	砥石		1(1)				1	1
L-1	SD601 河川跡	中近世	砥石		1				1	1
L-6	SD646 溝跡	中世	紡錘車			1(1)			1	1
L-7	SD656 溝跡		砥石	1				2	3	3
計				24	4	3			31	31

※数字は点数で、(　)内の数字は資料化した点数。

9）金属製品・銭貨・鉄滓

鉄製品、銅製品、銭貨、鉄滓である（第 51 表）。鉄製品は小刀 1 点、刀子 4 点、釘 4 点、毛抜 1 点、その他 6 点、銅製品は煙管 1 点、銅銭 4 点、鉄滓は 19 点出土した。

H-25 区 SD139 溝跡出土小刀（第 64 図 3：R410）は、大衡村の奥州街道で類例が認められる（大衡村教育委員会 2009）。奥州街道で出土した小刀は銅巻きされた柄の片面に七宝繋ぎ文が施され、円の中心に十字が配されている。年代は江戸時代初期から中期と考えられている。R410 は柄に文様が認められず、柄の長さが奥州街道から出土したものより短い。概ね中世以降で近世と推定される。

10）漆製品・木製品・竹製品

漆製品は漆椀、漆片口鉢、木製品は白木皿、曲物の底板、箸、連歯下駄、木錘、杭等、竹製品は笊である（第 52 表）。出土位置は H 区東側と L 区に限られ、特に H-25 区北東部からの出土が多い。

漆椀（第 49 図 6）は H-25 区 SK90 土坑から出土し、口径約 14.4cm、底径 7.3cm、器高約 4.1cm の浅い器形である。内外面に黒漆が施されている。漆片口鉢（第 65 図 1）は H-25 区 SE135 井戸跡から出土し、口径 21.3cm、底径 11.9cm、器高 7.9cm である。自然堆積土最上層でかつ SE135 の中央に正位の状態で検出され、人為的埋土に覆われていた（第 65 図、図版 13-1 ～ 3）。出土状況から、井戸廃絶の行為に関わるものと考えられる。

白木皿（第 42 図 5）と曲物の底板（6）、棒状木製品、笊（7）は H-25 区 SE88 井戸跡から出土した。

第 51 表　金属製品等の集計

区	遺構	時期	鉄製品					銅製品	銭貨			鉄滓	計 1	計 2
			小刀	刀子	釘	毛抜	不明	煙管	熙寧元宝	寛永通宝	不明			
H-15	SD4A 河川跡	近世				1(1)							1	1
H-21	SK44 土坑	中近世										1	1	2
	その他							1					1	
H-23	その他						1						1	1
H-24	SE67 井戸跡	古代以降		1	1(1)				1				3	5
	SD4C 河川跡	近世										1	1	
	その他						1						1	
H-25	SD113 溝跡											1	1	7
	SD139 溝跡	近世	1(1)										1	
	SK90 土坑	13 ～ 14 世紀										1	1	
	SX133 自然堆積層											1	1	
	その他								1			2	3	
H-26	その他						1						1	1
I-6	SD269 溝跡											1	1	1
I-7	SI283 竪穴建物跡	8 世紀後半		1(1)									1	1
I-8	SI295 竪穴建物跡	8 世紀末～ 9 世紀前葉										1	1	2
	その他						1						1	
I-9	SD378 溝跡											1	1	2
	SE384 井戸跡	中近世										1	1	
I-10	SI339 竪穴建物跡	8 世紀後半以降		1(1)									1	9
	SI341 竪穴建物跡	8 世紀後半		1(1)									1	
	SD342 溝跡	9 世紀後半					1						1	
	SK343 土坑	古代以降			2								2	
	その他						1					3	4	
I-11	SD373 河川跡	古代以降										2	2	2
I-14	SX408 湿地跡	古代			1								1	2
	その他											1	1	
I-16	SD465 河川跡	近代									1		1	1
L-1	SD603 溝跡											1	1	1
L-5	その他									1			1	1
L-6	SK644 土坑	中世										1	1	1
計			1	4	4	1	6	1	2	1	1	19	40	40

※数字は点数で、(　)内の数字は資料化した点数。

白木皿は口径約 8.6cm、底径 6.1cm、器高 1.4cm である。曲物の底板（第 33 図 3）は H-24 区 SE67 井戸跡でも出土している。箸（第 181 図 1）は L-6 区 SK644 土坑から出土した。排土で採集された連歯下駄（第 181 図 2）は SK644 に帰属する可能性があり、裏面に円形の窪みが 11 ヶ所認められる。木錘（第 171 図 2）は L-2 区 SD620 溝跡から出土した。

第 52 表　漆製品・木製品等の集計

区	遺構	時期	漆製品		木製品										竹製品	計 1	計 2
			椀	片口鉢	皿	曲物底板	箸	下駄	木錘	手火	板状	棒状	杭	部材か	笊		
H-21	SK44 土坑	中近世										1				1	1
H-24	SE67 井戸跡	古代以降				1(1)										1	2
	SE68 井戸跡	古代以降											1			1	
H-25	SE87 井戸跡	13 ～ 14 世紀								1(1)						1	13
	SE88 井戸跡	13 ～ 14 世紀			1(1)	1(1)						2			1(1)	5	
	SE135 井戸跡	中近世		1(1)												1	
	SK89 土坑	13 ～ 14 世紀									1(1)	1(1)				2	
	SK90 土坑	13 ～ 14 世紀	1(1)								1			1(1)		3	
	SD110A 河川跡	古代								1(1)						1	
L-2	SD620 溝跡	中世							1(1)							1	1
L-6	SK644 土坑	中世					1(1)				1		○			2 以上	3 以上
	その他							1(1)								1	
計			1	1	1	2	1	1	1	2	3	4	1 以上	1	1	20 以上	20 以上

※数字は点数で、(　)内の数字は資料化した点数。

11）動植物遺存体

【動物遺存体】動物骨、焼骨、歯、貝である（第 53 表）。いずれも小片で内容が判明したものは僅かだが、H-24 区 SD4・12 河川跡からウマの歯、H-25 区 SD110A 河川跡からウマの骨、SD116 溝跡から淡水や沼に生息するイシガイ科の貝、L-15 区 SD677 河川跡からウマの脛骨か距骨が

第 53 表　動物遺存体の出土位置

区	遺構	時期	骨	焼骨	歯	貝
H-15	SD4A 河川跡	近世		○		
	SD12 河川跡	古代		○		
	SD49B 河川跡	古代以降		○		
H-21	その他			○		○
H-24	SE67 井戸跡	古代以降	○			
	SD4・12 河川跡	古代～近世	○		○（ウマ）	
	SD110B 河川跡	古代ヵそれ以降	○			
H-25	SD74 溝跡	古代以降	○			
	SD116 溝跡	8 世紀後半	○			○
	SD110A 河川跡	古代	○（ウマ）			
	その他		○（ウマ）		○	
L-15	SD677 河川跡	9 世紀後半	○（ウマ）			

出土している。

【植物遺存体】植物種子が 197 点出土した（第 54 表）。H 区からの出土が 95％を占め、特に H-25 区の SE88 井戸跡（図版 47-10）と SD110A 河川跡からの出土が多い。

第 54 表　植物遺存体の集計

区	遺構	時期	モモ核か	クルミか	ウリ科？	不明	計 1	計 2
H-14	SD4B 河川跡	近世	2	2			4	14
	SD4C 河川跡	近世	1	3			4	
	SD12 河川跡	古代	1	3			4	
	その他		2				2	
H-15	SD4A 河川跡	近世		2			2	6
	SD4・48 河川跡	中近世		1			1	
	SD12 河川跡	古代	1				1	
	SD49B 河川跡	古代以降	2				2	
H-16	その他			1			1	1
H-19	SD110A 河川跡	古代	5			1	6	6
H-21	SD46 自然流路跡	9 世紀後半	7				7	8
	その他			1			1	
H-23	SD12 河川跡	古代	15	1			16	16
H-24	SD4・12 河川跡	古代～近世		3		1	4	8
	Ⅵ層	縄文時代		1			1	
	その他		3				3	
H-25	SD74 溝跡	古代以降	3				3	5
	SD75 溝跡		2				2	

区	遺構	時期	モモ核か	クルミか	ウリ科？	不明	計 1	計 2
H-25	SD139 溝跡	近世	1				1	123
	SE87 井戸跡	13 ～ 14 世紀	13				13	
	SE88 井戸跡	13 ～ 14 世紀	50				50	
	SE136 井戸跡	古代以降	1				1	
	SK89 土坑	13 ～ 14 世紀	11		1		12	
	SK90 土坑	13 ～ 14 世紀	3				3	
	SK147 土坑		1				1	
	SD110A 河川跡	古代	32	1			33	
	SD110B 河川跡	古代かそれ以降	6				6	
	SX144 自然堆積層		1				1	
	その他		2				2	
I-1	SD253 河川跡	古代	1				1	3
	その他					2	2	
I-4	SD4C 河川跡	近世	1				1	2
	SD256 河川跡			1			1	
I-16	SD465 河川跡	近代	3				3	3
L-6	SK644 土坑	中世	2				2	2
計			172	20	1	4	197	197

12）文字資料

①特徴と時期

墨書土器 20 点と刻書土器 6 点である（第 55 表）。墨書土器は H 区のみの出土で、特に H-15 区でややまとまって認められる。判読できたものには、施設等を表す「厨　田人」、「□寺」が 1 点ずつ、人名を表す「中臣」が 2 点、「中臣」の一部であると考えられる「中」と「□臣」が 1 点ずつ、その他として「道」、「木」、「占」、記号が 1 点ずつある（第 200 図）。器種は土師器坏と須恵器坏が主体で、点数は前者が 8 点、後者が 11 点である。「□寺」、「中臣」、「中」、「□臣」、「木」、不明 8 点は外面体部に、「厨　田人」、「道」、「占」、記号、不明 1 点は外面底部に墨書されている。刻書土器（第 14 図 6・7、第 85 図 6、第 139 図 4）はいずれも「×」で、土師器坏や須恵器坏の外面底部に施されている。

時期は、H-25 区 SD110A 河川跡出土の「厨　田人」、刻書土器、I-1・9 区出土の刻書土器が 8 世紀前半、H-14・15・24 区出土の墨書・刻書土器が 9 世紀後半、それ以外は小破片のため不明である。

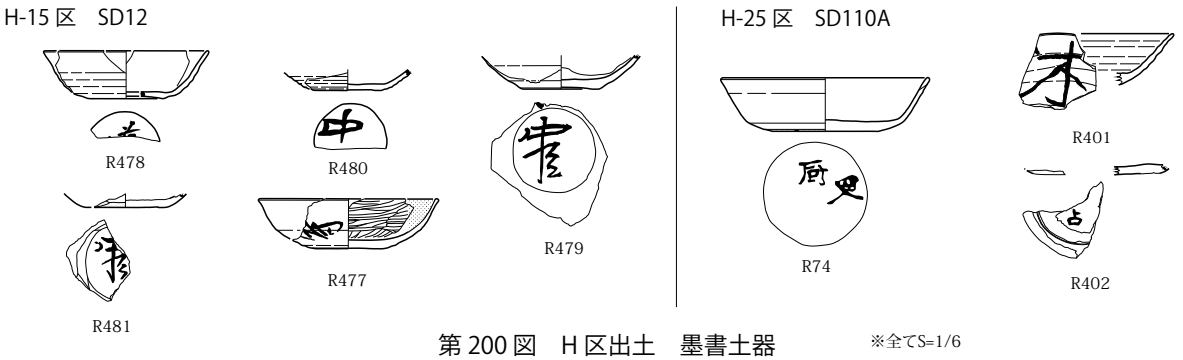
②「厨　田人」墨書土器について

「厨」墨書土器については、官衙内外における恒例および臨時行事あるいは接客等に対しての饗饌による使用のためのもので、その出土地点は、饗饌の場における廃棄場所、またはそれらの饗饌を弁備する厨施設であることが指摘されている（平川 2000）。「田人」については、田植えの労働力を示す用語で、「田人」墨書土器は、農繁期に必要な労働力を確保するために、その報酬として飲食物を提供する際に使用された可能性がある（三上 2003）。この飲食行為は、労働力を編成する側と提供する側の共同で行われる一種の祭祀行為と考えられている（三上 2003）。したがって、SD110A より出土した「厨　田人」墨書土器は、8 世紀前半の団子山西遺跡においてこれらの行為が行われ、その際に使用された土器を SD110A に廃棄した可能性を示すものと考えられる。H-25 区の SD110A は、新田柵跡の中枢と推定される南西部に近い位置にあり、新田柵は 8 世紀前半には機能していたと考えられていることから（田尻町教育委員会 2004、大崎市教育委員会 2009a）、この墨書土器の使用に、新田柵跡に関係する人々が含まれていた可能性がある。

第 55 表　文字資料の集計

区	遺構	墨書土器												刻書土器		計 1	計 2
		厨　田人	□寺	中臣		中	□臣	道	木	占		不明		×			
		須恵器	土師器	土師器	須恵器	須恵器	土師器	須恵器	須恵器	須恵器	須恵器	土師器	須恵器	土師器	須恵器		
H-14	SD4A 河川跡														1	1	3
	SD12 河川跡													2(2)		2	
H-15	SD4A 河川跡											2	1			3	16
	SD12 河川跡		1(1)	2(1)	1(1)	1(1)	1	1(1)				2	4			13	
H-24	SD110B 河川跡										1					1	1
H-25	SD110A 河川跡	1(1)							1(1)	1(1)					1	4	4
I-1	その他														1(1)	1	1
I-9	SD383 溝跡														1(1)	1	1
計		1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	4	5	2	4	26	26

※数字は破片数で、(　)内の数字は資料化した点数。



第 200 図　H 区出土　墨書土器　　※全てS=1/6

13）その他

近世以降の陶磁器、ガラス製品がある（第 56 表）。陶磁器は、遺構出土が 14 点で、この内 6 点が SD4 河川跡出土である。SD4B では鉄釉の陶器擂鉢（第 14 図 4）、SD4C では染付の碗・皿（第 14 図 3）が出土している。擂鉢は近世、染付皿は肥前産で蛇ノ目凹形高台であることから、17 世紀末以降と考えられる（大橋 1988）。I-16 区の SD465 河川跡から出土したガラス製品は、「丹平商会」の「直治水」という商品で、明治 30 年以降のものである。

第 56 表　近世以降の陶磁器の集計

区	遺構	陶器	磁器	計
H-14	SD4 河川跡	1(1)	1(1)	2
	その他	2	4	6
H-15	SD29 溝跡	1		1
	SD49 河川跡	1		1
	その他	1		1
H-16	その他	1	1	2
H-17	その他	3		3
H-19	その他	3	1	4
H-21	その他	1	4	5
H-23	SD4 河川跡	1		1
H-24	SD4 河川跡	2	1	3
H-25	SX133 自然堆積層	1		1
	SX144 自然堆積層	1		1
	その他	11	5(1)	16
H-26	その他		3	3
H-27	SD164 溝跡		2	2
	その他	2	1	3
H-29	その他		2	2
H-30	その他		1	1
I-4	その他	1	2	3
I-9	その他	5		5
I-10	SD358 自然流路跡	1		1
	その他	1		1
I-14	その他	1		1
I-16	その他	1		1
I-17	その他	6		6
I-18	その他	1		1
L-1	その他	1		1
L-2	その他	2	1	3
L-4	その他	2	2	4
L-5	その他	4	2	6
L-7	その他		2	2
L-8	SX661 自然堆積層	1		1
	その他	1		1
L-15	その他	2	6	8
計		62	41	103

※数字は点数で、(　)内の数字は資料化した点数。

(2) 各時代の遺物の内容と性格

1）縄文時代

基本層序Ⅵ層は、出土遺物から早期後葉から前期前葉、晩期後葉の時期と考えられ、その中でも晩期後葉が主体である。これらの特徴は、北西側に隣接する北小松遺跡の基本層序Ⅵ層と同様である。

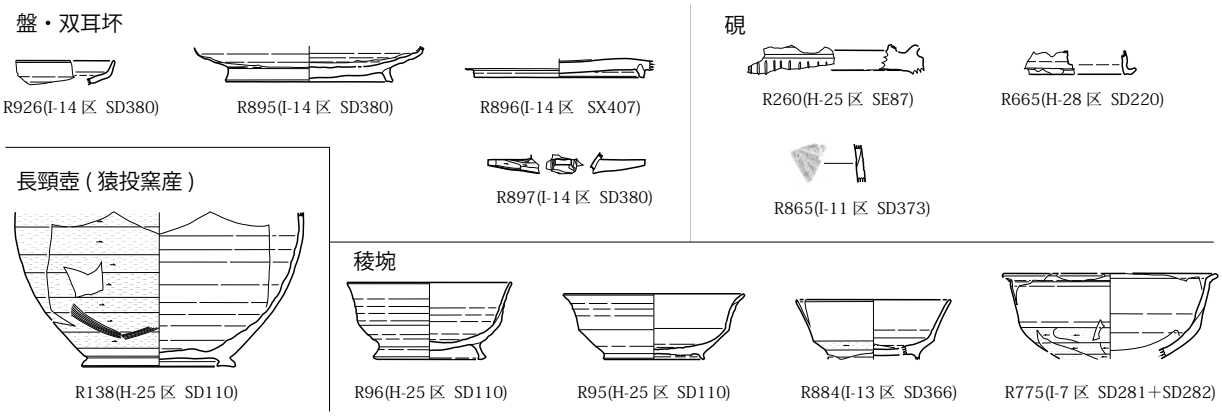
2）古墳時代

中期と後期の遺物が出土したが、遺構に伴うものは少ない。中期の遺物には、土師器、須恵器、石製模造品とその製作関連資料、この時期の可能性がある黒曜石製石器がある。これらは共伴していないが、県北部地域の遺跡で確認される遺物の内容と共通しており、特に、須恵器の出土や石製模造品の製作の痕跡は注目される。

3）古代

土器、瓦、硯、石製品、木製品、鉄製品、動植物遺存体、文字資料がある。この中で、8 世紀から 9 世紀前半の特徴的な遺物は、須恵器双耳坏や盤、稜埦、猿投窯産の長頸壺、墨書土器、硯、瓦である（第 201 図）。双耳坏や盤は後述するが 8 世紀末から 9 世紀前半と推定される I-9・14 区 SD380 溝跡からの出土である。これらは、城柵官衙遺跡で一定量出土し、それらを特徴付ける遺物の一つであることが指摘されている（佐藤 2015、村田 2016）。一方、硯や瓦は出土量が少なく、遺構に伴っておらず、須恵器は一定量出土した遺構があるが、全体的に多くはなく、遺物に城柵官衙的な様相は少ない。したがって、H・I・L 区では、地点的に新田柵跡と関連する可能性がある遺物が出土しているが、それ以外は一般的な集落と同様の遺物構成となっている。

9 世紀後半以降で特徴的なものは、I-6 区 SK280 土坑に一括廃棄された赤焼土器坏と土師器坏・高台坏である（第 195 図）。両者の坏には器形や法量が類似するものがある。赤焼土器については、油煙が付着した 1 点以外で内面に摩耗痕が認められるものはない。10 世紀以降に特徴的とされる、短期の使用の後に廃棄された土器と推定される（村田 1995）。



第 201 図　H・I 区出土　古代の特徴的な遺物

※全てS=1/6

4）中世

磁器、中世陶器、石製品、漆製品、木製品、竹製品が出土したが、このうち遺構に伴うのは、H-25 区 SD84 溝跡、SE87・88・97 井戸跡、SK89・90 土坑、L-6 区 SD646・652・654 溝跡、L-2 区 SD620 溝跡出土遺物である。遺物の構成は、中世陶器の他に SE88 が石製品（砥石）、木製品（白木皿・曲物底板）、竹製品（笊）、SE87 が石製品（砥石）と木製品（手火）、SK90 が漆製品（漆椀）と木製品（部材）、SK89 が木製品（板状・棒状）、SD620 が青磁と木製品（木錘）である。遺物には奢侈品は認められず、その内容はいずれも日常的な生活道具と考えられ、したがって一般的な集落の要素を持った遺物として位置付けられる。

2. 遺構

検出した遺構は、道路跡、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、材木塀跡、柱列跡、土器埋設遺構、溝跡、井戸跡、土坑、小溝状遺構群、河川跡、自然流路跡、湿地跡等である。これらについて、時期と特徴を記述する。

(1) 時期

主要な遺構の重複関係を第 202・203 図に示した。H・I・L 区では、古墳時代、古代、中世、近世以降の遺構が確認できる。以下、時代ごとに重複関係と出土遺物から各遺構の時期を検討する。なお、ここで対象としなかった遺構の時期については、第 4 表に記載し記述を省略した。

1) 古墳時代

H-24 区 SD73 溝跡、H-26 区 SX194 性格不明遺構、H-30 区 SK228 土坑、I-1 区 SD257 河川跡である。時期は、出土遺物より SD73 が中期古段階、SX194、SK228、SD257 が中期新段階である。

2) 古代

遺構の種類ごとに記述する。

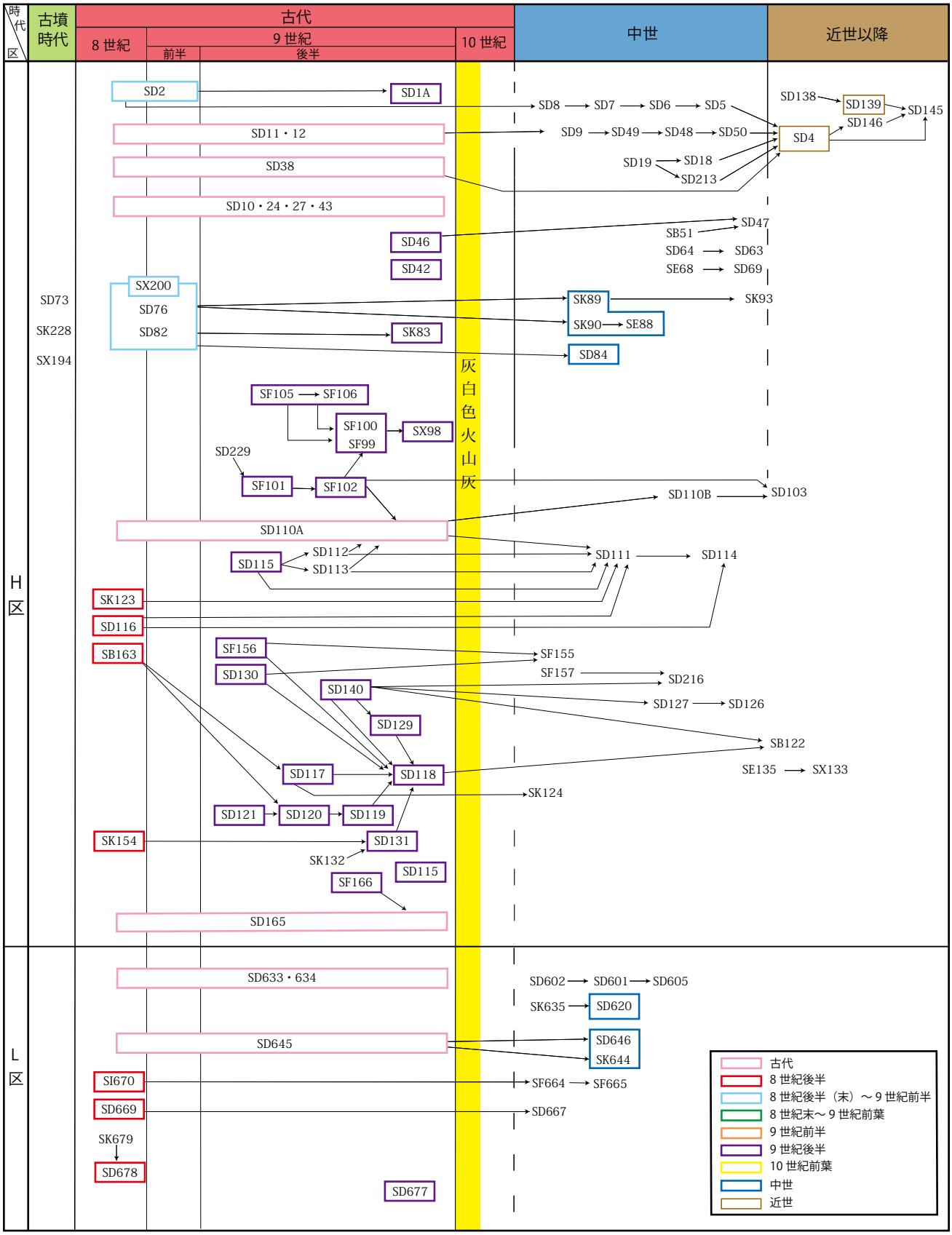
①道路跡

H・I 区の南北方向 1 条（SX200）、I 区の東西方向 1 条（SX400）である。

【H-25区、I-16区：SX200】重複関係より H-25 区 SD82 道路側溝が、堆積土上層に灰白色火山灰層が認められる SK83 土坑より古い。また、SD82B 東側溝の堆積土にも灰白色火山灰層が認められる。遺物は B 期の各道路側溝から出土し、非ロクロ調整の土師器埦・甕、須恵器坏・高坏・高台坏・甕である（第 39・110 図）。高坏（第 39 図 1）は、SD76B と SD82B の堆積土から出土したものが接合している。土師器や須恵器高台坏は 8 世紀代、高坏の類例は 8 世紀末から 9 世紀初頭に位置付けられる多賀城市多賀城跡 SK2321 土壙 9 層（宮城県多賀城跡調査研究所 1996）で確認され、同様の年代と推定される。須恵器坏はいずれも底部の小破片で、回転ヘラケズリや手持ちヘラケズリの再調整が認められる。また、I-9 区の掘立柱建物跡群との方向の類似から、建物群の造営方向に道路跡が影響したと考えられ、後述する掘立柱建物跡群の年代観を考慮すると、B 期の道路側溝は 8 世紀代に造成され、少なくとも 9 世紀前半までは機能していたと考えられる。

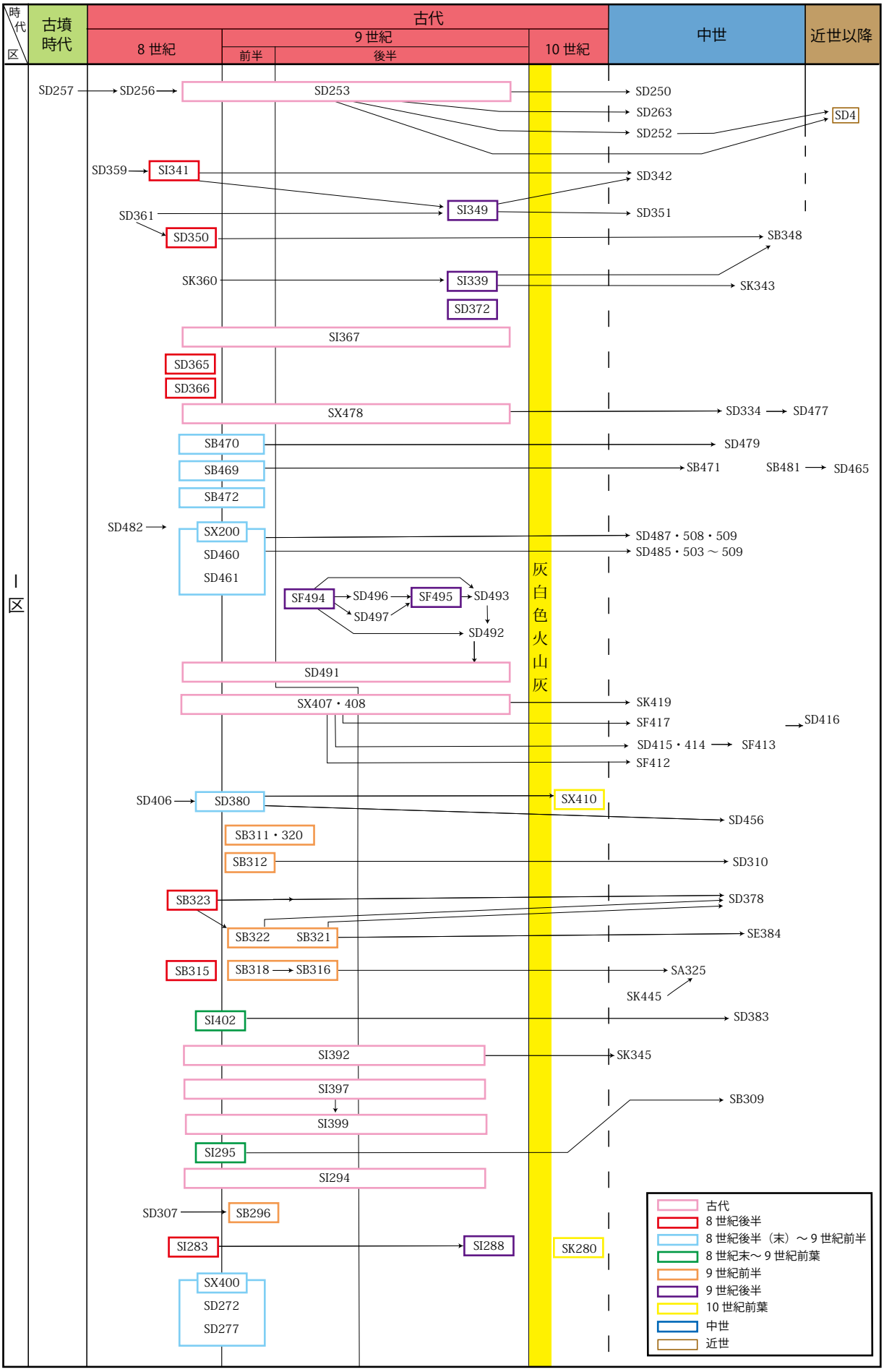
なお、SK83 では、灰白色火山灰層の下位の堆積土から、8 世紀後半頃と推定される非ロクロ調整の土師器坏、口径に対して底径が大きく器高が小さい器形（以下、皿形とする）で、底部の切り離しが回転ヘラ切りの須恵器坏（第 45 図 1）が出土している。SK83 は、SD82B が自然堆積で埋まった後に掘り込まれており、その機能時期は B 期の年代観から 9 世紀前半以降の 9 世紀後半頃と推定される。したがって、SK83 出土遺物は SD82B に由来する遺物の可能性が考えられ、ここから、SX200B 期は 8 世紀後半には機能していたと推定される。A 期については、出土遺物が僅かで年代を検討できるものがなく、8 世紀後半頃かそれ以前と考えられる。

【I-6区：SX400】出土遺物が僅かであるが、ロクロ調整の土師器が認められないことから 8 世紀代には機能していたと推定される。詳細な検討は平成 27 年度調査の報告で行う。



※古代以降の遺構番号に色付きの枠が無いものについては、詳細な時期が不明で中世か近世の判別を行えていない。

第 202 図　H・L 区　主要な遺構の重複関係



※古代以降の遺構番号に色付きの枠が無いものについては、詳細な時期が不明で中世か近世の判別を行えていない。

第 203 図　Ⅰ区　主要な遺構の重複関係

②掘立柱建物跡

建て替えを含めると、H区で1棟（SB163）、I区で18棟（SB296・311AB・312ABC・315・316AB・318・320AB・321～323・469・470・472）の計19棟である。

【H-25区：SB163】出土遺物は小破片で年代の検討ができない。後述するSD117・120自然流路跡より古く、SD116溝跡との関係から、8世紀後半の可能性がある。

【I-8区：SB296】柱掘方の特徴から、古代の建物跡と考えられる。掘方埋土からロクロ調整の土師器坏が出土しており、9世紀代と推定される。

【I-9区：SB311・312・316・318・320～322】位置や方向、掘方埋土が類似し、柱筋が揃うものがあることから、大きく捉えて同時期と考えられる。この中で、SB312C、SB311B、SB321の掘方埋土から土器が出土した。SB312Cの土師器鉢（第128図1）は、非ロクロ調整で8世紀代と考えられる。SB311Bの土師器坏（第126図2）は、ロクロ調整で器壁が薄く口縁部が外反する。口縁部に対して器高が大きい器形と推定され、9世紀代の土器群で特徴的である。SB321の須恵器坏（第131図1）は、底部の切り離しが回転ヘラ切りで、同様の特徴を持つ坏は、8世紀後半の新田柵跡SI73b住居跡（田尻町教育委員会1998）から、9世紀前半の栗原市原田遺跡SI31住居跡（宮城県教育委員会2009b）まで確認される。高台坏（第131図2）は、回転糸切りで底部が切り離された後に底部外周に回転ヘラケズリが施され、その後に高台部が付けられる。坏部の底部切り離しに注目すると、8世紀第4四半期頃とされる石巻市関ノ入遺跡第5群土器（河南町教育委員会1993）で類例が認められる。

柱痕跡から出土した土器は、SB316Aの須恵器坏（第134図1）で、底部の切り離しが回転糸切り無調整である。このような特徴を持つ坏は、石巻市須江窯跡群では8世紀第4四半期以降に主体になることが指摘され（河南町教育委員会1993）、多賀城跡周辺では、8世紀末以降に確認できるようになり、9世紀前半には一定量存在し、9世紀後半には主体となる（吾妻2001、仙台市教育員会1987）。

したがって、SB311B・312C・316A・321は、9世紀代に建造され、SB318・320・322も同様の時期と考えられる。

【I-16区：SB469・470・472】柱掘方の特徴から、古代の建物跡と考えられる。これらは、SX200南北道路跡と方向が類似しており、SX200と同様に8世紀後半から9世紀前半と推定される。

③竪穴建物跡

建て替えを含めると、H区で1棟（SI196）、I区で19棟（SI283・288・294・295AB・339AB・341・349・367・392・394～397・399・401・402・455）、L区で1棟（SI670）の計21棟である。このうち、H-26区のSI196、I-9区のSI392・394～397・399・401・455については遺構確認のみ、I-8区SI294、I-13区のSI367については出土遺物が僅かなため、詳細な年代は不明である。

竪穴建物跡については、SX200南北道路跡と方向が類似し概ね北を向くものと、SX200より方向が東に振れるものの2種類が認められる。前者にはSI283・295・341・402・670、後者にはSI288・339・349がある。重複関係が認められたものでは、前者より後者の方が新しい。したがって、前者と後者の大きく2つに分けて、年代を検討する。

【I-7区：SI283、I-8区：SI295、I-9区：SI402、I-10区：SI341、L-15・16区：SI670】SI283 では、機能時の年代を示すものに K1 埋土から出土した非ロクロ調整の土師器坏（第 156 図 5）がある。外面に段の付かない坏で、8 世紀代と考えられる。掘方埋土からは非ロクロ調整の土師器坏（1・2）・甕（4）が出土しており、これらも 8 世紀代と推定される。明確に 8 世紀前半と考えられる土器が出土していないことから、SI283 は 8 世紀後半頃と推定される。なお、K1 埋土から出土した坏（5）は SI283 よりも新しい SI288 の K1 埋土出土土器と接合したもので、本来的に SI283 の K1 に含まれていた土器が、SI288 の K1 掘削時と埋め戻し時に埋土中に流入したものと推定される。

SI295 では、機能時の年代を示すものにカマド堆積土、K3 埋土、P6・7 堆積土、煙出しピットから出土したロクロ調整の土師器甕（第 153 図 3・4・6）、須恵器蓋（2）がある。土師器甕（3・6）は、口縁部が短く外傾し、端部が帯状となる。胴部に、平行タタキの後にロクロナデが施されているものがある（6）。土師器甕の類例は、8 世紀末から 9 世紀初頭に位置付けられている色麻町上新田遺跡第 1・5・8 住居跡（宮城県教育委員会 1981b）、伊治城跡 SI173 住居跡（築館町教育委員会 1991）で確認される。掘方埋土から出土したロクロ調整の土師器坏（1）は、底部全面に回転ヘラケズリ再調整が行われており、類例は 8 世紀後半と推定される市川橋遺跡 SX1351A 河川跡（多賀城市教育委員会 2003）から、9 世紀後半の栗原市西手取遺跡第 3・4 号住居跡（宮城県教育委員会 1980a）まで認められる。年代を検討できる土器が少量であるため、SI295 の年代は、幅を持たせて 8 世紀末から 9 世紀前葉と考えられる。

SI402 では、機能時の年代を示すものに床から出土した土師器甕（第 139 図 2・3）、須恵器蓋（1）がある。須恵器蓋は口径 17.2cm、器高 4.5cm 程度と大形である。口縁部はやや外反して端部が鋭く下方内側へ折れ曲がる。天井部は平坦で回転ヘラケズリが施され、つまみは宝珠形である。類例は 8 世紀末から 9 世紀初頭に位置付けられている大衡村彦右エ門橋窯跡 SK1 土壙（宮城県教育委員会 1996a、東北古代土器研究会 2008）で確認される。年代を検討できる遺物が須恵器蓋のみであるため、SI402 の年代は、幅を持たせて 8 世紀末から 9 世紀前葉と考えられる。

SI341 では、機能時の年代を示すものに P3 堆積土から出土した須恵器坏（第 94 図 5）がある。坏は皿形で底部の切り離しが回転ヘラ切りであり、8 世紀後半と考えらえる。また、K1 と掘方埋土から出土した非ロクロ調整の土師器甕（2・4）は、どちらも頸部に段がつき、8 世紀代のものと考えられる。したがって、SI341 は 8 世紀後半と考えられる。なお、K1 と掘方埋土との接合が確認できた土師器甕（2）については、本来的には掘方埋土に含まれていたものが K1 掘削と埋め戻し時に埋土中に流入したものと推定される。

SI670 では、機能時の年代を示すものに床から出土した土師器坏（第 186 図 1）・埦（3）・甕（2）がある。坏は外面の体下部に稜が付き、体部が内湾しながら立ち上がる器形、埦は平底で、体部が内湾しながら立ち上がり、口縁部が内傾する器形である。また、カマド袖の構築材として利用された土師器甕（4・5）は長胴形で、胴部外面にハケメが施される。これらは造成時の年代を示すが、SI670 には改修が認められず長期に利用されてはいないことから、大きく捉えると機能時と同様の年代を示すと考えられる。類似する土器群は、8 世紀後半に位置付けられている栗原市御駒堂遺跡第 22 号住居跡（宮城県教育委員会 1982）、経ヶ崎遺跡 SI6・40 住居跡（高清水町教育委員会 2000）で認められ、

SI670 も 8 世紀後半と考えられる。

以上より、SI283・295・341・402・670 の年代は、8 世紀後半から 9 世紀前葉で、SX200 の推定される機能時期と一致する。

【I-7区：SI288、I-10区：SI339・349】SI288 では、掘方埋土と K1 埋土から須恵器坏（第 157 図 1）、**SI339** では、A 期の主柱穴である P1 の掘方埋土から須恵器坏（第 91 図 1）が出土した。いずれも皿形で、底部の切り離しが回転ヘラ切りであり、8 世紀後半と推定される。**SI349** は、年代を推定できる遺物が認められない。重複関係では、SI288 が SI283 より、SI349 が SI341 より新しく、8 世紀後半以降で 9 世紀代と考えられる。

これらは、SX200 と方向が異なることから、SX200 廃絶後の 9 世紀後半頃と推定される。

④材木塀跡・土器埋設遺構・竪穴状遺構

I-9 区 SA404 材木塀跡、I-14 区 SX410 土器埋設遺構、I-17 区 SX478 竪穴状遺構である。SA404 と SX478 は年代を検討できる遺物がなく、古代と推定されるが詳細は不明である。

SX410 は、堆積土中に灰白色火山灰を含む SD380 溝跡より新しく、10 世紀前葉頃と考えられる。埋納された須恵器長頸壺（第 121 図 7）は、胴部上半に最大径がある球胴形である。胴部外面に平行タタキの後ロクロナデ、胴下部に回転ヘラケズリが施される。頸部の接合は 3 段構成である。焼成後に口頸部と底部が剥離されている。類例は 8 世紀末から 9 世紀第 1 四半期に位置付けられている関ノ入遺跡 11 号窯跡（河南町教育委員会 1993）で確認される。したがって、SX410 の長頸壺も 8 世紀末から 9 世紀第 1 四半期のものと推定され、製作年代と埋納された年代に時間差がある。

⑤溝跡

H 区で 1 条（SD116）、I 区で 4 条（SD350・366・372・380）、L 区で 2 条（SD669・678）の計 7 条である。この他に、H-25 区 SD112・113・229、I-8 区 SD307、I-10 区 SD359・361、I-14 区 SD406、I-15 区 SD492・493・496・497、I-18・19 区 SD482 も、重複関係から古代の可能性がある。

【H-25区：SD116】先述した遺物の検討により、8 世紀後半と考えられる。底・底直上と堆積土出土土器ともに同様の年代であったことから、相対的に短期間で埋まったと推定される。

【I-9・14区：SD380】堆積土上層に灰白色火山灰層が認められ、それより下位の堆積土からロクロ調整の土師器坏（第 121 図 1・2、第 142 図 1）、須恵器双耳坏（第 121 図 3）・盤（4・5）・鉢（6）・甕（第 142 図 2）が出土した。須恵器双耳坏は、栗原市伊治城跡 SI173 住居跡（築館町教育委員会 1991）や大崎市名生館官衙遺跡 SK1167 土壙（古川市教育委員会 1990）、盤は、大衡村亀岡遺跡第 1 号竪穴住居跡（斉藤ほか 1978）で出土しており、これらはいずれも 8 世紀末から 9 世紀初頭に位置付けられている。土師器坏（第 142 図 1）は底部の切り離しが回転糸切り無調整で、器形は SB311B 掘方埋土出土坏と類似しており、9 世紀代と考えられる。したがって、SD380 は、8 世紀末から 9 世紀前半と推定される。

【I-10区：SD350】堆積土から須恵器坏（第 96 図 1）・甕（2）が出土した。須恵器坏は皿形で、底部の切り離しが回転ヘラ切りであり、8 世紀後半と考えられる。したがって、SD350 は 8 世紀後半と推定される。

【I-11区：SD372】堆積土からロクロ調整の土師器甕（第 98 図 2）、須恵器坏（1）が出土した。土師器甕は、

口縁部が短く外傾し、端部が帯状となる。須恵器坏は口径に対して器高が大きく、体下部には回転ヘラケズリが施される。底部の切り離しは回転糸切り無調整である。類例は、9 世紀後半とされる大和町中峯遺跡第 10 号住居跡（宮城県教育委員会 1985）で確認され、SD372 の年代も 9 世紀後半と考えられる。

【I-13区：SD366】堆積土から、非ロクロ調整の土師器坏（第 104 図 2・3）・埦（4）、須恵器坏（5～7）・稜埦（8）が出土した。土師器坏は平底で内外面に段は認められない。埦も平底で、体部が内湾して立ち上がり口縁部が内傾する。須恵器坏は、皿形で底部の切り離しが回転ヘラ切りである。これらは SD116 出土土器と類似しており、8 世紀後半と考えられる。

【L-15・16区：SD669・678】一連の溝跡と推定される。SD678 の堆積土から非ロクロ調整の土師器坏（第 187 図 1）、SD669 の堆積土から須恵器坏（2）が出土した。土師器坏は外面に稜が付き底部が丸底である。須恵器坏は皿形で、底部の切り離しが回転ヘラ切りであり、8 世紀後半と考えられる。したがって、SD669・678 の年代は 8 世紀後半と推定される。

⑥土坑

H 区で 3 基（SK83・123・154）、I 区で 1 基（SK280）の計 4 基である。この他に、H-25 区 SK132、I-10 区 SK360、L-15 区 SK679 も重複関係から古代の可能性がある。

SK83 は、SX200 南北道路跡の中で述べた通り、9 世紀後半と考えられる。

SK123 では、堆積土から非ロクロ調整の土師器甕と須恵器坏（第 67 図 1）が出土した。土師器甕の頸部には段があり、胴部にはヘラケズリが施される。須恵器坏は皿形で、回転ヘラ切りで底部が切り離された後に体下部から底部外周に手持ちヘラケズリが施される。類例は 8 世紀後半に位置付けられる栗原市原田遺跡 SI70 住居跡（宮城県教育委員会 2009b）で確認され、SK123 の年代も 8 世紀後半と考えられる。

SK154 では、堆積土や埋土から非ロクロ調整の土師器坏（第 67 図 2）・甕、須恵器坏（3）・高台坏（4）・蓋（5・6）が出土した。土師器坏は平底で体部に段が付かない器形と推定される。甕の頸部には段があり、胴部外面にはヘラケズリが施される。須恵器坏は皿形で、底部の切り離しが回転ヘラ切り、高台坏の坏部の切り離しも回転ヘラ切りである。蓋は器高が大きく、口縁端部が短く折れ、つまみは扁平な宝珠形である。土師器坏と須恵器坏は SD116 出土土器と類似する。須恵器蓋の類例は、8 世紀後半ないし 8 世紀末から 9 世紀初頭に位置付けられている大衡村彦右エ門橋窯跡 SK1 土壙（宮城県教育委員会 1996a）、SR1 窯跡（宮城県教育委員会 1997a）で確認される。SK154 ではロクロ調整の土師器が出土していないことから、8 世紀後半と考えられる。

SK280 は、先述した遺物の検討により 10 世紀前葉と考えられる。なお、埋土に灰白色火山灰が認められず、その関係は不明である。

⑦小溝状遺構群

H 区で 8 ヶ所（SF99～102・105・106・156・166）、I 区で 2 ヶ所（SF494・495）である。いずれも年代を推定できる遺物が出土しておらず、重複関係と方向を基に検討する。

H-25 区の **SF99～102・105・106** には、北西―南東方向で SD110A 河川跡に平行するもの（SF105・

106）→北東―南西方向で SD110A に直行するもの（SF99～102）→ SD110A 河川跡・SX98 自然流路跡か→灰白色火山灰という順で重複関係が認められる。H-25 区の **SF156** は SF105・106 と方向が類似し、重複関係では 10 世紀前葉以前と推定される SD118 自然流路跡より古い。H-27 区の **SF166** は、堆積土に灰白色火山灰を含む SD165 自然流路跡より古い。

I-15 区の **SF494・495** には、北東―南西方向で SD491 自然流路跡に平行するもの（SF494）→北西―南東方向で SD491 に直行するもの（SF495）→ SD492・493 溝跡→ SD491 自然流路跡→灰白色火山灰という順で重複関係が認められる。

これらはいずれも灰白色火山灰降下以前で、SX200 南北道路跡と方向が異なることから道路廃絶以降と推定され、概ね 9 世紀後半以降で 10 世紀前葉以前と推定される。

⑧河川跡 ・ 自然流路跡 ・ 湿地跡

河川跡・自然流路跡が H 区で 27 条（SD1A・2・10・11・12・24・27・37・38・42・43・46・110A・115・117～121・128～131・140～142・165）、I 区で 4 条（SD253・365・491・511）、L 区で 4 条（SD633・634・645・677）、湿地跡が I 区で 1 ヶ所（SX407・408）である。いずれも堆積土に灰白色火山灰層が認められる。この他に I-1 区 SD256 河川跡は重複関係から古代の河川跡、H-25 区 SX98・104 は堆積土の特徴から自然流路跡の一部の可能性がある。このうち、SD10・11・633・634・645 河川跡、SD24・27・37・38・491・511 自然流路跡については、年代を推定できる遺物が出土しておらず、堆積土に灰白色火山灰が認められることから 10 世紀前葉以前と考えられる。河川跡、自然流路跡、湿地跡の順に記述する。

A. 河川跡

【H-1区：SD1A 、H-1・11区：SD2】SD1A は、底部の切り離しが回転糸切り無調整のロクロ土師器坏（第 8 図 1）が出土しており 9 世紀後半、**SD2** は SD1 より古く、底部の切り離しが回転ヘラ切りの須恵器坏（第 8 図 3）が出土しており、8 世紀後半から 9 世紀前半頃と考えられる。

【H-14・15・23～25区：SD12、H-19区：SD43、I-1・2・4区：SD253】SD12・43・253 は、位置関係や堆積土の特徴から一連のものと推定され、H-19 区と I-2・4 区の間で合流し、それより東側の流路は SD12 のみになると推測される。なお、底面まで調査したのは H-15 区 SD12 の 1 ヶ所である。

SD12 では、9 世紀後半と考えられる底部の切り離しが回転糸切り無調整のロクロ土師器坏（第 14 図 5～7、第 17 図 4・8）と須恵器坏（第 17 図 2・3・5～7）、**SD43** では、8 世紀前半頃と考えられる体下部から底部全面に回転ヘラケズリ再調整が行われた須恵器坏（第 21 図 1）、**SD253** では、I-1 区で、9 世紀後半から 10 世紀前葉と考えられる底部の切り離しが回転糸切り無調整のロクロ土師器坏・高台坏（第 84 図 4～7）が出土している。この他に、非ロクロ調整の土師器が出土しており、8 世紀前半から 10 世紀前葉まで河川として機能していたと推定される。

【H-19・24・25区：SD110A】 H-25 区出土土器については遺物の検討で先述した通りであり、8 世紀前半から 10 世紀前葉と考えられる。その他、H-19 区では 9 世紀後半と考えられる底部の切り離しが回転糸切り無調整の須恵器坏（第 21 図 5）、H-24 区では非ロクロ調整の土師器や古墳時代中期の遺物が出土している。

【L-1・6・15区：SD677】底部の切り離しが回転糸切り無調整の須恵器坏が出土しており、9 世紀後半と考えられる。

B. 自然流路跡

【H-19区：SD42、H-21・22区：SD46、H-27区：SD165】SD42・46 では、底部の切り離しが回転糸切り無調整の土師器坏が出土しており、9 世紀後半と考えられる。SD165 では、非ロクロ調整で平底の土師器坏と須恵器坏（第 75 図 4）が出土している。須恵器坏には、底部全面に手持ちヘラケズリ再調整が施されたものと、底部切り離しが静止糸切りで体下部から底部外周に回転ヘラケズリ再調整が施されたもの、回転ヘラ切りの後にナデが施されたものがあり、これらは 8 世紀代と考えられる。したがって、SD165 は 8 世紀代かそれ以降と推定される。

【H-25区：SD115・117～121・128～131・140～142、SX98・104】堆積土が SD110A 河川跡と類似することから、これらは灰白色火山灰降下以前の遺構と考えられる。9 世紀後半以降と推定された SF156 よりも新しいことから、これらも 9 世紀後半以降 10 世紀前葉以前と考えられる。なお、出土遺物には 8 世紀代の土師器坏（第 68 図 2）、須恵器坏（3）がある。

【I-13区 SD365】須恵器坏（第 104 図 9・10）・高台坏（11）が出土した。坏は、回転ヘラ切りで底部が切り離された後に体下部から底部外周に手持ちヘラケズリが施されるものと、ナデが施されるものがある。高台坏は、底部の切り離しが回転糸切り無調整である。これらは 8 世紀後半と考えられる。

C. 湿地跡

I-14・15 区 SX407・408 では、小破片のものが多いが、非ロクロ調整の土師器坏・甕、ロクロ調整の土師器坏、底部全面に再調整が施された須恵器坏が出土している。したがって、8 世紀から 9 世紀と考えられる。

3）中世

溝跡は、H 区 1 条（SD84）、L 区 4 条（SD620・646・652・654）の計 5 条、井戸跡は H 区 3 基（SE87・88・97）、土坑は H 区 2 基（SK89・90）である。

H-25 区の SD84、SE88、SK89・90 は、SE88 と SK90 に重複関係があるが、出土遺物から 13～14 世紀と考えられる。その他の遺構は、出土遺物が少なく概ね中世と考えられる。また、出土遺物はないが堆積土の類似から、SE96 も中世の可能性がある。L-6 区の SK644 は古代の河川跡より新しく、中世の可能性がある。

（2）各時代の遺構の特徴

1）古墳時代

SD73 溝跡は、上幅 1.6～1.7m、下幅 0.9～1.1m、深さ 0.43m の規模だが、検出長が 1.8m と僅かであり、周辺の調査区からも延長部分は確認できておらず性格は不明である。SX194 性格不明遺構は長軸 2.1m、短軸 0.7m 以上、SK228 土坑は長軸 0.9m、短軸 0.8m でどちらも不整形である。精査を行っておらず、これらの詳細も不明である。

2）古代

道路跡、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、材木塀跡、土器埋設遺構、溝跡、土坑、小溝状遺構群、河川跡、自然流路跡について、個別に特徴をまとめその位置付けを検討する。そして、これらの中で遺構群として認識できるものについては、その性格を推察する。

①特徴

A. 道路跡

SX200 南北道路跡と SX400 東西道路跡を検出したが、ここでは SX200 を対象とする。SX200 の規模は、道路幅が側溝心々で 7.0 ～ 9.7m、B 期の側溝の上幅が 0.35 ～ 1.4m、深さは 0.1 ～ 0.5m である（第 57 表）。方向は北で東に 3 ～ 4° 偏る。1 度全面的に改修されている。路面舗装については、調査した範囲では残りが悪くその有無を確認できなかった。検出長は、未調査部分を含めて約 295m で、施工された範囲はさらに南北に延長すると考えられる。検出した道路跡の北端を北側に延長すると、新田柵跡の南辺外郭施設に直交し、さらに北側に延長すると軒丸瓦が採集されている大崎八幡神社に到達する。南側がどこまで延長するかは不明だが、仮に SX400 の西側延長部分との接点まで延びると想定すると、長さは新田柵跡南辺外郭施設との接点から 700m 程度である。

団子山西遺跡と同様に、城柵官衙遺跡の南側に隣接し、道路が整備された遺跡に多賀城市山王・市川橋遺跡、加美町壇の越遺跡がある。山王・市川橋遺跡は北側に陸奥国府多賀城跡、壇の越遺跡は北側に城柵型郡家（村田 2010）とされる東山官衙遺跡が位置し、両遺跡とも広範囲にわたって方格地割が施工されている。このうち、山王・市川橋遺跡については、国府多賀城の南面に広がる都市と位置付けられ、道路の規模も格段に大きいことから比較対象から除外し、ここでは壇の越遺跡で検出された道路跡との比較により、SX200 の位置付けを行う（第 57 表）。

壇の越遺跡では南北方向 10 条、東西方向 6 条の道路跡が検出されている（加美町教育委員会 2010）。SX200 の道路幅は、壇の越遺跡の道路跡の中でも規模が大きい SX2300 南北大路、SX2200 南 2 道路、東西大路である SX1100 南 5 道路に相当する。一方、道路側溝は、壇の越遺跡の方が大規模である。改修は、SX200 が 1 度なのに対して、壇の越遺跡は 0 ～ 3 回で 1 ～ 2 回が主体である。造営年代は、SX200 が現時点では 8 世紀後半頃、壇の越遺跡が 8 世紀中葉、廃絶年代は SX200 が 9 世

第 57 表　団子山西遺跡と壇の越遺跡の道路跡の比較

遺跡	方向	遺構	道路幅	側溝の上幅（m）	改修	造営年代	備考
団子山西	南北	SX200 南北道路	7.0 ～ 9.7	(B 期)0.35 ～ 1.4	1	8 世紀後半ヵ	H-25・I-16・18・19 区、方向は N-3 ～ 4° -E
	東西	SX400 東西道路	5.3	0.2 ～ 0.6	0	—	I-6 区
壇の越	南北	SX2300 南北大路	5.5 ～ 10.0	0.3 ～ 2.0	1 ～ 2	8 世紀中葉	
		SX3100 東 1 道路	3.3 ～ 5.3	0.3 ～ 2.5	1 ～ 2		
		SX3200 東 2 道路	3.2 ～ 5.0	0.17 ～ 1.5	1 ～ 2		
		SX3300 東 3 道路	2.8 ～ 5.0	0.3 ～ 1.3	1 ～ 2		
		SX2400 西 1 道路	3.2 ～ 5.3	0.25 ～ 2.0	1 ～ 3		
		SX2600 西 2 道路	3.7 ～ 5.3	0.22 ～ 1.5	1 ～ 2		
		SX2800 西 3 道路	3.5 ～ 5.2	0.23 ～ 1.8	1		
		SX3600 西 4 道路	3.8	0.53 ～ 1.2	1		
		SX1700 西 5 道路	4.2 ～ 7.6	0.28 ～ 1.45	1		
		SX2000 西 6 道路	4.6 ～ 4.9	0.24 ～ 0.9	1		
	東西	SX2200 南 2 道路	4.9 ～ 9.8	0.25 ～ 6.5	1 ～ 2		
		SX3000 南 3 道路	3.0 ～ 5.4	0.3 ～ 2.4	1		
		SX2900 南 4 道路	2.5 ～ 6.5	0.2 ～ 1.6	1		
		SX1100 南 5 道路	4.0 ～ 9.5	0.17 ～ 2.8	1 ～ 3		東西大路
		SX1900 南 6 道路	2.6 ～ 8.2	0.3 ～ 1.7	1 ～ 2		
		SX2700 南 7 道路	5.0 ～ 5.5	0.3 ～ 1.1	0		

紀後半頃、壇の越遺跡が 8 世紀後半から 10 世紀前葉である。改修や造営・廃絶年代は、隣接する城柵官衙遺跡との関係が反映されていると想定され、団子山西遺跡では、新田柵跡の遺構期との関係を考慮する必要がある。

壇の越遺跡との比較より、道路跡の数や改修、造営・廃絶年代で異なる点が認められたが、規模に注目すると、SX200 は壇の越遺跡の南北大路や東西大路と同程度である。団子山西遺跡ではこれ以外に南北方向の道路跡は検出されておらず、新田柵跡の主要な官衙域と推定される南西部と接続する位置にあることから、SX200 は新田柵跡から南に延びる南北の基幹道路と考えられる。

B. 掘立柱建物跡

建て替えを含めて、側柱建物跡 11 棟、総柱建物跡 6 棟、床束建物跡 1 棟、不明 1 棟の計 19 棟である（第 204 図）。検出位置は、H-25 区 1 棟、I-8 区 1 棟、I-9 区 14 棟、I-16 区 3 棟、建物の種類では、側柱建物跡が H-25 区 1 棟、I-9 区 8 棟、I-16 区 2 棟、総柱建物跡が I-9 区 5 棟、I-16 区 1 棟、床束建物跡が I-9 区 1 棟、その他が I-8 区 1 棟である。建物数、種類ごとの建物数ともに I-9 区での検出がほとんどを占める。平面形式との関係では、3 間 ×2 間以上が I-9・16 区に限定的に分布し、3 間 ×2 間以上で面積が 30㎡以上のものは全て I-9 区に分布する。

以下、建物跡の種類ごとに特徴をまとめ、この中で特殊な建物跡について類例との比較を行う。なお、SB296 については、一部のみの検出のため記述を省略する。

＜特徴＞

【側柱建物跡：SB163・311AB・315・316AB・318・322・323・469・470】平面形式は、5 間 ×3 間が 2 棟、3 間 ×2 間が 5 棟、2 間 ×2 間が 2 棟、2 間以上 ×2 間が 1 棟、1 間以上 ×1 間が 1 棟である。棟方向は、5 間 ×3 間が東西棟、3 間 ×2 間が東西棟 2 棟、南北棟 3 棟である。建物の方向は、東あるいは西辺の北で 5～17°東に偏る。面積は、5 間 ×3 間の SB311 が約 57.5㎡と最大で、次に、3 間 ×2 間の南北棟である SB322 で約 46㎡である。同じ 3 間 ×2 間でも東西棟の SB469・470 は、面積が 13～14㎡と南北棟の SB322 の 1/3 以下である。

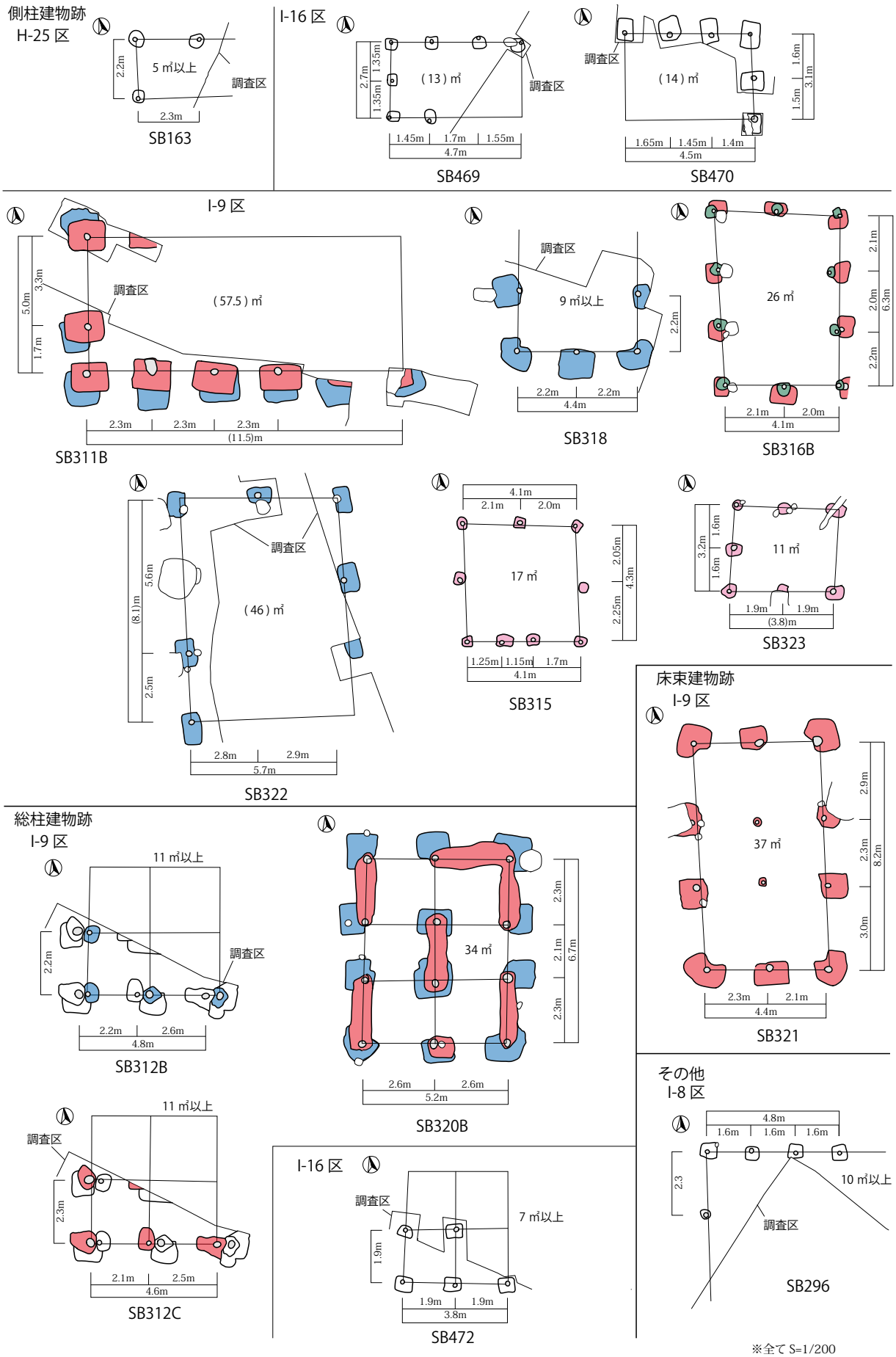
身舎桁行 5 間以上の建物跡は、県内では城柵や郡家による城柵官衙遺跡で多く確認されている。このうち、県北部に所在する城柵官衙遺跡と集落遺跡で検出された、身舎桁行 5 間以上の建物跡を集成した（第 58 表）。城柵官衙遺跡とそれ以外の遺跡とでは検出数に大きな差が認められる。城柵官衙以外では団子山西遺跡 SB311 を含めても 8 遺跡と少なく、したがって、SB311 は特殊な規模の建物跡と考えられる。身舎桁行 5 間以上の建物跡については、東国の集落では稀な存在で、一般集落の住宅以外の性格を注意する必要が指摘されており（松村 1999）、SB311 の性格も同様と推定される。

第 58 表　宮城県北部における桁行 5 間以上の掘立柱建物跡の平面形式別検出数

平面形式＼遺跡	城柵官衙								官衙以外							計
	伊治城	桃生城	東山官衙	城生柵	名生館	新田柵	赤井	一里塚	下富前	壇の越	熊野堂	団子山西	郷楽	山王・市川橋	神柵	
5×2	9	5	17	6	4	2	2			2				6		53
5×3	4	1	4	17	1		5	5		5	1	2	5	4	1	55
5×2以上	4															4
5×不明				1		3										4
5以上		1	2	8	3	4	4	1		1			1	6		31
5以上で廂あり	1		4		1	2	4		1				2	8		23
計	18	7	27	32	9	11	15	6	1	8	1	2	8	24	1	170

※建て替えも 1 棟に数えている

※各遺跡の文献は、伊治城跡（築館町 1991 ～ 1994・2001、栗原市 2017）、桃生城跡（宮城県多賀城跡調査研究所 1995・2000b）、東山官衙遺跡（宮城県多賀城跡調査研究所 1987・1989・1991 ～ 1993、宮崎町 1997、加美町 2014a・2015）、城生柵跡（中新田町 1979・1980・1985 ～ 1988・1990・1991・1994・1996・1998）、名生館官衙遺跡（宮城県多賀城跡調査研究所 1981・1982b・1984、古川市 1988・1992・1994）、新田柵跡（田尻町 1998・2000・2002b・2004・2006、大崎市 2007）、赤井遺跡（矢本町 1987・1995 ～ 1997・2000・2001）、一里塚遺跡（大和町 2003）、下富前遺跡（瀬峰町 2002・2004）、壇の越遺跡（宮城県 1998b・2003b）、壇の越遺跡（加美町 2004b・2005b・2008b）、熊野堂遺跡（菅原編 1987）、郷楽遺跡（宮城県 1987・1990a、利府町 1995）、山王遺跡（多賀城市 1986）、山王遺跡（多賀城市埋文 1991ab・1993、宮城県 1995b・1997b）、市川橋遺跡（多賀城市 1999・2003・2004、宮城県 2001a・2009a）、神柵遺跡（仙台市 1992）



第 204 図　H・I 区の掘立柱建物跡

【総柱建物跡：SB312ABC・320AB・472】全体を検出したのは 3 間× 2 間の南北棟である SB320AB のみで、SB312ABC・472 は 2 間以上× 2 間である。建物の方向は、東あるいは西辺の北で 7～16°東に偏る。SB320B の面積は 34㎡である。SB320AB・472 は外回りと内部の柱掘方、柱痕跡に大きな相違がなく高床倉庫と考えられ、SB312ABC も同様と推定される。なお、団子山西遺跡では、旧田尻町と大崎市の調査で 4 間× 3 間の総柱建物跡が 1 棟検出されている（大崎市教育委員会 2009b）。

県内の 7 世紀後半以降の掘立式の総柱建物跡のうち、高床倉庫と推定されるものは 33 遺跡で検出されている（第 59 表）。平面形式は、2 間× 2 間から 6 間× 4 間まで認められ、城柵官衙以外の遺跡は 2 間× 2 間が主体で、3 間× 2 間以上が少数、城柵官衙遺跡は、それらとともに 3 間以上× 3 間も多く認められる。面積については、城柵官衙以外の遺跡は 30㎡未満がほとんどで、30㎡以上はごく僅かであり、城柵官衙遺跡は 30㎡未満とともに 30㎡以上も多く認められる（第 60 表）。

高床倉庫と推定される建物跡は、城柵官衙遺跡やそれに関連する遺跡、または特殊な遺構・遺物が検出された遺跡で確認されることが多く、その中で SB320AB は規模の大きな部類に位置付けられる。

第 59 表　宮城県内における掘立式総柱建物跡（高床倉庫）の平面形式別検出数

桁行×梁行＼遺跡	城柵官衙													官衙以外																			計
	新田東	名生館	杉ノ下	南小林	宮沢	新田柵	赤井	一里塚	多賀城	郡山	大畑	角田郡山	熊の作	原田	下萩沢	壇の越	灰塚	団子山西	一本柳	亀岡	山居	田道町	郷楽	市川橋	山王・	西台畑・長町駅東	六反田	王ノ壇	燕沢	北東宮下	前野田東	前戸内	
2×2？													2	1				4															7
2×2	2	11		1	3	1	3	1	2	8			1	2	1	54	2		9	1	1	6		68		5		1	1	2	2	1	189
2以上×2										2						2			1							2	1						8
3以上×1以上										2																							2
3×2		3					14		3	1	2					1		2	5				2	5		1							39
3×2以上										1																							1
3×3				2				3	2	2	1	1												2							1		14
3以上×2										1																							1
3以上×3										1																1							2
3以上×3以上										1																							1
4×2		1								2																							3
4×3				2														1													1		4
5×2									1																								1
5×3			1																														1
6×3				1																													1
6×4										1																							1
計	2	15	1	6	3	1	17	4	8	22	3	1	3	3	1	57	2	7	15	1	1	6	2	75	9	1	1	1	2	4	1	275

※総柱建物跡のうち、高床倉庫と考えられるもののみ集成して表にした。
※第 59・60 表の文献は、新田東遺跡（宮城県 2003a）、名生館官衙遺跡（宮城県多賀城跡調査研究所 1983・1985、古川市 1988・1995・2000、宮城県 2000）、名生館官衙遺跡（大崎市 2007）、杉の下遺跡（古川市 2003a）、南小林遺跡（古川市 2001）、宮沢遺跡（古川市 1996）、新田柵跡（大崎市 2015）、赤井遺跡（矢本町 1995 ～ 1997・2000・2001・2004・2005）、一里塚遺跡（大和町 2003）、多賀城跡（宮城県多賀城跡調査研究所 1996・2000a・2008a・2013）、郡山遺跡（仙台市 1983・1985・1986・1988・1990a・1991・1993a・1996・2000・2004a・2011b・2013）、大畑遺跡（宮城県 1995c・2003c）、角田郡山遺跡（角田市 1996・2002）、熊の作遺跡（宮城県 2016b）、原田・下萩沢遺跡（宮城県 2009b）、壇の越遺跡（宮崎町 1999・2003、加美町 2004abc ～ 2006ab・2008a、宮城県 2003b・2005）、灰塚遺跡（古川市 2003a、大崎市 2017a）、団子山西遺跡（大崎市 2009b）、一本柳遺跡（宮城県 1998c・2001b）、亀岡遺跡（斉藤ほか 1978）、山居遺跡（宮城県 2006b）、田道町遺跡（石巻市 1995）、郷楽遺跡（宮城県 1990a）、山王遺跡（多賀城市埋文 1990・1991a・1992、宮城県 1994b・1995b・1997b・1998a）、市川橋遺跡（多賀城市 1985・2003・2004、宮城県 2001a・2009a）、西台畑遺跡（仙台市 2016a）、長町駅東遺跡（仙台市 2007・2008・2014ab）、六反田遺跡（仙台市 2017）、王ノ壇遺跡（仙台市 2016b）、燕沢遺跡（仙台市 1982）、北東宮下遺跡（名取市 1986）、前野田東遺跡（名取市 2010）、前戸内遺跡（蔵王町 2013）

第 60 表　高床倉庫の面積

面積 (㎡) ＼遺跡	城柵官衙													官衙以外																			計
	新田東	名生館	杉ノ下	南小林	宮沢	新田柵	赤井	一里塚	多賀城	郡山	大畑	角田郡山	熊の作	原田	下萩沢	壇の越	灰塚	団子山西	一本柳	亀岡	山居	田道町	郷楽	市川橋	山王・	西台畑・長町駅東	王ノ壇	燕沢	北東宮下	前野田東	前戸内	
1 ≦ a ＜ 10		2			2									2		22	2				1			14	3	1		1		1		51
10 ≦ a ＜ 20	2	9			1	1	7		1	5		1	1		1	31			10	1		5		50	3		1	1	2		133
20 ≦ a ＜ 30				1			9	1	2	3	1					1			3			1	2	6					1		31
30 ≦ a ＜ 40		1					1		1	2	1							2						3								11
40 ≦ a ＜ 50		1		1				2	2	1								1														8
50 ≦ a ＜ 60		1						1		2	1																			1		6
60 ≦ a ＜ 70		1		1					1	1																						4
70 ≦ a ＜ 80									1																							1
80 ≦ a ＜ 90				1																												1
90 ≦ a ＜ 100				1																												1
100 ≦			1	1								1																				3
計	2	15	1	6	3	1	17	4	8	14	3	2	1	2	1	54	2	3	13	1	1	6	2	73	6	1	1	2	4	1	250

【床束建物跡：SB321】３間×２間の南北棟で、建物の方向は、東辺の北で８°東に偏る。面積は 37㎡である。側柱の柱掘方は長軸 100cm 以上で、柱痕跡は径 20cm 以上が主体である。束柱は、両妻柱間と両側柱間を結ぶ柱筋の交点上に位置し、柱掘方が長軸 30cm 程度、柱痕跡が径 12～14cm である。

＜特徴的な掘立柱建物跡＞

SB163・318・320・321 を対象とする。

【外周溝を伴う建物跡：SB163】東西 1 間以上、南北 1 間の小規模な建物跡である。1.5m 北には SD116 溝跡が位置し、方向が同じであること、SD116 から多くの遺物が出土していることから、SD116 は SB163 の外周溝の可能性がある。外周溝を伴う建物跡は、加美町壇の越遺跡（加美町教育委員会 2010）、美里町一本柳遺跡（宮城県教育委員会 2001b）、大和町一里塚遺跡（大和町教育委員会 2003）で確認されている。これらの年代は、8 世紀中葉から 9 世紀中葉で、性格は、居宅を構成する建物と考えられている（加美町教育委員会 2010、宮城県教育委員会 2001b）。SB163 と SD116 の性格については、遺構全体を検出していないため不明だが、SX200 南北道路跡に近接した位置にある点は注意される。

【布掘り状の柱掘方を持つ建物跡：SB320B】SB320 では、A 期の溝状の抜取穴が B 期の柱掘方に利用されており、その形状は布掘り状となる。布掘りの柱掘方については、県内では 32 棟と類例が少なく、城柵官衙遺跡や官衙関連遺跡で検出されている（第 61 表）。総柱建物跡と側柱建物跡があり、前者は倉庫や門、櫓等の特殊な性格の建物で認められる。柱掘方は、総柱建物跡では布掘りのみと壺掘りとの併用が同程度、側柱建物跡では壺掘りとの併用が多い。このうち、総柱建物跡の倉庫については、桁行 3 間以上が多く、柱掘方は布掘りのみが壺掘りと併用するものより多い。なお、布掘りのみのものは官衙の倉庫院を構成している。SB320B は総柱建物跡の倉庫の特徴が認められ、抜取穴を利用した布掘り状ではあるが、一般的な集落遺跡では認められない柱掘方であり特殊な建物跡と考えられる。

第 61 表　布掘りの柱掘方を持つ掘立柱建物跡

遺跡名	遺構	平面形式	種類	桁行 (m)	梁行 (m)	柱穴掘方	柱痕跡 (cm)	備考	文献
壇の越	SB960	２×２	総柱	3.4	2.8	壺＋布掘り	20 ～ 28	櫓	宮崎町 2003
	SB1401	２×２	総柱	3.8	3.6	壺＋布掘り	28 ～ 30	櫓	加美町 2004a
	SB2114	５以上×２	側柱	9.2 以上	5.6	壺＋布掘り	25		加美町 2005b
名生館	SB1804a	１以上×３	側柱	2.1 以上	7.8	壺＋布掘り	不明		大崎市 2007
新田柵	SB100B	３×２	総柱	6	4.2	壺＋布掘り	不明	門	田尻町 2001ab
	SB341	２×２	側柱	3.2	2.3	壺＋布掘り	12		
	SB573	４×３に４面廂	側柱	12.7	9.1	壺＋布掘り	24 ～ 30		大崎市 2009a
	SX512	不明	側柱	17.01	7.56	布掘り	16		大崎市 2007
団子山西	SB320B	３×２	総柱	6.7	5.2	壺＋布掘り	22 ～ 36	倉庫	本書
赤井	SB208	３以上×１以上	不明	5.75 以上	1.13 以上	壺＋布掘り	不明		矢本町 2001
	SB224	３×２	総柱	6.32	3.6	壺＋布掘り	約 38	門	矢本町 1996
	SB1180	５×３に片廂	側柱	12.1	5.6	壺＋布掘り	約 30	居宅の主屋ヵ	矢本町 2004
一里塚	SB09	３×２以上	総柱	不明	不明	布掘り	不明	黒川郡家の倉庫院	大和町 2003
	SB10	３以上×３に片廂	側柱	7.0 以上	7.3	布掘り	20		宮城県 1990b
	SB22	４×２	側柱	7.8	4.7	壺＋布掘り	15 ～ 20		
	SB2515	３×３	総柱	7.7	5	布掘り	20 ～ 26	黒川郡家内の倉庫	大和町 2003
	SB2940	３×２	側柱	5.7	4	壺＋布掘り	20		
	SB2944	４×３	側柱	9.5	5.5	布掘り	不明		
山王	SB475	３×２に片廂	側柱	4.8	6.1	壺＋布掘り	15		宮城県 1997b
	SB2358	３×２	側柱	4.66	4.01	壺＋布掘り	約 15 ～ 25		宮城県 1994b
郡山	SB1208	４×２	総柱	7.8	4.8	布掘り	18 ～ 42	Ⅰ期官衙中枢部の建物	仙台市 1989
	SB1218	４×２	総柱	8	5	布掘り	28 ～ 46		
	SB1278	７以上×３	側柱	12.83 以上	6.88	壺＋布掘り	15.5 ～ 25	Ⅰ期東辺	仙台市 1990a
	SB1795	1	-	-	-	-	-	Ⅰ期官衙　門	仙台市 1999
長町駅東	SB22	４×２	側柱	9.3	4.5	壺＋布掘り	10 ～ 58		仙台市 2007
十郎田	SB256	４×２	側柱	6.81	5.07	壺＋布掘り	13 ～ 23		蔵王町 2011
大畑	第１号建物	３×３	総柱	7.7	7.2	壺＋布掘り	約 30		宮城県 1995c
	第２号建物	３×２	総柱	5.22	4.25	壺＋布掘り	約 25	苅田郡家の倉庫院ヵ	
	第５号建物	３×２	総柱	6.4	6.2	布掘り	不明		宮城県 2003c
角田郡山	SB02（SD6 ～ 10）	不明	総柱ヵ	8.5 ヵ	8.5 ヵ	布掘りヵ	不明		角田市 1993
	SB03 b	２×２ヵ	総柱ヵ	不明	不明	布掘りヵ	不明	伊具郡家の倉庫院ヵ	角田市 1995
	SB07	３×３	総柱	9	8	布掘り	約 50		角田市 1996

【四隅が「L」字形の柱掘方を持つ建物跡：SB318・SB320A・SB321】SB321 は、隅柱の柱掘方が「L」字形、その他が隅丸長方形、隅丸方形の建物跡である（第 204 図）。柱痕跡はいずれも建物内部側に寄る特徴がある。柱間寸法は、桁行の両端の柱間が中央の柱間よりも大きい。SB318 は南側部分のみの検出だが、南東と南西の隅柱は「L」字形で、柱痕跡の位置にも SB321 と同様の特徴が認められる。また、SB320A は、柱掘方の形状や柱痕跡の位置が、SB320A の抜取穴を利用した SB320B の柱掘方により明瞭ではないが、残存する南東・南西隅柱の形状から、「L」字形であったと推定され、北西・北東隅柱についてもその可能性がある。柱痕跡の位置は、抜取穴が SB320A の柱痕跡の位置をおおよそ表すと想定すると、SB321 と同様と考えられる。したがって、SB318・320A・321 には柱掘方の形状と柱痕跡の位置に規則性が認められる。

このような柱掘方を持つ建物跡は宮城県内では、非常に珍しい。第 62 表に、東北地方と新潟県、関東地方の古代の遺跡を対象に、隅柱が「L」字形となる建物跡を集成した。県内では団子山西遺跡を含めて 6 遺跡 8 棟、東北地方でも 9 遺跡 12 棟であり、隅柱全てが「L」字形のものは、宮城県北部の城柵官衙かそれに関わる 3 遺跡で可能性のあるものを含めて 4 棟であった。一方、関東地方では検出事例が多く、栃木・群馬・埼玉・神奈川県、東京都で類例が確認された。この特徴的な柱掘方を持つ建物跡については、関東地方で多く確認されることが指摘されている（山中編 2003）。埼玉県北島遺跡、若葉台遺跡、東京都武蔵国府とその関連遺跡、神奈川県諏訪前 A 遺跡、向原遺跡、宮久保遺跡といった特定の遺跡では、一定量の存在が確認される。1 棟の建物跡における「L」字形の柱掘方の数としては、1 個が最も多く、数が多くなるにつれて棟数は減少する。

隅柱全てが「L」字形の柱掘方となる建物跡は、15 遺跡で認められた（第 63 表）。可能性のあるものを含めると、宮城県、埼玉県、神奈川県での検出事例が多い。平面形式では、1 間× 1 間のものから 5 間× 2 間で四面廂が付くものまである。最も多いのは 3 間× 2 間で、全体の半数を占める。南北棟が多く、廂や床束を持つものや総柱のものもある。団子山西遺跡では、柱掘方における柱痕跡の位置に規則性が存在したが、同様の特徴は、宮城県東山官衙遺跡 SB178、赤井遺跡 SB106 でも確認される。また、赤井遺跡 SB106 では、桁行の柱間寸法についても団子山西遺跡 SB321 と同様の特徴が認められた。

隅柱が「L」字形の柱掘方は、集成を行った地域において官衙あるいは官衙関連遺跡、居宅と推定された遺跡で検出される事例が多い。建物の年代は 7 世紀後葉から 11 世紀で、8～9 世紀代が主体とみられる。類例は少ないことから、SB318・320A・321 を建造した技術者集団の出自や技術系譜を反映している可能性があり、また、これらが検出された I-9 区の建物群の性格を考える上でも注目される。

C. 竪穴建物跡

建て替えを含めて 21 棟検出したが、全体を確認したのは 3 棟のみで、さらに、構造が判明したのはごく僅かである（第 64 表）。そのため、個別の記述は行わず、属性ごとに特徴をまとめる。

〔**位置**〕広範囲に分布するが、I-7 区の SI283・288、I-8 区の SI294・295AB、I-9 区の SI392・394～397・399・401・455、I-10 区の SI339・341・349 はそれぞれ近接して位置し、重複するものもある。これらの分布位置は、現地形からは判断できないが、地形的に有用な地点だった可能性がある。

第 62 表　隅柱の柱掘方が「L」字形の掘立柱建物跡

県		遺跡	桁行×梁行	「L」字形の柱穴掘方							文献
				4 個	4 個カ	3 個	2 個以上	2 個	1 個	計	
東北	宮城	東山官衙	4 × 2	1						1	宮城県多賀城跡研究所 1990
		壇の越	2 × 2					1		1	加美町 2006a
		団子山西	3 × 2	1	1					3	本書
			2 以上× 2				1				
		赤井	5 × 3	1						1	矢本町 1995
		多賀城	5 × 2 に片廂						1	1	宮城県多賀城跡研究所 1982a
		山王	3 × 2 に片廂						1	1	多賀城市埋文 1992
	山形	中落合	4 × 3						1	1	山形県埋文 2008
	福島	屋敷	2 × 1						1	1	福島県 1991
		泉官衙	5 × 2						1	2	南相馬市 2007
			4 × 3						1		
関東	栃木	中村	4 × 2	1						1	栃木県 1979
		多功南原	2 × 2						1	1	栃木県 1999
			3 × 2	1						1	
		上神主・茂原官衙	4 × 3						1	2	上三川町・宇都宮 2003
			4 × 2					1			
		北ノ内	4 × 2 に四面廂						1	1	栃木県 2014
	群馬	上西原	4 × 3						1	3	群馬県 1999
			3 × 2			1			1		
		揚原	4 × 3 に片廂			1				1	新田町 2001
		三軒屋	6 × 2					1		4	伊勢崎市 2013
			3 × 2						2		
			2 × 2						1		
		三和工業団地	3 × 2						1	3	伊勢崎市 2004ab
			3 × 1					1			
			2 × 2						1		
	埼玉	水川神社東	3 × 2					1		1	大宮市 1993
		霞ヶ浦	3 × 2			1				1	川越市 2014
		池上	3 × 2					1		1	埼玉県立さきたま資料館 1984
		北島	5 × 2 に四面廂	1						16	埼玉埋文 1998・2002
			3 × 2	1				2	7		
			2 × 2	1		1			3		
		宮町	3 × 2		1					1	埼玉埋文 2010
		東の上	3 × 2					1		2	所沢市 1990・2010
			2 × 2			1					
		張摩久保	3 × 3 に片廂						1	2	飯能市 1989
			3 × 2						1		
		将監塚・古井戸	4 × 3 に片廂		1					2	埼玉埋文 1986・1988
			4 × 2						1		
		宮ノ越	1 × 1	1						1	埼玉県遺跡調査会 1982
		幡羅	3 × 2			1				2	深谷市 2009・2010
			2 以上× 2 以上						1		
		稲荷前	3 × 3					1		3	埼玉埋文 1992ab
			3 × 2						2		
		塚の越	3 × 2					1	1	2	埼玉埋文 1991
		若葉台	4 × 2	1					1	6	鶴ヶ島町 1984・1985、鶴ヶ島市遺跡調査会 1993、坂戸市 1993・1997
			3 × 2					2			
			3 × 1						1		
			2 × 2						1		
		皂樹原・檜下	3 × 2					1		1	皂樹原・檜下遺跡調査会 1992
		中堀 (上里 3 号)	3 × 2 に四面廂						1	1	埼玉埋文 1997
	東京都	御殿前	4 × 3					1		2	大成エンジニアリング 2012
			3 × 2						1		
		武蔵国府	3 × 2 に片廂						1	6	府中市 1982・1996・2003・2004a、四門 2010
			5 × 2					1			
			4 × 2						1		
			3 × 3						1		
			3 × 2	1				1			
		武蔵国府関連	3 × 2 に片廂	1		1		1	1	19	府中市 1999・2002・2004b、2005ab・2006 ～ 2008・2012・2013、日本製鋼所遺跡調査会 1995、武蔵文化財研究所 2007
			5 × 3						1		
			5 × 2						1		
			4 × 3	1		1					
			4? × 3						1		
			4 × 2					1			
			3 × 2			3		4	1		
			3 × 1			1					
	神奈川	橘樹郡衙跡	3 × 2						1	1	川崎市 2014
		厚木道	3 × 2					1		1	平塚市 1997
		梶谷原 B	3 × 3			1				3	平塚市 1990
			3 × 2					1	1		
		構之内	3 × 2					2		2	構之内遺跡発掘調査団 1994
		神明久保	3 × 2						1	1	平塚市 1991
		諏訪前 A	3 × 2 に片廂					1		5	平塚市 1987・1989
			3 × 2	2					1		
			2 × 2	1							
		諏訪前 B	2 × 2					1		1	平塚市 1989
		林 B	3 × 2					1		1	平塚市 1996
		向原	3 × 3			2		1	2	17	神奈川県埋文 1982
			3 × 2	2				3	5		
			2 × 2			1			1		
		六ノ域	4 × 2						1	3	大野小学校遺跡発掘調査団 1987、平塚市 1988
			3 × 2					1			
			2 × 2			1					
		三ツ俣	3 × 2						1	1	神奈川県埋文 1986
		宮久保	3 × 2	1		3		5	2	13	神奈川県埋文 1990
			2 × 2					1	1		
計				19	3	20	1	41	63	147	

第 63 表　四隅の柱掘方が「L」字形の掘立柱建物跡

県	市町村	遺跡	遺構	平面形式	棟方向	備考	文献 1
宮城	加美町	東山官衙	SB178	4 × 2	南北	賀美郡家	宮城県多賀城跡研究所 1990
	大崎市	団子山西	SB320A	3 × 2	南北	4 個ヵ、総柱建物	本書
			SB321	3 × 2	南北	床束あり	
	東松島市	赤井遺跡	SB106	5 × 3	南北	居宅院の主屋	矢本町 1995
栃木	真岡市	中村	SB16	4 × 2	南北	郡家か正倉別院	栃木県 1979
	上三川町	多功南原	SB67　XI区 H6-22 区	3 × 2	東西	居宅ヵ	栃木県 1999
埼玉	熊谷市	北島	第 12 号掘立柱建物跡	2 × 2	南北		埼玉埋文 1998
			第 21 号掘立柱建物跡	3 × 2	東西		
			第 36 号掘立柱建物跡	5 × 2 に四面廂	南北		埼玉埋文 2002
	坂戸市	宮町	第 3 号掘立柱建物跡	3 × 2	南北	4 個ヵ、集落	埼玉埋文 2010
	児玉町	将監塚・古井戸	12 号掘立柱建物跡	4 × 3 に片廂	南北	4 個ヵ	埼玉埋文 1986
	狭山市	宮ノ越	第 6 号掘立柱建物跡	1 × 1	東西	駅家か駅家関連集落か渡河施設か牧	埼玉県遺跡調査会 1982
	鶴ヶ島市	若葉台	Q-2	4 × 2	南北		鶴ヶ島市遺跡調査会 1993
東京	府中市	武蔵国府	M47-SB2	3 × 2	南北	総柱建物、武蔵国府、多摩郡家	府中市 1982
		武蔵国府関連	M14-SB3	4 × 3	東西	武蔵国府関連集落	日本製鋼所遺跡調査会 1995
			N41-SB22	3 × 2 に片廂	東西		府中市 2004b
神奈川	平塚市	諏訪前 A	SB01	3 × 2	南北	相模国衙、曹司、集落	平塚市 1987
			SB02	2 × 2	―		
			SB04	3 × 2	南北		
		向原	139 号掘立	3 × 2	東西		神奈川県埋文 1982
			140 号掘立	3 × 2	東西		
	綾瀬市	宮久保	SB23	3 × 2	南北		神奈川県埋文 1990

〔**方向**〕東西辺が北で 10°前後東に偏るものと、20°以上東に偏るものがあり、前者は 8 世紀後半の SI283・341・670、8 世紀後半から 9 世紀前葉の SI295・402、後者は 9 世紀後半の SI288・339・349 である。また、年代は不明だが、I-9 区の SI392・394・396・397 は前者、H-26 区の SI196、I-9 区の SI399 は後者の方向である。

〔**床面施設**〕主柱穴は 6 棟で検出された。確認できた主柱穴の位置関係からいずれも 4 個で構成されていたと推定される。カマドの位置は 2 棟で確認されたが、カマド袖が残存していたものは SI670 の 1 棟のみであった。SI670 では、カマド両袖の先端部の補強材に土師器甕が用いられていた。周溝は、部分的に確認したものを含めて 17 棟で検出された。人為的に埋め戻されたものが主体で、2 棟で壁材痕跡が確認された。壁柱穴は SI670 の 1 棟で検出され、南北辺と東西辺の一部で位置に対応関係が認められた。貯蔵穴は可能性があるものを含めて 2 棟で検出され、SI295B ではカマドに向かって右側に設置されている。

〔**その他の施設**〕土坑やピットが 8 棟で検出された。また、SI670 には外周溝が伴う。

第 64 表　古代の竪穴建物跡

	区	年代	方向	調査	検出	規模 (m)		改修	床面施設							
						長軸	短軸		主柱穴	カマド	周溝	壁材痕	壁柱穴	貯蔵穴	土坑	ピット
SI283	I-7	8 世紀後半	N-8° -E	精査	部分	4.2	3.5 以上	×	○	不明	○	×	×	○	○	×
SI341	I-10		N-6° -E	精査	部分	6.2	4.3 以上	×	○	不明	○	×	×	不明	○	○
SI670	L-15・16		N-12° -W	精査	全体	4.4	4.2	×	×	○	○	○	○	○	○	×
SI295A	I-8	8 世紀末～9 世紀前葉	N-8° -E	精査	部分	5.6 程度	4.8	○	○	不明	○	×	×	不明	○	×
SI295B				精査	部分			×	○	○	○	×	×	○	○	○
SI402	I-9	8 世紀後半～9 世紀前葉	N-13° -E	一部精査	部分	6.5 以上	1.8 以上	×	不明	不明	○	×	×	不明	×	×
SI288	I-7	9 世紀後半	N-20° -E	精査	部分	4.9 以上	3.9 以上	×	○	不明	○	×	×	不明	○	×
SI339AB	I-10		N-30° -E	精査	部分	4.9	3.3 以上	○	○	不明	○	×	×	不明	×	×
SI349			N-13 ～ 30° -E	精査	全体	4.5	3.8	×	×	不明	○	○	×	不明	○	×
SI196	H-26	古代	N-40° -E	検出のみ	部分	4.9	3.0 以上	不明	不明	不明	○	×	×	不明	不明	不明
SI294	I-8		不明	精査	部分	不明	不明	×	不明	不明	○	×	×	不明	×	×
SI392	I-9		N-9° -E	検出のみ	全体	3.8	3.6	×	不明	不明	○	×	×	不明	×	×
SI394			N-5° -E	検出のみ	部分	5.6	2.2 以上	×	不明	不明	○	×	×	不明	×	×
SI395			N-22° -E	検出のみ	部分	不明	不明	×	不明	不明	○	×	×	不明	×	×
SI396			N-8° -E	検出のみ	部分	不明	不明	×	不明	不明	○	×	×	不明	×	×
SI397			N-15° -E	検出のみ	部分	5.7 以上	5.6 以上	×	不明	不明	○	×	×	不明	×	×
SI399			N-30° -E	検出のみ	部分	3.3 以上	3.3 以上	×	不明	不明	×	×	×	不明	×	×
SI401			不明	検出のみ	部分	3.6 以上	1.1 以上	×	不明	不明	×	×	×	不明	×	×
SI455			不明	検出のみ	部分	不明	不明	×	不明	不明	×	×	×	不明	×	×
SI367	I-13		不明	精査	部分	6.8 以上	4.4 以上	×	不明	不明	○	×	×	不明	○	×

D. 材木塀跡

I-9 区で 1 条（SA404）検出した。SD380 溝跡の 12.5m 西側に位置し、南北方向である。区画施設の一部と推定されるが、検出長が 1.8m であり、規模や区画の性格等、詳細は不明である。また、同様に区画施設と考えられる SD380 との関係については、両者の距離が大きく、SA404 が I-14 区では検出されないことから、別個のものと考えられる。

E. 土器埋設遺構

I-14 区で 1 基（SX410）検出した。口頸部と底部が人為的に打ち欠かれた須恵器長頸壺が、長軸 0.3m 程度の土坑の中央に埋納されていた。土器内部の土壌に焼骨は認められなかった。また、須恵器の年代は 8 世紀末から 9 世紀第 1 四半期だが、SX410 は 10 世紀前葉と考えられ、須恵器の製作から埋納まで 1 世紀程の期間がある。具体的な性格は不明だが、須恵器が長期的な利用の後に、人為的な加工により器としての機能が失われ埋納されていることから、特殊な性格の遺構と推定される。

F. 溝跡

7 条検出し、H-25 区 SD116 は SB163 掘立柱建物跡に伴う外周溝、L-15・16 区 SD669・678 は、円形の形状や位置関係、年代の共通性から SI670 竪穴建物跡の外周溝と考えられる。

I-9・14 区 SD380 は南北方向の溝跡で、検出長は約 60m であり、北端はさらに北側に延び、南端は西側に屈曲する。上幅 1.0～2.0m、下幅 0.6～1.0m、深さ 0.4m 前後で、I-9 区全体に及ぶ後世の削平を考慮すると、規模はさらに大きかったと考えられる。方向は、東側に位置する掘立柱建物跡群と概ね類似しており、規模と方向の面から SD380 はこれらの建物群に伴う溝跡と考えられる。

I-10 区 SD350、I-11 区 SD372、I-13 区 SD366 の性格については不明である。

G. 土坑

4 基検出し、H-25 区 3 基（SK83・123・154）、I-6 区 1 基（SK280）である。SK83 は位置や時期から南側に広がる小溝状遺構群と関係する可能性があり、SK154・280 は埋土の特徴から廃棄土坑と考えられる。SK123 の性格は不明である。

H. 小溝状遺構群

10 ヶ所検出し、いずれも河川跡や自然流路跡の周辺に位置する。これらに並行する方向と直交する方向があり、両者に重複関係が認められるものもある。したがって、小溝状遺構群が検出された範囲は、河川や自然流路を基準にした土地利用が行われていたと考えられる。このような特徴は、仙台市中野高柳遺跡（宮城県教育委員会 2006a）等でも確認されている。

I. 河川跡・自然流路跡

河川跡は 12 条検出され、これらは遺跡の中央付近を東流する田尻川と同じ方向であり、古代の田尻川かあるいはその支流であったと考えられる。H-14・15・23～25 区の SD12 と H-19 区の SD43、I-1・2・4 区の SD253 は、遺跡の北西部から南東部を蛇行しながら東流する河川跡である。深さは一部のみの精査のため不明だが、上幅は最大で 25m 以上と推定され、H・I・L 区で検出した中で最も規模が大きく、同位置で古代以降と近世の河川跡と重複しており、長期にわたる河川であったと考えられる。なお、I-1 区では古墳時代中期の SD257 河川跡とも重複し、H-24 区 SD12 では古墳時代中

期の遺物も出土しており、この時期の河川跡も同じ流路であった可能性がある。H-19・24・25 区の SD110A は、SD12 から分岐した支流と推定される。

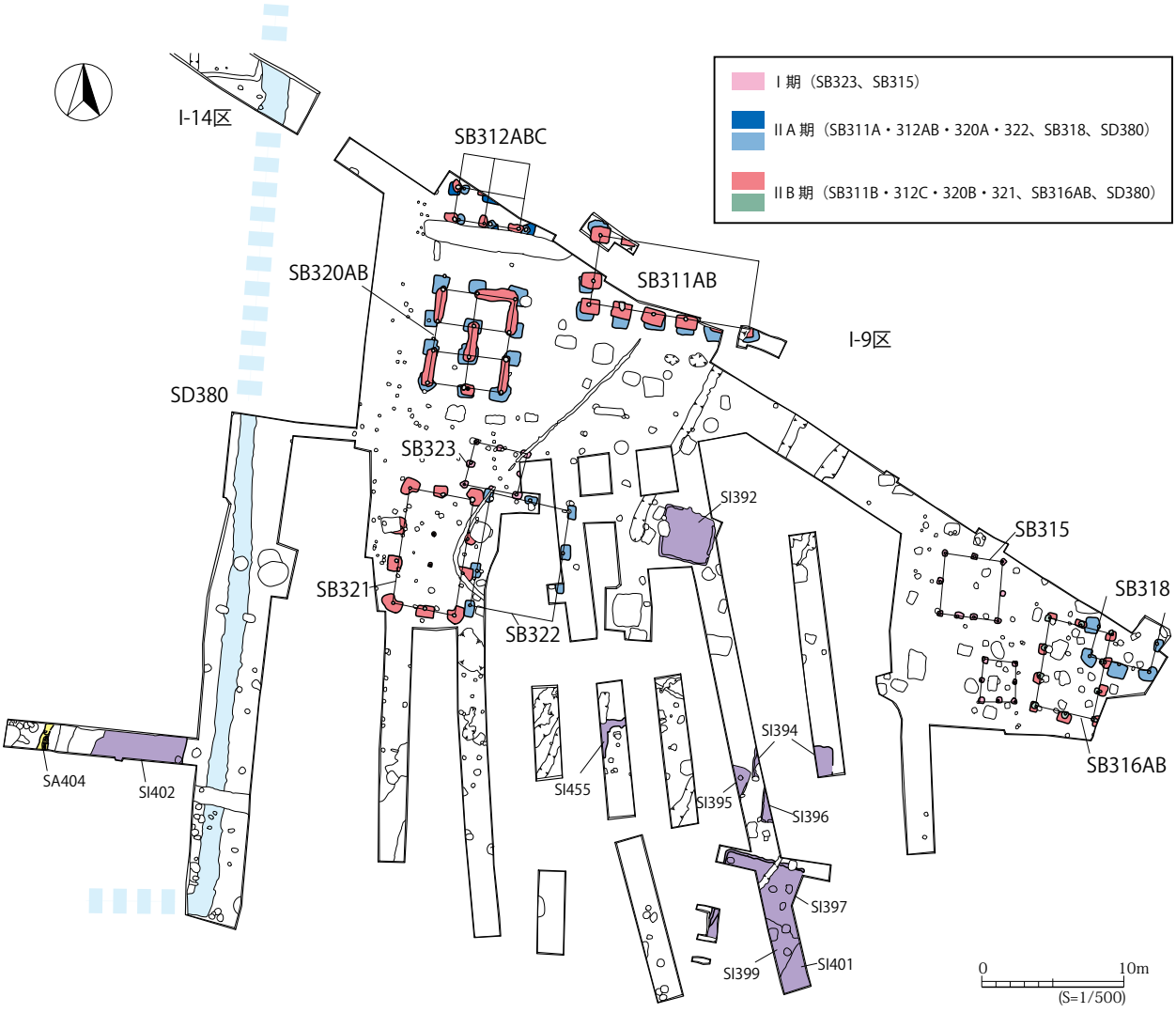
H-25 区の SD110A の南側に位置する SD115・117～121・128～131・140～142 自然流路跡は、平面形が脈状である。堆積土の類似から、SD110A を起源としたものと考えられる。

②遺構群の特徴と性格

掘立柱建物跡群とそれに伴う溝跡が検出された I-9・14 区と、掘立柱建物跡が複数検出された I-16 区について、遺構群の組み合わせと変遷、性格を検討する。

A. I-9区とI-14区東端

〔遺構群と遺構期〕I-9 区では東西 60m、南北 30m の範囲で掘立柱建物跡が多数検出された（第 205 図）。西側には SD380 溝跡が位置しており、SD380 はさらに北側に延びる。溝跡は西側以外に確認されず、北・南側については調査区外に存在する可能性がある。掘立柱建物跡は東西に分布のまとまりが認められる。これらの配置から遺構群を大別し、重複関係からその変遷を検討する。



第 205 図　I-9・14 区の遺構群

西側の建物群では、北から SB312C、SB320B、SB321 の西側柱列の柱筋が揃い、さらに、SB321 と東側の建物群の SB316B の南妻の柱筋が揃う（第 206 図：Ⅱ B 期）。SB311 と SB320 では、B 期の柱掘方は A 期の柱抜取穴を利用したと考えられ、ここから推定される A 期の柱痕跡の位置より、SB312B と SB320A の東側柱列と SB322 の西側柱列、そして、SB320A の北妻と SB311A の南側柱列、SB312B の南側柱列と SB311A の北側柱列の柱筋が概ね揃うと推定される（第 206 図：Ⅱ A 期）。また、西側の建物群の SB322 と東側の建物群の SB318 は、建物の方向が類似しており、SB322 の北妻と SB318 の南妻の柱筋は 1m 以内の誤差である（第 206 図：Ⅱ A 期）。柱筋の共通性は、一定の面積が確保された空間において、建物が計画的に配置されたことを示しており、したがって、柱筋の揃う建物群は同時期に機能したと考えられる。

重複関係については、西側の建物群で、SB323 → SB322 → SB321 の新旧関係、SB311・320 で 1 度（A → B）、SB312 で 2 度（A → B → C）の建て替えがあり、東側の建物群でも、SB318 → SB316（A → B）の新旧関係と建て替えが認められる。

以上より、I-9 区の建物群はⅠ期とⅡ期に大別され、建て替え等からⅡ期が細分されるため、Ⅰ期→Ⅱ A 期→Ⅱ B 期の順に変遷すると考えられる（第 205 図）。

Ⅰ期：（西側）SB323、（東側）SB315 か
Ⅱ A 期：（西側）SB311A、SB312AB、SB320A、SB322、（東側）SB318、（溝）SD380
Ⅱ B 期：（西側）SB311B、SB312C、SB320B、SB321、（東側）SB316AB、（溝）SD380

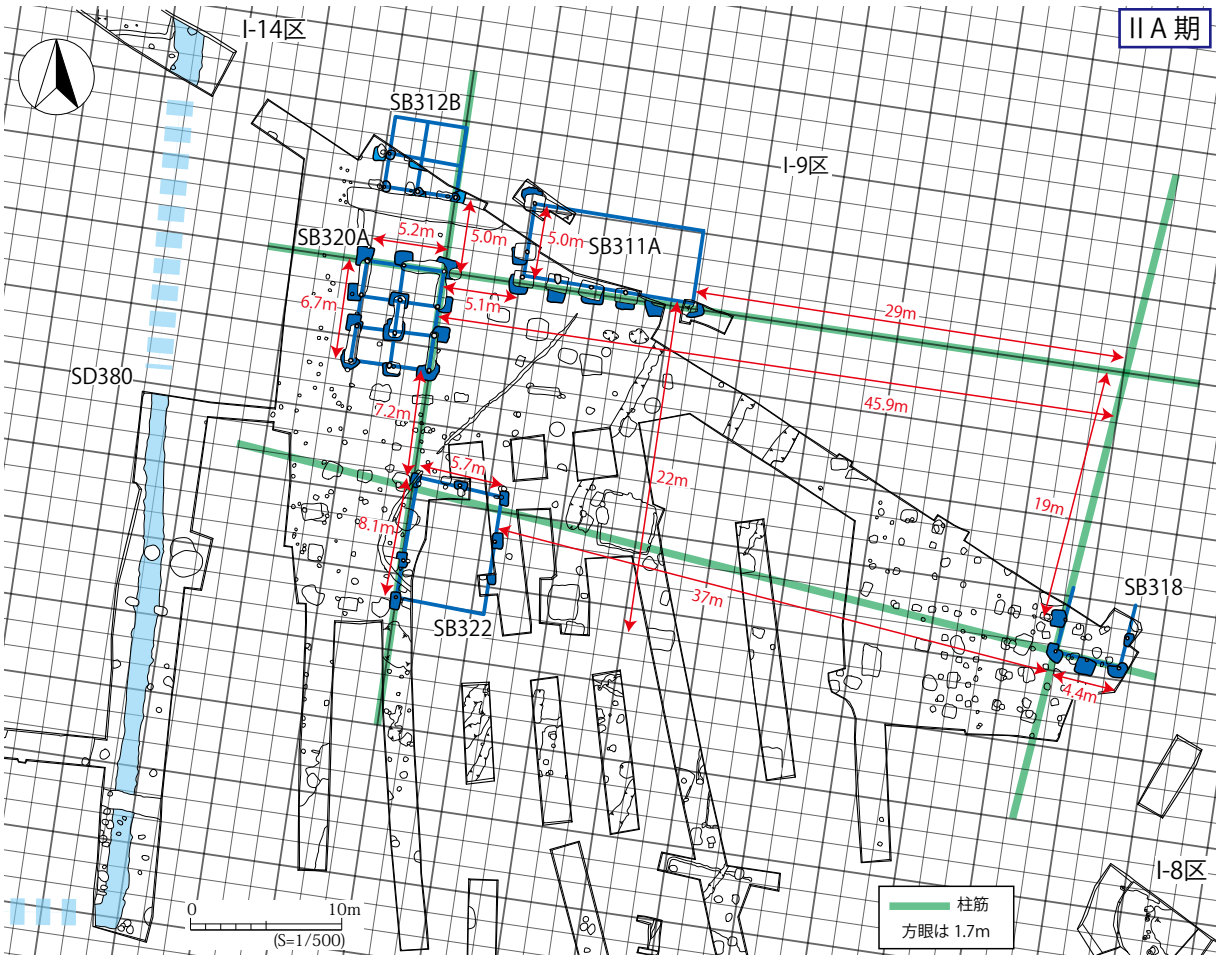
SB323・315 は、重複関係と建物の規模がⅡ期とは大きく異なることから、それよりも古いⅠ期とした。SB311B については、直接の柱筋の通りは認められなかったが、SB311A と SB312B ・320A、SB312C と SB320B が伴うことから、後者に伴う建物と考えられⅡ B 期とした。SD380 は、調査した範囲では改修の痕跡が認められなかったが、Ⅱ A 期からⅡ B 期で建物跡の規模や配置に大きな変更がないことから、Ⅱ期全般に伴うと推定される。

I-9 区中央南側の竪穴建物跡は、掘立柱建物跡と排他的に分布し、重複は確認されない。分布や方向から、Ⅰ期あるいはⅡ期に伴う可能性があるが、平面形や全体の規模等の様々な情報が不足しており、その位置付けを判断することができない[註 1)]。

〔Ⅰ期の遺構配置〕 Ⅰ期は、平面形式が 2 間× 2 間の小規模な建物跡で構成される（第 205 図）。分布は散漫で、建物同士の関係も不明である。

〔Ⅱ A 期の遺構配置〕 Ⅱ期は、規模の大きい建物が一定の規則性を持って配置され、I-9 区周辺の場の性格が大きく変化する（第 205 図）。西側が、SD380 溝跡によって、その西に広がる SX407・408 湿地跡から隔てられ、建物群を含めた遺構分布の範囲は東西 62m、南北 60m 以上である。

Ⅱ A 期は、建物群の中央北側に 5 間× 3 間の東西棟（SB311A）が配置され、その西側には高床倉庫と考えられる総柱建物跡 2 棟（SB312AB・320A）と、側柱建物跡 1 棟（SB322）が南北に並ぶ（第 206 図）。



第 206 図　II 期の建物群

SB311A の南東側には南北棟の側柱建物跡 1 棟（SB318）が位置する。なお、SB311A の東西に配置された SB320A と SB318 は、隅柱が「L」字形となる特殊な柱掘方の建物跡である。SB311A の南側には、東西約 37m、南北約 22m の空閑地が認められる。したがって、Ⅱ A 期の建物群は、南側に開いた「コ」字形の配置になると推定される。ただし、西側の建物群の中で最も南の SB322 が、北側に一列に並ぶ SB312AB・320A よりも東側に入り込んだ位置にあり、さらに、SB322 と SB318 の間で南妻が揃わず、東西の南北棟が対称的な配置とはならない。

Ⅱ A 期の建物跡の柱筋と遺構間の距離を第 206 図に示した。SB311A 北西隅柱と SB312B 南東隅柱、SB311A 南西隅柱と SB320A 北東隅柱、SB312B 南側柱列と SB320A 北妻が 5.0～5.1m のほぼ等間隔であることから、柱筋が揃うと推定される SB312B・320A 東側柱列と SB322 西側柱列を結んだ線を南北の基準線、それに直交する SB320A 北妻を東西の基準線として、5.1m を 3 等分した 1.7m 間隔で方眼を作成した。これに基づいて建物跡の配置を検討すると、SB320A 北東隅柱から南に 10.2m の地点が SB320 A と SB322 のほぼ中間、15.3m の地点が SB322 西側柱列の北西隅柱から南に 1.5m、20.4m の地点が南西隅柱から北に約 1.5m の位置となる。また、SB318 の西側柱列は、方眼の南北線上に位置し、南妻は西側の SB322 の南から 2 列目の柱列と近い位置にある。さらに、東西の基準線と東側の建物群である SB318 の西側柱列を北に延長した線の交点は、SB320A 北東隅柱から約 45.9m（1.7m × 27）である。

〔Ⅱ B 期の遺構配置〕 Ⅱ B 期は、Ⅱ A 期の主要な建物跡の配置が踏襲される（第 205 図）。建物群の中央北側の東西棟（SB311B）、その西側の高床倉庫と考えられる総柱建物跡 2 棟（SB312C・320B）が同位置で建て替えられる。SB320B の南側には、SB322 の建て替えと考えられる南北棟の床束建物跡（SB321）が西側に位置を移動して建てられ、SB312C・320B・321 が西側柱列の、SB312C と SB321 では東側柱列も柱筋を揃えて 1 列に並ぶ（第 206 図）。総柱建物跡の SB320B は柱掘方が布掘り状、SB321 は隅柱の掘方が「L」字形であり、特殊な柱掘方を持つ建物跡である。SB311B の南東側には、SB318 の建て替えと考えられる南北棟の側柱建物跡（SB316AB）が南側に位置を移動して建てられる。これにより、SB316AB の南妻の柱筋は、西側の建物群の南端に位置する SB321 の南妻とほぼ揃う。なお、SB316AB は西側の建物群よりも規模が小さい。SB311B の南側には東西約 41m、南北約 24m の空閑地が認められる。建物群の配置はⅡ A 期と同じく「コ」字形で、主要な建物の位置や規模が維持されることから、建物群の性格に大きな変化がなかったと考えられる。一方で、Ⅱ A 期と比べて建物群の配置の規則性が向上し、空閑地も拡大して、より整然とした配置に変化する。

Ⅱ B 期の建物跡の柱筋と遺構間の距離を第 206 図に示した。Ⅱ B 期では、SB311B 南西隅柱と SB320B 北東隅柱、SB312C 南側柱列と SB320B 北妻が 5.1m の等間隔であることから、SB312C・320B・321 西側柱列を南北の基準線、SB320B 北妻を東に延長した線を東西の基準線として、Ⅱ A 期と同じく 5.1m を 3 等分した 1.7m の方眼を作成した。SB311B は建て替えにより柱痕跡の位置がやや北に移動し、SB312C 南側柱列、SB320B 北妻とは厳密には柱筋が揃わないが、それでも 50cm 以内の誤差である。SB316 の東側柱列は方眼の南北線上付近に位置し、北妻の柱筋は、SB321 の北から 2 列目の柱穴の位置とほぼ揃う。東西の基準線と東側の建物群である SB316 の西側柱列を北に延長し

た線のおおよその交点は、SB320B 北西隅柱から約 46.2m（1.7m × 27 付近）である。

西側の南北に並ぶ建物群は倉庫と想定され、SB312・320 はⅡ期を通して一貫して高床倉庫である。SB321 は、SB312・320 との位置関係から「屋」（山中 2007）か、あるいは、別の機能を持った床張りの建物跡であったと考えられ、ⅡA 期の SB322 についても、ⅡA 期とⅡB 期の連続性から SB321 と同様の性格の建物跡と推定される。東側の建物群の性格は不明だが、配置としては、ⅡA 期の SB318 の S2W1 から北に延長した線と東西の基準線との交点までが約 19m、ⅡB 期の SB316 北西隅柱と、SB316 西側柱列を北に延長した線と東西の基準線との交点までが約 17m あり、これらの北側には西側の建物群と同様に、建物跡がもう 1 棟存在し、南北に縦列する可能性がある。Ⅱ期を通してこれらの中央に位置する SB311 は、東西棟で桁行 5 間と大型であり、かつその南面には空閑地が形成されていることから、建物群で構成されるこの区域の中心となる建物跡と考えられる。その際、SB311A の南東隅柱から、SB318 西側柱列を北に延長した線と東西の基準線との交点まで約 29m、SB311B の南東隅柱から、SB316 西側柱列を北に延長した線と東西の基準線との交点まで約 24m あり、SB311AB の東側にも建物跡がもう 1 棟存在する可能性がある。

Ⅱ期を通して、東西 60m、南北 30m の範囲において、1.7m を単位とした地割りによる計画的な建物配置が確認された。「1.7m」という値は、SB311 の梁行 1 間分に相当することから、地割は中心施設と考えられる SB311 を基準に行われたと考えられる。その際、SB311・312・320 は約 5.1m の等間隔に配置されており、SB312A・320A は SB311A と同じ契機で建てられたと考えられる。一方で、個々の建物跡の柱間寸法は様々で、1.7m の方眼の交点に柱痕跡が位置するものは少ない。したがって、確認された地割は、それぞれの建物跡の位置を定める目安として使用されたと考えられる。

〔遺構期の年代〕先述した出土遺物の検討より、Ⅱ期の SD380 の年代が、8 世紀末から 9 世紀前半、ⅡB 期の SB311B・312C・316A・321 は 9 世紀代に建造されたと考えられることから、ⅡB 期の建物群は 9 世紀前半に機能したと推定される。Ⅱ期の建物群は建て替えや建物同士の重複関係が 1～2 度と少なく、長期にわたって機能していたとは考えられないことから、ⅡA 期の建物群についても 9 世紀前半と推定される。Ⅰ期については年代を示す遺物が出土しておらず、9 世紀前半以前で、H・I・L 区の古代の遺構には 8 世紀前半のものが認められないことから、8 世紀後半頃の可能性がある。

〔遺構群の性格〕遺構群の全体を検出していないが、Ⅱ期の建物群の建て替えの同時性と配置の計画性、地割の存在、それを構成する個々の建物跡の特徴は、城柵官衙遺跡やそれに関連する遺跡で確認されているものである。これは、建物群の特殊な性格を表し、さらにその造営と使用に関わった主体者の格の高さを表していると推察される。

I-9 区の建物群は、位置関係や、南北の基幹道路である SX200 と方向が類似すること、機能した年代が重複することから（車田 2003）、新田柵跡と密接に関係した施設と考えられる。団子山西遺跡内や新田柵跡周辺の遺跡では、8 世紀から 9 世紀前半の時期に、I-9 区に相当する建物群は確認されておらず[註 2)]、県内でも類似する建物群は僅かである（菅原 2007・2008）。一方、遺物については、H・I・L 区の調査では、この周辺でのみ須恵器双耳坏や盤が出土しているが（第 201 図）、量はごく僅かで、これ以外に建物群の性格を推定できるようなものは認められない。したがって、遺構からの推察には

なるが、I-9 区の建物跡の規模や建物群の配置の計画性から推定される格式の高さや、新田柵跡の中枢と想定される南西部の、ほぼ正面に展開していることを重視すると、新田柵跡の運営に関わる役人で、その中でも最上位に相当する階層の「館」であった可能性がある[註3)]。

また、Ⅰ期からⅡ期は場の性格が大きく変化し、ⅡA期からⅡB期は、場の性格に変更はないが、より整然とした配置に変わり、建物群の位置付けが上昇した可能性がある。これらの性格や位置付けの変化の要因は明らかではなく、団子山西遺跡全体の遺構変遷の中で理解する必要があるが、この時期の歴史的な事実として、『日本後記』延暦 18（799）年の讃馬郡の新田郡との併合や、宝亀 5（774）年から続く征夷が弘仁 2（811）年に終了することが挙げられる。このことは、新田郡にとって大きな出来事であったと推定され、考古学的に具体的な根拠を見出せていないが、これらが直接ないし間接的に関係した可能性はある。

B. I-16区

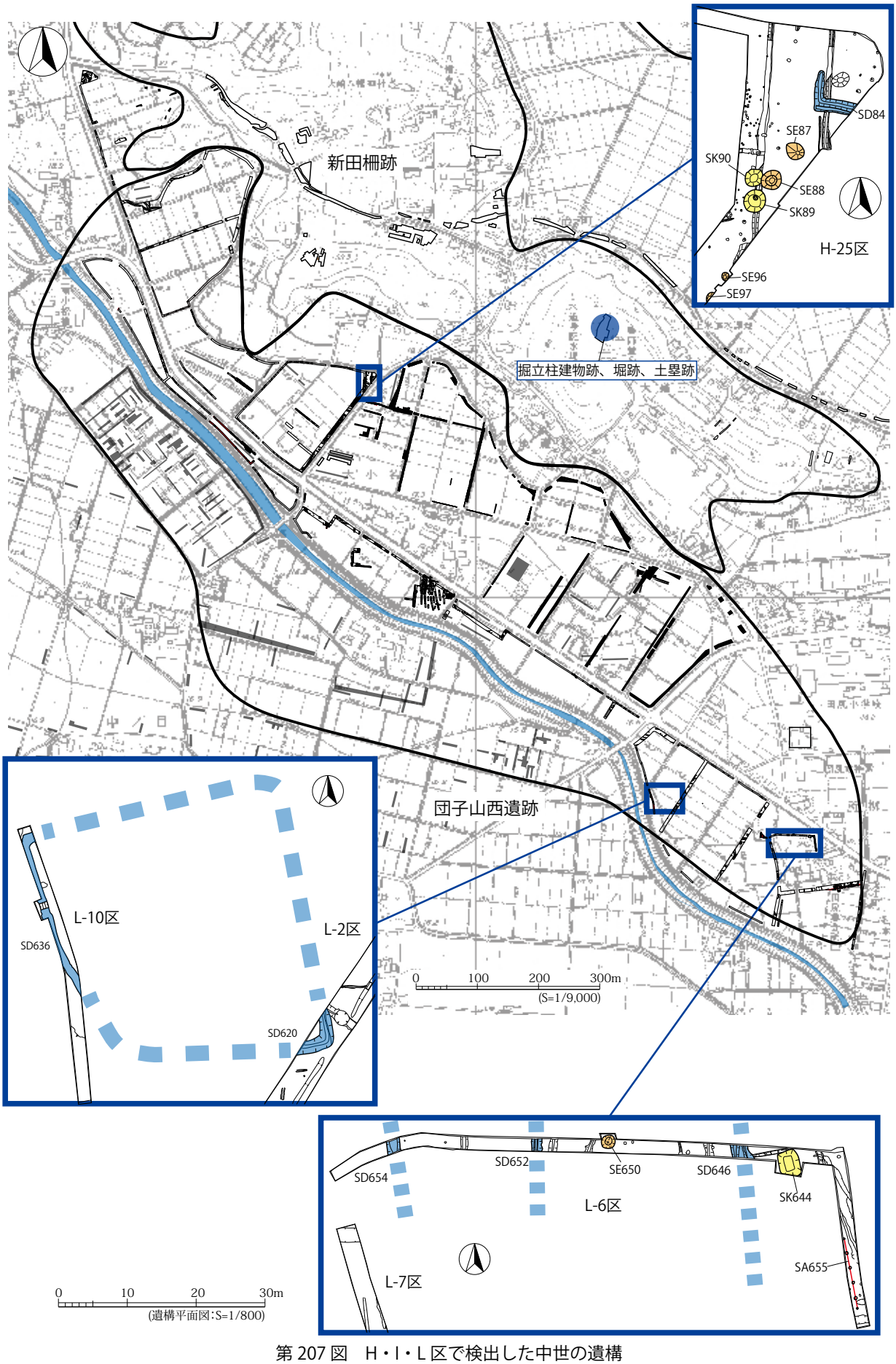
I-16 区では 3 棟の建物跡が検出された（第 111 図）。区画施設は認められず、建物跡が分布する範囲は、東西 22m、南北 15m 以上である。SB469・470 は 3 間× 2 間の東西棟の側柱建物跡で、柱筋は揃わない。これらは東西に並立するが、間隔が 1.5m と近接した位置にあり、異なる時期と推定される。SB472 は SB469・470 の北西に位置し、2 間以上× 2 間の総柱建物跡で高床倉庫と考えられる。倉庫と側柱建物跡の配置の特徴から、これらは「居宅」（菅原 1998・2007・2008、山中・石毛 1998、石毛 2007、山中 2007）を構成する建物跡と推定される。その際、SB470 は、柱掘方が隅丸長方形で規模が長軸 0.6 ～ 0.9m だが、面積は 14㎡程度と小さく主屋とは考えられない。年代は、先述の通り 8 世紀後半から 9 世紀前半と考えられる。

3）中世

遺構は、H-25 区北東部と L-2 区、L-6 区の 3 ヶ所にまとまって分布する（第 207 図）。これらは離れた地点に分布し、相互の関連性も不明であることから調査区ごとに遺構の特徴と性格を検討する。

【H-25区】可能性があるものを含めて溝跡 1 条（SD84）、井戸跡 4 基（SE87・88・96・97）、土坑 2 基（SK89・90）が南北 36m、東西 24m の範囲に分布する（第 207 図）。SD84 は上幅 0.67 ～ 2.0m、深さ 0.35m であり規模は小さい。井戸跡はいずれも素掘りで、長軸 1 ～ 2m（SE96・97）と 3m 程度（SE87・88）があり、前者と後者で分布にも相違が認められる。土坑はどちらも長軸 3m 程度、深さ 0.8 ～ 1m 程度と大型である。先述した通り、これらは 13 ～ 14 世紀を中心とした時期であるが、その中で SE88（1＋4 層）と SK89（1 ～ 3 層）、SK89（9 層）と SK90（堆下層）、SK89（1 ～ 3 層）と SK90（1 層）の間で中世陶器が接合しており、SK89 と SK90 は同時期に開放し機能していたと考えられる。また、重複関係から SE88 は SK90 が埋まってから造られており、SK89 の 3・4 層と SK90 の 1 層が人為的埋土であることから、SE88 掘削の際に生じた排土を SK89・90 の埋め戻しに利用した可能性がある。

これらの井戸跡や土坑がまとまって分布する事例は、中近世の屋敷跡が広い面積にわたって調査された仙台市中野高柳遺跡（宮城県教育委員会 2006a）、多賀城市山王遺跡（宮城県教育委員会 1997b）で認められる。そこでは、屋敷跡の特徴として、溝跡や自然地形によって区画された範囲に、主屋や



第 207 図　H・I・L 区で検出した中世の遺構

副屋と考えられる複数の掘立柱建物跡と、井戸跡、土坑が検出されること、主屋や副屋、広場的な空間が中央付近に位置し、その周辺や区画縁辺部に井戸跡、廃棄土坑とみられる大型土坑が配置されることが指摘されている（宮城県教育委員会 2006a）。また、区画内部を細分する溝跡も確認されている。これらを参考にすると、H-25 区で検出された遺構群は、屋敷跡の一部を構成するもので、確認された遺構の構成から、これらが位置する H-25 区北東部は屋敷跡の縁辺部であると考えられる。したがって、SD84 は屋敷跡を細分する溝跡で、これより北側に主屋や副屋、その他の掘立柱建物跡が位置し、SK89・90 は位置と規模、多種類の遺物が出土していることから廃棄土坑と考えられる。なお、南側の区画については、SD110B 河川跡ないし流水が終了し帯状に窪みとなった SD110B 河川跡の範囲がその役割を果たしていた可能性がある。

【L-2区】溝跡 1 条（SD620）のみの検出である（第 207 図）。SD620 は「L」字形で、規模は上幅 1.7 ～ 1.9m、深さ 0.76m である。平面形から区画溝跡と推定され、検出部分は南東隅にあたる。西側の L-10 区では同じく「L」字形の SD636 溝跡が所在し、位置関係から両者は一連の溝跡の可能性がある。一連と仮定すると、区画された範囲は不整な方形で、区画範囲の規模は南北 40m、東西 37m 程度である。区画内部の構成や詳細な時期については不明であるが、中世の屋敷跡の可能性がある。

【L-6区】可能性があるものを含めて溝跡 3 条（SD646・652・654）、土坑 1 基（SK644）が広範囲に分布する（第 207 図）。SD646 は上幅 2.5 ～ 3.18m、下幅 0.3 ～ 0.9m、深さ 0.97m と規模が大きく、SD652・654 は上幅 1.4 ～ 1.95m、深さ 0.49 ～ 0.75m であり、これらは区画溝跡の可能性がある。SK644 は長軸 3.95m 以上、深さ 1.4m と大型で、堆積土には炭化物片や有機質を多く含む廃棄層が認められ、箸等の木製品が出土しており廃棄土坑と考えられる。

中野高柳遺跡等の成果から、これらについても屋敷跡を構成する遺構と考えられ、L-6 区は屋敷跡の一部と推定される。その際、SK644 の南側で検出された SA655 柱列跡が注目される。SA655 は北西―南東 5 間で、柱掘方の規模が大きく柱間寸法が均一であり、南端の柱穴の規模が他より小さく、南側 1 間分の柱間寸法が他よりも小さいことから、桁行は不明だが梁行 4 間で南側に庇または下屋を持つ掘立柱建物跡と推定される。出土遺物がなく詳細な時期は不明だが、SD646 や SK644 と方向が類似することからこれらと同時期で、かつ大型であることからこの屋敷跡の主屋である可能性がある。また、SE650 井戸跡についても、出土遺物はないが近接した位置関係にあることから、これらの遺構に伴う可能性がある。

4）その他

H-24 区で SE65・67・68 井戸跡、H-25 区で SB122 と SD138・139 溝跡、SE135・136 井戸跡、柱穴、I-10 区で SB348、SE344 と小規模の柱穴が多数、I-9 区で SE384 井戸跡と柱穴が検出されており、これらは中近世の屋敷跡の可能性がある。

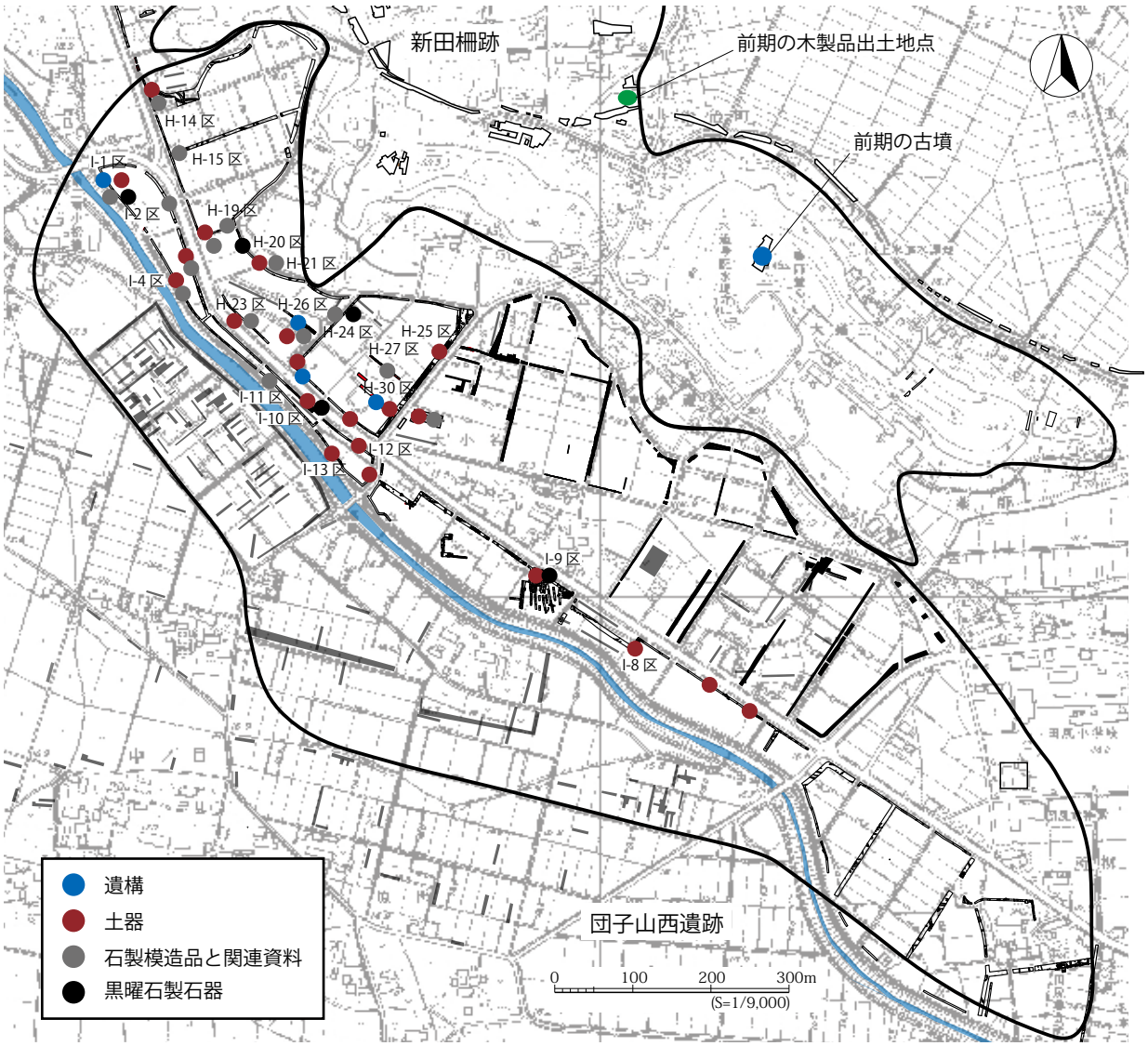
3. 遺跡

遺物、遺構の検討を総合し、古墳時代、古代、中世の団子山西遺跡の位置付けや性格をまとめる。

(1) 古墳時代

H・I 区では遺跡範囲の北西部を中心に、中期と後期の土師器、中期の須恵器、石製模造品、中期の可能性がある黒曜石製石器が出土した（第 208 図）。遺構は中期古段階の溝跡と新段階の土坑等が僅かに検出されたのみで様相は不明瞭である。ただし、遺構に伴わない土器を含めると中期新段階の遺物が多く、この時期の遺構が周辺に存在すると推定される。また、北側に隣接する新田柵跡では、前期の古墳や木製品が検出されており、この周辺で前期から後期にかけての活動の痕跡が認められる。

出土した中期の可能性がある遺物の内容から、団子山西遺跡は、この時期に県北部地域で特有の古墳文化と続縄文文化の両方の要素を持った遺跡の可能性がある[註 4)]。なお、土師器とともに須恵器、石製模造品、黒曜石製石器が出土した古墳時代中期の遺跡には、栗原市長者原遺跡（栗駒町教育委員会 1995）、加美町壇の越遺跡（宮崎町教育委員会 2003）、大崎市名生館遺跡（古川市教育委員会 1991、佐藤・藤沢・岩見 1993）、多賀城市山王遺跡（多賀城市史編纂委員会 1991、宮城県教育委員会 1998a）、仙台市鴻ノ巣遺跡（仙台市教育委員会 2004b）、仙台市南小泉遺跡（仙台市教育委員会 1998ab）等があり、古墳時代の団子山西遺跡の性格を考える上で注意される。



第 208 図　H・I・L 区　古墳時代の遺構・遺物検出地点

(2) 古代

H・I・L 区の遺構の変遷、遺構分布の特徴とその要因をまとめ、北側に隣接する新田柵跡との関係について検討する。

1) 遺構の変遷と分布

①変遷

遺跡全体の中での遺構分布の特徴として、H 区は河川跡や自然流路跡が主体となり、東端で道路跡や小規模な掘立柱建物跡が認められる。I 区は掘立柱建物跡や竪穴建物跡が分布するが、一部で集中する以外は散漫であり、L 区も 1 地点で竪穴建物跡と溝跡が認められるのみである。以下、遺物や遺構の重複関係とその特徴から推定された年代ごとに遺構の変遷をまとめる。なお、SI294・367 竪穴建物跡、SA404 材木塀跡、SX478 竪穴状遺構、SD10・11・633・634・645 河川跡、SD24・27・37・38・165・491 自然流路跡については、古代と考えられるが、詳細な時期が不明であるため記述を省略する。

A. 8世紀前半（第209図）

〔自然地形〕 SD12・43・253・110A 河川跡、SX407・408 湿地跡である。

〔遺構の様相〕 人為的な遺構は認められず、SD110A 河川跡で出土した須恵器のみである。

B. 8世紀後半（第209図）

〔自然地形〕 8 世紀前半のものに SD365 自然流路跡が加わる。

〔遺構の様相〕 SX200 南北道路跡、H-25 区 SB163 掘立柱建物跡と SD116 溝跡、SK123・154 土坑、I-7 区 SI283 竪穴建物跡、I-10 区 SI341 竪穴建物跡と SD350 溝跡、I-13 区 SD366 溝跡、L-15・16 区 SI670 竪穴建物跡と SD669・678 溝跡である。この他に、SX400 東西道路跡、I-9 区 SB315・323 掘立柱建物跡、I-16 区 SB469・470・472 掘立柱建物跡もこの時期の可能性がある。

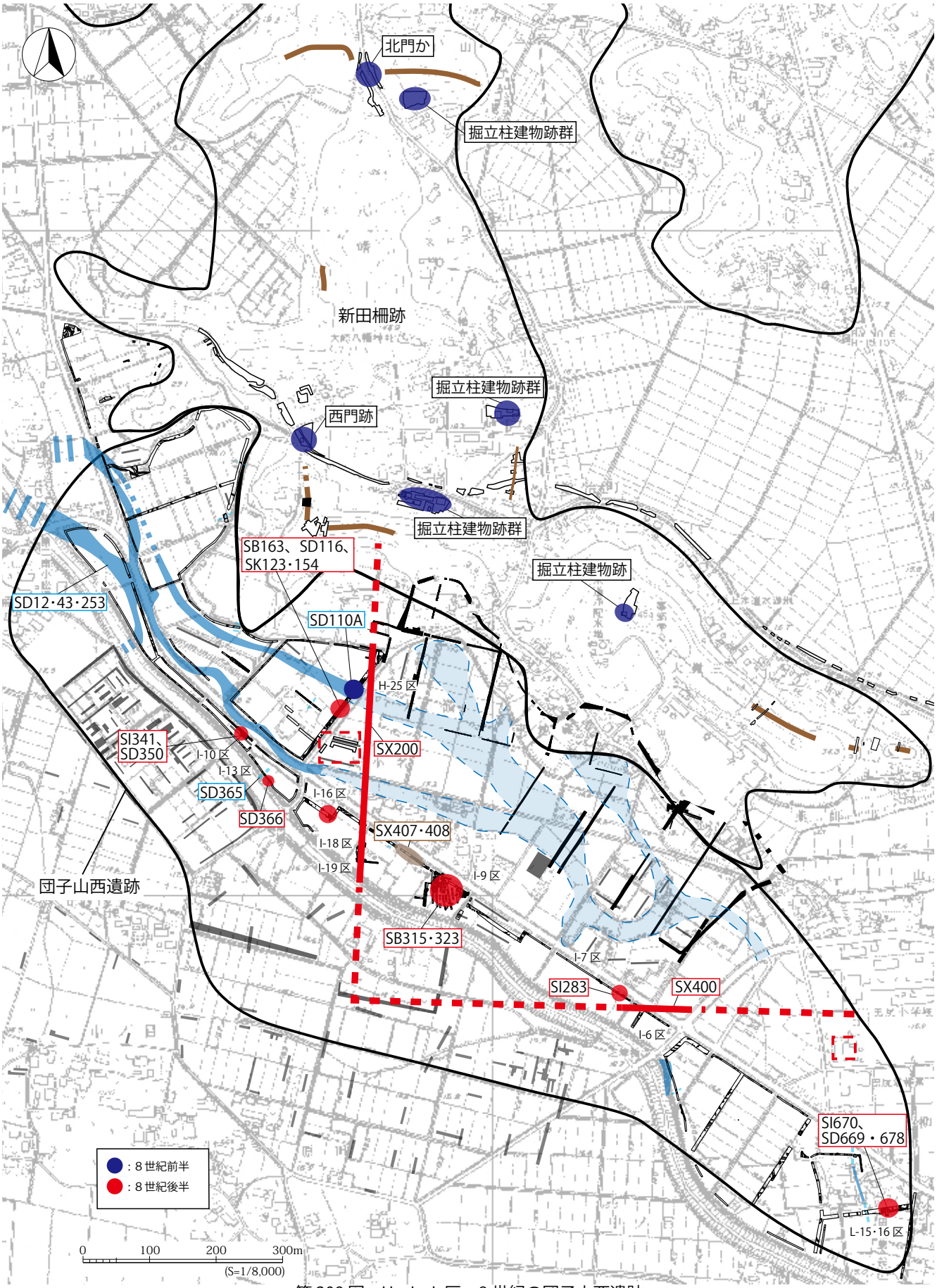
SX200 は北で東に 3～4°、H・I 区の掘立柱建物跡や竪穴建物跡は 5～16°偏り、方向は概ね共通する。SX200 周辺（SB163・469・470・472、SD116、SK123・154）、SX400 周辺（SI283）、両道路跡から 100m 程度離れた地点（SB315・323）、両道路跡から 150m 以上離れた地点（SI341・670、SD350・366・669・678）に分布し、それぞれ遺構密度は低い。分布と遺構の種類との関係では、道路跡から 100m 程度の範囲では掘立柱建物跡や竪穴建物跡等の様々な遺構が、道路跡から 150m 以上離れた範囲では掘立柱建物跡以外の遺構が認められる。H・I・L 区では、この時期に道路跡が整備され、この方向を基準に掘立柱建物跡や竪穴建物跡等の遺構が造成されたと考えられ、土地利用の大きな画期となる。一方、出土遺物には特殊なものは認められない。

C. 8世紀末から9世紀前半（第210図）

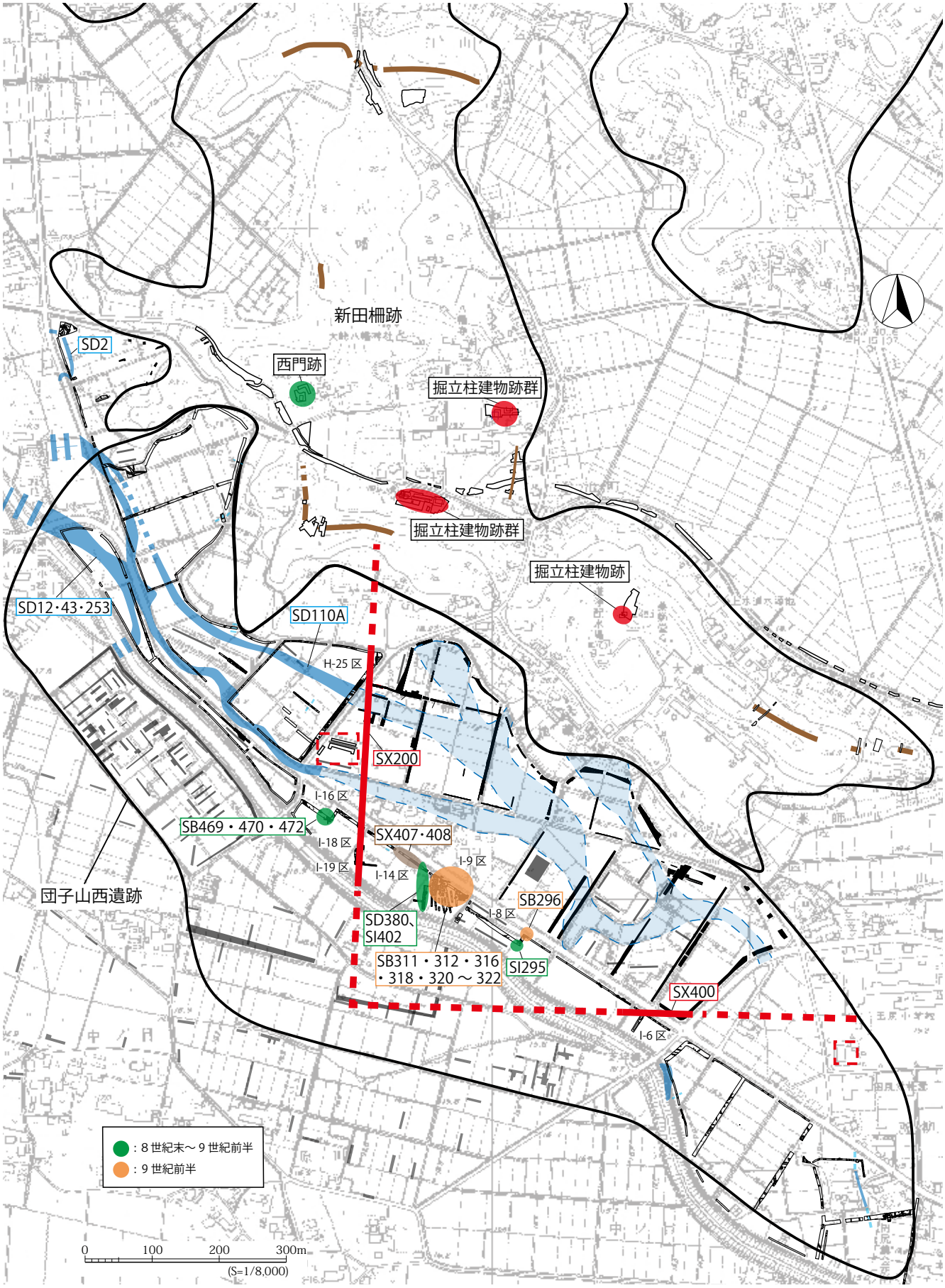
〔自然地形〕 8 世紀後半のものに SD2 河川跡が加わる。

〔遺構の様相〕 8 世紀末から 9 世紀前葉が I-8 区 SI295 竪穴建物跡、I-9 区 SI402 竪穴建物跡、8 世紀末から 9 世紀前半が I-9・14 区 SD380 溝跡、9 世紀前半が I-9 区 SB311・312・316・318・320～322 掘立柱建物跡で、I-8 区 SB296 掘立柱建物跡、I-16 区 SB469・470・472 掘立柱建物跡もこの時期の可能性がある。

掘立柱建物跡や竪穴建物跡は北で東に 3～17°偏り、8 世紀後半と同じく道路跡と概ね共通した



第 209 図　H・I・L 区　8 世紀の団子山西遺跡

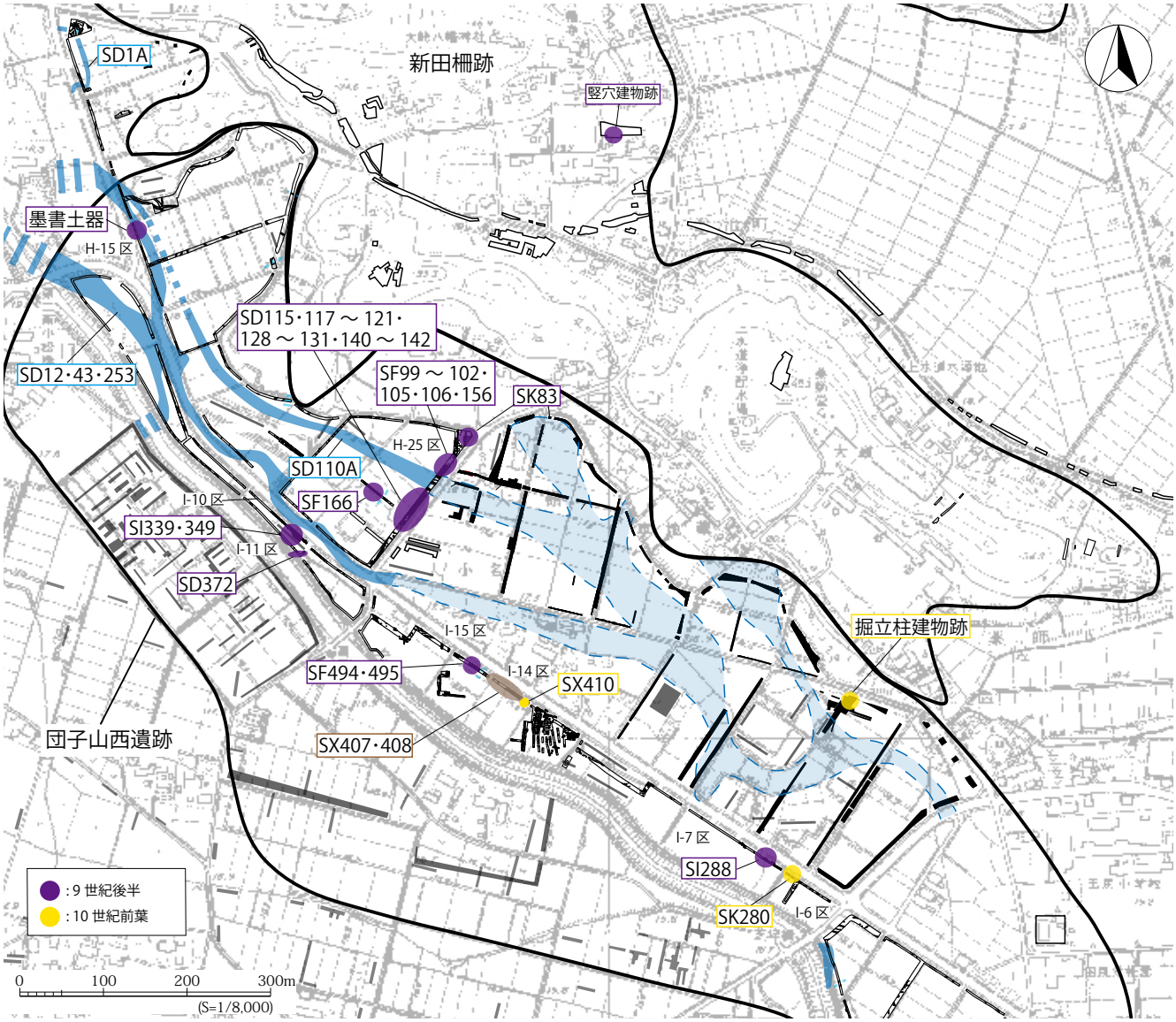


第 210 図　H・I・L 区　8 世紀末～ 9 世紀前半の団子山西遺跡

方向である。SX200 周辺（SB469・470・472）と、SX200 の東側と SX400 の北側のそれぞれ 100m 程度離れた範囲（SB311・312・316・318・320～322、SD380、SI402、SB296、SI295）に分布し、SX200 の北西側（H 区、I-1～5・10～13 区）や SX400 の南東側（L 区）では、この時期の遺構が検出されていない。したがって、遺構の分布範囲は 8 世紀後半よりも縮小する。8 世紀後半に竪穴建物跡が分布した範囲には遺構が確認できなくなり、一方で、小規模な建物跡が分布していた I-9 区に大型の建物群が建造されている。この時期は、道路を基準とした遺構の造成という点では変化はないが、各地点における土地利用には大きな変化が生じている。

D. 9世紀後半～10世紀初頭（第211図）

〔**自然地形**〕8 世紀末から 9 世紀前半のものに、SD1A・677 河川跡、SD42・46・115・117～121・128～131・140～142 自然流路跡、SX98・104 が加わる。自然流路跡が増加し、この時期に H-25 区周辺では低地への溢水が頻発したと推察される。



第 211 図　H・I・L 区　9 世紀後半～ 10 世紀前葉の団子山西遺跡

〔**遺構の様相**〕I-7 区 SI288 竪穴建物跡、I-10 区 SI339・349 竪穴建物跡、I-11 区 SD372 溝跡、H-25 区 SK83 土坑、SF99～102・105・106・156・166・494・495 小溝状遺構群で、SX200 はこの時期には廃絶したと推定される。H・I・L 区では、この時期の掘立柱建物跡は確認できない。

竪穴建物跡の方向は、北で東に 13～30°偏る。9 世紀前半までの道路跡に沿った方向とは異なり、この時期に認められる小溝状遺構群と同様、河川跡の方向に影響を受けたものに変化する。分布範囲は、8 世紀末から 9 世紀前半よりも拡大し、廃絶した SX200 の西側の微高地上や SX400 の北側に竪穴建物跡、SX200 周辺で河川跡に面して小溝状遺構群による耕作域が形成される。道路跡による規制がなくなり、自然地形にあわせた遺構配置に変化しており、土地利用の面でも大きな変化である。また、遺跡北西端の H-15 区 SD12 河川跡から、H・I・L 区では最も多くの墨書土器が出土しており、この中には「□寺」もある。9 世紀前半までには認められなかった事象であり、この周辺での新たな活動の存在が推定される。

E. 10世紀前葉（第211図）

〔**自然地形**〕灰白色火山灰降下以降の河川跡・自然流路跡については明確ではない。

〔**遺構の様相**〕SX410 土器埋設遺構と SK280 土坑で、いずれも特殊な性格が推定される。遺構数が少なく、分布は散漫である。SK280 の約 200m 北には、10 世紀前葉の大型の掘立柱建物跡が検出されており（宮城県教育委員会 2016a）、これらと関連する可能性がある。

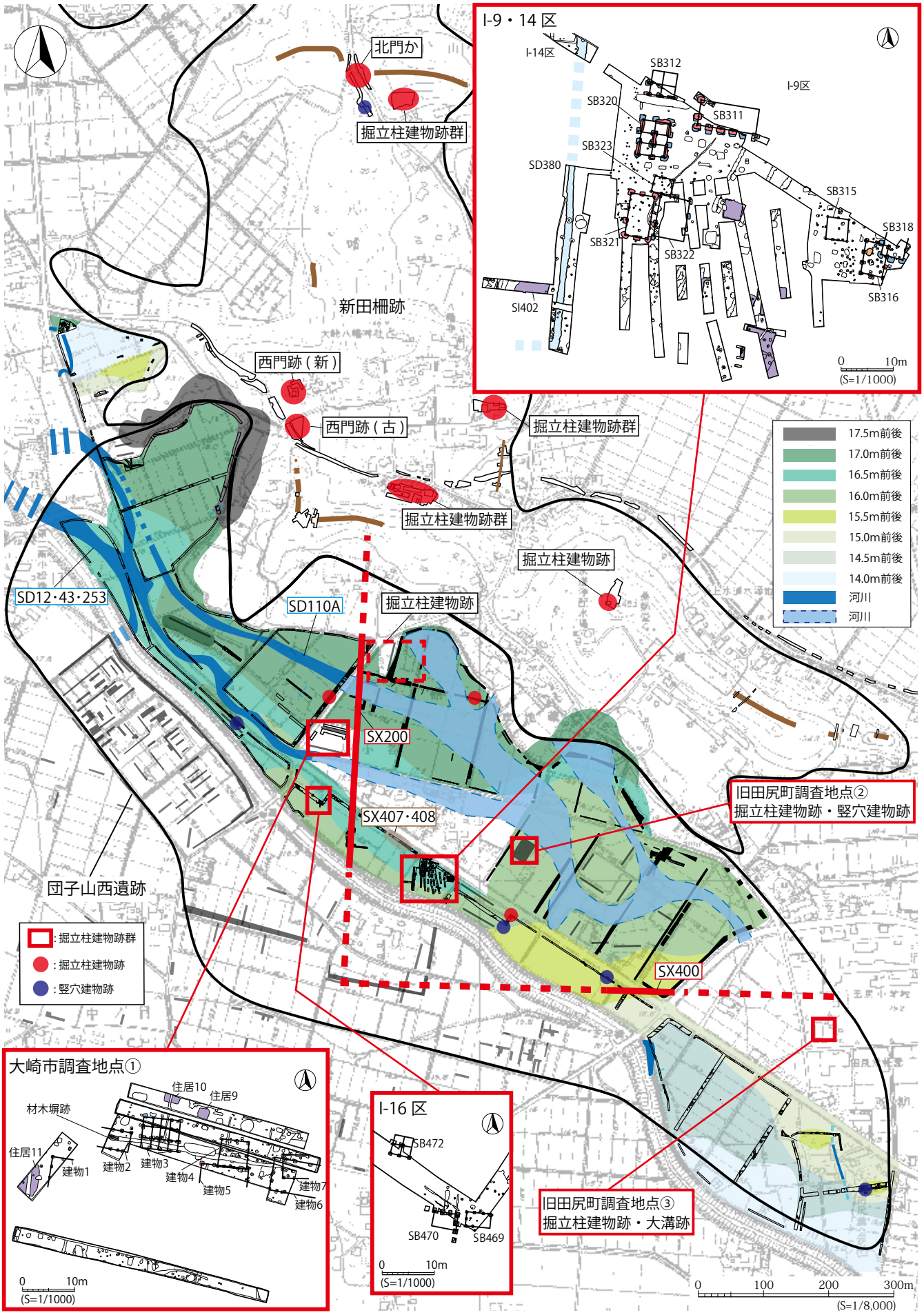
②団子山西遺跡の主要な遺構とその分布の要因

団子山西遺跡では、宮城県教育委員会の他に、旧田尻町教育委員会や大崎市教育委員会による調査が行われている（第 4 図、第 2 表）。ここでは、これらの調査で検出された掘立柱建物跡を中心とする遺構群の分布について検討し、その要因を地形やその他の遺構との関係で推察する[註 5)]。

第 212 図は、遺構検出面の標高値から作成した地形の高低差を色別に表現した背景図に、宮城県と旧田尻町、大崎市の各教育委員会の調査で検出された掘立柱建物跡や竪穴建物跡等の遺構の位置を示したものである。旧田尻町と大崎市教育委員会の調査では、遺跡中央西寄りの SX200 に面した地点（第 212 図：地点①）で、掘立柱建物跡や竪穴建物跡、材木塀跡等が検出された（大崎市教育委員会 2009b）。掘立柱建物跡には、東西 4 間、南北 3 間の大型の総柱建物跡も認められる。年代は古代と推定されており、SX200 と概ね同じ方向であることから 8 世紀後半から 9 世紀前半の可能性がある。

旧田尻町教育委員会の調査では、遺跡中央部の K 区（第 1 図）北西隅にあたる地点（第 212 図：地点②）で掘立柱建物跡や竪穴建物跡等が検出された。掘立柱建物跡は東西棟で柱筋を揃えている。同じく旧田尻町教育委員会の調査により、遺跡南東端の旧田尻小学校西遺跡部分（第 212 図:地点③）で、上幅 3～5m の東西方向の大溝跡と、一辺 0.8～1.0m の大型の柱掘方からなる掘立柱建物跡が複数棟検出されている（田尻町教育委員会 2005）。両遺構は方向が共通し、大溝跡で区画された掘立柱建物跡群と考えられ、時期は 8～9 世紀とされており、H・I・L 区の主要な遺構の時期と重なる。

これらの遺構は、いずれも SX200・400 道路跡付近や、両道路跡と SD12・43・253・110A 河川跡に画された微高地の範囲に分布する。この分布には、a 類：道路跡（SX200・400）や河川跡（SD12・43・253 や SD110A）付近、b 類：道路跡（SX200）と河川跡（SD12・43・253 や SD110）が交差



第 212 図　団子山西遺跡の主要な遺構の位置

する地点付近、c 類：南北道路跡（SX200）と東西道路跡（SX400）、河川跡（SD12・43・253）それぞれから 70～100m 程度の等距離付近、の 3 種類が認められる。a 類には旧田尻町による調査地点②、b 類には I-16 区と大崎市による調査地点①、c 類には I-9 区が該当する。また、旧田尻町による調査地点③は、SX400 を東側に延長した部分に近接した位置にあり、これらの遺構群が SX400 と関連して配置された a 類の可能性がある。道路である SX200・400 は陸上交通路として、古代の田尻川の一部かその支流と考えられる SD12・43・253 や SD110A は、規模から水上交通路として利用されたと推定され[註 6)]、したがって、これらの主要な遺構群は、水陸の交通路を重視した配置がなされたと考えられる[註 7)]。この想定に基づくと、c 類の、I-9 区に計画的に配置された大型の掘立柱建物跡群が位置する要因については、一定の敷地面積が確保された地形であることに加え、東西・南北方向の陸路と規模の大きな水路のこれら全てに最も近接した位置であることが関係した可能性がある。

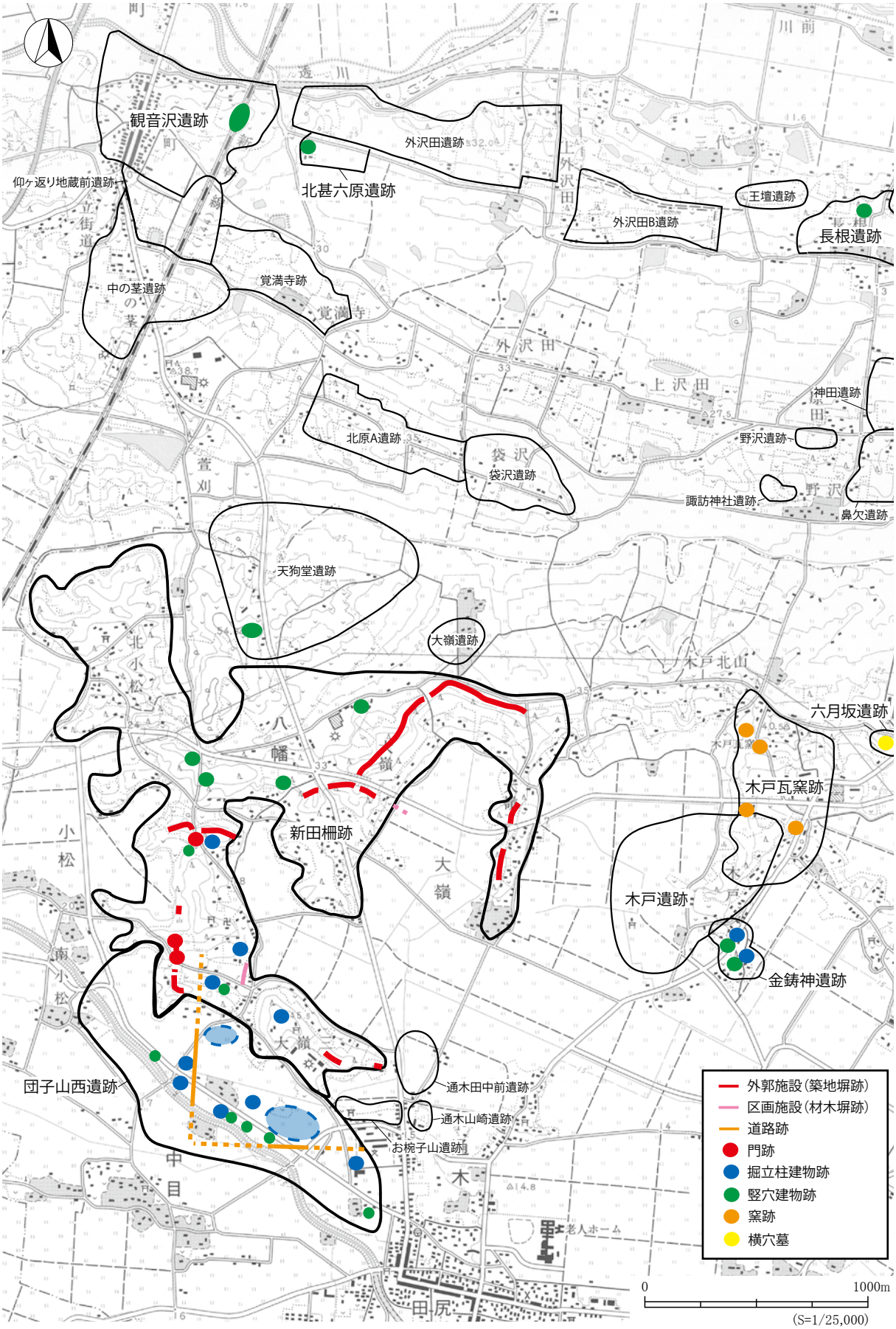
2）団子山西遺跡と新田柵跡

①新田柵跡との関係と団子山西遺跡の性格

新田柵跡は、東西 1.5㎞、南北 1.7㎞の大規模な遺跡だが、これまでの調査によって遺跡範囲の南西部で重要な遺構が発見されている（第 213 図）。この範囲は、外郭北辺の築地塀跡や、築地塀跡と推定される外郭西辺と南西隅、南辺、内郭の東辺の可能性がある材木塀跡によって区画され、北辺には北門の可能性がある掘立柱建物跡、西辺には八脚門と推定される門跡が建て替えを含めると 4 棟検出されている。区画内には、南辺の北側や西門から東に約 300m の地点で大型の掘立柱建物跡や円面硯等が検出され、複数の官衙域が存在する。瓦の出土がこの区画内に集中しており、したがって、遺跡南西部が新田柵跡の中枢と推定される（村田 2007）。遺構は、外郭施設では北辺が 3 時期、西辺が 4 時期、南辺が 2 時期、官衙域が 5～6 時期に大別され、年代は、西辺が 8 世紀前半から 9 世紀前半（車田 2003）である以外はいずれも 8 世紀前半から後半の中で理解されている（田尻町教育委員会 1998・2000～2004・2006、大崎市教育委員会 2007～2011）。したがって、新田柵跡は、8 世紀前半に整備が開始され、8 世紀代で施設が充実し、西辺の西門の状況から少なくとも 9 世紀前半までは機能していたと推定される。

団子山西遺跡で検出された SX200 は、先述した通り新田柵跡の南北道路と考えられ、H・I・L 区の 8 世紀後半から 9 世紀前半の遺構は、この道路跡の方向や位置を基準に配置されていたと推定される。したがって、この時期の新田柵跡と団子山西遺跡は密接に関連した遺跡群として理解でき、団子山西遺跡は、新田柵跡との関わりで造営された特殊な集落遺跡と考えられる。

H・I・L 区では明確に 8 世紀前半に遡る遺構は認められず、SX200 の造営も現時点では 8 世紀後半と考えられる。したがって、H・I・L 区の遺構については、新田柵跡と同じ契機ではなくそれより遅れて造営、整備されたと考えられる。H・I 区や旧田尻町、大崎市の調査では、各地点で掘立柱建物跡群が認められ、その中には「館」等の性格が推察されたものも存在する。この遺構のあり方は、新田柵跡の北側の丘陵に広がる竪穴建物跡主体の集落遺跡とは異なる様相を示しており（第 213 図）、団子山西遺跡の利用主体が新田柵跡に関連する役人層を中心としていたことを表す可能性がある。なお、同様な性格を持つと考えられる遺跡に、加美町壇の越遺跡がある。団子山西遺跡では、壇の越遺跡で検出された方格地割は認められず、その要因として新田柵跡の南面に広がる沖積地の面積や地形、河



第 213 図　新田柵跡周辺の古代の遺跡と8～9世紀前半の主な検出遺構

川の影響、そして、両遺跡における造営の経緯や目的の相違が考えられる。

②団子山西遺跡から推定される新田柵跡

団子山西遺跡の SX200 が新田柵跡の南北方向の基幹道路と考えられたことから、この北側への延長と南辺とが交差する丘陵の鞍部地点に新田柵跡外郭南門、そしてその北側延長部分で周囲よりも標高が大きい大崎八幡神社付近に政庁が位置する可能性がある。また、新田柵跡の存続時期については、これまで調査した地点では西辺以外は 8 世紀代と考えられているが、H・I・L 区の成果から、新田柵跡全体として少なくとも 9 世紀前半までは機能していた可能性がある。

団子山西遺跡の調査成果は、新田柵跡南面に広がる遺構の状況だけでなく、密接に関連し、ある時期は一体となって遺跡群を構成していた新田柵跡それ自体を解明する一助になると考えられる。城柵の南面を広範囲にわたって調査した例は、県内では、多賀城市山王・市川橋遺跡と加美町壇の越遺跡、大崎市名生館官衙遺跡のみである。そのため、団子山西遺跡の調査は、城柵と関連遺跡の関係、そして、地域的な事情により多様な形態を生んだと推定される各地域の統治施設・体制（熊谷 2007）を検討する上でも重要と考えられる[註 8)]。

（3）中世

遺跡中央北寄りの H-25 区と南東部の L-2・10 区、L-6 区で屋敷跡に関係すると考えられる遺構・遺物が検出された。これらの時期は、H-25 区が 13～14 世紀で、それ以外は概ね中世と考えられる。区画の規模や内部の遺構構成が不明で、出土遺物も少なく、これらの位置付けは困難だが、H-25 区の屋敷跡については、居住者は一般的な階層と考えられる。

団子山西遺跡 H・I・L 区については、幹線道路に近い位置にあり大型の掘立柱建物跡や多量の遺物が出土した栗原市高清水の観音沢遺跡（宮城県教育委員会 1980c）や道路跡に面して複数の屋敷跡が検出された北甚六原遺跡（栗原市教育委員会 2009）とは異なり、広範囲に点的に屋敷跡が分布する状況であったと考えられる。

4. まとめ

団子山西遺跡は、宮城県北部の内陸部に位置し、江合川の支流である田尻川両岸の標高 12～18m の沖積地に立地する大規模な遺跡である。遺跡の時期は、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中近世にわたるが、主体は奈良・平安時代である。以下、平成 22～25 年度に調査した H・I・L 区の成果についてその要点をまとめる。

古墳時代

（1）中期の溝跡 1 条と土坑 1 基、性格不明遺構 1 基、河川跡 1 条を検出した。溝跡は中期古段階、それ以外は新段階と考えられる。

（2）出土遺物には、中期と後期の土師器、中期の須恵器、石製模造品、石製模造品の未製品や素材剥片、中期の可能性がある黒曜石製石器があるが、遺構に伴うものは少ない。

奈良・平安時代

（1）道路跡 2 条、掘立柱建物跡 19 棟、竪穴建物跡 21 棟、材木塀跡 1 条、土器埋設遺構 1 基、溝跡 7 条、土坑 4 基、小溝状遺構群 10 ヶ所、河川跡・自然流路跡 26 条、湿地跡 1 ヶ所等を検出した。

（2）道路跡は、南北道路と東西道路が検出され、このうち、南北道路の検出長は未調査部分を含めて約 295m である。施工された範囲はさらに南北に延長すると考えられ、位置や規模から北側に隣接する新田柵跡に伴う南北方向の基幹道路に位置付けられる。時期は、8 世紀後半から 9 世紀前半頃と推定される。

（3）I-9 区では、東西 60m、南北 60m 以上の範囲に溝跡と掘立柱建物跡群が検出された。建物群は側柱建物跡や総柱建物跡、床束建物跡で構成されている。Ⅰ期とⅡ期に大別され、Ⅱ期はⅡ A 期とⅡ B 期に細分される。時期は、重複関係と出土遺物から、Ⅰ期が 8 世紀後半頃の可能性、Ⅱ A 期とⅡ B 期が 9 世紀前半である。

Ⅰ期は小規模な建物跡が散漫に分布する。Ⅱ期は東西 60m、南北 30m の範囲において、桁行 5 間の大型の建物跡と高床倉庫と考えられる総柱建物跡や側柱建物跡が柱筋を揃えて計画的に配置されている。Ⅱ期の建物群は、新田柵跡と密接に関係した施設で、新田柵跡の運営に関わる役人の「館」であった可能性がある。

（4）I-16 区では小規模な側柱建物跡 2 棟と高床倉庫と考えられる総柱建物跡 1 棟が検出された。配置から「居宅」を構成する建物跡と推定される。

（5）出土遺物は、土師器、須恵器、赤焼土器、瓦、硯、石製品、木製品、鉄製品、動植物遺存体、文字資料である。特徴的なものに須恵器双耳坏や盤、稜埦、猿投窯産の長頸壺、木戸窯跡産と考えられる須恵器坏・蓋があるが、いずれも少量である。時期は、8 世紀前半から 10 世紀前葉で、8 世紀後半から 9 世紀前半が主体である。

（6）遺構・遺物から、8 世紀前半、8 世紀後半から 9 世紀前半、9 世紀後半以降に大別される。8 世紀前半は遺構が認められず、遺物のみである。8 世紀後半は南北道路跡が整備され、9 世紀前半にかけて道路跡の位置と方向を基準にして掘立柱建物跡の建造や竪穴建物跡の造成が行われる。この時期の新田柵跡と団子山西遺跡については密接に関連した遺跡群として理解でき、団子山西遺跡は、新田柵跡との関わりで造営された特殊な集落遺跡と考えられる。9 世紀後半には道路跡が廃絶して土地利用が大きく変化し、それ以降は河川跡等の自然地形にあわせた遺構配置となる。

（7）団子山西遺跡の調査成果は、新田柵跡南面に広がる遺構の状況だけでなく、密接に関連し、ある時期は一体となって遺跡群を構成していた新田柵跡それ自体を解明する一助になると考えられる。城柵の南面を広範囲にわたって調査する例は少なく、貴重な事例と考えられる。

中世

（1）H-25 区で溝跡 1 条、井戸跡 4 基、土坑 2 基、L-2 区で溝跡 1 条、L-6 区で溝跡 3 条、土坑 1 基を検出した。これらは、屋敷跡を構成する遺構と考えられる。時期は、H-25 区が 13～14 世紀で、それ以外は概ね中世である。

（2）出土遺物は、磁器、中世陶器、石製品、銭貨、漆製品、木製品、竹製品である。中世陶器には、東海産の他に、在地の伊豆沼窯跡群産と考えられるものが一定量認められた。伊豆沼窯跡群産の中世陶器の出土事例は少なく、その分布と流通を考える上で貴重な資料である。

（3）H-25 区の屋敷跡については、遺物に奢侈品が認められないことから、居住者は一般的な階層と考えられる。

その他

（1）遺跡北東部の H-7・24 区で、北西側に隣接する北小松遺跡の基本層序Ⅵ層に対応する層が検出され、早期後葉から前期前葉と晩期後葉の縄文土器、石器、石製品が出土した。

（2）H-24・25 区、I-9・10 区で中近世の屋敷跡の可能性がある柱穴、井戸跡、溝跡、H-11・12・14・15・19・23～25 区、I-4 区で近世の河川跡が検出された。

註

註 1）I-9 区の竪穴建物跡については、部分的な検出で、かつ削平により床面が残存しておらず掘方埋土での遺構確認であり、ここではその位置付けを保留とする。

註 2）旧田尻小学校西遺跡の範囲で調査された大溝跡と建物跡にその可能性があるが、詳細が明らかではない（田尻町教育委員会 2005）。また、栗原市瀬峰の下富前遺跡では 9 世紀初頭の桁行 5 間、梁行 2 間の間仕切りがある身舎に片廂が伴う大型の建物跡等が検出されているが（瀬峰町教育委員会 2002・2004）、調査面積の関係で、全体の様相は明らかではない。

註 3）城外官衙の可能性もあるが、それを示す遺物が今回の調査では出土していないこと、城外官衙の典型的な例が明確ではないこと（山中編 2004）、倉庫の規模や中心となる建物との位置関係が多賀城市山王遺跡の国司の館（宮城県教育委員会 1996b）等と類似することから、ここでは「館」の可能性を考えている。

註 4）平成 29 年度調査で古墳時代中期の竪穴建物跡が検出された。整理・報告は今後行われるが、ここでは多くの土器とともに琥珀が出土している。この時期の琥珀は、大崎市名生館官衙遺跡（古川市教育委員会 2002）、美里町駒米遺跡（小牛田町教育委員会 1998）で出土が確認されている。

註 5）旧田尻町教育委員会の調査成果については、大崎市教育委員会より提供いただいた。

註 6）H-15 区の SD12 の底面に杭が打ち込まれた状況が確認されており（第 15 図）、河川利用の一端を表している可能性がある。

註 7）同じく城柵官衙遺跡の南面に位置し、それらと密接なかかわりを持つ多賀城市山王・市川橋遺跡や、加美町壇の越遺跡においても、陸上・水上交通路と遺構の種類や配置との関係性が確認されている（宮城県教育委員会 1996b、加美町教育委員会 2010）。また、陸奥国の城柵の多くが河川近くに立地し、城柵経営に水運が一定の役割を担っていたことが指摘されている（吉野 2015）。

註 8）今後は、SX200 南北道路跡と SX400 東西道路跡の延長の確認を行い、施工範囲と規模、改修の有無、時期、両道路跡の交差点の有無とその状況、また河川との関係を明らかにすること、大型の掘立柱建物跡が計画的に配置された I-9 区について、その分布の広がりと、SD380 溝跡の南北の延長を確認し、掘立柱建物跡群の区域の規模と遺構の構成を明らかにすること、I-9 区南西部で検出された材木塀跡の規模と構造、時期、区画内の様相を明らかにすること、I-16 区の掘立柱建物跡群の分布の広がりを確認し、その規模と遺構の構成を明らかにすること等が課題として挙げられる。

引用・参考文献

<論文等>

安達訓仁 2003「伊豆沼古窯跡採集の中世陶器について」『宮城考古学』第 5 号 pp.279-286

吾妻俊典 2001「多賀城跡周辺における須恵器製作技法の変化」『古代の土器研究会第 6 回シンポジウム　古代の土器研究　律令的土器様式の西・東 6　須恵器の製作技法とその転換』pp.106-114

吾妻俊典 2003「陸奥南部におけるカマド出現期の土器」『宮城考古学』第 5 号 pp.79-96

飯村　均 2015「陸奥南部における中世村落の様相」『中世奥羽の考古学』再録 pp.62-75

石毛彩子 2007「古代豪族居宅の構造―官衙・集落との比較から―」『古代豪族居宅の構造と機能』pp.305-333

伊藤一義 2000「第五章　第三節四北条氏の進出」『仙台市史　通史編 2　古代中世』pp.282-286

井上克弘・山田一郎 1990「東北地方を覆う古代の珪長質テフラ " 十和田―大場浮石 " の同定」『第四紀研究』第 29 巻 2 号 pp.121-130

今泉隆雄 1992「7　律令国家とエミシ」『新版古代の日本　第九巻東北・北海道』pp.163-198

入間田宣夫 1997「第一章　平泉・鎌倉時代の賀美郡」『新編　中新田町史　上巻』pp.115-138

上田秀夫 1982「14 ～ 16 世紀の青磁椀の分類」『貿易陶磁研究』No.2 pp.55-70

氏家和典 1957「東北土師器の型式分類とその編年」『歴史』14 pp.1-14

大阪府立近つ飛鳥博物館 2006『年代のものさし―陶邑の須恵器―』

大橋康二 1988『肥前陶磁』考古学ライブラリー 55　ニューサイエンス社

小山正志・竹原秀雄 1994『新版　標準土色帖』

覚満寺跡発掘調査団 1999「覚満寺跡発掘調査概報」『宮城考古学』第 1 号 pp.97-104

九州近世陶磁学会 2009『第 19 回九州近世陶磁学会資料　江戸後期における庶民向け陶磁器の生産と流通　関東・東北・北海道編』

興野義一 1968「大木式土器理解のために（Ⅱ）」『考古学ジャーナル』16 pp.22-25

熊谷公男 1989「黒川以北十郡の成立」『東北学院大学東北文化研究所紀要』第 21 号 pp.1-17

熊谷公男 2000「養老四年の蝦夷の反乱と多賀城の創建」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 84 集 pp.61-90

熊谷公男 2007「城柵と城司―最近の「玉造等五柵」に関する研究を手がかりとして―」『東北学院大学東北文化研究所紀要』第 39 号 pp.1-34

車田　敦 2003「新田柵跡推定地の概要」『第 29 回古代城柵官衙遺跡検討会』pp.195-200

車田　敦 2004「宮城県田尻町新田柵跡推定地出土の底部穿孔土器について」『宮城考古学』第 6 号 pp.231-234

桑原滋郎・藤沼邦彦 1981「東北地方の古代・中世窯」『日本やきもの集成 1　北海道　東北　関東』pp.101-105

櫻井友梓 2007「多賀城創建期の須恵器」『考古学談叢』pp.593-612

佐藤敏幸 2007a『牡鹿地方における在地社会の変動と古代陸奥国の律令体制形成過程の研究』東北学院大学博士論文

佐藤敏幸 2007b「第Ⅱ章　東北・北海道における 6 ～ 8 世紀の土器変遷と地域の相互関係　vi . 宮城県北部・沿岸部」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』pp.164-209

佐藤敏幸 2015「東北の城柵官衙と土器」『第 18 回古代官衙・集落研究会報告書　官衙・集落と土器 1―宮都・官衙と土器―』pp.41-72

佐藤信行 1984「宮城県内の北海道系遺物」『宮城の研究』1 pp.425-478

佐藤　優 2003「三輪田遺跡・権現山遺跡の概要」『第 29 回古代城柵官衙遺跡検討会』pp.143-155

佐藤玲子・藤沢　敦・岩見和泰 1993「宮城県の概要―宮城県内における祭祀関係遺物とそのあり方―」『第 2 回東日本埋蔵文化財研究会　古墳時代の祭祀―祭祀関係の遺跡と遺物―』pp.23-52

白鳥良一 1980「多賀城跡出土土器の変遷」『研究紀要』Ⅶ pp.1-38

菅原祥夫 1998「陸奥国南部における富豪層居宅の倉庫群―福島県郡山市正直 C 遺跡・東山田遺跡の分析事例を中心として―」『古代の稲倉と村落・郷里の支配』pp.77-92

菅原祥夫 2007「東北の豪族居宅」『古代豪族居宅の構造と機能』pp.27-64

菅原祥夫 2008「東北の豪族居宅（補遺）」『蔵王東麓の郷土誌―中橋彰吾先生追悼論文集―』pp.139-148

鈴木啓司 2017「宮城県大崎市団子山西遺跡」『古代交通研究会第 19 回大会資料集』pp.1-10

須藤　隆 1998『東北日本先史時代文化変化・社会変動の研究―縄文から弥生へ』纂集堂

須藤　隆編 1999『岩手県足沢遺跡資料　山内清男考古資料 10』奈良国立文化財研究所史料第 50 冊

関根章義 2014「古代陸奥国における陶硯の需要と展開―城柵官衙遺跡を中心として―」『古代文化』第 66 巻 3 号 pp.3-23

多賀城市史編纂委員会 1991『多賀城市史 4　考古資料』

高橋誠明 1999「宮城県における古墳時代中期の土器様相」『東国土器研究』5 pp.1-20

田尻町教育委員会 2005「田尻小学校西遺跡」『宮城考古学』第 7 号 p245

田尻町史編さん委員会 1982『田尻町史　上巻』

田中則和 2003「（4）熊狩 A 窯跡」『中世奥羽の土器・陶磁器』pp.163-174

田辺昭三 1981『須恵器大成』角川書店

辻　秀人 1984「宮城の横穴と須恵器」『宮城の研究』1 pp.355-424

東北学院大学佐川ゼミナール・藤原二郎 2009「栗原市高清水「仰ヶ返り地蔵前遺跡」第 6 次調査―鎌倉時代日本最北の瓦窯跡 2 基の構造と変遷が判明―」『平成 21 年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』pp.51-56
東北古代土器研究会 2008『東北古代土器集成―須恵器・窯跡編―＜陸奥＞』研究報告 3
中野晴久 1997「瓷器系中世陶器の生産」『(財) 瀬戸市埋蔵文化財センター　研究紀要』第 5 輯 pp.7-24
永原慶二編 1995『常滑焼と中世社会』小学館
奈良国立文化財研究所 1998a『律令国家の地方末端支配機構をめぐって―研究集会の記録―』
奈良国立文化財研究所 1998b『古代稲倉と村落・郷里の支配』
奈良文化財研究所 2007『古代豪族居宅の構造と機能』
平川　南 2000「第三章　墨書土器と古代の役所　一　「厨」墨書土器論」『墨書土器の研究』pp.102-139
藤沢　敦 1992「引田式再論」『歴史』79 pp.68-86
藤沼邦彦 1976「宮城県地方の中世陶器窯跡（予察）」『東北歴史資料館研究紀要』第 2 巻 pp.35-49
藤沼邦彦 1977「宮城県出土の中世陶器について」『東北歴史資料館研究紀要』第 3 巻 pp.21-50
藤沼邦彦 1982「宮城県の中世陶器とその窯跡について」『庄内考古学』第 18 号 pp.23-32
藤沼邦彦 2010「陸奥国（宮城県）水沼窯（瓷器系）伊豆沼窯（瓷器系）三本木窯（瓷器系）白石窯（瓷器系）」『古陶の譜　中世のやきもの―六古窯とその周辺―』pp.280-289
古川市史編さん委員会 2006『古川市史　第 6 巻　資料Ⅰ　考古』
松村恵司 1999「大型建物の系譜と性格の変遷」『公開セミナー古代の大型建物跡記録集―役所か邸宅か―』pp.5-26
松本秀明 2014「附章 1. 北小松遺跡周辺の地形・地質の特徴と洪水堆積層」『北小松遺跡―田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成 21 年度発掘調査報告書―』pp.415-421　宮城県文化財調査報告書第 234 集
三上喜孝 2003「文献史学からみた墨書土器の機能と役割」『古代官衙・集落と墨書土器―墨書土器の機能と性格をめぐって』pp.223-242
水野和雄 1985「日本石硯考―出土品を中心として―」『考古学雑誌』第 70 巻 4 号 pp.1-31
宮瀧交二 1995「東国における常滑焼の流通と消費」『常滑焼と中世社会』pp.156-170
村田晃一 1995「宮城郡における 10 世紀前後の土器」『福島考古』第 36 号 pp.47-72
村田晃一 2006「奈良時代における陸奥北辺の官衙と交通―宮城県加美町壇の越遺跡・東山遺跡の調査成果を中心として―」『第 13 回古代交通研究会大会資料集』pp.9-23
村田晃一 2007「陸奥北辺の城柵と郡家―黒川以北十郡の城柵からみえてきたもの―」『宮城考古学』第 9 号 pp.85-110
村田晃一 2010「陸奥・出羽における版図の拡大と城柵―宮城県加美町東山官衙遺跡群の調査成果から―」『条里制・古代都市研究』第 25 号 pp.52-65
村田晃一 2016「陸奥国北辺における城柵の造営と集落・土器―賀美郡と栗原郡の様相から―」『第 19 回古代官衙・集落研究会報告書　官衙・集落と土器 2―宮都・官衙・集落と土器―』pp.143-158
森田　勉 1982「14 ～ 16 世紀の白磁の形式分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2 pp.47-54
山田晃弘 2008「東北地方における古墳時代の黒曜石製石器」『芹沢長介先生追悼　考古・民族・歴史学論叢』pp.433-448
山田隆博 2008「宮城県出土の古墳時代須恵器」『多知波奈の考古学』pp.189-204
山中敏史 1994『古代地方官衙遺跡の研究』塙書房
山中敏史 1998a「律令国家の地方末端支配機構―研究の現状と課題―」『律令国家の地方末端支配機構をめぐって―研究集会の記録―』pp.1-38
山中敏史 2007「地方豪族居宅の建物構造と空間的構成」『古代豪族居宅の構造と機能』pp.89-218
山中敏史編 2003『古代の官衙遺跡 Ⅰ 遺構編』奈良文化財研究所
山中敏史編 2004『古代の官衙遺跡 Ⅱ 遺物・遺跡編』奈良文化財研究所
山中敏史・石毛彩子 1998「地方豪族の居宅と稲倉」『古代稲倉と村落・郷里の支配』pp.199-240
山内清男 1930「所謂亀ヶ岡式土器の分布と縄紋式土器の終末」『考古学』第 1 巻第 3 号 pp.139-157
吉岡康暢 1982「北陸・東北の中世陶器をめぐる問題」『庄内考古学』第 18 号 pp.1-22
吉野　武 2015「陸奥国の城柵と運河」『日本古代の運河と水上交通』pp.283-302

＜報告書等＞

岩手県

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1997『上鷹生遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 253 集
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2003『泉屋遺跡第 16・19・21 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 399 集
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006『台太郎遺跡第 54 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 486 集
平泉町教育委員会 1995『志羅山遺跡第 35 次発掘調査報告書―平泉郵便局庁舎建設に伴う調査―』岩手県平泉町文化財調査報告書第 51 集

宮城県

阿部正光・赤沢靖章・佐藤敏幸 1987「瀬峰町泉谷館跡・清水山Ⅰ遺跡発掘調査略報」『瀬峰町の文化財』第 6 集 pp.12-23

石巻市教育委員会 1995『田道町遺跡』石巻市文化財調査報告書第 7 集
大崎市教育委員会 2007『国指定史跡　名生館官衙遺跡 26　新田柵跡推定地 10』宮城県大崎市文化財調査報告書第 1 集
大崎市教育委員会 2008a『新田柵跡推定地 11』宮城県大崎市文化財調査報告書第 5 集
大崎市教育委員会 2008b『文化財年報Ⅰ（平成 18 年度）』宮城県大崎市文化財調査報告書第 6 集
大崎市教育委員会 2009a『新田柵跡推定地 12』宮城県大崎市文化財調査報告書第 7 集
大崎市教育委員会 2009b『文化財年報Ⅱ（平成 19 年度）』宮城県大崎市文化財調査報告書第 10 集
大崎市教育委員会 2010a『新田柵跡推定地 13』宮城県大崎市文化財調査報告書第 12 集
大崎市教育委員会 2010b「通木田中前遺跡・通木城跡」『平成 22 年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』pp.79-82
大崎市教育委員会 2011『新田柵跡推定地 14 ほか』宮城県大崎市文化財調査報告書第 15 集
大崎市教育委員会 2015『文化財年報Ⅷ（平成 25 年度）』宮城県大崎市文化財調査報告書第 22 集
大崎市教育委員会 2016『金鋳神遺跡ほか』宮城県大崎市文化財調査報告書第 24 集
大崎市教育委員会 2017a『灰塚遺跡Ⅳ』宮城県大崎市文化財調査報告書第 27 集
大崎市教育委員会 2017b『文化財年報Ⅹ（平成 27 年度）』宮城県大崎市文化財調査報告書第 31 集
大衡村教育委員会 2009『奥州街道・大衡一里塚ほか』大衡村文化財調査報告書第 4 集
角田市教育委員会 1993『角田郡山遺跡Ⅰ』角田市文化財調査報告書第 10 集
角田市教育委員会 1995『角田郡山遺跡Ⅲ』角田市文化財調査報告書第 15 集
角田市教育委員会 1996『角田郡山遺跡Ⅳ』角田市文化財調査報告書第 17 集
角田市教育委員会 1997『住社遺跡』角田市文化財調査報告書第 19 集
角田市教育委員会 2000『角田郡山遺跡Ⅷ』角田市文化財調査報告書第 24 集
角田市教育委員会 2002『角田郡山遺跡Ⅹほか』角田市文化財調査報告書第 27 集
河南町教育委員会 1993『須江窯跡群　関ノ入遺跡』河南町文化財調査報告書第 7 集
加美町教育委員会 2004a『壇の越遺跡Ⅴ』加美町文化財調査報告書第 1 集
加美町教育委員会 2004b『壇の越遺跡Ⅵ』加美町文化財調査報告書第 2 集
加美町教育委員会 2004c『壇の越遺跡Ⅶ』加美町文化財調査報告書第 3 集
加美町教育委員会 2005a『壇の越遺跡Ⅷ』加美町文化財調査報告書第 5 集
加美町教育委員会 2005b『壇の越遺跡Ⅸ』加美町文化財調査報告書第 6 集
加美町教育委員会 2006a『壇の越遺跡Ⅹ』加美町文化財調査報告書第 8 集
加美町教育委員会 2006b『壇の越遺跡Ⅺ』加美町文化財調査報告書第 9 集
加美町教育委員会 2008a『壇の越遺跡ⅩⅣ』加美町文化財調査報告書第 13 集
加美町教育委員会 2008b『壇の越遺跡ⅩⅤ』加美町文化財調査報告書第 14 集
加美町教育委員会 2010『壇の越遺跡 19』加美町文化財調査報告書第 18 集
加美町教育委員会 2014a『東山官衙遺跡ほか』加美町文化財調査報告書第 25 集
加美町教育委員会 2014b『東山官衙遺跡ほか』加美町文化財調査報告書第 26 集
加美町教育委員会 2015『東山官衙遺跡ほか』加美町文化財調査報告書第 27 集
栗駒町教育委員会 1995『長者原遺跡』栗駒町文化財調査報告書第 3 集
栗原市教育委員会 2006『四ツ壇遺跡ほか』栗原市文化財調査報告書第 3 集
栗原市教育委員会 2009「北甚六原遺跡の発掘調査成果について」『平成 21 年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』pp.45-50
栗原市教育委員会 2017『伊治城跡』栗原市文化財調査報告書第 21 集
小牛田町教育委員会 1998『駒米遺跡』小牛田町文化財調査報告書第 3 集
斉藤好輝ほか 1978『温故　第 12 号』
蔵王町教育委員会 2007『中沢 A 遺跡』蔵王町文化財調査報告書第 5 集
蔵王町教育委員会 2011『十郎田遺跡 1』蔵王町文化財調査報告書第 13 集
蔵王町教育委員会 2013『前戸内遺跡』蔵王町文化財調査報告書第 16 集
色麻町教育委員会 1993『日の出山窯跡群―詳細分布調査と C 地点西部の発掘調査―』色麻町文化財調査報告書第 1 集
菅原祥夫編 1987『温故　第 14 号　熊野堂遺跡』
瀬峰町教育委員会 1977『がんげつ遺跡』瀬峰町文化財調査報告書第 1 集
瀬峰町教育委員会 1980『がんげつ遺跡　第 2 次発掘調査報告書』瀬峰町文化財調査報告書第 3 集
瀬峰町教育委員会 1983『大境山遺跡』瀬峰町文化財調査報告書第 4 集
瀬峰町教育委員会 1985『がんげつ遺跡　第 3 次発掘調査報告書』瀬峰町文化財調査報告書第 5 集
瀬峰町教育委員会 1988a『下藤沢Ⅱ遺跡』瀬峰町文化財調査報告書第 6 集
瀬峰町教育委員会 1988b『民生病院裏遺跡』瀬峰町文化財調査報告書第 7 集
瀬峰町教育委員会 2000『桃生田前遺跡　下富前遺跡』瀬峰町文化財調査報告書第 19 集

瀬峰町教育委員会 2002『下富前遺跡』瀬峰町文化財調査報告書第 20 集
瀬峰町教育委員会 2003『長根遺跡』瀬峰町文化財調査報告書第 21 集
瀬峰町教育委員会 2004『下富前遺跡』瀬峰町文化財調査報告書第 23 集
仙台市教育委員会 1982『燕沢遺跡』仙台市文化財調査報告書第 39 集
仙台市教育委員会 1983『宮城県仙台市　郡山遺跡Ⅲ』仙台市文化財調査報告書第 46 集
仙台市教育委員会 1985『宮城県仙台市　郡山遺跡Ⅴ』仙台市文化財調査報告書第 74 集
仙台市教育委員会 1986『宮城県仙台市　郡山遺跡Ⅵ』仙台市文化財調査報告書第 86 集
仙台市教育委員会 1987『五本松窯跡』仙台文化財調査報告書第 99 集
仙台市教育委員会 1988『宮城県仙台市　郡山遺跡Ⅷ』仙台市文化財調査報告書第 110 集
仙台市教育委員会 1989『宮城県仙台市　郡山遺跡Ⅸ』仙台市文化財調査報告書第 124 集
仙台市教育委員会 1990a『宮城県仙台市　郡山遺跡Ⅹ』仙台市文化財調査報告書第 133 集
仙台市教育委員会 1990b『南小泉遺跡』仙台文化財調査報告書第 140 集
仙台市教育委員会 1990c『宮城県仙台市　郡山遺跡』仙台市文化財調査報告書 145 集
仙台市教育委員会 1991『宮城県仙台市　郡山遺跡Ⅺ』仙台市文化財調査報告書第 146 集
仙台市教育委員会 1992『神柵遺跡』仙台市文化財調査報告書第 159 集
仙台市教育委員会 1993a『宮城県仙台市　郡山遺跡ⅩⅢ』仙台市文化財調査報告書第 169 集
仙台市教育委員会 1993b『仙台平野の遺跡群ⅩⅡ　平成 4 年度発掘調査報告書　山田条里遺構発掘調査報告書』仙台文化財調査報告書第 170 集
仙台市教育委員会 1995『宮城県仙台市　郡山遺跡ⅩⅤ』仙台市文化財調査報告書第 194 集
仙台市教育委員会 1996『宮城県仙台市　郡山遺跡ⅩⅥ』仙台市文化財調査報告書第 210 集
仙台市教育委員会 1998a『南小泉遺跡』仙台市文化財調査報告書第 225 集
仙台市教育委員会 1998b『南小泉遺跡』仙台市文化財調査報告書第 226 集
仙台市教育委員会 1999『宮城県仙台市　郡山遺跡ⅩⅨ』仙台市文化財調査報告書第 234 集
仙台市教育委員会 2000『宮城県仙台市　郡山遺跡ⅩⅩ』仙台市文化財調査報告書第 244 集
仙台市教育委員会 2004a『宮城県仙台市　郡山遺跡 24』仙台市文化財調査報告書第 269 集
仙台市教育委員会 2004b『鴻ノ巣遺跡』仙台市文化財調査報告書第 280 集
仙台市教育委員会 2005『宮城県仙台市　郡山遺跡発掘調査報告書－総括編－』仙台市文化財調査報告書第 283 集
仙台市教育委員会 2007『長町駅東遺跡第 4 次調査』仙台市文化財調査報告書第 315 集
仙台市教育委員会 2008『長町駅東遺跡第 1・2 次調査』仙台市文化財調査報告書第 324 集
仙台市教育委員会 2011a『下ノ内遺跡・春日社古墳・大野田官衙遺跡ほか』仙台市文化財調査報告書第 390 集
仙台市教育委員会 2011b『郡山遺跡第 200 次調査』仙台市文化財調査報告書第 391 集
仙台市教育委員会 2013『郡山遺跡第 167・180・196 次調査』仙台市文化財調査報告書第 412 集
仙台市教育委員会 2014a『長町駅東遺跡第 10・11 次調査』仙台市文化財調査報告書第 422 集
仙台市教育委員会 2014b『長町駅東遺跡第 13 次調査』仙台市文化財調査報告書第 423 集
仙台市教育委員会 2016a『郡山遺跡第 243 次調査　西台畑遺跡第 11 次調査』仙台市文化財調査報告書第 442 集
仙台市教育委員会 2016b『王ノ壇遺跡第 6 次調査』仙台市文化財調査報告書第 445 集
仙台市教育委員会 2017『元袋遺跡・六反田遺跡・大野田古墳群ほか』仙台市文化財調査報告書第 455 集
大和町教育委員会 2003『一里塚遺跡』大和町文化財調査報告書第 12 集
高清水町教育委員会 2000『経ヶ崎遺跡　観音沢遺跡』高清水町文化財調査報告書第 2 集
多賀城市教育委員会 1981『山王・高崎遺跡発掘調査概報』多賀城市文化財調査報告書第 2 集
多賀城市教育委員会 1985『市川橋遺跡』多賀城市文化財調査報告書第 8 集
多賀城市教育委員会 1986『山王遺跡』多賀城市文化財調査報告書第 10 集
多賀城市教育委員会 1999『市川橋遺跡』多賀城市文化財調査報告書第 55 集
多賀城市教育委員会 2003『市川橋遺跡』多賀城市文化財調査報告書第 70 集
多賀城市教育委員会 2004『市川橋遺跡』多賀城市文化財調査報告書第 75 集
多賀城市埋蔵文化財調査センター 1990『山王遺跡』多賀城市文化財調査報告書第 22 集
多賀城市埋蔵文化財調査センター 1991a『山王遺跡』多賀城市文化財調査報告書第 26 集
多賀城市埋蔵文化財調査センター 1991b『山王遺跡』多賀城市文化財調査報告書第 27 集
多賀城市埋蔵文化財調査センター 1992『山王遺跡ほか』多賀城市文化財調査報告書第 29 集
多賀城市埋蔵文化財調査センター 1993『山王遺跡ほか』多賀城市文化財調査報告書第 34 集
田尻町教育委員会 1978『天狗堂遺跡』田尻町文化財調査報告書第 1 集
田尻町教育委員会 1998『新田柵跡推定地』田尻町文化財調査報告書第 3 集
田尻町教育委員会 2000『新田柵跡推定地 2』田尻町文化財調査報告書第 4 集

田尻町教育委員会 2001a『新田柵跡推定地 3 ほか』田尻町文化財調査報告書第 5 集
田尻町教育委員会 2001b『新田柵跡推定地 4』田尻町文化財調査報告書第 6 集
田尻町教育委員会 2002a『新田柵跡推定地Ⅴ』田尻町文化財調査報告書第 7 集
田尻町教育委員会 2002b『新田柵跡推定地Ⅵ』田尻町文化財調査報告書第 8 集
田尻町教育委員会 2003『新田柵跡推定地Ⅶ』田尻町文化財調査報告書第 9 集
田尻町教育委員会 2004『新田柵跡推定地Ⅷ』田尻町文化財調査報告書第 10 集
田尻町教育委員会 2006『新田柵跡推定地Ⅸ』田尻町文化財調査報告書第 11 集
築館町教育委員会 1991『伊治城跡』築館町文化財調査報告書第 4 集
築館町教育委員会 1992『伊治城跡』築館町文化財調査報告書第 5 集
築館町教育委員会 1993『伊治城跡』築館町文化財調査報告書第 6 集
築館町教育委員会 1994『伊治城跡』築館町文化財調査報告書第 7 集
築館町教育委員会 2001『伊治城跡』築館町文化財調査報告書第 14 集
東北大学文学部考古学研究会 1984『中沢目貝塚』
東北大学文学部考古学研究会 1995『縄文時代晩期貝塚の研究 2　中沢目貝塚Ⅱ』
東北歴史資料館 1979『伊豆沼古窯　熊狩 A 窯跡発掘調査報告』
中新田町教育委員会 1979『城生遺跡』中新田町文化財調査報告書第 2 集
中新田町教育委員会 1980『城生柵跡』中新田町文化財調査報告書第 4 集
中新田町教育委員会 1985『城生柵跡』中新田町文化財調査報告書第 10 集
中新田町教育委員会 1986『城生柵跡』中新田町文化財調査報告書第 12 集
中新田町教育委員会 1987『城生柵跡』中新田町文化財調査報告書第 14 集
中新田町教育委員会 1988『城生柵跡』中新田町文化財調査報告書第 15 集
中新田町教育委員会 1990『城生柵跡』中新田町文化財調査報告書第 17 集
中新田町教育委員会 1991『城生柵跡』中新田町文化財調査報告書第 18 集
中新田町教育委員会 1994『城生柵跡』中新田町文化財調査報告書第 21 集
中新田町教育委員会 1996『城生柵跡』中新田町文化財調査報告書第 23 集
中新田町教育委員会 1998『城生柵跡』中新田町文化財調査報告書第 25 集
名取市教育委員会 1986『愛島東部丘陵遺跡群　遺跡詳細分布調査Ⅱ』名取市文化財調査報告書第 16 集
名取市教育委員会 2010『宮城県名取市　泉・前野田東・北台遺跡他』名取市文化財調査報告書第 59 集
古川市教育委員会 1987『名生館官衙遺跡Ⅶ』宮城県古川市文化財調査報告書第 6 集
古川市教育委員会 1988『名生館官衙遺跡Ⅷ』宮城県古川市文化財調査報告書第 7 集
古川市教育委員会 1989『名生館官衙遺跡Ⅸ』宮城県古川市文化財調査報告書第 8 集
古川市教育委員会 1990『名生館官衙遺跡Ⅹ』宮城県古川市文化財調査報告書第 9 集
古川市教育委員会 1991『名生館官衙遺跡Ⅺ』宮城県古川市文化財調査報告書第 10 集
古川市教育委員会 1992『名生館官衙遺跡Ⅻ』宮城県古川市文化財調査報告書第 11 集
古川市教育委員会 1993『名生館官衙遺跡ⅩⅢ』宮城県古川市文化財調査報告書第 12 集
古川市教育委員会 1994『名生館官衙遺跡ⅩⅣ』宮城県古川市文化財調査報告書第 13 集
古川市教育委員会 1995『名生館官衙遺跡ⅩⅤ』宮城県古川市文化財調査報告書第 19 集
古川市教育委員会 1996『名生館官衙遺跡ⅩⅥ』宮城県古川市文化財調査報告書第 21 集
古川市教育委員会 1997『名生館官衙遺跡ⅩⅦ』宮城県古川市文化財調査報告書第 22 集
古川市教育委員会 1998『名生館官衙遺跡ⅩⅧ』宮城県古川市文化財調査報告書第 23 集
古川市教育委員会 2000『名生館官衙遺跡ⅩⅩ』宮城県古川市文化財調査報告書第 27 集
古川市教育委員会 2001『名生館官衙遺跡ⅩⅪ　南小林遺跡』宮城県古川市文化財調査報告書第 28 集
古川市教育委員会 2002『名生館官衙遺跡ⅩⅫ　灰塚遺跡』宮城県古川市文化財調査報告書第 30 集
古川市教育委員会 2003a『灰塚遺跡　杉の下遺跡』宮城県古川市文化財調査報告書第 32 集
古川市教育委員会 2003b『名生館官衙遺跡ⅩⅩⅢ』宮城県古川市文化財調査報告書第 33 集
古川市教育委員会 2004『名生館官衙遺跡ⅩⅩⅣ』宮城県古川市文化財調査報告書第 35 集
古川市教育委員会 2006『名生館官衙遺跡ⅩⅩⅤ』宮城県古川市文化財調査報告書第 38 集
美里町教育委員会 2008『成田遺跡』美里町文化財調査報告書第 4 集
宮城県教育委員会 1974『東北新幹線関係遺跡調査報告書―Ⅰ―』宮城県文化財調査報告書第 35 集
宮城県教育委員会 1980a『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅱ』宮城県文化財調査報告書第 63 集
宮城県教育委員会 1980b『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅲ』宮城県文化財調査報告書第 69 集
宮城県教育委員会 1980c『東北新幹線関係遺跡調査報告書―Ⅳ―』宮城県文化財調査報告書第 72 集

宮城県教育委員会 1981a『東北新幹線関係遺跡調査報告書―Ⅴ―』宮城県文化財調査報告書第 77 集
宮城県教育委員会 1981b『長者原貝塚　上新田遺跡』宮城県文化財調査報告書第 78 集
宮城県教育委員会 1982『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅵ』宮城県文化財調査報告書第 83 集
宮城県教育委員会 1983『朽木橋横穴古墳群　宮前遺跡』宮城県文化財調査報告書第 96 集
宮城県教育委員会 1984『宮城県営圃場整備等関連遺跡詳細分布調査報告書（昭和 58 年度）』宮城県文化財調査報告書第 100 集
宮城県教育委員会 1985『中峯遺跡発掘調査報告書』宮城県文化財調査報告書第 108 集
宮城県教育委員会 1987『宮城町西館跡、利府町郷楽、天神台遺跡』宮城県文化財調査報告書第 123 集
宮城県教育委員会 1990a『利府町郷楽遺跡Ⅱ』宮城県文化財調査報告書第 134 集
宮城県教育委員会 1990b『寂光寺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 135 集
宮城県教育委員会 1991a「合戦原遺跡」『合戦原遺跡ほか』pp.9-119 宮城県文化財調査報告書第 140 集
宮城県教育委員会 1991b「大嶺八幡遺跡・八幡遺跡」『合戦原遺跡ほか』pp.167-222 宮城県文化財調査報告書第 140 集
宮城県教育委員会 1992a「金鋳神遺跡」『金鋳神遺跡ほか』pp.5-106 宮城県文化財調査報告書第 150 集
宮城県教育委員会 1992b「大嶺八幡遺跡」『金鋳神遺跡ほか』pp.107-114 宮城県文化財調査報告書第 150 集
宮城県教育委員会 1994a『山王遺跡Ⅰ』宮城県文化財調査報告書第 161 集
宮城県教育委員会 1994b『山王遺跡八幡地区の調査』宮城県文化財調査報告書第 162 集
宮城県教育委員会 1994c『藤田新田遺跡』宮城県文化財調査報告書第 163 集
宮城県教育委員会 1995a『下草古城跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 166 集
宮城県教育委員会 1995b『山王遺跡Ⅱ』宮城県文化財調査報告書第 167 集
宮城県教育委員会 1995c『大畑遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 168 集
宮城県教育委員会 1996a『下草古城跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 169 集
宮城県教育委員会 1996b『山王遺跡Ⅳ』宮城県文化財調査報告書第 171 集
宮城県教育委員会 1996c『一本杉窯跡群』宮城県文化財調査報告書第 172 集
宮城県教育委員会 1997a『舟場遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 173 集
宮城県教育委員会 1997b『山王遺跡Ⅴ』宮城県文化財調査報告書第 174 集
宮城県教育委員会 1998a『山王遺跡町地区の調査』宮城県文化財調査報告書第 175 集
宮城県教育委員会 1998b『壇の越遺跡　念南寺古墳』宮城県文化財調査報告書第 177 集
宮城県教育委員会 1998c『一本柳遺跡Ⅰ』宮城県文化財調査報告書第 178 集
宮城県教育委員会 2000『名生館遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 183 集
宮城県教育委員会 2001a『市川橋遺跡の調査』宮城県文化財調査報告書第 184 集
宮城県教育委員会 2001b『一本柳遺跡Ⅱ』宮城県文化財調査報告書第 185 集
宮城県教育委員会 2001c『名生館遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 187 集
宮城県教育委員会 2002『名生館遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 188 集
宮城県教育委員会 2003a『新田東遺跡』宮城県文化財調査報告書第 191 集
宮城県教育委員会 2003b「壇の越遺跡」『壇の越遺跡ほか』pp.1-78 宮城県文化財調査報告書第 195 集
宮城県教育委員会 2003c「大畑遺跡」『壇の越遺跡ほか』pp.103-114 宮城県文化財調査報告書第 195 集
宮城県教育委員会 2005『壇の越遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 202 集
宮城県教育委員会 2006a『中野高柳遺跡Ⅳ』宮城県文化財調査報告書第 204 集
宮城県教育委員会 2006b『角山遺跡　山居遺跡』宮城県文化財調査報告書第 206 集
宮城県教育委員会 2007『下富前遺跡』宮城県文化財調査報告書第 212 集
宮城県教育委員会 2008『北小松遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 216 集
宮城県教育委員会 2009a『市川橋遺跡の調査　伏石・八幡地区　平成 18 年度調査編』宮城県文化財調査報告書第 218 集
宮城県教育委員会 2009b『原田遺跡・下萩沢遺跡』宮城県文化財調査報告書第 219 集
宮城県教育委員会 2010a『北小松遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 223 集
宮城県教育委員会 2010b「大崎市田尻　北小松遺跡」『平成 22 年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』pp.1-6
宮城県教育委員会 2011『北小松遺跡』宮城県文化財調査報告書第 226 集
宮城県教育委員会 2012「大崎市　団子山西遺跡―平成 23・24 年度発掘調査成果―」『平成 24 年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』pp.31-36
宮城県教育委員会 2013「団子山西遺跡―平成 23・24 年度発掘調査成果―」『第 39 回古代城柵官衙遺跡検討会―資料集―』pp.178-185
宮城県教育委員会 2014a『北小松遺跡』宮城県文化財調査報告書第 234 集
宮城県教育委員会 2014b「大崎市　団子山西遺跡」『平成 26 年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』pp.79-82
宮城県教育委員会 2015「大崎市　団子山西遺跡」『平成 27 年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』pp.73-74
宮城県教育委員会 2016a「団子山西遺跡―平成 27 年度発掘調査成果―」『第 42 回古代城柵官衙遺跡検討会―資料集―』pp.171-178

宮城県教育委員会 2016b『熊の作遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第 243 集
宮城県多賀城跡調査研究所 1981『名生館遺跡Ⅰ』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 6 冊
宮城県多賀城跡調査研究所 1982a『多賀城跡　政庁本文編』
宮城県多賀城跡調査研究所 1982b『名生館遺跡Ⅱ』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 7 冊
宮城県多賀城跡調査研究所 1983『名生館遺跡Ⅲ』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 8 冊
宮城県多賀城跡調査研究所 1984『名生館遺跡Ⅳ』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 9 冊
宮城県多賀城跡調査研究所 1985『名生館遺跡Ⅴ』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 10 冊
宮城県多賀城跡調査研究所 1986『名生館遺跡Ⅵ』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 11 冊
宮城県多賀城跡調査研究所 1987『東山遺跡Ⅰ』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 12 冊
宮城県多賀城跡調査研究所 1989『東山遺跡Ⅲ』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 14 冊
宮城県多賀城跡調査研究所 1990『東山遺跡Ⅳ』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 15 冊
宮城県多賀城跡調査研究所 1991『東山遺跡Ⅴ』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 16 冊
宮城県多賀城跡調査研究所 1992『東山遺跡Ⅵ』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 17 冊
宮城県多賀城跡調査研究所 1993『東山遺跡Ⅶ』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 18 冊
宮城県多賀城跡調査研究所 1994『下伊場野窯跡群』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 19 冊
宮城県多賀城跡調査研究所 1995『桃生城跡Ⅲ』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 20 冊
宮城県多賀城跡調査研究所 1996『多賀城跡』宮城県多賀城跡調査研究所年報 1995
宮城県多賀城跡調査研究所 2000a『多賀城跡』宮城県多賀城跡調査研究所年報 1999
宮城県多賀城跡調査研究所 2000b『桃生城跡Ⅷ』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 25 冊
宮城県多賀城跡調査研究所 2005『木戸窯跡群Ⅰ』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 30 冊
宮城県多賀城跡調査研究所 2006『木戸窯跡群Ⅱ』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 31 冊
宮城県多賀城跡調査研究所 2007a『多賀城跡』宮城県多賀城跡調査研究所年報 2006
宮城県多賀城跡調査研究所 2007b『木戸窯跡群Ⅲ』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 32 冊
宮城県多賀城跡調査研究所 2008a『多賀城跡』宮城県多賀城跡調査研究所年報 2007
宮城県多賀城跡調査研究所 2008b『六月坂遺跡ほか』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 33 冊
宮城県多賀城跡調査研究所 2011『日の出山窯跡群Ⅲ』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 36 冊
宮城県多賀城跡調査研究所 2013『多賀城跡』宮城県多賀城跡調査研究所年報 2012
宮崎町教育委員会 1996a『米泉館跡』宮崎町文化財調査報告書第 5 集
宮崎町教育委員会 1996b『東山遺跡Ⅹ』宮崎町文化財調査報告書第 7 集
宮崎町教育委員会 1997『東山遺跡Ⅺ』宮崎町文化財調査報告書第 8 集
宮崎町教育委員会 1999『壇の越遺跡Ⅱ』宮崎町文化財調査報告書第 10 集
宮崎町教育委員会 2003『壇の越遺跡Ⅳ』宮崎町文化財調査報告書第 13 集
村田町教育委員会 1991『新峯崎遺跡』宮城県村田町文化財調査報告書第 9 集
矢本町教育委員会 1987『赤井遺跡　第 1 次発掘調査報告』矢本町文化財調査報告書第 1 集
矢本町教育委員会 1995『赤井遺跡』矢本町文化財調査報告書第 3 集
矢本町教育委員会 1996『赤井遺跡 1995』矢本町文化財調査報告書第 4 集
矢本町教育委員会 1997『赤井遺跡 1996』矢本町文化財調査報告書第 6 集
矢本町教育委員会 2000『赤井遺跡 1999』矢本町文化財調査報告書第 12 集
矢本町教育委員会 2001『赤井遺跡Ⅰ』矢本町文化財調査報告書第 14 集
矢本町教育委員会 2004『赤井遺跡 2003』矢本町文化財調査報告書第 16 集
矢本町教育委員会 2005『赤井遺跡 2004』矢本町文化財調査報告書第 17 集
利府町教育委員会 1995『利府町　郷楽遺跡Ⅲ』利府町文化財調査報告書第 10 集
涌谷町教育委員会 1974『長根窯跡群Ⅱ』
涌谷町教育委員会 1976『長根窯跡群Ⅲ』
亘理町教育委員会 2016『三十三間堂官衙遺跡』亘理町文化財調査報告書第 19 集

山形県

山形県埋蔵文化財センター 2008『中落合遺跡　発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 168 集

福島県

福島県教育委員会 1991『東北横断自動車道遺跡調査報告 12　屋敷遺跡』福島県文化財調査報告書第 262 集
南相馬市教育委員会 2007『泉廃寺』南相馬市埋蔵文化財調査報告書第 6 集
梁川町教育委員会 1987『八郎窯跡群』

栃木県
上三川町教育委員会・宇都宮市教育委員会 2003『上神主・茂原官衙遺跡』上三川町埋蔵文化財調査報告第 27 集　宇都宮市埋蔵文化財調査報告第 47 集
栃木県教育委員会 1979『栃木県真岡市　中村遺跡調査報告書』栃木県埋蔵文化財調査報告第 28 集
栃木県教育委員会 1999『多功南原遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 222 集
栃木県教育委員会 2014『北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 369 集
群馬県
伊勢崎市教育委員会 2004a『三和工業団地Ⅱ遺跡』伊勢崎市文化財調査報告書第 53 集
伊勢崎市教育委員会 2004b『三和工業団地Ⅳ遺跡』伊勢崎市文化財調査報告書第 55 集
伊勢崎市教育委員会 2013『三軒屋遺跡 - 総括編－』伊勢崎市文化財調査報告書第 106 集
群馬県教育委員会 1999『上西原遺跡　昭和 60 年度県営ほ場整備事業荒砥北部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』
新田町教育委員会 2001『上野井古墳群　揚原遺跡　中江田Ａ遺跡』新田町文化財調査報告書第 28 集
埼玉県
飯能市教育委員会 1989『飯能の遺跡 (8)　加能里遺跡第 8・9 次調査　張摩久保遺跡第 9・10 次調査』飯能市内遺跡群発掘調査報告書 6
大宮市遺跡調査会 1993『氷川神社東遺跡・氷川神社遺跡・Ｂ -17 号遺跡』大宮市遺跡調査会報告第 42 集
川越市教育委員会・川越市遺跡調査会 2014『市内遺跡Ⅱ　霞ヶ関遺跡第 7 ～ 9 次調査・第 11 次調査・第 12 ～ 16 次調査』川越市遺跡調査会調査報告書第 44 集
皀樹原・檜下遺跡調査会 1992『皀樹原・檜下遺跡Ⅳ　奈良・平安時代編 3』皀樹原・檜下遺跡調査会報告書第 4 集
埼玉県遺跡調査会 1982『宮ノ越遺跡』埼玉県遺跡調査会報告第 44 集
埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1986『将監塚・古井戸　古墳歴史時代編Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 64 集
埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1988『将監塚・古井戸　古墳歴史時代編Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 71 集
埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1991『坂戸市　塚の越遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 101 集
埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1992a『坂戸市　稲荷前遺跡 (A 区)』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 120 集
埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1992b『坂戸市　稲荷前遺跡 (B・C 区)』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 145 集
埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1997『中堀遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 190 集
埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1998『熊谷市　北島遺跡Ⅳ (第 14 ～ 16 地点)』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 195 集
埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2002『熊谷市　北島遺跡Ⅴ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 278 集
埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2010『熊谷市　宮町遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 367 集
埼玉県立さきたま資料館 1984『池守・池上』
坂戸市遺跡発掘調査団 1993『若葉台遺跡－若葉台遺跡発掘調査報告書Ⅱ－』
坂戸市遺跡発掘調査団 1997『若葉台遺跡－若葉台遺跡発掘調査報告書Ⅳ－』
鶴ヶ島町教育委員会 1984『若葉台遺跡群　A・B・B 地点南発掘調査報告書』
鶴ヶ島町教育委員会 1985『若葉台遺跡群　M・N 地点発掘調査概報』
鶴ヶ島市遺跡調査会 1993『若葉台遺跡 O・P・Q・R・T 地点』鶴ヶ島市埋蔵文化財調査報告書
所沢市教育委員会 1990『柳瀬川流域遺跡群（Ⅷ）』所沢市文化財調査報告書第 25 集
所沢市教育委員会・所沢市立埋蔵文化財調査センター 2010『東の上遺跡 - 飛鳥・奈良・平安時代編Ⅰ』所沢市埋蔵文化財調査報告書第 49 集
深谷市教育委員会 2009『幡羅遺跡Ⅳ　実務官衙域の調査 (2)』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第 104 集
深谷市教育委員会 2010『幡羅遺跡Ⅵ 実務官衙域の調査 (3)・実務官衙域周辺の調査』 埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第 111 集
東京都
四門 2010『武蔵国府関連遺跡調査報告　創価学会（新）府中文化会館地区埋蔵文化財発掘調査報告書』
大成エンジニアリング株式会社埋蔵文化財調査部門 2012『東京都北区　御殿前遺跡』
日本製鋼所遺跡調査会 1995『武蔵国府関連遺跡調査報告書』
府中市教育委員会・府中市遺跡調査会 1982『武蔵国府の調査ⅩⅣ　国府関連遺跡調査昭和 56 年度概報 2』
府中市教育委員会 1996『武蔵国府関連遺跡調査報告 17－国府地域の調査 15－』府中市埋蔵文化財調査報告第 17 集
府中市教育委員会・府中市遺跡調査会 1999『武蔵国府関連遺跡調査報告 23－国府地域の調査 19－』府中市埋蔵文化財調査報告第 23 集
府中市教育委員会・府中市遺跡調査会 2002『平成 9 年度府中市内発掘調査概報』武蔵国府の調査 21
府中市教育委員会・府中市遺跡調査会 2003『武蔵国府関連遺跡調査報告 29－国府地域の調査 21－』府中市埋蔵文化財調査報告第 31 集
府中市教育委員会・府中市遺跡調査会 2004a『武蔵国府関連遺跡調査報告 31－国府地域の調査 23－』府中市埋蔵文化財調査報告第 33 集
府中市教育委員会・府中市遺跡調査会 2004b『平成 7 年度府中市内発掘調査概報』武蔵国府の調査 26
府中市教育委員会・府中市遺跡調査会 2005a『武蔵国府関連遺跡調査報告 34－国府地域の調査 26－』府中市埋蔵文化財調査報告第 36 集
府中市教育委員会・府中市遺跡調査会 2005b『平成元年度府中市内発掘調査概報』武蔵国府の調査 29
府中市教育委員会・府中市遺跡調査会 2006『昭和 50 年～ 60 年度府中市内発掘調査概報』武蔵国府の調査 33

府中市教育委員会・府中市遺跡調査会 2007『平成 6 年度府中市内発掘調査概報』武蔵国府の調査 35
府中市教育委員会・府中市遺跡調査会 2008『平成 5 年度府中市内発掘調査概報』武蔵国府の調査 37
府中市教育委員会・府中市遺跡調査会 2012『武蔵国府関連遺跡調査報告 52－出土遺物等整理報告 4－』府中市埋蔵文化財調査報告第 56 集
府中市教育委員会・府中市遺跡調査会 2013『武蔵国府関連遺跡調査報告 54－出土遺物等整理報告 6－』府中市埋蔵文化財調査報告第 58 集
武蔵文化財研究所 2007『武蔵国府関連遺跡調査報告』
神奈川県
大野小学校遺跡発掘調査団 1987『真土六の域遺跡Ⅱ』平塚市埋蔵文化財シリーズ 3
神奈川県教育委員会 1982『向原遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 1
神奈川県立埋蔵文化財センター 1986『三ツ俣遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 13
神奈川県立埋蔵文化財センター 1990『宮久保遺跡Ⅲ』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 15
川崎市教育委員会 2014『神奈川県川崎市　橘樹郡衙遺跡群の調査』川崎市埋蔵文化財調査報告書第 8 集
構之内遺跡発掘調査団 1994『神奈川県平塚市 構之内遺跡発掘調査報告書』
平塚市遺跡調査会 1987『四之宮諏訪前Ａ』平塚市埋蔵文化財調査報告書第 4 集
平塚市遺跡調査会 1988『平塚市埋蔵文化財緊急調査報告書 1』
平塚市遺跡調査会 1989『平塚市埋蔵文化財緊急調査報告書 2』
平塚市遺跡調査会 1990『梶谷原・高林寺遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ 16
平塚市遺跡調査会 1991『神明久保遺跡－第 4 地区－』平塚市埋蔵文化財調査報告書第 8 集
平塚市遺跡調査会 1996『林Ｂ遺跡他』平塚市埋蔵文化財シリーズ 28
平塚市教育委員会 1997『厚木道遺跡－第 4 地点－』平塚市埋蔵文化財調査報告書第 14 集

写　真　図　版

1．新田柵跡と団子山西遺跡　　国土交通省　国土地理院　国土画像情報
（1964 年撮影空中写真　整理番号　MTO641X-C3-13）

2．団子山西遺跡の地形　　国土交通省　国土地理院　国土画像情報
（1961 年撮影空中写真　整理番号　MTO615-C5-4）

図版 1　航空写真

1．団子山西遺跡全景と新田柵跡（南東から）

2．Ⅰ・Ｊ・Ｋ区と新田柵跡（南から）

図版２　遺跡全景

1. H区と新田柵跡（南から）

2. H・I・J・K区と新田柵跡（南東から）

図版3　H・I・J・K区全景

1．L 区 全景（北西から）

2．H-1 区 全景（北西から）

3．H-15 区 SD4・9・12・48 ～ 50 河川跡 断面（西から）

4．H-19 区 SD43 河川跡 断面（南東から）

5．H-19 区 SD110 河川跡 断面（南東から）

図版 4　L 区全景、H-1 ～ 19 区検出遺構

1．H-22 区　SB51 掘立柱建物跡（南西から）

2．H-22 区　SB52 掘立柱建物跡（南西から）

3．H-21 区　SK44 土坑 (西から）

4．H-21 区　SD46 自然流路跡（東から）

5．H-24 区　北側全景（西から）

6．H-24 区　SD63 溝跡　断面　（ 南西から）

7．H-24 区　SD69・70 溝跡　断面　（ 南西から）

図版 5　H-21・22 区検出遺構、H-24 区検出遺構 (1)

1．SD73 溝跡（南西から）

2．SD73 溝跡 遺物出土状況（南から）

3．SE65 井戸跡 断面（南から）

4．SE67 井戸跡（北から）

5．SE68 井戸跡 断面（北から）

6．SK53 土坑 断面 (南東から)

7．基本層序Ⅵ層 検出状況（南東から）

8．基本層序Ⅵ層 遺物出土状況（南東から）

図版 6　H-24 区検出遺構 (2)

1．SX200 南北道路跡（南から）

2．北側 SD82 東側溝 断面（南から）

3．北側 SD76 西側溝 断面（南から）

4．南側 SD82 東側溝 断面（北から）

5．南側 SD76 西側溝 断面（北から）

図版 7　H-25 区北側検出遺構 (1)　道路跡

1．SD74 溝跡（北から）

2．SD84 溝跡（東から）

3．SD84 溝跡 断面（東から）

4．SE87 井戸跡 断面（南西から）

5．SE88 井戸跡 断面 （南西から）

6．SE88 井戸跡 中世陶器出土状況 （南東から）

7．SE88 井戸跡 木製品出土状況（南から）

8．SE88 井戸跡 竹製品出土状況 （真上から）

図版 8　H-25 区北側検出遺構 (2)　溝跡、井戸跡

1．SE96 井戸跡 断面（北西から）

2．SE97 井戸跡 断面（北西から）

3．SK83 土坑 断面（南東から）

4．SK83 土坑（南東から）

5．SK89 土坑 断面（南西から）

6．SK89 土坑（南西から）

7．SK89 土坑 中世陶器出土状況（北から）

8．SK89 土坑 木製品出土状況（南から）

図版 9　H-25 区北側検出遺構 (3)　井戸跡、土坑

1．SK90 土坑 断面（南東から）

2．SK90 土坑 遺物出土状況（南東から）

3．SK90 土坑 漆器出土状況（南西から）

4．SF99 ～ 102・105・106 小溝状遺構群（東から）

5．SD110 河川跡 断面（東から）

6．SD110A 河川跡 遺物出土状況 1（南から）

7．SD110A 河川跡 遺物出土状況 2（南東から）

8．SD110A 河川跡 遺物出土状況 3（南から）

図版 10　H-25 区北側検出遺構 (4)　土坑、小溝状遺構群、河川跡

1．H-25 区 中央部全景（南西から）

2．SB122 掘立柱建物跡（北東から）

3．SB163 掘立柱建物跡（北西から）

4．SB163 掘立柱建物跡
S1W1 断面（南東から）

5．SB163 掘立柱建物跡
N1W1 断面（東から）

6．SB163 掘立柱建物跡
N1W2 断面（南東から）

図版 11　H-25 区南側検出遺構 (1)　掘立柱建物跡

1. SD111・114・116 溝跡 断面（南東から）

2. SD116 溝跡 遺物出土状況 1（南東から）

3. SD116 溝跡 遺物出土状況 2（南から）

4. SD116 溝跡 遺物出土状況 3（南から）

5. SD116 溝跡 遺物出土状況 4（北東から）

6. SD116 溝跡 遺物出土状況 5（南から）

7. H-25 区 南端全景（南西から）

8. SD138・139 溝跡 断面（南西から）

図版 12　H-25 区南側検出遺構 (2)　溝跡

1. SE135 井戸跡 断面（南東から）

2. SE135 井戸跡 遺物出土状況 1（南東から）

3. SE135 井戸跡 遺物出土状況 2（北から）

4. SE136 井戸跡 断面（南東から）

5. SK123 土坑 断面（東から）

6. SK154 土坑 断面（東から）

7. SK154 土坑 遺物出土状況（東から）

8. SD117 ～ 121・128 ～ 131・140 自然流路跡（南西から）

図版 13　H-25 区南側検出遺構 (3)　井戸跡、土坑、自然流路跡

1．H-26 区　全景（南東から）

2．H-26 区　SB201 掘立柱建物跡（南西から）

3．H-26 区　SB201 掘立柱建物跡　N3E1 断面（南から）

4．H-26 区　SI196 竪穴建物跡（北東から）

5．H-27 区　東側全景（西から）

6．H-27 区　西側全景（南西から）

7．H-30 区　SK228 土坑　遺物出土状況（南東から）

図版 14　H-26・27・30 区検出遺構

1．I-1 区　SD256･257 河川跡　断面（北から）

2．I-1 区　SD257 河川跡　遺物出土状況（東から）

3．I-4区　SD252・SD253河川跡　断面（東南から）

4．I-4 区　SD252 河川跡　断面（北から ）

5．I-10 区　北西部全景（南東から）

6．I-10 区　全景（南東から）

図版 15　I-1・4 区検出遺構、I-10 区検出遺構 (1)

1．SI339 竪穴建物跡（南西から）

2．SI339 竪穴建物跡　P1 断面（西から）

3．SI339 竪穴建物跡　P2 断面（南東から）

4．SI339 竪穴建物跡　P3 断面（南東から）

5．SI339 竪穴建物跡　P4 断面（南西から）

6．SI349 竪穴建物跡（南西から）

図版 16　I-10 区検出遺構 (2)　竪穴建物跡

1．SI341 竪穴建物跡（南から）

2．SI341 竪穴建物跡　P1 断面（南西から）

3．SI341 竪穴建物跡　P2 断面（南から）

4．SI341 竪穴建物跡　K1（南東から）

5．SI341 竪穴建物跡　K1 断面（南東から）

6．SI341 竪穴建物跡　K2 断面（南西から）

7．SI341 竪穴建物跡　P3 断面（南西から）

図版 17　I-10 区検出遺構 (3)　竪穴建物跡

1. I-10 区　SD350 溝跡 断面（南西から）

2. I-10 区　SD350 溝跡 断面（北東から）

3. I-10 区　SD351 溝跡 断面（南西から）

4. I-10 区　SE344 井戸跡 断面（南西から）

5. I-11 区　SD373 河川跡 断面（東から）

6. I-11 区　SD372 溝跡 断面（南東から）

7. I-11区　SD372溝跡 遺物出土状況（南から）

図版 18　I-10 区検出遺構 (4)、I-11 区検出遺構

1．I-17 区　SX478 竪穴状遺構（南西から）

2．I-13 区　SI367 竪穴建物跡（南西から）

3．I-13 区　SI367 竪穴建物跡　K1 断面（北東から）

4．I-13 区　SI367 竪穴建物跡　K2 断面（北西から）

5．I-13 区　SA336・338 柱列跡（北東から）

6．I-13区　SD365自然流路跡（南西から）

7．I-13 区　SD366 溝跡（南西から）

8．I-13 区　SD366 溝跡　遺物出土状況（北西から）

図版 19　I-17・13 区検出遺構

1. I-16・18・19 区　SX200 南北道路跡（南から）

2. I-16 区　SX200 南北道路跡（南から）

3. I-16 区　SD460 東側溝 断面 （南から）

4. I-16 区　SD461 西側溝 断面（南から）

5. I-16 区　SD461B 西側溝 遺物出土状況（南東から）

図版 20　I-16・18・19 区検出遺構　道路跡

1．I-18 区　SX200 南北道路跡（南から）

2．I-18 区　SD461 西側溝　断面（南から）

3．I-18 区　SD460 東側溝、SD508 溝跡　断面（南から）

4．I-19 区　SX200 南北道路跡（南から）

5．I-19 区　SD461 西側溝　断面（南から）

6．I-19 区　SD460 東側溝　断面（南から）

図版 21　I-18・19 区検出遺構　道路跡

1．SB469・471 掘立柱建物跡（南から）

2．SB469 掘立柱建物跡　N1W3 断面（西から）

3．SB469 掘立柱建物跡　N2W1 断面（東から）

4．SB469 掘立柱建物跡　S1W1 断面（北東から）

5．SB469 掘立柱建物跡　S1W2 断面（東から）

6．SB471 掘立柱建物跡　N2W1 断面（東から）

7．SB471 掘立柱建物跡　N3W1 断面（北東から）

図版 22　I-16 区検出遺構 (1)　掘立柱建物跡

1．SB470 掘立柱建物跡（南から）

2．SB470 掘立柱建物跡　N1E1 断面（東から）

3．SB470 掘立柱建物跡　N1E2断面（東から）

4．SB470 掘立柱建物跡　N1W2 断面（東から）

5．SB472 掘立柱建物跡（南から）

6．SA468 柱列跡（北西から）

7．SA468 柱列跡　E1 断面（北西から）

図版 23　I-16 区検出遺構 (2)　掘立柱建物跡、柱列跡

1．I-15 区 中央部全景（西から）

2．I-15 区 SD491 自然流路跡 断面（東から）

3．I-14 区 SD380 溝跡 （南から）

4．I -14区 SD380溝跡 断面（南から）

5．I-14区 北西側全景（南東から）

6．I-14 区 SX410 土器埋設遺構 断面（南西から）

7．I-14 区 SX410 土器埋設遺構（南西から）

図版 24 I-15・14 区検出遺構

1．I-9 区 全景（上が北）

2．I-9 区 西側全景（上が北）

図版 25　I-9 区検出遺構 (1)　全景

1．SB311 掘立柱建物跡（南から）

2．SB311 掘立柱建物跡　S1W1 断面（東から）

3．SB311B 掘立柱建物跡　S1W1 礎板検出状況（東から）

4．SB311B 掘立柱建物跡　S1W1 完掘（東から）

5．SB311A 掘立柱建物跡　S1W1 検出状況（北東から）

6．SB311A 掘立柱建物跡　S1W1 礎板検出状況（西から）

7．SB311 掘立柱建物跡　S1W3 断面（西から）

図版 26　I-9 区検出遺構 (2)　掘立柱建物跡

1．SB320 掘立柱建物跡（南から）

2．SB320 掘立柱建物跡　N2E1 断面（東から）

3．SB320掘立柱建物跡　N2E2-S2E2断面（東から）

4．SB320 掘立柱建物跡　N2E2 断面（東から）

5．SB320 掘立柱建物跡　S2E2 断面（東から）

6．SB320 掘立柱建物跡　S2W1-S1W1 断面（南東から）

7．SB320 掘立柱建物跡　S2W1 断面（東から）

図版 27　I-9 区検出遺構 (3)　掘立柱建物跡

1．SB321 掘立柱建物跡（南西から）

2．SB321 掘立柱建物跡　S1W1 断面（北東から）

3．SB321 掘立柱建物跡　S2E2 断面（東から）

4．SB312 掘立柱建物跡（南から）

5．SB312 掘立柱建物跡　S1W1 断面（南から）

6．SB323 掘立柱建物跡（南西から）

7．SB323 掘立柱建物跡　S1W1 断面（南から）

図版 28　I-9 区検出遺構 (4)　掘立柱建物跡

1. I-9 区 東側全景（上が北）

2. SB316 掘立柱建物跡（南西から）

3. SB316掘立柱建物跡S1W1、SA325柱列跡 N4断面（北東から）

4. SB316 掘立柱建物跡　N2W1 断面（北から）

5. SB316 掘立柱建物跡　N2E1 断面（北から）

図版 29　I-9 区検出遺構 (5)　掘立柱建物跡

1．SB315 掘立柱建物跡（南から）

2．SB315 掘立柱建物跡　N1W1 断面（西から）

3．SB315 掘立柱建物跡　S1E1 断面（南から）

4．SB318 掘立柱建物跡（南西から）

5．SB318 掘立柱建物跡　S1W1 断面（北東から）

6．SB318 掘立柱建物跡　S1E2 断面（東から）

図版 30　I-9 区検出遺構 (6)　掘立柱建物跡

1．SI392 竪穴建物跡（南西から）

2．SI402竪穴建物跡（南から）

3．SA404 材木塀跡（北東から）

4．SD380溝跡 北端断面（南から）

5． SD380 溝跡 南端断面（東から）

6．SD380 溝跡 南端検出状況（北から）

7．SD310 溝跡 断面（東から）

8．SE384 井戸跡 断面（南から）

図版 31　I-9 区検出遺構 (7)　竪穴建物跡、材木塀跡、溝跡、井戸跡

1．I-9 区　SK421 土坑断面（南から）

2．I-9 区　SK422 土坑断面（南西から）

3．I-9 区　SK444 土坑断面（北西から）

4．I-9 区　SK445 土坑断面（南東から）

5．I-8 区　SB306 掘立柱建物跡（南西から）

6．I-8 区　SB309 掘立柱建物跡（南から）

7．SB306 掘立柱建物跡
N2E1 断面（南から）

8．SB309 掘立柱建物跡
S1W1 断面（南西から）

9．SB309 掘立柱建物跡
S2E1 断面（南から）

図版 32　I-9 区検出遺構 (8)、I-8 区検出遺構 (1)

1．SB296 掘立柱建物跡（北西から）

2．SB296 掘立柱建物跡　N1W4 断面（南から）

3．SB296 掘立柱建物跡　N1W3 断面（北から）

4．SB296 掘立柱建物跡　N1W2 断面（南から）

5．SB296 掘立柱建物跡　N1W1 断面（南から）

6．SI294 竪穴建物跡（南東から）

7．SI294 竪穴建物跡　断面（北西から）

図版 33　I-8 区検出遺構 (2) 掘立柱建物跡、竪穴建物跡

1．SI295 竪穴建物跡（南西から）

2．SI295 竪穴建物跡　P1 断面（西から）

3．SI295竪穴建物跡　P2断面（南西から）

4．SI295 竪穴建物跡　P3 断面（南西から）

5．SI295竪穴建物跡　P4断面（南東から）

6．SI295 竪穴建物跡　P5 断面（北西から）

7．SI295 竪穴建物跡　カマド（北西から）

8．SI295竪穴建物跡　K1断面（北西から）

図版 34　I-8 区検出遺構 (3)　竪穴建物跡

1．I-8区　SI295竪穴建物跡　K2断面（南西から）

2．I-8区　SI295竪穴建物跡　K3断面（南東から）

3．I-8区　SI295竪穴建物跡　K4断面（南から）

4．I-8区　SI295竪穴建物跡　P7遺物出土状況（南西から）

5．I-7区　SI283・288竪穴建物跡　検出（南から）

6．I-7区　SI283竪穴建物跡　P1断面（南から）

7．I-7区　SI283竪穴建物跡　P2断面（南西から）

8．I-7区　SI283竪穴建物跡　K1断面（南東から）

図版 35　I-8 区検出遺構 (4)、I-7 区検出遺構 (1)　竪穴建物跡

1．I-7区　SI288竪穴建物跡　P1断面（南西から）

2．I-7区　SA290・291柱列跡（南から）

3．I-7区　SA290柱列跡　E3断面（南東から）

4．I-7区　SA291柱列跡E1、P58断面（南東から）

5．I-6区 SX400東西道路跡（北西から）

6．I-6区　SD277北側溝 断面（東から）

7．I-6区　SD272南側溝 断面（西から）

図版36　I-7区検出遺構(2)、I-6区検出遺構(1)　道路跡、竪穴建物跡、柱列跡

1．I-6区　SB276掘立柱建物跡（南から）

2．I-6区　SK280土坑 遺物出土状況（南西から）

3．I-6区　SK280土坑 断面（南西から）

4．I-6区　SK280土坑（南西から）

5．L-10区　SD636溝跡 断面（南東から）

6．L-1区　SD634河川跡 断面（北東から）

7．L-2区　SD620溝跡（南から）

8．L-2区　SD620溝跡 断面（南から）

図版37　I-6区検出遺構(2)、L-1・2・10区検出遺構

1. SA655 柱列跡（南東から）

2. SA655 柱列跡　N2 断面（北東から）

3. SD646 溝跡（南から）

4. SD652 溝跡 断面 （南から）

5. SD654 溝跡 （南から）

6. SD654溝跡 断面（北西から）

7. SE650 井戸跡 断面 （南から）

図版 38　L-6 区検出遺構 (1)　柱列跡、溝跡、井戸跡

1．L-6 区　SK644 土坑（北東から）

2．L-6 区　SK644 土坑 断面 1（東から）

3．L-6 区　SK644 土坑 断面 2（北から）

4．L-6 区　SD645 河川跡 断面（南から）

5．L-15 区　SI670 竪穴建物跡 完掘（南東から）

6．L-15 区　SI670 竪穴建物跡 カマド（南東から）

7．L-15 区　SI670 竪穴建物跡 カマド西袖据方断面（南東から）

8．L-15 区　SI670 竪穴建物跡 カマド断面（南西から）

図版 39　L-6 区検出遺構 (2)、L-15 区検出遺構 (1)　竪穴建物跡、土坑

1．SI670 竪穴建物跡　P1 断面（南から）

2．SI670 竪穴建物跡　P5 断面（西から）

3．SI670 竪穴建物跡　P6 断面（北東から）

4．SI670 竪穴建物跡　P8 断面（北から）

5．SI670 竪穴建物跡　P9 断面（南から）

6．SI670 竪穴建物跡　P10 断面（南東から）

7．SI670 竪穴建物跡　遺物出土状況（東から）

8．SD669 溝跡　断面（南から）

9．SD678 溝跡　断面（東から）

10．SD677 河川跡　断面（南東から）

図版 40　L-15 区検出遺構 (2)　竪穴建物跡、溝跡、河川跡

1. H-25 区　SD110A 河川跡　出土土器

2. H-25 区　SD116 溝跡　出土土器

図版 41　H 区　出土土器

1．I-6 区　SK280 土坑　出土土器

2．H-25 区　出土中世陶器

図版 42　I 区　出土土器、H 区　出土中世陶器

1・3：H-1 区 SD1、2：SD2、4：H-7 区、5-8：H-14 区 SD4、9-13：SD12、
14：H-15 区 SD4、15-20：SD12

（1・2・4・5・7-13・15-19：S=1/3、3・20：S=1/5、6・14：S=2/3）

図版 43　H-1 区　SD1・2 河川跡、H-7 区、H-14・15 区　SD4・12 河川跡　出土遺物

1-4: H-15 区 SD12、5-8 : H-19 区 SD43、9・10 : SD110A、11・14 : H-21 区 SD46、12・13 : その他、15 : SK44、16 : H-23 区 SD4、17 : SD12

(1-4・8-11・15・16: S=1/3、5-7・12-14: S=2/3、17 : S=1/5)

図版 44　H-15 区　SD12 河川跡、H-19・21・23 区　出土遺物

1 : SD62、2 : SD69、3-8 : SD73、9-11 : SE67、12 : SK53、
13-16 : SD12、17-23 : SD110

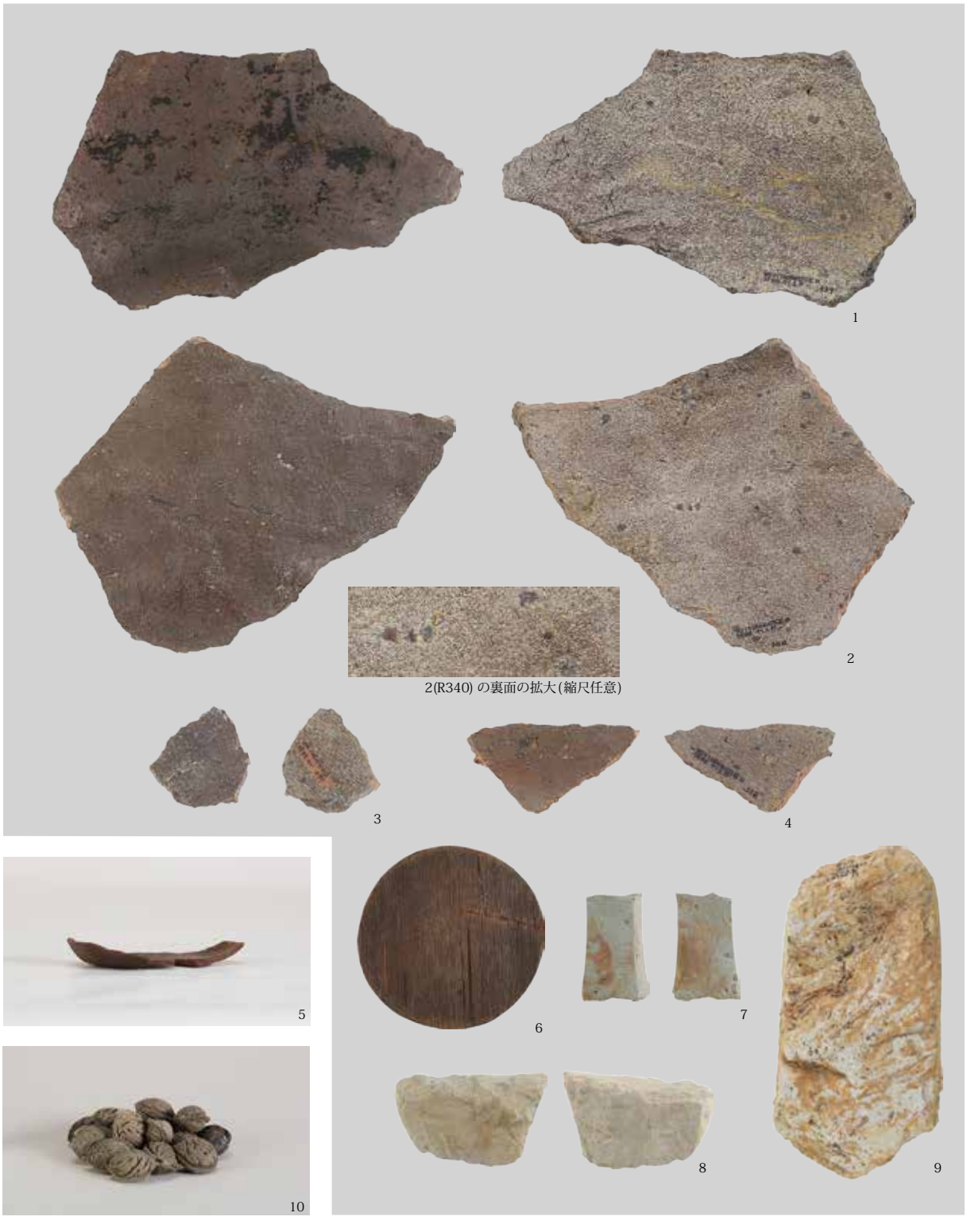
(1・2・9・11・17-21 : S=2/3、3-8・10・12-16 : S=1/3、22・23 : 縮尺任意)

図版 45　H-24 区　SD62・69・73 溝跡、SE67 井戸跡、SK53 土坑、SD12・110 河川跡　出土遺物

1-7 : H-24 区 基本層序Ⅵ層、8-11 : H-25 区 SX200、12-14 : SD84、15-18 : SE87

(1-6・8・10-18 : S=1/3、7 : S=2/3、9 : S=1/5)

図版 46　H-24 区　基本層序Ⅵ層、H-25 区　SX200 南北道路跡、SD84 溝跡、SE87 井戸跡　出土遺物



1-10 : SE88、11 : SE97

(1-9・11 : S=1/3、10 : 縮尺任意)

図版 47　H-25 区　SE88・97 井戸跡　出土遺物

1

2

3

4(R334) の 表面の拡大 (縮尺任意)

4(R334) の 裏面の拡大 (縮尺任意)

4

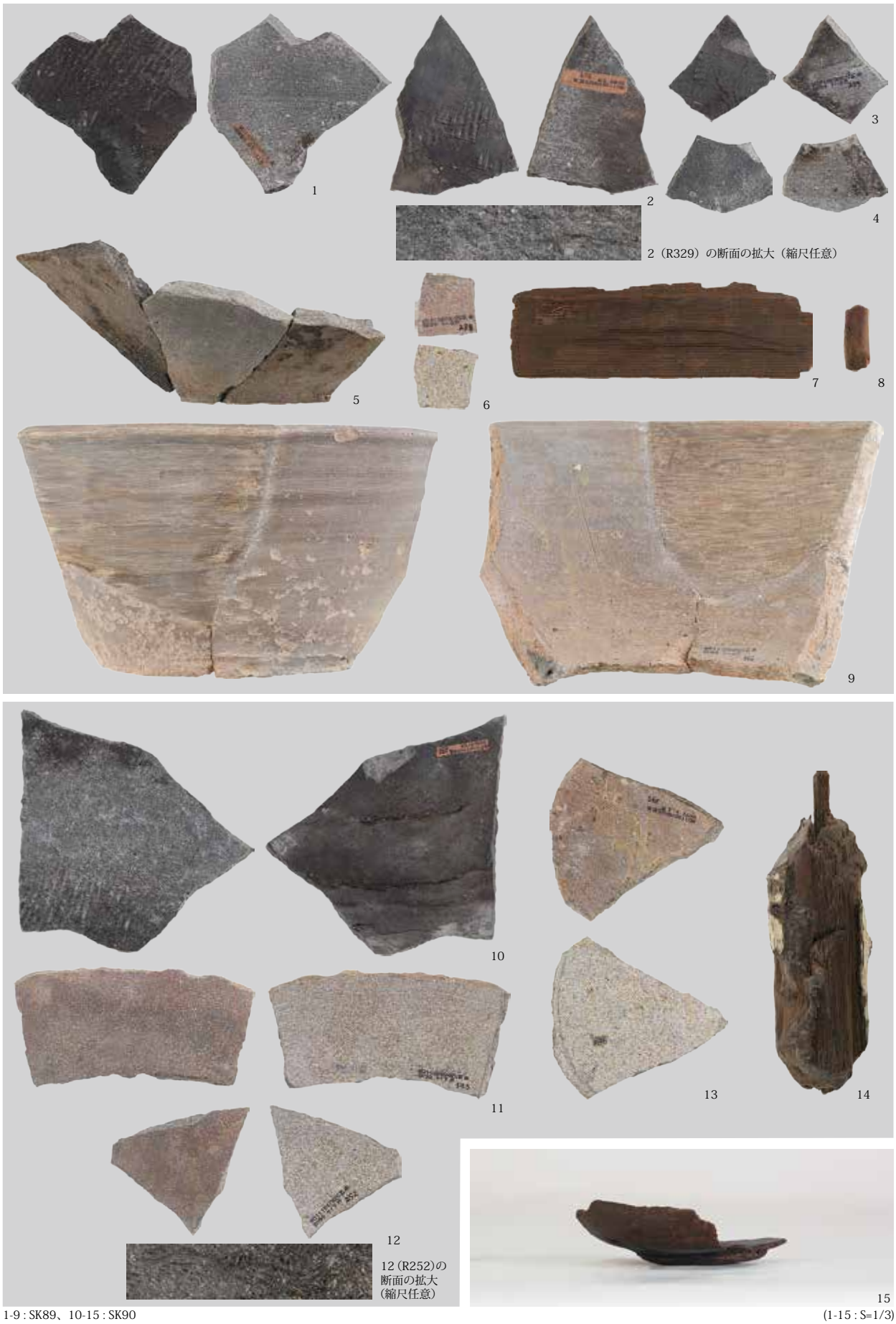
1-3 : SK83、4 : SK89

(1・3・4 : S=1/3、2 : S=1/5)

図版 48　H-25 区　SK83 土坑　出土遺物、SK89 土坑　出土遺物（1）

(1-7 : S=1/3)

図版 49　H-25 区　SK89 土坑　出土遺物 (2)



1-9 : SK89、10-15 : SK90　　(1-15 : S=1/3)

図版 50　H-25 区　SK89 土坑　出土遺物 (3)、SK90 土坑　出土遺物

1

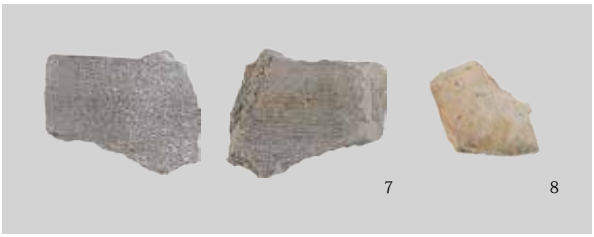
2

3 4

5a

6

5b


7 8

9

10

11

12

1-12 : SD110A 北側 14 層

(1-6・8-12: S=1/3、7: S=1/5)

図版 51　H-25 区　SD110A 河川跡　出土遺物 (1)

1-11 : SD110A 北側 14 層

(1-11 : S=1/3)

図版 52　H-25 区　SD110A 河川跡　出土遺物 (2)

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

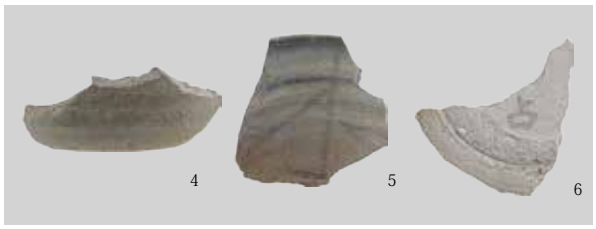
12

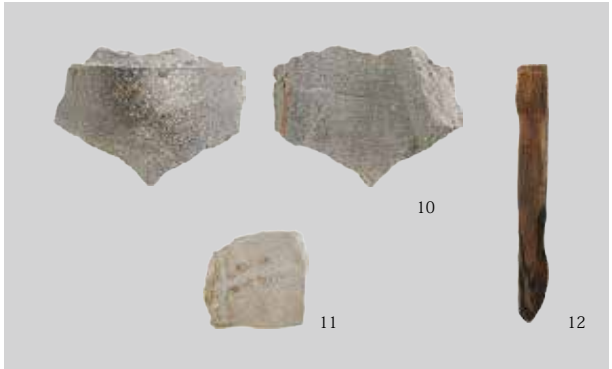
13

1-13 : SD110A 北側 14 層

図版 53　H-25 区　SD110A 河川跡　出土遺物 (3)

(1-13 : S=1/3)





1 : SD110A 北側 14 層、2-12 : SD110A 北側 10 ～ 13 層、13 : SD110A 南側 17 層　　(1-9・11-13 : S=1/3、10 : S=1/5)

図版 54　H-25 区　SD110A 河川跡　出土遺物 (4)

1-9 : SD110A 堆積土　　(1-9: S=1/3)

図版 55　H-25 区　SD110A 河川跡　出土遺物 (5)

1

3

2

4

5a

6

5b

7

1-7 : 底・底直上

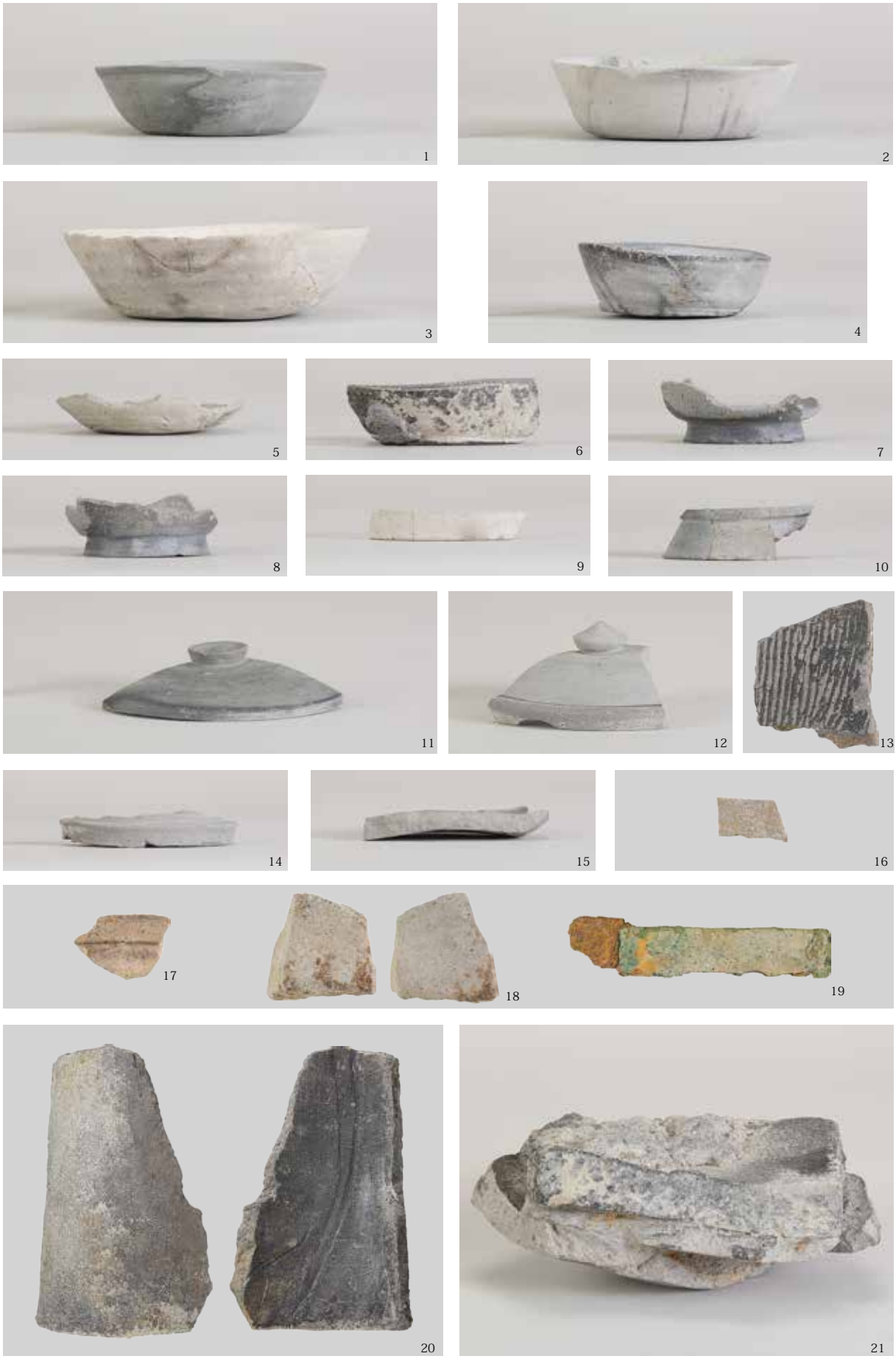
(1-7 : S=1/3)

図版 56　H-25 区　SD116 溝跡　出土遺物 (1)

1-9 : 堆積土

(1-9 : S=1/3)

図版 57　H-25 区　SD116 溝跡　出土遺物 (2)



1-15 : SD116 堆積土、16 : SD114、17・18 : SD138、19 : SD139、20 : SE136、21 : SD118　　(1-18・21 : S=1/3、19 : S=2/3、20 : S=1/5)

図版 58　H-25 区　SD116 溝跡　出土遺物 (3)、SD114・138・139 溝跡、SE136 井戸跡、SD118 自然流路跡　出土遺物

1：SK123、2-6：SK154、7：SD130、8・9：SD141、10：SD142、11・13：排土、12・14-18：基本層序Ⅱ層　(1-16：S=1/3、17：S=1/5、18：S=2/3)

図版 59　H-25 区　SK123・154 土坑、SD130・141・142 自然流路跡ほか　出土遺物

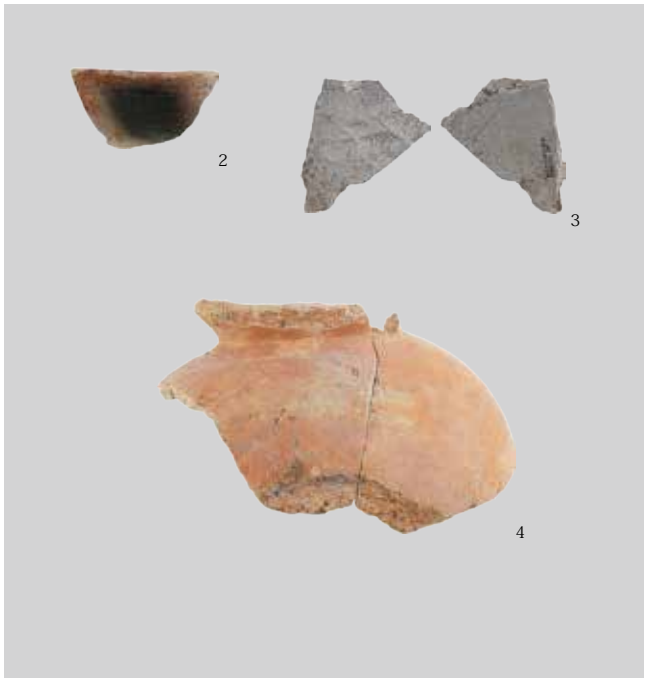
1-6 : H-26 区 SI196、7-9 : SX194、10 : SX183、11 : SD206、12 : SD204、13 : 排土、14・15 : 表土、
16-17 : H-27 区 SD177、18 : SD180、19 : SD165、20 : H-28 区 SD220

(1・2・5-9・11-14・16・19・20 : S=1/3、
3・4・10・15・18 : S=2/3、17 : S=1/5)

図版 60　H-26・27・28 区　出土遺物

1 : H-29 区 SK221、2・3 : H-30 区 SK228、4-6 : I-4 区 SD4C、7-18 : I-1・4 区 SD253　　(1-4・6-11・16-18 : S=1/3、5・12-15 : S=2/3)

図版 61　H-29・30 区、I-1・4 区　SD253 河川跡、I-4 区　SD4C 河川跡　出土遺物



1・2 : SD257、3 : SD251 、4 : SD252、5 : カクラン

(1・2・4・5 : S=1/3、3 : S=1/5)

図版 62　I-1 区　SD251・252・257 河川跡ほか　出土遺物

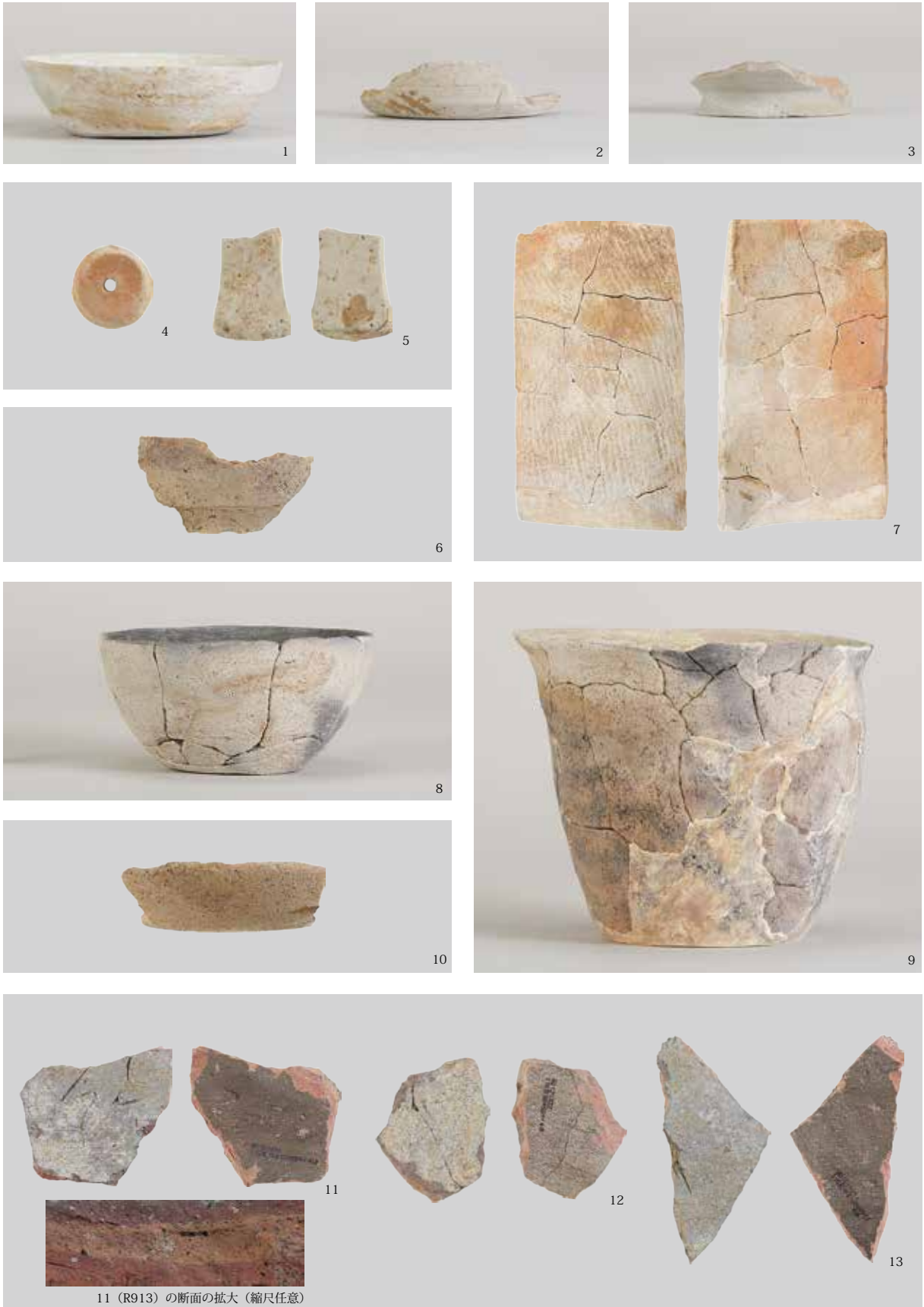
1・2：SI339、3-11：SI341、12・13：SD350　　(1・4-10・12・13：S=1/3、2・3・11：S=2/3)

図版 63　I-10 区　SI339・341 竪穴建物跡、SD350 溝跡　出土遺物

1 : I-10 区 SE344、2 : SK376、3 : 排土、4-6 : 基本層序Ⅱ層、
7・8 : I-11 区 SD372、9-12 : SD373、13 : カクラン、14-21 : I-13 区 SD366

(1-5・7-11・13-21 : S=1/3、6 : S=1/5、12 : S=2/3)

図版 64　I-10 区　SE344 井戸跡、SK376 土坑ほか、I-11 区、I-13 区　SD366 溝跡　出土遺物



11（R913）の断面の拡大（縮尺任意）

1-5：I-13 区 SD365、6：SD337、7：P154、8・9：I-16 区 SX200、10：SK473、11-13：SD465　　(1-6・8-13：S=1/3、7：S=1/5)

図版 65　I-13 区　SD365 自然流路跡、I-16 区　SX200 南北道路跡、SK473 土坑、SD465 河川跡　出土遺物

1-6 : I-14 区 SD380、7 : SX410、8 : SX407、9-11 : I-9 区 SB311、12 : SB312、13 : SB316、14・15 : SB321、16-18 : SI402　(1-10・12-18 : S=1/3、11: S=1/6)

図版 66　I-14 区　SD380 溝跡ほか、I-9 区　SB311・312・316・321 掘立柱建物跡、SI402 竪穴建物跡　出土遺物

1・2：I-9 区 SD380、3：SD383等、4：SK421、5：SK422、6：SK433、7：SK426、8：SE384、
9：P112、10：P129、11-16：I-8 区 SI295

(1-7・9・11-16：S=1/3、8：S=2/3、10：S=1/5)

図版 67　I-9 区　SD380・383 溝跡、SK421・422・426 ・433 土坑ほか、I-8 区　SI295 竪穴建物跡　出土遺物

1-6 : I-7 区 SI283、7 : SI288、8: SD281+282、9: P46、10-17 : I-6 区 SK280　　(1-5・7-17 : S=1/3、6 : S=2/3)

図版 68　I-7 区　SI283 竪穴建物跡ほか　出土遺物、I-6 区　SK280 土坑　出土遺物 (1)

1

2

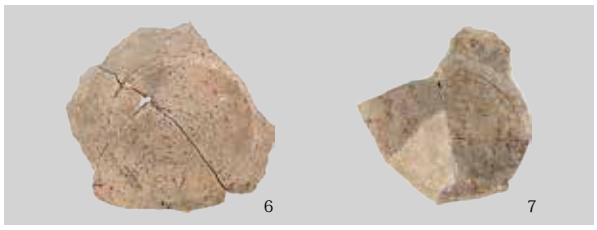
3

4

5a

5b

R766 の内面に認められる回転糸切痕


6 7

8

9

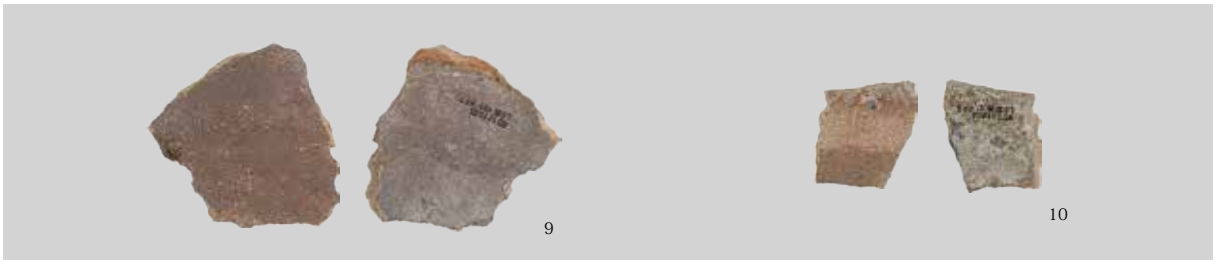
10

11

12

(1-12 : S=1/3)

図版 69　I-6 区　SK280 土坑　出土遺物 (2)



1-3 : 田尻川採集、4・5 : L-1 区 SD601、6・7 : L-2 区 SD620、8 : L-5 区 SX631、9 : 確認面、10 : 表土、11・12 : L-6 区 SD646、13 : SD652、14 : SD654、15 : 排土、16 : SK644

(1・2・4-11・13-16 : S=1/3、3 : S=1/5、12 : S=2/3)

図版 70　田尻川採集遺物、L-1・2・5・6 区　出土遺物

1-8 : SI670、9 : SD678、10 : SD669　　(1-10 : S=1/3)

図版 71　L-15 区　SI670 竪穴建物跡、SD678・669 溝跡　出土遺物

報　告　書　抄　録

ふ　り　が　な	だんごやまにしいせき 1
書　　名	団子山西遺跡 I
副　書　名	田尻西部地区ほ場整備事業に係る平成 22 ～ 25 年度（H・I・L 区）発掘調査報告書
巻　　次	
シ　リ　ー　ズ　名	宮城県文化財調査報告書
シリーズ番号	第 248 集
編　著　者　名	村上裕次（編）・清水上政憲・濵中一道
編　集　機　関	宮城県教育委員会
所　在　地	〒 980-8423　宮城県仙台市青葉区本町三丁目 8 番 1 号　電話 022-211-3685
発 行 年 月 日	西暦 2018 年 12 月 21 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
だんごやまにしいせき 団子山西遺跡	みやぎけんおおさきしたじり 宮城県大崎市田尻 こまつ・おおみね・なかのめ 小松・大嶺・中目 とおりき ・通木	04215	38011	38 度 36 分 24 秒	141 度 0 分 46 秒	2010.11.02 ～ 12.06 2011.04.18 ～ 04.28 05.30 ～ 11.30 2012.05.23 ～ 12.07 2013.09.17 ～ 09.20 11.05 ～ 11.06	20,470㎡	経営体育成 基盤整備事業 （ほ場整備）

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
団子山西遺跡	包含層	縄文時代 早・前・晩期	遺物包含層	縄文土器、 石器、石製品	
	集　落	古墳時代中・後期	溝跡、土坑、性格不明遺構、河川跡	土師器、須恵器、石製模造品	
	集　落	奈良・平安時代	道路跡、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、材木塀跡、土器埋設遺構、溝跡、土坑、小溝状遺構群、河川跡、自然流路跡、湿地跡	土師器、須恵器、赤焼土器、瓦、硯、石製品、木製品、鉄製品、動植物遺存体、文字資料	新田柵跡へ向かう南北方向の基幹道路と考えられる道路跡や計画的に配置された建物跡群を検出。新田柵跡と密接な関係を持つ集落遺跡
	集　落	中世	溝跡、井戸跡、 土坑	磁器、中世陶器、石製品、銭貨、漆製品、木製品、竹製品	伊豆沼窯跡群産の中世陶器が出土

要　　約

団子山西遺跡は、宮城県北部の内陸部に位置し、江合川の支流である田尻川両岸の標高 12 ～ 18m の沖積地に立地する、奈良・平安時代を中心とした大規模な遺跡である。

ほ場整備事業に伴う発掘調査の結果、奈良･平安時代の道路跡、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、材木塀跡、土器埋設遺構、溝跡、土坑、小溝状遺構群、河川跡、自然流路跡、湿地跡等を検出した。道路跡は 8 世紀後半から 9 世紀前半頃に機能したと推定され、位置や規模から北側に隣接する新田柵跡に伴う南北方向の基幹道路に位置付けられる。掘立柱建物跡や竪穴建物跡は道路の位置や方向を基準に配置されている。また、I-9 区では、東西 60m、南北 30m の範囲に、9 世紀前半と推定される計画的に配置された掘立柱建物跡群が検出された。

出土遺物は、土師器、須恵器、赤焼土器、瓦、硯、石製品、木製品、鉄製品、動植物遺存体、文字資料である。時期は、8 世紀前半から 10 世紀前葉で、8 世紀後半から 9 世紀前半が主体である。

遺構・遺物の成果から、団子山西遺跡は新田柵跡と密接に関連した集落遺跡と考えられる。

宮城県文化財調査報告書第 248 集

団子山西遺跡Ⅰ

－田尻西部地区ほ場整備事業に係る
平成 22 ～ 25 年度（H・I・L 区）発掘調査報告書－

平成 30 年 12 月 14 日印刷
平成 30 年 12 月 21 日発行

発行　宮城県教育委員会
宮城県仙台市青葉区本町三丁目 8 番 1 号
印刷　ハリウコミュニケーションズ株式会社
宮城県仙台市若林区六丁の目西町 2 番 12 号